沖縄県立埋蔵文化財センター調査報告書　第 39 集

西長浜原遺跡

－範囲確認調査報告書－

平成１８（２００６）年３月

沖縄県立埋蔵文化財センター

序

本報告書は、平成16年度に実施した今帰仁村に所在する西長浜原遺跡の範囲確認調査及び、昭和51・52年度調査の成果を掲載したものです。

西長浜原遺跡は、昭和51年に公立学校共済組合沖縄支部による沖縄保養所（梯梧荘）の建設工事中に、沖縄貝塚時代前期～中期（本州地域の縄文時代後期～晩期、今から約2,500年～3,000年前）の大量の土器・石器が出土したことをきっかけとして、新たに発見されたものです。

そこで、公立学校共済組合沖縄支部との協議を行い、昭和51・52年度にわたって記録保存のための発掘調査をすることになりました。本県において、1,000㎡にも及ぶ大規模な緊急発掘調査は初めてで、開発側との保存・調査をめぐる協議、調査員の確保、調査方法の模索などの様々な問題と取り組みながら、のべ７ヶ月にわたって調査を無事に終えることが出来ました。

この調査により、今まで断片的にしか分かっていなかった沖縄貝塚時代前～中期の集落跡が具体的に確認できました。その内容としては、52基にのぼる竪穴住居跡、食料などを保管したと考えられる貯蔵穴、貝殻・骨が集中して捨てられた場所、調理をしたと思われる焼土跡などが発見され、当時の生活をうかがい知ることが出来ます。また、遠く離れた富山県糸魚川産のヒスイ製品が出土していることは、当時の交流を考える上で大変重要です。

そして、平成16年度に、このような当時の生活・社会の一端を知ることが出来る重要な西長浜原遺跡を保存活用していくために、その範囲を確定するための調査を実施しました。その結果として、当遺跡はまだ開発が及んでいない梯梧荘内の広場や駐車場に残されている可能性があることが分かりました。

今回、平成16年度の調査成果だけではなく、過去のものも合わせて掲載することにより、本遺跡の理解をさらに深めることができるものと考えています。

本報告書が、今帰仁村及び沖縄県の地元に根付く文化財の保存・活用を助けるための手引き書となることを期待します。

平成18(2006）年３月

沖縄県立埋蔵文化財センター

所　長　　田　場　　清　志

１次地区全景（北から）

１次地区８－２・３、９、10号竪穴（東から）

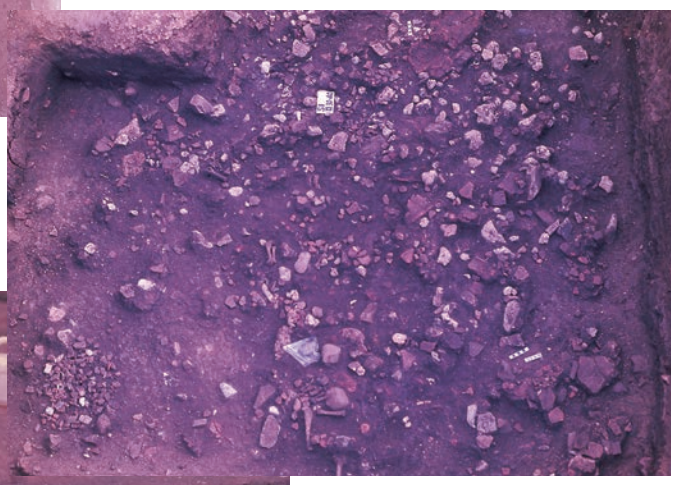
１次27Ｂ号竪穴出土炭化オキナワジイ

海岸中央の砂浜裏の森が西長浜原遺跡（1977年）

巻頭図版１　西長浜原遺跡１次調査

Ｓ地区集石検出状況（南から）

Ｓ地区１　Ⅱ層下部遺物出土状況



同右上　獣骨
貝類・土器出土状況

Ｓ地区南側　東西断面Ⅱ層下部堆積状況

巻頭図版２　西長浜原遺跡Ｓ地区

石斧・敲石・磨石・石皿・未製品及び失敗品

Ⅰ群伊波式

Ⅱ群Ｂ（イ）類壷１

Ⅱ群Ｂ（イ）類壷２

Ⅱ群Ｂ（イ）類深鉢

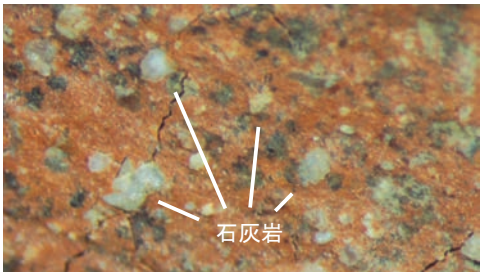
ヒスイ製大珠他石製品

巻頭図版３　西長浜原遺跡出土遺物（１）

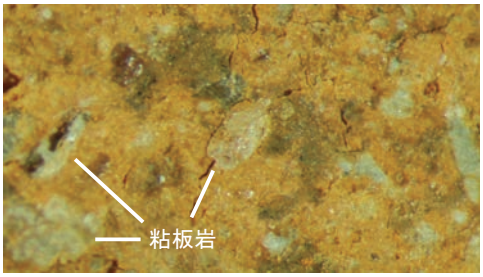
Ⅱ群Ａ・Ｂ１・Ｂ２類(上段と上２段左２点は混入物ア、他はイ)

Ⅱ群Ｂ３・４類

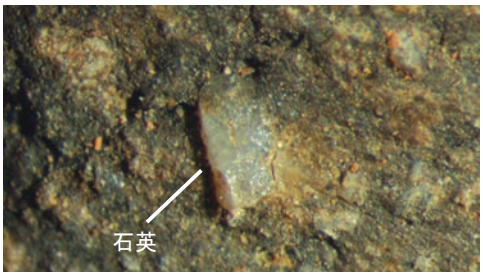
Ⅲ群もしくは奄美系の影響が強いⅡ群



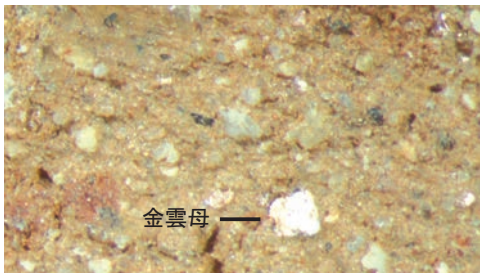
混入物（ア）1652



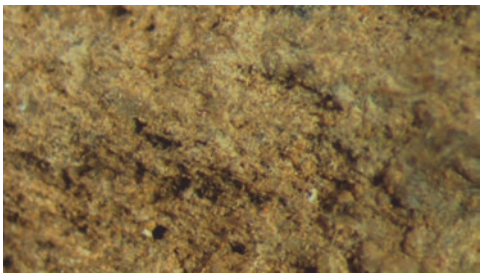
混入物（イ）962



混入物（ウ）267



混入物（エ）97



混入物（オ）1039

混入物分類（×15）

巻頭図版４　西長浜原遺跡出土遺物（２）

例　言

1．本報告書は、沖縄県立埋蔵文化財センターが2004（平成16）年度に発掘調査、同年及び2005（平成17）年度に資料整理を実施した文化庁国庫補助事業である西長浜原遺跡範囲確認調査の成果をまとめたものである。なお、1977（昭和52）年に西長浜原遺跡調査会が実施した同遺跡の第１・２次調査の成果も本遺跡の理解を助けるために掲載している。

2．本書に掲載した地形図は、国土地理院発行１/25,000地形図を使用している。

3．本書に掲載した遺構図の座標軸は国土座標軸（第ＸＶ座標系）を使用した。

4．現地調査及び資料整理に際して、下記の諸氏・機関に協力・指導・助言を戴いた（敬称略）。

現地調査　公立学校共済組合沖縄支部沖縄保養所梯梧荘
山内　清（与那嶺区会）、与那嶺　勇・内間真昭
金武正紀・宮城弘樹・玉城　靖（今帰仁村教育委員会）

資料整理　新里亮人（伊仙町教育委員会）・宮城長信（沖縄県文化財保護審議会委員）・座間味政光（県立コザ高校）・大城　慧（沖縄県公文書館史料編集室）・知名定順（宜野座村教育委員会）・比嘉賀盛（沖縄市文化財調査審議会委員）・下地安広（浦添市教育委員会）・大城秀子（南城市教育委員会）・上地　博（沖縄県教育庁）・呉屋義勝・豊里友哉（宜野湾市教育委員会）・島袋春美（北谷町教育委員会）・西銘　章（県立嘉手納高校）・新里貴之（鹿児島大学総合博物館）

石材同定指導　神谷厚昭（沖縄地学会）

脊椎動物遺体同定指導　樋泉岳二（早稲田大学非常勤講師）

貝類遺体同定指導　黒住耐二（千葉県立中央博物館研究員）

5．本書の編集は、当センター職員の協力を得て瀬戸哲也が行った。各節の執筆者は目次に示した。

6．遺物の掲載番号は、種類ごとに連番を付けており、挿図番号と図版番号は共通したものである。また、土器・石器の一部については、紙幅の都合により、写真図版を割愛しているものがある。ご了承いただきたい。

7．本書に掲載された出土遺物の撮影及び現像・焼付は光嶋　香・矢舟章浩が行った。

8．現地調査で得られた遺物および実測図・写真・画像データ等の記録は、すべて沖縄県立埋蔵文化財センターに保管している。本報告書刊行後は、一部の遺物は今帰仁村教育委員会が文化財活用のため借用する予定である。

目　次

序
巻頭図版
例言
第１章　調査に至る経緯 ･･ （山本正昭・瀬戸哲也）1
第２章　位置と環境 ･･ （瀬戸）2
第３章　平成 16 年度範囲確認調査 ･･････････････････････････････････････ （山本・瀬戸）6
第４章　第１次・第２次調査 ･･ 11
　第１節　調査経緯・体制・経過 ･･････････････････ （宮城長信・安里嗣淳・座間味政光・瀬戸哲也）11
　第２節　層序・遺構 ･･ 14
　第３節　土器 ･･････････････････････････････ （豊里友哉・久貝弥嗣・伊藤圭・比嘉尚輝・瀬戸）32
　第４節　石器・石製品 ･･ （宮城奈緒）147
　第５節　骨製品・貝製品 ･･ （久貝）187
第５章　自然遺物及び自然科学的調査 ･･････････････････････････････････････ 190
　第１節　サンプリング方法 ･･ （久貝）190
　第２節　西長浜原遺跡の脊椎動物遺体 ･･････････････････････････････････ （樋泉岳二）190
　第３節　西長浜原遺跡の貝類遺体 ･･････････････････････････････････････ （黒住耐二）211
　第４節　西長浜原遺跡出土炭化物の放射性年代測定及び種実・材同定･････････ （古環境研究所）221
　第５節　西長浜原遺跡出土のヒスイ製品分析 ･･････････････････････ （宮島　宏・新里貴之）229
第６章　結語 ･･ 230
　第１節　西長浜原遺跡出土のⅡ群Ｂ類土器の検討 ･･････････････････ （豊里・久貝・伊藤・瀬戸）230
　第２節　西長浜原遺跡の遺構変遷 ･･････････････････････････････････････ （瀬戸）231

報告書抄録

挿図目次

第１図　沖縄県の位置 ･･････････････････････････････････････ 3
第２図　今帰仁村の遺跡分布 ･･････････････････････････････････ 4
第３図　西長浜原遺跡の位置と範囲 ･･････････････････････････････ 5
第４図　西長浜原遺跡調査区配置図 ･･････････････････････････････ 7
第５図　16 年度調査平面・断面図･･････････････････････････････ 8
第６図　16 年度№２トレンチ４層出土遺物･･････････････････････ 9
第７図　西長浜原遺跡全体図 ･･････････････････････････････････ 17
第８図　１次地区２号・３号竪穴 ･･････････････････････････････ 19
第９図　１次地区８－２・８－３・９号竪穴 ･･････････････････ 20
第 10 図　１次地区 10・12 号竪穴 ･･････････････････････････････ 21
第 11 図　１次地区 13・14 号竪穴 ･･････････････････････････････ 22
第 12 図　１次地区 18・21・27 号竪穴 ･･････････････････････････ 23
第 13 図　Ｓ地区平面・断面図 ･･････････････････････････････････ 25
第 14 図　Ｐ地区全体図 ･･････････････････････････････････････ 27
第 15 図　Ｐ地区東半平面図・断面図 ･･････････････････････････ 28
第 16 図　Ｐ地区中央平面図・断面図 ･･････････････････････････ 29
第 17 図　Ｐ地区西半平面図・断面図 ･･････････････････････････ 30
第 18 図　Ｐ地区 13 号竪完掘後 ･･････････････････････････････ 31
第 19 図　Ⅱ群土器分類模式図 ･･････････････････････････････････ 35
第 20 図　１次地区出土土器（１） ･･････････････････････････････ 41
第 21 図　１次地区出土土器（２） ･･････････････････････････････ 42
第 22 図　１次地区出土土器（３） ･･････････････････････････････ 43
第 23 図　１次地区出土土器（４） ･･････････････････････････････ 44
第 24 図　１次地区出土土器（５） ･･････････････････････････････ 45
第 25 図　１次地区出土土器（６） ･･････････････････････････････ 46
第 26 図　１次地区出土土器（７） ･･････････････････････････････ 47
第 27 図　１次地区出土土器（８） ･･････････････････････････････ 48
第 28 図　１次地区出土土器（９） ･･････････････････････････････ 49
第 29 図　１次地区出土土器（10） ･･････････････････････････････ 50
第 30 図　１次地区出土土器（11） ･･････････････････････････････ 51
第 31 図　１次地区出土土器（12） ･･････････････････････････････ 52
第 32 図　１次地区出土土器（13） ･･････････････････････････････ 53
第 33 図　１次地区出土土器（14） ･･････････････････････････････ 54
第 34 図　１次地区出土土器（15） ･･････････････････････････････ 55
第 35 図　１次地区出土土器（16） ･･････････････････････････････ 56
第 36 図　１次地区出土土器（17） ･･････････････････････････････ 57
第 37 図　１次地区出土土器（18） ･･････････････････････････････ 58
第 38 図　１次地区出土土器（19） ･･････････････････････････････ 59
第 39 図　１次地区出土土器（20） ･･････････････････････････････ 60
第 40 図　１次地区出土土器（21） ･･････････････････････････････ 61
第 41 図　１次地区出土土器（22） ･･････････････････････････････ 62
第 42 図　１次地区出土土器（23） ･･････････････････････････････ 63
第 43 図　１次地区出土土器（24） ･･････････････････････････････ 64
第 44 図　１次地区出土土器（25） ･･････････････････････････････ 65
第 45 図　１次地区出土土器（26） ･･････････････････････････････ 66
第 46 図　１次地区出土土器（27） ･･････････････････････････････ 67
第 47 図　１次地区出土土器（28） ･･････････････････････････････ 68
第 48 図　１次地区出土土器（29） ･･････････････････････････････ 69

第49図　１次地区出土土器（30）…… 70
第50図　１次地区出土土器（31）…… 71
第51図　１次地区出土土器（32）…… 72
第52図　１次地区出土土器（33）…… 73
第53図　１次地区出土土器（34）…… 74
第54図　１次地区出土土器（35）…… 75
第55図　１次地区出土土器（36）…… 76
第56図　１次地区出土土器（37）…… 77
第57図　１次地区出土土器（38）…… 78
第58図　１次地区出土土器（39）…… 79
第59図　Ｓ地区出土土器（１）…… 80
第60図　Ｓ地区出土土器（２）…… 81
第61図　Ｓ地区出土土器（３）…… 82
第62図　Ｓ地区出土土器（４）…… 83
第63図　Ｓ地区出土土器（５）…… 84
第64図　Ｓ地区出土土器（６）…… 85
第65図　Ｓ地区出土土器（７）…… 86
第66図　Ｓ地区出土土器（８）…… 87
第67図　Ｐ地区出土土器（１）…… 88
第68図　Ｐ地区出土土器（２）…… 89
第69図　Ｐ地区出土土器（３）…… 90
第70図　Ｐ地区出土土器（４）…… 91
第71図　Ｐ地区出土土器（５）…… 92
第72図　Ｐ地区出土土器（６）…… 93
第73図　Ｐ地区出土土器（７）…… 94
第74図　Ｐ地区出土土器（８）…… 95
第75図　Ｐ地区出土土器（９）…… 96
第76図　Ｐ地区出土土器（10）…… 97
第77図　Ｐ地区出土土器（11）…… 98
第78図　Ｐ地区出土土器（12）…… 99
第79図　Ｐ地区出土土器（13）…… 100
第80図　Ｐ地区出土土器（14）…… 101
第81図　Ｐ地区出土土器（15）…… 102
第82図　Ｐ地区出土土器（16）…… 103
第83図　Ｐ地区出土土器（17）…… 104
第84図　Ｐ地区出土土器（18）…… 105
第85図　Ｐ地区出土土器（19）…… 106
第86図　Ｐ地区出土土器（20）…… 107
第87図　Ｐ地区出土土器（21）…… 108
第88図　Ｐ地区出土土器（22）…… 109
第89図　Ｐ地区出土土器（23）…… 110
第90図　Ｐ地区出土土器（24）…… 111
第91図　Ｐ地区出土土器（25）…… 112
第92図　Ｐ地区出土土器（26）…… 113
第93図　Ｐ地区出土土器（27）…… 114
第94図　Ｐ地区出土土器（28）…… 115
第95図　Ｐ地区出土土器（29）…… 116
第96図　Ｐ地区出土土器（30）…… 117
第97図　Ｐ地区出土土器（31）…… 118
第98図　Ｐ地区出土土器（32）…… 119
第99図　Ｐ地区出土土器（33）…… 120
第100図　Ｐ地区出土土器（34）…… 121
第101図　１次地区出土石器（１）…… 161
第102図　１次地区出土石器（２）…… 162
第103図　１次地区出土石器（３）…… 163
第104図　１次地区出土石器（４）…… 164
第105図　１次地区出土石器（５）…… 165
第106図　１次地区出土石器（６）…… 166
第107図　１次地区出土石器（７）…… 167
第108図　１次地区出土石器（８）…… 168
第109図　１次地区出土石器（９）…… 169
第110図　１次地区出土石器（10）…… 170
第111図　１次地区出土石器（11）…… 171
第112図　１次地区出土石器（12）…… 172
第113図　Ｓ地区出土石器（１）…… 173
第114図　Ｓ地区出土石器（２）…… 174
第115図　Ｓ地区出土石器（３）…… 175
第116図　Ｐ地区出土石器（１）…… 176
第117図　Ｐ地区出土石器（２）…… 177
第118図　Ｐ地区出土石器（３）…… 178
第119図　Ｐ地区出土石器（４）…… 179
第120図　Ｐ地区出土石器（５）…… 180
第121図　Ｐ地区出土石器（６）…… 181
第122図　Ｐ地区出土石器（７）…… 182
第123図　Ｐ地区出土石器（８）…… 183
第124図　Ｐ地区出土石器（９）…… 184
第125図　Ｐ地区出土石器（10）…… 185
第126図　石製品…… 186
第127図　骨製品 ・ 貝製品…… 188
第128図　主要魚種の計測結果…… 203
第129図　Ｓ地区Ⅱ層の水洗選別試料における魚類組成…… 203
第130図　最小個体数(MNI)による魚類遺体群の組成の比較…… 204
第131図　貝類遺体の優占種…… 216
第132図　貝類遺体の生息場所類型組成…… 216
第133図　西長浜原遺跡と具志堅貝塚のシャコガイ群の殻長組成…… 217
第134図　チョウセンサザエのフタ長径組成…… 217
第135図　サラサバティラの殻径組成…… 217
第136図　ヤコウガイのフタ長径組成…… 217
第137図　Ｘ線分析結果…… 229
第138図　西長浜原遺跡の遺構変遷…… 231

図版目次

図版１　西長浜原遺跡遠景…… 2
図版２　調査地近景・調査状況…… 6
図版３　16年度調査区断面…… 10
図版４　16年度調査出土遺物…… 10
図版５　西長浜原遺跡１次・２次調査の日々…… 13
図版６　骨１…… 205
図版７　骨２…… 206
図版８　骨３…… 207

図版９　骨４ ………… 208
図版 10　骨５ ………… 209
図版 11　骨６ ………… 210
図版 12　西長浜原遺跡 27Ｂ号竪穴炭化種子出土状況 ………… 225
図版 13　西長浜原遺跡の種実Ⅰ ………… 226
図版 14　西長浜原遺跡の種実Ⅱ ………… 227
図版 15　西長浜原遺跡の炭化材 ………… 228
図版 16　西長浜原遺跡遠景 ………… 235
図版 17　１次地区全景 ………… 235
図版 18　Ｓ地区全景 ………… 235
図版 19　１次地区北半全景 ………… 236
図版 20　１次地区４・５号遺構 ………… 236
図版 21　１次地区 26・27 号遺構 ………… 236
図版 22　１次地区７号８号検出状況 ………… 236
図版 23　１次地区８－１・８－２・８－３号竪穴 ………… 236
図版 24　１次地区３号竪穴 ………… 237
図版 25　１次地区 10 号竪穴 ………… 237
図版 26　１次地区８－１・８－２号竪穴 ………… 237
図版 27　１次地区８－１号竪穴 ………… 237
図版 28　７号礫集中地点 ………… 237
図版 29　８－１号土器出土状況 ………… 237
図版 30　１次地区 14 号竪穴床面 ………… 237
図版 31　１次地区コ－20 人骨検出状況 ………… 237
図版 32　Ｓ地区Ⅱ層下部集石検出状況 ………… 238
図版 33　Ｓ地区完掘状況 ………… 238
図版 34　Ｓ２地区断面 ………… 238
図版 35　Ｓ４地区断面 ………… 238
図版 36　Ｓ１・３地区集石Ａ・Ｂ ………… 238
図版 37　Ｓ地区Ⅱ層下部断面 ………… 238
図版 38　集石Ａ検出状況 ………… 239
図版 39　集石Ａ獣骨・貝類出土状況 ………… 239
図版 40　Ｓ３地区土器集中地点 ………… 239
図版 41　Ｓ５Ⅲ層有孔石製品の出土状況 ………… 239
図版 42　Ｓ５地区 29～31 号竪穴検出状況 ………… 239
図版 43　Ｐ地区全景 ………… 240
図版 44　Ｐ地区竪穴検出面 ………… 240
図版 45　Ｐ地区 17 号竪穴検出面 ………… 240
図版 46　Ｐ地区 18 号竪穴検出面 ………… 240
図版 47　Ｐ地区 17－Ａ号遺構 ………… 240
図版 48　１次地区出土土器（１） ………… 241
図版 49　１次地区出土土器（２） ………… 242
図版 50　１次地区出土土器（３） ………… 243
図版 51　１次地区出土土器（４） ………… 244
図版 52　１次地区出土土器（５） ………… 245
図版 53　１次地区出土土器（６） ………… 246
図版 54　１次地区出土土器（７） ………… 247
図版 55　Ｓ地区出土土器（１） ………… 248
図版 56　Ｓ地区出土土器（２） ………… 249
図版 57　Ｐ地区出土土器（１） ………… 250
図版 58　Ｐ地区出土土器（２） ………… 251
図版 59　Ｐ地区出土土器（３） ………… 252
図版 60　Ｐ地区出土土器（４） ………… 253
図版 61　Ｐ地区出土土器（５） ………… 254
図版 62　Ｐ地区出土土器（６） ………… 255
図版 63　１次地区出土石器（１） ………… 256
図版 64　１次地区出土石器（２） ………… 257
図版 65　１次地区出土石器（３） ………… 258
図版 66　１次地区出土石器（４） ………… 259
図版 67　１次地区出土石器（５） ………… 260
図版 68　１次地区出土石器（６） ………… 261
図版 69　１次地区出土石器（７） ………… 262
図版 70　Ｓ地区出土石器（１） ………… 263
図版 71　Ｓ地区出土石器（２） ………… 264
図版 72　Ｐ地区出土石器（１） ………… 265
図版 73　Ｐ地区出土石器（２） ………… 266
図版 74　Ｐ地区出土石器（３） ………… 267
図版 75　Ｐ地区出土石器（４） ………… 268
図版 76　Ｐ地区出土石器（５） ………… 269
図版 77　石製品 ………… 270
図版 78　骨製品 ………… 271
図版 79　貝製品 ………… 272

表目次

第１表　西長浜原遺跡　土器実測点数 ………… 37
第２表　土器観察表 ………… 122
第３表　石器観察表 ………… 151
第４表　西長浜原遺跡から検出された脊椎動物遺体の種名一覧 ………… 194
第５表　遺構からピックアップ法で採取された魚骨 ………… 194
第６表　遺構から水洗選別で採取された脊椎動物遺体 ………… 195
第７表　S地区包含層の水洗 4.4mm 資料から検出された脊椎動物遺体 ………… 196
第８表　S地区包含層の水洗 4.4mm 資料から検出された脊椎動物遺体 ………… 197
第９表　S地区包含層の水洗 1.7mm 資料から検出された脊椎動物遺体 ………… 198
第 10 表　包含層からピックアップ法で採取された魚骨（１） ………… 199
第 11 表　包含層からピックアップ法で採取された魚骨（２） ………… 199
第 12 表　包含層からピックアップ法で採取された魚骨（３） ………… 199
第 13 表　遺構から採取されたリクガメ類遺体 ………… 200
第 14 表　包含層から採取されたリクガメ類遺体 ………… 200
第 15 表　遺構からピックアップ法で採取されたイノシシ遺体 ………… 200
第 16 表　S地区包含層から水洗選別で採取されたイノシシ遺体 ………… 201
第 17 表　包含層からピックアップ法で採取されたイノシシ遺体(1) ………… 201
第 18 表　包含層からピックアップ法で採取されたイノシシ遺体(2) ………… 201
第 19 表　イノシシ顎骨の詳細 ………… 202
第 20 表　イノシシ遊離歯の詳細 ………… 202
第 21 表　その他の脊椎動物遺体 ………… 202
第 22 表　西長浜原遺跡貝類遺体出土状況 ………… 212
第 23 表　試料と方法 ………… 221
第 24 表　測定結果 ………… 221
第 25 表　西長浜原遺跡における炭化種同定結果 ………… 223
第 26 表　西長浜原遺跡における樹種同定結果 ………… 225

第１章　調査に至る経緯

西長浜原遺跡は、今帰仁村字与那嶺小字長浜原において、昭和51年、沖縄保養所梯梧荘建設工事中に発見された遺跡である。後に付載するように、昭和51・52年度に２次に渡って、西長浜原遺跡調査会により緊急調査が実施され、貝塚時代中期の多くの住居跡が確認された非常に重要な遺跡である。

この遺跡周辺において、近年の大規模な耕作及び道路等の再整備が行われるようになったため、その範囲の再確認が切実に必要と考え、今回遺跡保存を念頭に入れた国庫補助事業による範囲確認調査を実施することにした。平成16年度は３週間の範囲調査、平成17年度は報告書刊行という２カ年計画で行うことにした。

調査体制

2004年度（平成16）調査体制

事業主体　　沖縄県教育委員会

山内　彰（県教育長）

名嘉政修（文化課課長）、島袋　洋（文化課記念物係長）

調査所管　　沖縄県立埋蔵文化財センター

安里嗣淳（所長）

調査事務　赤嶺正幸（副所長兼庶務課課長）、比嘉美佐子・西江幸枝（庶務課主査）、城間奈津子（同主事）

調査総括　盛本　勲（調査課課長）

調査担当　山本正昭（調査課専門員）

調査補助　伊波直樹（文化財調査嘱託員）

発掘調査作業員　比嘉達蔵・宮城　章・新垣正司・金城政利・我那覇　剛・平安山良伸・宮城靖紀・城間隼人・大城憲勝・大城泰平

資料整理作業員　阿部直子・木澤菊代・譜久里昌代

2005年（平成17）資料整理体制

事業主体　沖縄県教育委員会

仲宗根用英（県教育長）

千喜良芳範（文化課課長）・島袋　洋（同課長補佐）・盛本　勲（同主幹兼記念物係長）

調査所管　沖縄県立埋蔵文化財センター

田場清志（所長）

調査事務　赤嶺正幸（副所長兼庶務課課長）、比嘉美佐子・山田恵美子（庶務課主査）、城間奈津子（同主任）

調査総括　岸本義彦（調査課課長）

整理担当　瀬戸哲也（調査課専門員）、伊藤　圭（臨時的任用専門員）

整理補助　宮城奈緒・久貝弥嗣（文化財調査嘱託員）

資料整理作業員　瑞慶覧尚美・山川由美子

資料整理協力者　喜屋武朋子・新垣ますみ・仲地和美・野村知子・真栄城和美・宮里なつ子・山下美也子

調査経過

平成16年４月20・21日に調査区域に当たる梯梧荘及び周辺畑地の所有者、与那嶺区長に調査目的等を説明して協力を求めた。その際、遺跡の中心部分と想定される梯梧荘の本館とテニスコート、プール周辺の現況を確認した。同年５月には、上記関係者と承諾書を取り交わし、梯梧荘の宿泊客の状況も考慮し、７月５～23日の間、のべ13日にわたって調査を実施することにした。

調査は予定通り７月５日から入り、各トレンチの設定・測量から行い、昭和52年の調査位置を確実に抑えるため、国土座標点を基準とした測量を行った。７月12日から掘削を始めたNo. ２トレンチから以前の調査で検出した沖縄貝塚時代前期～後期の遺物包含層を確認した。また、梯梧荘北西部に当たるNo. ４トレンチから白砂層を検出し、現在よりも砂丘が内陸側に入り込んでいたことが判明した。その他のトレンチでは、遺物包含層は確認されず、地山もマージであった。７月23日には全て埋め戻し、調査を終了し、関係機関に報告を行った。

平成17年７月21日には、座標値の確認、現況撮影のための補足踏査を行い、報告書作成に備えた。

第２章　位置と環境

西長浜原遺跡は、沖縄本島北部の本部半島の北側に位置する今帰仁村字与那嶺1255番地小字西長浜原に位置する。この遺跡のすぐ北側には防潮林があり、約30ｍで砂浜に至る。遺跡自体は標高５～６ｍの低い石灰岩に起因する赤土（マージ）台地に存在する。海岸砂丘は奥行き約100ｍ、東西の長さは約500ｍと推定される。その前面には、礁湖が広がり、リーフまでは約500ｍある。ラグーン内は、穏やかで本来なら豊富の魚貝類、サンゴがいたのであろうが、現状ではサンゴ礁は壊滅に近い状態で、あまり魚もいなかった。

今帰仁村内の当該時期の遺跡は、従来から指摘されているようにあまり多くない。本遺跡のように、貝塚時代中期単独の遺跡としては、竪穴と思われる落ち込みが検出された長根原遺跡があり、海を隔てた古宇利原Ａ遺跡では、方形の石積を有した竪穴遺構、同Ｂ遺跡では岩盤を削って形成した竪穴が確認されている。その他、遺物包含層が検出された遺跡としては、渡喜仁原貝塚や運天貝塚がある。隣接する本部町まで目を向けると、本遺跡が形成される海岸線上の知場塚原遺跡や屋比久原遺跡では、当期の住居跡が複数検出される。ただ、立地的には両遺跡とも海岸から１～２㎞ほど離れた丘陵上に位置する。

グスク時代には、いわゆる三山時代の北山の拠点とされる今帰仁城跡が13世紀後半には築造され、様々な歴史を経ながらも17世紀までは大量の陶磁器が出土する。近年の調査では、この城跡の前面には同様の時期幅をもつ集落が広がり、今帰仁ムラ跡と名づけられている。

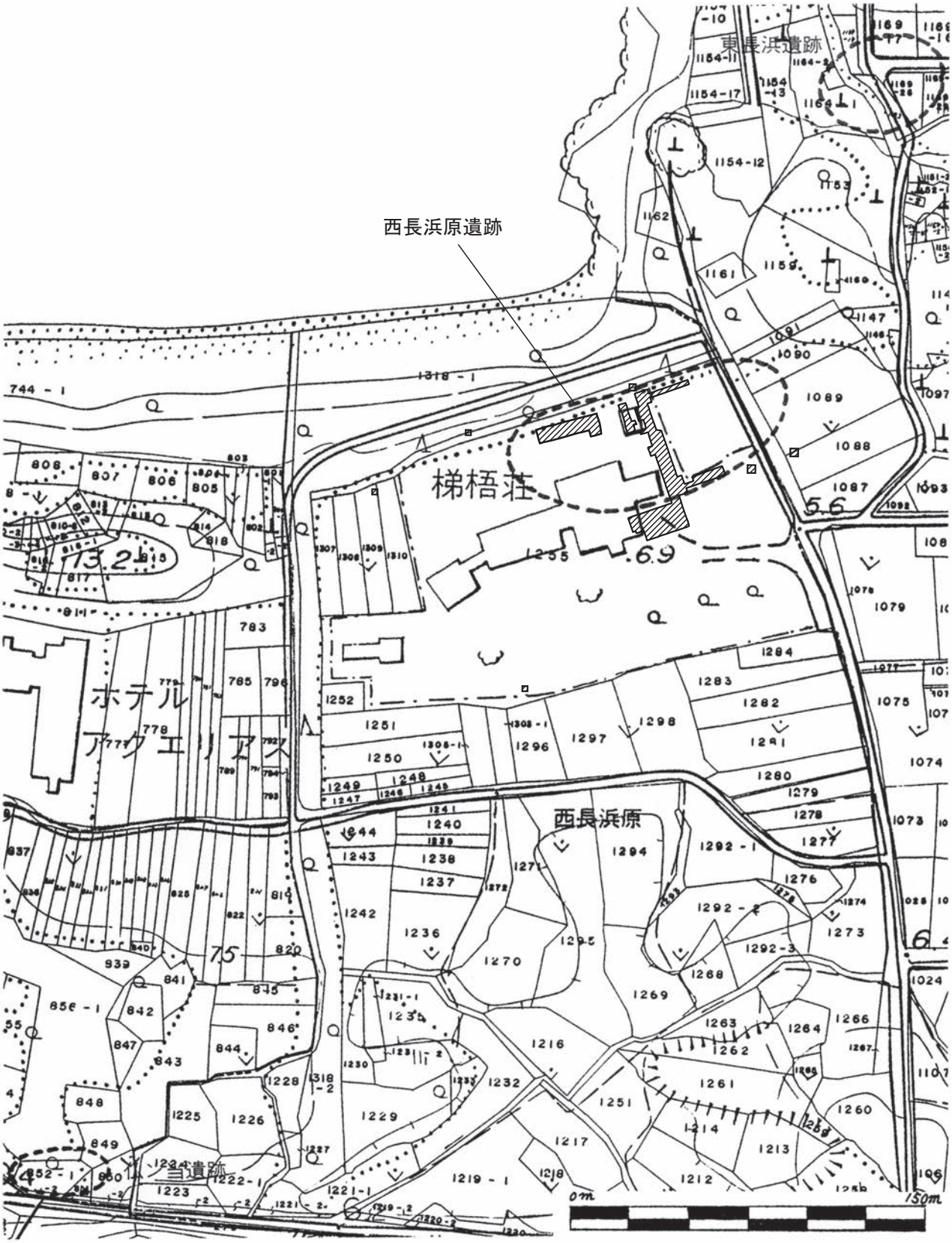
近世には、西長浜原遺跡の周辺の岩陰でも見られるように、岩盤を利用した墓が造られる。

図版１　西長浜原遺跡遠景（上・下左：梯梧荘周辺　下右：乙羽岳から　2004年撮影）

120°
130°
140°
40°
30°
20°
10°
モンゴル
Mongolia
ロシア連邦
Russian federation
ウラジオストク
Vladivostok
朝鮮民主主義人民共和国
North Korea
北京
Beijing
平壌
Pyongyang
ソウル
Seoul
大韓民国
South Korea
日本
Japan
東京
Tokyo
中華人民共和国
China
博多
Hakata
上海
Shang hai
東中国海
East China Sea
那覇
Naha
台北
Taipei
沖縄
Okinawa
台湾
Taiwan
香港
Hong Kong
太 平 洋
Pacific Ocean
南中国海
South China Sea
マニラ
Manira
フィリピン諸島
Philippines
0
500
1000km
World Geodetic System 1984

第１図　沖縄県の位置

第２図　今帰仁村の遺跡分布



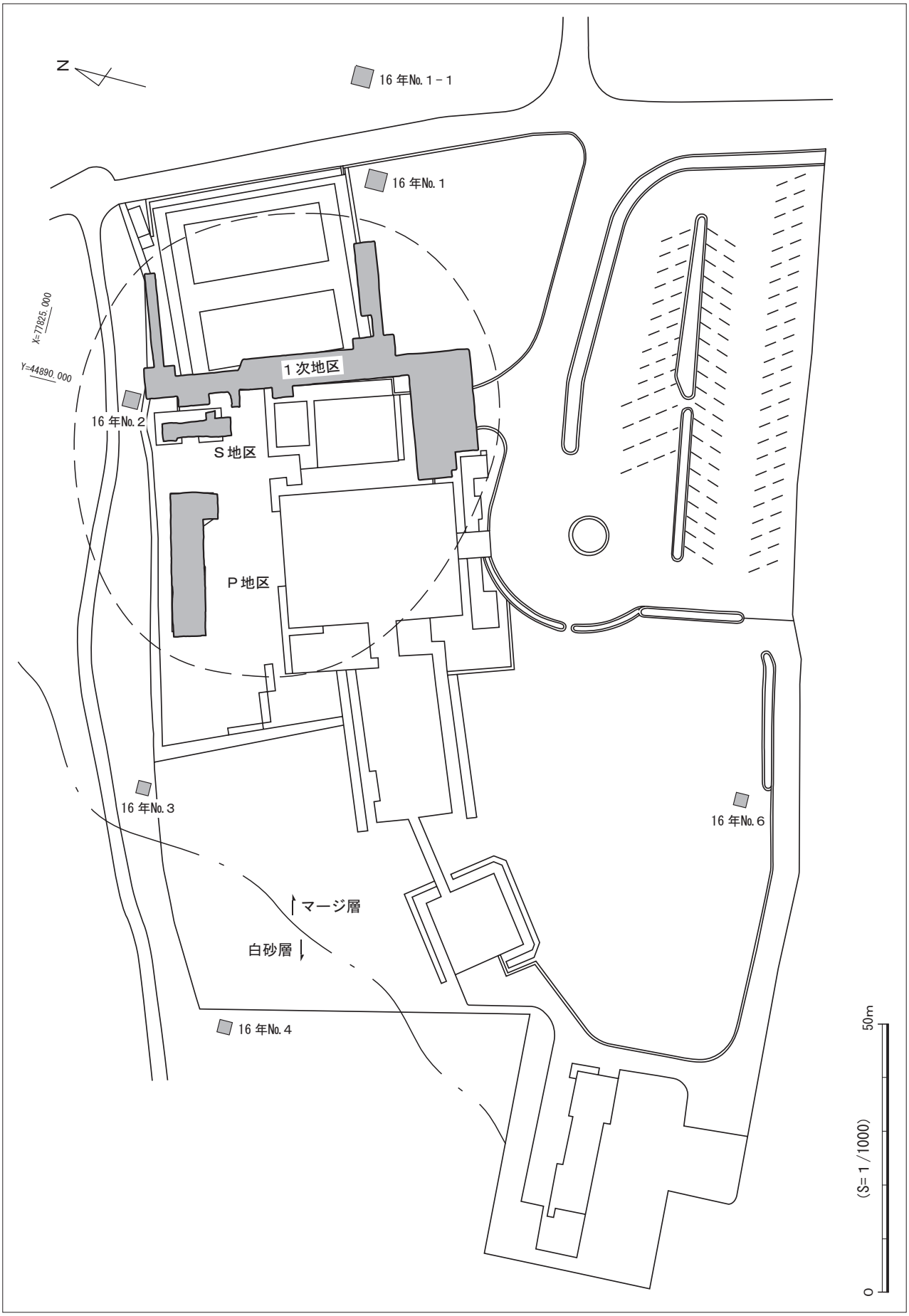
第３図　西長浜原遺跡の位置と範囲

第３章　平成16年度範囲確認調査

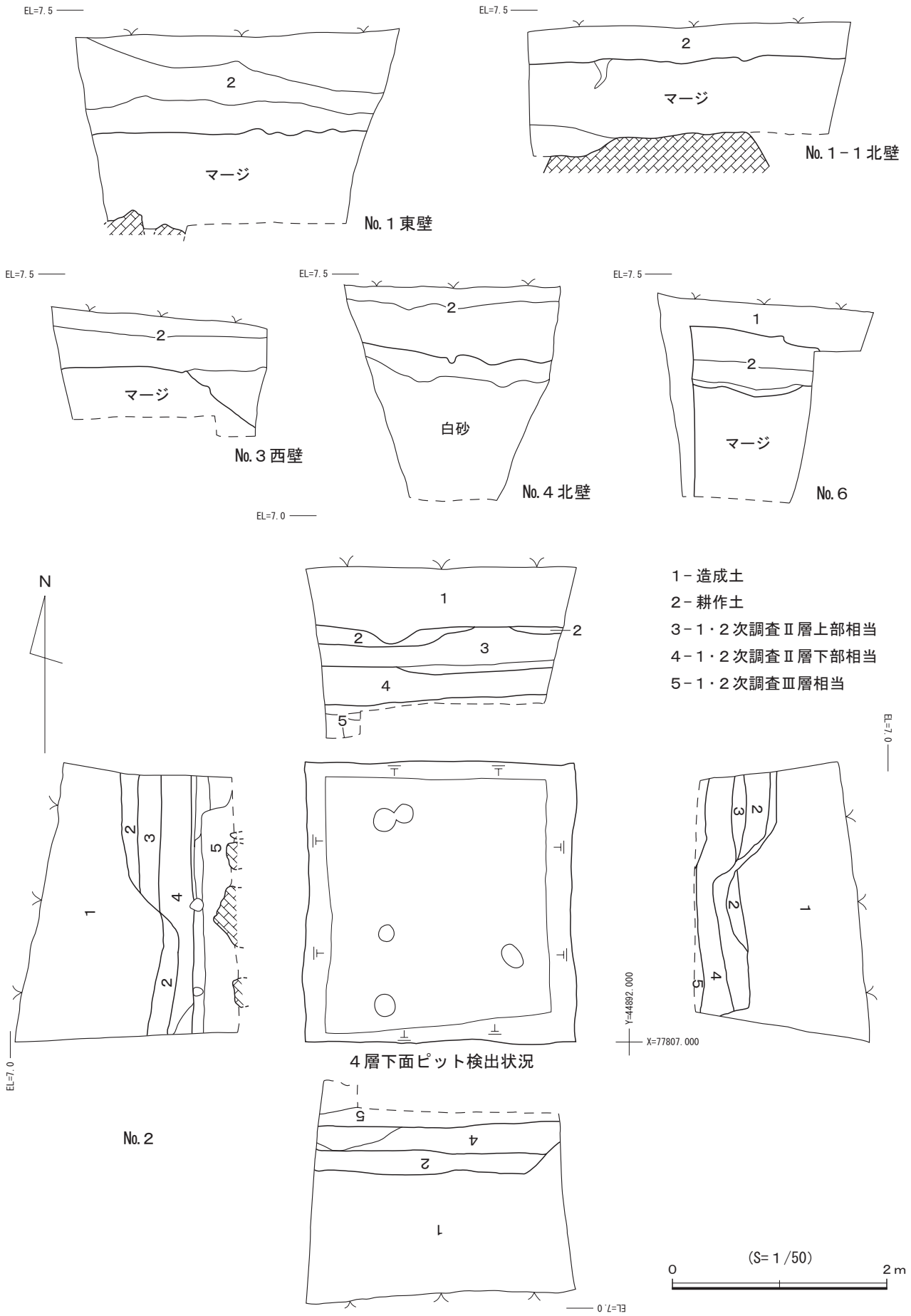
当遺跡の範囲を確認するため、１次・２次調査の成果をもとに６つの調査区を設けた。No. ５トレンチは設定したが、調査期間の都合、既に今帰仁村教育委員会がこの周辺で試掘を行った結果包含層の存在はなかったので、今期は調査を見合わせた。左記の理由により、欠番とした。

層序　１層…梯梧荘建設に伴う造成土。２層…現・旧耕作土。３～５層…沖縄貝塚時代前～中期包含層。地山は、マージ（明褐色土）層と、海岸砂丘を構成する白砂層がある。
No. １トレンチ　現在のテニスコートの南東隅、１次地区の南東端であるセ４ラインから10ｍ東側に当たる地点である。地表下80㎝でマージ層検出。地表下160㎝では一部岩盤を検出。包含層・遺構の検出なし。
No. １－１トレンチ　No. １トレンチから30ｍ東側に地点である。地表下30㎝でマージ、地表下100㎝では岩盤を検出。包含層・遺構の検出なし。この地点を含め、東側は現在も畑地で、この調査から考えると、耕作土中にも遺物は見られず、この畑一帯には本来遺跡は広がっていなかったと思われる。
No. ２トレンチ　１次地区北端ユ15～17ライン、Ｓ地区北端Ｓ５から５ｍしか離れていない地点である。１層は0.5～1.0ｍと厚い造成土である。この下層の４層から貝塚中期土器、敲石破片、大量の石材、貝類が出土する。この４層は、１次・２次調査のおそらくⅡ層下部にあたるものと思われる。
出土遺物（第６図）　全て４層から出土している。土器は１～17である。分類は第４章第３節に従う。１・２は単箆押引き文による荻堂式、５も荻堂式か。Ⅱ群土器が、８～10はＡ類（ア）、6･11･12はＢ１類（ア）、13～15はＢ２類（イ）、16はＢ３類（イ）である。４は逆Ｕ字形の把手を貼り付けている。７は喜念Ｉ式である。17は金雲母を含む（エ）である。18～21は敲石の破片である。石材は砂岩である。骨は、イノシシ。貝の詳細については、第５章第２節を参照のこと。チョウセンサザエのフタが圧倒的に多く、サイズにばらつきがあるようである。
No. ３トレンチ　プールの北西側、Ｐ地区西端から30ｍの地点である。現在は梯梧荘の敷地内の芝生となっている。地表下60㎝で、マージ層を確認。遺構・遺物はない。
No. ４トレンチ　No. ３トレンチから40ｍの地点である。地表下60㎝で白砂層を検出。この地点も遺構・遺物もなく、遺跡の範囲ではないと考える。この地点まで砂丘が及んでいることは重要な成果である。
No. ６トレンチ　駐車場西端から35ｍ西側の地点である。１層は造成土で、地表下80㎝でマージ検出。２ｍ掘削したが、岩盤は検出されなかった。遺構・遺物はない。
小結　今回の調査により、テニスコート、管理棟、プール周辺の径約100ｍの範囲に、貝塚時代中期の竪穴住居跡を中心にした遺構群が広がることを再確認できた。また、この遺跡は石灰岩風化土壌に形成されているが、No. ４トレンチでは白砂層を検出し、現状よりも西側は砂丘がさらに奥まっていたことが想定される。No. ２トレンチでは、包含層を確認したことにより、プール、テニスコート周辺の掘削が及んでいない範囲には十分遺構が保存されているものと思われる。

図版２　調査地近景・調査状況

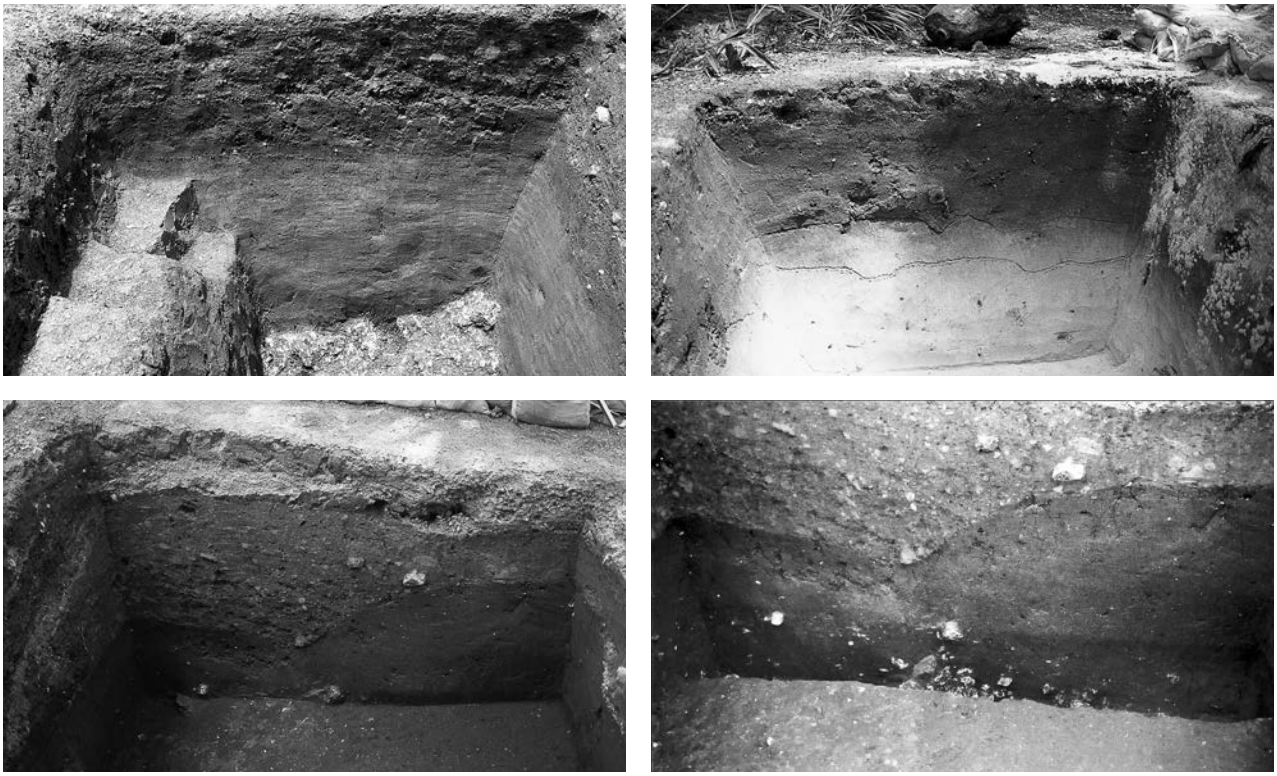


第４図　西長浜原遺跡調査区配置図

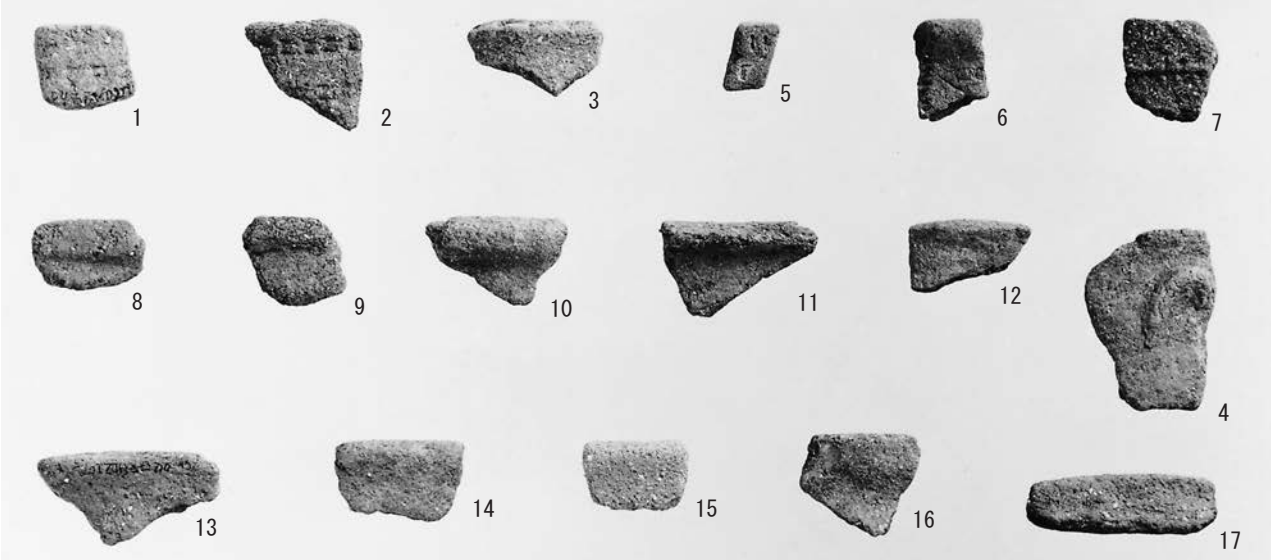


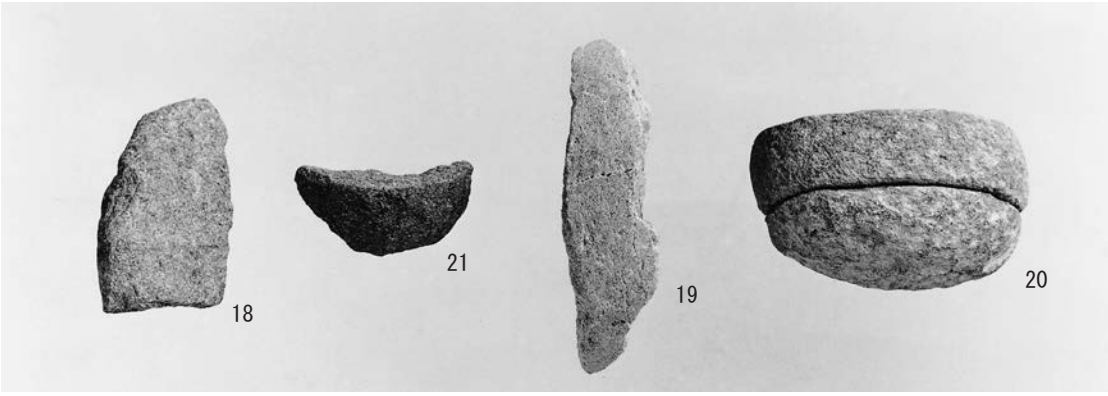
第５図　16年度調査平面・断面図

第６図　16年度 No. ２トレンチ４層出土遺物



図版３　16年度調査区断面（上左：No. １　上右：No. ４　下No. ２）





図版４　16年度調査出土遺物

第４章　第１次・第２次調査

第１節　調査経緯・体制・経過

１．調査経緯

今帰仁村字与那嶺長浜原において、公立学校共済組合沖縄支部（所管：県教育庁福利課）により沖縄保養所の建設が計画され、1976年８月６日に起工式が行われると同時に、建設工事が進められてきた。

ところが、工事進行中の同年11月22日に現地を訪れた沖縄県文化財審議会専門委員の宮城長信（当時小禄高校教諭）が掘削面の壁面に露出した遺物包含層を確認し、新発見の遺跡であることが判明したことから県教育庁文化課に届け出た。

それを受けた県教育庁文化課では所管課の福利課並びに今帰仁村教育委員会と協議を繰り返した。その結果として、同年11月29日に福利課は文化庁へ遺跡発見通知を行った。これを受け、文化課は文化財保護法の規程に基づいて、12月20日に埋蔵文化財包蔵地発掘を届け出た。そして、西長浜原遺跡調査会を設立し、建設予定地の緊急発掘調査を実施することになった。

２．調査体制

発掘調査（昭和51・52年度）

委託機関　沖縄県教育庁福利課
　　高良清敏（課長）、友寄景勝・真玉橋影洸（課長補佐）

事業所管　沖縄県教育庁文化課
　　照屋寛祐（課長）、与座富雄（課長補佐）、名嘉正八郎・宜保栄治郎（主幹）、新里留男・新垣源三（文化係長）

調査主体『西長浜原遺跡調査会』

調査担当　安里嗣淳（文化課文化財班専門員）、宮城長信（県立小録高等学校）、座間味政光（県立前原高等学校）、知名定順・大城　慧（文化課非常勤職員）

調査補助　翁長和成・下地安広・比嘉栄哲・玉城朝健・大城洋子

発掘作業員　計28名

整理員　　花城潤子・大城秀子

調査協力　知念　勇・金武正紀・当眞嗣一（文化課文化財班専門員）

調査指導　高宮廣衛・嵩元政秀・渡辺誠・猪熊兼勝・松沢亜生・川口貞徳・三島　格・黒崎　直・岩本圭輔

３．調査・資料整理の経過

Ａ．１次調査

本遺跡の緊急発掘調査は、1977年１月14日に始めた。その当時、既に施設の宿泊棟・管理棟・機械棟の建物の建築は完了し、あとは建物の内装外装を残すのみであった。発掘調査は、建物の附属施設である池・駐車場・排水・配電のためのヒューム管を埋設する区域（１次地区）、シャワー室（Ｓ地区）、プール（Ｐ地区）が建設される予定区に限り、地下工事が及ばない範囲においては、最大限に遺跡を保存する方針を採った。

当初の計画では、発掘調査の期間を４ヶ月としていたが、大規模な発掘となることが予想されたにも拘わらず、それに対応できるだけの調査員の確保が出来なかったこと、建築工事現場での発掘調査であったこと、予想以上に遺物を包含し遺構が続出したこと、土面が固く散水をして発掘をすすめる状況であったことなどで調査は遅れ、予定の４ヶ月で発掘は完了できず、発掘担当主体の県文化課と工事主の福利課が協議の結果、発掘期間を５月末日まで延ばすこととなった。第１次の発掘調査はプールの予定区を残したまま６月６日に終えた。

この調査は、調査会が県教育庁に設けられたものの実際の調査は調査員３名（県文化課から安里嗣淳、県立高校から宮城長信・座間味政光を３月末日までの期間で文化課へ出向させる）で始める状況であった。調査員の３人は１月６日から１月13日までの期間に、発掘器材や小道具の購入と発掘現場への搬入、現場事務所の設置、バックフォーを使っての客土剥ぎの作業をすすめた。１月14日には今帰仁教育委員会のお世

話で20名の作業員が動員され、いよいよ本格的な発掘調査が始まった。

１月17日、グリッド設定のための測量を始める。グリッドの規模を１辺２ｍの方画とし、東西方向に五十音、南北方向には数字を配し、遺跡全体が方眼状に納められるように想定したグリッドの記号を用いた。また、南北方向に62ｍも延びる排水溝（ヒューム管埋設）が15、16(トレンチ)・４ｍの巾（二つのグリッド）に納まるように配慮して基準線も排水溝に沿うように定め、グリッド設定の基点をカ15とした。

１月25日、ク16・ケ16のグリッドの地山面に、遺物包含土層の落ち込みを確認。２月７日にこの落ち込み部分を追跡し、翌８日にはクケ16・クケ17にまたがる完全な隅丸長方形のプランを確認、第１号竪穴と呼ぶことにした。三島格氏は、この露呈された第１号遺構を実見するやいなや、工事現場に備えられた電話を使い、文化課出向中の安里を電話口に呼び出し、大声を出して「オメデトウ」と挨拶されていたのが印象深い。沖縄先史時代「中期」の住居遺構の発見例は宇座浜遺跡・地荒原遺跡・苦増原遺跡があるが、この第１号遺構のように明確な竪穴プランを検出したのは県内で今回が初めてのことであった。

１月31日、西長浜原遺跡発掘調査ニュース第１号を発行し、今帰仁村内に配布した。第１号の内容は①公立学校共済組合「沖縄保養所」建設の概要と埋蔵文化財の取り扱い（県教育庁福利課長　高良清敏)。②埋蔵文化財の保護と西長浜原遺跡の発掘調査（県教育庁文化課長　照屋寛祐)。③西長浜原遺跡発掘調査の内容について（調査員　安里嗣淳)。④出土器の紹介（図版)。⑤今帰仁村一帯の主な石器時代遺跡（調査員　座間味政光）である。続いて第２号は２月28日、第３号は３月31日、第４号は10月15日に発掘調査の概報として発行した。

２月８日、教育庁専用のジープに出動してもらい、出土遺物を那覇市首里にある文化課収蔵庫へ移送した。発掘現場では毎日多量に出土する遺物の集積場所が確保できず、雨の日を利用して遺物の水洗いに当たり、発掘期間中トラックやジープにより十数回にわたって収蔵庫へ移送した。

２月28日、宮城は県文化課へ出向して発掘進行状況の説明と調査員の人員増について要請する。これまで、３人の調査員の仕事内容を振り返ってみると、発掘器財の購入搬入・グリッド設定の測量と杭打ち・倉庫と便所の設置・建築工事関係者の発掘区横断用の木橋の構築・日々の作業員の点呼と作業場所の配置監督・遺物の収納・写真撮影などすべて兼務で、仕事内容の分担は不可能な状況であった。

４月８日、昨日の豪雨でグリッド内は満水となり、露呈した遺物・遺構が土に埋まる。特に、ソ7～ソ11の観察用土手は完全に崩壊する。雨後は遺物遺構を覆う泥土の排除作業から始まる。発掘期間中雨で調査を中止した日々もあった。

４月16日、宮城・座間味は再度教育庁へ出向し、教育長・文化課長に対して調査員の増員を要請する。

５月２日、工期と発掘計画についての協議に安里が参加する。プールの予定地区は２次発掘とすることが決まるが、１次発掘は５月末日までに完了することとなった。ただし、配電用の引込み線を通すヒューム管の埋設区（セ4～セ16、ソ4～ソ16）については、明日までに発掘調査を完了することとなった。翌３日には調査員・補助員がこの地区で検出した２号竪穴・３号竪穴・４号５号の凹地の完掘と実測に当たったが、作業が終了したのは翌朝午前１時であった。電灯をつけ、平板測量をするなど前例のない発掘調査となった。この地区は５日には埋め戻しを終わり、６日にはヒューム管の埋設工事が始まった。

６月５日、発掘調査の猶予は明日の午前中となる。日曜日にもかかわらず調査員・補助員全員出勤する。発掘部の最後の点検と、竪穴遺構・柱穴状ピット等の平面図・断面図の作成に取りかかる。人員不足で実測作業は思うように捗らず、ついに徹夜で敢行することとなった。午前８時30分には作業員が出勤する。調査員・補助員は継続して作業員を動員して未発掘部分の発掘を進める。27号竪穴（グリッド　モ12・13）の焼土下層でシイの実の炭化物を採集する。宮城・座間味・知名の３人は遺構を駆けずり回りながら写真撮影を済ませる。午後２時、排水溝工事のブルドーザーとパワーショベルが導入され、遺構は姿を消した。消え行く遺構を見つめ呆然と立ちすくむ作業員の姿が印象に残る。５月になってからは、日曜祭日抜きの調査となった。調査員･補助員の体力の消耗は限界に至り、ただ、気力だけで今日まで持ち耐えてきたのである。

また、本調査においては、適宜地元住民・小中学生への説明会、『西長浜原遺跡発掘調査ニュース』第１～４号の刊行により、遺跡の周知に努めた。

Ｂ．２次調査

２次調査はプール建設予定地（Ｐ地区）を対象に、1977年８月19日にグリッド設定を行い、発掘調査は1977年10月18日から11月24日まで実施した。

10月18日から31日は、Ⅱ層の掘削を進め、徐々に竪穴と思われる暗褐色土（Ⅲ層）が現れ始めた。11月

１日から14日にかけて、遺構検出･掘削を行った。その中で、Ｐ４Ａ号遺構のチョウセンサザエの殻の集中、袋状土坑である17－Ａ号遺構、獣・魚骨はそれほど多くないこと、Ⅳ層とした落ち込みの検出などが注目された。11月18日～24日にかけて、遺構完掘後の写真撮影、遣り方測量による割付、実測を行った。これにて、西長浜原遺跡の緊急調査を全て終えることが出来た。

Ｃ．資料整理

遺物洗浄は、現場作業と並行して、雨天時を中心に発掘作業員に行わせた。また、特にＳ地区などを骨・貝の微細遺物が集中する地点ではフルイ洗浄を行っており、その成果は特に本報告での動物遺体のデータに現れているとおりである。

土器・石器の分類については、現場終了後から積極的に行った。特に石器の実測は松沢亜生（当時、奈良国立文化財研究所）の指導を受け、かなり精密な実測図を作製していた。土器については、高宮廣衛と上地博・豊里友哉などの沖縄国際大学考古学研究室の指導・協力を受けながら、実測・分類の検討を行ってきた。その結果、主体を占める土器は、粘板岩を混入し、室川式の肥厚口縁を有し宇佐浜式の胴部が張る器形を重ねもつ中間的な型式（Ⅱ群Ｂ（イ）類土器）と捉えている。

これらの成果は、日本考古学年報29（1976年度）、西長浜原遺跡調査会刊行『今帰仁村西長浜原遺跡－発掘調査写真集－』に掲載している。

今回、平成16年度範囲確認調査を報告する際に、この１次・２次調査成果を現在の研究状況から捉え直すことが今後の本遺跡の保存活用のために重要と考えた。そこで、この成果についても新たに図面・原稿を再構成している。

図版５　西長浜原遺跡１次・２次調査の日々

第２節　層序・遺構

調査区は、大きく１次地区、Ｓ地区、Ｐ地区の３つに分けて調査を行っている。この内、１次地区とＳ地区は１次調査時に行っているため、南北ラインをカ～ヤ、東西ラインを４～27とした同じ基準の２ｍごとのグリッドで設定している（第７図）。一方、Ｐ地区は２次調査時に単独で行ったので、遺構番号・グリッドともに独立して呼称・設定している。

層序については、Ⅰ～Ⅲ層は同様の意味で全ての地区においてほぼ共通した意味で使用している。Ⅳ層はＰ地区のみに使用しており、後述するがⅢ層よりも圧倒的に古いとは土器からは断定とまではいかないが、Ⅲ層の遺構の下に見られる層である。

遺構については、その呼称方法は１次・Ｓ地区は共通して連番を振っているが、Ｐ地区は独自で遺構名を付している。そこで、本報告においてはＰ地区については、『Ｐ〇号竪穴』などと、Ｐを最初に付すこととする。また、遺構の性格であるが、本遺跡の遺構の多くは、約２～４ｍの略方形状土坑をいわゆる竪穴住居と考えており、これを『〇号竪穴』と呼称する。その他については、径0.5ｍ以下のものを『〇号ピット』、その他の性格が限定できない遺構を『〇号遺構』と呼称する。

また、後述するが、平面図を一瞥すると、１次・Ｓ地区の竪穴の規模が４ｍ前後の大きなものが目に付く。一方、Ｐ地区は２ｍ前後のものしか見られない。これらは、実際に規模が異なる可能性も否定できないが、１次･Ｓ地区は沖縄でも多くの竪穴住居跡が検出される初めての遺跡であることもあって、その遺構検出・切り合いの確認について幾分心もとない点が多く、複数基の竪穴が重なっていたが１基としか捉えられなかった可能性も高い。というのは、Ｐ地区ではⅡ層をややオーバーして掘削することにより、マージとⅢ層の差を明瞭化させて調査したため、かなり正確にプランを抑えられたのである。特に、後述するが１次地区２・３・４・５号７・８－１号竪穴は本来切り合いを持っていた可能性があろう。

１．層序

全ての地区について共通するのは、戦後の客土、Ⅰ～Ⅲ層である。Ⅳ層はⅢ層の範疇と考えられるが、Ｐ地区についてはⅢ層の下層と考えたため設定した。

客土　マージ主体の黄褐色土。甘蔗栽培のため数年前に持ち込まれたもので、浅いところで20㎝、深いところで１ｍもある。畑作時の畝・畦の痕跡も含まれるものと思われる。

Ⅰ層　暗褐色土。赤色の客土が持ち込まれる以前の表土層を成すもので、畑耕作によって常に掘り返された耕作土層である。貝塚時代前・中期（伊波・荻堂・大山・室川・宇佐浜式）の遺物も僅かに含む。

Ⅱ層　黒褐色土。貝塚時代前・中期の遺物を大量に包含する。遺跡の全面を覆う層であるが、地形に起伏の高い部分（微高地）では地山に這うような浅いところもあるが平均して20㎝の厚みである。１次調査Ｓ地区では、このⅡ層下部（20・30～60㎝）において、拳大の礫、多くの骨・貝、土器が集中して見られた。ただ、Ⅱ層上部（０～20㎝）の部分は、わずかであるが近世～近代の遺物、特に刃物による解体痕がある動物遺体も出土しており、耕作による混入と考えられる。

Ⅲ層　直接遺構を覆う黒褐色土。土質・土色としては、基本的にⅡ層と区別つかないが、直接に遺構、凹地を覆う下層をⅢ層として遺物を取り上げている。遺物も基本的にⅡ層と同時期のものだが、貝塚時代前期（伊波・荻堂・大山式）を主体とする遺構もわずかにある。

Ⅳ層　Ｐ地区の北側のみで見られた落ち込み内に見られる黒褐色土。後述するが、Ｐ－30号竪穴がこの上面で見られているため、時期的に古い可能性が指摘されている。出土土器においても、Ⅰ群、Ⅱ群Ａ・Ｂ１類土器が主体的であるため、やや古い様相は窺える。

地山　赤褐色土。島尻マージ（いわゆる赤土）。１次地区の14号遺構の周辺、Ｐ地区の４・５号遺構の周辺では石灰岩が露出している。また、先述したがこの１次地区・Ｐ地区では見られなかったが、100ｍ西側に設定した16年度調査区No.４では、海岸砂丘に相当する白砂層を確認している。

２．遺構

各地区について、特徴的な遺構の概略を述べる。

Ａ．１次地区

１次地区は、梯梧荘に伴うヒューム管・マンホールを埋設する面積680㎡の範囲で、現在のテニスコート西側と管理棟の南東隅に当る。調査自体は、当初から一つの調査区として設定したのではなく、各工事の進

捗に合わせて最終的にこの形になったのである。

本地区の遺構番号は現場の呼称も複雑を極めており、基本的には現場の呼称を生かし、竪穴住居跡と考えられるものを中心に呼称した。他の土坑やピットは必要なもののみ現場の呼称を生かすことにした。そのため、後述する遺物も掲載することにした遺物を中心に取り上げ、それ以外はⅡ・Ⅲ層扱いとした。

遺構は１～18・26・27号が現場時に呼称したものである。19・20・22～24・28号は、現場での遺構・遺物のナンバーでは欠番となっていたので、現場で付けられていない竪穴と思われる遺構に呼称しても差しさわりがないと判断した。他の土坑やピットは多数に及び、また番号の不備などで全てを整理して呼称するのは不可能であった。幸い、基本的には遺物は竪穴と思われる遺構から中心に出土していた。

竪穴と見られる遺構は、調査区中央、14～18ラインに集中しており、それ以外では散在した状況である。ほぼ全域で検出されているが、南西部は希薄である。集中している範囲でも、２・３号と７号などの間、14号と16～18号など、やや空間が見られるので、同時性などの検討も必要だが、グルーピングできる可能性がある。また、後述するが８－２号、26・27号はⅠ群土器が主体の遺構で、他の多くはⅡ群土器が主体であるのと比べると、古手の竪穴と言える。

１号竪穴　東西4.1ｍ、南北2.9ｍの長楕円形のプランをもつものである。今回の調査で最初に検出されたのが、この遺構である。５㎝掘り下げた段階で竪穴と確認できたため、保存を最優先して埋め戻した。検出の段階で、土器等の破片が散在する状況で確認できた。尚、ク16で深さ５㎝の位置で押し潰された１個体の無文土器を露呈したが、現位置に存置したままである。１－２号遺構は１号竪穴の北１ｍの地点で、径1.2ｍ、深さ0.1ｍの浅い土坑となっており、床面には焼土が見られる。１－３号遺構は１－２号の50㎝北側の地点で、径1.5から1.8ｍのプランである。

２号竪穴　西半がマンホール設置による攪乱で破壊されている。規模は、残存している東辺が5.1ｍ、最も深いところで50㎝を計る遺構である。全容を推定すると、東西は３ｍ程度残存しているため、略長方形に近い形と思われる。南側では長さ２ｍほどの斜面になっている。北側の竪穴周辺に0.2ｍ程度のピットがあり、浅いものもあるが深さ約30㎝を計るものもあるので柱穴と考えられるものも確実にあろう。

３号竪穴　東西5.8ｍ、南北3.1ｍの略長方形のプランをもち、深さは北半が約20㎝、南半が約40㎝と、段差が認められる。この北半と南半でそれぞれ焼土に広がりがあるため、竪穴の拡張か２基の竪穴が重なっている可能性がある。この完掘後のプランが全体的に一つのプランになっているように見えるので拡張の可能性が強い。

４号・５号落ち込み　この地区は、第Ⅰ層を掘り下げ、第Ⅱ層を掘り下げた時点で、セ11・ソ10・タ９の基点杭を結ぶ線で東側と西側に二つ竪穴があるものと判断して４号・５号と区別した。しかし、Ⅲ層掘削する段階では、明確なプランの違いを見つけることが出来ずに、約幅９ｍ、深さ50～60㎝の落ち込みとなった。ただ、セ・ソ・タ８～10にかけて、約３ｍの範囲で地山直上に厚さ10㎝の炭化層が広がり、この上層には厚さ10～40㎝の赤土で土塁状の盛土がなされていた。このことから考えると、やはり２～３基の竪穴が複数に切りあっていた可能性も高い。ソ９・10の地山面は石灰岩盤が露呈している。

６号竪穴　北辺がトレンチに掛かっており、全容は不明だが、東西2.2ｍ、深さ約20㎝のプランを検出している。おそらく、竪穴の一部だと思われる。

７号竪穴　南半ではそのプランを明確にできたが、８－１号竪穴とマンホール接地坑により北半が確認できなかった。ただ、西辺が完掘した後の地形からそのまま直線的にのびるようであるので、南北は４～５ｍ、東西は３ｍを測る略長方形のプランと思われる。深さは完掘したラインまでは約40～50㎝である。埋土は４層に分かれ、そのうち２層がマージに近い黄褐色土であり、この竪穴には作り変えもしくはさらに新旧が切りあっている可能性が高い。

８－１号竪穴　北半が明確に検出できたが、逆に南半が７号竪穴と明確には出来なかった。ただ、整理作業にて土器は８－１号が新しい段階のものが多いこと、深さが約40㎝で床面レベルが７号よりも５㎝ほど高いことから、こちらが新しいと推定した。仮にそう考えると、完掘後の地形でツ14ラインに東西に走るラインがあり、北辺と考えられる。そのように考えると、南北約５ｍ、東西は不明のプランが推定される。ツ14、テ14、テ15にかけて地山面は焼けていて、その上に多くの炭を含んだ黒色土が広がる。特にツ14ではこの層から丸底の底部が集中して見つかり、また、ツ16で炭化物（オキナワジイ？）が検出されたのもこの層である。ツ14・15・16では、この層の上に僅かに遺物を含むマージに類する赤褐色土の広がりが見られた。この赤褐色土が貼土だと考えると、竪穴に２時期もしくは別の竪穴が切り合っていると見ることが出来る。

８－２号竪穴　東半は調査区外なので、全容は分からないが、南北4.5～5.0ｍ、深さ30㎝を測る。プランの西側を８－３号竪穴と９号竪穴にわずかに切られること、出土土器で見るとⅠ群土器が主体であるため、明らかに時期的に古い。南側床面には、全形は確認できていないが、1.4ｍほどの範囲に深さ５㎝の浅い落ち込みがある。その北側には深さ10～30㎝、径10～20㎝のピットが８基ほど検出されている。内部のみにピットが検出されていることが他とは異なった特徴である。

８－３号竪穴　南北2.3ｍ、東西2.5ｍのほぼ略方形のプランを持ち、深さは40㎝である。ピットは、他の竪穴と比べるとプランの西側に１基見られるだけで、非常に少ないことがいえる。また、壁面の壁はほぼ直角に掘り下げている。

９号竪穴　南北3.6ｍ、東西2.9ｍのやや長方形のプランをもち、深さは20㎝である。竪穴の北壁はやや垂直に、南壁は斜めに掘り下げられ、床面は中央から北側では平坦をなす。東北壁の東西両隅と東壁中央に柱穴とみられる径10～20㎝、深さ20㎝のピットも検出した。このように、ピットが北辺のみに見られること、南辺が緩やかなスロープ状となっていることなどは、この竪穴内の北と南で空間の使い分けが想定できる。床面の中央部から北側のやや東よりに、1.5ｍほどの範囲に不整形な窪みがあり全面焼けていることから、炉跡とみなされる。この９号竪穴の北西には、不定形の1.5～2.0ｍほどの範囲において、マージ面が焼けている。

９－７号ピット　調査中貯蔵穴と考えられた土坑である。径0.6ｍの円形の土坑で、深さは約40㎝を測る。土坑の壁はほぼ直立するが、南東隅が10㎝ほどオーバーハングする。

10号竪穴　ネ15、ノ15区に大部分を占め、一部ネ14、ノ14区にまたがっている竪穴である。南北に長く2.4ｍ、東北2.0ｍで隣接する９号竪穴に比べて規模は小さい。深さは30～40㎝である。また、平面プランは不整ではあるが、略長方形である。竪穴を取り巻くように径10～20㎝、深さ10㎝の浅いピットが約20基点在するが、特に竪穴東側に集中している。竪穴の埋土中から僅かながら魚骨も検出された。

11・19・20号竪穴　この３基の竪穴は、ヌ～フの17ライン付近において平面で検出されたプランである。この３基は竪穴の埋土を現状保存のため調査していないので、平面プランのみの確認である。平面から推定されるプランでは、11・19号は約４ｍ、20号は約３ｍとやや小さい。ちなみに、19・20号は報告書作成中に呼称した番号である。

12号竪穴　フ16付近に位置する竪穴で、不整な楕円形状のプランをもち、南北2.7ｍ、東西2.3ｍの規模を測る。約５ｍ南にある10号竪穴と近しいプランである。断面の形状は全体的に凹む皿状で、深さは10～20㎝と浅い。ピットは竪穴床面、その外周に見られるが深さは10㎝と浅いものが多い。南西隅の床面では、30～40㎝の範囲で焼土面がある。竪穴西側を中心に、径10～20㎝、深さ10㎝の浅いピットが16基点在する。

13号竪穴　ホ15～16に位置する竪穴で、不整な楕円形状のプランをもち、南北3.2ｍ、東西2.6ｍの規模を測る。断面の形状は浅い皿状で、深さ10～20㎝である。14号竪穴に切られて検出されているが、沖縄県における当期の類例であるシヌグ堂遺跡や高嶺遺跡の例では深いものが古いことからすると、やや検討の余地もある。ピットは、竪穴南側を中心に10基確認した。また、このピットに混じって、長さ0.8ｍの楕円形状で、深さ10～20㎝の浅い落ち込みが２基見られる。

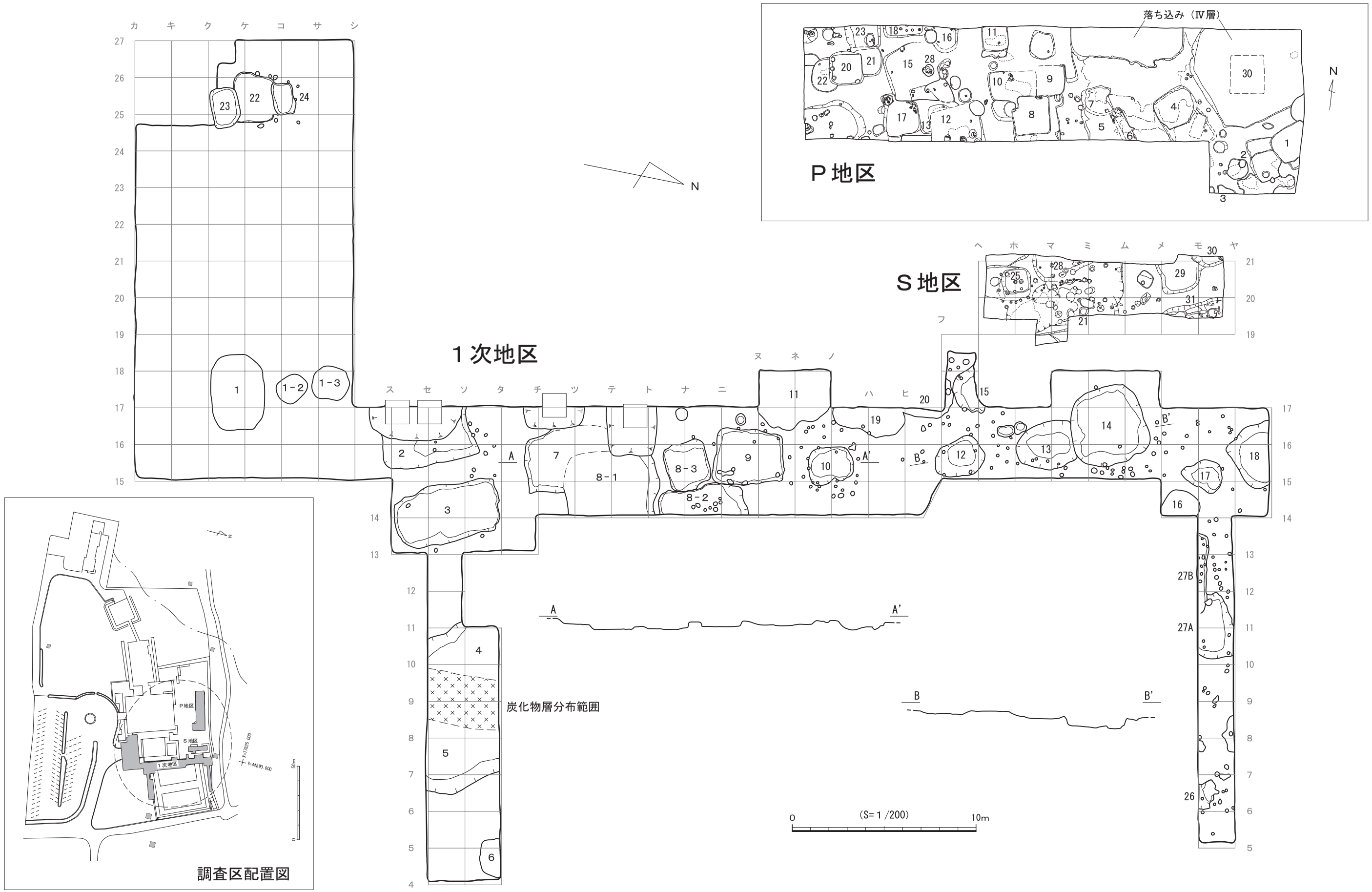
14号竪穴　マ～メ・15～17に位置する一辺4.2～4.5ｍの略方形の竪穴で、掘り込みは深いところで60㎝になり、石灰岩に達している。プラン確認のため、発掘区をマ17、ミ17、ム17まで拡張した。石灰岩が露出する床面で、径0.6ｍの焼土面が見られる。竪穴北東コーナーを中心に、15基のピットが見られる。先述のように、13号竪穴を切っているが、逆の可能性もある。Ⅲ群土器が最も多く出土する竪穴である。獣・魚骨が多く出土した。

15号竪穴　フ18に位置する竪穴だが、調査区外のため全てのプランを検出していないが、長さ2.5ｍ程度の略方形であろうか。ピットは、現状では北西側には検出されていない。

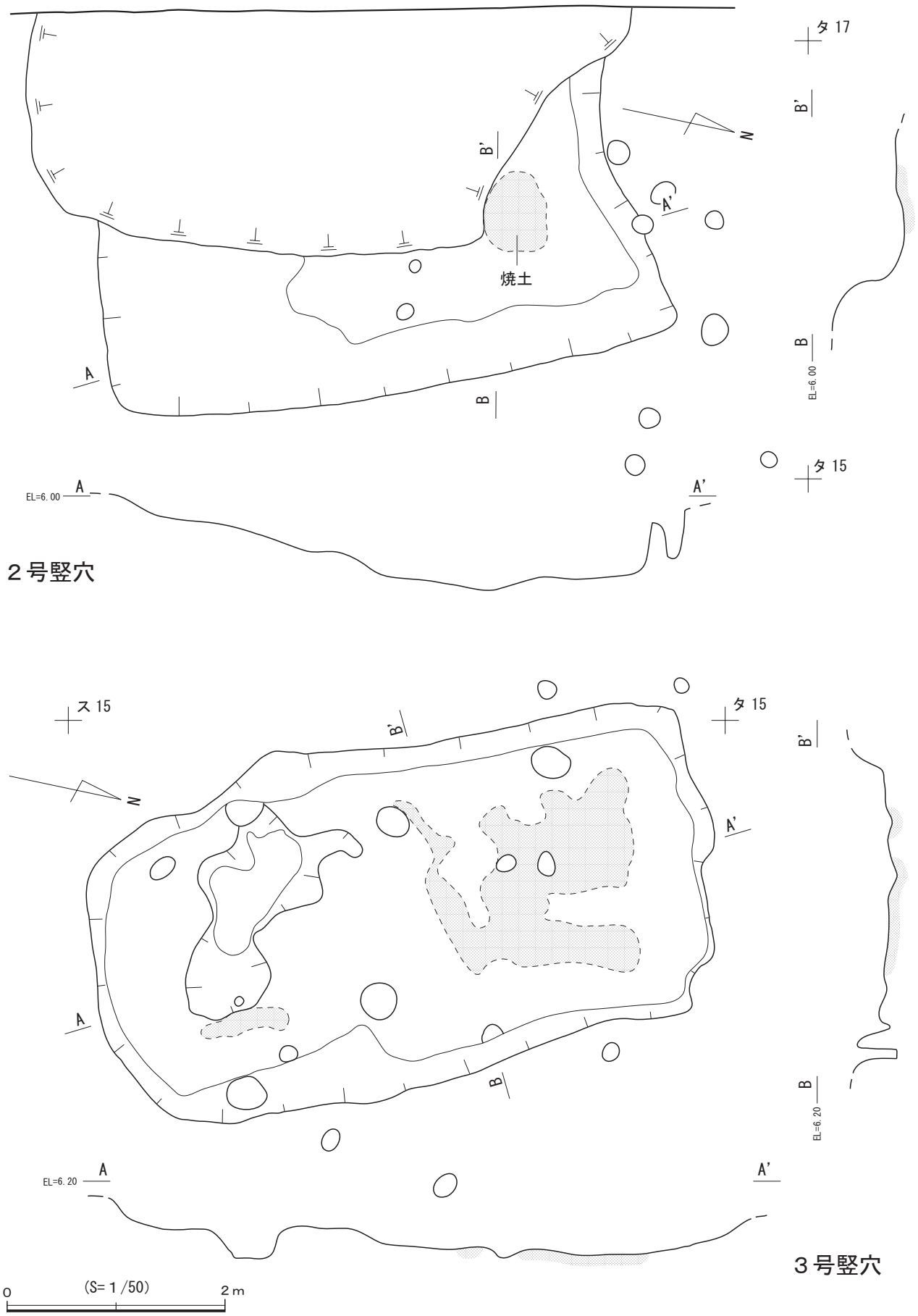
16号竪穴　平面プランを一部検出したのみで、掘削していない。一辺約２ｍ前後の略方形であろうか。

17号竪穴　メ～モ・15～16に位置する竪穴で、不整な楕円形に近いプランをもち、短径1.6ｍ、長径2.4ｍの規模を持つ。断面の形状は全体的に皿状に浅く落ち込むもので、深さ0.1～0.2ｍをもつ。ピットは南端に径0.2ｍ、深さ0.2ｍのものが１基存在するのみである。

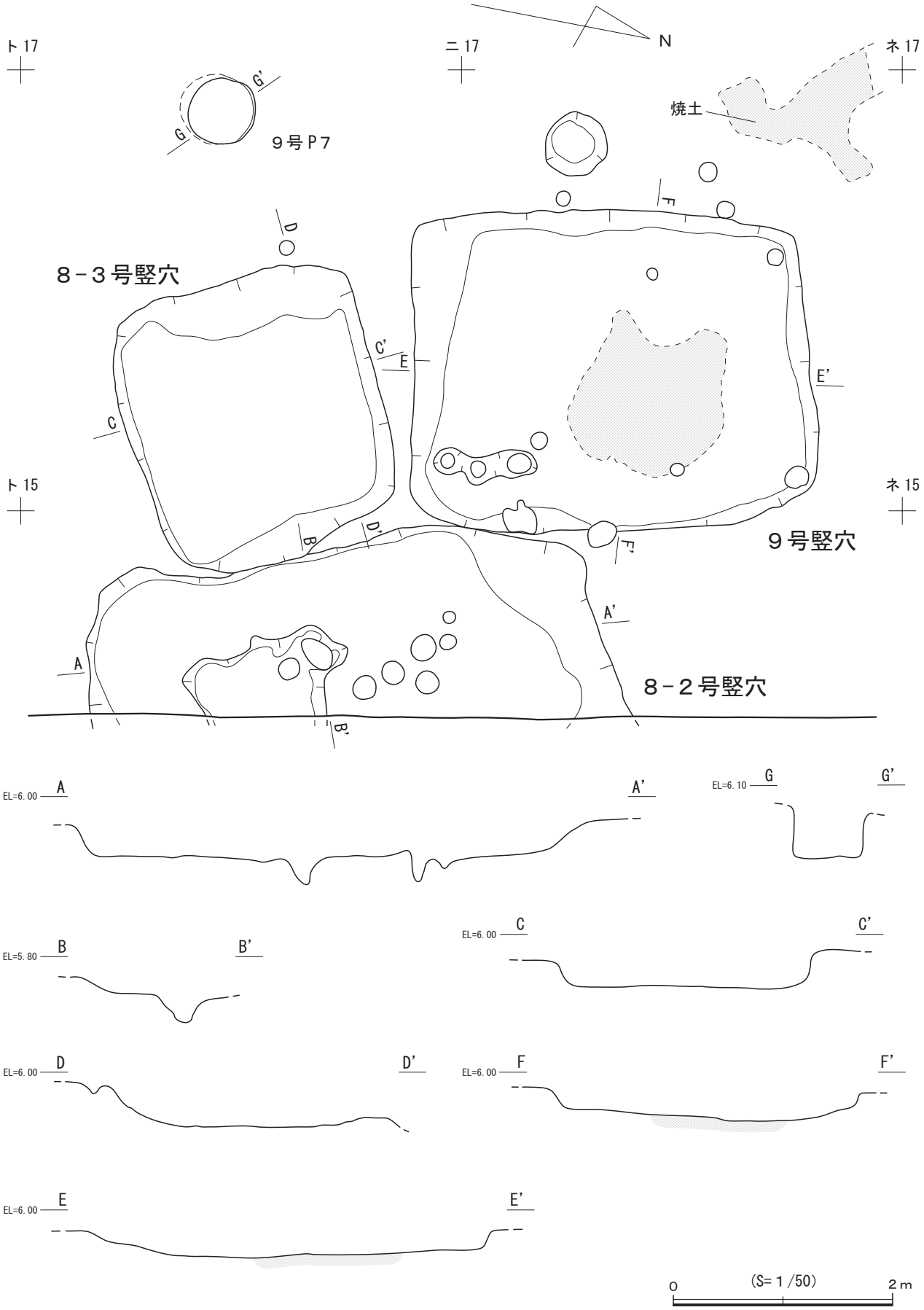
18号竪穴　マ16・ヤ15～17に位置する竪穴だが、北半が調査区外のため正確なプラン・規模は不明だが、一辺約3.0～3.5ｍの略方形のものと考えられる。床面の断面は水平な台形となっており、深さは0.6ｍである。床面は、マージ直上に10㎝程度の貼り土を施すことで、ほぼ水平にしている。竪穴内には、径0.5ｍ



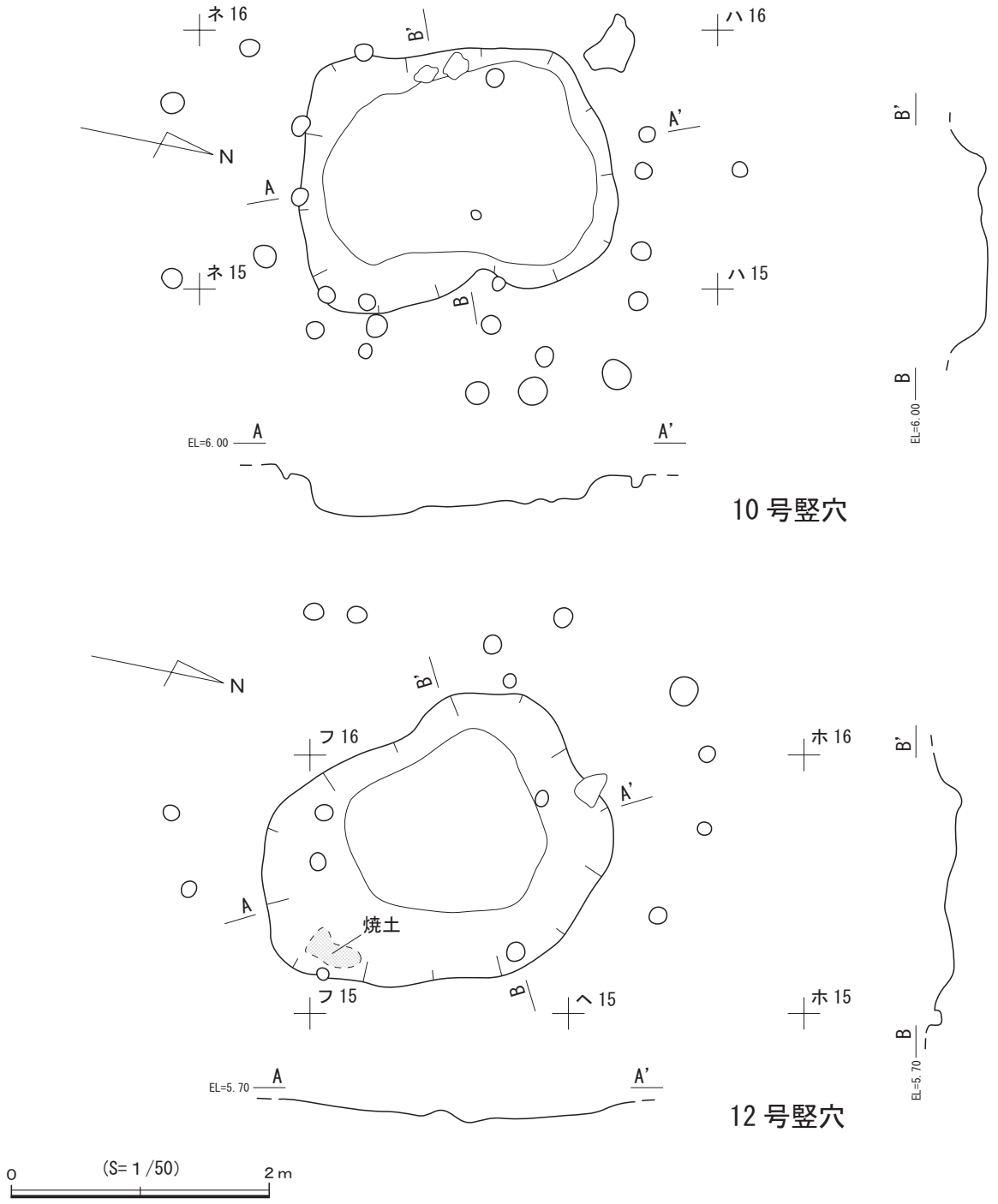
第７図　西長浜原遺跡全体図



第８図　１次地区２号・３号竪穴



第9図　1次地区8－2・8－3・9号竪穴



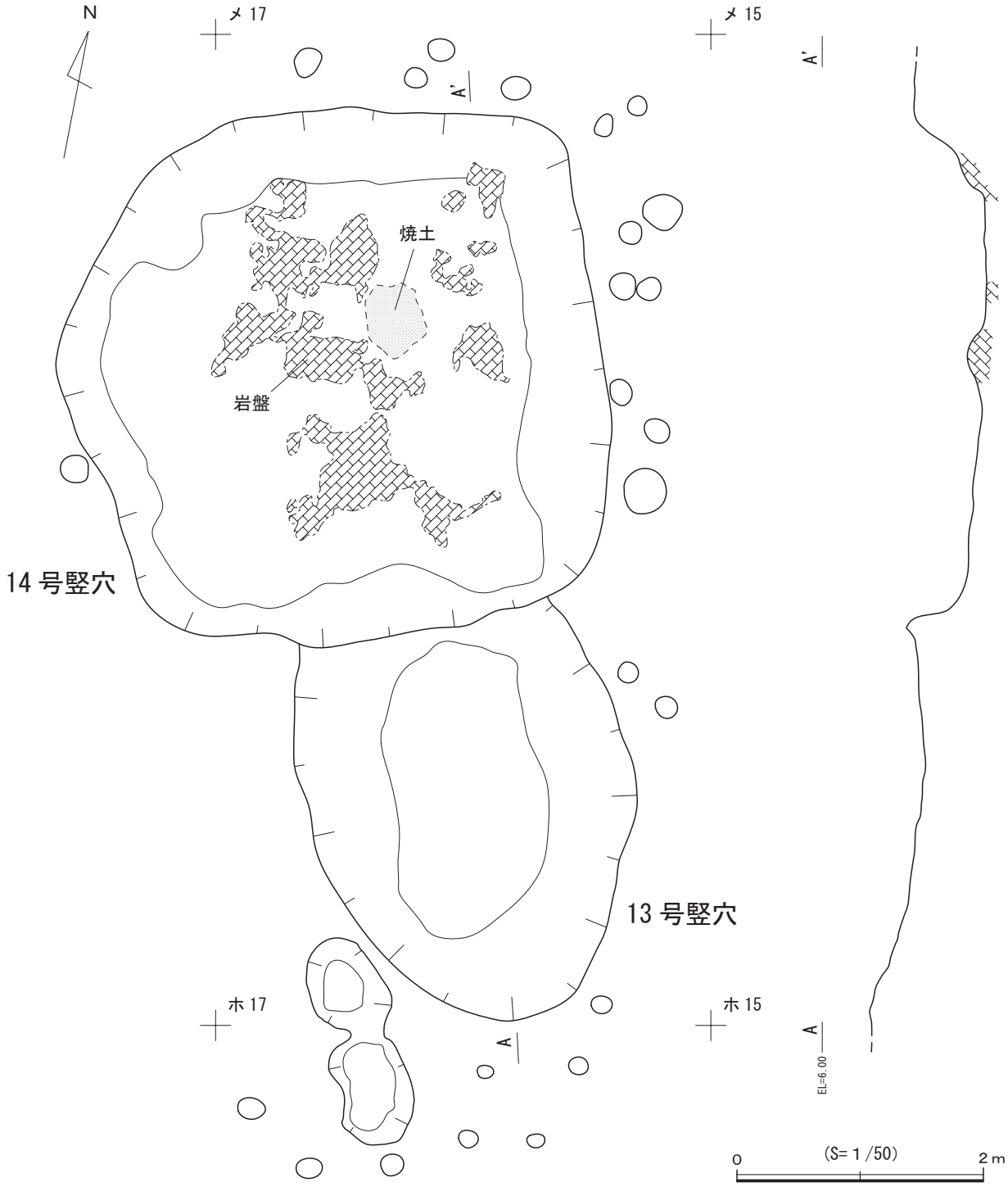
第10図　1次地区10・12号竪穴

の焼土面が見られる。ピットは径10～20㎝のものが竪穴の南外側に10基確認されるが、北半の状況が不明である。比較的多くの獣・魚骨が出土した。

22～24号竪穴　ク～コ・25～26に位置するもので、調査時、池地区竪穴と呼称されていたものである。調査時においては、３つの遺構の新旧関係は明確に追えなかった。22号竪穴は、一辺2.4ｍの略方形のプランで、深さは0.1ｍである。23・24号はこれより小さく一辺1.6ｍ前後で、深さはやや深く0.2ｍである。

26号遺構　モ７付近に位置する遺構だが、全形が検出できておらず、不定形なプランで深さ0.1ｍ前後の浅い皿状となっている。周囲にピットが多く検出されており、竪穴の可能性もある。Ⅰ群土器のみ出土する遺構である。

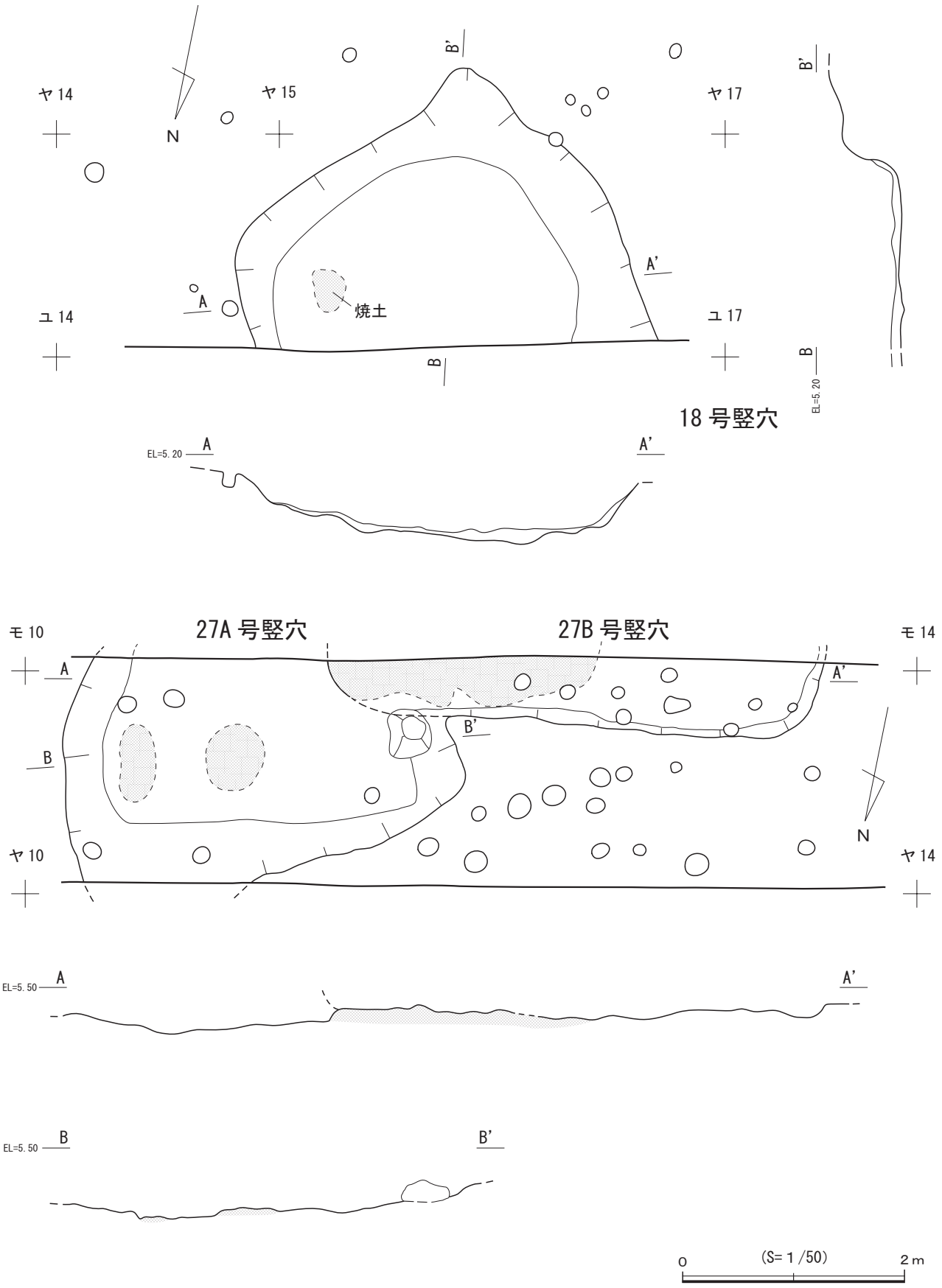
27号竪穴　モ10～14にかけて位置する竪穴が２基切り合っており、まとめて27号遺構と呼称されていた。整理段階において、切られている東側を27Ａ号、新しい西側のものを27Ｂ号とした。27号は全形を検出していないが、一辺3.5ｍ前後、略方形のプランが考えられる。深さは0.2ｍであるが、逆台形状の断面で、



第11図　1次地区13・14号竪穴

全体的に床面は平坦である。床面には、その東半に長さ約１ｍの焼土面がある。また、27Ａ号ときりあっている西側コーナーで火を受けた石皿がほぼ床面直上で見られた。その石皿周辺には炭化したオキナワジイが大量に27Ｂ号竪穴の焼土面に広がっていた。27Ｂ号竪穴も全形を検出していないが、長軸4.4ｍであるので略方形と想定できる。トレンチ際の床面に長さ２ｍの焼土が見られる。竪穴27号よりやや浅く、深さは0.1ｍである。遺物も先述のように、27号で一括して取り上げているが、土器は全てⅠ群土器である。

コー20人骨出土地点　コ－20地点の地山面直上で、人骨頭部が後頭部を面に接した状況で出土した。ここでは、明瞭なⅡ層は堆積しなかったようであるので、時期は限定できない。この人骨は女性と思われる。



第12図　1次地区18・21・27号竪穴

B．Ｓ地区

Ｓ地区は、シャワー室に当たり、12×３ｍの面積36㎡の小さな地区である。調査は１次地区とほぼ並行して行っており、遺構番号は１次地区と通して付している。Ａ・Ｂ集石、21号竪穴は調査時に呼称したものだが、25号・28～31号竪穴は整理段階で付した。

本地区は、他２地区とは異なった大きな特徴がある。それは、Ⅱ層掘削時、多くの礫に混じり、土器・石器そして大量の骨が見られたことである。そして、このⅡ層をほぼ剥ぎ、遺構のプランが見えてきた段階で、大きく４ヶ所の集石及び遺物の集中が見られた。現場での遺物取り上げは、取り上げ用の25㎝単位のメッシュなどを設定し、工夫したが、遺構番号の不明などから報告には生かすことが出来なかった。

層序でも概略したが、Ⅱ層上部（Ⅱ層０～20・30）においては、鋭利な切断痕を持ったウシなどの獣骨、色彩が残る貝殻などが出土しており、陶磁器等の遺物はほとんど見られず、貝塚時代中期土器が主体だが、近現代の土層の可能性が高い。

一方、Ⅱ層下部（Ⅱ層20･30～60とⅢ層）において撹乱は見られない良好な層と考えられる大量の骨･貝･土器は、Ⅱ層下部には拳大の石灰岩礫と共に見られ、特にＳ１・３地区、その地点に位置するＡ集石・Ｂ集石に集中する。一方、この下層のマージ面に形成される遺構内には、骨・貝はほとんど見られない。このことを考慮すると、これらの骨・貝はこの地区に遺構が営まれているよりも新しい段階で形成されたものと考えられる。つまり、他地区の同一レベルではほとんど骨・貝は出土しないので、場所による機能的な差が想定できる。しかしながら、土器においてＳ地区が他よりも古いと断定できる状況にはない。ただ、当該時期において、貝・骨が集中する地点があまり確認されていない現状では、重要な成果と考えられる。

Ⅱ層を除去した段階では、マージ面上で黒褐色土のプランが確認でき、その上面Ｓ１・３地区中心に小礫の集中が見られる。この内、特に集中している部分をＡ・Ｂ集石と名づけて礫と共に黒褐色土を掘り下げていった。基本的にはＡ集石の下層を21号竪穴、Ｂ集石を25号竪穴とした。特にＡ集石では50㎝前後の細長い石を遺構の縁に並べており、壁とした可能性も考えられる。ただ、多くの石はプラン内の上層に見られるのでおそらく廃絶した状況と言えよう。これら、竪穴と考えたプランはどれも全形を検出しておらず、規模･形態までは不明であるが、25号竪穴のように略方形と考えられるものもある。

C．Ｐ地区

Ｐ地区は、プールにあたる場所で、２次調査において実施した。東西28ｍ×南北６ｍ、面積168㎡の東西に長い調査区である。

遺構番号は１～31と、２つの落ち込みがある。その他、枝番として呼称しているものがある。これらの遺構には、竪穴と考えられるものと、それ以外のピット・土坑がある。

１次地区に比べると、竪穴が密集しており、切り合いも顕著である。また、多くの竪穴の平面プランは、２～３ｍの略方形に近く、１次地区とは異なっているように見える。ただ、先述したように１次地区に見た１次２・３号竪穴などの略長方形のプランのものは、２基重なっているもしくは拡張の可能性がある。そう考えると、竪穴自体の大きさには差がないとも捉えられる。調査区北東部には、全形は確認できていないが、一辺約10ｍの落ち込みが２ヶ所確認できている。この落ち込みはⅣ層として捉えている。

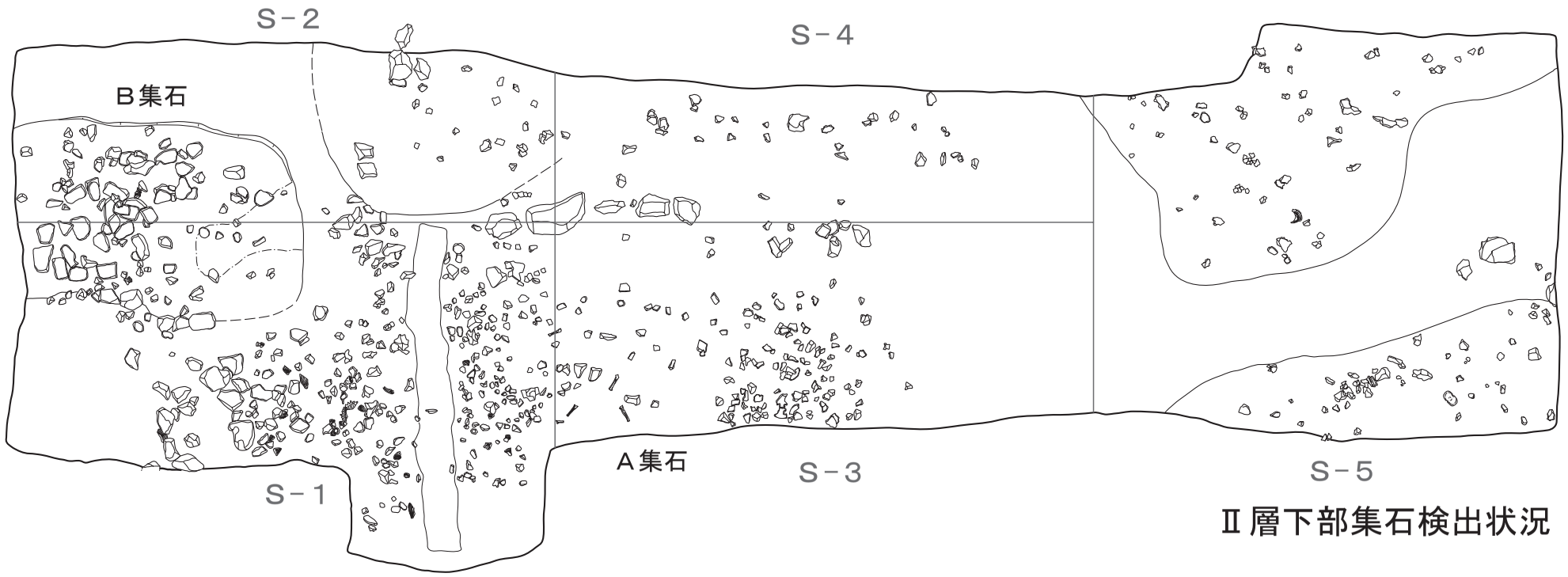
出土遺物では、後に詳述するが、遺構内の土器はⅡ群Ｂ類アが主体のものが多く、Ⅱ群Ｂ類イが主体の１次・Ｓ地区よりも古手の傾向であろう。その他の遺物では、Ｐ２・４号、落ち込みなどの遺構内からチョウセンサザエを中心とした大量の貝が出土している。これは、Ｓ地区では遺構より上層のⅡ層下部で貝類・骨が出土していることと異なる状況と言える。ただ、骨はＳ地区と比べると少ない。

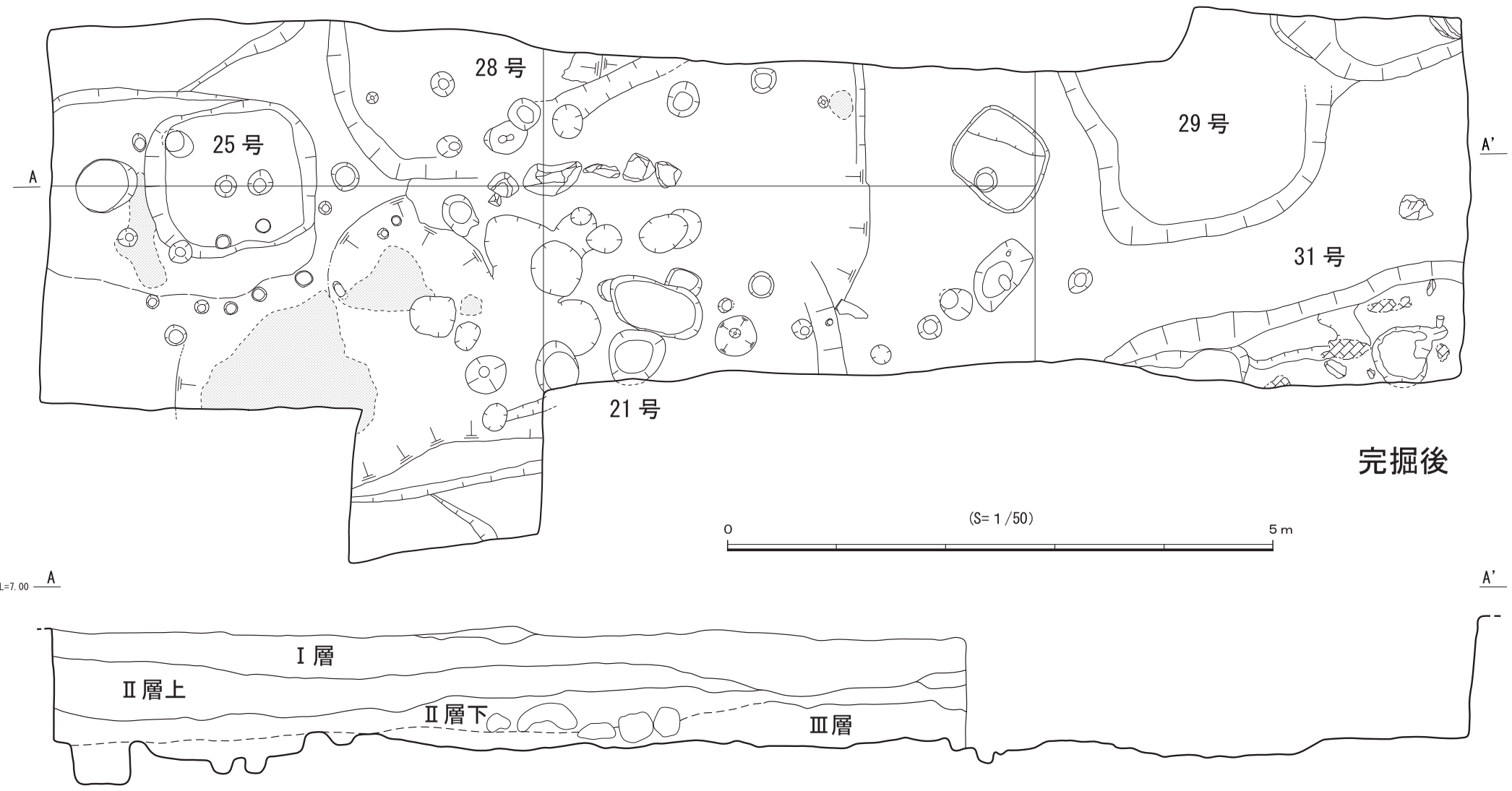
以下、主な遺構について、略述する。

Ｐ１号竪穴　全形は確認できていないが、推定で1.8×2.2ｍの略方形のプランである。深さは0.2～0.3ｍを測る。１ａ号としたものは、１号に切られているものだが、全形は不明である。

Ｐ２号遺構　１号よりも古い遺構であるが､検出時において認識していたよりも複雑なプランであったため、最終的には７つの遺構として捉えて枝番を付した。この遺構は、掘り進めて行くと、貝が集中する層が確認でき、２ａ号・２ｂ号はこの層を除去した後で検出された。２ｃ・ｅ号に貝が集中する。プランで見ると、２ａ号、２ｃ号が一辺約２ｍ程度の略方形のプランが切り合っていると捉えられる。この２号遺構全体には４つの１ｍ前後の焼土面が確認している。

Ｐ４号竪穴　東西2.2ｍ×南北2.0ｍの略方形プランで、深さは0.4ｍである。この南側は４’号とした浅





第13図　S地区平面・断面図

い長さ２ｍ以上の略長方形のプランを確認した。また、４Ａ号遺構は、推定だが1.5×1.0ｍの長方形の土坑で、ここからは多くのチョウセンサザエの身のみが出土した。後に掲載しているＰ地区のチョウセンサザエの大半（おそらく50～100個体）がここから出土していると思われる。

Ｐ５～７号竪穴　検出時は１つと考えていたが、最終的に３つの切り合いを確認した竪穴である。６・７号の一部は岩盤が露出している。７号竪穴は径1.5～1.8ｍのやや不整な方形で小さい。５・６号は２ｍを超える略長方形である。深さはどれも0.2～0.3ｍである。

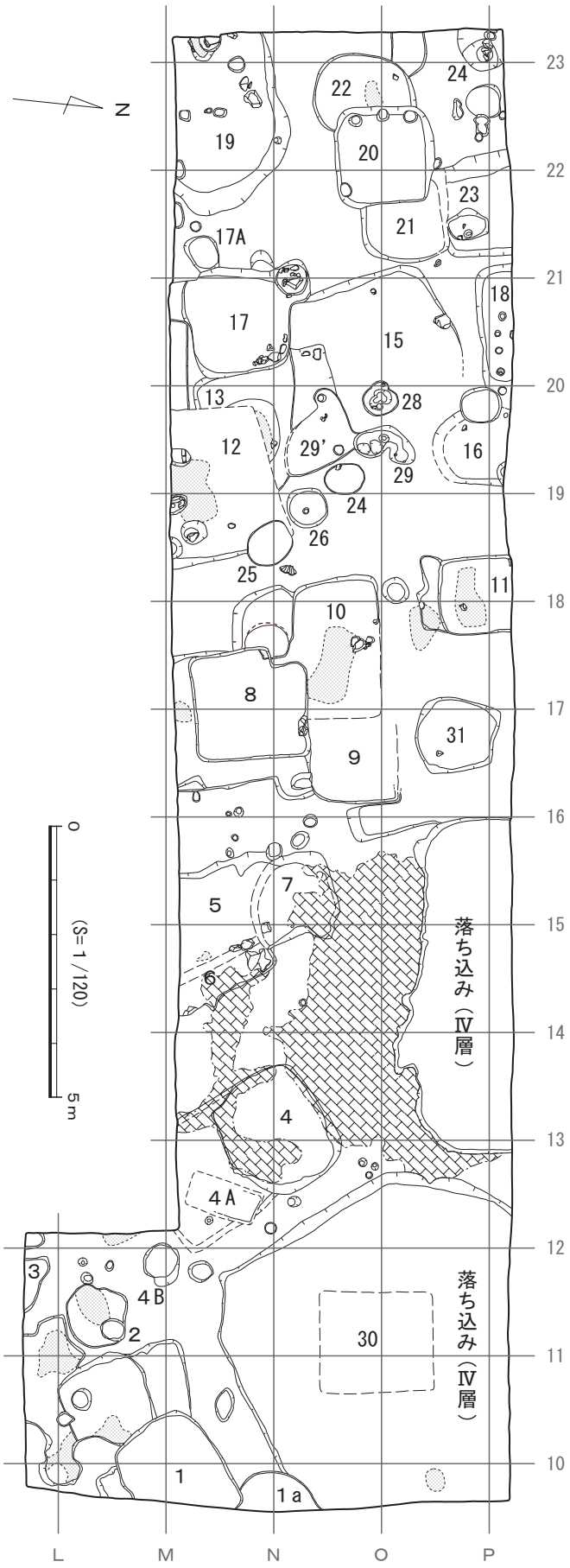
Ｐ８～10号竪穴　やはり当初は１つの大きな竪穴として認識していたが、明確なものは３つと把握している。８号竪穴は、一辺2.0ｍの略方形で、南西隅がやや突き出すプランである。深さは0.5ｍと深いタイプである。一方、９・10号は深さ0.1ｍと浅いこともあり、明確には全形を掴めなかったが、10号は約1.5×2.5ｍの長方形、９号は約1.8ｍの方形と推定される。10号竪穴には長さ1.5ｍに及ぶ焼土面がある。

Ｐ11号竪穴　トレンチ外のため、全形は確認できていないが、東西1.5ｍ、南北は２ｍ以上の略長方形のプランである。北側は長さ0.5ｍの斜面となっており、入口もしくは外部に広がる焼土面も見られるので焚口などの可能性もある。プラン内にも長さ1.2ｍの焼土面が見られる。

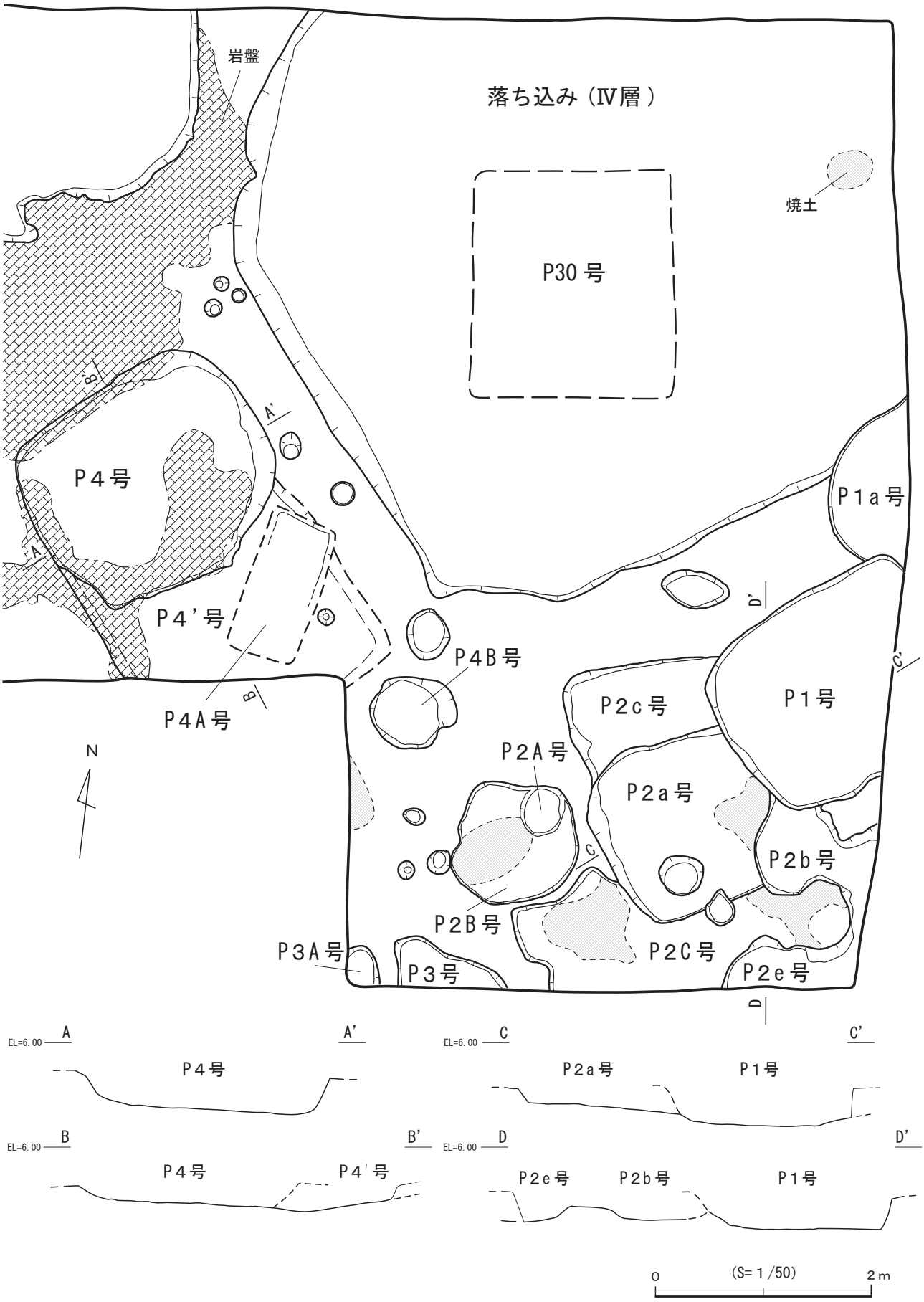
Ｐ12・13・15号竪穴、24～26・28・29号遺構　検出時には判別しにくく、深さも0.1～0.2ｍと総じて浅く、全形が明確にできなかった部分もある。Ｐ12・13・15号は検出部分の推定からすると、一辺3.0ｍとやや大きめのプランの切り合いだと考えられる。また、Ｐ12・13号には１ｍ前後の焼土面が中央に見られる。これらの竪穴よりすぐ北西側に、ほぼ同一の方向でＰ４～26・28・29号遺構とした径0.6～1.3ｍの円形、不定形の深さ0.1ｍ前後の土坑が見られる。Ｐ25号はＰ12号より新しいため、周辺の土坑も竪穴より後につくられた可能性もある。その裏づけとしてＰ28号は、Ⅱ群Ｂ２～４・Ｃ類が主体である。

Ｐ17号竪穴　2.0×2.0ｍの略方形のプランで、深さは0.6ｍと深い。北東コーナーに５個の人頭大の石灰岩礫が見られる。張り出した北西部には0.8ｍの円形の浅い落ち込み部分があり、数個の礫が見られる。先述したＰ13・15号よりも新しい。

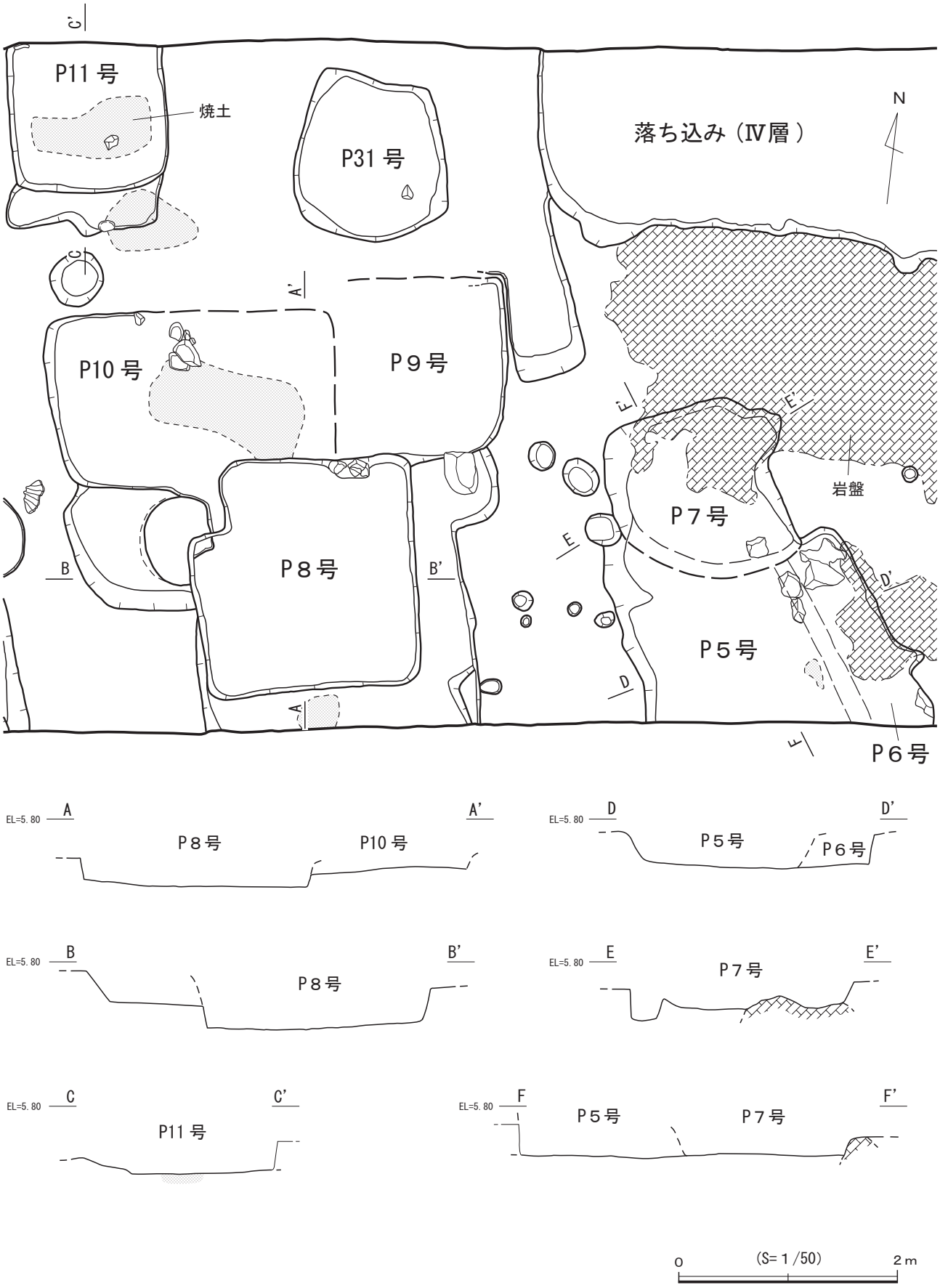
Ｐ17－Ａ号遺構　Ｐ17号竪穴の北西部には上面径0.6ｍ、下面径0.9ｍ、深さ0.7ｍの規模をもち、断面がオーバーハングするフラスコ形で、平面が円



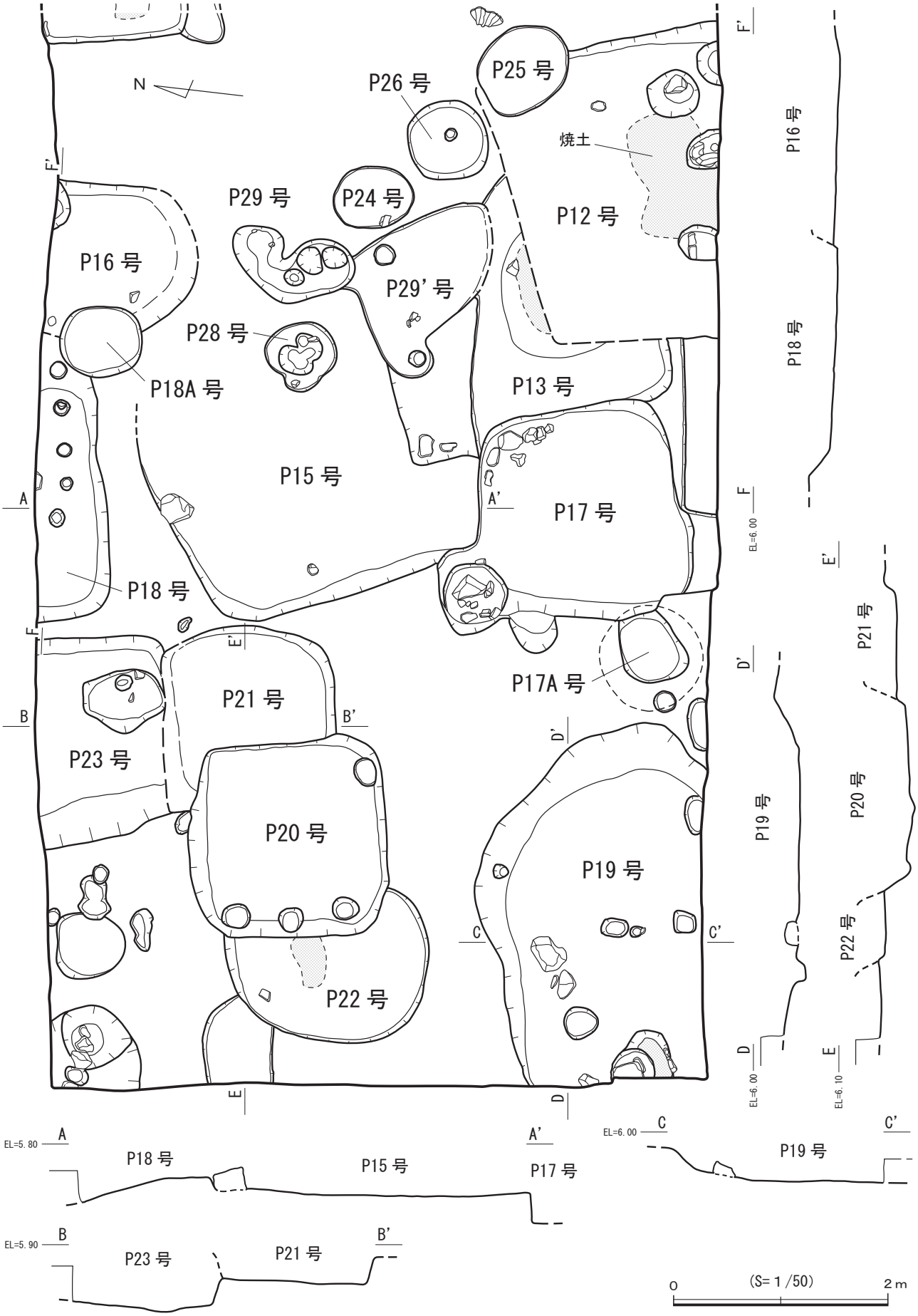
第14図　Ｐ地区全体図



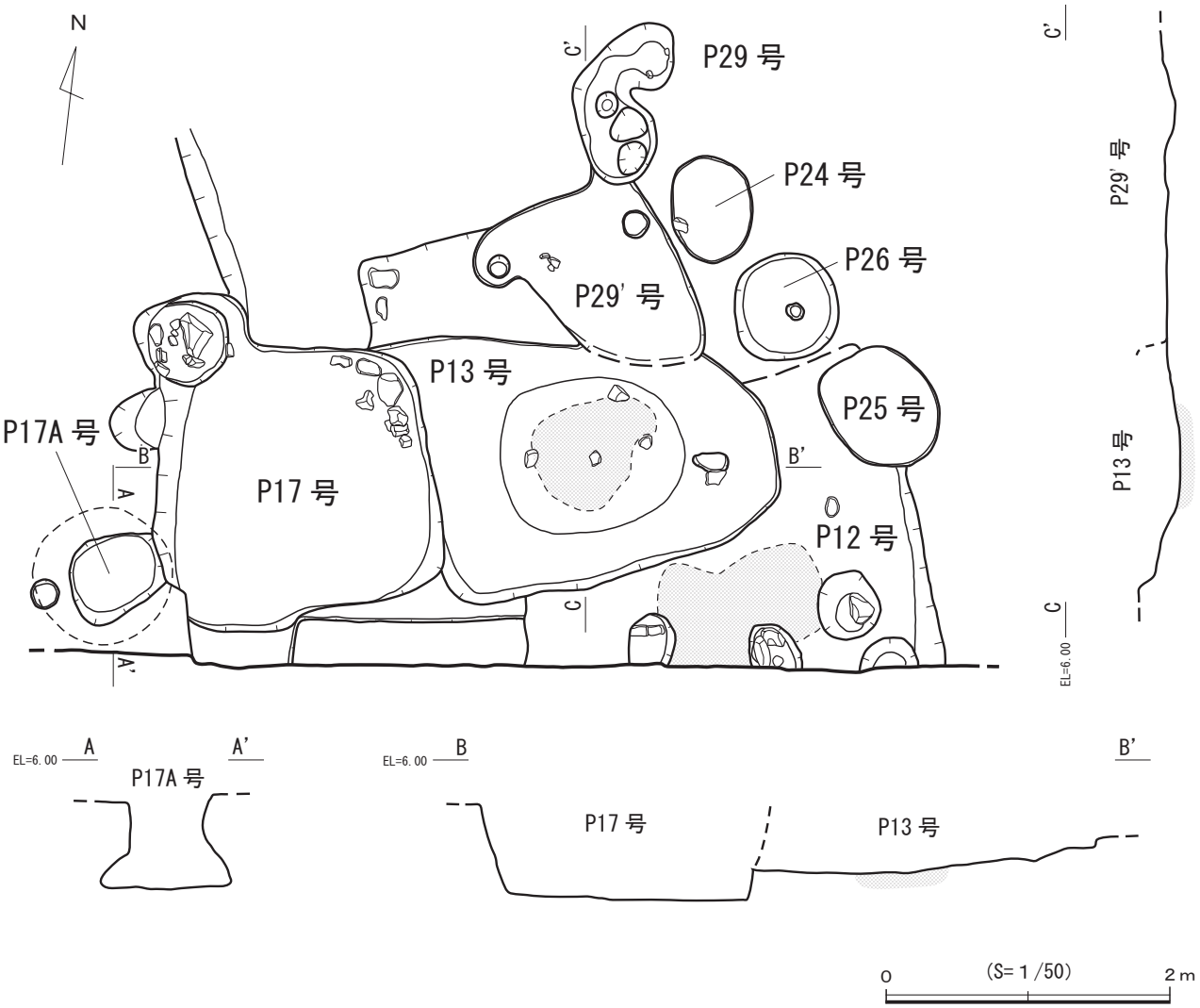
第15図　Ｐ地区東半平面・断面図



第16図　Ｐ地区中央平面・断面図



第17図　P地区西半面図・断面図



第18図　Ｐ地区13号竪穴完堀後

形の土坑を検出した。これは、通常貯蔵穴と言われるものに相当するか。微量の骨が出土するのみである。

Ｐ16・18号竪穴　両者ともプランは全て検出していないが、Ｐ18号竪穴は一辺2.7ｍを測り、深さは0.2ｍである。検出できた南側の床面には、５つの径0.2ｍ、深さ0.2ｍ前後のピットが確認できており、柱穴の可能性が高い。この南西部には径0.8ｍの円形の土坑であるＰ18Ａ号遺構が切っている。さらにＰ16号竪穴があるが、約２ｍのやや円形の竪穴であろうか。両者はⅠ群土器、Ⅱ群土器Ａ類が主体である。

Ｐ19号竪穴　全形は検出していないが、一辺約3.5ｍを超える大形で楕円形のプランで、深さは0.3ｍで床面は比較的平坦である。床面には焼土面、径20～30㎝のピットが見られる。

Ｐ20～23号竪穴　Ｐ23号→Ｐ21号及びＰ22号→Ｐ23号の順番で新旧が見られる竪穴である。Ｐ20号竪穴のみ全形を確認しており、一辺1.8ｍ前後の方形である。他のものもおそらく、Ｐ20号竪穴と同規模の可能性が高い。ただ、深さはＰ20・23号が0.4ｍ、Ｐ21・22号は0.2ｍと浅い。Ｐ22号は中央部に長さ１ｍの焼土面がある。また、Ｐ20号は当地区の竪穴で最も獣・魚骨が多かった。

Ｐ30号竪穴　先述したⅣ層が堆積する落ち込みを掘削中に一部分の壁の立ち上がりを確認した竪穴である。確認した壁部分から約２ｍ前後の方形プランが想定できる。検出状況からすると、落ち込みより新しいと考えているが、遺物からは明瞭に断定できない。

落ち込み　調査区北東部で検出された深さ20～30㎝の落ち込みである。全形を検出していないので、プランは不明だが10ｍ前後の規模となろうか。調査時は一つの落ち込みとして掘削したが、トレンチ際で肩部を確認したので、東側と西側で別の遺構と考えられる。土器、特に貝類が多く出土している。先述したが、竪穴30がこの上面で検出されているとされ、時期的に古いか。

第３節　　土器

１．分類

西長浜原遺跡出土土器は、現行編年前期半ば～中期、高宮暫定編年前Ⅳ期半ば～前Ⅴ期に相当もしくは準ずる土器群である。本報告では、本遺跡出土土器の特徴を表すために、以下の大別３群に分けた。

伊波・荻堂・大山式がⅠ群、カヤウチバンタ式・室川式・室川上層式・宇佐浜式がⅡ群、犬田布式・喜念Ⅰ式・宇宿上層式などの奄美系土器をⅢ群に相当もしくは準ずるものとして理解した。本遺跡においては、沖縄本島北部という地域性のためか、文様・胎土においてやや個性的なものが見られる。特にⅡ群土器においては、従来の室川・室川上層・宇佐浜式の概念では捉えにくい中間的なものが主体を占める。以下、分類基準、各地区・遺構ごとの出土土器の特徴について本文で説明し、詳細は観察表を参照していただきたい。

Ａ．Ⅰ群土器

Ⅰ群土器は従来の型式概念でいう伊波式・荻堂式・大山式等の沖縄貝塚時代前期前半（高宮暫定編年前Ⅳ期）を代表する土器群の範疇に入るものとする。これら以外のマイノリティーグループに属するもので、時期的に大差ないと考えられるものもⅠ群土器に含めた。

西長浜原遺跡から出土したⅠ群土器は小破片が多く、器形等の特徴を持って型式判断を行うのが困難であるが、時期的に後続すると考えられるⅡ群土器に比べ文様構成が多彩で、文様の観察による型式判定が比較的容易であることから、本稿における型式判断は、その文様構成に主眼を置くことにする。

本土器群の文様概念は基本的に伊藤慎二（伊藤2000）の研究に準ずるものとする。すなわち、口縁部から頸部にかけて施される文様区画を「横位区画文」、その横位区画文を縦断する「縦位区画文」、横位区画文直下、胴上部の文様区画を「第Ⅱ文様帯」とする。この区画概念を形成する文様要素に関しては、既に馴染みの呼称となっている高宮廣衛（高宮1980）の用いる呼称を採用したい（点刻、押引、刺突等）。但し、連点文は叉状工具による押引文と見なせるため、「押引」として一括する。また大山式に特徴的な文様である押捺刻文も刺突文の一種と見なせるため、「刺突」として一括したい。施文工具は叉状工具、半截竹管状工具、単篦工具、棒状工具の4種に分類した。叉状工具、半截竹管状工具による施文は2条を1組として1列とする。

本遺跡の伊波式土器は、横位区画内無文のものがほとんどを占め、網代状文や羽状文を配するものは僅かにみられるのみである。伊平屋村の久里原貝塚（伊平屋村教委1981）や伊是名村伊是名貝塚等、沖縄本島北部及びその周辺離島の遺跡でも同様な印象を受ける。本島北部及びその周辺離島の遺跡出土の伊波式土器には半截竹管状工具、単篦工具を用いた施文例が多い印象を受ける。荻堂式土器は、横位区画内に羽状文を施文するものは僅かで、鋸歯文を区画内及び第Ⅱ文様帯に配するものが多数を占める。大山式土器は凸帯を持つ資料が比較的多く見受けられる。伊平屋村久里原貝塚出土の大山式も、このタイプが多く見られる。

以上のように、伊波・荻堂・大山式の文様構成をより細かく見ていくと、他遺跡との差異を見出すことが出来る。これが時期差や地域差として捉えることが可能か、検討する余地があると思われる。

Ｂ．Ⅱ群土器

いわゆる肥厚口縁を有するもので、カヤウチバンタ式・室川式・室川上層式・宇佐浜式土器に相当もしくは準ずるものである。当遺跡の主体的な土器群であり、胎土・混入物においてもまとまったものであり、形態的にも一括りで捉えた方が、その位置づけも理解しやすいと考えた。

このⅡ群土器をその口縁形態と器形により大きくＡ～Ｃの３種類に分類した。その基準であるが、カヤウチバンタ式をＡ類、宇佐浜式をＣ類として、この２者の典型的なものから外れる室川・室川上層式に準ずるものをＢ類とした。さらにＢ類は、主に器形の違いをメインとして４つに細分した。

深鉢形

Ａ．口縁は外面がハブラシ状、又は断面が方形の肥厚帯を呈するもの。肥厚帯の幅が、口唇部の２倍以上のものと、その差がないものがある。器形は、胴部が直線的に伸びるものを主体とするが、やや胴が張るものも少量だがある。

Ｂ．口縁は外側に肥厚させることにより幅広い口唇を意識したもので、その形態は肥厚の違いにより多様である。下記のとおり、器形の違いから４つに細分される。ただ、この細分については口縁しか残存していない場合については、特定できないものもある。

１．口縁から直線的に伸び、胴部が張らないもの。胴部に稜を有するものや、胴部が大きくすぼまるな

ど、幾つかのバリエーションがある。口唇の肥厚は貼り付けによる明瞭で水平なものが多い。

２．口縁は外反するもので、胴部はわずかに張るもの。また、口径が大きく胴部はすぼまるもの(906など)もある。口唇の肥厚は外側の稜を意識し、肥厚も明瞭ではないものが多い。

３．口縁は直口するが、最大径が胴部にあるもの。口唇の肥厚は微弱なものが多いが、比較的水平に近い面をもつ。

４．口縁は外反させ頸部をつくり、Ｂ３類よりもさらに胴部が張り出すもの。口唇の肥厚は外側の稜を意識し、肥厚も明瞭ではないものがほとんどである。

Ｃ．口縁は外面の稜を意識したもので、舌状に下方へ伸びた断面三角形を呈するもの。器形は、胴があまり張らないものと、緩やかな頸部を有し胴が張るものがある。また、壷形に含まれるものも多い。

その他、直口する口縁部に貼付による小振りの把手を有するもの（1752）がある。

壷形

壷形としたものは、目安として口径５～10㎝程度のもので、胴部が深鉢よりも明瞭に張るものを考えた。深鉢形との対応であるが、Ｃ類と明確に相当するものもあるが、Ｂ類については対応するかどうか判別できないものが多い。そこで、ひとまず下記のように口縁が直口か、外反で大きく２つに分けた。

１．口縁は直口するものである。深鉢形分類では、Ⅰ群と対応するものが多く、口縁もその大半は肥厚しない。Ⅱ群と対応するものはＡ・Ｂ類に限られるようである。

２．口縁部は外反するものである。深鉢形分類では、Ⅱ群Ｃ類・Ⅲ群と対応するものが多く、Ⅰ群のものはない。口縁は肥厚するものが多いが、そうでないものもある。

調整・成形技法

Ⅱ群土器においては比較的大きな資料が多いため、調整・成形技法が明確に観察できるものが多く得られている。これらの資料から、肥厚口縁の成形方法においては大きく３種が考えられる。①口縁に粘土帯を外面から貼付させることによって肥厚させるもの。Ａ類やＣ類に多い。②粘土帯を積み重ねることによって肥厚させるもの。肥厚が明瞭なＢ類に多い。③横位ナデによって肥厚しているように成形するもの。Ｂ２類に多い。肥厚面や口唇部の成形には、篦状工具を使用していると思われるものも多く、中でもＡ類における肥厚下部の段はシャープであるため、ヘラ状工具の端部（木口）を当てて成形しており、横位の調整を施している。また、下端が幅５㎜前後の凹線状になっているものもある。

器面調整において特に外面は、比較的平滑であるため、主に篦状工具によるナデによって仕上げられていると考えられる。外面における調整は、底部から胴部にかけては概ね上方向、頸部から胴部にかけては下方向の斜位（または縦位）ハケが施され、頸部から口縁部は横位（または斜位）ハケが施される。内面における調整は、底部から頸部にかけては上方向の斜位（または縦位）ハケが施され、頸部から口縁部にかけては横位（または斜位）ハケが施される。また、底部において立ち上がり部に稜を残す資料は、内外面共に横位調整が行われていると思われる。ただ、内面は指頭圧痕や、粘土の繋ぎ目が残るものもあり、外面よりはややルーズな調整であったものと思われる。

頸部は強く外反するものも見られるが、これらの資料にも頸部外面に横位もしくは斜位方向のハケメが見られるものもある。この痕跡は、棒状工具あるいは丸味を帯びた工具が使用された可能性も考えられる。このようにハケメは部分的に残るものはかなり見られるが、器面全体まで及んでいるものは少ない。表面が欠落している可能性も高いが、密なナデにより消されているものと考えられる。また、このハケメの痕跡から、おおよそ1.5～2.0㎝の工具幅が想定でき、木目は５～８本が多い。

口唇は肥厚させることが第一の特徴で、逆Ｌ字状を基本として非常に多様な形態をもつ。ただ共通しているのは、口唇が水平であろうと丸みがあろうと、この部分においてナデが徹底していることである。また、口唇が非常にシャープで水平に仕上げられているものは、ヘラ状工具を使用しているものもあろう。ただ、特にＢ２～４類のような口縁を外反させたり、頸部をつくるものに関しては、その部分に指頭圧痕を強く残すものも多い。つまり、口縁の外反はユビナデで仕上げているのである。しかしながら、一見ルーズな印象を受ける土器群であるが、基本的な成形技法は統一されており、工具やナデによる器面調整によって丁寧に仕上げられているのである。

文様の特徴

Ⅱ群土器の文様であるが、圧倒的に無文のものが多い。有文については、Ⅱ群土器の文様は２大別される。

①　ヘラ状工具や棒状工具などを用いた押し引き文や押捺刻文を肥厚部もしくは口縁部に横位や横位＋縦

位に施文するもの（1545～1552など）。

② 口縁の肥厚帯も含めた突帯文やヘラ状工具による押し引き文や押捺刻文で区画をなし、その間に網代文や羽状文など配するものである（1569～1582など）。

これらの文様は、室川式の文様要素の範疇で捉えられる（沖縄国際大学1979）。文様の施された資料は、Ｐ地区において多く認められ、Ｓ地区、１次地区からの出土量は少ない。次にこの２つの文様要素と、Ⅱ群土器の分類案と混入物との関係性について触れていきたい。上記２つの文様の中では①の方が②よりも多かった。①はＢ１類との関係性が他よりも強く、６～７割がＢ１類を占めていた。また、混入物との関係性では（ア）との関係性がとても強いことがいえる。②は、Ｂ１類、Ｂ２類、Ｂ３類とほぼ同率の割合であるが、Ｂ３類との割合が高い点は注目される。混入物との関係性では①同様（ア）との関係性が強い。②の文様要素は、後述する犬田布式においても認められることから奄美諸島との関係性を考えさせられる文様である。また、室川式の標識遺跡に多く見られる口唇に刺突文や、点刻文などを施すものは1573・1574・1929などの数例に見られるだけで、非常に少ない。

Ａ類の有文資料は、肥厚部に施文するものがわずかに認められる（564、2019）が、無文が主体である。

Ｃ類の有文資料は、壷形では叉状工具による横位と縦位の区画文をなすもの（1135、1158）と、押し引き文などで区画を行い、斜沈線を配するもの（627）がある。また、深鉢形には叉状工具による横位の刺突文を配するもの（144・418・420・589・933）があり、比較的1次調査区に多い傾向を示し、特徴的である。

Ｃ．Ⅲ群土器

奄美系土器とされるもので、文様・器形などの特徴が似るもの、また混入物が金雲母を含む胎土（エ）のものを一括して捉えた。河口貞徳の型式概念（河口1974・1982・1988）により説明する。

犬田布式　徳之島犬田布貝塚出土資料を標識とするものである。面縄西洞式と喜念Ⅰ式の中間に位置を占めるものとされる。口縁部に２条の刻み目突帯を巡らせ、その間に平行沈線を鋸歯状に配すものとされる。当遺跡では、1441が胎土も金雲母を含む（エ）タイプで胴部上半に刻み目突帯をもち斜沈線を充填するので、当型式に近い。785・1587～1589は胎土が異なるが、口縁に連点文・刻み目突帯を２段有し、その間に斜沈線を施しており、この型式の強い影響を受けたものと言えよう。

喜念Ⅰ式　徳之島喜念貝塚出土資料を標識とするものである。みみずばれ状の細粒突帯を施すものが特徴である。器形は壷形（804・1162）が目立ち、深鉢形もあると思われるが確定できない。本遺跡で最も多く見られ、一方壷形（698）や頸部をもち胴部が張る深鉢形（2237）などは金雲母を含まない。

宇宿上層式　奄美大島宇宿貝塚出土資料を標識とするものでａ式とｂ式がある。本報告では、混入物（エ）、金雲母が多く入るものを基準とした。ａ式は、無文で口縁部の肥厚が強調されるもので、壷形（700）などが見られる。ｂ式は口縁の肥厚部に縦位の刻線を施すものであるが、明確なものは見つけられない。

Ｄ．混入物

胎土の分類は混入物についてのみ行い、主体的な鉱物を中心におおまかに分ける。Ⅱ群土器が分類対象であるが、Ⅲ群土器は在地での模倣も考えられるため、この分類を適用した。

（ア）．石灰岩が主体。Ⅱ群Ａ・Ｂ１類に多く、Ｐ地区の遺構出土のものに多く見られる。

（イ）．粘板岩もしくは千枚岩が主体。他と比べると、粒子が３～５㎜と非常に大きい。Ⅱ群土器の主体的な混入物で、特にＢ１～４・Ｃ類に多く、ごくわずかにⅢ群土器にも見られる。知場塚原遺跡、古宇利原Ａ・Ｂ遺跡・長根原遺跡などの沖縄本島北部地域に多く見られる。

（ウ）．石英が主体。やや硬質。Ⅱ群土器Ｃ類の一部に見られる。それほど量は多くない。

（エ）．粒子が１㎜以下の細かい砂礫が多く、金雲母を含む。Ⅲ群土器の多くに相当する。

（オ）．少ない。混入物が剥離して、いわゆるポーラス、器面がアバタ状になっているものも含む。Ⅱ群土器Ｂ・Ｃ類、Ⅲ群土器の一部に見られるが、量は多くない。

（カ）．その他

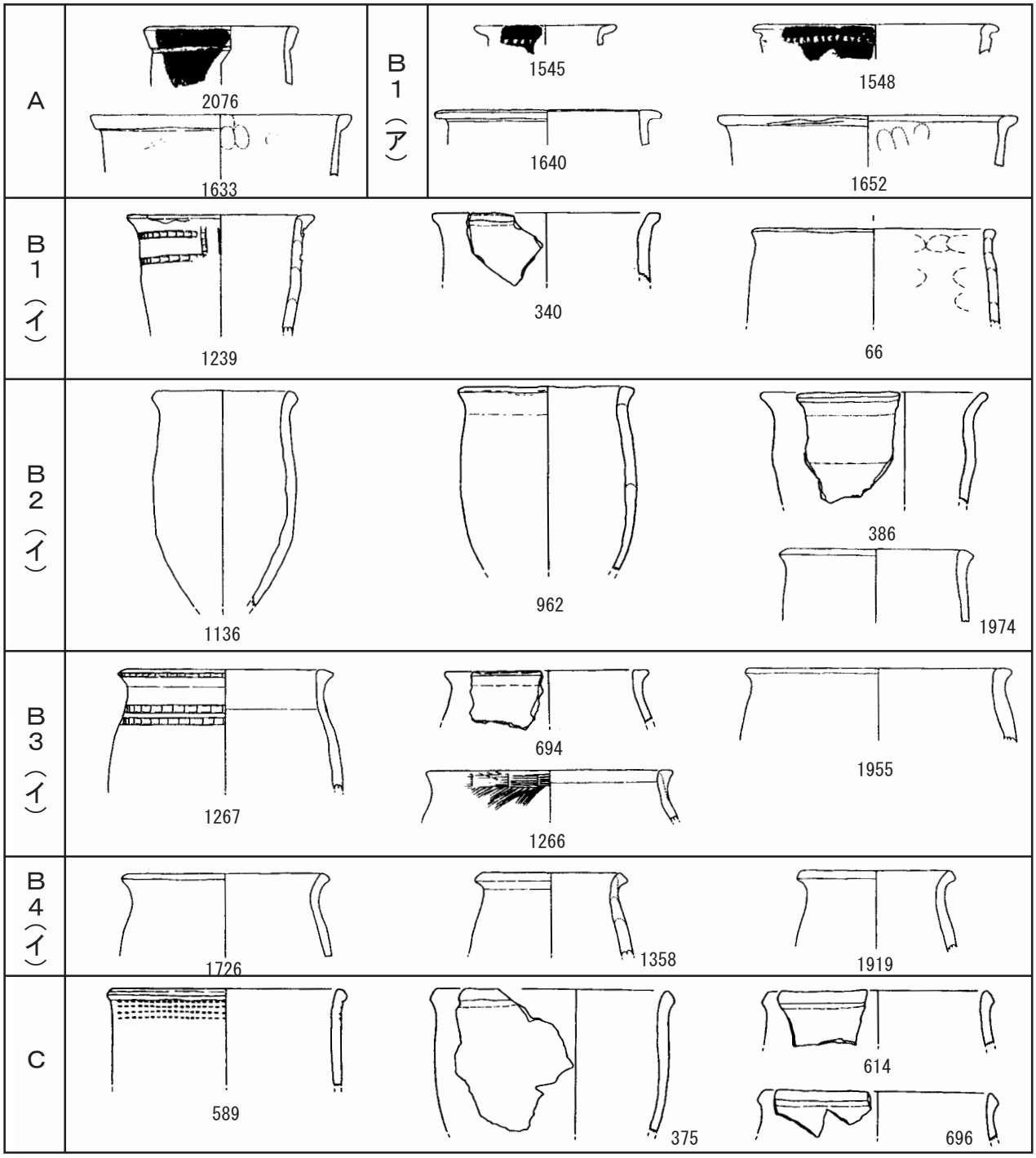
Ｅ．底部

底部は、本来各群において分類すべきであるが、全てが完形資料でもなく、断定しにくいものも多いため、Ⅰ～Ⅲ群を通して分類した。その中で、どの分類に該当もしくは多いかなどを記した。

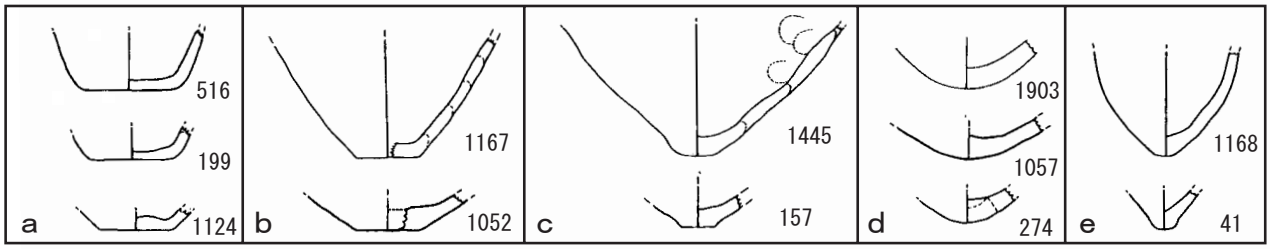
ａ．底径５～８㎝の平底のもの。多くは、Ⅰ群土器に相当すると思われるが、Ａ・Ｂ１類（ア）のものもあると思われる。

ｂ．底径３～５㎝の平底のもの。Ⅱ群Ｂ１・２類に多い。

Ⅱ群土器深鉢形分類



底部分類



第19図　Ⅱ群土器分類模式図

ｃ．底径２～３㎝で、底面に粘土を貼り付けて平底としたもの。そのため、わずかに底部がくびれる。Ⅱ群Ｂ２・３類に多い。

ｄ．接地面が丸く、胴部への立ち上がりが緩やかなもの。いわゆる丸底。Ⅱ群Ｂ３・４、Ｃ類が多い。

ｅ．接地面が尖り、胴部への立ち上がりが急なもの。いわゆる尖底。Ⅱ群の壷形もしくはＣ類が多い。

２．１次地区出土土器

１次地区出土土器は、量が膨大であったため、主に遺構出土のものについて行い、包含層出土のものは代表的なもののみとした。第１表は､時間の制約により実測点数における集計だが概ねの傾向を表していよう。

１号竪穴（１～６）　１号竪穴は保存のためプラン検出に留めたため、その実態を表しているとは限らない。Ⅰ群土器は３点で伊波・荻堂式に当たる。Ⅱ群土器はＢ１類、Ｃ類、底部ｃが各１点で、計３点である。

２号竪穴（７～43）　Ⅰ群土器は７点で伊波・荻堂式である。Ⅱ群土器は29点と主体を占め、Ｂ類14点、Ｃ類８点、壷形２点、底部５点である。また、混入物は（イ）が27点と多い。Ｃ類は断面形態が舌状に伸びる口縁だが、典型的な宇佐浜式に比べると肥厚は小さい。Ⅲ群土器と思われる底部は１点である。

３号竪穴（44～106）　Ⅰ群土器は口縁12点、底部４点、多くは荻堂式と思われる。Ⅱ群土器が口縁34点でＢ１類10点、Ｂ２類２点、Ｂ３類９点、Ｂ４類１点、Ｃ類５点、壷形７点である。混入物は１点を除き、（イ）タイプのみである。Ｂ１類では、62・63が明瞭で口唇が水平な肥厚を有する。89は縦位突帯をもちⅢ群の影響と考えられるが、横捺刻文もある。Ｃ類では、山形突起をもつ54があるが、肥厚は全体的に弱い。Ⅱ群土器と思われる底部が９点で、ｂ・ｃが主体である。Ⅲ群土器は、５点で全て喜念Ⅰ式である。

４号遺構（107～133）　４号遺構と５号遺構は本来一つの遺構の可能性がある。５号遺構に比べると、Ⅰ群土器が目立ち口縁10点を数え、伊波式と思われる類似した叉状斜沈線を施すものが７点ある。Ⅱ群土器は口縁10点で、Ｂ１類５点、Ｂ２類２点、Ｂ３類３点、Ｃ類１点、壷１点、底部３点である。混入物は（ウ）が１点のみで、他は（イ）である。Ⅲ群土器は、宇宿上層式が２点である。

５号遺構（134～163）　先述したが、５号遺構は４号遺構と同一の可能性がある。Ⅰ群土器は１点である。Ⅱ群土器は口縁18点で、Ｂ１類３点、Ｂ２類５点、Ｂ３類２点、Ｂ４類２点、Ｃ類３点、壷形３点で、全て混入物（イ）である。底部は９点でｃ・ｄが多く、混入物は１点が（オ）だが、他は（イ）である。

７号竪穴（164～274・1125・1135）　Ⅰ群土器は35点で、伊波式が9点、荻堂式が4点、伊波・荻堂式いずれかが8点、その他が４点、胴部・底部片が10点である。175は文様帯部が微弱に肥厚し、叉状工具による沈線が確認できる。神野Ｄ式土器の可能性もある。

Ⅱ群土器は73点で、Ｂ１類が25点、Ｂ２類及びＢ３類の可能性があるものが11点、Ｂ３類と断定できるもの18点、Ｂ４類が６点、Ｃ類が５点、壷形が２点、底部が６点である。1135はＣ類の壷形で、叉状工具による長沈線による縦横の区画を配しており、典型的な宇佐浜式に比べると舌状口縁ではなく、胴の張りも弱い。特徴としてＢ３類が多く、全体的にみても胴部に張りのある器形が優勢である。

８－１号竪穴（275～442）　Ⅰ群土器は65点で、伊波式が８点、荻堂式が25点、大山式が２点、伊波・荻堂式いずれかが11点、荻堂・大山式いずれかが３点、胴部・型式不明が４点、胴部・底部が11点である。量的には荻堂式が最も多く、伊波式、大山式と続く。297は文様帯の横位区画文を省略し、菱形文を施したもので、横位区画文上部を省略した伊波式か。

Ⅱ群土器は98点で、Ｂ１類35点、Ｂ２類15点、Ｂ３類18点、Ｂ４類４点、Ｃ類12点、壷形６点、底部８点である。混入物は（イ）８割、（ウ）１割と多い。Ⅲ群土器は喜念Ⅰ式６点、犬田布式１点である。

８－２号竪穴（443～542）　Ⅰ群土器は87点で主体となり、伊波式が20点、荻堂式が26点、大山式が３点、伊波・荻堂式いずれかが15点、荻堂・大山式いずれかが５点、その他が１点、底部が14点である。主体を占めるのは伊波式と荻堂式である。461は長沈線の鋸歯文のため伊波式とした。

Ⅱ群土器は13点で、Ａ類４点、Ｂ１類２点、Ｂ２類２点、Ｂ３類が３点、Ｃ類が２点得られている。Ⅰ類が主体の遺構であるので、Ｂ・Ｃ類は遺構が複雑に切られているための混入かもしれない。

８－３号竪穴（543～643）　Ⅰ群土器は伊波・荻堂式が19点である。Ⅱ群土器は79点で、Ａ類が１点、Ｂ１類が18点、Ｂ２類が18点、Ｂ３類が14点、Ｂ４類が１点、Ｃ類が14点、壷が４点、底部９点である。混入物は（イ）が８割、底部はｄ・ｅが多い。Ⅲ群土器は喜念Ⅰ式が２点、底部１点である。

９号竪穴(644～700)　Ⅰ群土器は21点で伊波･荻堂式が多い。Ⅱ群土器は31点で､Ｂ１類15点､Ｂ２類３点､Ｂ３類３点、Ｃ類６点、壷形１点、底部３点である。胎土は（イ）がやはり多い。Ⅲ群土器は喜念Ⅰ式が４点、宇宿上層式が２点である。698は喜念Ⅰ式の壷形であるが、みみずばれ状突帯はやや粗雑で、金雲母を

第１表　西長浜原遺跡　土器実測点数

	Ⅰ群					Ⅱ群 ア														Ⅱ群 イ												Ⅱ群 ウ・エ・オ・カ												Ⅲ群	総計
	伊波・荻堂	大山	その他	底部	小計	A	B1	B2	B3	B4	C	壷	底部a・b	底部c	底部d	底部e	その他	小計	A	B1	B2	B3	B4	C	壷	底部a・b	底部c	底部d	底部e	その他	小計	A	B1	B2	B3	B4	C	壷	底部a・b	底部c	底部d	底部e	その他	小計		
1号	3				3													0		1				1			1				3													0		6
2号	6			1	7		1		1									2		1	7	3	1	8	2	1	2	1	1		27													0	1	37
3号	12			3	15					1			1					2		9	2	9	1	5	7	3	3	1	1		41													0	5	63
4号	10				10													0		5	2	3		1	1	2					14								1					1	2	27
5号		1			1													0		3	5	2	2	3	3		2	6			26									1				1	1	29
7号	21		4	10	35		2		1				1					4		22	11	16	6	5	1		1	4			66		1		1			1						3	3	111
8－1号	44	7	2	11	64		5	2		1		1						9		24	9	18	3	10	5			2	6		77		6	4		2								12	7	169
8－2号	64	8	1	14	87													0	1	2	2	3									8	3				2								5		100
8－3号	19				19			5	4				1					10		17	13	8	1	9	2	1		4	3		58	1	1		2		5	2						11	3	101
9号	13	2	1	5	21													0		15	3	3		3		1		1			26						3	1			1		5	5	57
10号	2	3			5			1					1					2		4	2	3		3		1					13		1	1	2		1							5	2	27
12号	3		1		4						0					0					0																									4
13号		2	1		3		2											2													0													0		5
14号	10	13	4		27	5	18	7	9	8	1	2	1				5	56	1	10	8	21	3	3		1					47			3	1	1								5	10	145
15号	6	2			8	2	3	1										6		5	7	5		5			1				23													0	5	42
16号					0													0												1	1													0		1
17号			1		1						0					0					0																									1
18号	13	4	3		20	2	18	7	2			3		1				33		9	35	9	1	7	5		3	3		1	73		1	2				1						4	7	137
22～24号	2			1	3		1											1		3	6	2	1		1	2	2	1			18													0		22
26号	4		6		10													0													0													0		10
27号	9	9	6	6	30													0													0													0		30
Ⅱ・Ⅲ層	1			1	2	1	2											3			4	5	3	5	3	2	1				23						2						2		30
1次不明	3	1	1	1	6		1											1					2	1	2						5													0	2	14
Ⅰ次地区合計	245	52	31	53	381	10	53	23	17	10	1	6	5	1	0	0	5	131	2	130	116	110	24	69	32	14	16	23	11	2	549	4	10	10	6	1	15	5	1	1	1	0	0	54	53	1168
SⅡ層上	13	10	2		25	1	16	9	2	4		1						33		9	15	11	6			3	1				45		1	2	3	1								7	1	111
SⅡ層下・Ⅲ層	12	20	2	1	35	1	15	10	9	4	1	1		1	1			43	1	12	24	14	5	1	2	3	1	2			65		2	4	1	1	3			1				12	1	156
その他		5			5		2	3										5		2	6		1								9						2							2		21
S地区合計	25	35	4	1	65	2	33	22	11	8	1	2	0	1	1	0	0	81	1	23	45	25	12	1	2	6	2	2	0	0	119	0	3	6	4	2	5	0	0	1	0	0	0	21	2	288
P地区Ⅱ層	34	30	1	9	74	11	45	49	12	2	3	7	32	6	5			172	1	16	50	22	3	14	4	25	16	6		1	158	2		2	3	1	1	3		3				15	25	444
P地区Ⅳ層	5	3		2	10	5	1	12	5	2	2		5	5				37	1		20	9	3			4					37	1		2			1		1	1				6	15	105
P1号	6	5	1	4	16	7	10	2					2	2			1	24							1		1				2							1	1	1			3		45
P2号	7	3	1	2	13	5	4										1	10	1	1											2													0	1	26
P3号	1		1		2			1										1													0													0		3
P4号	3	1			4	3	7	4		1			1					16													0													0		20
P5号	1	4		2	7			3						1				4						0					0																	11
P8号	2				2	2	7	3	3				2	2			1	20					3			1					4													0	1	27
P9号	4	2	1		7	3	5	1					2	1	1		3	16		3	4	1	2				1	1			12													0	2	37
P10号	1				1	1	2	3	1			1	2					10													0													0		11
P11号				1	1								1					1													0													0		2
P12号	1		1		2	3		1					1					5		1	2		1			1					5													0	1	13
P13号	1	1			2			1										1													0													0		3
P15号	1				1						0					0					0																									1
P16号	2				2	1	1											2													0													0		4
P17号	2	5		2	9	4	2	1	3			1	1	1				13		5	3	3			2			1			14												1	1	5	42
P18号	1				1		1	2										3													0													0	1	5
P19号	4	3	1	1	9	1	6	2	2	2			2				1	16		3	1					1					5							1						1	1	32
P20号	4		1	1	6		5	5	5				1		2			18		1	1	1			1						4										1			1		29
P22号					0								1					1													0													0		1
P23号	1	3	1	3	8			2					1	1				4													0													0		12
P24号	1				1						0					0					0																									1
P28号	1				1		3	2	1					1				7			6	2	1	2		1	2	3	1		18		1											1		27
P30号	1				1										1			1		1		1	1					1			4													0	1	7
P地区合計	84	60	9	27	180	46	99	94	32	7	5	9	54	20	9	0	7	382	3	31	87	39	14	16	8	33	20	12	1	1	265	3	1	4	3	1	2	4	2	5	2	0	1	28	53	908
総計	354	147	44	81	626	58	185	139	60	25	7	17	59	22	10	0	12	594	6	184	248	174	50	86	42	53	38	37	12	3	933	7	14	20	13	4	22	9	3	7	3	0	1	103	108	2364

※各土器の分類で、観察表に並列して書かれている場合は、可能性が高いと思われる方を優先とした。また、壷形で深鉢形の分類も併記しているのは、この表では壷形に含めた。

含まない混入物（イ）であるため、模倣土器であろうか。700は山形口縁をもつ宇宿上層式である。
10号竪穴（701～727）　Ⅰ群土器は５点である。Ⅱ群土器は20点で、Ｂ１類が５点、Ｂ２類が４点、Ｂ３類が５点、Ｃ類が４点、底部２点である。Ⅲ群土器は２点である。
12号竪穴（728～732）　Ⅰ群土器が４点のみである。
13号竪穴（733～736）　Ⅰ群土器が３点、Ⅱ群Ｂ１類が２点である。
14号竪穴（737～881・1444）　Ⅰ群土器は27点で伊波・荻堂式が10点、大山式が13点、型式不明が４点である。大山式が大きな破片で目立ち、凸帯の上部に刻目または刺突を施す例が多い。739は頚部に２条の単篦による押引を施すため、大山式の壷形土器と考えられる。758は器形が大山式に近いが、やや肥厚する口縁や叉状連点文など、あまり例を見ない。

Ⅱ群土器は105点で主体を占める。Ｂ類が９割を占めるが、Ｂ１類～Ｂ４類の出土量に大きな差は認められない。Ⅱ群土器における有文資料は２割と他の遺構に比べると多く、Ｂ１類に目立つ。混入物は(ア)・(イ)が拮抗しており、Ⅱ群土器全体の約９割を占める。Ⅲ群土器も他遺構に比べるとやはり目立ち、比較的大きな資料が得られており、喜念Ⅰ式が主体を占める。
15号竪穴（882～920・922～924）　Ⅰ群土器が８点で、伊波・荻堂式が６点、大山式が２点を数える。Ⅱ群土器は口縁が28点で、Ａ類２点、Ｂ１類８点、Ｂ２類８点、Ｂ３類５点、Ｃ類５点である。混入物は（イ）が多いが、４点は（ア）である。底部は１点のみである。Ⅲ群土器は５点で、喜念Ⅰ式４点、宇宿上層式１点である。920はみみずはれ状突帯が細く、舌状の山形口縁をもつ頚部が直立する壷形で、通例の喜念Ⅰ式とは異なり、宇宿上層ｂ式に近い可能性もある。
16号竪穴（921）　Ⅱ群土器の胴部が１点である。
17号竪穴（925）　Ⅰ群土器の小形深鉢の胴部１点である。
18号竪穴（926～1062）Ⅱ群土器が主体で、Ⅰ群・Ⅲ群は少数である。Ⅰ群土器は20点で伊波・荻堂式が多い。Ⅱ群土器は110点で、Ａ類２点、Ｂ１類28点、Ｂ２類44点、Ｂ３類11点、Ｂ４類１点、Ｃ類７点、壷形９点、底部７点、その他１点である。混入物は（イ）タイプが７割と多いが、(ア）も３割近くある。Ｂ２類が多く、962は胴部下半まで窺える資料で胴がわずかに張り、底部は狭い平底（1055・1059・1061）の可能性が高い。壷形も比較的多く、稜を意識する肥厚で、明瞭な舌状なものは少ない。
22～24号遺構（1063～1084）　22・23・24号は切り合っており、量も少ないのでここではまとめる。Ⅰ群土器は３点である。Ⅱ群土器は、Ｂ１類４点、Ｂ２類６点、Ｂ３類２点、Ｂ４類１点、壷形１点、底部５点である。Ｂ２類が多い。
26号遺構（1085～1092）　1085から1092と1116、1117がⅠ群土器である。内訳は荻堂式が２点、伊波・荻堂式いずれかと考えられるものが２点、貝塚前期の土器と考えられるものが１点、貝塚前期土器の胴部が５点である。伊波・大山式と明確に判断できる資料は１点も見受けられない。
27号竪穴（1093～1124）　1093から1124までがⅠ群土器である。内訳は荻堂式が７点、大山式が３点、伊波、荻堂式いずれかと考えられるものが１点、荻堂・大山式いずれかと考えられるものが４点、その他不明土器が５点、底部が６点、土製品が１点である。荻堂式は叉状・半截竹管状・単篦工具による押引が見られ、区画内文様は羽状文（1106）が確認できる。大山式の文様要素は単篦工具による押引が主流をなす。1118はもともと底部片であったと考えられるが円形に加工されている。用途は不明。
Ⅱ・Ⅲ層・出土地不明（1126～1134・1136～1168）　実測が可能な特徴的な破片のみを掲載した。

Ⅰ群土器には、頚部は非常に短く下膨れの胴部をもつ荻堂式の壷形（1157）や、押引き文による横位区画をつくる伊波式の深鉢形（1163）など、良好な資料がある。

Ⅱ群土器にも、器形・特徴を良く表す資料が見られ、特にＣ類が良好である。1136は、口径が11.2㎝、器高が推定23㎝と口が小さく胴が細長くわずかに張るＢ２類の器形を良く表す。Ｂ４類としては、明瞭に屈曲する頚部をもちおそらく球形の胴部をなす器形が1156・1159などに良好に窺える。また、1157は頚部に刻み目突帯を上下に配し、その間に斜沈線を施しており、犬田布式や喜念Ⅰ式の影響を強く窺える。

Ｃ類の壷形としたものでは、口縁が山形状だが突起部が３つ以下で注口の可能性もあるもの（1138）や、頚部に叉状点刻文による縦横の区画を配するもの（1158）などがある。両者に共通しているのは、典型的な宇佐浜式に比べると口縁の舌状肥厚が弱いことである。

３．Ｓ地区出土土器（1169～1443・1445～1456）

Ｓ地区は、先述したように、Ⅱ～Ⅲ層に多くの土器が骨・貝・礫と混じって出土した。最終的に掘削したときには、遺構としての掘り込みが確認できたが、掘削中には必ずしも認識できなかったところもある。また、遺構番号や小グリッドの不明もあったため、本報告ではＳ地区全体として捉え、遺構・小グリッドごとには還元できなかった。ただ、個々のナンバリングは、調査時点のものである。

Ⅰ群土器は65点で、伊波・荻堂式が25点、荻堂・大山式が35点、底部が１点、その他が４点である。量的には大山式・荻堂式が主体を占める。伊波式の文様要素は単篦工具による押引と短沈線が見られ、区画内は空白が主体を占める。荻堂式の文様要素は叉状工具による押引が主体を占め、僅かに単篦工具使用による押引が見受けられる。区画内及び第Ⅱ文様帯は鋸歯文で構成される。大山式の文様要素は単篦による刺突より押引が主体を占める。凸帯を横位に巡らせ、その上部に単篦工具による刺突を施すものも比較的多く見られるのは、近接する1次地区14号竪穴などと共通する特徴である。

Ⅱ群土器は221点で、当地区の主体で、中でもＢ類が約９割を占める。特にＢ１類・Ｂ２類が多く、次いでＢ３類と続く。当地区におけるⅡ群土器の有文資料は１割である。混入物は（イ）が多く、Ⅱ群土器の約５割を占める。また、（ア）も約４割を占めるため、当群土器の胎土は（ア）・（イ）に集約される。良好な資料としては、押引き文による縦横区画をつくるＢ１類（イ）タイプ（1239）や、横位の押引き文を複数配するＢ３類（1267）などがある。

Ⅲ群土器は２点しかなく、犬田布式と思われる緩やかな頸部に斜沈線を配し胴部上半に刻み目突帯を施すもの（1441）がある。

４．Ｐ地区出土土器

Ｐ地区出土土器は、１次地区やＳ地区よりもⅡ群土器で見ると、Ａ類・Ｂ１類が多く、混入物では（ア）タイプが多い。また、Ⅰ群土器では大山式が目立つ。

Ⅱ層（1457～1903）　Ⅰ群土器は74点で伊波式が９点、荻堂式が19点、大山式が26点、伊波・荻堂式いずれかが６点、荻堂・大山式いずれかが４点、その他が１点、底部９点である。量的には大山・荻堂式が主体を占める。伊波式の文様要素は叉状工具による押引が主体を占め、典型的な点刻は１例のみである。区画内文様は空白が主体を占め、横位区画文を構成する文様要素の条数は１条がほとんどである。荻堂式の文様要素は叉状工具による押引が主体を占め、区画内および第Ⅱ文様帯は鋸歯文が主体を占める。無文の荻堂式もわずかに認められ、口径は10cm前後と若干小形である。大山式の文様要素は単篦および半截竹管状工具による押引が主体を占める。1496は刺突と沈線を組み合わせ、横位区画文を構成している。

Ⅱ群土器は344点で、Ｂ類が圧倒的に多い。Ａ類は従来のカヤウチバンタ式に相当する資料が得られており（1626～1634）、いずれも無文の資料である。Ｂ１類では、断面逆Ｌ字形の口縁やそれに近似する幅広の口唇をもつ資料に関しては、有文のもの（1545～1552）も一定量見られ、混入物としては（ア）の割合が高い。Ｂ２類については、口縁は緩やかに外反して胴部があまり張らない資料（1636～1638）と、口縁を大きく屈曲させる資料があり（1696、1698など）、前者の割合が高い。混入物は（ア）・（イ）がほぼ半々の状況を示している。Ｂ３類も比較的多く（1764～1768など）、肥厚は全体的に微弱である。この中には有文資料も多く認められ（1570～1575など）、これらは従来の室川式の範疇に含まれる。Ｂ４類は少なく（1724～1727など）、微弱な肥厚を呈するものである。壷形は多くなく、壷１が多く（1537～1541など）、壷２は少ない（1716）。底部はｂが圧倒的に多く、ｃがこれにつづく。

Ⅲ群土器に関しては、喜念Ⅰ式の文様要素をもつ資料が多く認められた（1606～1619など）他、羽状文を密に配した1592の資料が認められる。金雲母を含んでいる。

Ⅳ層（1904～2005）　主に調査区東側で見られた落ち込み部分である。Ⅱ層の下位ではあるが、明瞭な時期差は捉えにくい。また、層位的には遺構と同レベルと思われる。

Ⅰ群土器は10点と少ない。Ⅱ群土器は80点で、Ａ類７点、Ｂ１類１点、Ｂ２類34点、Ｂ３類14点、Ｂ４類５点、Ｃ類３点、底部16点である。Ｂ２類が多い。Ⅲ群土器は15点で、喜念Ⅰ式が多い。1987は破片に５㎜の小孔を穿孔している。

Ｐ１号竪穴（2006～2050）　Ⅰ群土器は16点で、伊波・荻堂式が６点、大山式が５点、不明が１点、底部が４点である。Ⅱ群土器は29点で、Ａ類７点、Ｂ１類10点、Ｂ２類２点、壷形１点、底部８点である。Ｂ１類は口縁帯などに、横捺刻文が多く見られる。混入物は（ア）が多い。このように、Ⅱ群土器でもＡ類・Ｂ１類が主体で、古相の状況と言えよう。

Ｐ２号竪穴（2062～2087）　遺構の項で先述したように、竪穴と考えられるＰ２号とその周辺の小土坑を

含めて土器群を理解する。Ⅰ群土器は13点で、伊波・荻堂７点、大山３点、その他１点、底部２点である。Ⅱ群土器は12点で、Ａ類６点、Ｂ１類５点、その他１点である。混入物は（ア）が大半でやはりＰ１号の様相に近い。Ｂ１類は有文である。Ⅲ群は、喜念Ⅰ式１点である。

Ｐ３号遺構（2088～2090）　Ⅰ群土器２点、Ⅱ群土器１点であるが、少数のため詳細は不明である。

Ｐ４号竪穴（2091～2110）　Ⅰ群は４点である。Ⅱ群土器は16点で、Ａ類３点、Ｂ１類７点、Ｂ２類４点、Ｂ４類１点、底部ｂ１点、全て混入物（ア）である。やはり、１・２号と様相は近いが、有文は少ない。

Ｐ５号竪穴（2051～2061）　Ⅰ群土器は７点で、荻堂１点、大山４点、底部は２点である。Ⅱ群土器はＢ２類３点、底部１点で、全て混入物（ア）である。

Ｐ８号竪穴（2111～2137）　Ⅰ群土器は２点と少ない。Ⅱ群土器は24点で、Ａ類２点、Ｂ１類７点、Ｂ２類３点、Ｂ３類３点、Ｂ４類３点、その他１点、底部５点である。混入物はやはり（ア）が多い。Ⅲ群土器は喜念Ⅰ式１点である。これまでのⅡ群Ａ・Ｂ１類が主体の遺構と比べると、肥厚の貼付はやや弱いか。

Ｐ９号竪穴（2138～2174）　Ⅰ群土器は７点で、伊波・荻堂４点、大山２点、不明１点である。Ⅱ群土器は28点で、Ａ類３点、Ｂ１類８点、Ｂ２類５点、Ｂ３類１点、Ｂ４類２点、底部６点、有文胴部３点である。混入物は（ア）と（イ）が半々の割合である。底部はｂ・ｃが多い。

Ｐ10号竪穴（2175～2185）　Ⅰ群土器は１点である。Ⅱ群土器は10点で、Ａ類１点、Ｂ１類２点、Ｂ２類３点、Ｂ３類１点、底部３点で、全て混入物（ア）が占める。2177は方形肥厚口縁で下膨れの胴部をもつ壷形である。

Ｐ11号竪穴（2186・2187）　底部は2点で、混入物（ア）タイプである。

Ｐ12号竪穴（2188～2200）　Ⅰ群土器は２点である。Ⅱ群土器は10点で、Ａ類３点、Ｂ１類１点、Ｂ２類３点、Ｂ４類１点、底部ｂ２点となる。混入物は（ア）と（イ）がほぼ同数である。Ⅲ群土器は喜念Ⅰ式が１点である。

Ｐ13号竪穴（2201～2203）　Ⅰ群土器は２点で、Ⅱ群土器は１点である。

Ｐ15号竪穴（2204）　Ⅰ群土器は１点である。

Ｐ16号竪穴（2205～2207）　Ⅰ群土器は２点である。Ⅱ群土器は２点で、Ａ類とＢ１類が各１点である。

Ｐ17号竪穴（2209～2250）　Ⅰ群土器は９点で、大山式が目立つ。Ⅱ群土器は28点で、混入物は（ア）と（イ）がほぼ同数である。2237は頸部をもつ深鉢形で、みみずばれ状突帯で縦横に区画する喜念Ⅰ式であるが、混入物は金雲母を含まない。

Ｐ18号竪穴（2208・2251～2255）　Ⅰ群土器は１点である。Ⅱ群土器はＢ１類１点、Ｂ２類２点である。Ⅲ群土器は、喜念Ⅰ式１点である。

Ｐ19号竪穴（2256～2289）　Ⅰ群土器は９点で、伊波・荻堂式がやや多いが、大山式は2261のように大きな破片が見られる。Ⅱ群土器は21点で、Ｂ１類が９点と多い。

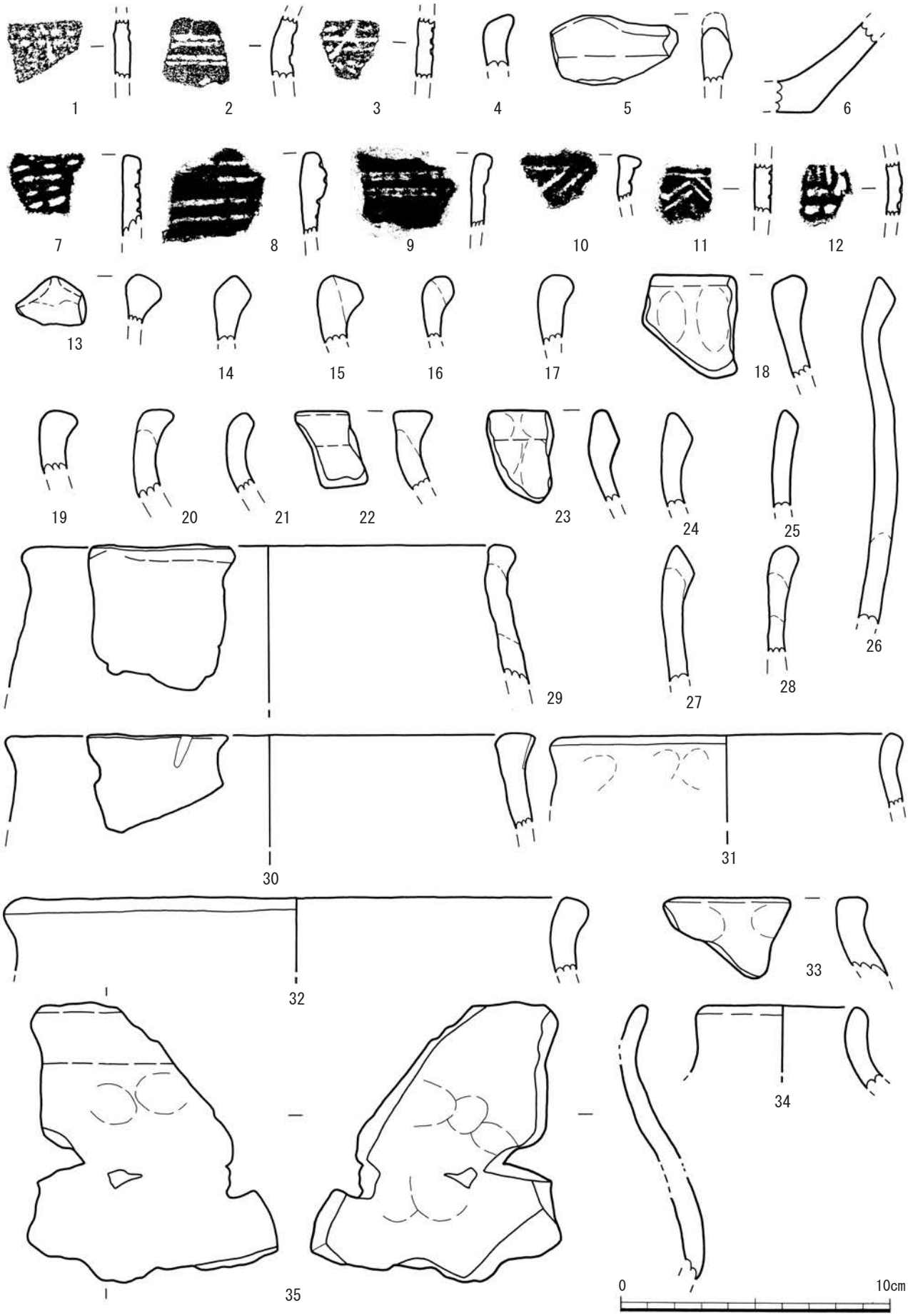
Ｐ20号竪穴（2290～2316）　Ⅰ群土器は６点である。Ⅱ群土器は23点、Ｂ１類、Ｂ２類、Ｂ３類がほぼ同数である。やはり混入物は（ア）が多い。

Ｐ23号竪穴（2317～2326）　Ⅰ群土器は８点で、口径の小さい短い頸部をもつ壷形（2321）も見られる。

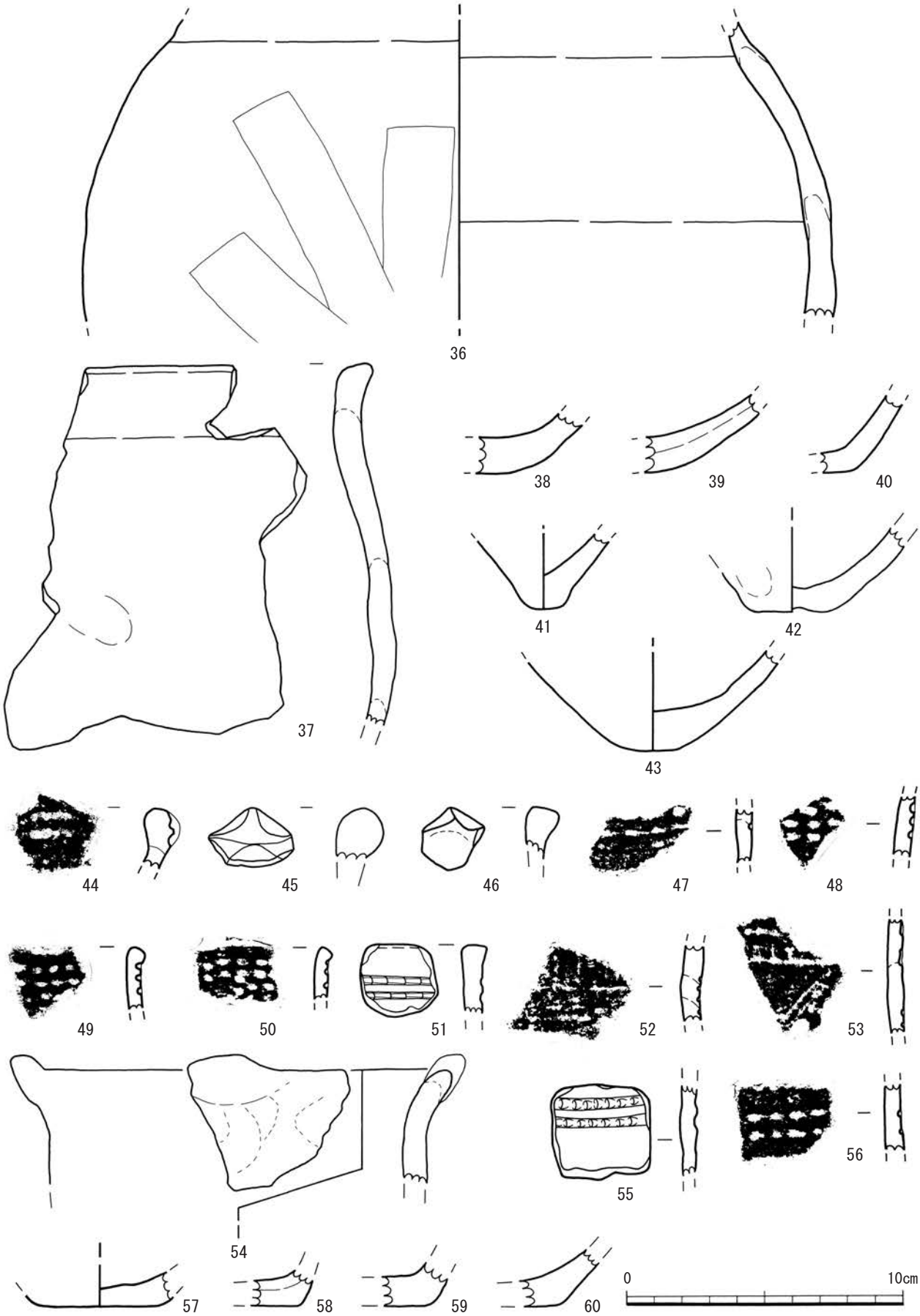
Ｐ24号竪穴（2330）　Ⅰ群土器は１点である。

Ｐ28号竪穴（2231～2342・2345～2364）　Ⅰ群土器は１点である。Ⅱ群土器は26点で、混入物（イ）が多く、Ｂ２類が目立つ。

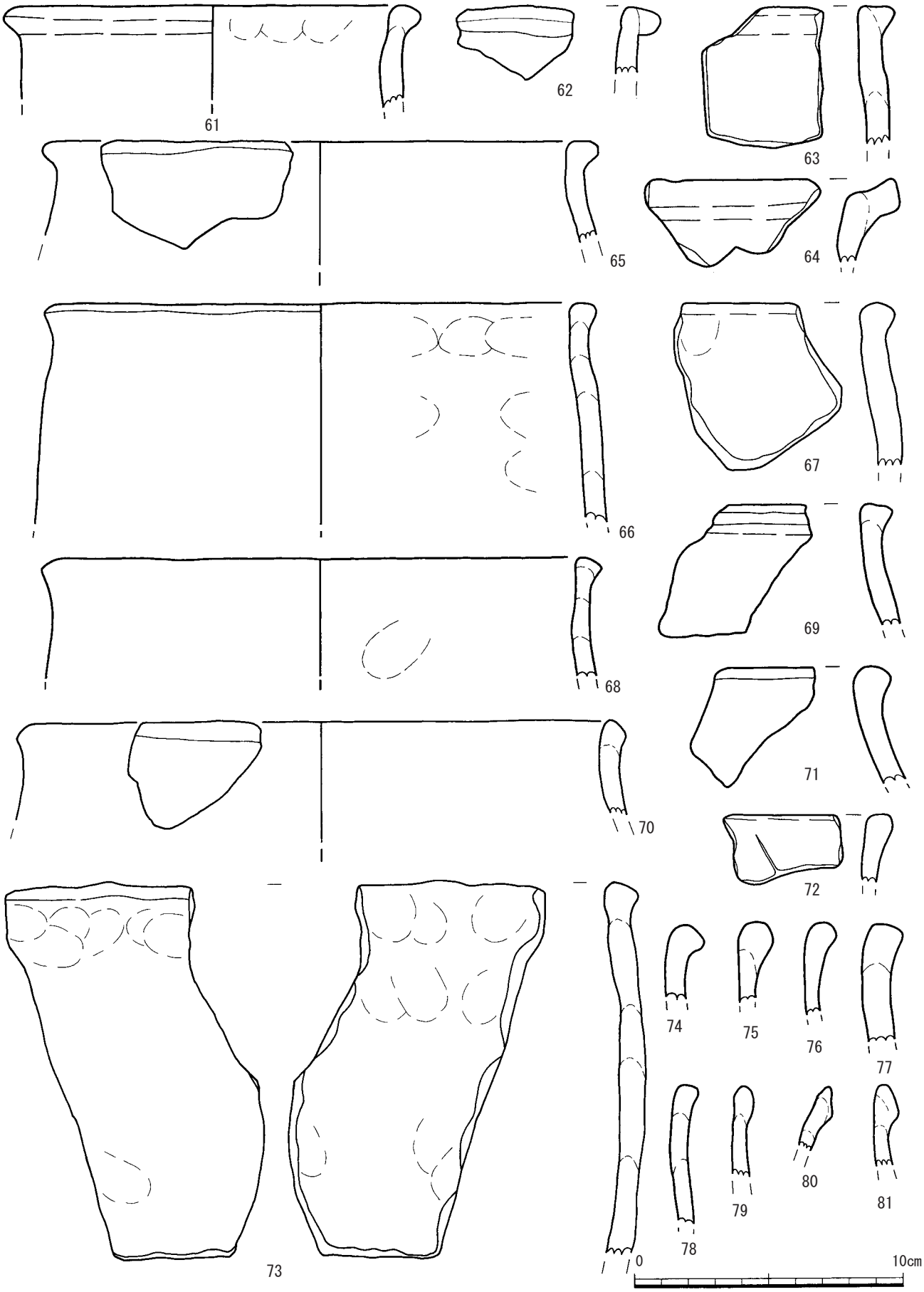
Ｐ30号竪穴（2343・2344・2350・2359～2364）　Ⅰ群土器は１点、Ⅱ群土器は５点、Ⅲ群土器は１点である。



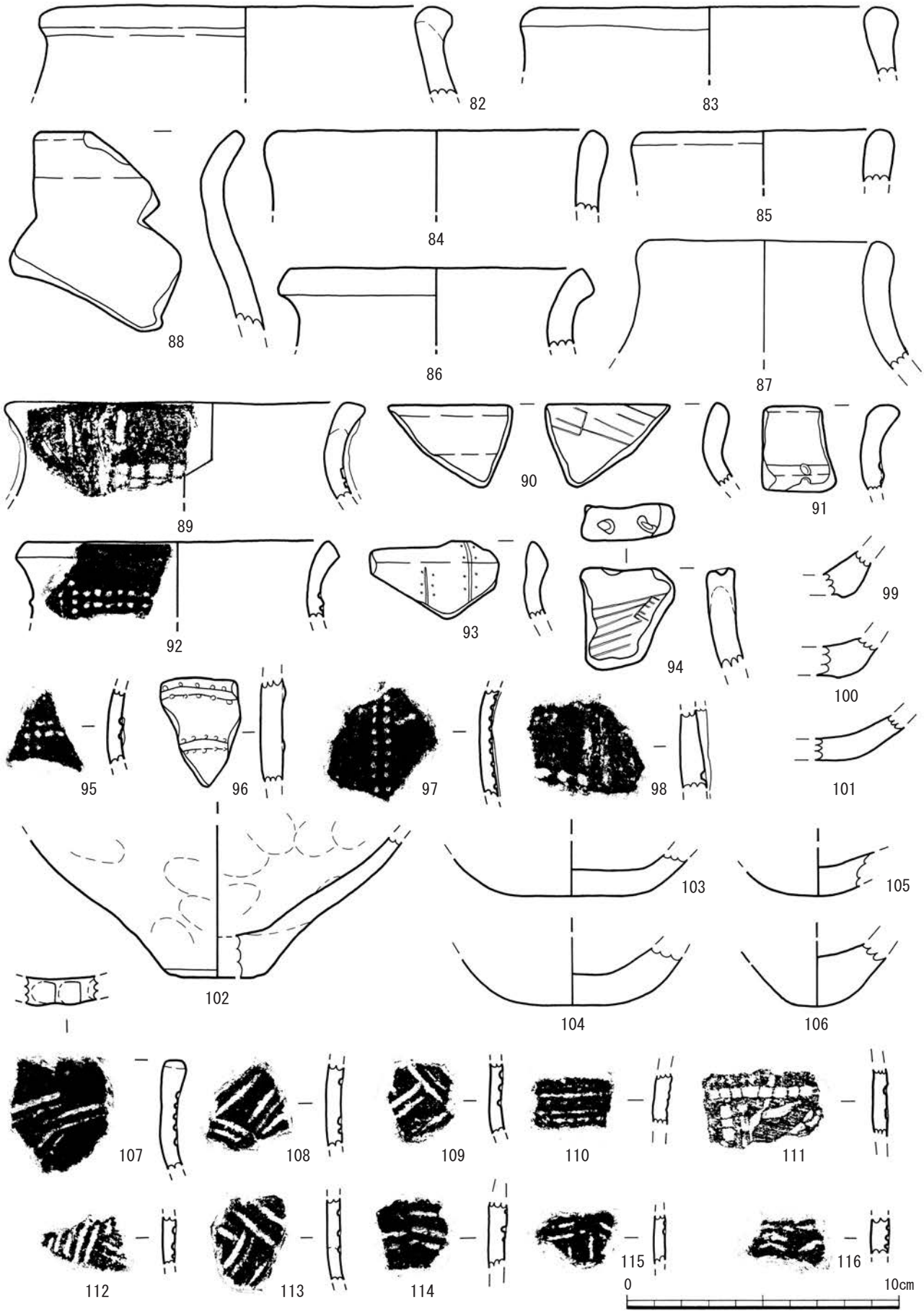
第20図　１次地区出土土器（１）１号(1～6)、２号(7～35)



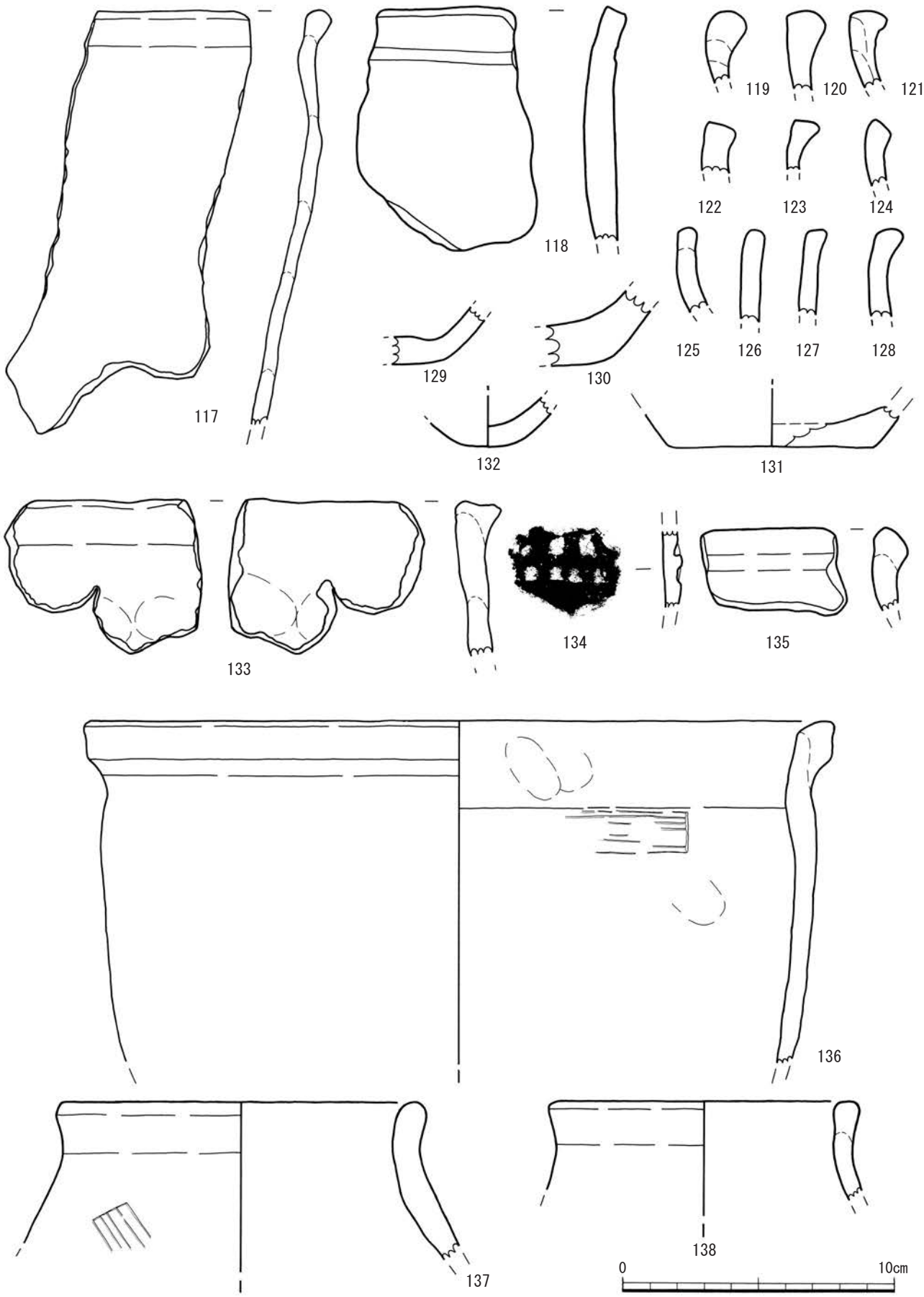
第21図　１次地区出土土器（２）２号(36～43)、３号①(44～60)



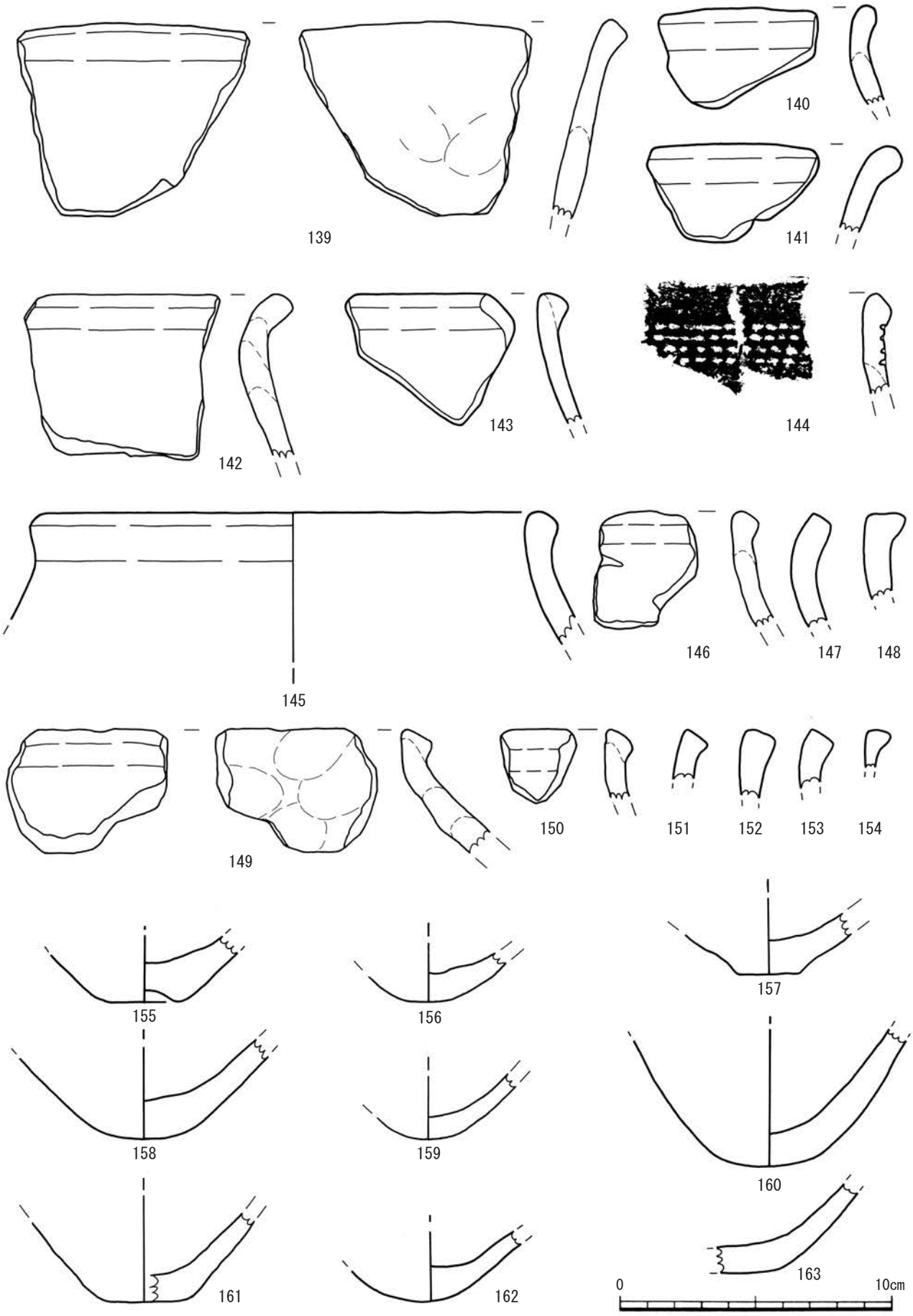
第22図　１次地区出土土器（３）３号②



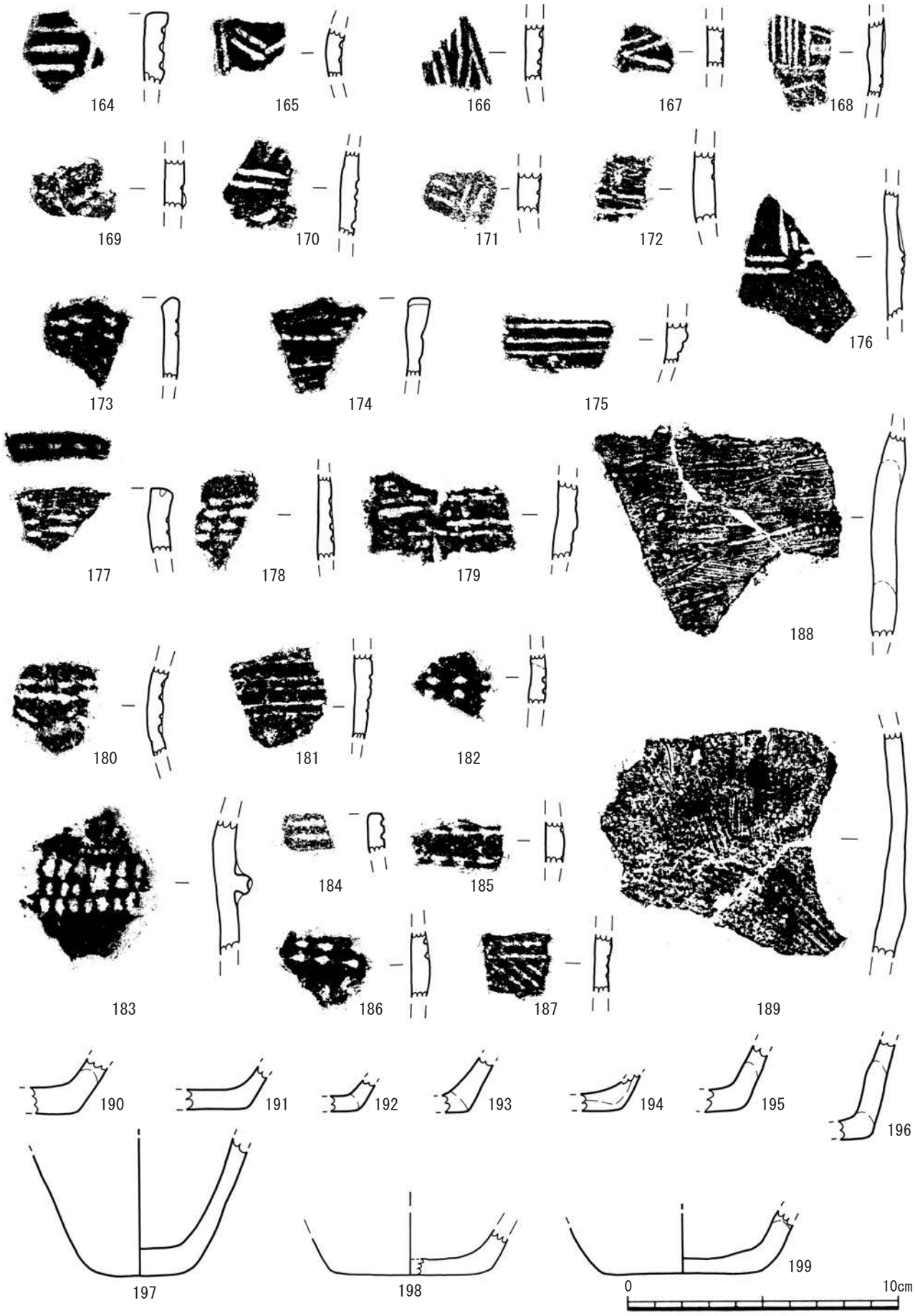
第23図　１次地区出土土器（４）３号③(82～106)、４号①(107～116)



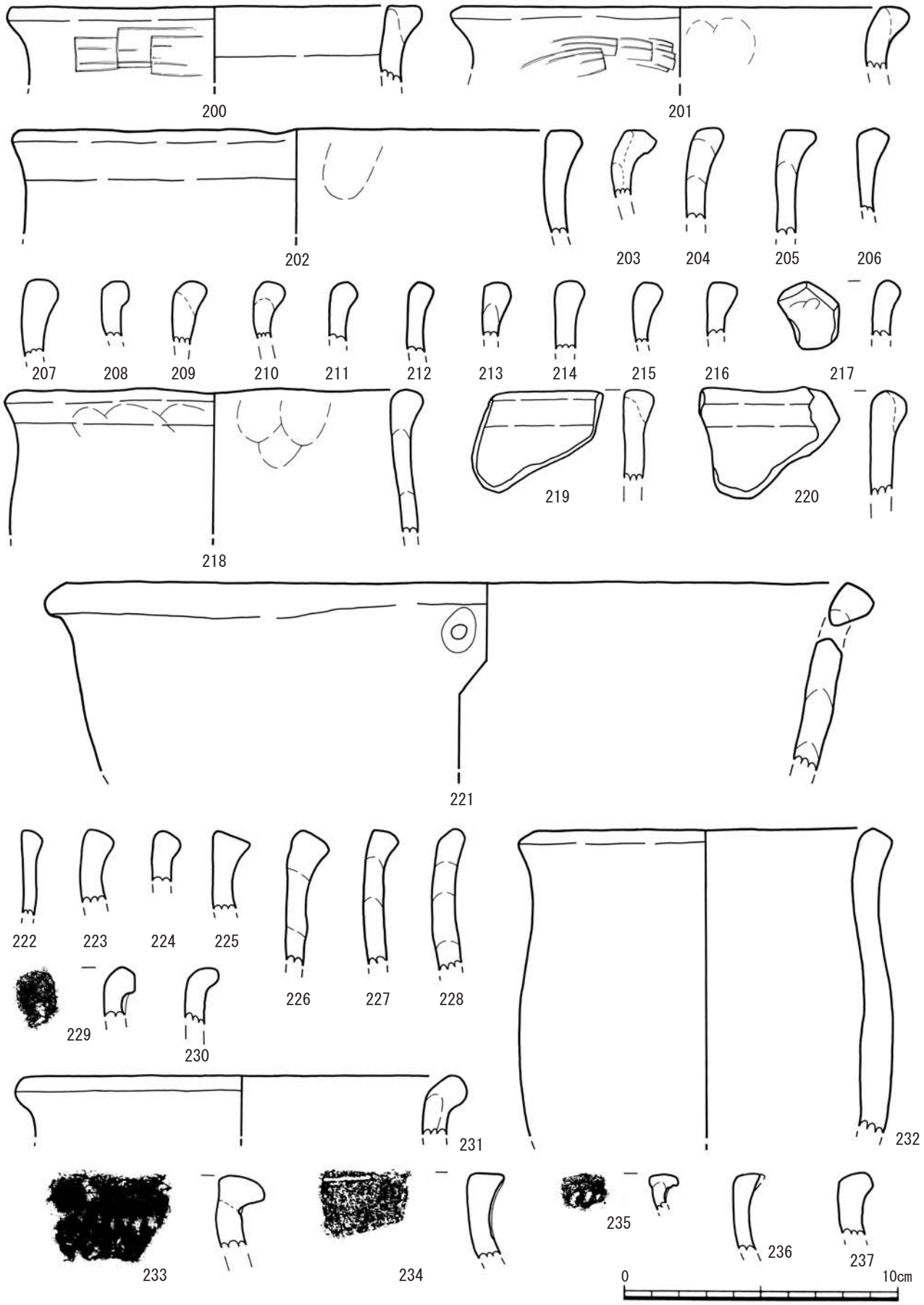
第24図　１次地区出土土器（５） ４号②(117～133)、５号①(134～138)



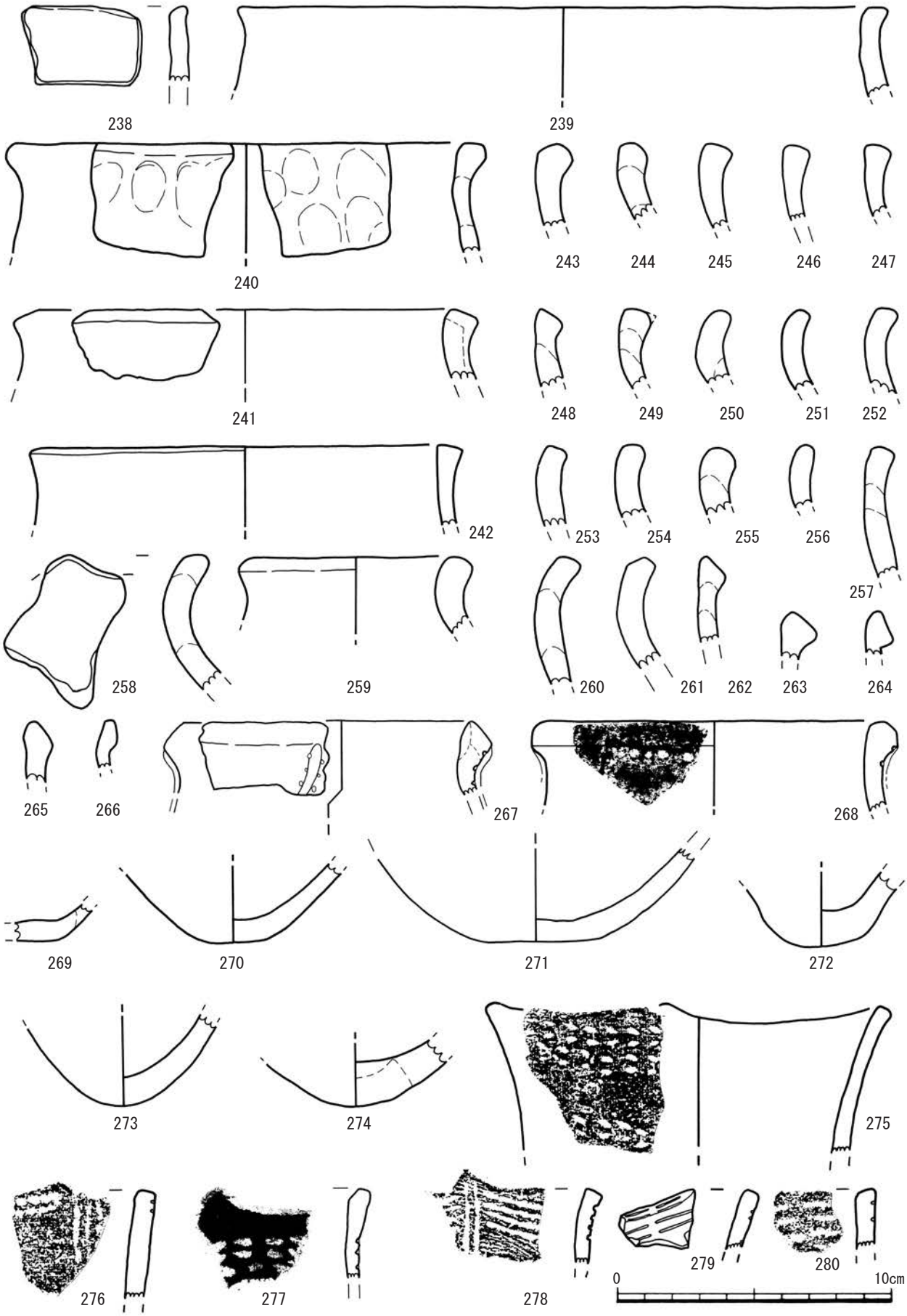
第25図　１次地区出土土器（６）５号②



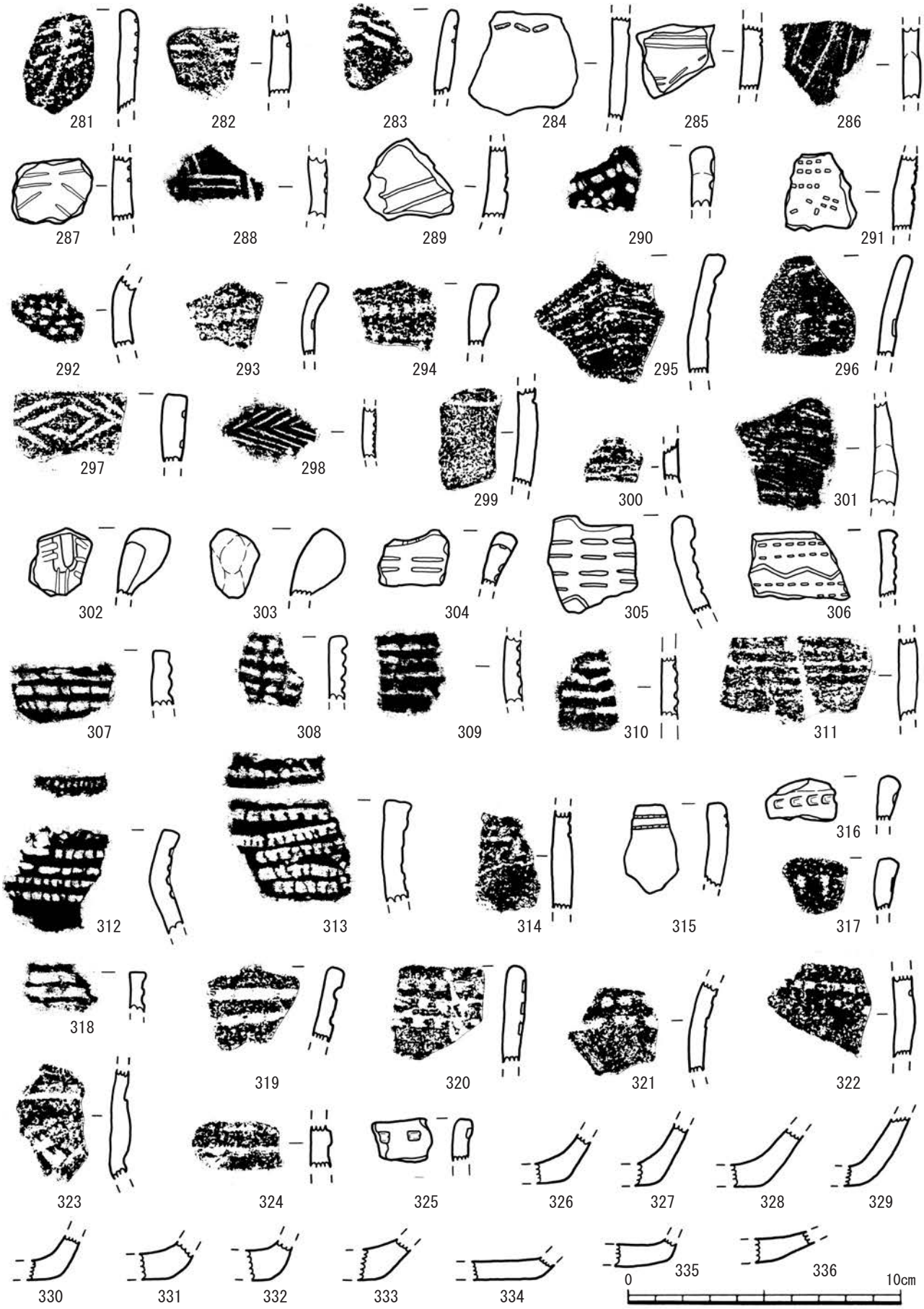
第26図　１次地区出土土器（７）７号①



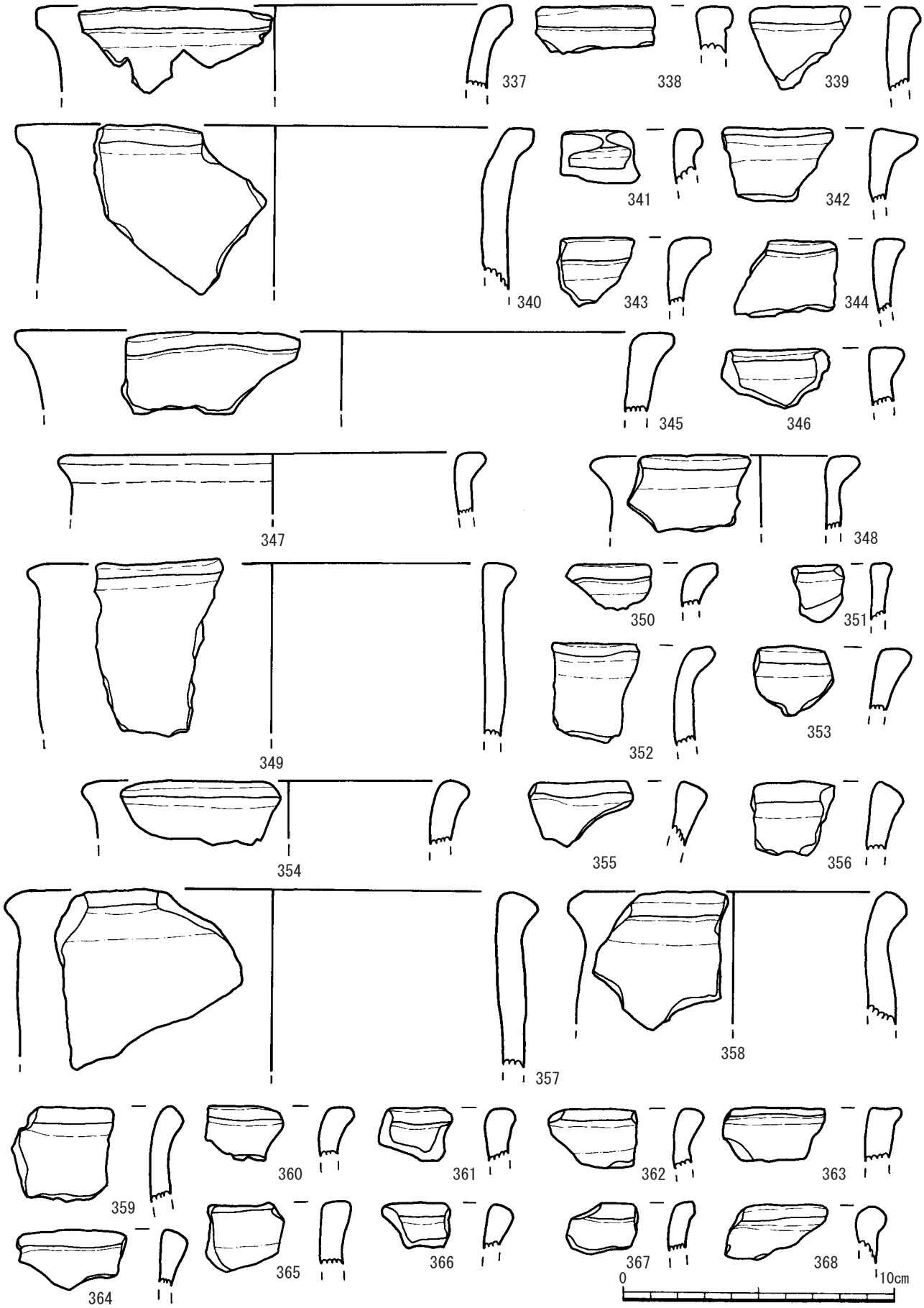
第27図　１次地区出土土器（８）７号②



第28図　１次地区出土土器（９） ７号③(238～274)、８－１号①(275～280)

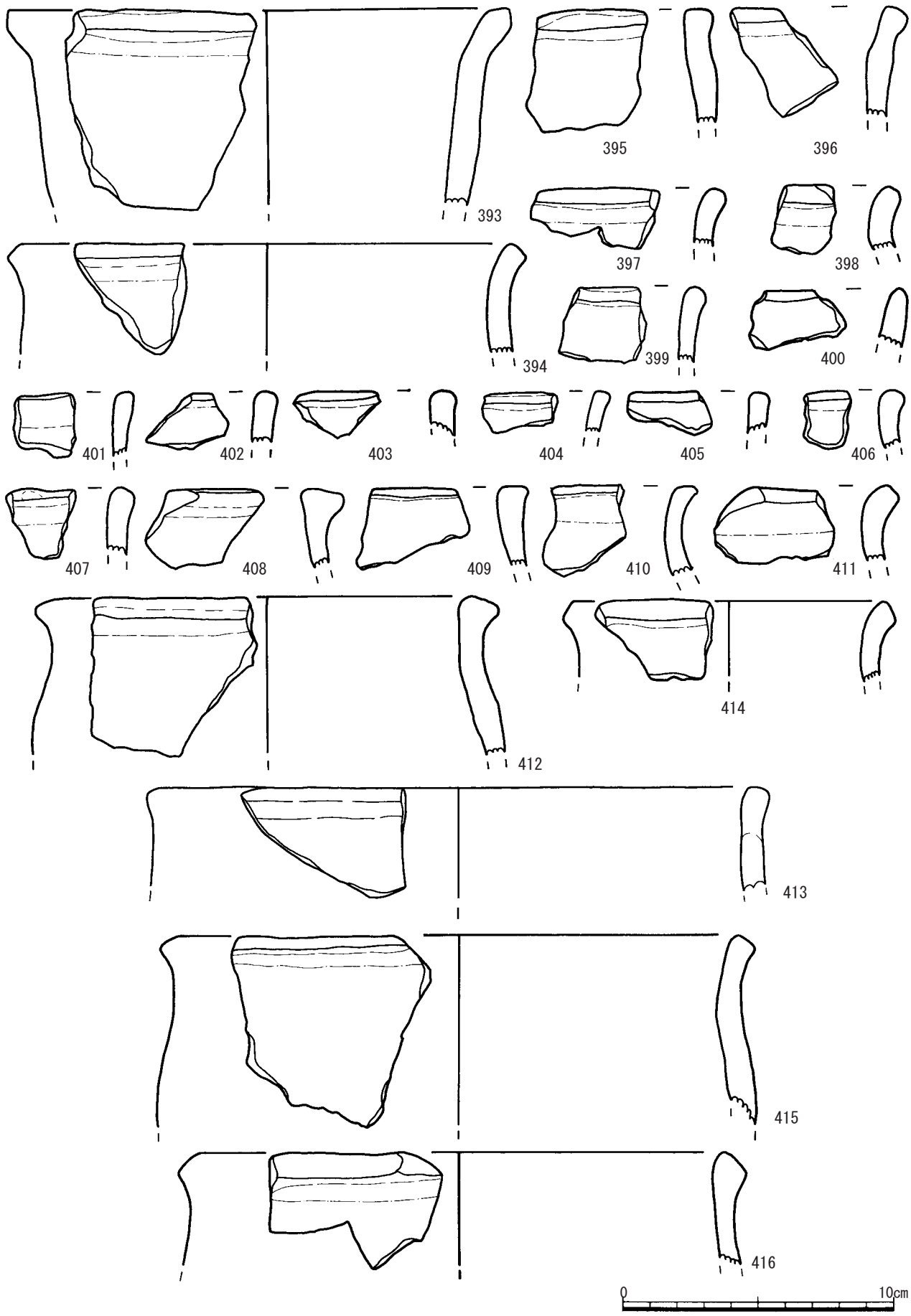


第29図　１次地区出土土器(10) ８－１号②

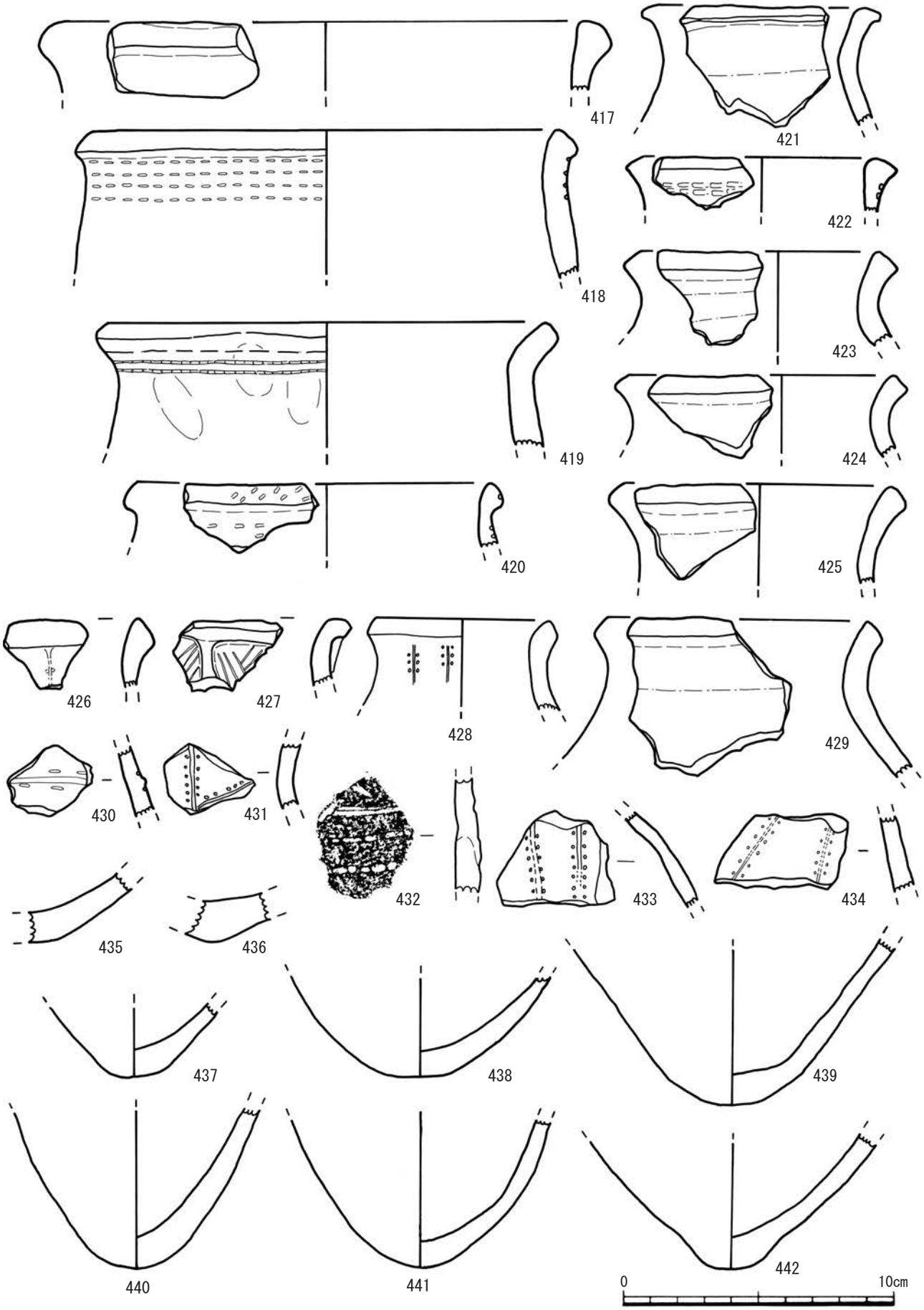


第30図　１次地区出土土器(11) ８－１号③

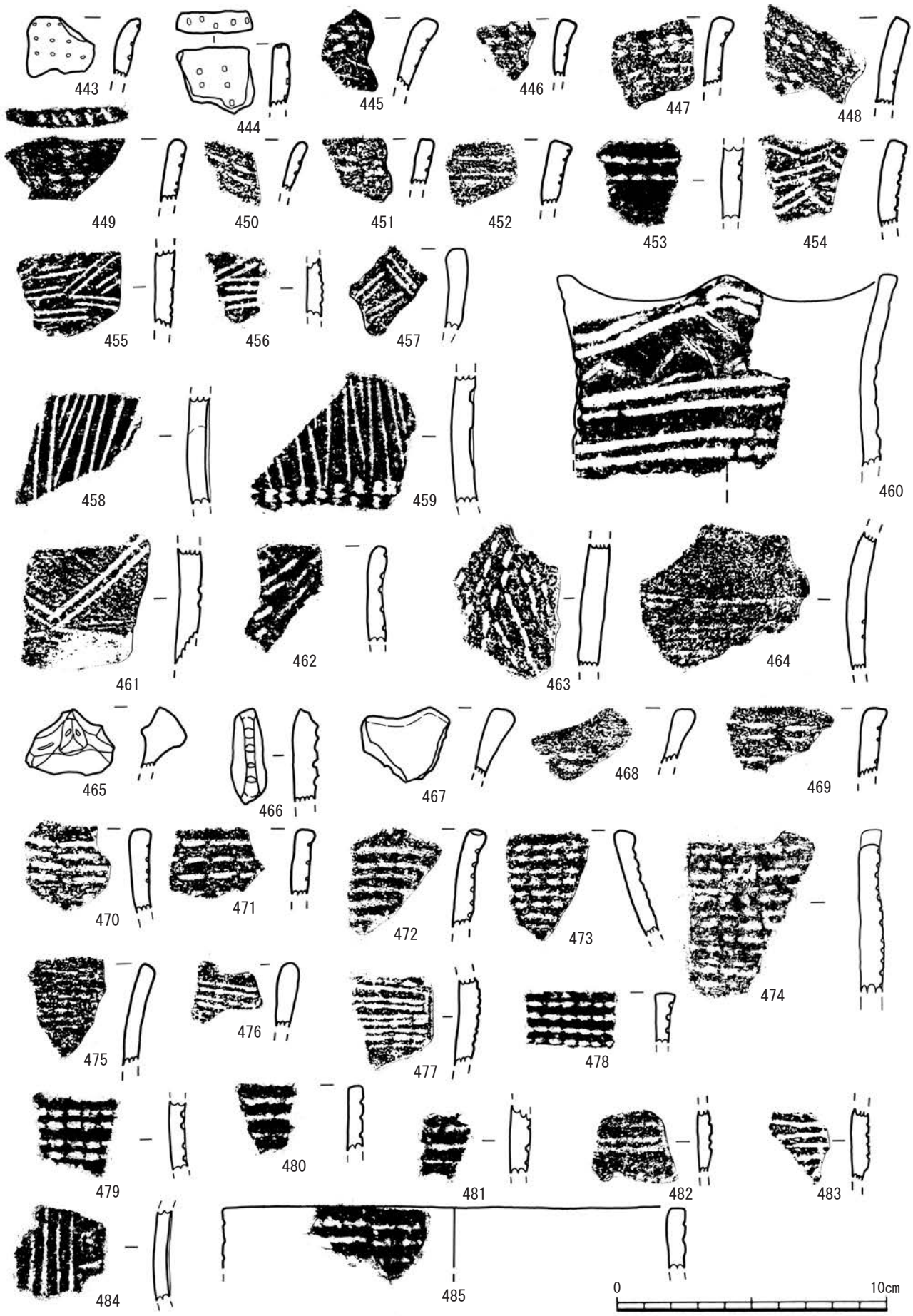
第31図　１次地区出土土器(12) ８－１号④



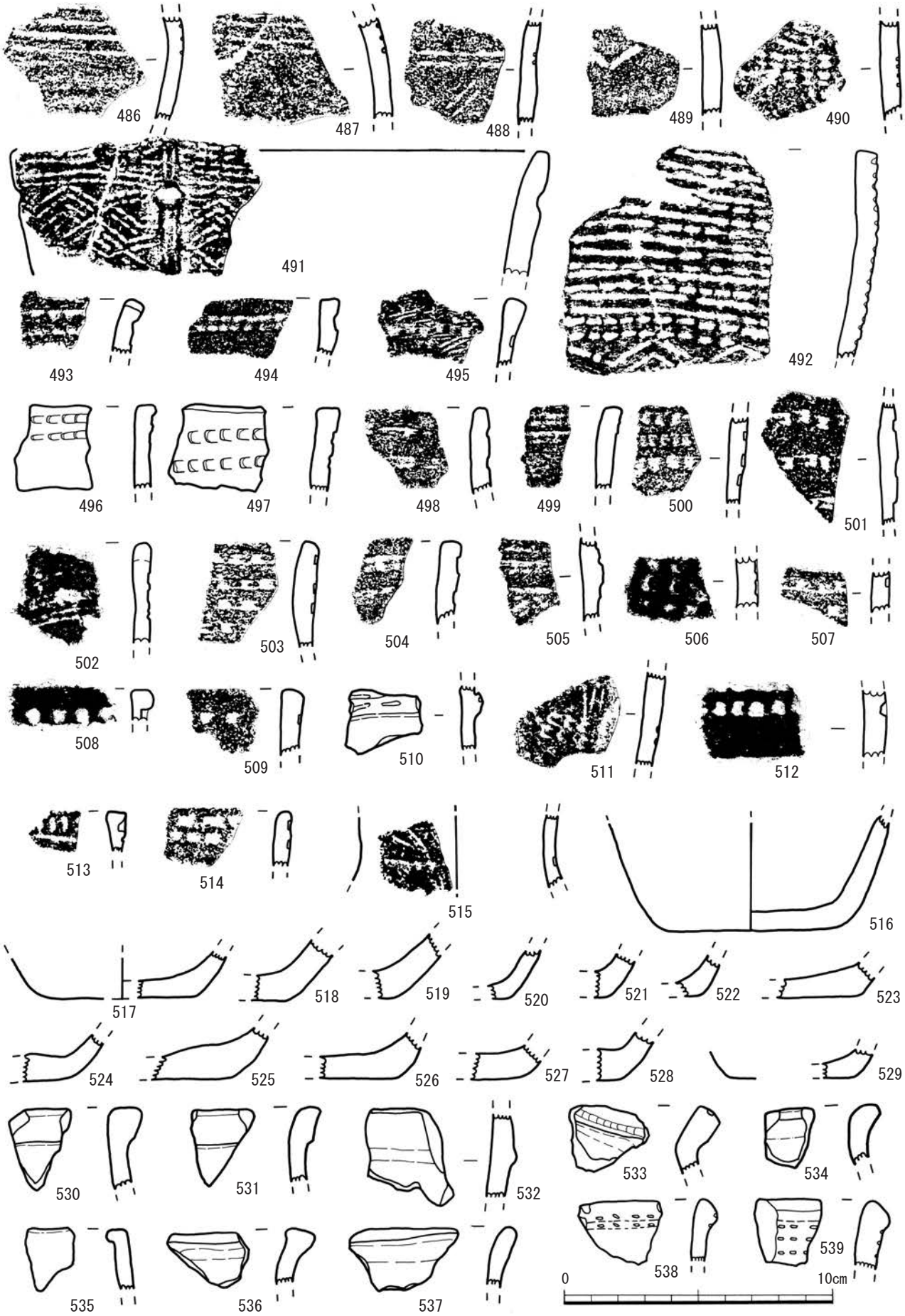
第32図　１次地区出土土器(13) ８－１号⑤



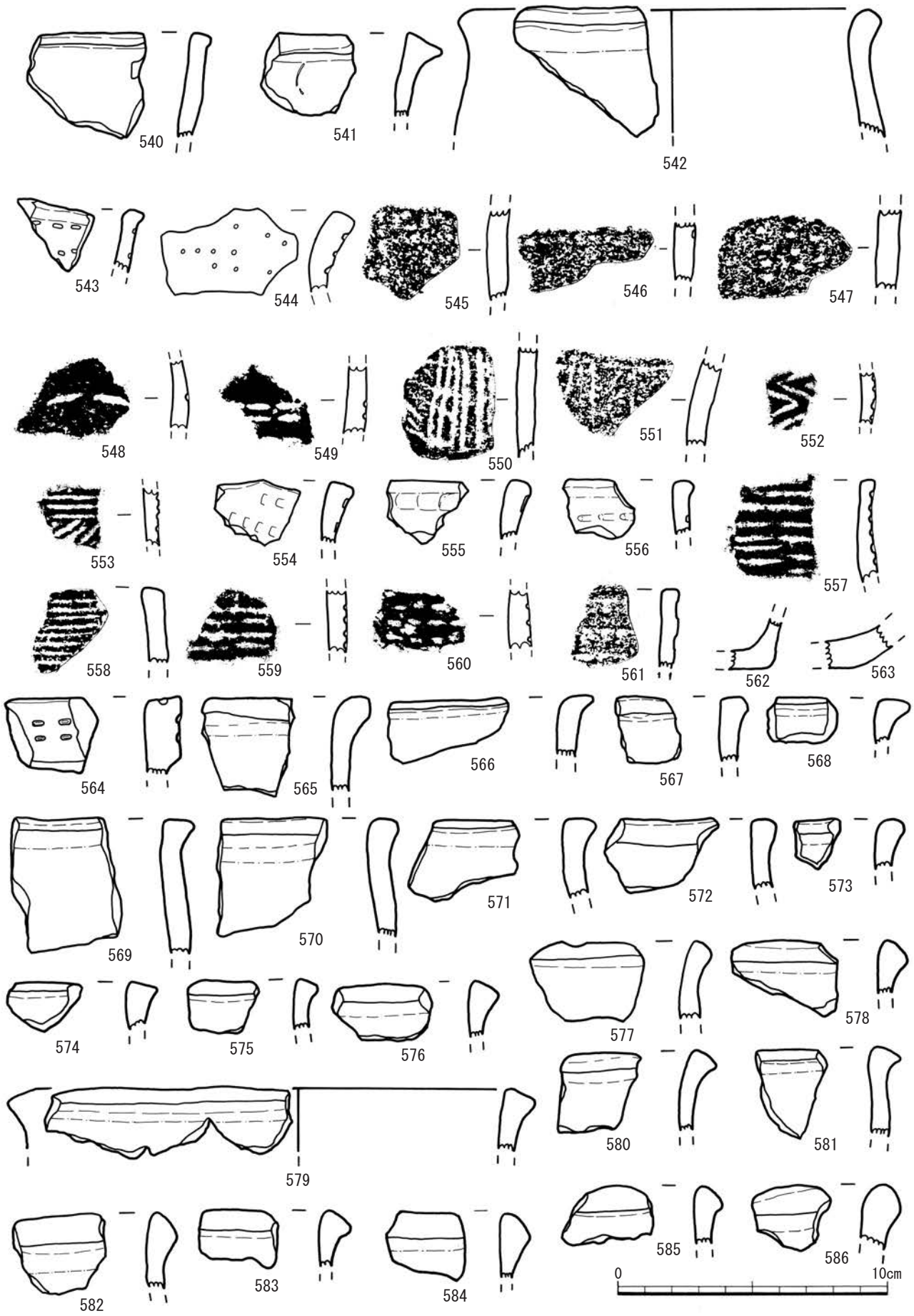
第33図　１次地区出土土器(14) ８－１号⑥



第34図　１次地区出土土器(15) ８－２号①

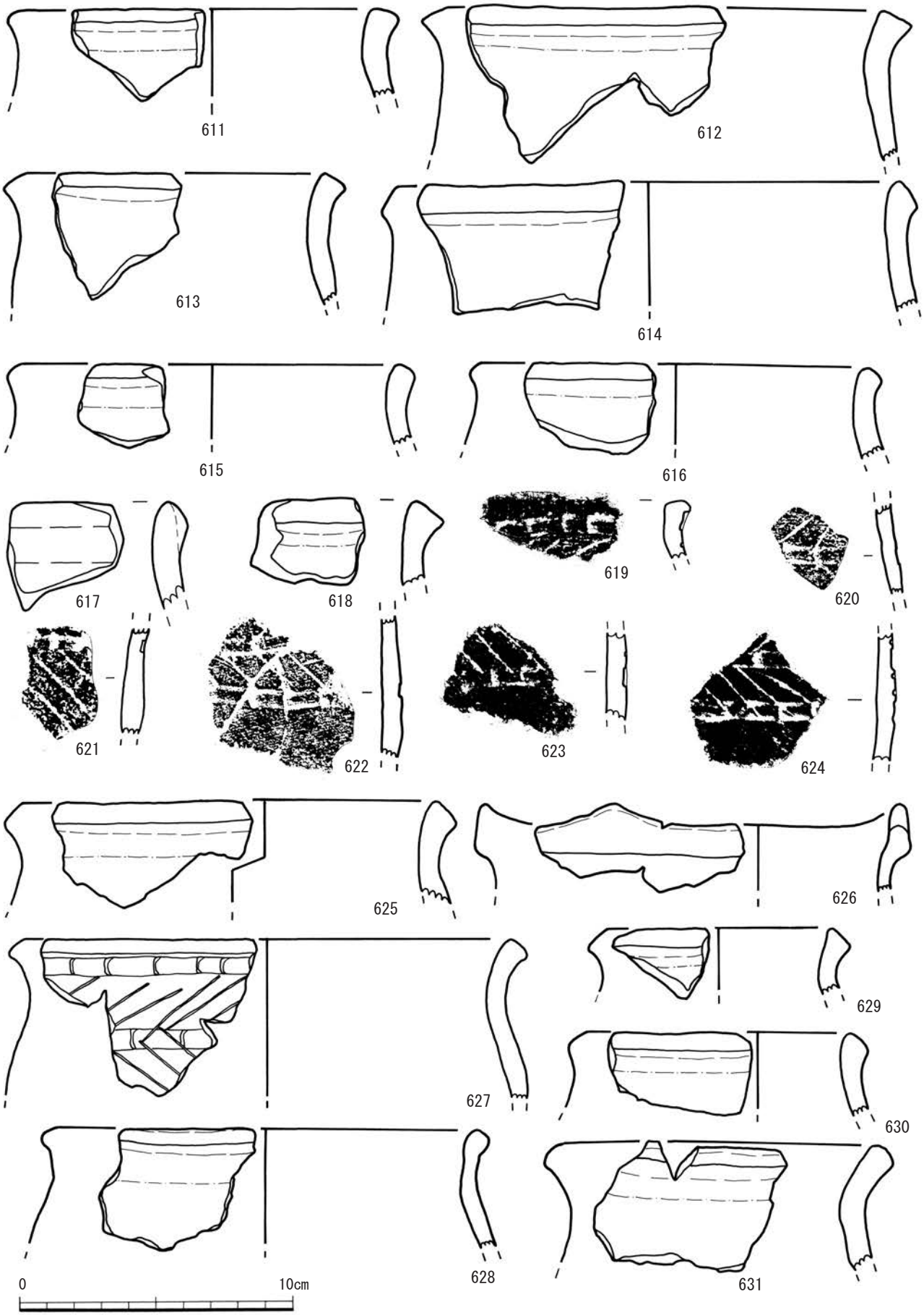


第35図　１次地区出土土器(16) ８－２号②

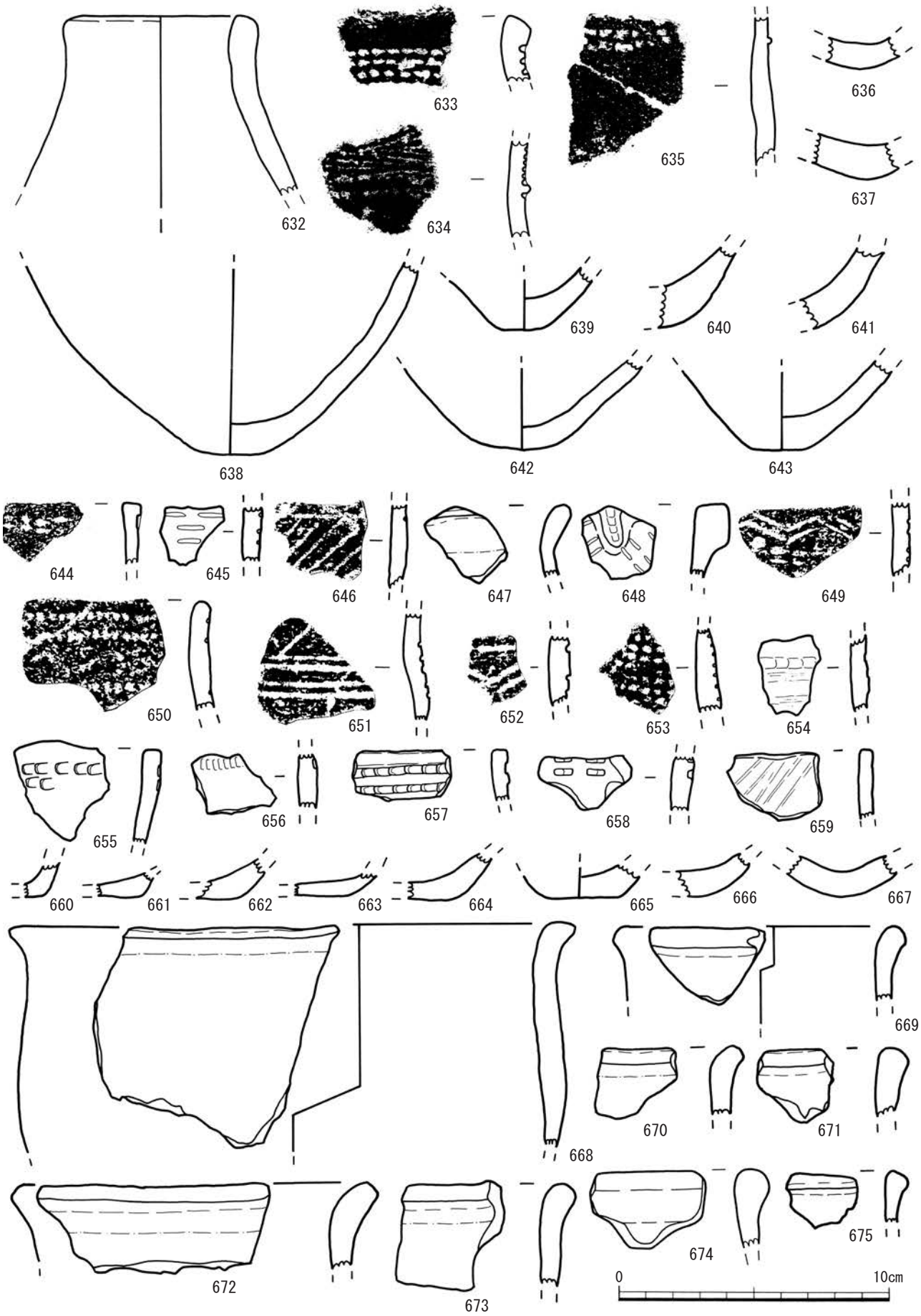


第36図　１次地区出土土器(17) ８－２号③(540～542)、８－３号①(543～586)

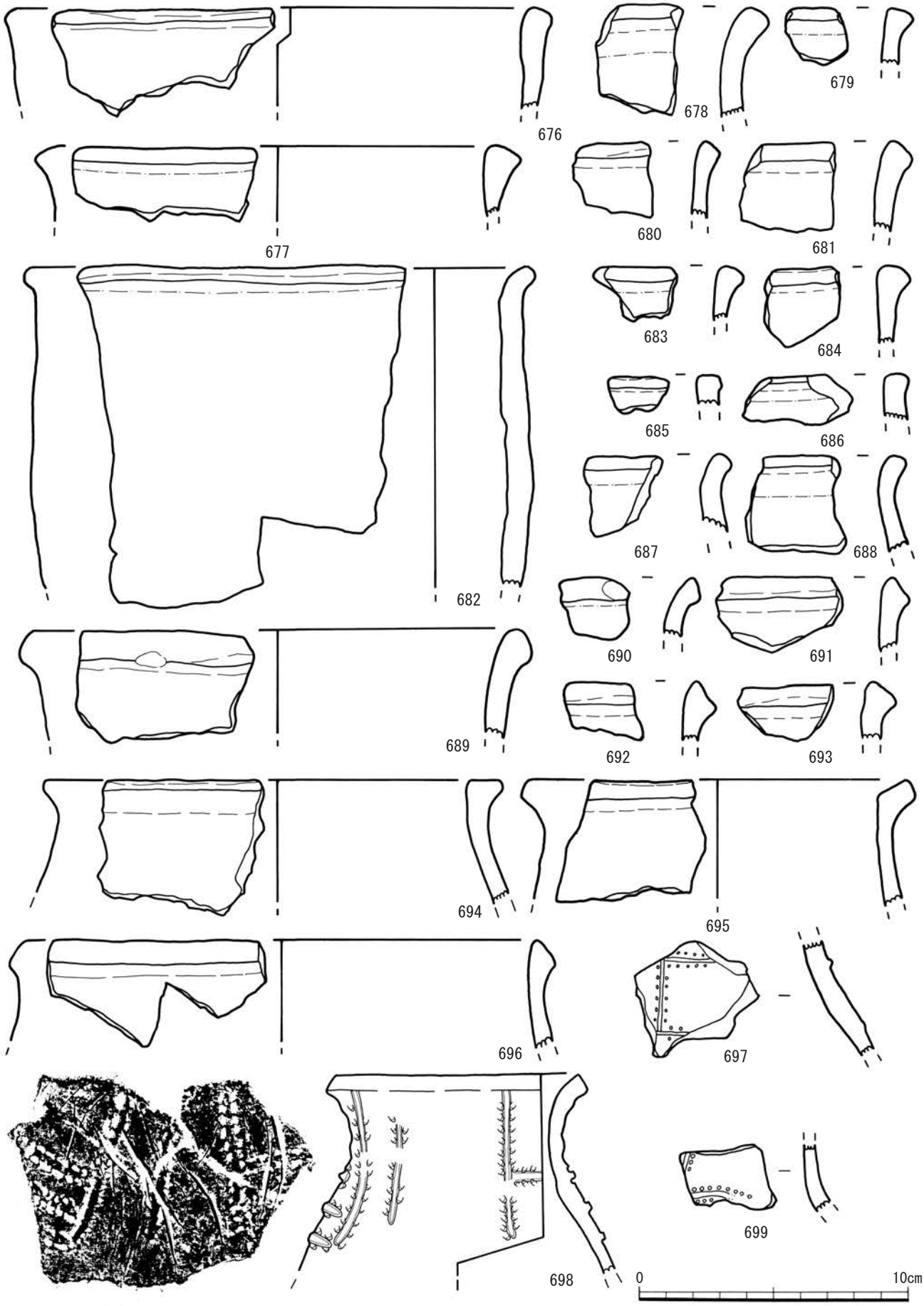
第37図　１次地区出土土器(18) ８－３号②



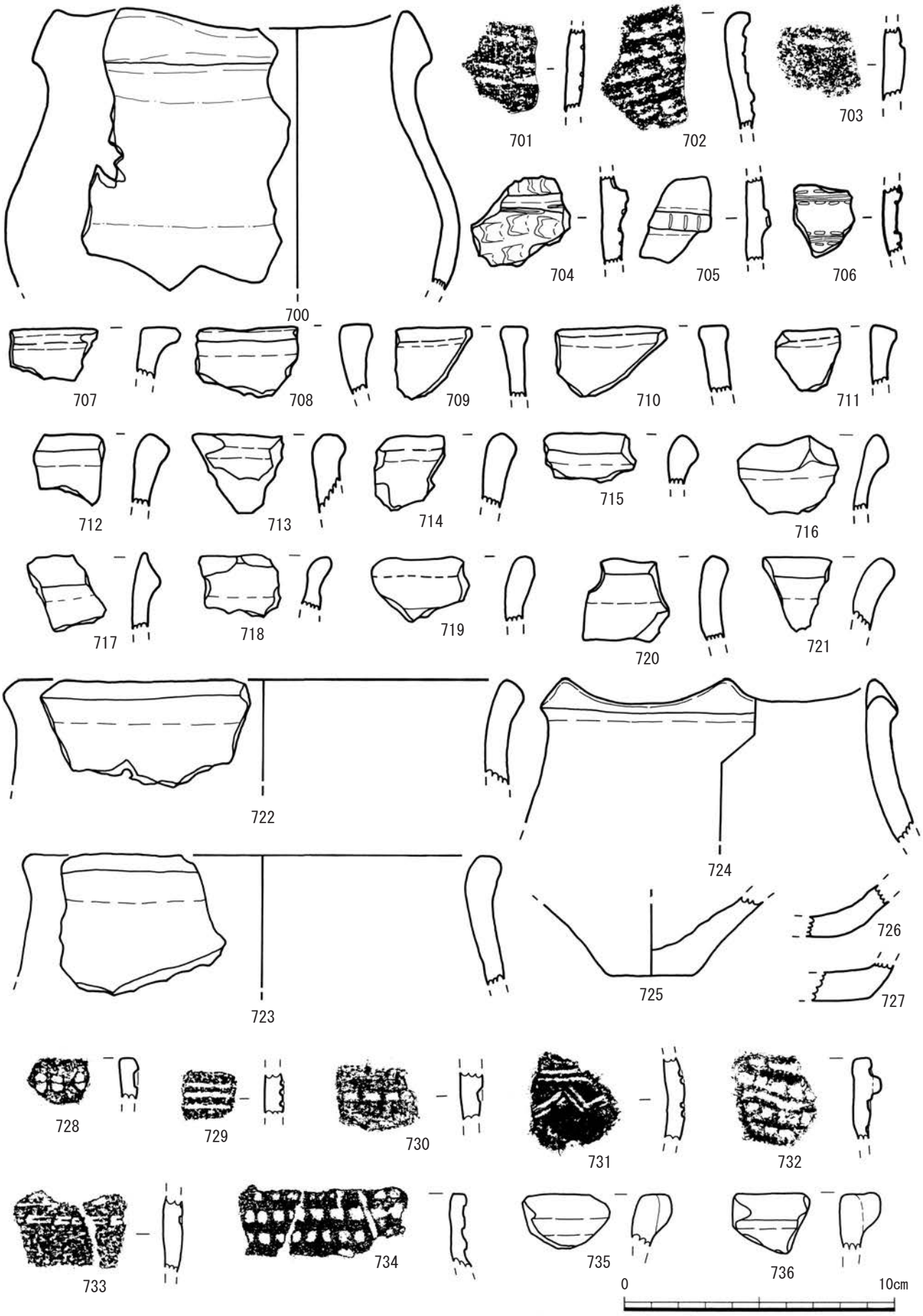
第38図　１次地区出土土器(19) ８－３号③



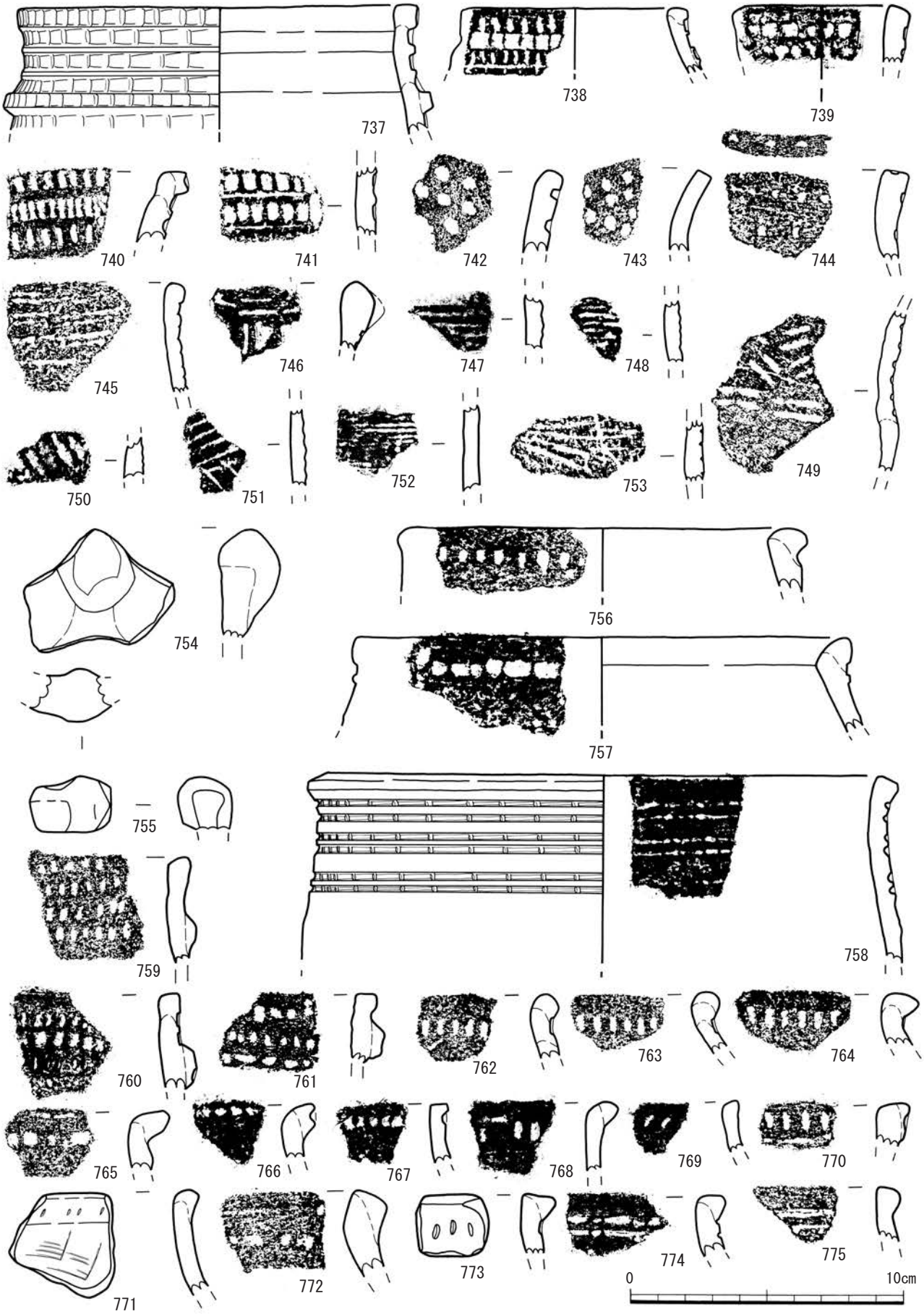
第39図　１次地区出土土器(20) ８－３号④(632～643)、９号①(644～675)



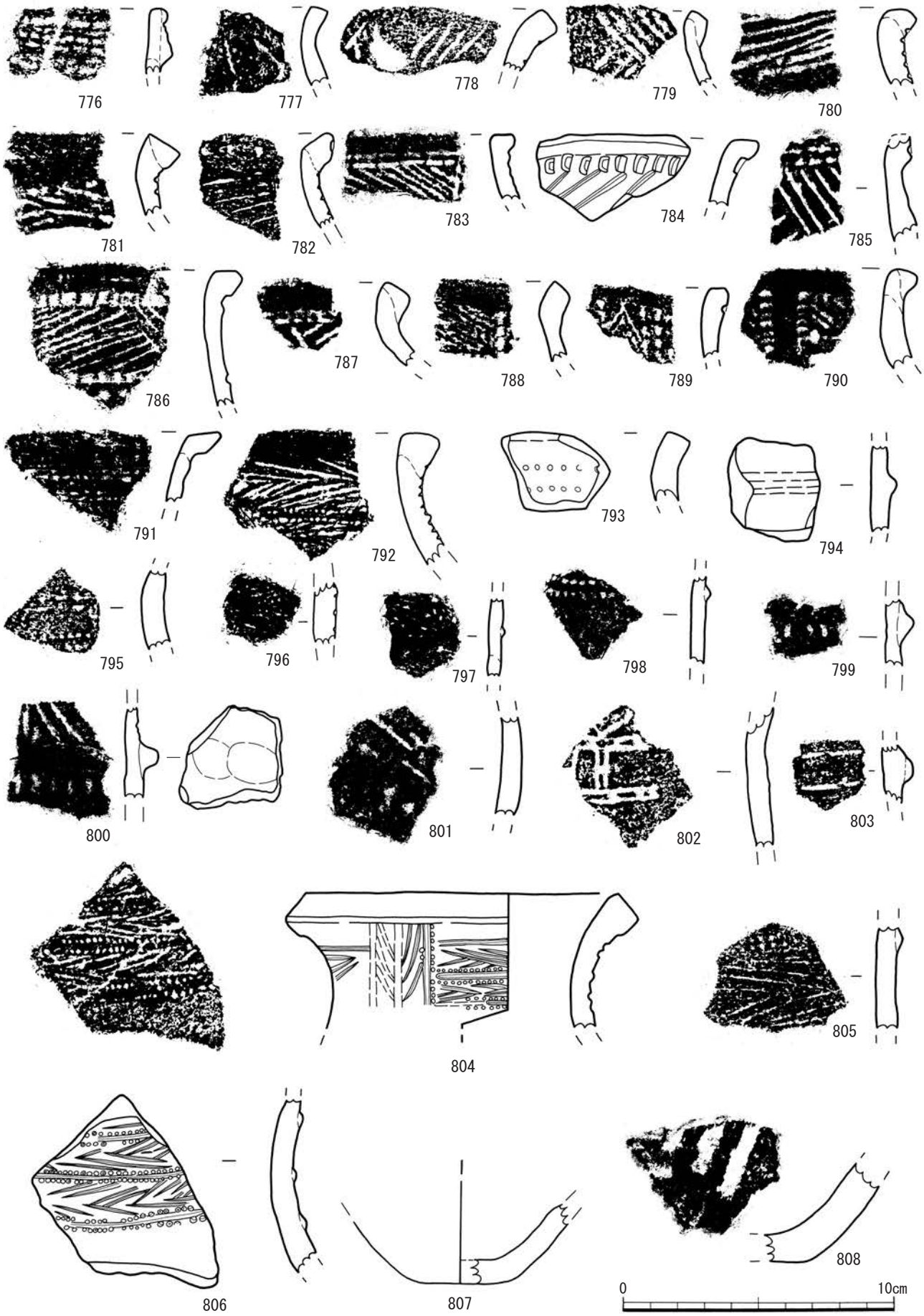
第40図　１次地区出土土器(21) ９号②



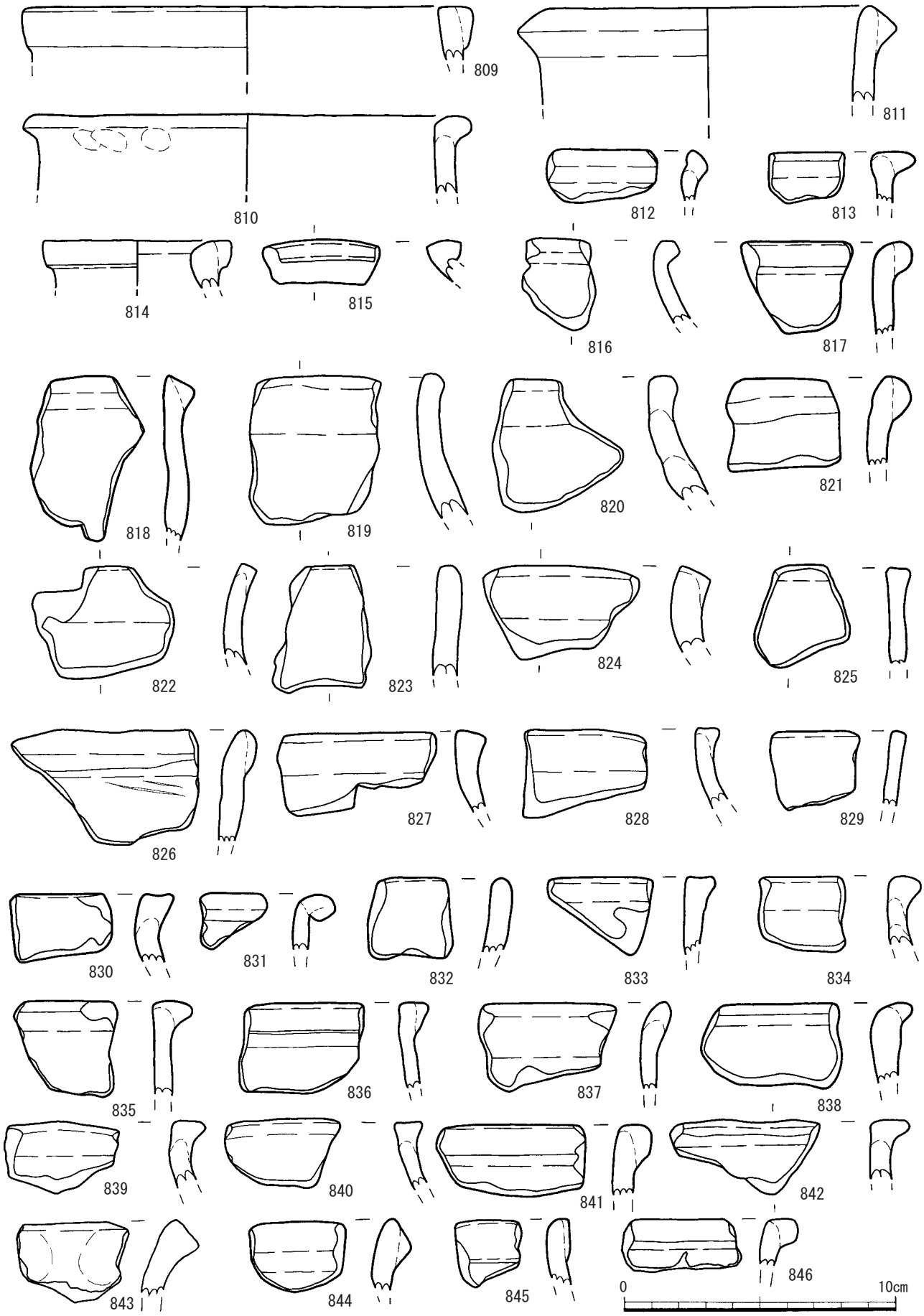
第41図　１次地区出土土器(22) ９号③(700)、10号(701～727)、12号(728～732)、13号(733～736)



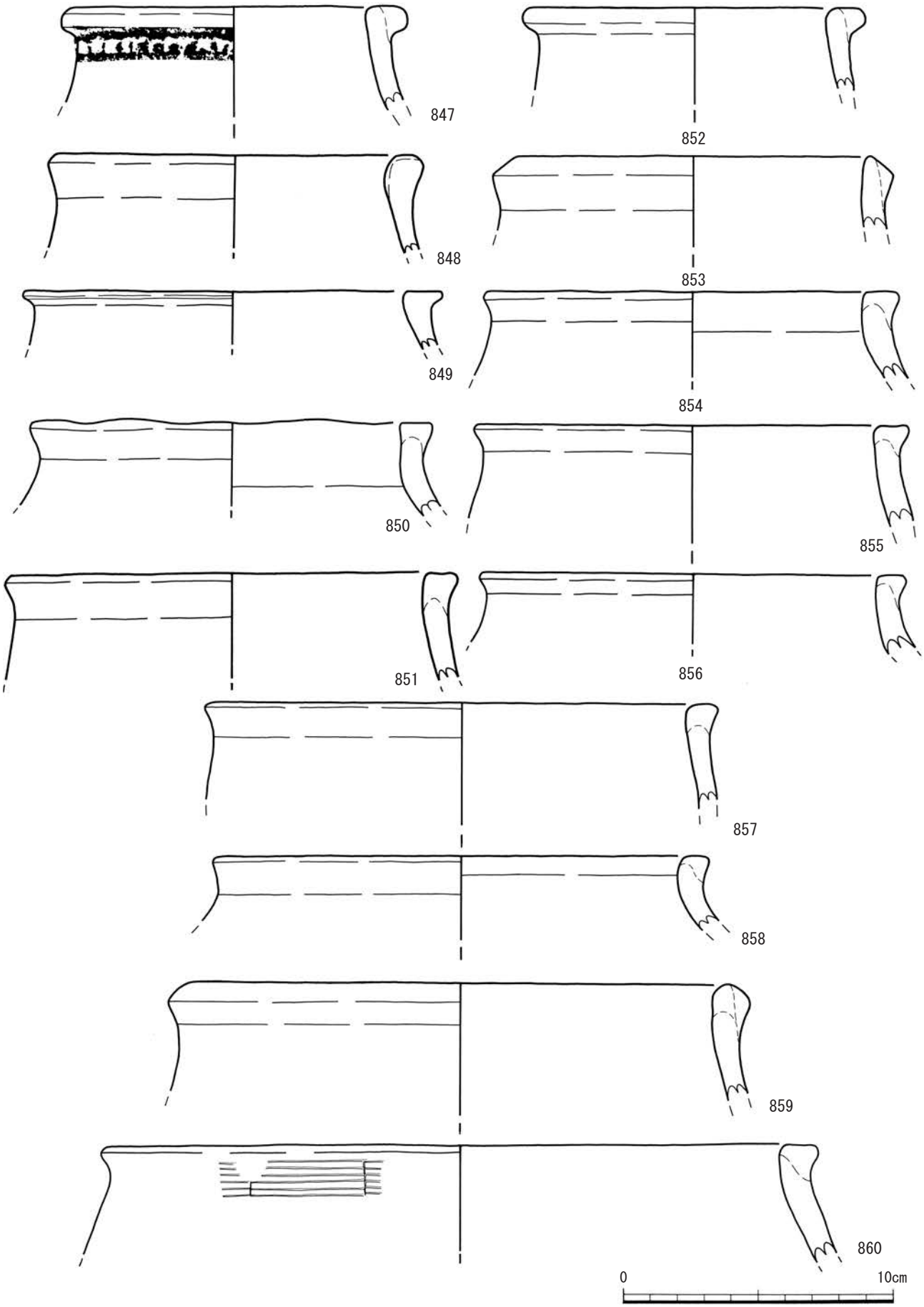
第42図　１次地区出土土器(23)14号



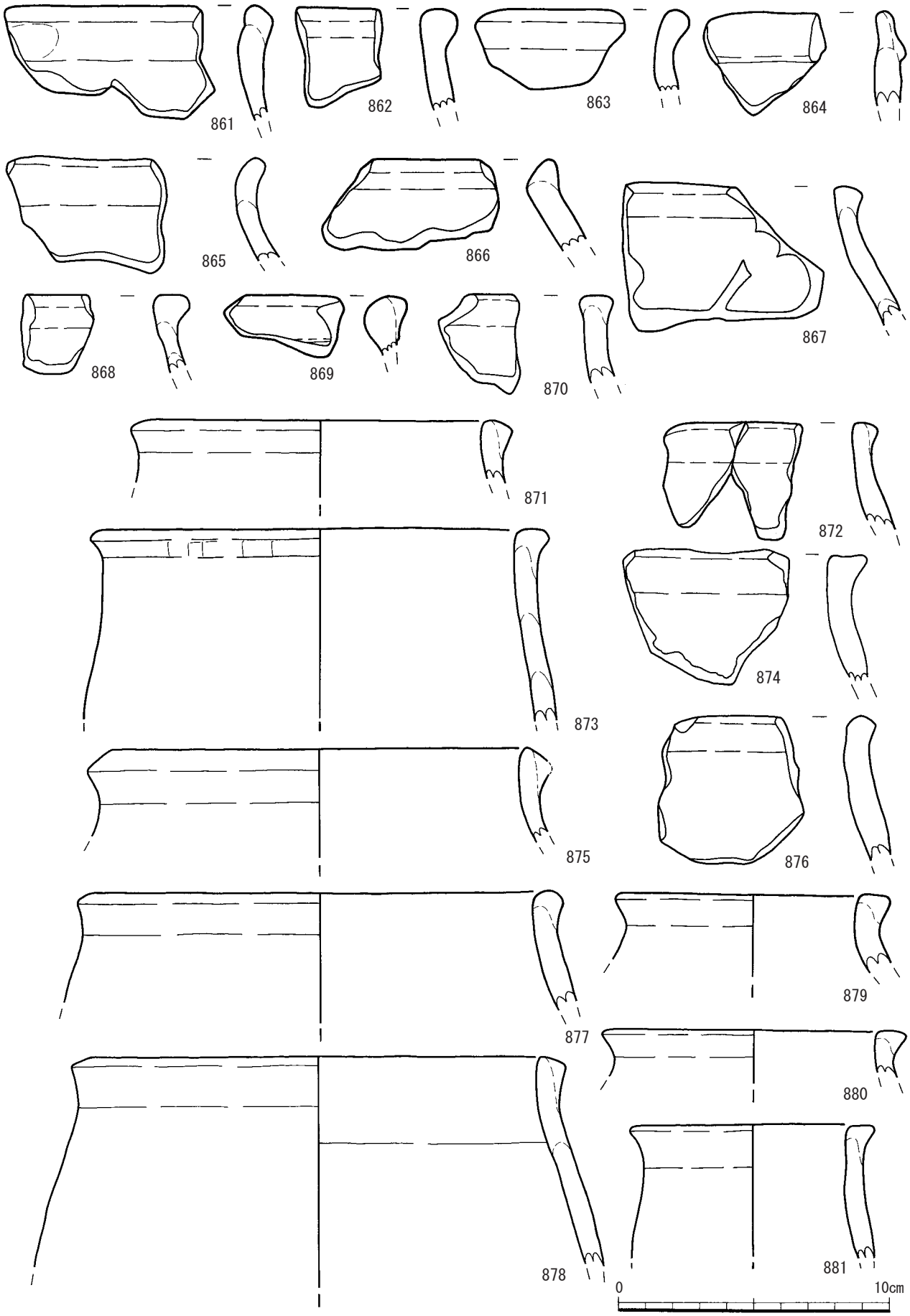
第43図　１次地区出土土器(24)14号



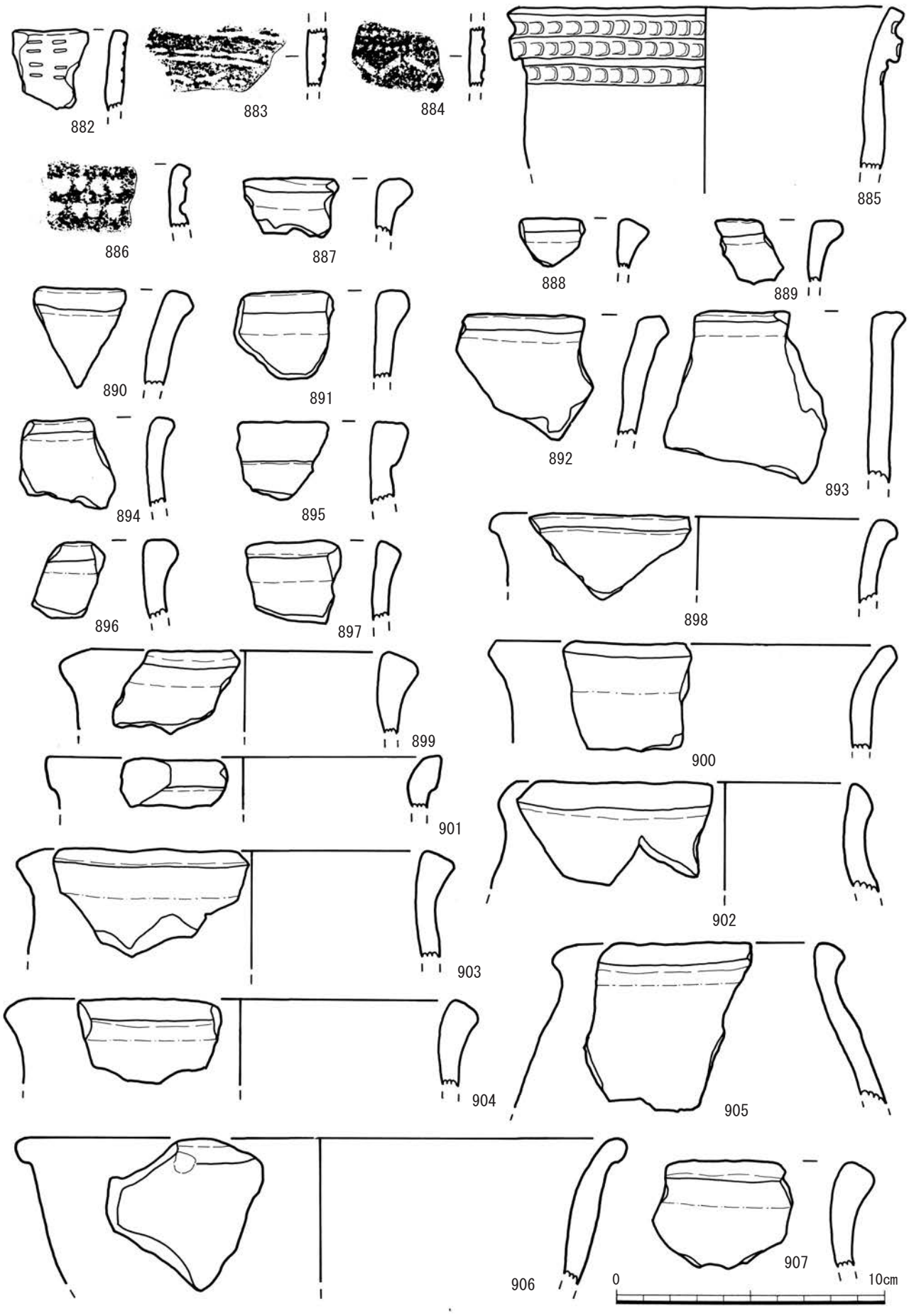
第44図　１次地区出土土器(25)14号



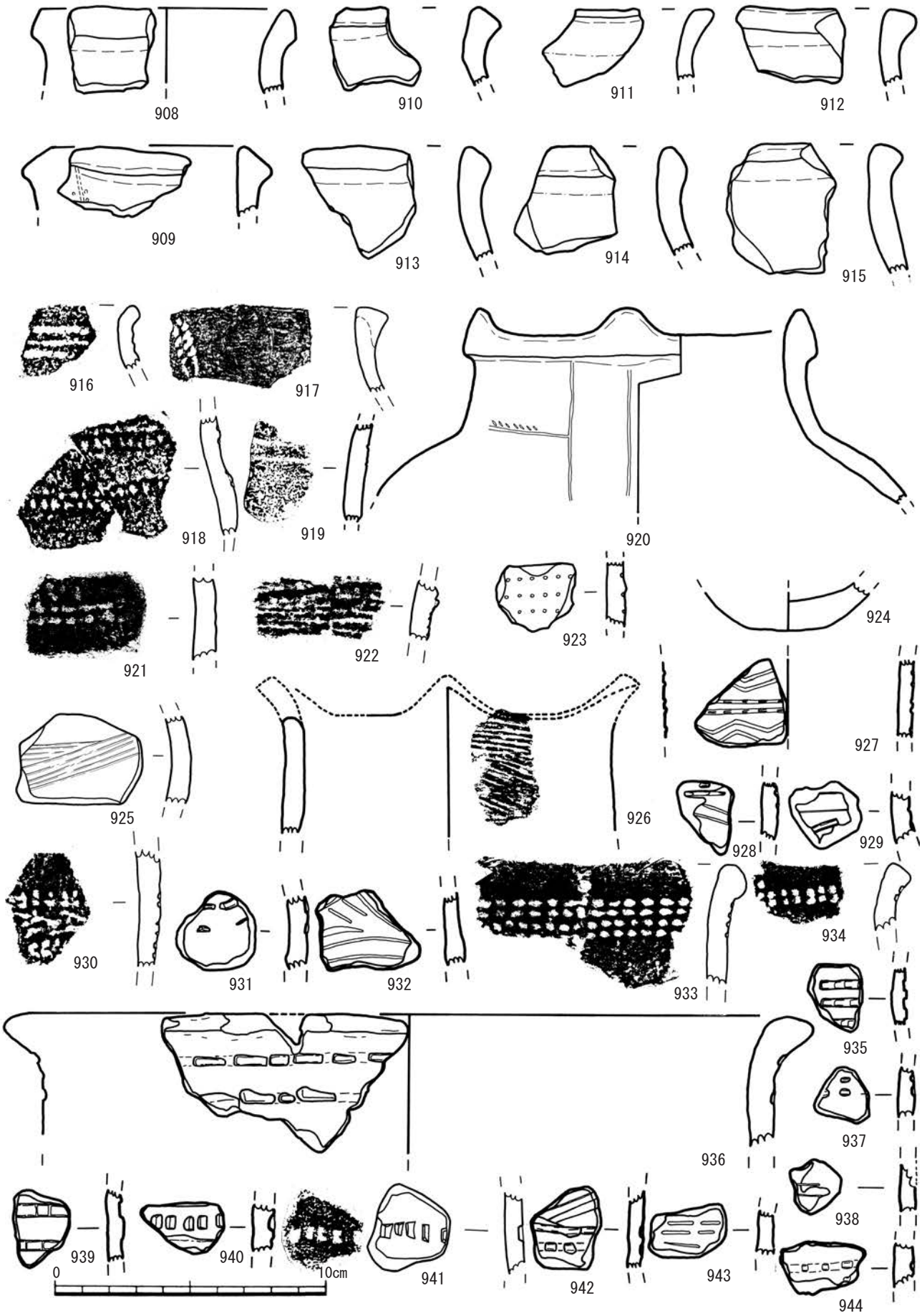
第45図　１次地区出土土器(26)14号



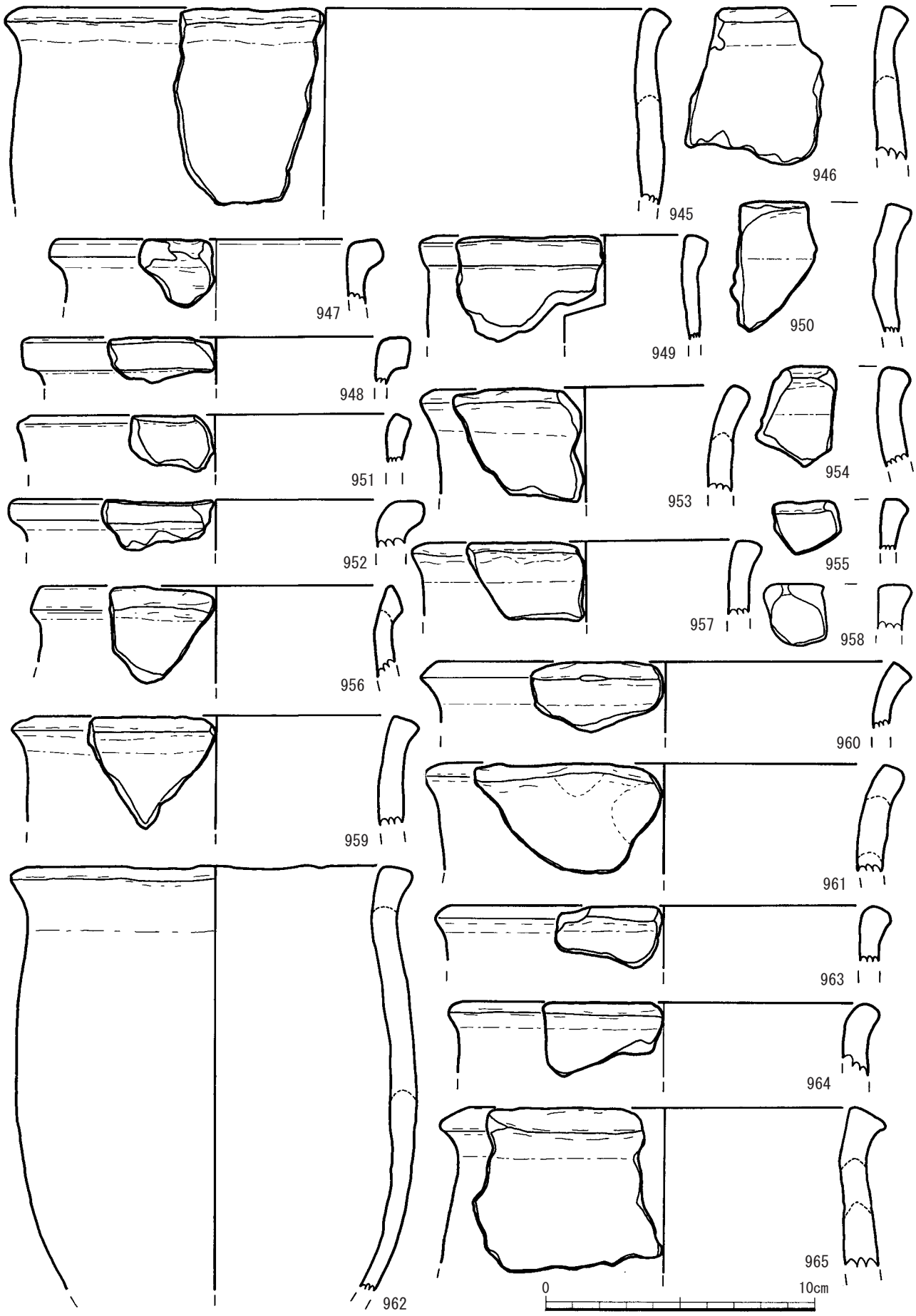
第46図　１次地区出土土器(27)14号



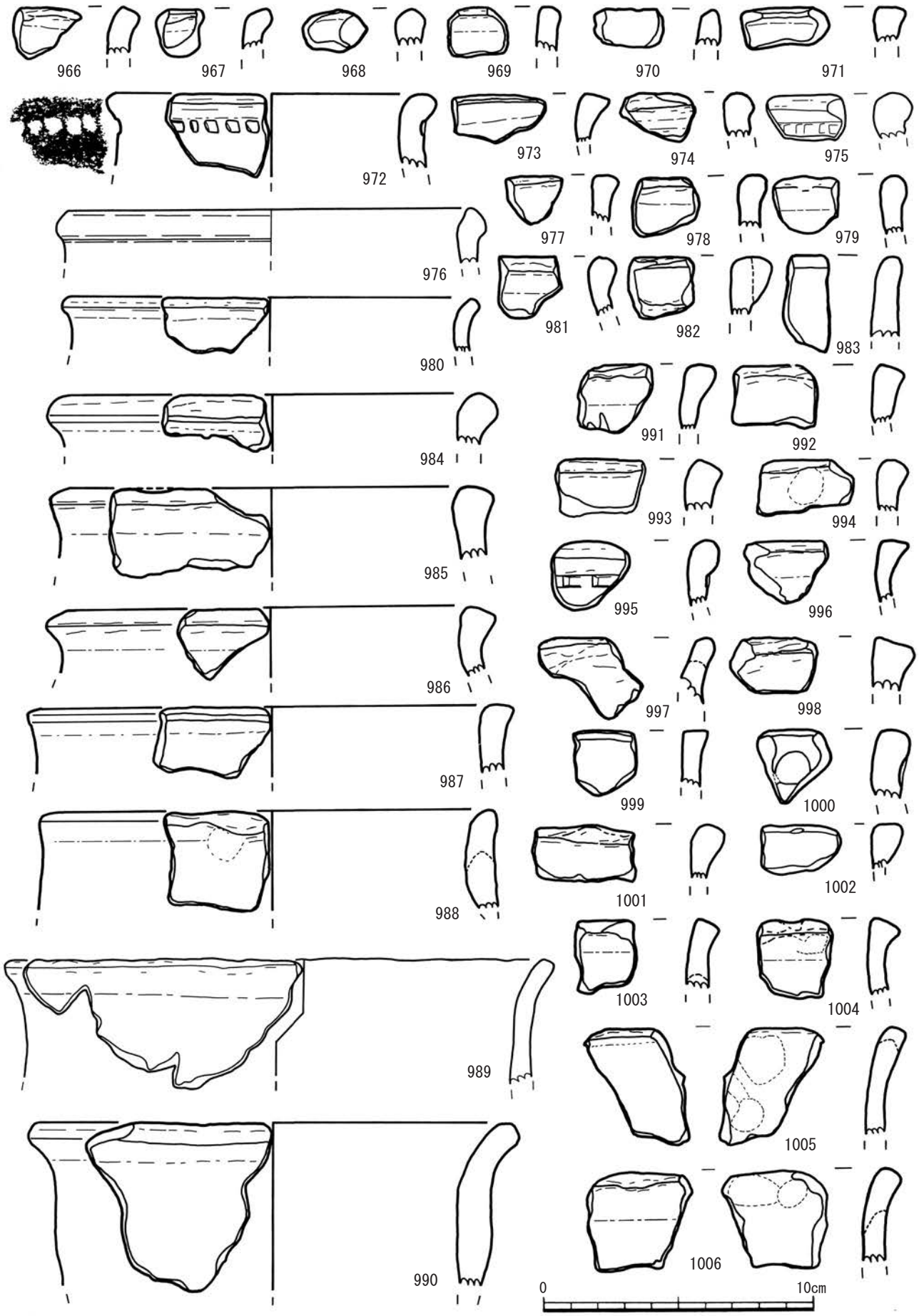
第47図　１次地区出土土器(28)15号①



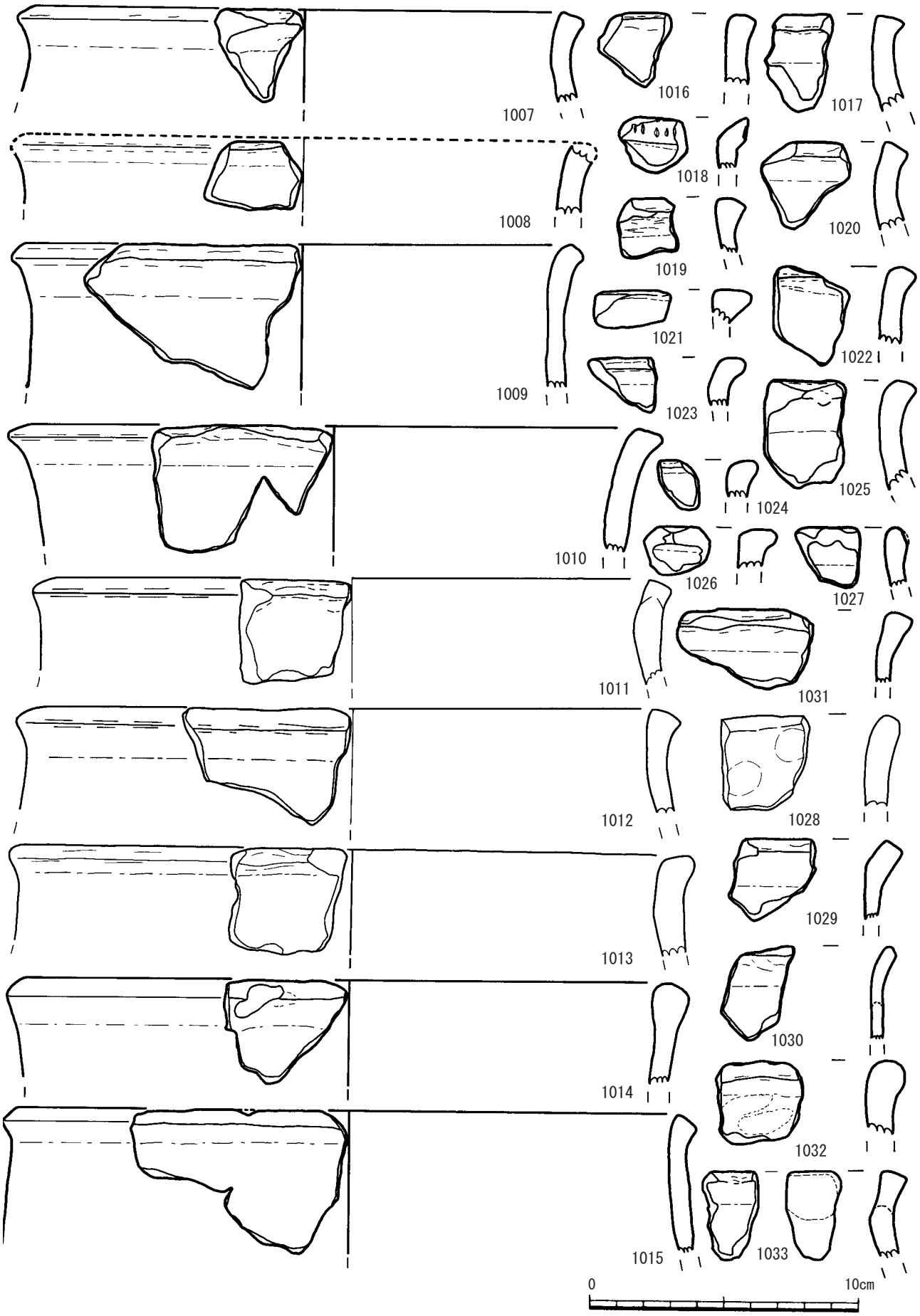
第48図　１次地区出土土器(29) 15号②(908～920・922～924)、16号(921)、17号(925)
18号①(926～944)



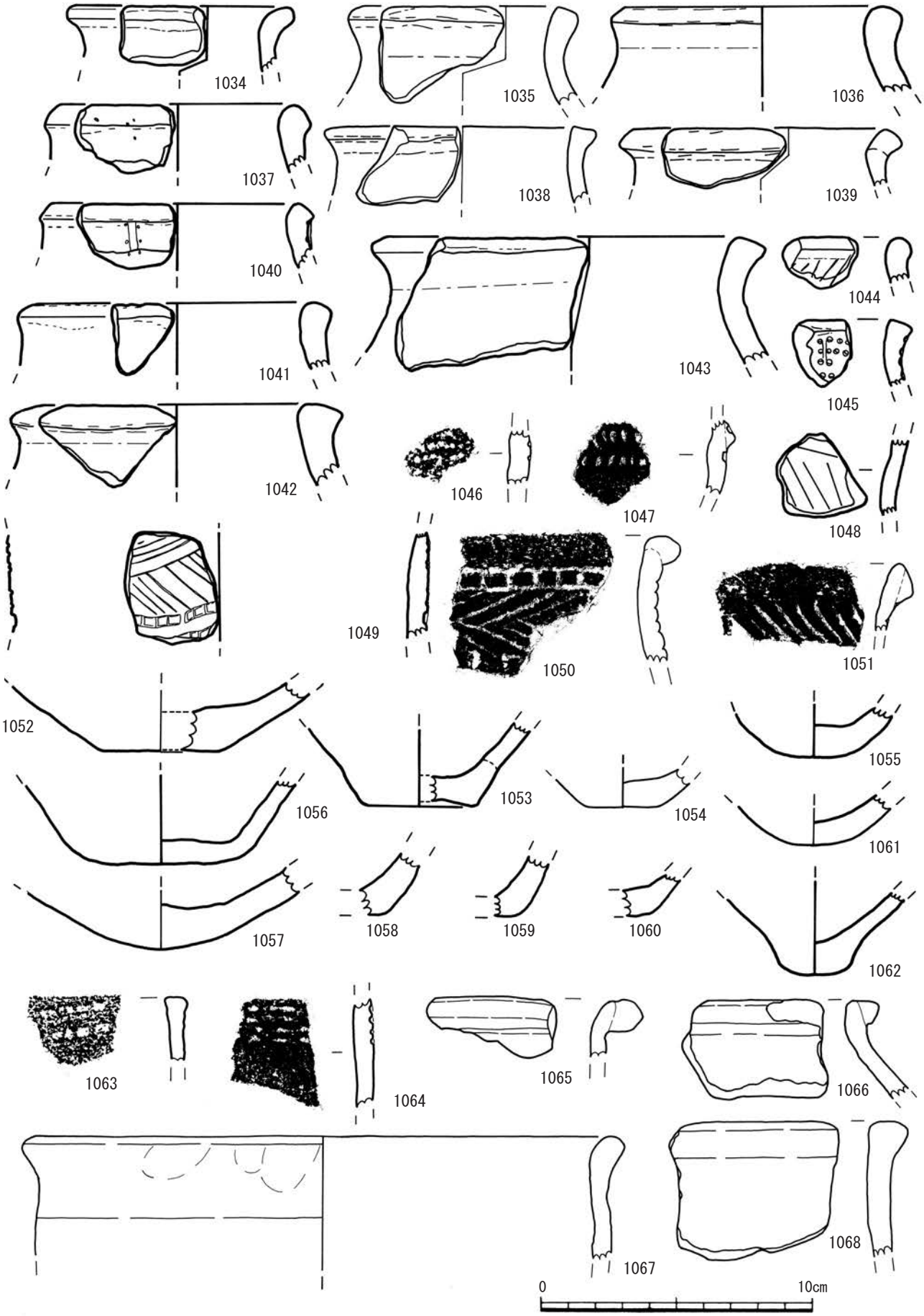
第49図　１次地区出土土器(30)18号②



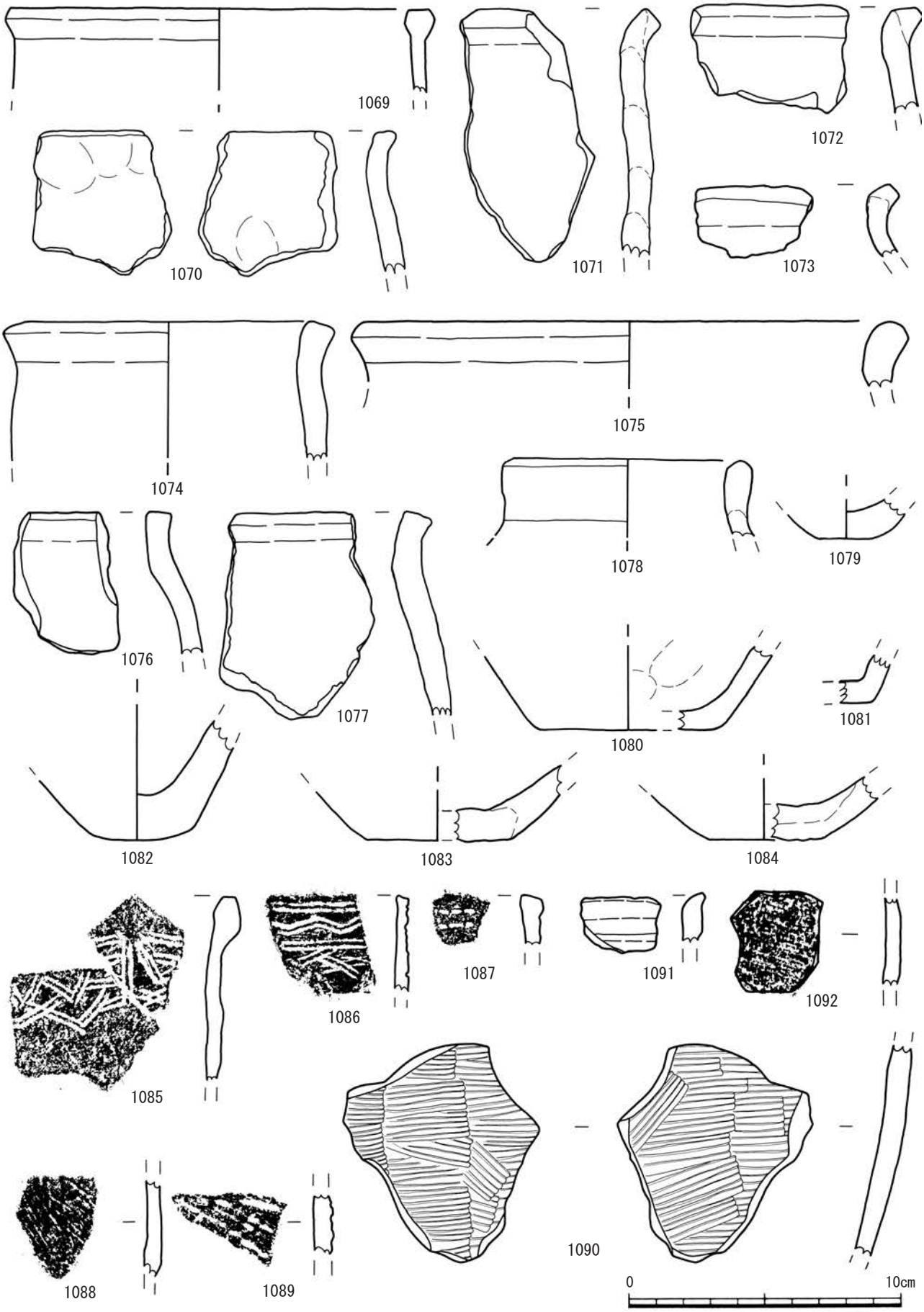
第50図　１次地区出土土器(31)18号③



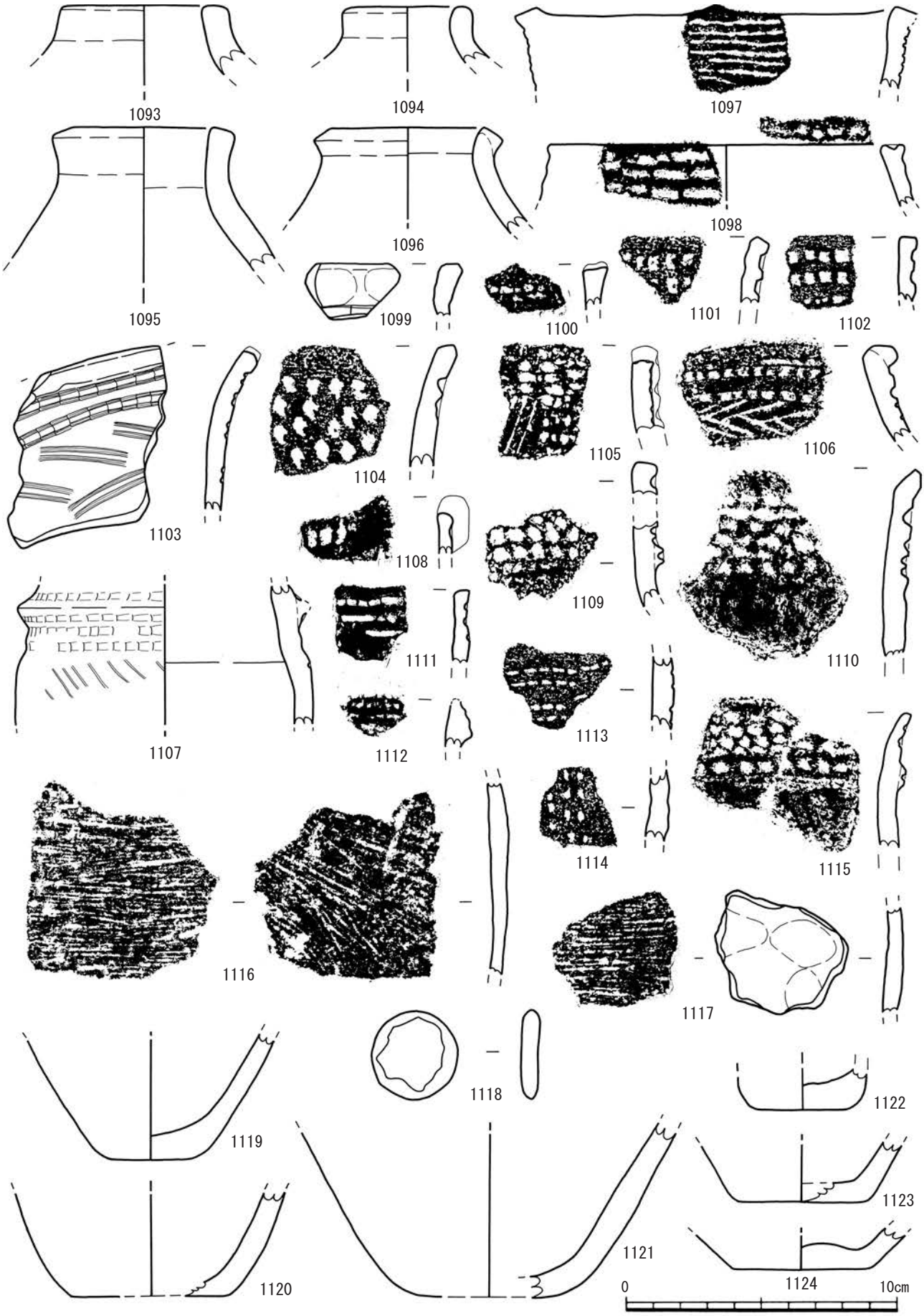
第51図　１次地区出土土器(32)18号④



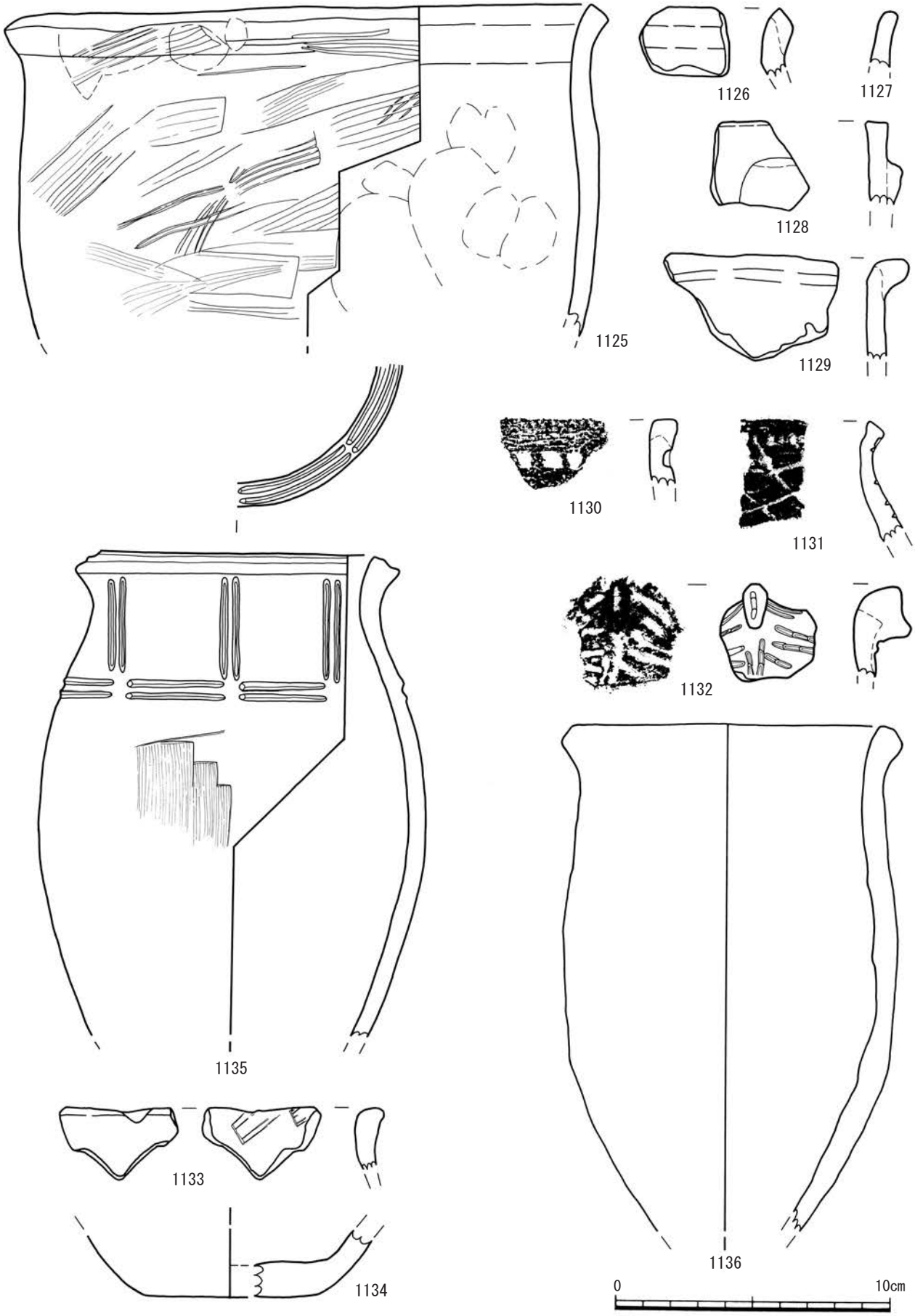
第52図　１次地区出土土器(33) 18号⑤(1034～1062)、22～24号①(1063～1068)



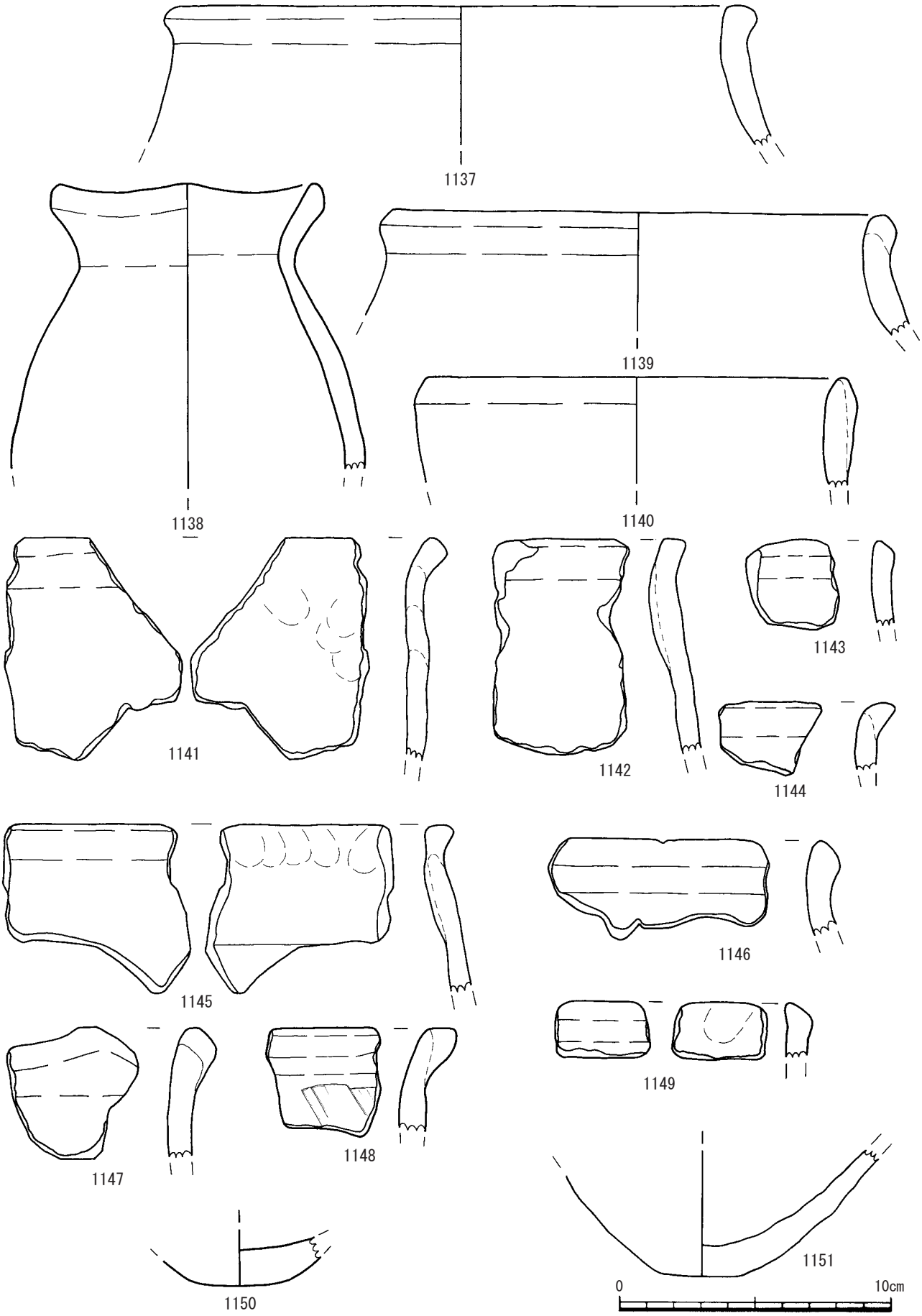
第53図　１次地区出土土器(34) 22～24号②(1069～1084)、26号(1085～1092)



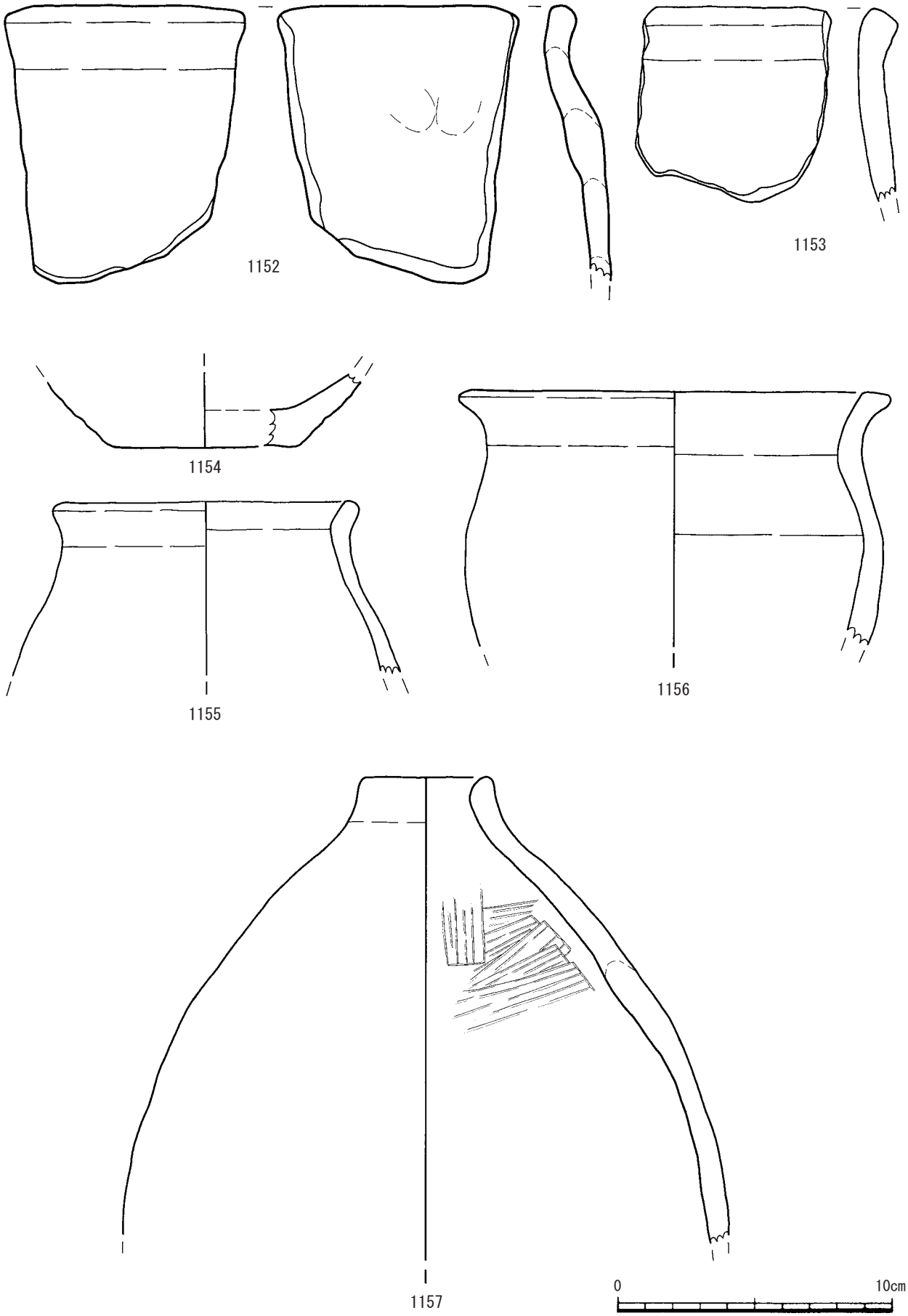
第54図　１次地区出土土器(35)27号



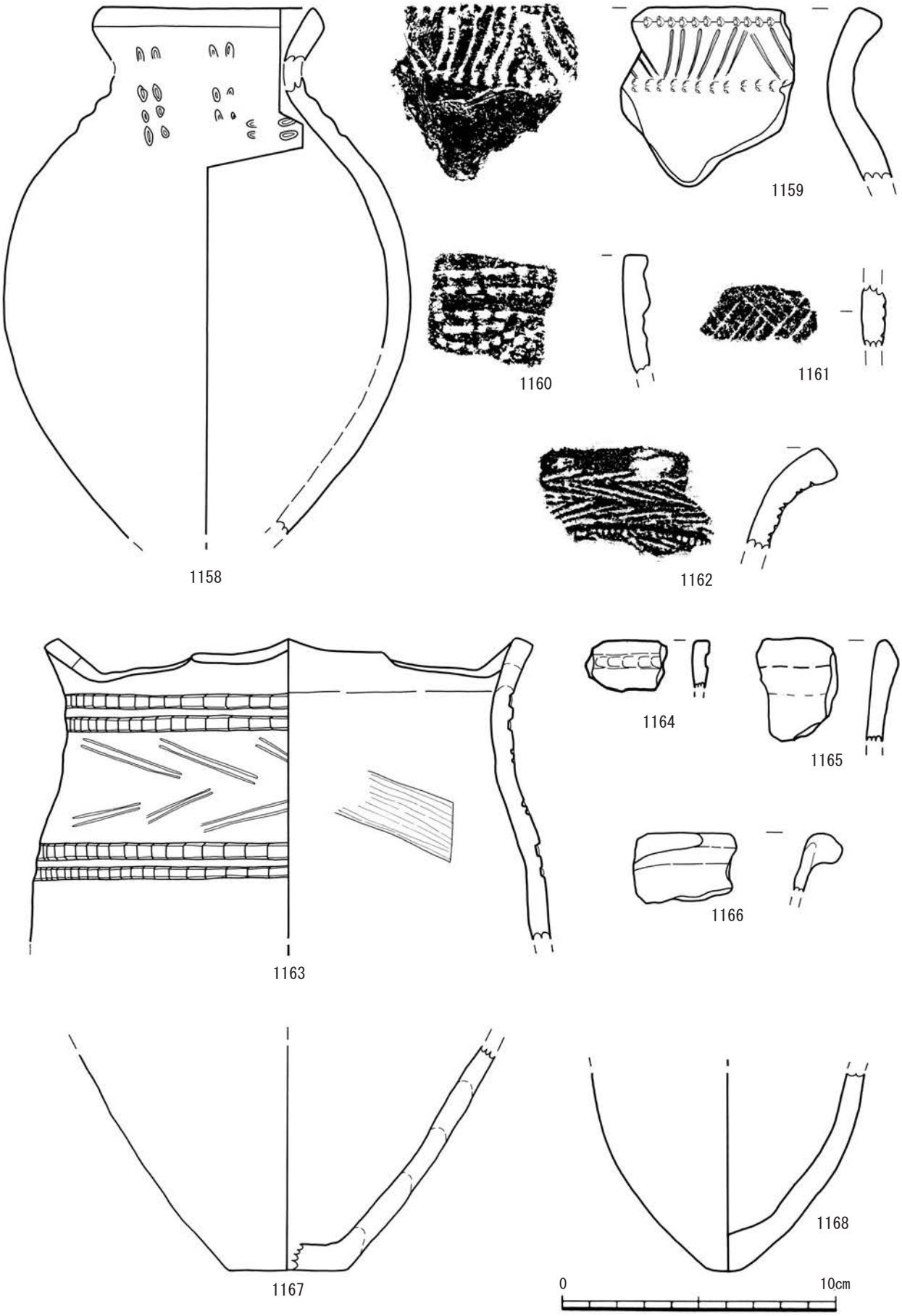
第55図　１次地区出土土器(36) ７号(1125・1135)、Ⅱ・Ⅲ層(1126～1134・1136)



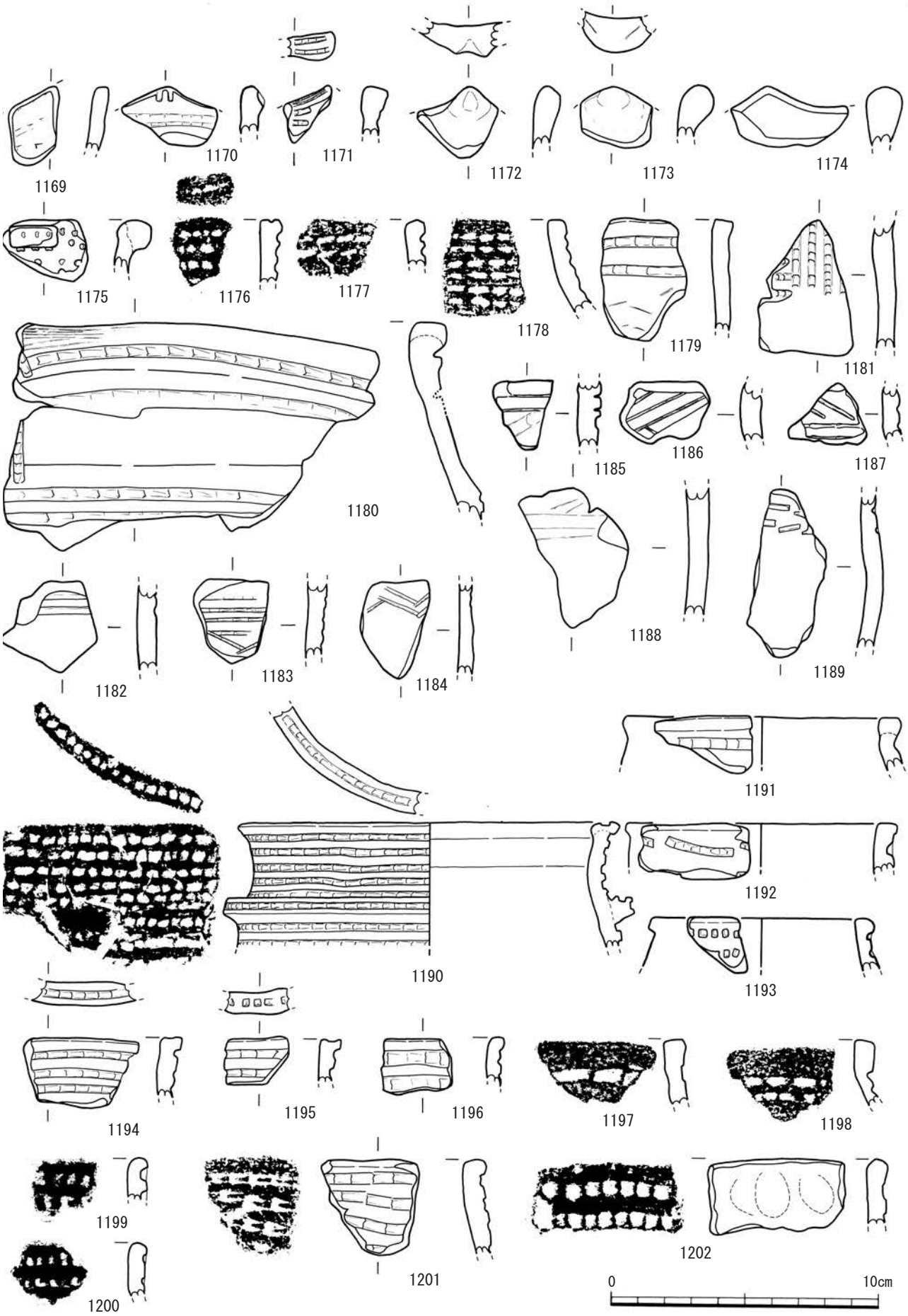
第56図　１次地区出土土器(37)Ⅲ・Ⅳ層



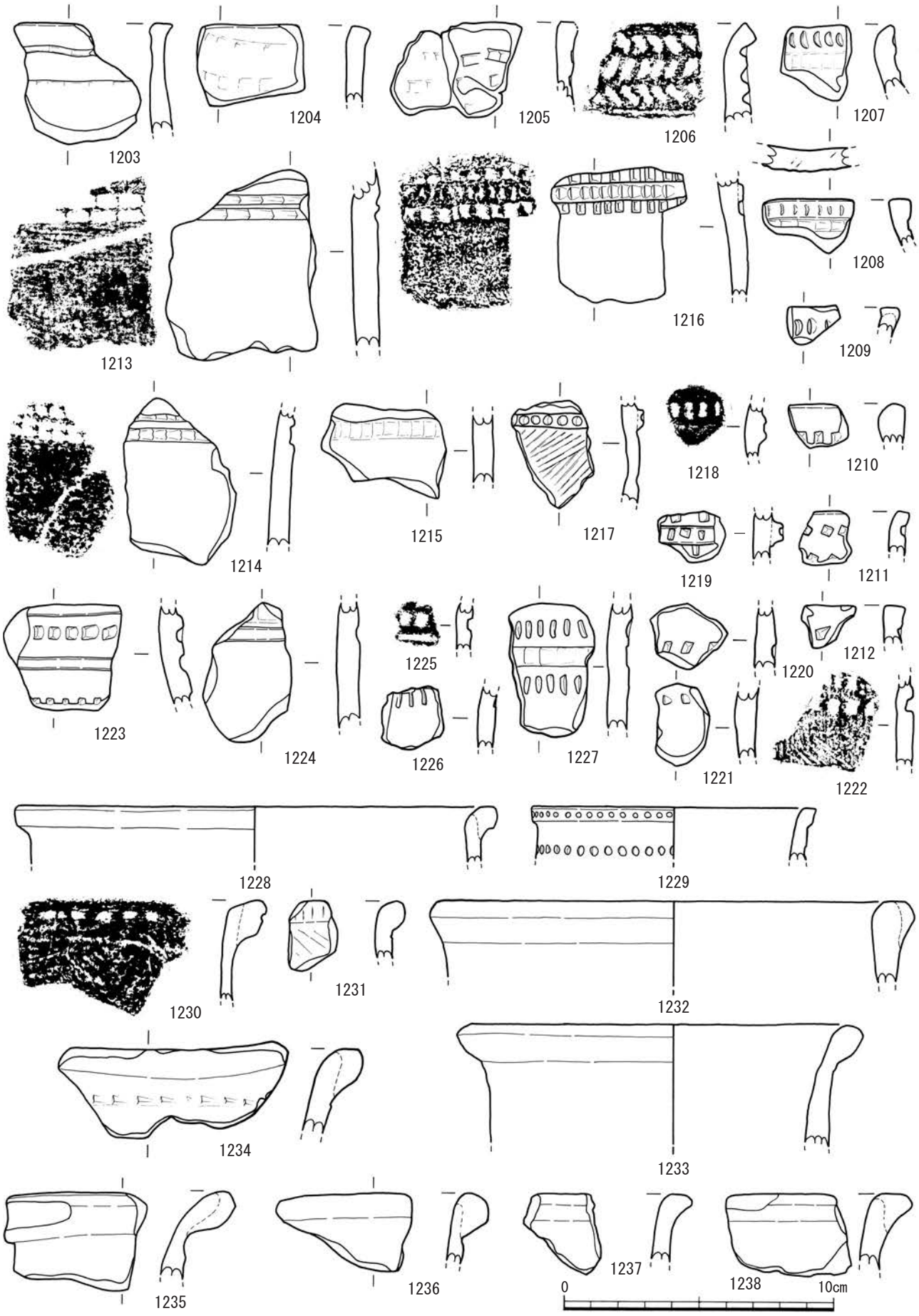
第57図　１次地区出土土器(38)Ⅲ層(1152～1154)、不明①(1155～1157)



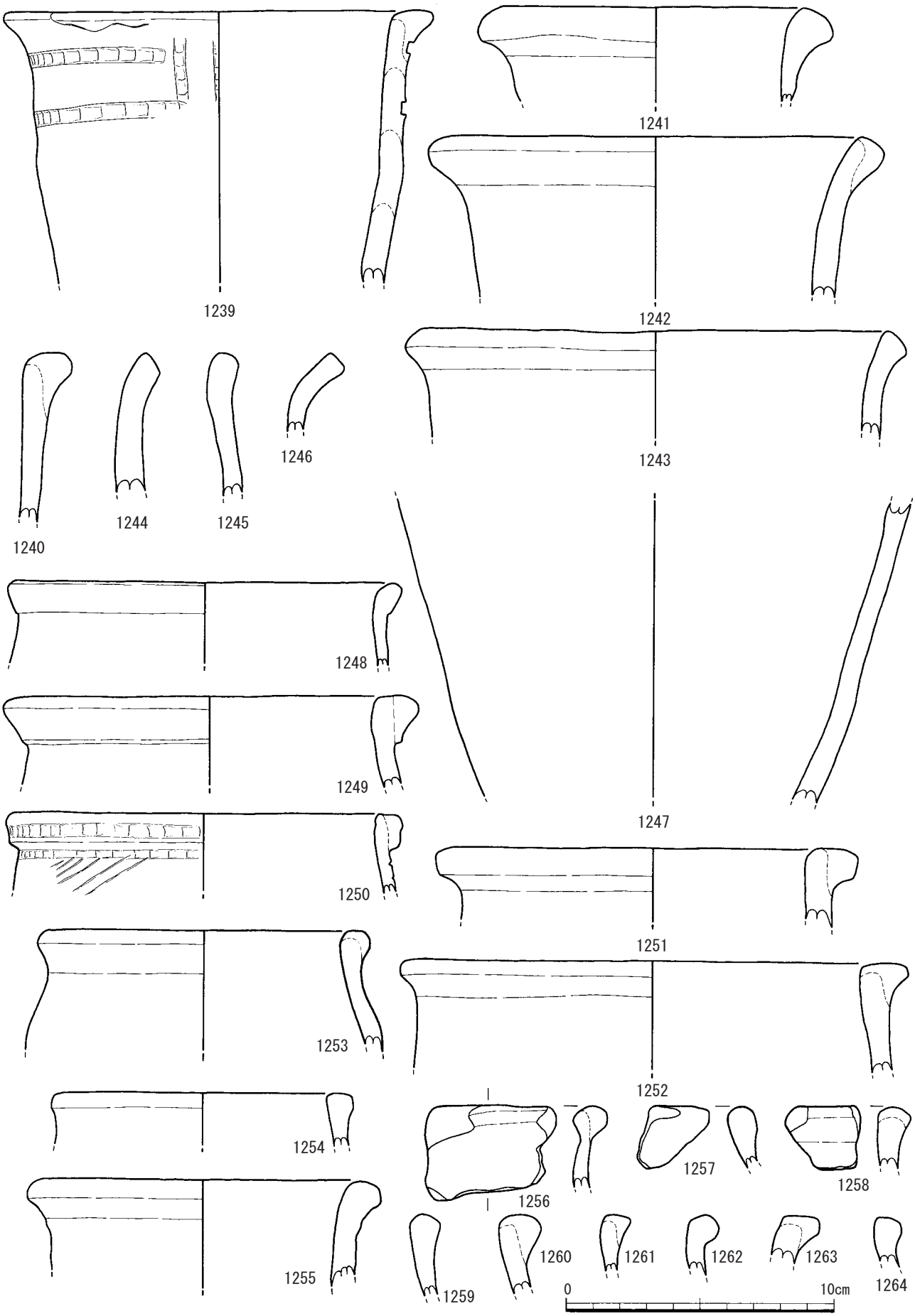
第58図　１次地区出土土器(39)不明②



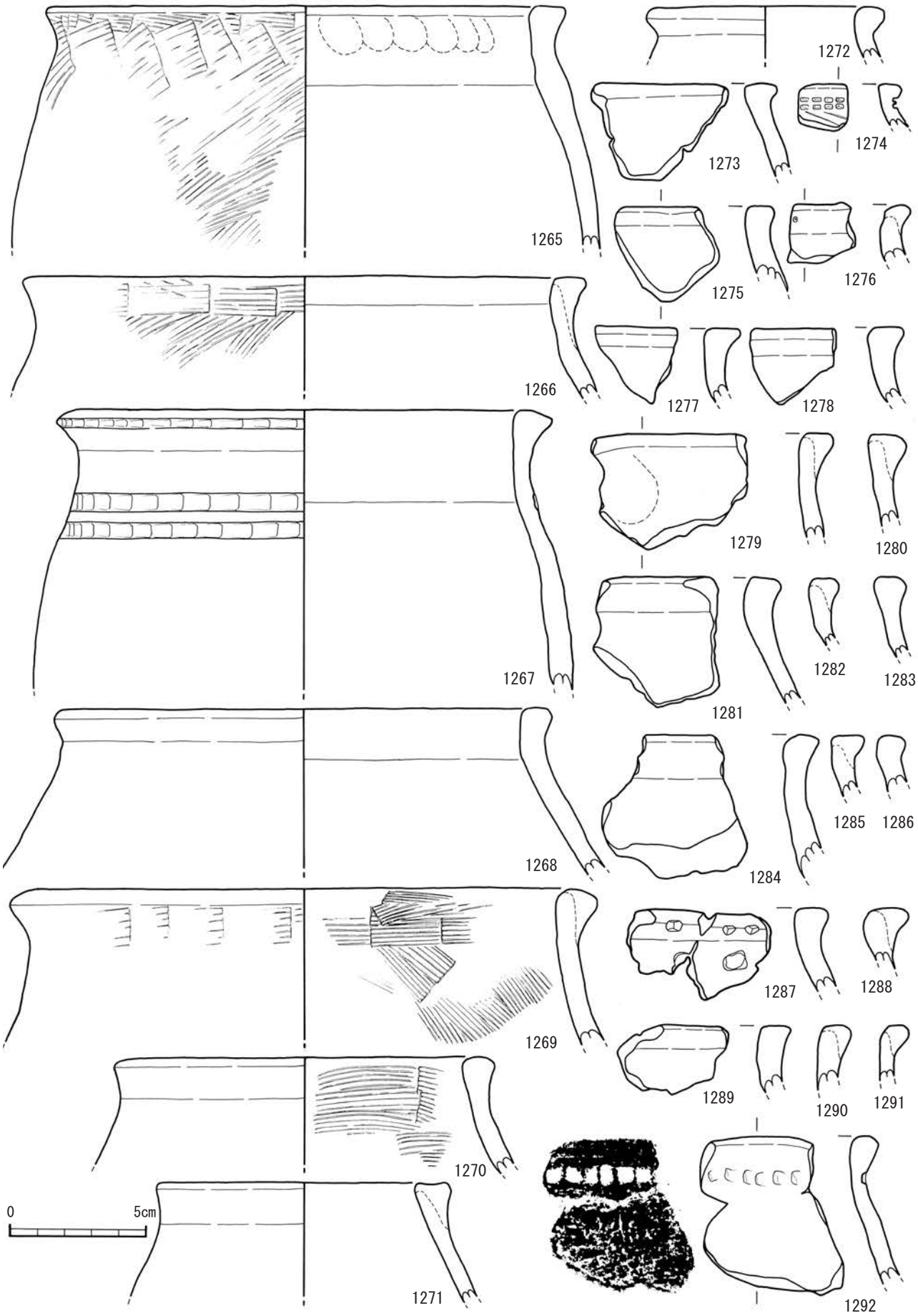
第59図　S地区出土土器（1）



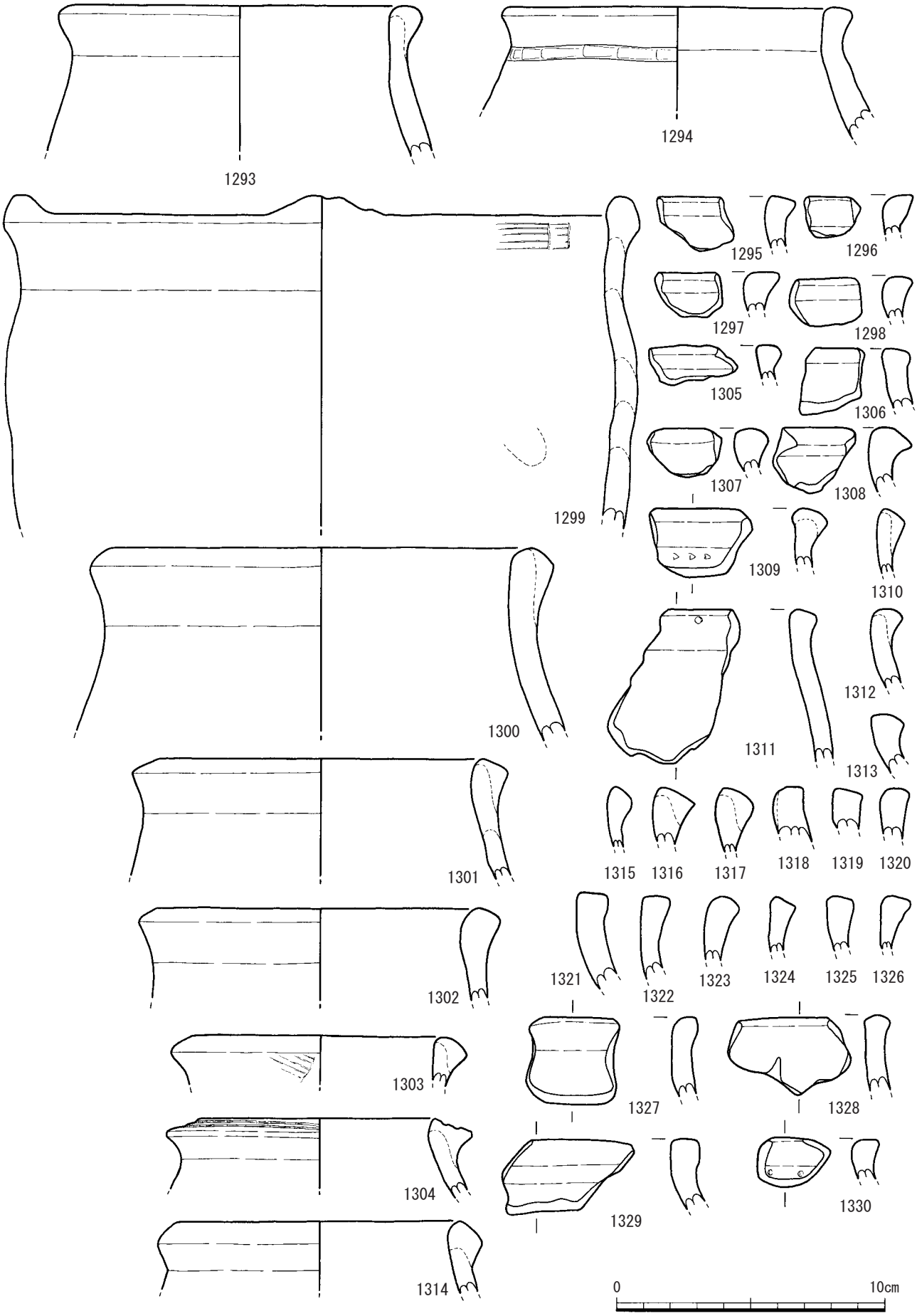
第60図　Ｓ地区出土土器（２）



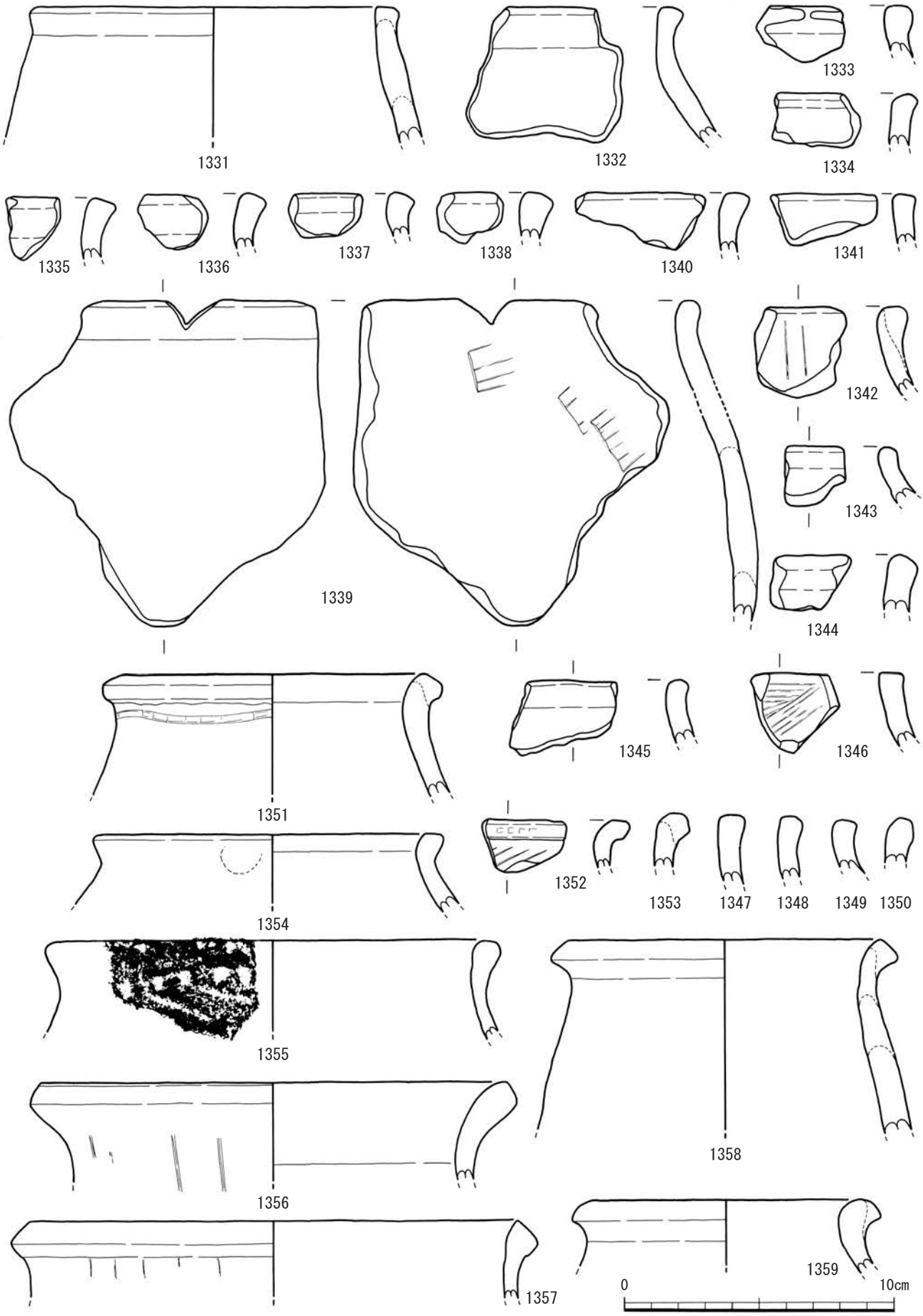
第61図　Ｓ地区出土土器（３）



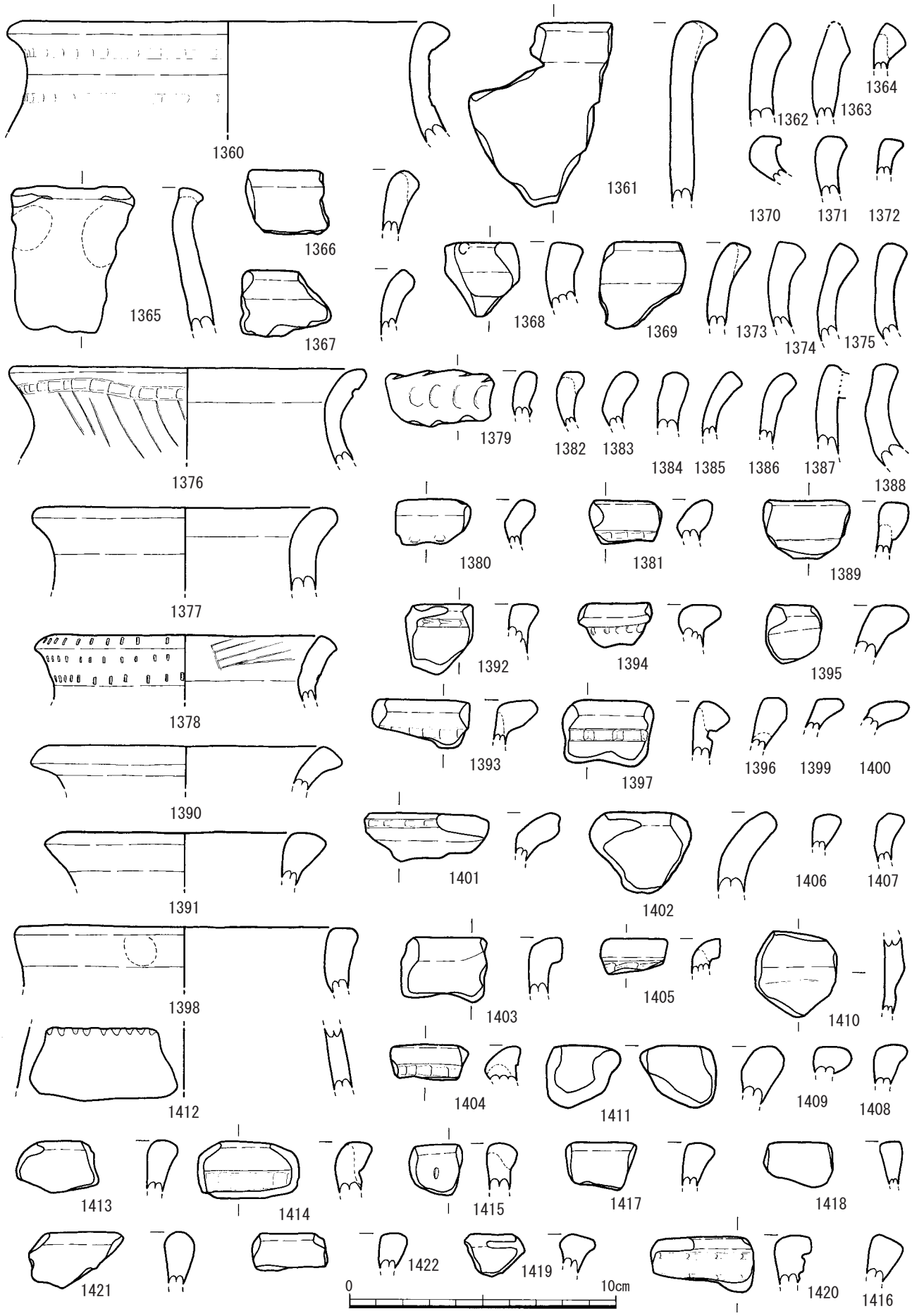
第62図　Ｓ地区出土土器（４）



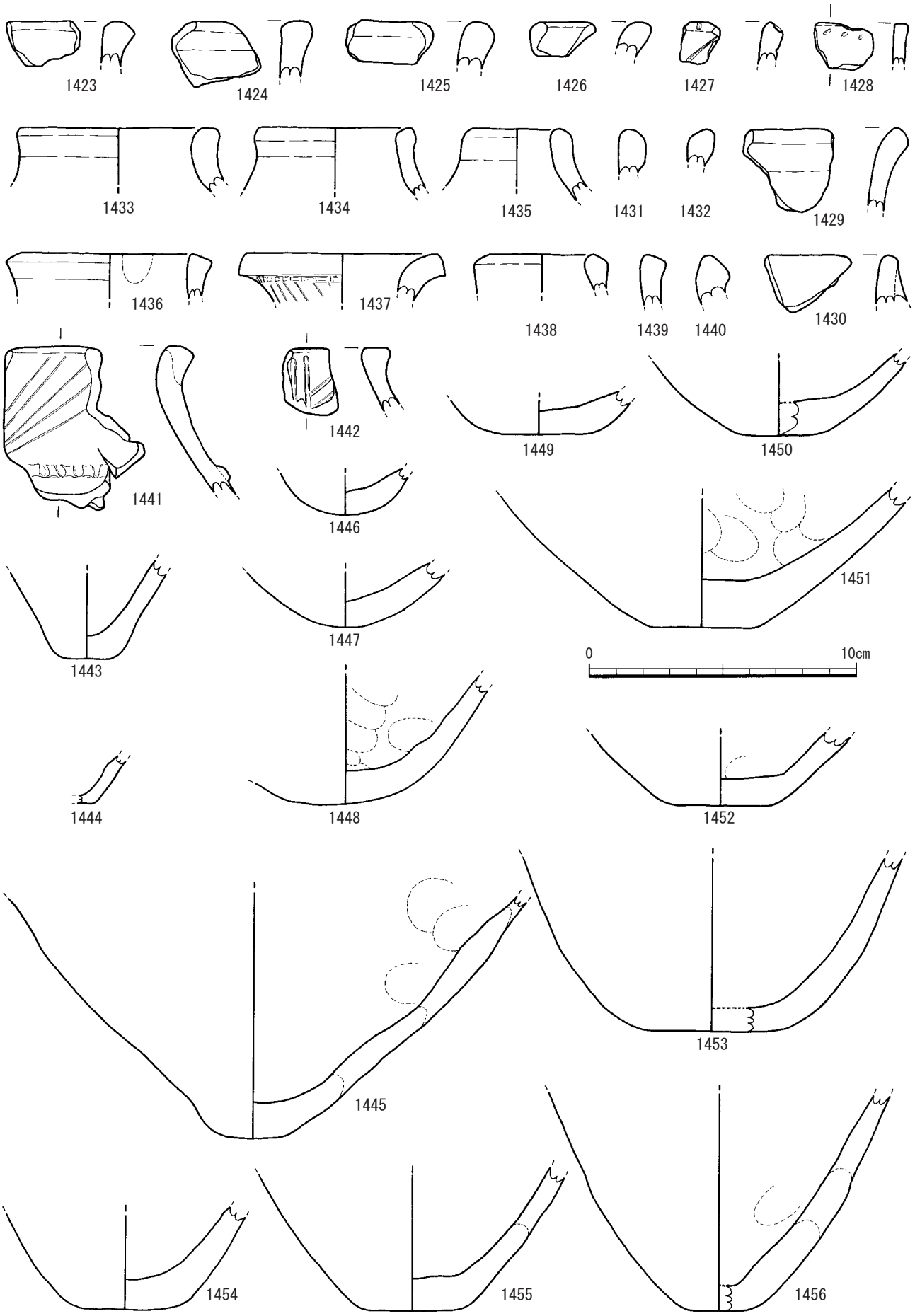
第63図　Ｓ地区出土土器（５）



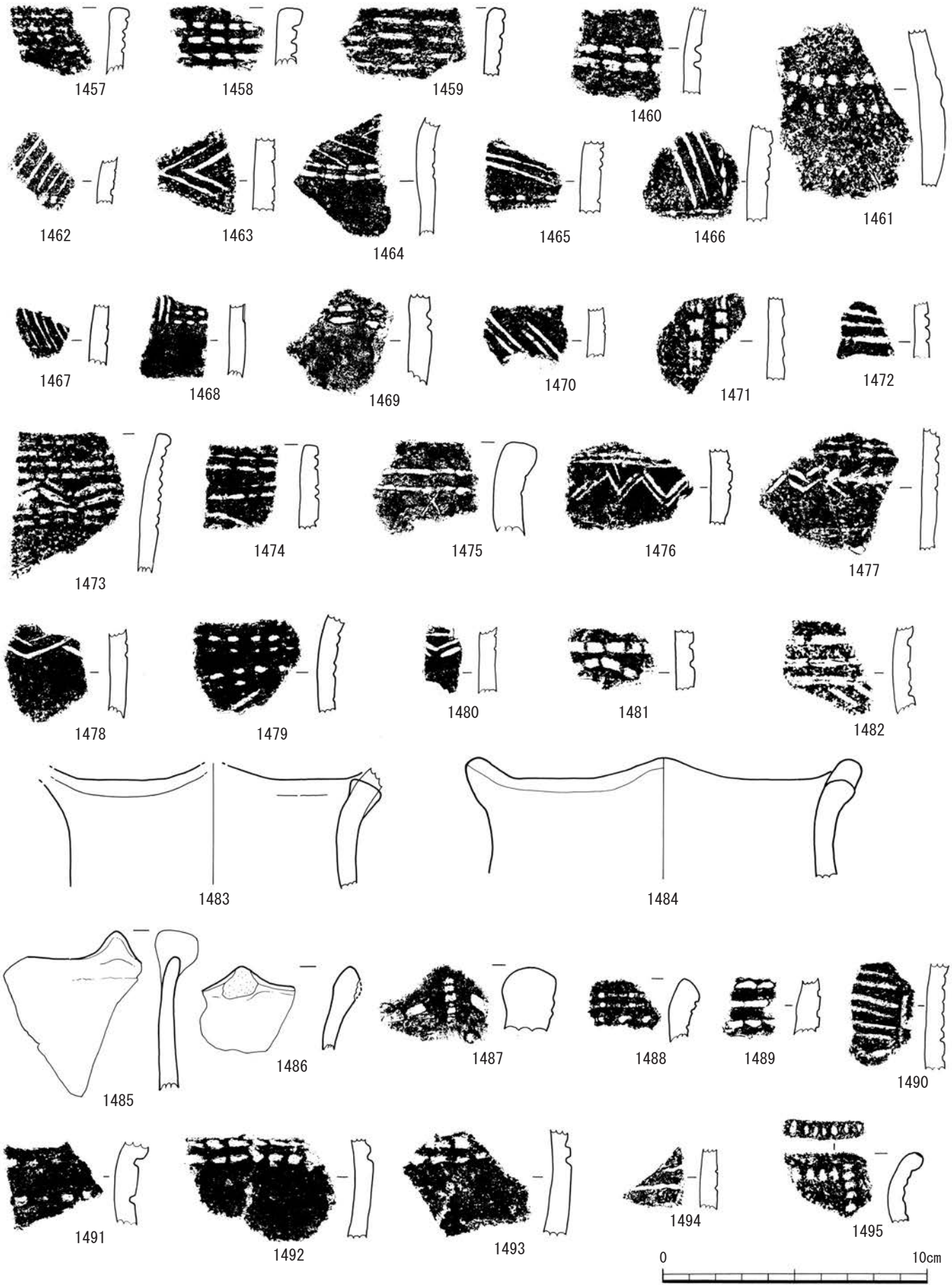
第64図　Ｓ地区出土土器（６）



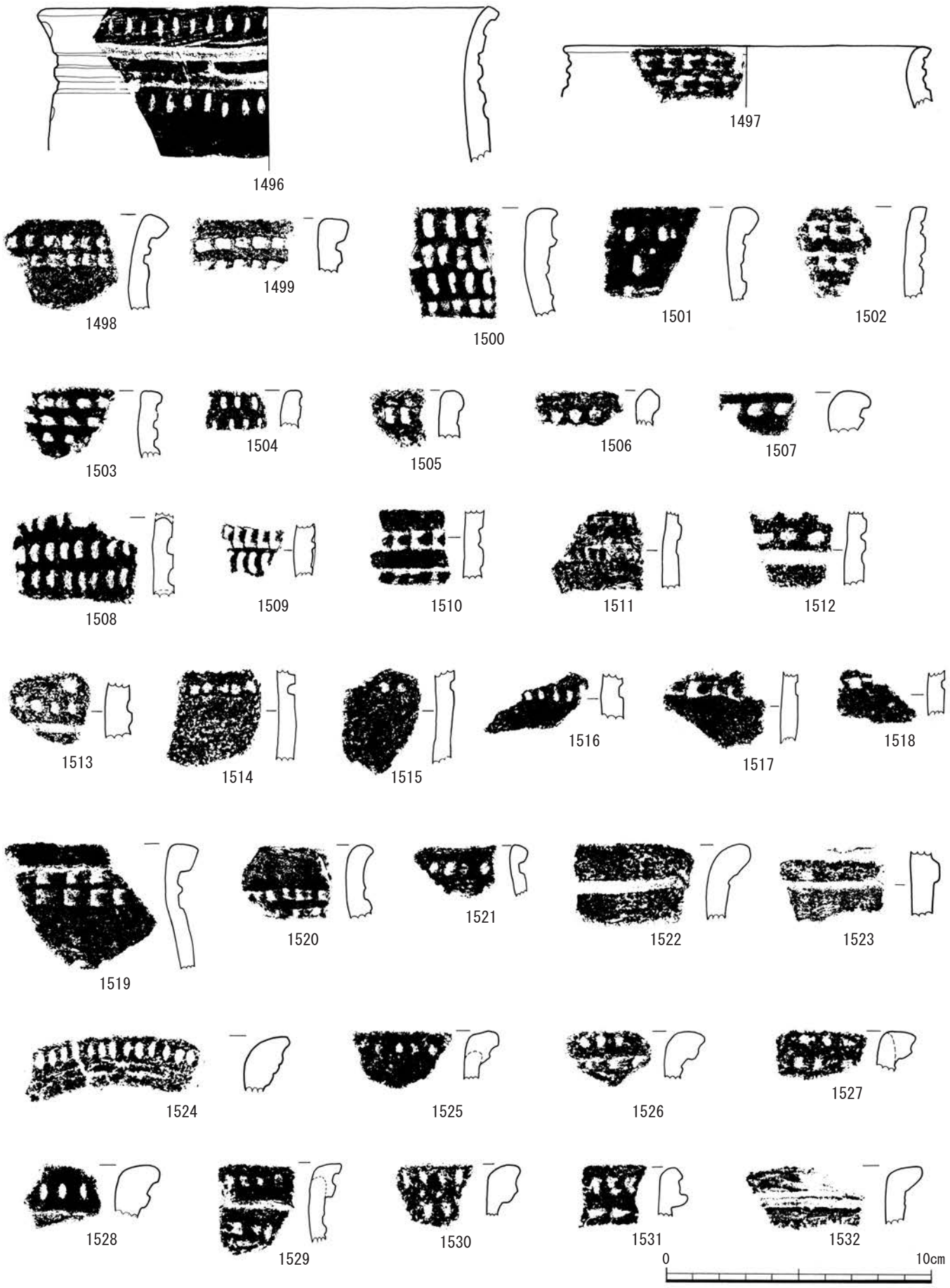
第65図　Ｓ地区出土土器（７）



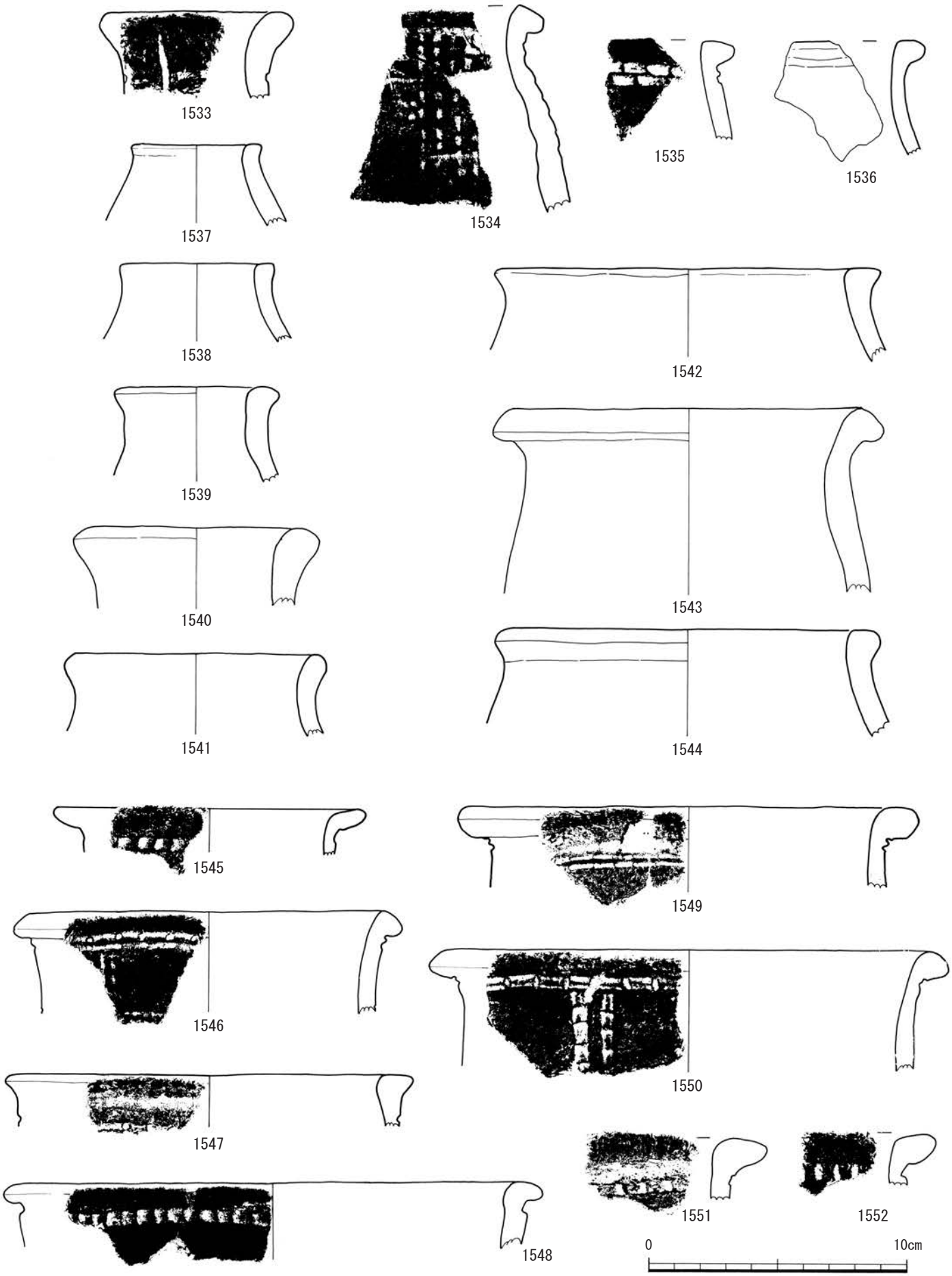
第66図　S地区出土土器(8)1423～1443・1445～1456、1次地区14号出土土器1444



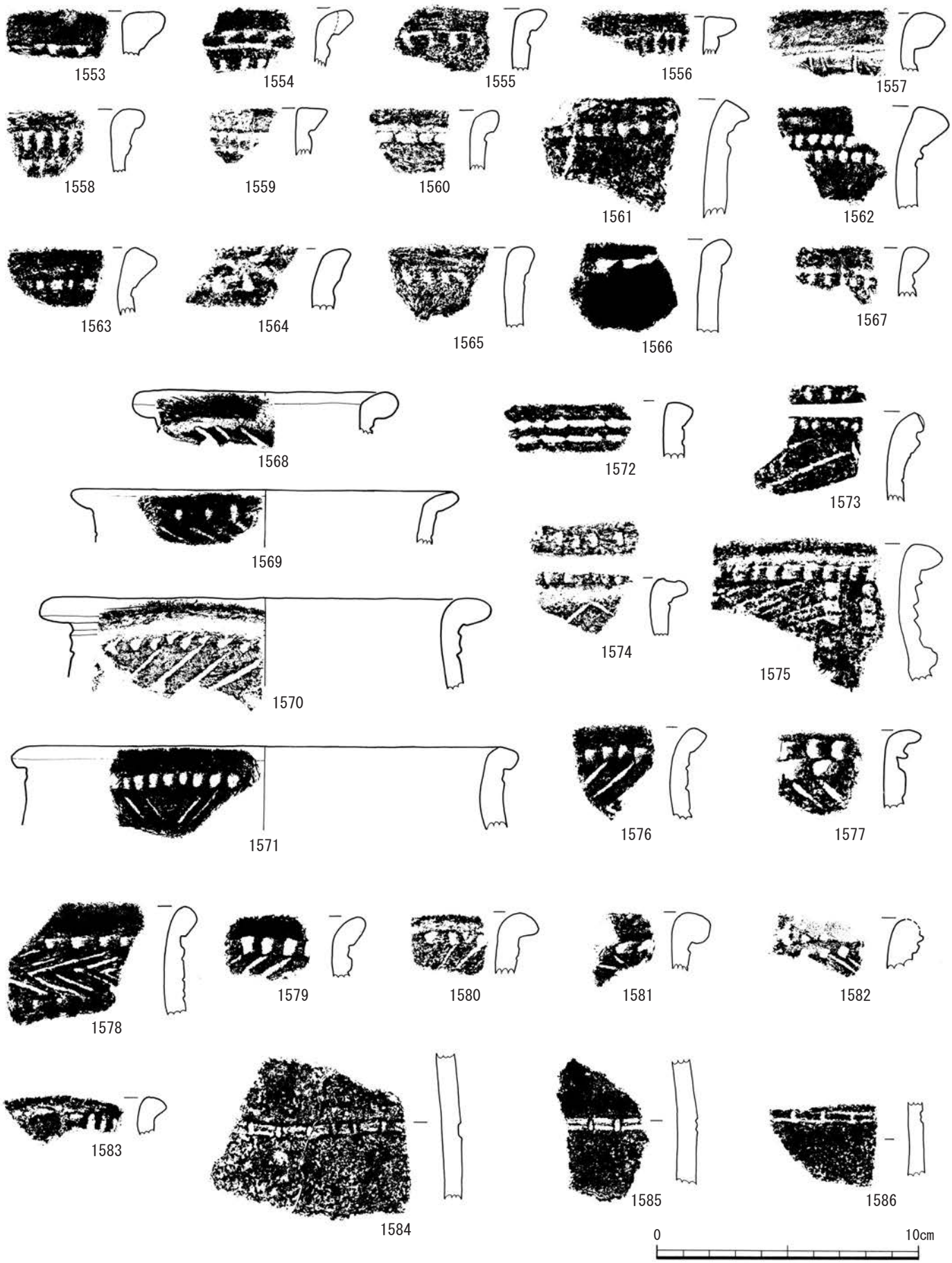
第67図　P地区出土土器（1）Ⅱ層



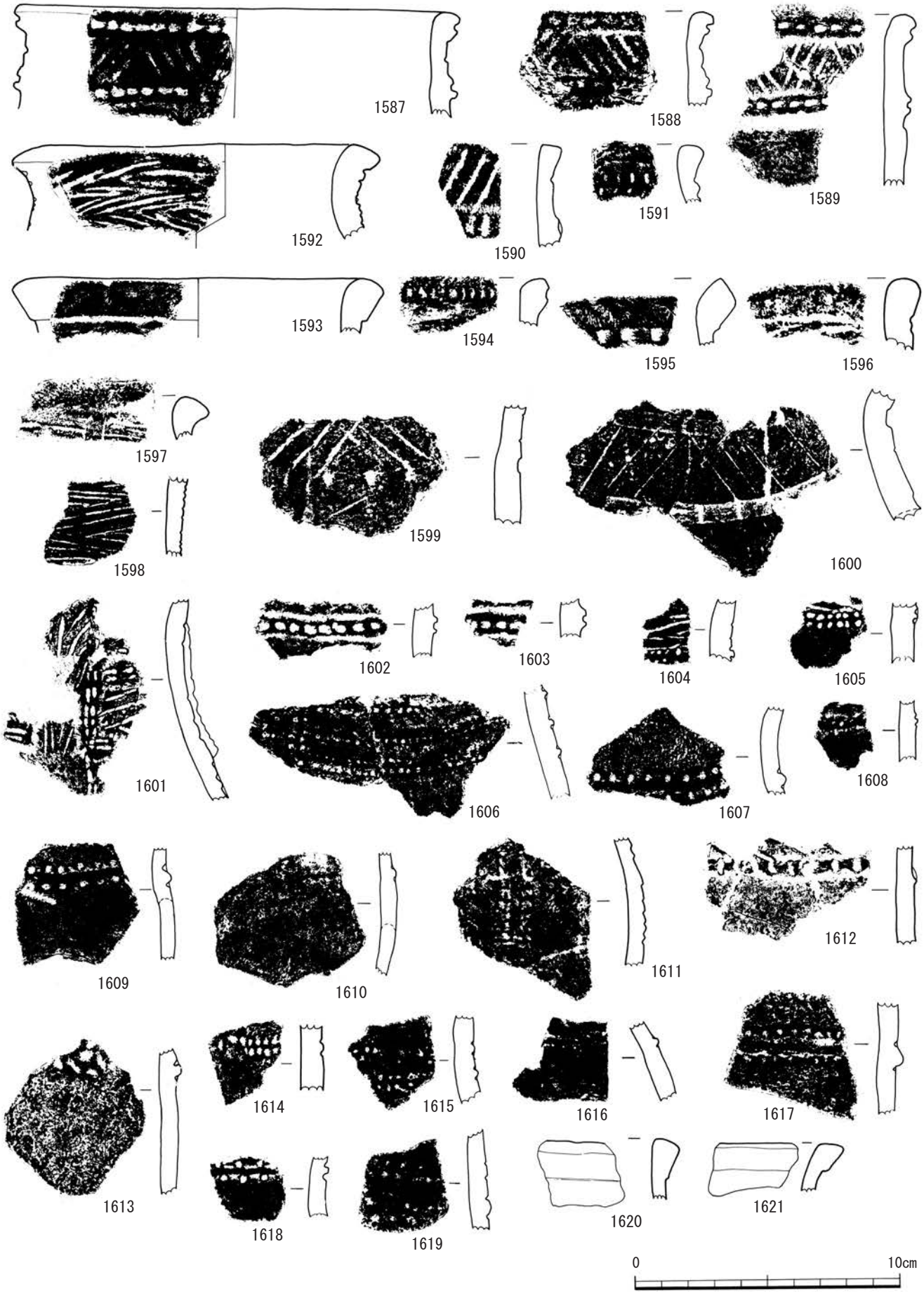
第68図　Ｐ地区出土土器（２）Ⅱ層



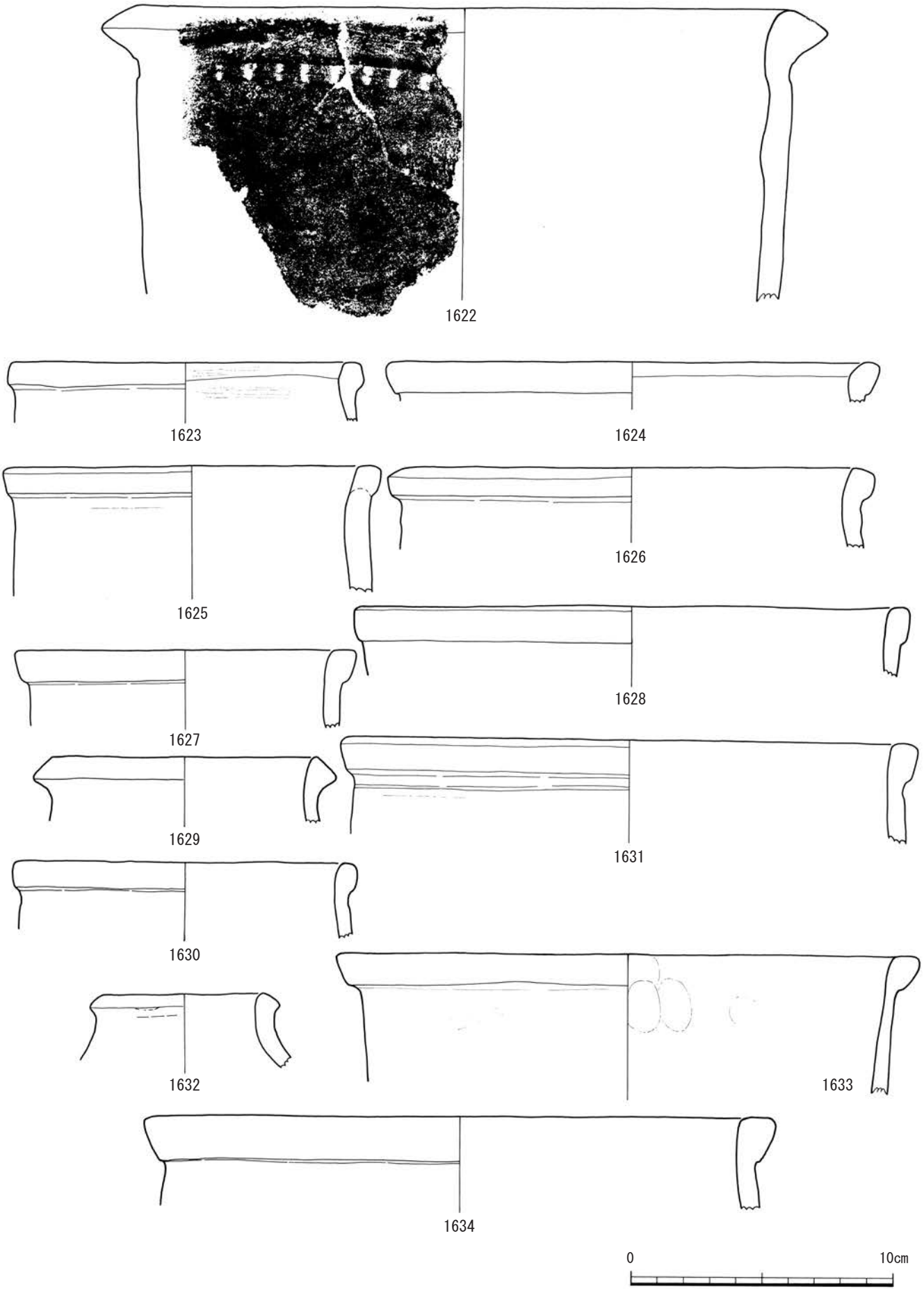
第69図　Ｐ地区出土土器（３）Ⅱ層



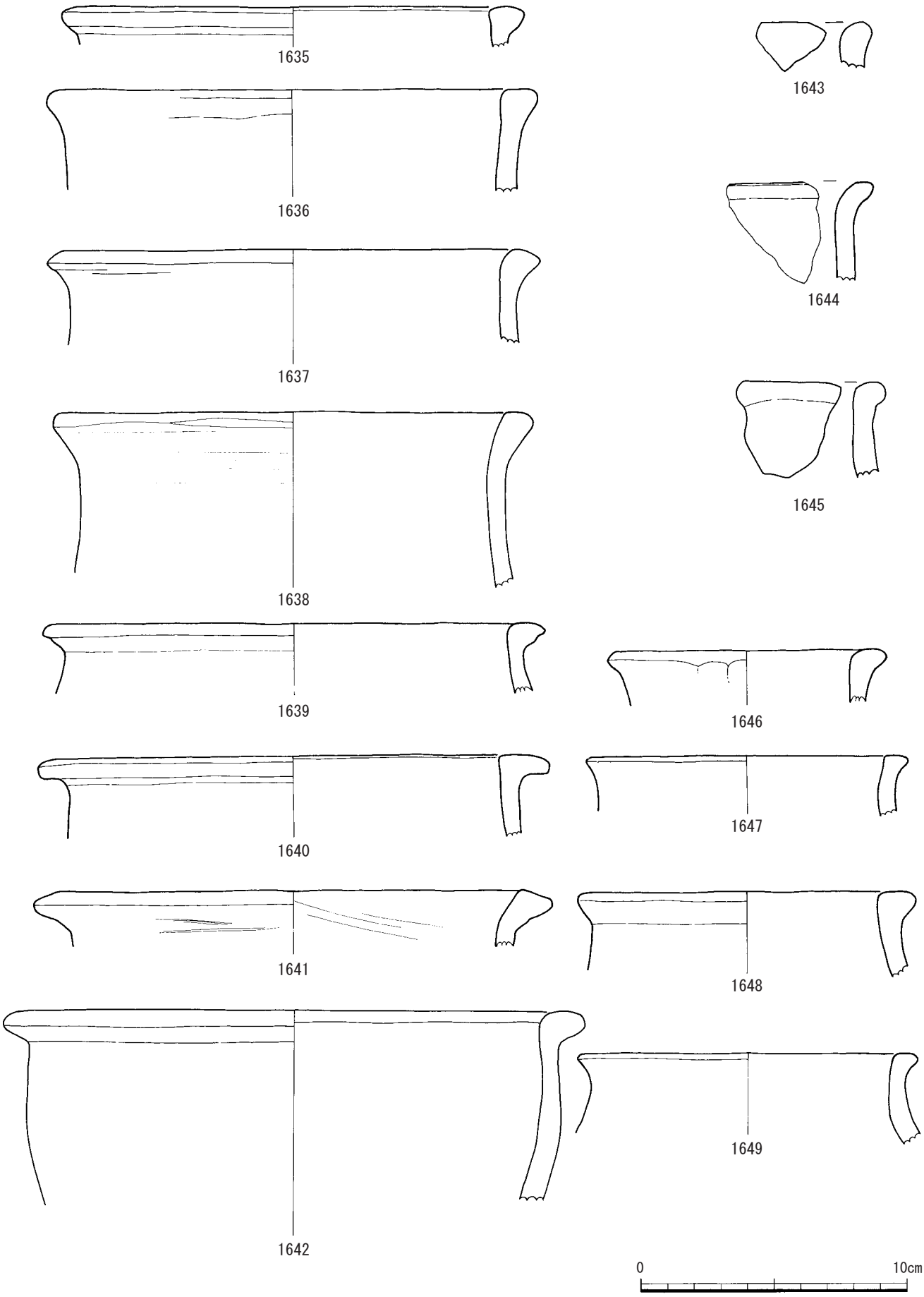
第70図　P地区出土土器（4）Ⅱ層



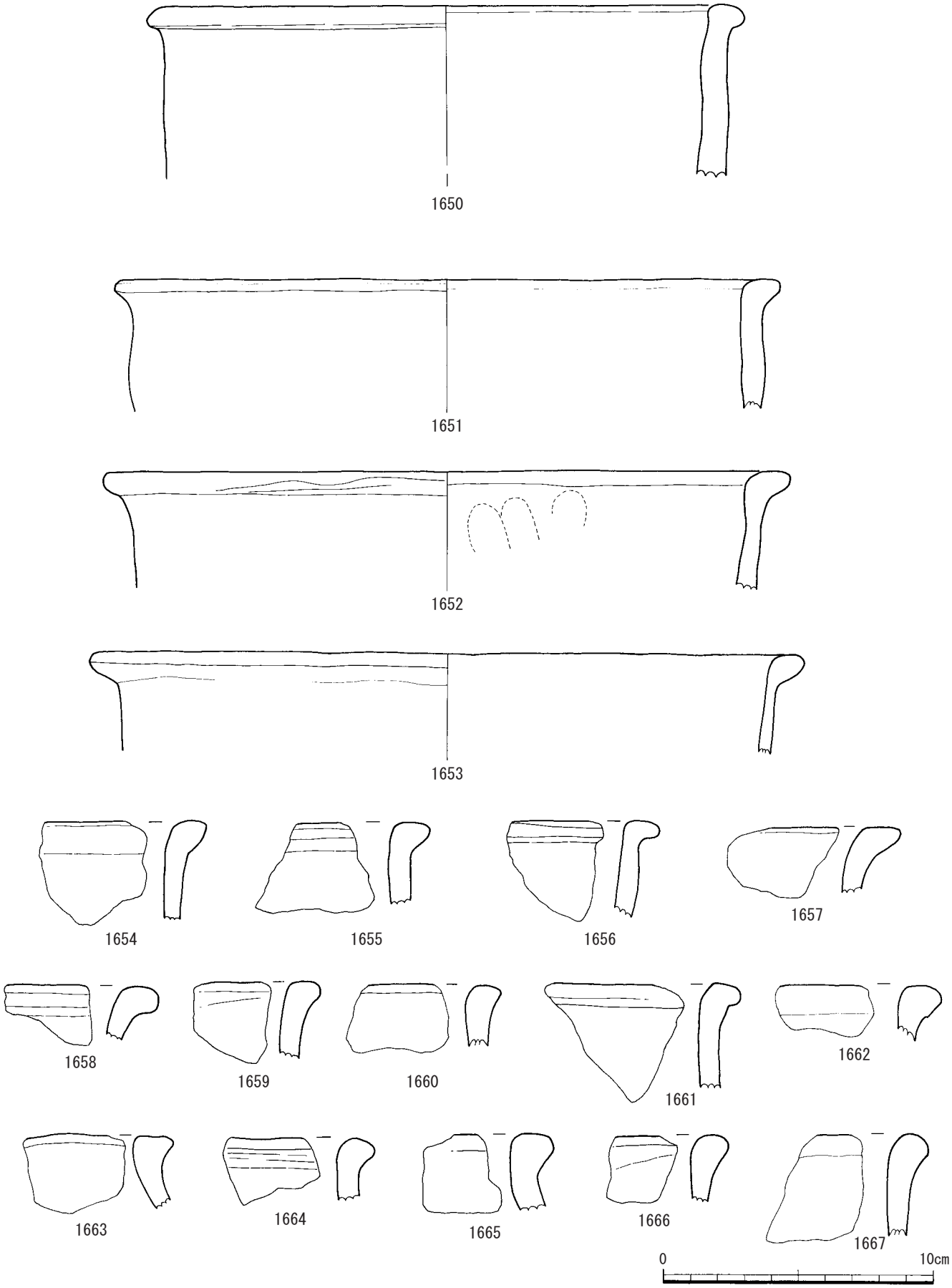
第71図　P地区出土土器（5）Ⅱ層



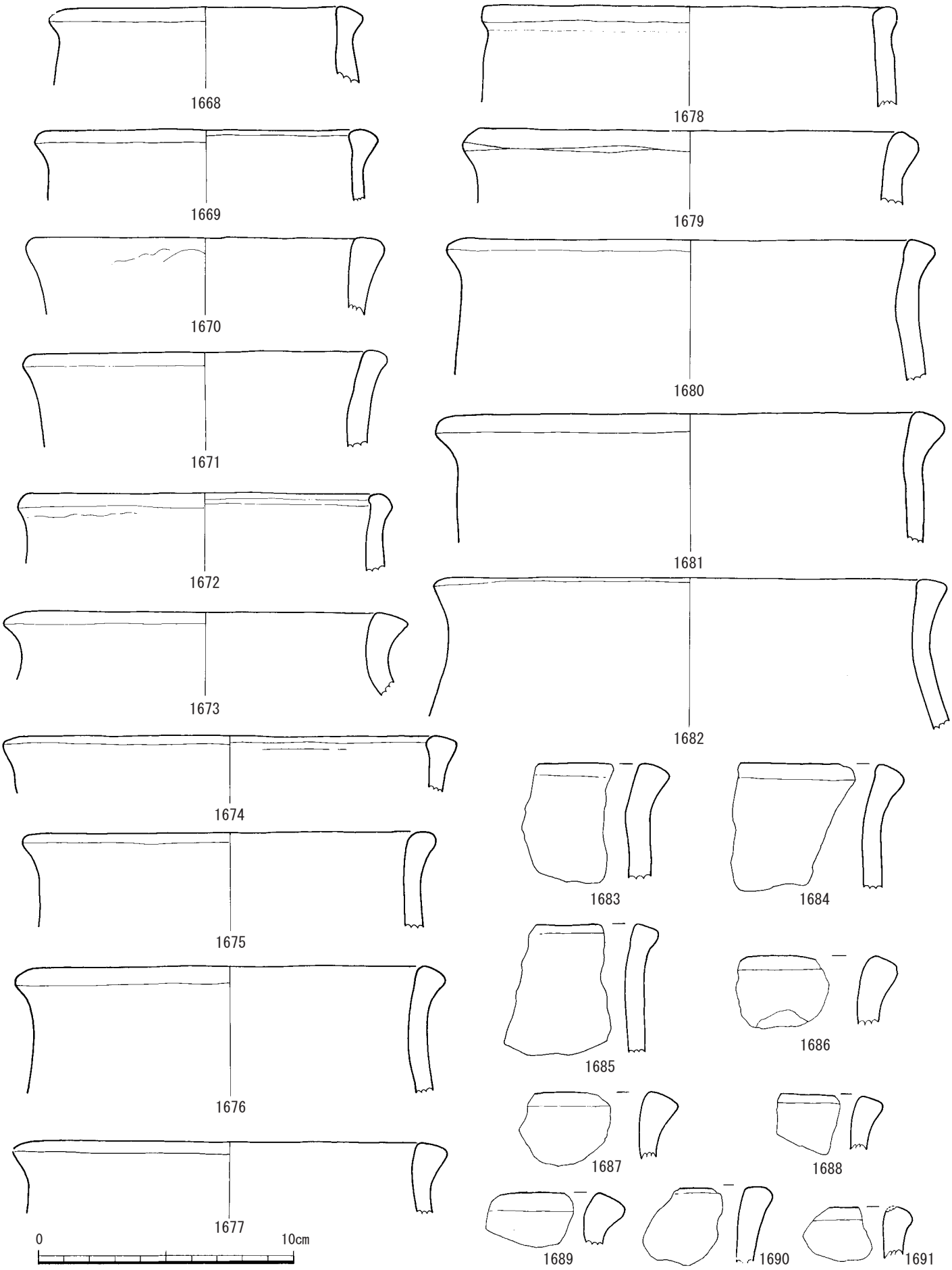
第72図　Ｐ地区出土土器（６）Ⅱ層



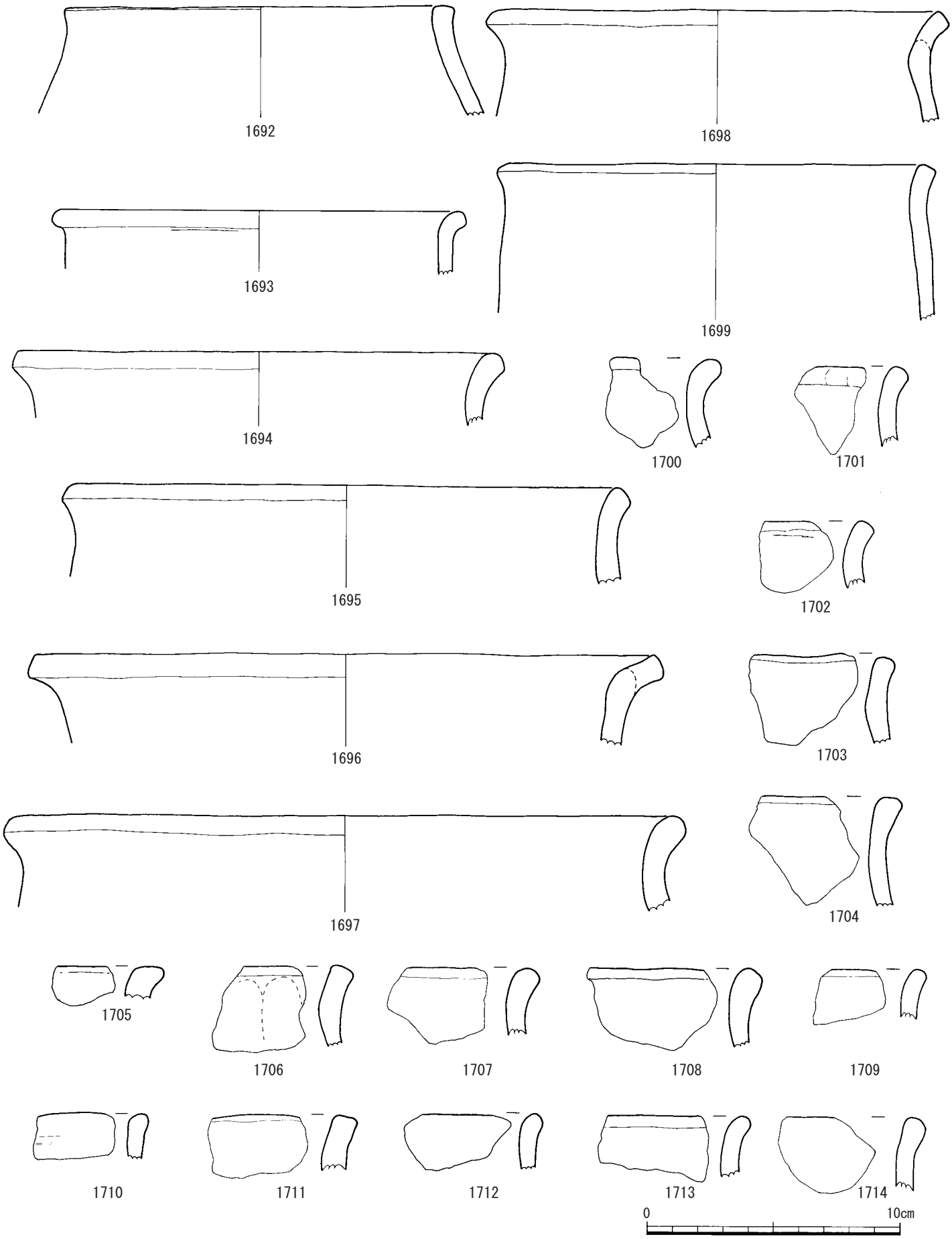
第73図　Ｐ地区出土土器（７）Ⅱ層



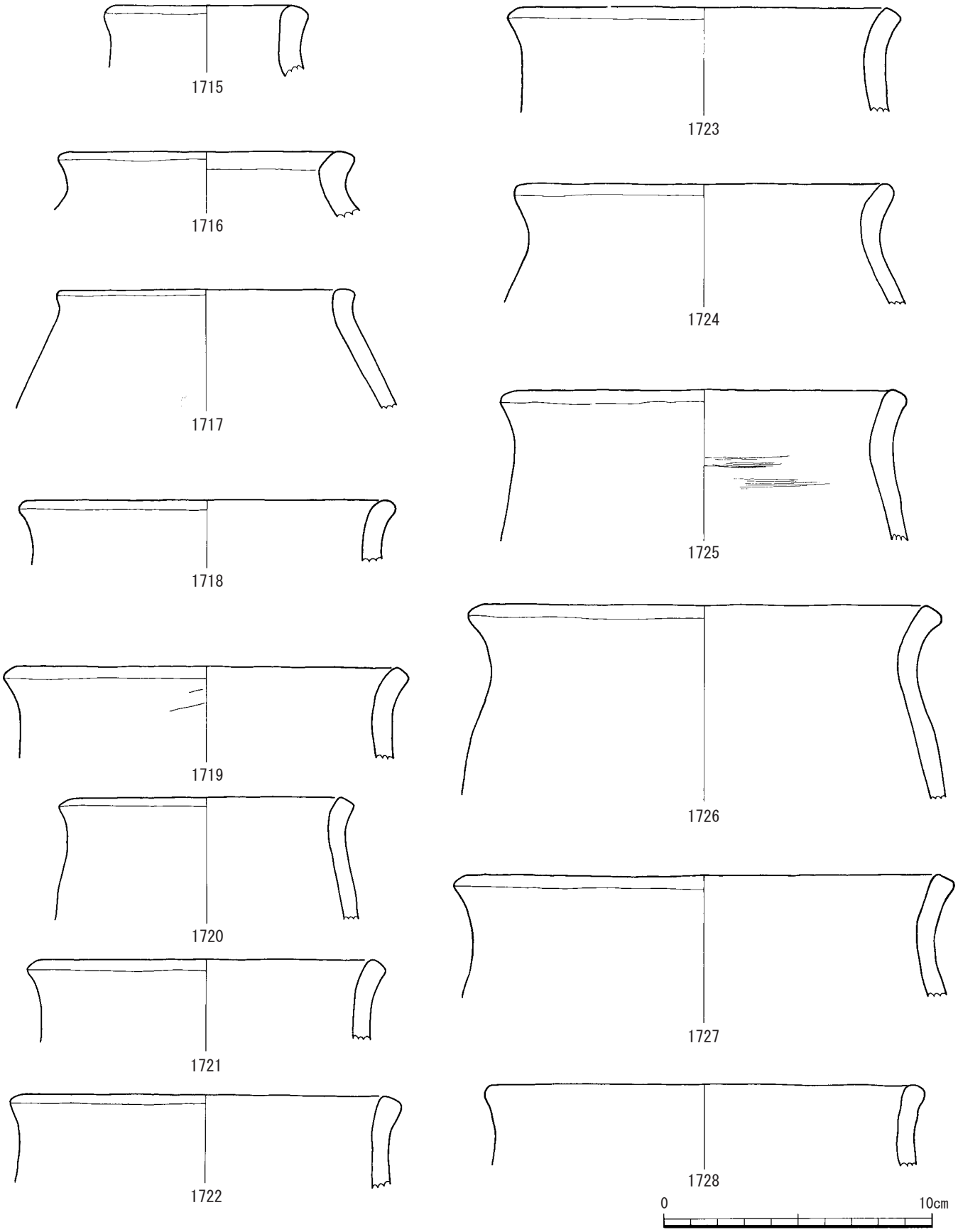
第74図　P地区出土土器（8）Ⅱ層



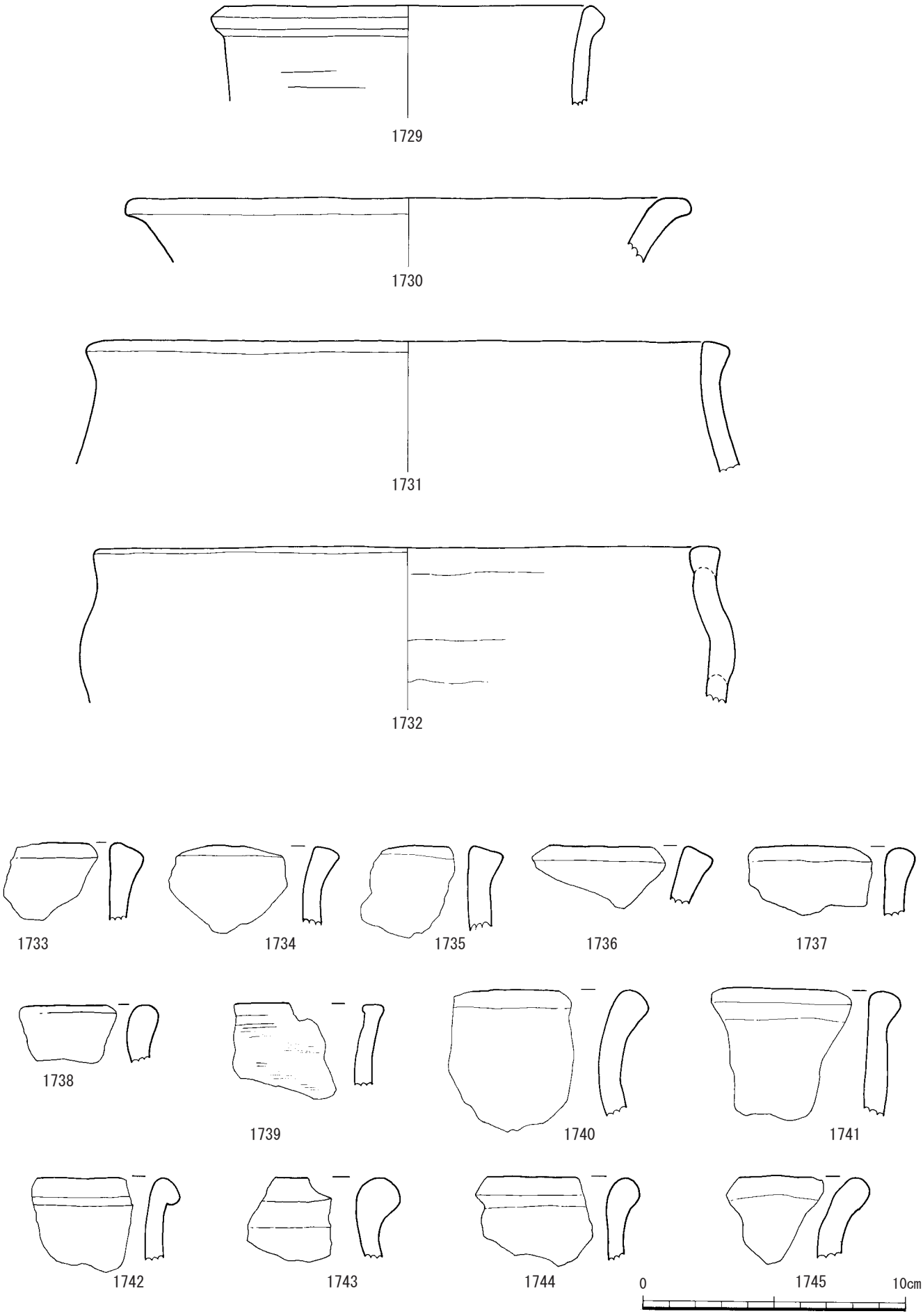
第75図　Ｐ地区出土土器（９）Ⅱ層



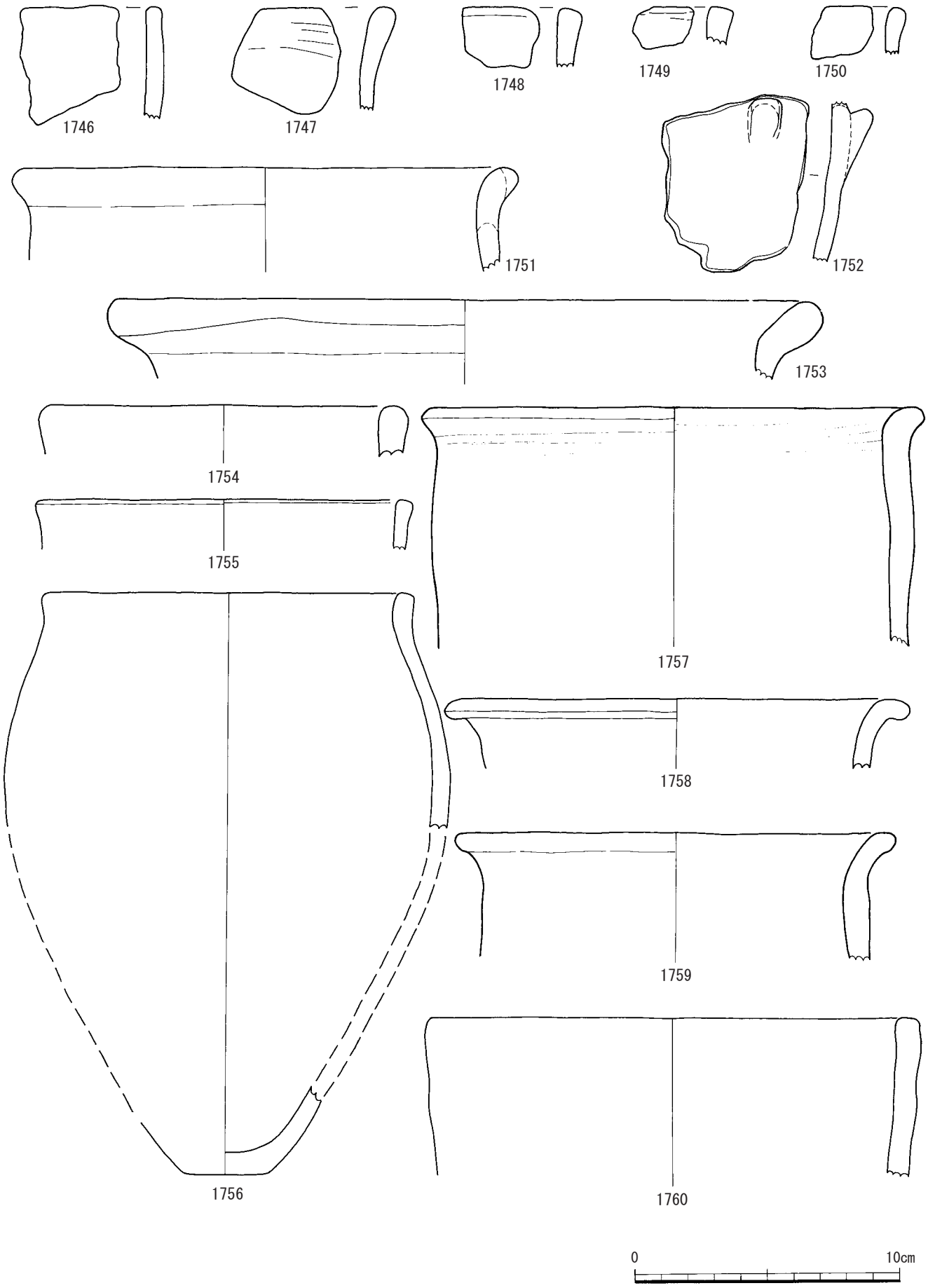
第76図　P地区出土土器(10) Ⅱ層



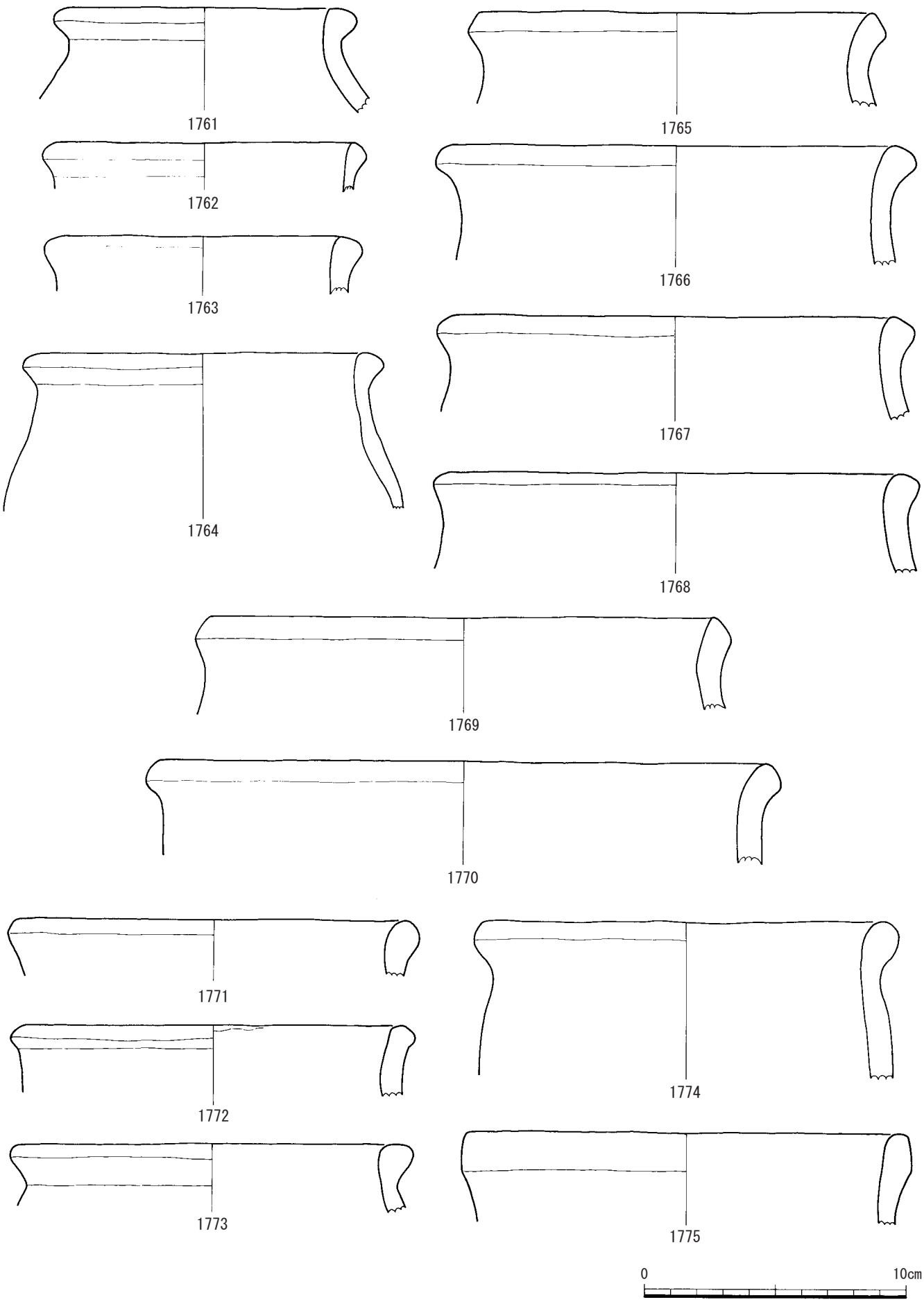
第77図　P地区出土土器(11) Ⅱ層



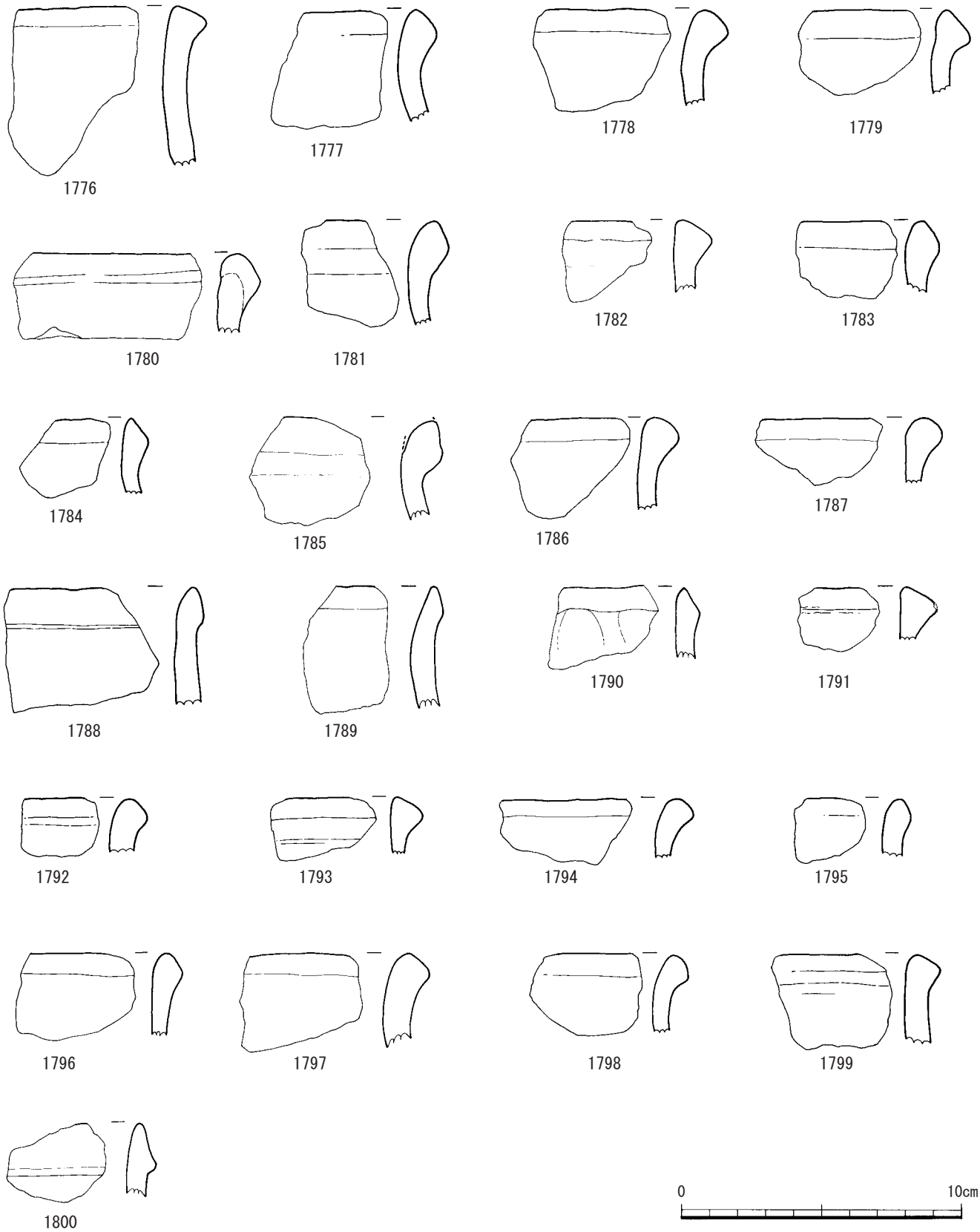
第78図　P地区出土土器(12) Ⅱ層



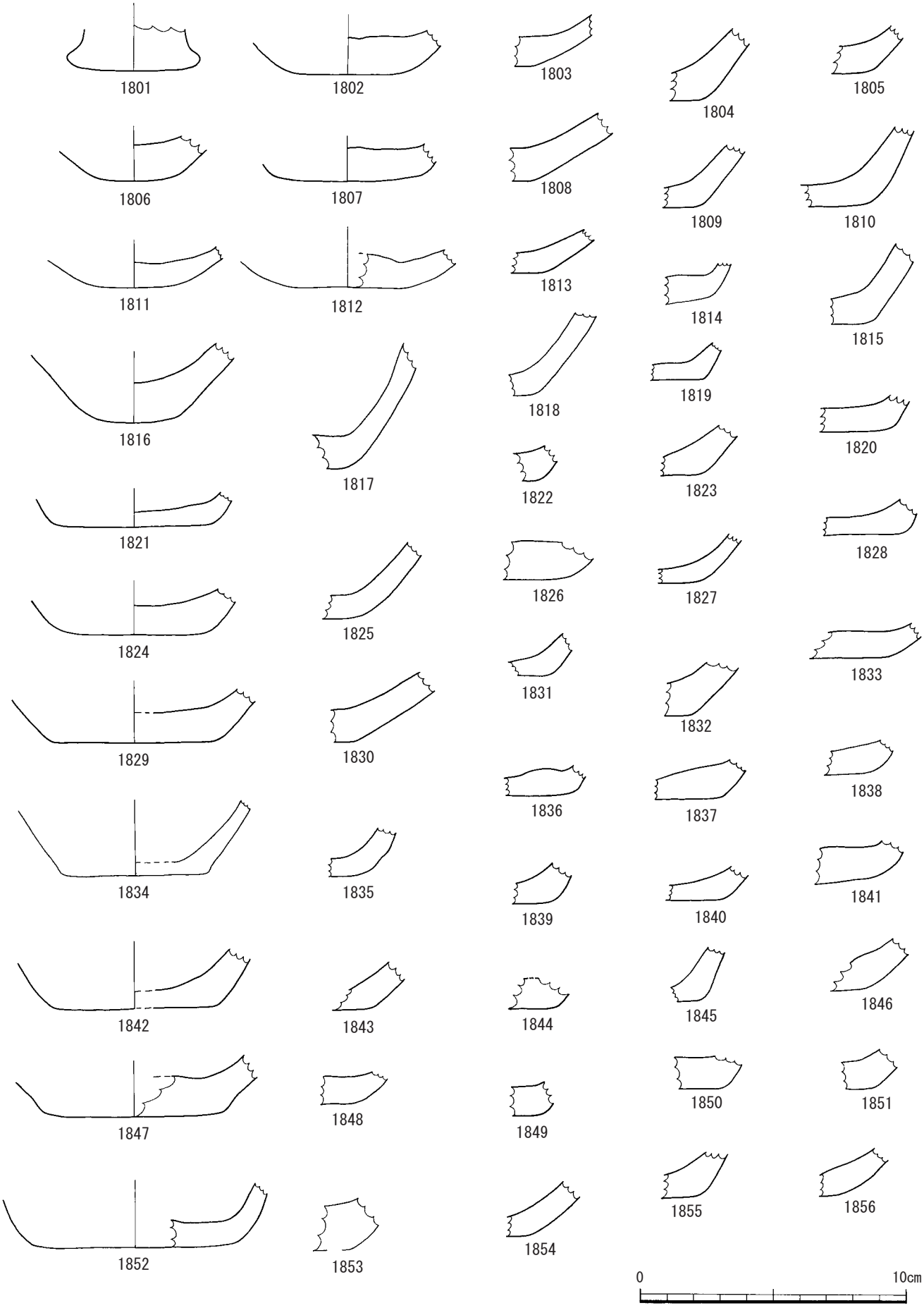
第79図　P地区出土土器(13) Ⅱ層



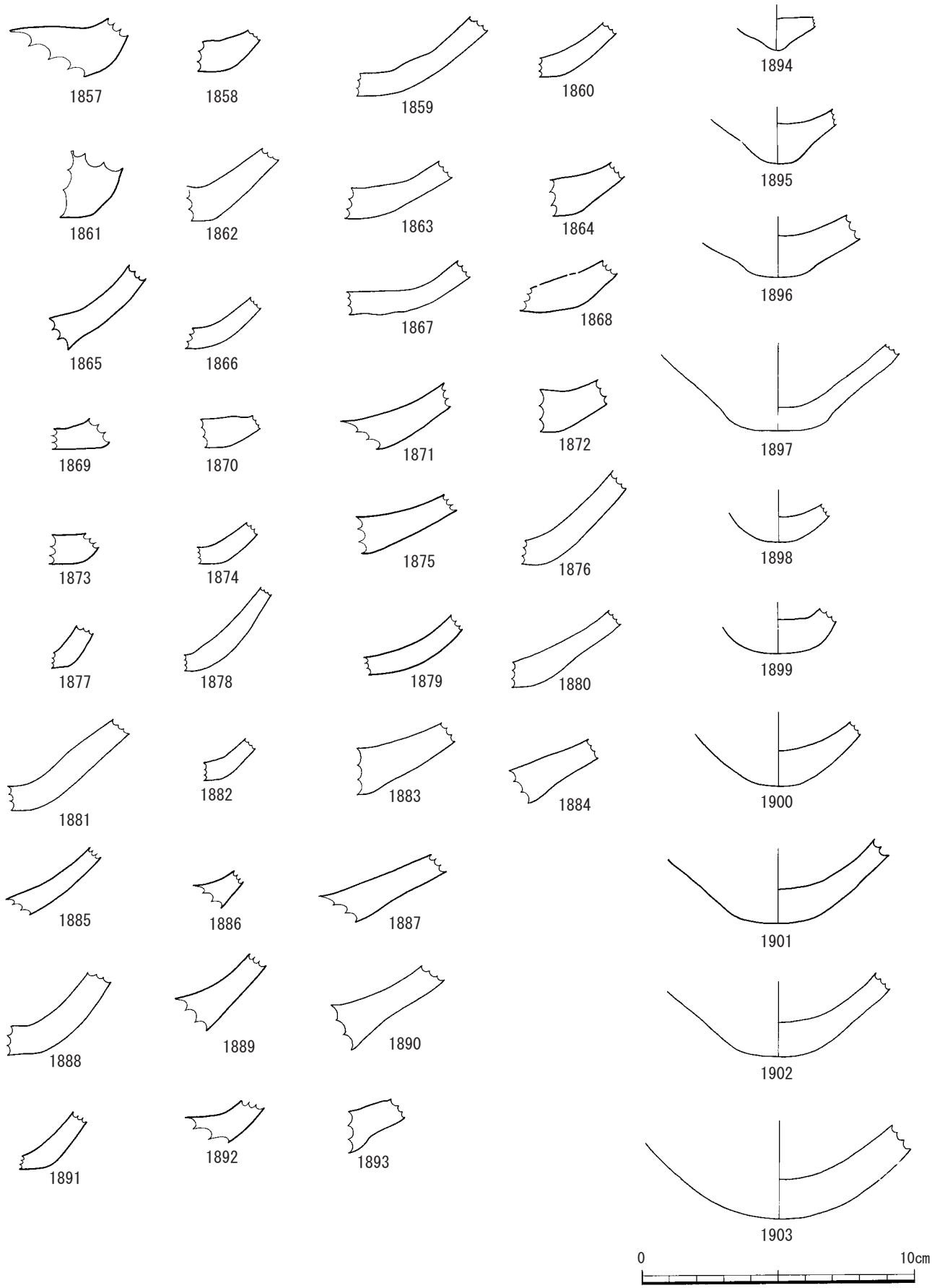
第80図　Ｐ地区出土土器(14)　Ⅱ層



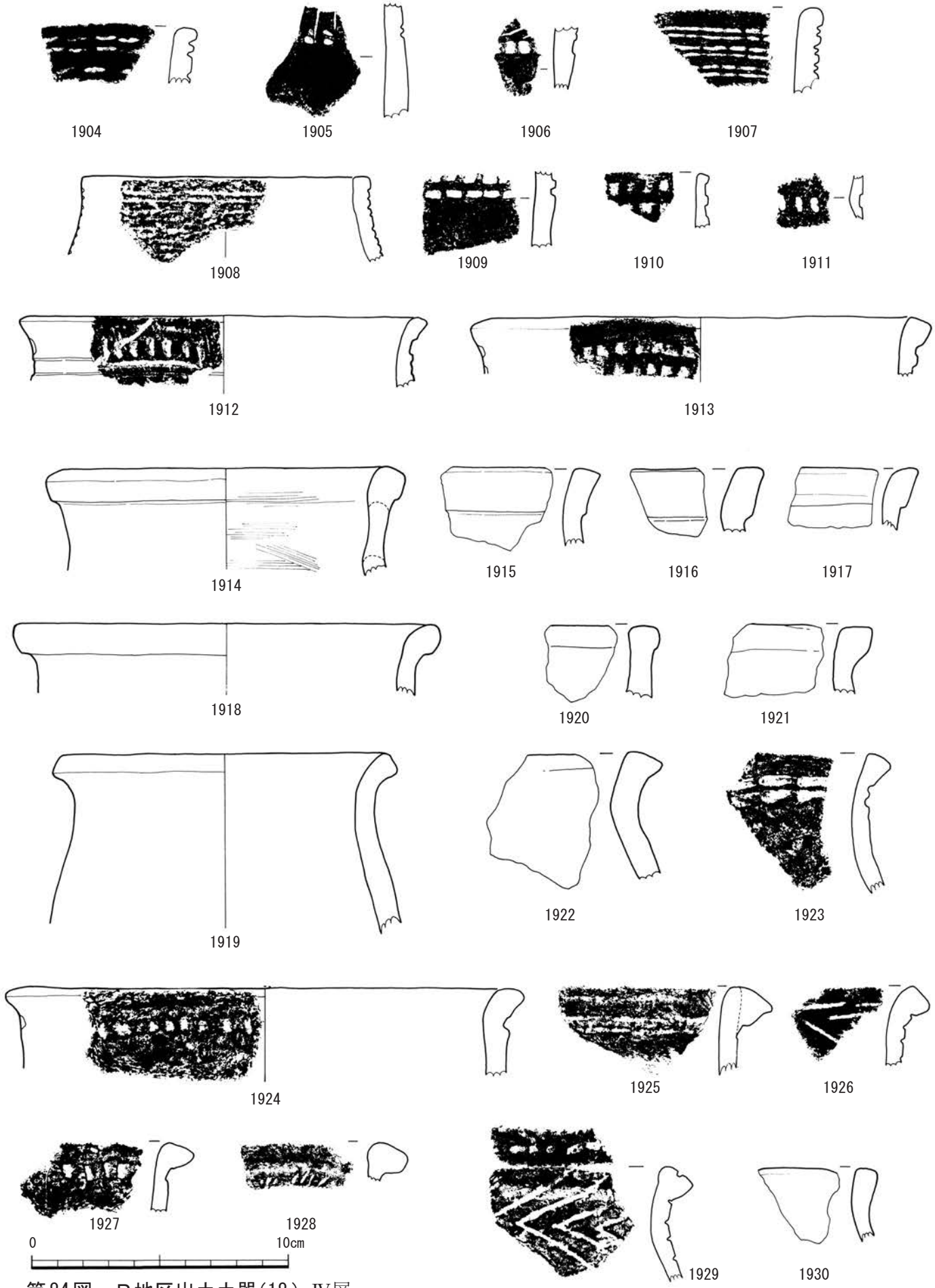
第81図　Ｐ地区出土土器(15) Ⅱ層



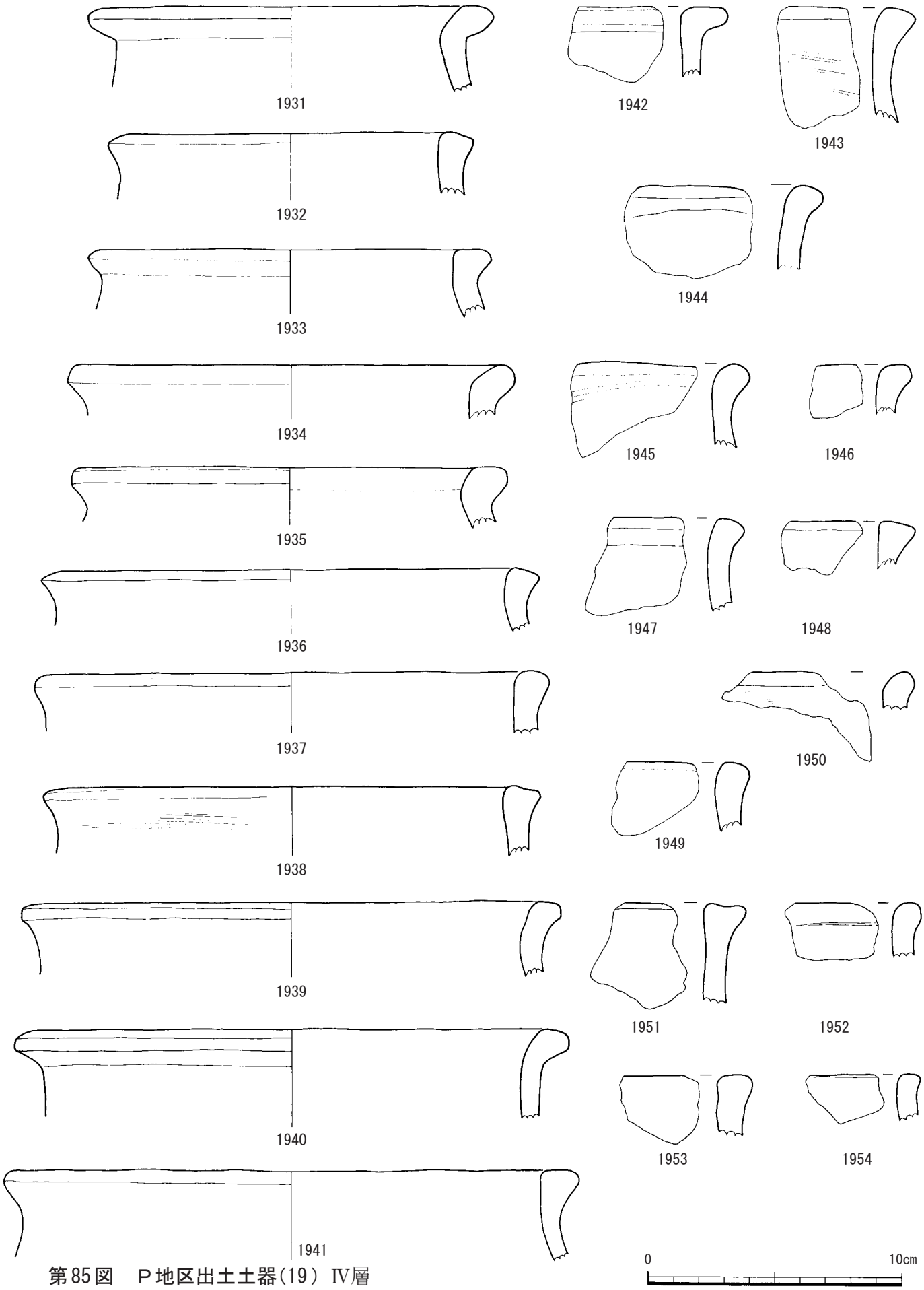
第82図　P地区出土土器(16) Ⅱ層



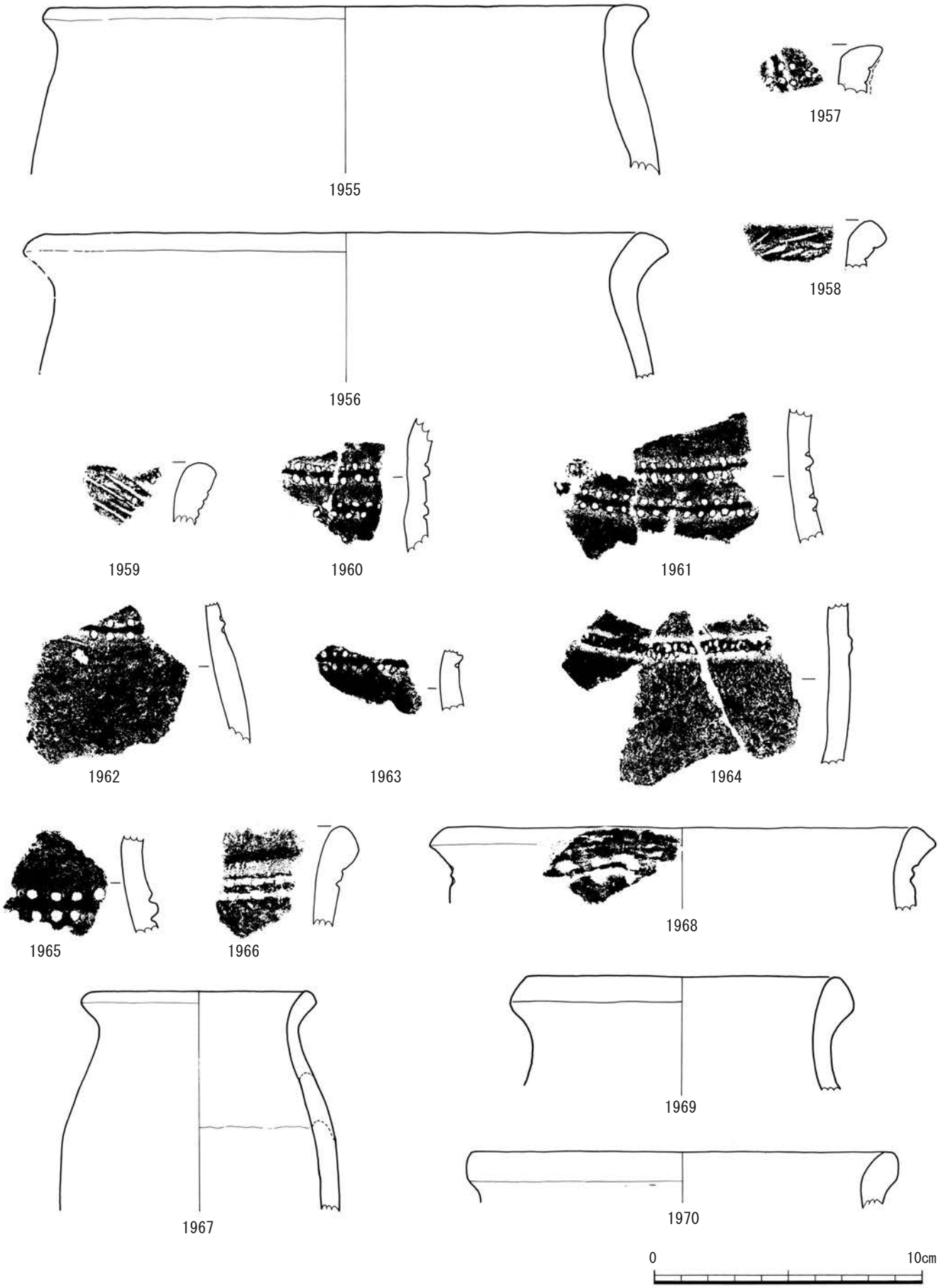
第83図　Ｐ地区出土土器(17) Ⅱ層



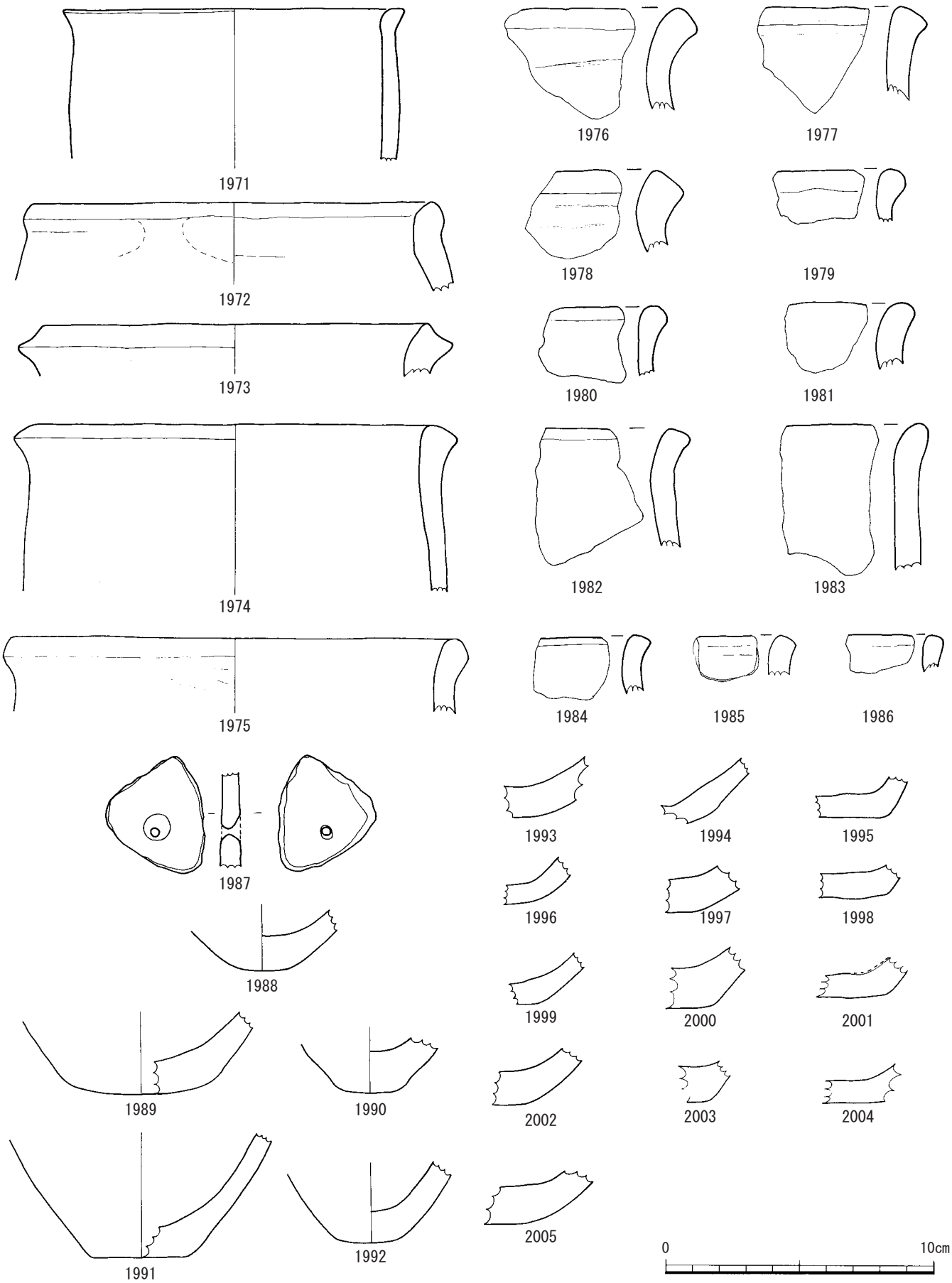
第84図　P地区出土土器(18) Ⅳ層



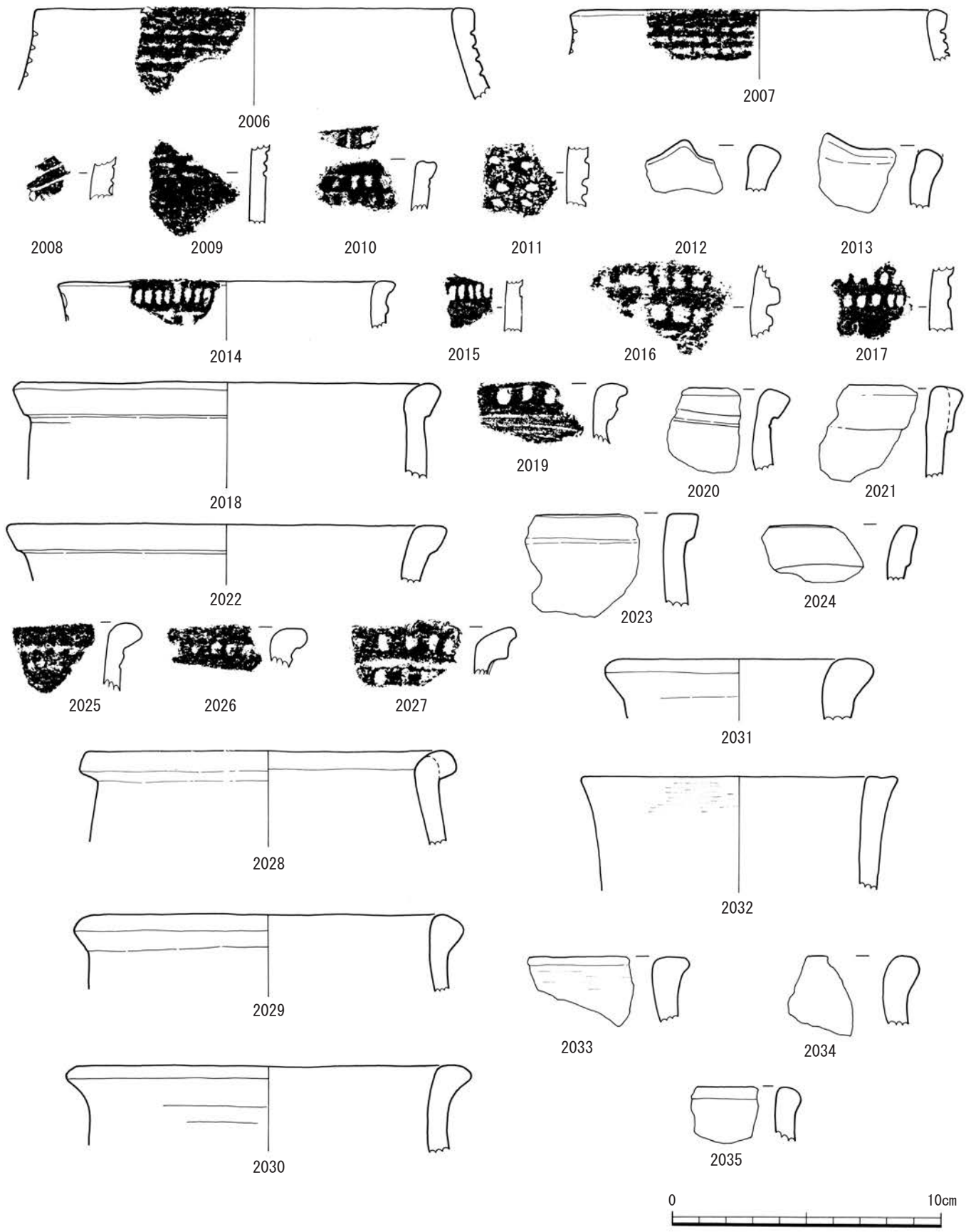
第85図　Ｐ地区出土土器(19) Ⅳ層



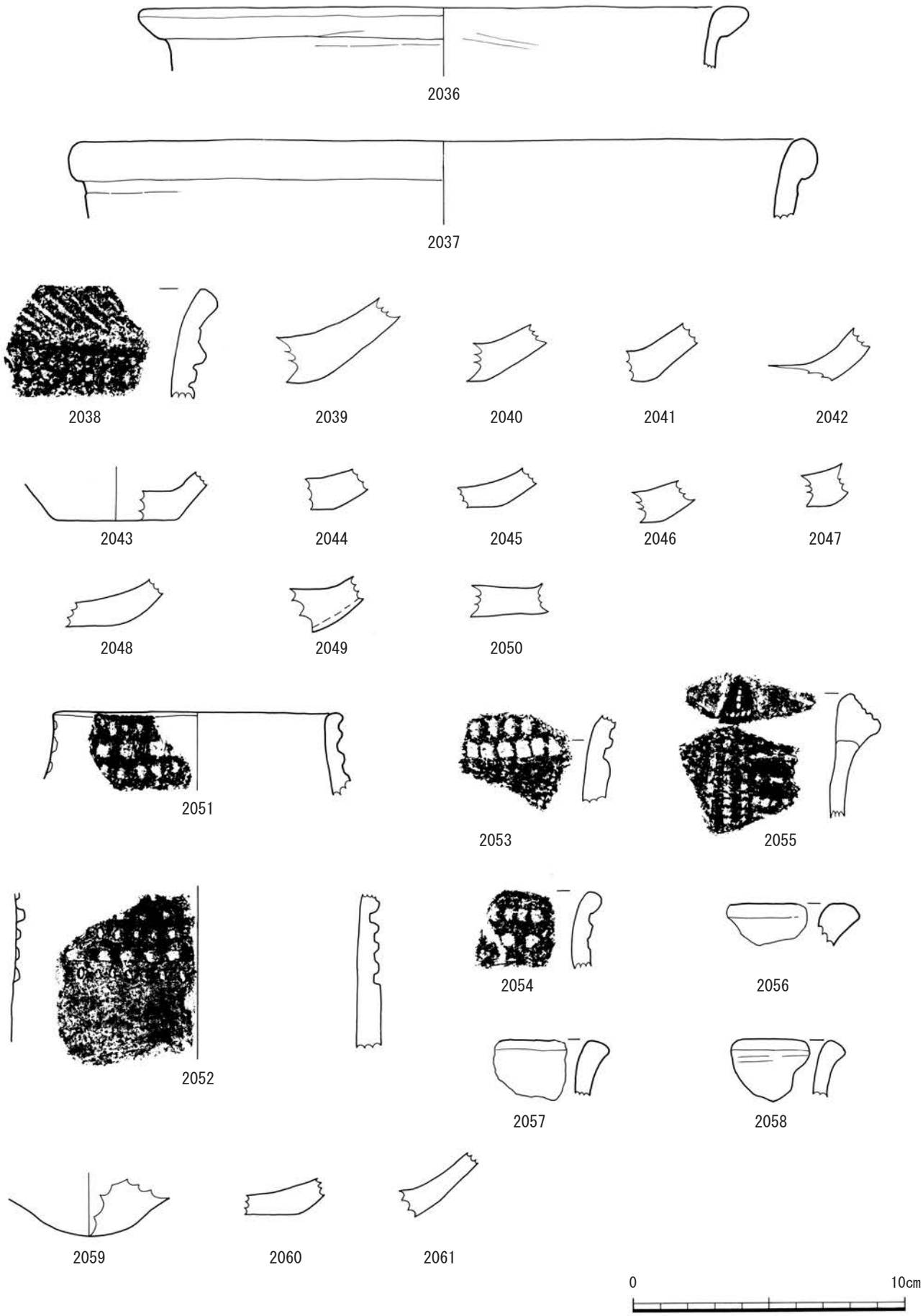
第86図　Ｐ地区出土土器(20) Ⅳ層



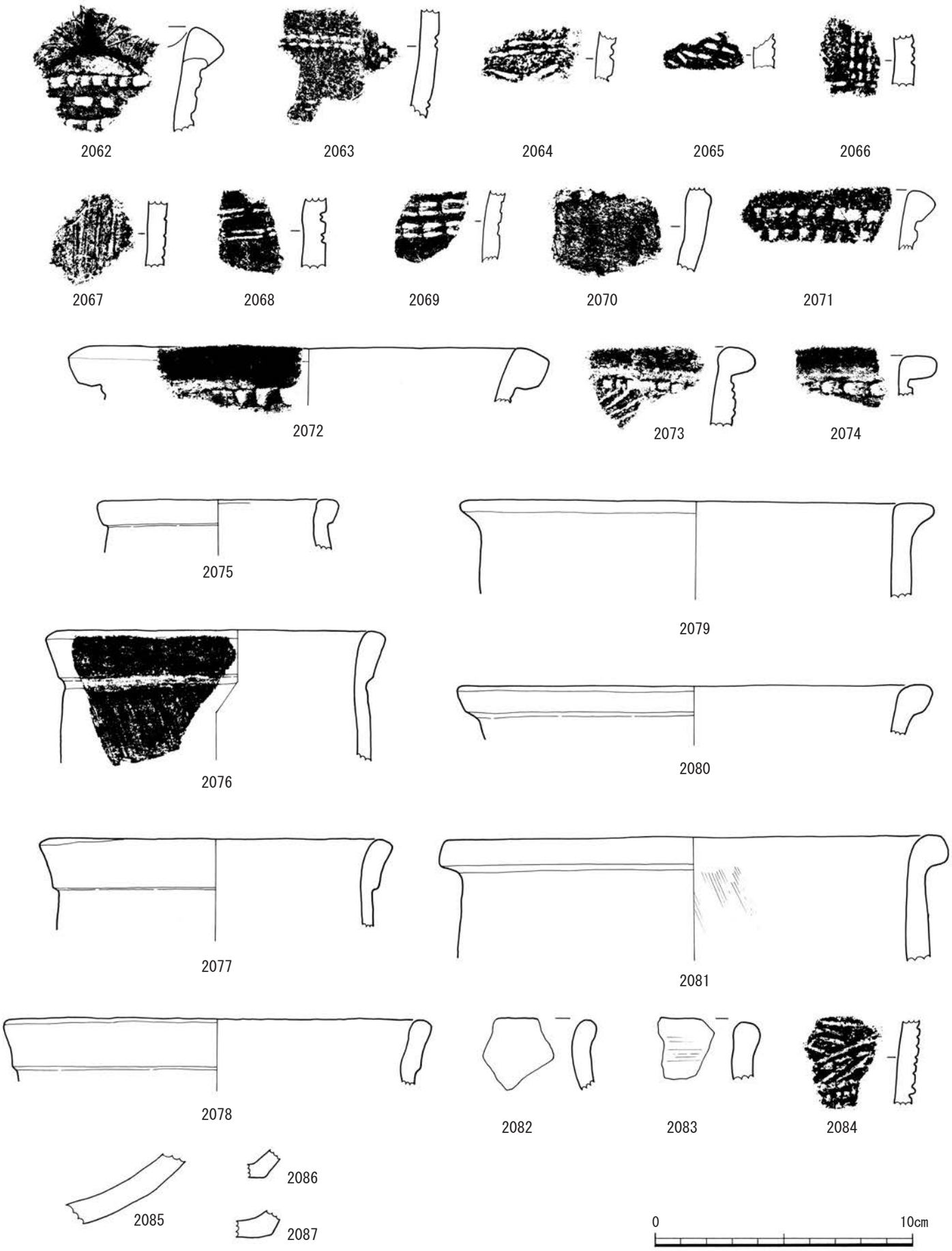
第87図　P地区出土土器(21) Ⅳ層



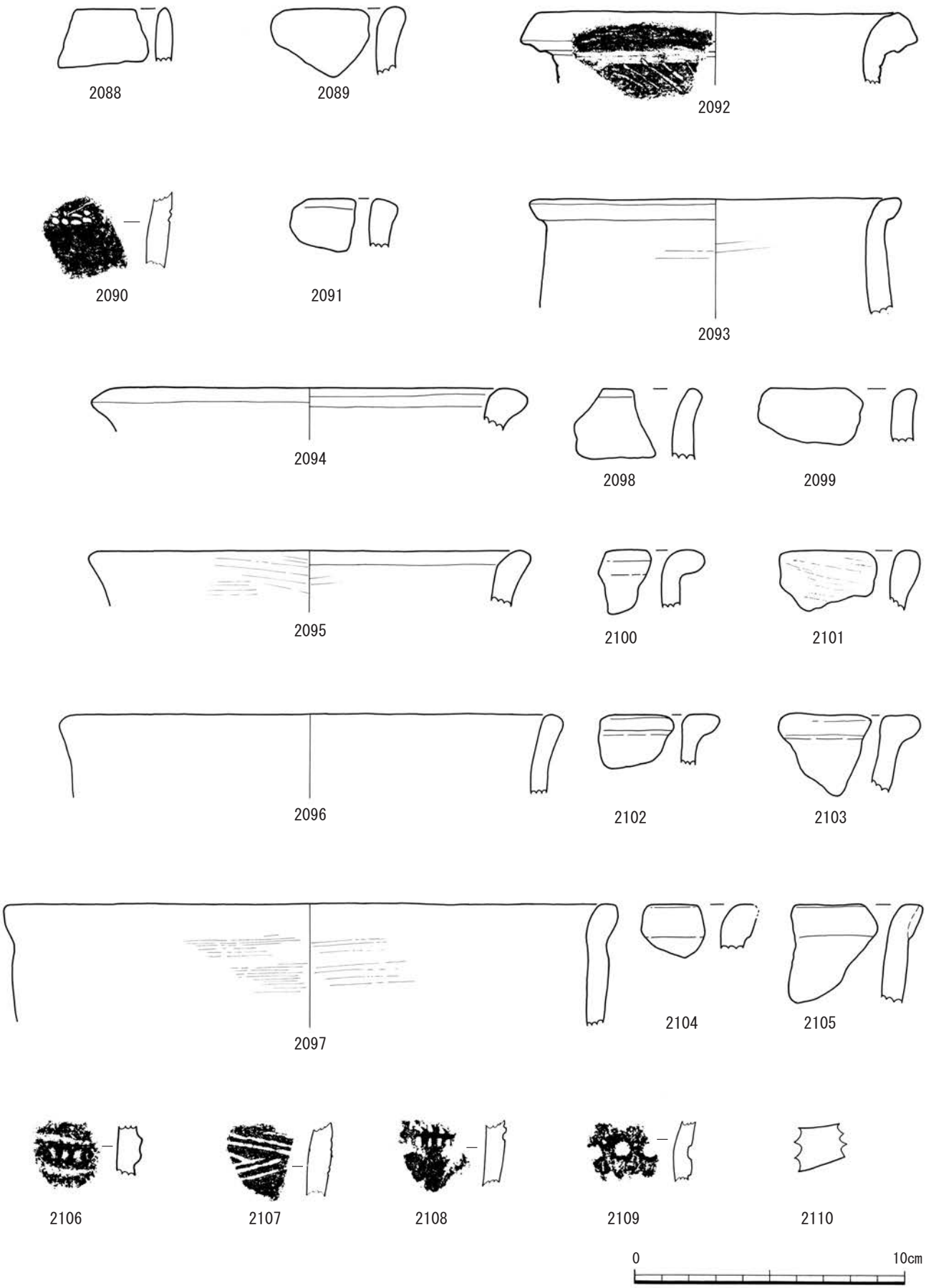
第88図　Ｐ地区出土土器(22)　１号①



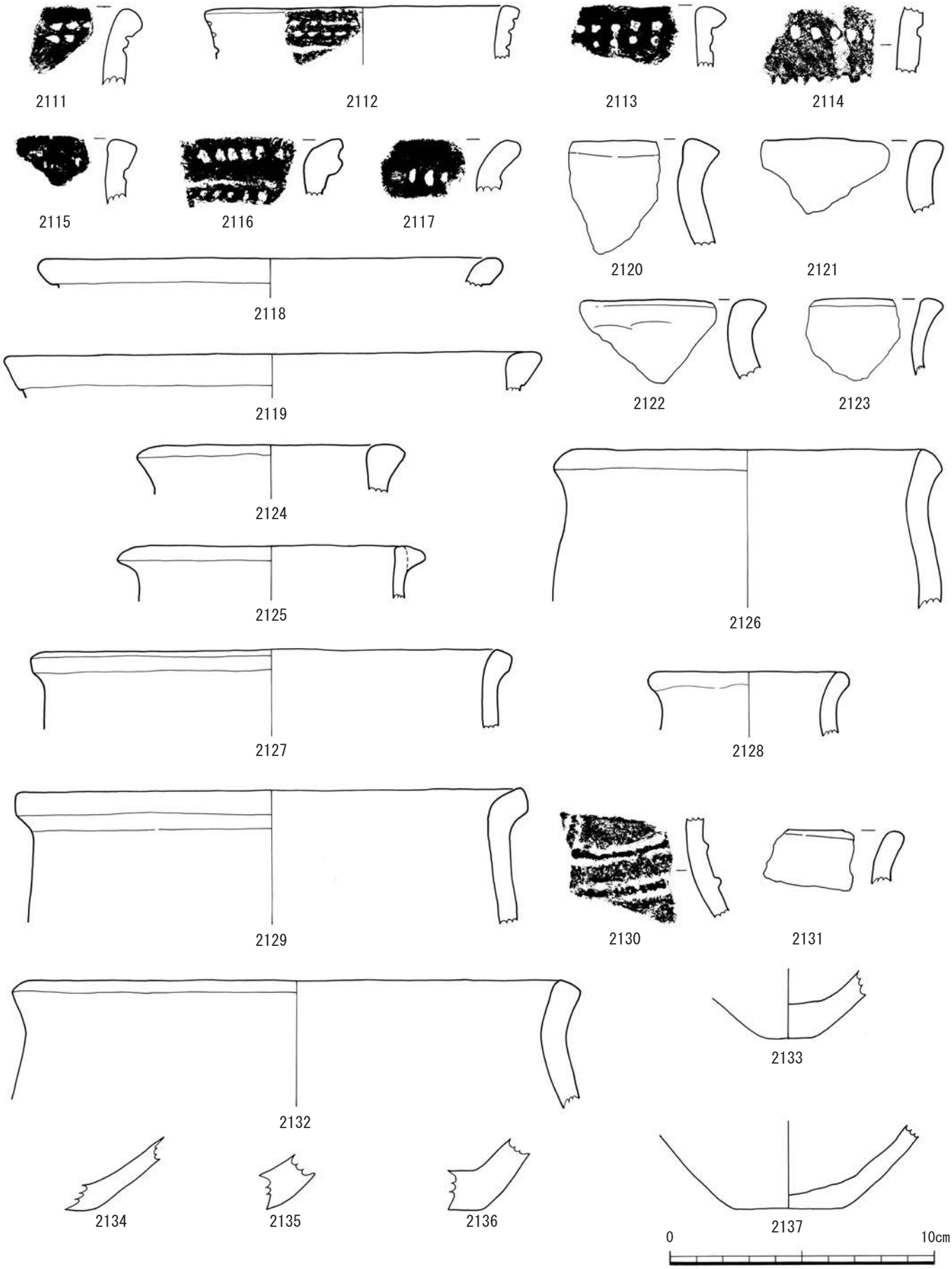
第89図　Ｐ地区出土土器(23)　１号②(2036～2050)、５号(2051～2061)



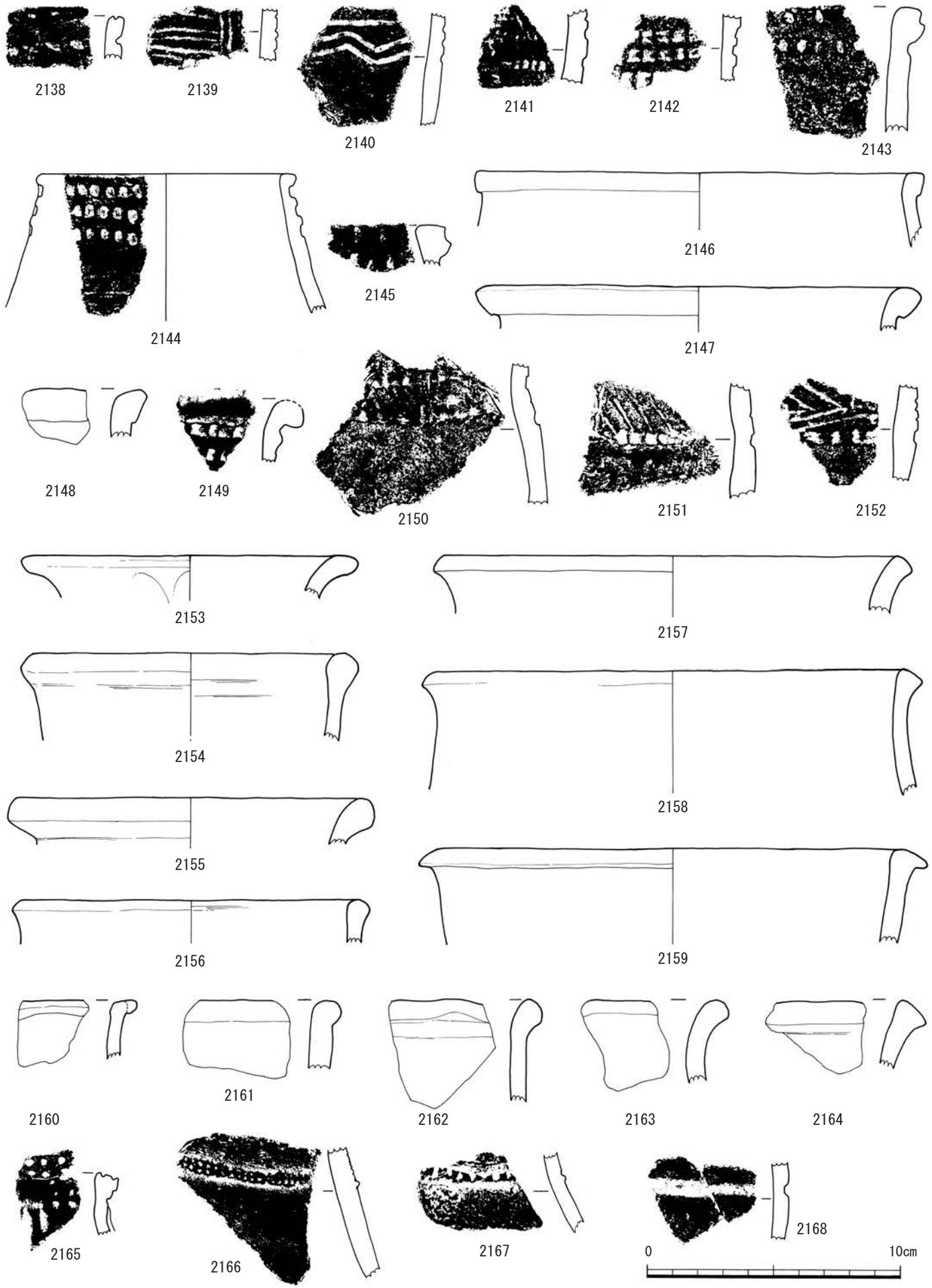
第90図　Ｐ地区出土土器(24)　２号



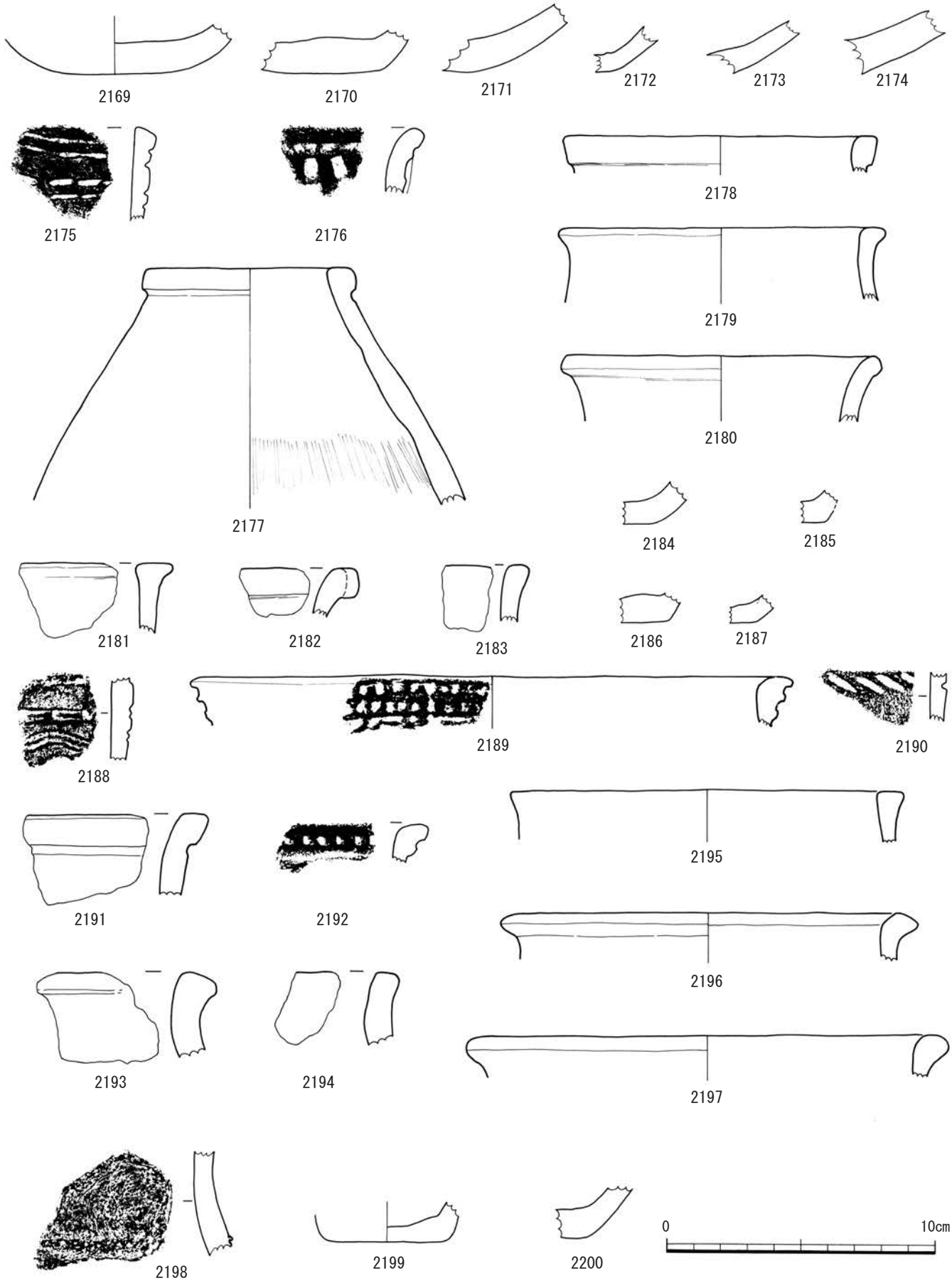
第91図　Ｐ地区出土土器(25)　４号



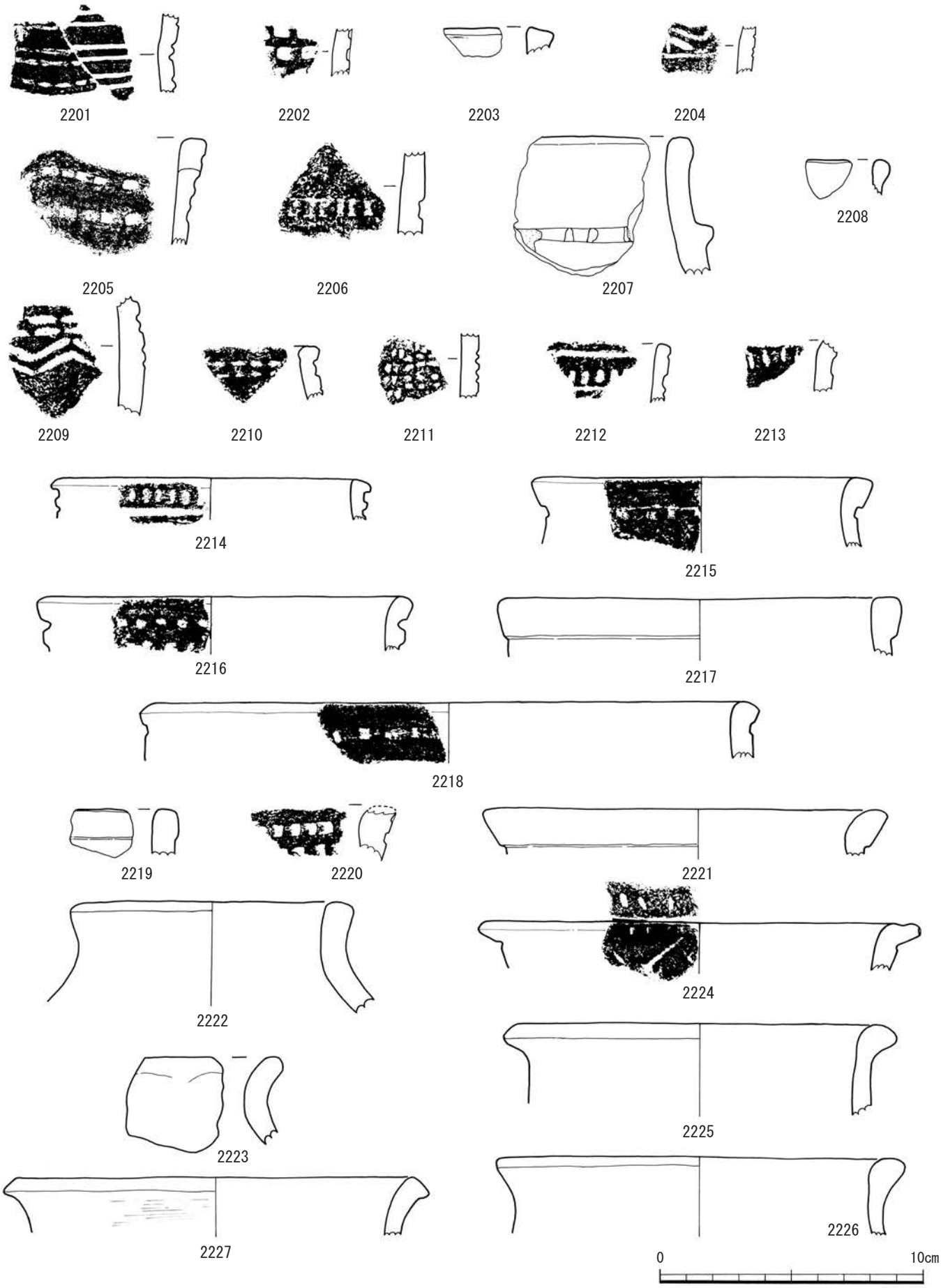
第92図　Ｐ地区出土土器(26)　８号



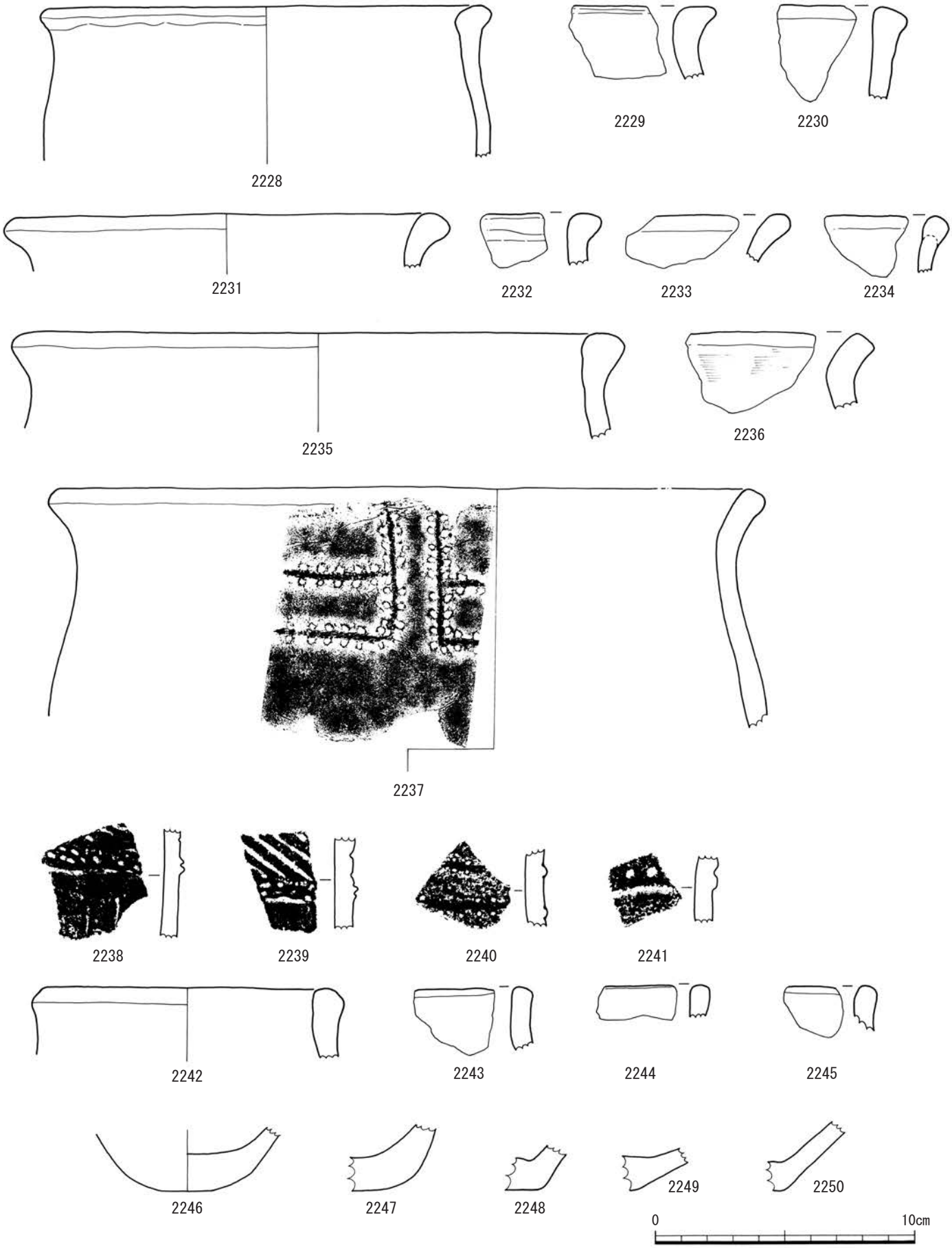
第93図　Ｐ地区出土土器(27)　９号①



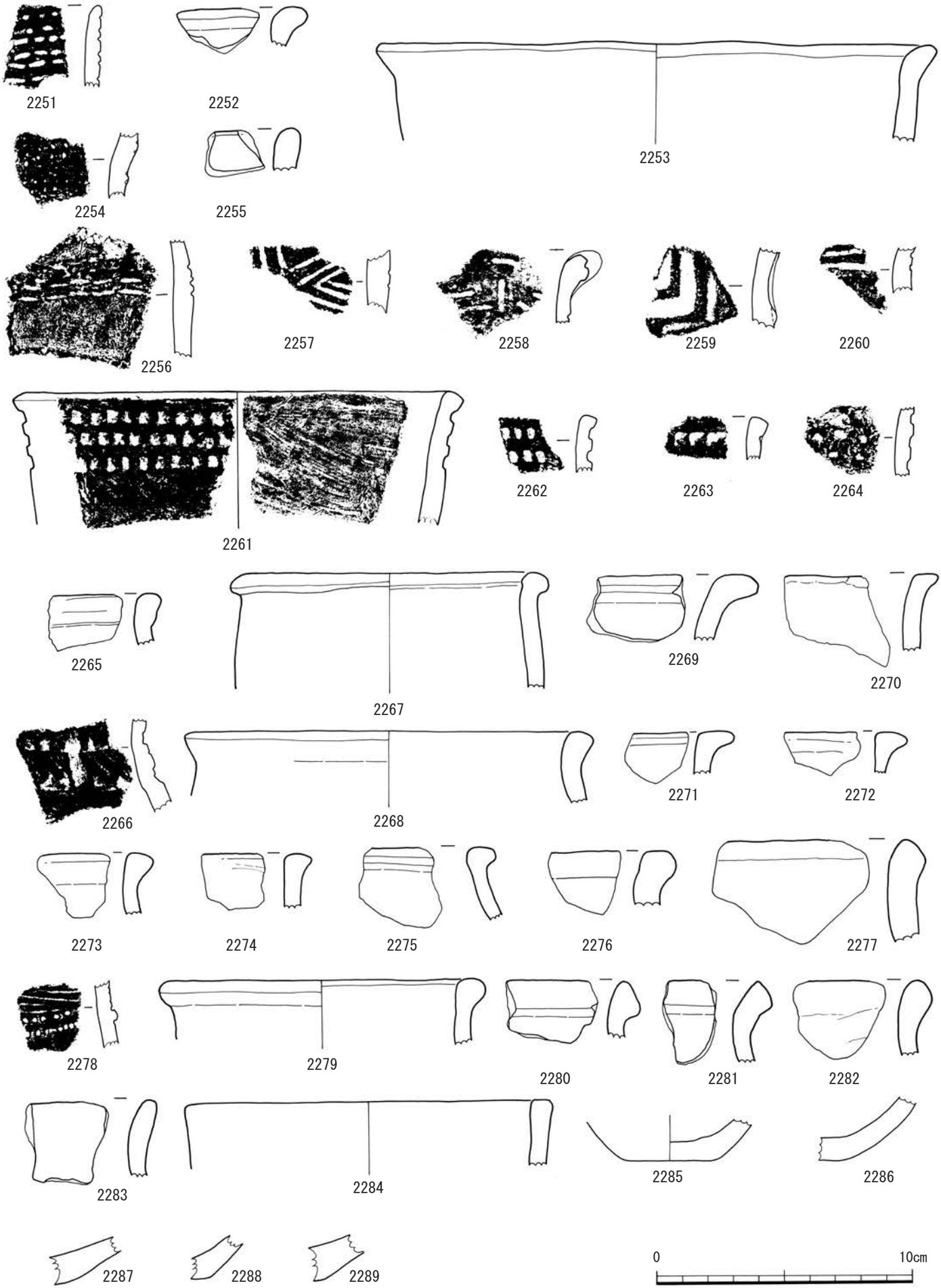
第94図　P地区出土土器(28)　9号②(2169～2174)、10号(2175～2185)、11号(2186・2187)
12号(2188～2200)



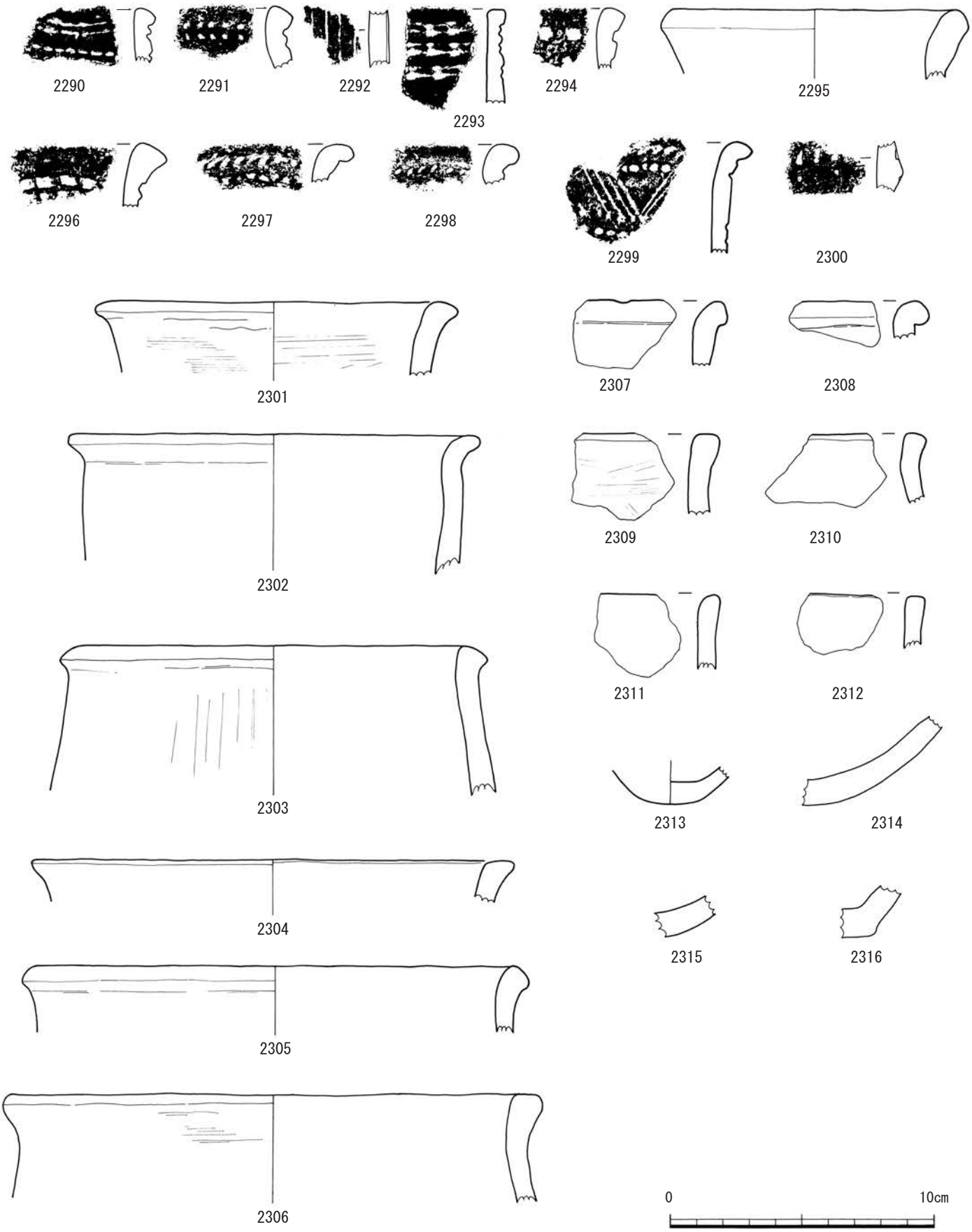
第95図　P地区出土土器(29)13号(2201～2203)、15号(2204)、16号(2205～2208)
17号①(2209～2227)



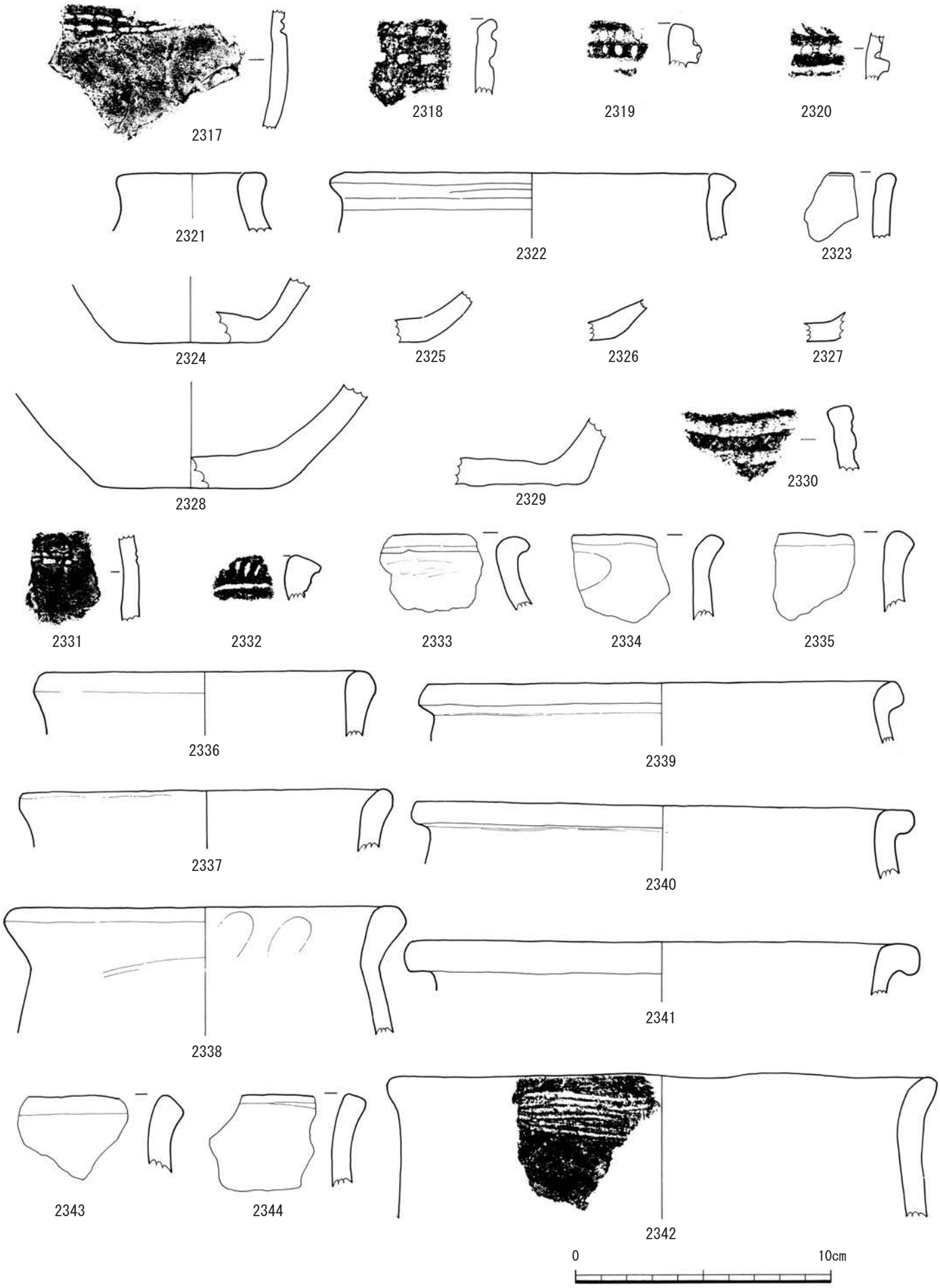
第96図　Ｐ地区出土土器(30)17号②



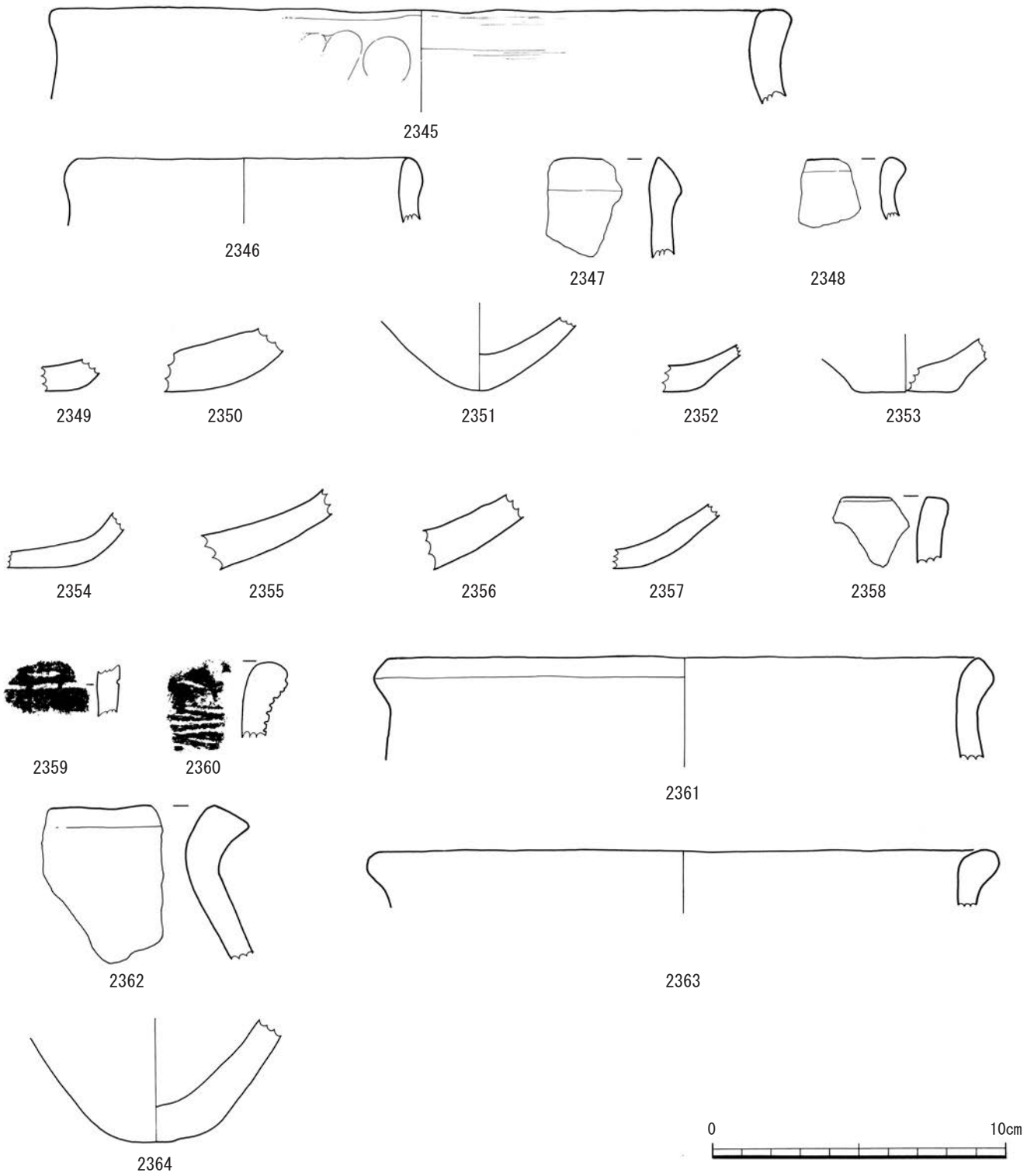
第97図　P地区出土土器(31)18号(2251～2255)、19号(2256～2289)



第98図　Ｐ地区出土土器(32)20号



第99図　P地区出土土器(33)22号(2325)、23号(2317～2324・2326～2329)、24号(2330)
28号①(2331～2342)、30号①(2343・2344)



第100図　P地区出土土器(34)28号②(2345～2349・2351～2358)、30号②(2350・2359～2364)

第２表（１）　土器観察表

番号	土器分類		混入物	特徴	出土地
1	Ⅰ群	伊波・荻堂	-	胴部。左方向点刻文2条。	1号 2北焼土ピット
2	Ⅰ群	伊波・荻堂	-	口縁。左方向幅4㎜押引き文2条おそらく鋸歯文。	1号 B検出面
3	Ⅰ群	伊波・荻堂	-	胴部。左方向叉状連点文2対以上1対の連点鋸歯文。	1号 2北焼土ピット
4	Ⅱ群	B1類	イ	口縁。貼付による口唇強調。	1号 2
5	Ⅱ群	C類	イ	山形口縁。肥厚帯は無文	1号 2北焼土ピット
6	Ⅱ群	底部c	イ	底径2.5㎝。	1号 2
7	Ⅰ群	伊波	-	山形口縁。5㎜間隔の叉状点刻文2対。	2号 最下部
8	Ⅰ群	荻堂	-	瘤状突起口縁。左方向水平の叉状連点文。	2号 最下部
9	Ⅰ群	伊波	-	山形口縁.左方向幅3㎜押引き文2条。	2号 D0～15
10	Ⅱ群	B1類	ア	微弱な肥厚の口縁。斜沈線。	2号 C30～35
11	Ⅰ群	伊波・荻堂	-	胴部。叉状連点文叉状沈線短鋸歯文。	2号 最下部
12	Ⅰ群	荻堂	-	胴部。横・縦の押引き文叉状？縦沈線。	2号 最下部
13	Ⅰ群	荻堂	-	瘤状突起口縁。	2号 D30～35
14	Ⅱ群	C類	イ	口縁。貼付による三角形の肥厚帯。張らない器形。	2号 A15～20
15	Ⅲ群	宇宿上層？	エ	口縁。貼付による三角形の肥厚帯。張る器形。壺形か。	2号 C60～65
16	Ⅱ群	B1類	イ	口縁。貼付による円めのある肥厚。	2号 A15～20
17	Ⅱ群	B2類	イ	やや外反口縁。貼付による円めの微弱な肥厚。	2号 C35～40
18	Ⅱ群	B2類	イ	やや外反口縁。貼付による円めの微弱な肥厚。	2号 C25～30
19	Ⅱ群	B2類	イ	やや外反口縁。貼付による円めの微弱な肥厚。	2号 D50～55
20	Ⅱ群	B3類	イ	口縁。貼付によるやや水平で微弱な肥厚。	2号
21	Ⅱ群	B2類	イ	やや外反口縁。肥厚は弱いがナデにより口唇強調。	2号 A20～25
22	Ⅱ群	B3類	ア	口縁。貼付によるやや水平で微弱な肥厚。	2号 B30～35
23	Ⅱ群	C類	イ	口縁。三角形の肥厚帯。張る器形。	2号
24	Ⅱ群	C類	イ	口縁。三角形の肥厚帯。張る器形。	2号 C50～55
25	Ⅱ群	C類	イ	口縁。口唇ではなく稜を意識する肥厚帯。	2号 A15～20
26	Ⅱ群	C類	イ	三角形の肥厚口縁。やや張る器形。	2号 C50～55
27	Ⅱ群	C類	イ	三角形の肥厚口縁。やや張る器形。	2号 A20～25
28	Ⅱ群	C類	イ	口縁。口唇ではなく稜を意識する肥厚帯。	2号 C35～40
29	Ⅱ群	B2類	イ	口縁をゆるく外反させやや張る器形に。口径16.8㎝。	2号 A15～20
30	Ⅱ群	B3類	イ	口縁。貼付による肥厚で水平な口唇にする。口径18.0㎝。	2号 C
31	Ⅱ群	C類	イ	口縁。口唇ではなく稜を意識する肥厚帯。口径12.4㎝。	2号 A35～40
32	Ⅱ群	B2類	イ	口縁。貼付による円めの微弱な肥厚。口径20.2㎝。	2号
33	Ⅱ群	B3類	イ	口縁。貼付によるやや水平で微弱な肥厚。	2号 A25～30
34	Ⅱ群	壺1	イ	口縁の肥厚はない。口径5.6㎝。	2号 A40～45
35	Ⅱ群	B4類	イ	口縁。無文で明瞭な肥厚はない。	2号 35～40
36	Ⅱ群	B4類・壺？	イ	B4類もしくは壺の胴部か。	2号 C55～60
37	Ⅱ群	B2類？	イ	口縁。貼付によるやや水平で微弱な肥厚。胴部上半は板状ナデにより平滑だが中位は凹凸あり。	2号 C50～55
38	Ⅱ群？	底部b	イ・エ？	底径4～5㎝か。粘板岩と金雲母共に含む。	2号
39	Ⅱ群	底部d	イ	粘土板を接合したような痕がある。	2号 2B25～30
40	Ⅰ群	底部a	-	内面の屈曲は緩やか。	2号 A35～40
41	Ⅱ群	底部e	イ	尖底部は貼付か？	2号 C60～65
42	Ⅱ群	底部c	イ	底外面はわずかに凹む。底径2.6㎝。	2号 A30～35
43	Ⅱ群	底部c	イ	底外面と胴部の付け根に凹みあり。底径2.0㎝。	2号 最下部
44	Ⅰ群	荻堂	-	横断面がM字形の瘤状突起口縁。瘤部に2条の押引き文。	3号 観察畦0～10
45	Ⅰ群	荻堂	-	無文の瘤状突起口縁。	3号 D20～25
46	Ⅰ群	荻堂	イ	無文の瘤状突起口縁。	3号 C20～25
47	Ⅰ群	伊波・荻堂	-	胴部。左方向の幅4㎝押引き文。	3号 D20～25
48	Ⅰ群	伊波・荻堂	-	胴部。爪形状の点刻文。	3号 D20～25
49	Ⅰ群	荻堂	-	口縁。2対の左方向叉状点刻文。	3号 B0～30
50	Ⅰ群	荻堂	-	口縁。2対の左方向叉状点刻文。	3号 F10～15
51	Ⅰ群	伊波	-	口縁。1対の左方向の叉状連点文。	3号 D35～40
52	Ⅰ群	荻堂	-	胴部。縦沈線？2対の叉状連点文。	3号 DE20～25
53	Ⅰ群	伊波	-	胴部。2条の押引き文叉状斜沈線。	3号 C20～25
54	Ⅱ群	C類	イ	山形突起口縁。壺？口径15.8㎝。	3号 D下層上25
55	Ⅰ群	伊波	-	胴部。2条の押引き文。	3号 F30～35
56	Ⅰ群	伊波	-	胴部。2条の連点文。	3号 F10～15
57	Ⅱ群	底部b	イ	底径4.4㎝。底内面の稜は緩やか。	3号 BⅣ層M15
58	Ⅰ群	底部a	-	底径4～5㎝	3号 D20～25
59	Ⅰ群	底部a	-	底径4～5㎝	3号 0～10
60	Ⅰ群	底部a	-	底径4～5㎝	3号 F10～15
61	Ⅱ群	B1類	イ	口縁。貼付によるやや水平で微弱な肥厚。口径14.0㎝。	3号 D35～40
62	Ⅱ群	B1類	イ	口縁。貼付によるやや水平で明瞭な肥厚。	3号 B10～15
63	Ⅱ群	B1類	イ	口縁。貼付によるやや水平で微弱な肥厚。	3号 D下層5～15
64	Ⅱ群	B1類	イ	口縁。貼付により1.7㎝の肥厚部を作り出す。	3号 F上4 5～10 D20～25
65	Ⅱ群	B3類	イ	口縁。貼付によるやや水平で微弱な肥厚。口径20.0㎝。	3号 E15～20
66	Ⅱ群	B1類	イ	口縁。貼付によるやや水平で微弱な肥厚。口径19.6㎝。	3号 F上5～10
67	Ⅱ群	B3類	イ	口縁。貼付によるやや水平で微弱な肥厚。	3号 C30～40
68	Ⅱ群	B1類	イ	口縁。貼付によるやや水平で微弱な肥厚。	3号 F10～15
69	Ⅱ群	B3類	イ	口縁。貼付によるやや水平で微弱な肥厚。	3号 D25
70	Ⅱ群	C類	イ	口縁。口唇ではなく稜を意識する肥厚帯。胴部張る。	3号 20～30
71	Ⅱ群	B3類	イ	口縁。貼付によるやや水平で微弱な肥厚。	3号 A0～10
72	Ⅱ群	B1類	イ	口縁。貼付によるやや水平で微弱な肥厚。	3号 F15～20
73	Ⅱ群	B3類	イ	口縁。貼付によるやや水平で微弱な肥厚。	3号 DE
74	Ⅱ群	B1類	イ	口縁。貼付による丸みのある微弱な肥厚。	3号 C20～25
75	Ⅱ群	B1類	イ	口縁。貼付による丸みのある微弱な肥厚。	3号 B15～20
76	Ⅱ群	B3類	イ	口縁。貼付による丸みのある微弱な肥厚。	3号 D20～25
77	Ⅱ群	B2類	イ	口縁をゆるく外反させ口唇を強調する。	3号 F5～10
78	Ⅱ群	B3類	イ	口縁。貼付によるやや水平で微弱な肥厚。	3号 D35～40
79	Ⅱ群	C類	イ	口縁。カマボコ状の肥厚帯。胴部ゆるく張る。	3号 B35～40
80	Ⅱ群	C類	イ	口縁。三角形の肥厚帯。張る器形。	3号 D20～30
81	Ⅱ群	C類	イ	口縁。三角形の肥厚帯。張る器形。	3号 A0～10
82	Ⅱ群	B3類	イ	口縁。貼付によるやや水平で微弱な肥厚。口径13.6㎝。	3号 C30～35
83	Ⅱ群	B3類	イ	口縁。貼付による丸みのある肥厚。口径12.0㎝。	3号 F5～10
84	Ⅱ群	壺1	イ	直口する口縁。口縁外面はゆるく肥厚。口径11.2㎝。	3号 D
85	Ⅱ群	壺1	イ	直口する口縁。口縁外面はゆるく肥厚。口径8.8㎝。	3号 DE20～25
86	Ⅱ群	壺2	イ	外反する口縁。深鉢C群に対応か？口径10.4㎝。	3号 F10～15
87	Ⅱ群	壺1	イ	直口する口縁。口縁外面はゆるく肥厚。口径8.4㎝。	3号 D20～25
88	Ⅱ群	B4類	ア	口縁。無文で明瞭な肥厚はない。	3号 D30～35
89	Ⅱ群	B4類・壺2	イ	緩やかな山形口縁の可能性。縦突帯2条と左方向の押引き文を組み合わせる。	3号 D20～25
90	Ⅱ群	B4類	イ	口縁外面全体が緩やかに肥厚。	3号 30～35
91	Ⅱ群	B4類・壺2	イ	外反する口縁。横突帯と横捺刻文。Ⅲ層群犬田付式の模倣か？	3号 C10～20
92	Ⅲ群	喜念Ⅰ	エ	口縁。ミミズ腫れ状突帯。壺形。口径10.8㎝。93と同一？	3号 E0～10
93	Ⅲ群	喜念Ⅰ	エ	山形口縁。ミミズ腫れ状突帯。壺形。92と同一？	3号 F15～20
94	Ⅱ群	B2類	イ	口唇に点刻文。外面板ナデ調整痕。	3号 0～10
95	Ⅲ群	喜念Ⅰ	エ	ミミズ腫れ状突帯。おそらく壺形の頸部か。	3号 F35～40
96	Ⅲ群	喜念Ⅰ	エ	ミミズ腫れ状突帯。	3号 F15～20

第２表（２）　土器観察表

番号	土器分類		混入物	特徴	出土地
97	Ⅲ群	喜念Ⅰ	エ	ミミズ腫れ状突帯。おそらく壺形の頸部か。	3号　F上5～10
98	Ⅱ群	B4類・壺2	イ	頸部か。縦突帯左方向の押引き文。89と同一か。	3号　C10～20
99	Ⅱ群	底部c・d	イ	底部。	3号　D20～25
100	Ⅱ群	底部c	イ	底径2～3cmか。	3号　D30～35
101	Ⅱ群	底部b	イ	底径4～5cmか。	3号　A0～10
102	Ⅱ群	底部c	イ	底径2.8cm。底部と胴部の境くびれ明瞭。	3号　E10～20
103	Ⅱ群	底部b	イ	底径4.6cm。内底は平坦。	3号　D20～25
104	Ⅱ群	底部b	ア	底径3.6cm。内底はやや丸い。	3号　D25～30
105	Ⅱ群	底部d	イ	丸底。	3号　FE30～35
106	Ⅱ群	底部e	イ	尖底部は貼付。	3号　D35～40
107	Ⅰ群	伊波	-	連続する刻み目を有する口縁。左方向の叉状沈線。	4号　セ9　40～50
108	Ⅰ群	伊波	-	頸部か。叉状沈線による鋸歯文か。107と同一か。	4号　セ9　40～50
109	Ⅰ群	伊波	-	胴部。107・108と同一か。	4号　セ9　40～50
110	Ⅰ群	伊波・荻堂	-	胴部。2対以上の左方向の連点文。	4号　セ9　40～50
111	Ⅰ群	荻堂	-	胴部。縦・横の押引き文。内外面ともにハケ調整。	4号　セ9　40～50
112	Ⅰ群	伊波	-	胴部。叉状沈線による鋸歯文か。	4号　セ9　40～50
113	Ⅰ群	伊波	-	胴部。叉状沈線による鋸歯文か。	4号　セ9　40～50
114	Ⅰ群	伊波・荻堂	-	胴部。2対以上の左方向の連点文。	4号　ソ9　40～50
115	Ⅰ群	伊波・荻堂	-	胴部。叉状沈線による鋸歯文か。	4号　セ9　40～50
116	Ⅰ群	伊波・荻堂	-	胴部。連点文叉状短沈線による鋸歯文。	4号　20～30
117	Ⅱ群	B1類	イ	口縁。貼付によるやや水平で微弱な肥厚。口縁外面な縦ナデ。	4号
118	Ⅱ群	B2類	イ	口縁。横方向の竹管状沈線。明瞭な肥厚はない。	4号　40～50
119	Ⅲ群	宇宿上層？	ア・エ	口縁。壺形もしくは胴が張る器形か。金雲母と石灰岩含む。	4号　40～50
120	Ⅱ群	B3類	イ	口縁。貼付によるやや水平で微弱な肥厚。	4号　40～50
121	Ⅱ群	B3類	イ	口縁。貼付によるやや水平で微弱な肥厚。	4号　40～50
122	Ⅱ群	B2類	イ	口縁。肥厚は微弱で貼付かは不明。	4号　40～50
123	Ⅱ群	B1類	イ	口縁。貼付によるやや水平で微弱な肥厚。	4号　40～50
124	Ⅱ群	C類	イ	口縁。稜を意識する肥厚帯。胴部張る。	4号　ソ9　40～50
125	Ⅱ群	壺1	イ	口縁。口径4～5cmか。	4号　セ9　40～50
126	Ⅱ群	B1類？	イ	直口口縁だが胴が張らない器形か？	4号　セ10　40～50
127	Ⅱ群	B1類	イ	口縁。貼付によるやや水平で微弱な肥厚。	4号　ソ10　40～50
128	Ⅱ群	B3類	イ	口縁。貼付によるやや水平で微弱な肥厚。	4号　20～30
129	Ⅱ群	底部b	イ	底径4～5cmか。	4号　ソ10　40～50
130	Ⅱ群	底部b	イ	底径4～5cmか。	4号　40～50
131	Ⅱ群？	底部a	ウ？	底径7.4cm。Ⅰ群土器の胎土よりも粗い。不明。	4号　ソ10　50～55
132	Ⅲ群？	底部d	イ・エ？	金雲母が目立つが粘板岩もみられる。壺形の底部？	4号　40～50
133	Ⅱ群	B1類	イ	口縁。貼付による水平な肥厚。	4号　ソ10　25～30
134	Ⅰ群？	大山？	イ	胴部。幅6mmの押引き文。胎土がⅠ群よりも粗い。	5号　セ8　70～75
135	Ⅱ群	C類	イ	口縁。カマボコ状の肥厚帯。胴が張る。	5号　セ7　10～20
136	Ⅱ群	B1類	イ	貼付による明瞭な水平な肥厚。口径27.6cm。	5号　セ8　40～45
137	Ⅱ群	B4類・壺2	イ	口径12.8cm。胴部内面ユビオサエ目立つ。	5号　セ8　25～30
138	Ⅱ群	B3類・壺1	イ	口径11.2cm。口唇の肥厚は微弱。	5号　セ7　10～20
139	Ⅱ群	B2類	イ	外反する口縁。肥厚は微弱だが水平。	5号　セ8　65～70
140	Ⅱ群	B4類	イ	口縁外面全体が緩やかに丸く肥厚。	5号　セ8　25～30
141	Ⅱ群	B2類	イ	外反する口縁。肥厚は丸く微弱。	5号　セ8　25～30
142	Ⅱ群	B4類	イ	口縁。肥厚は丸く微弱。	5号　ソ8　15～20
143	Ⅱ群	B3類	イ	口縁。貼付による丸みのある微弱な肥厚。	5号　セ8　25～30
144	Ⅱ群	C類	イ	口縁。稜を意識する肥厚帯。左方向叉状連点文2対。	5号　セ7　70～75
145	Ⅱ群	B3・4類	イ	肥厚は微弱だが水平。頸部の作り出しが微妙。口径18.0cm。	5号　セ7　10～20
146	Ⅲ群	宇宿上層	エ	外反する口縁。稜を意識する肥厚帯。金雲母含む。	5号　セ8　25～30
147	Ⅱ群	B2類	イ	外反する口縁。肥厚は微弱だが水平。	5号　セ9　70～75
148	Ⅱ群	B1類	イ	口縁。貼付による水平な肥厚。	5号　セ9　70～75
149	Ⅱ群	壺1	イ	口唇を水平に肥厚することで外反するように見える。	5号　セ8　60～65
150	Ⅱ群	C類	イ	口縁。三角形の肥厚帯。やや張る器形。	7号　ツ16　0～10
151	Ⅱ群	C類	イ	外反する口縁。稜を意識する肥厚帯。	5号　65～70
152	Ⅱ群	B2類	イ	外反する口縁。肥厚は微弱だが水平。	5号　セ9　70～75
153	Ⅱ群	B2類	イ	外反する口縁。肥厚は微弱だが水平。	5号　セ8　70～75
154	Ⅱ群	B1類	イ	口縁。貼付によるやや水平で微弱な肥厚。	5号　65～70
155	Ⅱ群	底部c	オ	底径2.8cm。底部中央は貼付かつ凹む。	5号　セ8　60～65
156	Ⅱ群	底部d	イ	丸底。内底は2cmの平坦面あり。	5号　セ9　0～10
157	Ⅱ群	底部c	イ	底径2.4cm。底部の付け根にくびれあり。	5号　ソ7　40～45
158	Ⅱ群	底部d	イ	丸底。内底もゆるく凹面となる。	5号　ソ8　35～40
159	Ⅱ群	底部d	イ	丸底。内底は2cmの平坦面あり。	5号　セ9　0～10
160	Ⅱ群	底部d	イ	丸底。内底もゆるく凹面となる。	5号　ソ7　40～45
161	Ⅱ群	底部c	イ	底径2.4cm。底部中央は貼付かつ凹む。	5号　セ8　20～25
162	Ⅱ群	底部d	イ	丸底。内底は2.5cmの平坦面あり。	5号　セ8　30～40
163	Ⅱ群	底部d?	イ	おそらく丸底。	5号　65～70
164	Ⅰ群	荻堂	-	口縁部資料。押引による横位区画文（幅2mm程の単箆工具資料で3列確認できる）と縦位区画文が確認できる。	7号　A45～50
165	Ⅰ群	荻堂	-	押引による縦位区画文と鋸歯文が確認できる。	7号　下床面
166	Ⅰ群	伊波・荻堂	-	区画内文様。羽状文系。器厚は7mm。	7号　B集石40～45
167	Ⅰ群	伊波・荻堂	-	叉状工具による沈線が確認できる。区画内文様だと考えられる。	7号　4
168	Ⅰ群	荻堂	-	沈線による縦位区画文と横位区画文第Ⅱ層文様帯には鋸歯文が確認できる。	7号　B45～50
169	Ⅲ群	喜念Ⅰ	ア？	胴部。刺突が不明瞭なみみずはれ状突帯。金雲母は明確ではない。	7号　4
170	Ⅰ群	伊波・荻堂	-	器面状態悪く不鮮明。横位区画文と考えられる沈線が1列とその上下に斜線文様が確認できる。	7号　B集石40～45
171	Ⅰ群	伊波・荻堂	-	叉状工具にる短沈線が縦位横位にそれぞれ1列確認できる。	7号　AB間20～30
172	Ⅰ群	伊波・荻堂	-	器面状態悪く不鮮明。叉状工具による沈線系文様が1列確認できる。	7号　AB間20～30
173	Ⅰ群	伊波	-	山形口縁部の資料。点刻による横位区画文（叉状工具1列）。区画内は空白。器厚は6mm。	7号　D50～55
174	Ⅰ群	伊波・荻堂	-	山形口縁部の資料。間隔の広い沈線文もしくは押引文が2列。	7号　C観察層
175	Ⅰ群	？	-	叉状工具による沈線文が2列確認できる。凸帯文様か？	7号　B集石50～55
176	Ⅰ群	伊波	-	沈線による横位区画文と縦位区画文（叉状工具）が確認できる。区画内及び第Ⅱ層文様帯は無文と考えられる。	7号　6
177	Ⅰ群	伊波	-	口縁部資料。短沈線による横位区画文が1列確認できる。口唇部には点刻文。	7号　D20～30
178	Ⅰ群	伊波	-	点刻文による横位区画文が確認できる（叉状工具で2列）。区画内及び第Ⅱ層文様帯は空白と考えられる。	7号　下床面
179	Ⅰ群	伊波・荻堂	-	器面状態悪く不鮮明。短沈線？による横位区画文（叉状工具2列）が確認できる。区画内及び第Ⅱ層文様帯は不明。	7号　5
180	Ⅰ群	荻堂	-	押引による横位区画文（叉状工具1列）と第Ⅱ層文様帯もしくは区画内に鋸歯文が確認できる。	7号　下床面
181	Ⅰ群	伊波	-	口縁部資料。沈線による横位区画文が2列確認できる。区画内は空白。	7号　4
182	Ⅰ群	伊波	-	刺突文による横位区画文（叉状工具1列）が確認できる。区画内は空白。器厚は7mm。	7号　下床面
183	Ⅰ群	？	-	凸帯が横位に一条凸帯上部とその両脇に刺突を施す。型式不明	7号　北西端はり床（黄褐色）
184	Ⅰ群	伊波・荻堂	-	口縁部資料。沈線による横位区画文（叉状工具1列）。沈線は短沈線の可能性が高い。	7号　B集石40～45
185	Ⅰ群	伊波	-	叉状工具による引きの長い押引文が横位に一条確認できる。	7号　B40～50
186	Ⅰ群	伊波	-	点刻による横位区画文（叉状工具1列）が確認できる。器厚は7mm。	7号　下床面
187	Ⅰ群	伊波	-	押引による横位区画文（叉状工具1列）と区画内の斜線文が確認できる。	7号　4
188	Ⅰ群	？	-	胴部資料。刷毛目調整痕あり	7号　D45～50
189	Ⅰ群	？	-	胴部資料。刷毛目調整痕あり	7号
190	Ⅰ群	底部a	-	底部資料。	7号　D50～55
191	Ⅰ群	底部a	-	底部資料。	7号　D45～50
192	Ⅰ群	底部a	-	底部資料。	7号　C下層　黒土層

第２表（３）　土器観察表

番号	土器分類		混入物	特徴	出土地
193	Ⅰ群	底部a	-	底部資料。	7号　B50～55
194	Ⅰ群	底部a	-	底部資料。	7号　C35～45
195	Ⅰ群	底部a	-	底部資料。	7号　下床面
196	Ⅰ群	底部a	-	底部資料。	7号　D55～60
197	Ⅰ群	底部a	-	底部資料。	7号　最下北西端
198	Ⅰ群	底部a	-	底部資料。	7号　2F20～30
199	Ⅰ群	底部a	-	底部資料。	7号　下床面
200	Ⅱ群	B1類	イ	口径15.2cm。逆L字肥厚。肥厚下を縦撫で及び横篦撫調整。橙褐色。	7号　C
201	Ⅱ群	B2・3類	イ	口径18cm。丸みのある逆L字肥厚。肥厚下に4mm幅の篦跡。橙褐色。	7号　4
202	Ⅱ群	B2・3類	イ	口径22cm。矮小化した逆L字肥厚。橙褐色。摩耗。	7号　4D20～30
203	Ⅱ群	B2・3類	イ	逆L字方形肥厚。肥厚下を7mm篦で調整。暗褐色。	7号　4B
204	Ⅱ群	B1類	イ	矮小化した逆L字肥厚。内面篦調整。橙褐色。	7号　6
205	Ⅱ群	B1類	イ	逆L字肥厚。肥厚部縮小。縦撫で及び横篦撫調整。暗褐色。	7号　下層床
206	Ⅱ群	B1類	イ	矮小化逆L字肥厚。口唇丸い。摩耗。明橙褐色。	7号　4C
207	Ⅱ群	B1類	イ	微弱肥厚。肥厚下を横撫で調整。明橙褐色。	7号　D50～55
208	Ⅱ群	B1類	イ	口縁先端を屈曲。逆L字擬似肥厚。橙褐色。摩耗。	7号　D50～55
209	Ⅱ群	B1類	イ	口縁先端を屈曲する擬似肥厚。口唇内傾。橙褐色。縦撫で及び横撫で調整。	7号　B20～30
210	Ⅱ群	B2・3類	イ	丸みのある肥厚。肥厚下を縦撫で及び横撫で調整。暗褐色。	7号　B30～35
211	Ⅱ群	B1類	イ	口縁先端を僅かに屈曲する擬似肥厚。暗褐色。横篦撫で調整。	7号　A30～35
212	Ⅱ群	B1類	イ	口縁先端を僅かに屈曲する擬似肥厚。薄橙褐色。摩耗。	7号　C下層
213	Ⅱ群	B1類	イ	丸みのある肥厚。橙褐色。摩耗。	7号　C下層張水
214	Ⅱ群	B1類	イ	丸みのある肥厚。明橙褐色。摩耗。	7号　D45～50
215	Ⅱ群	B2・3類	イ	丸みのある肥厚。肥厚下を5mm篦で調整。橙褐色。	7号　C35～45
216	Ⅱ群	B1類	イ	三角形に近い肥厚。口唇外傾。稜は上位。肥厚下を5mm篦で調整。橙褐色。	7号　4
217	Ⅱ群	B1類	イ	山形無肥厚口縁。口縁先端を屈曲し強調。茶褐色。摩耗。	7号　下層床
218	Ⅱ群	B2類	イ	口径15.2cm。丸みのある逆L字肥厚。肥厚下に指圧痕。橙褐色。	7号　4D20～30
219	Ⅱ群	B1類	イ	微弱肥厚口縁。肥厚を縦撫で調整。明橙褐色。	7号　2
220	Ⅱ群	B1類	イ	丸みのある肥厚。明橙褐色。肥厚下を縦撫で調整。	7号　D東西観察層40～50
221	Ⅱ群	B1類	イ	口径30.2cm。三角形に近い肥厚。稜は中位。肥厚下を撫で調整。橙褐色。孔は内外面から穿たれている。	7号　D観察層4層
222	Ⅱ群	B1類	イ	薄手土器。口唇部を外傾三角形に近い肥厚。稜は上位。摩耗。薄橙褐色。	7号　下層床
223	Ⅱ群	B2類	イ	口唇部を外傾した肥厚。稜は上位。撫で調整。茶褐色。	7号　5
224	Ⅱ群	B1類	イ	口唇部を外傾した肥厚。稜は上位。橙褐色。篦撫で調整。	7号　6
225	Ⅱ群	B2類	イ	シャープな三角形肥厚。口唇外傾。稜は中位。丁重な撫で調整。橙褐色。	7号　A30－お
226	Ⅱ群	B1類	イ	三角形肥厚。口唇外傾。稜は中位。丁重な撫で調整。橙褐色。	7号　2
227	Ⅱ群	B1類	イ	無肥厚。口縁先端を外反する。橙褐色。横撫で調整。	7号　AB20～50
228	Ⅱ群	B1類	イ	無肥厚。口唇部は舌状。橙褐色。横撫で調整。	7号　下層床
229	Ⅱ群	B1類	ア	矮小化逆L字肥厚。口唇内傾。7mm単篦で横捺刻文。茶褐色。摩耗。	7号　D35～40
230	Ⅱ群	B1類	ア	丸みのある逆L字肥厚。暗茶褐色。肥厚下を縦撫で及び横撫で調整。	7号　B30～35
231	Ⅱ群	B1類	イ	口径16.1cm。逆L字擬似肥厚。口唇内傾。橙褐色。縦撫で及び横撫で調整。	7号　AB20～50
232	Ⅱ群	B2類	イ	口径13.8cm。無肥厚。口縁を外反。橙褐色。摩耗	7号　B50～55
233	Ⅱ群	B3類	イ	典型的逆L字状肥厚。橙褐色。7mm単篦で横捺刻文。縦撫で及び横撫で調整。	7号　D45～50
234	Ⅱ群	B3類	エ	肥厚部縮小。口縁に縦位沈線文1条。橙褐色。4mm篦撫調整。	7号　C下層
235	Ⅱ群	B3類	ア	逆L字肥厚。肥厚下に5mm単篦による押引文1条。茶褐色。撫で調整。	7号　B50～55
236	Ⅱ群	B3類	イ	逆L字状肥厚。肥厚縮小。橙褐色。撫で調整。	7号　D30～35
237	Ⅱ群	B2類	イ	矮小化逆L字状肥厚。橙褐色。縦撫で及び横撫で調整。	7号　D東西観察層40～50
238	Ⅱ群	B1類	エ	無肥厚。口唇舌状。先端を僅かに屈曲。明橙褐色。撫で調整丁重。	7号　下層床
239	Ⅱ群	B3類	イ	口径24cm。無肥厚。口唇角が尖る。橙褐色。縦撫で調整。	7号　下層床
240	Ⅱ群	B2・3類	イ	口径が17.6cm。丸みのある方形肥厚。橙褐色。指圧痕。胴部は縦篦撫で。	7号　4C20～30
241	Ⅱ群	B3類	イ	口径17cm。微弱肥厚。口唇外傾。稜は上位。橙褐色。縦位撫で及び横撫で調整。	7号　B40～45
242	Ⅱ群	B3類	イ	口径16cm。微弱肥厚。口唇を若干外傾。橙褐色。撫で調整。	7号　AB20～50
243	Ⅱ群	B3類	イ	矮小化逆L字肥厚。口唇内傾。橙褐色。縦位撫で及び横撫で調整。	7号　1
244	Ⅱ群	B3類	イ	丸みのある微弱肥厚。橙褐色。撫で調整。	7号　下層
245	Ⅱ群	B3類	イ	微弱肥厚。口唇外傾。稜は上位。橙褐色。横撫で調整。	7号　B50～55
246	Ⅱ群	B3類	イ	微弱肥厚。口唇外傾。稜は上位。橙褐色。肥厚下を横撫で調整。	7号　B45～50
247	Ⅱ群	B3類	イ	稜は上位。橙褐色。横撫で調整。微弱肥厚。口唇外傾。	7号　D35～40
248	Ⅱ群	B4類	イ	口唇強く外傾。肥厚断面が三角形。稜は中位。橙褐色。横撫で調整。	7号　B50～55
249	Ⅱ群	B4類	イ	口唇外傾。丸みのある三角形肥厚。稜は上位。橙褐色。横撫で調整。	7号　D55～60
250	Ⅱ群	B4類	イ	無肥厚。先端を強く外反。擬似肥厚。口唇舌状。橙褐色。横撫で調整。	7号　4A
251	Ⅱ群	B4類	イ	無肥厚。口唇角を尖らせ誇張。橙褐色。頸部に指圧痕。	7号　C下層
252	Ⅱ群	B3類	イ	無肥厚。先端を強く外反。擬似肥厚。橙褐色。摩耗。	7号　A20-30
253	Ⅱ群	B3類	イ	無肥厚。先端を軽く外反。口唇外傾。橙褐色。頸部に指圧痕。	7号　4A
254	Ⅱ群	B3類	イ	無肥厚。屈曲し頸部を造る。口唇丸い。橙褐色。摩耗。	7号　4A
255	Ⅱ群	B3類	イ	無肥厚。僅かに外傾。口唇丸みい。橙褐色。横撫で調整。	7号　B50～55
256	Ⅱ群	B3類	イ	無肥厚。口唇丸い。橙褐色。摩耗。	7号　5A20～30
257	Ⅱ群	B3類	イ	無肥厚。僅かに外傾。口唇平坦。橙褐色。5mm篦撫で及び撫で調整。	7号　A50～55
258	Ⅱ群	C類壺形2	ウ	無肥厚。山形口縁。頸部明瞭。赤褐色。摩耗。	7号　D40～45
259	Ⅱ群	壺形1	イ	口径8.6cm。無肥厚。口唇丸い。橙褐色。横撫で調整。	7号　B45～50
260	Ⅱ群	B4類	イ	無肥厚。口縁外反。口唇平坦。橙褐色。縦撫で及び横撫で調整。	7号　下層床
261	Ⅱ群	B4類	イ	無肥厚。頸部造る。口唇内傾。橙褐色。5mm篦撫で及び横撫で調整。	7号　B45～50
262	Ⅱ群	C類	イ	三角形肥厚。舌状口唇。稜は下位。茶褐色。縦撫で及び横撫で調整。	7号　B40～45
263	Ⅱ群	C類	イ	三角形肥厚。舌状口唇。稜は中位。明橙褐色。摩耗。	7号　C覆土
264	Ⅱ群	C類	イ	三角形肥厚。舌状口唇。稜は下位。橙褐色。篦調整。	7号　下層床
265	Ⅱ群	C類	イ	扁平な三角形肥厚。舌状口唇。稜は下位。橙褐色。肥厚段差を撫で調整。	7号　4C
266	Ⅱ群	C類	イ	扁平な三角形肥厚。舌状口唇。稜は下位。橙褐色。	7号　下層床
267	Ⅲ群	喜念Ⅰ	ウ	口径12cm。三角形肥厚。舌状口唇。稜は中位。肥厚下にミミズ腫れ凸帯。側面に刺突文。暗茶褐色。撫で調整。	7号　B35～40
268	Ⅲ群	喜念Ⅰ	ウ	口径13.4cm。蒲鉾状肥厚。肥厚下に串状工具による刺突文と縦位にミミズ腫凸帯。橙褐色。5mm篦撫で及び横撫で調整。	7号　4C20～40
269	Ⅱ群	底部b	ア	平底。立ち上がり緩やか。茶褐色。撫で調整。	7号　4C45～55
270	Ⅱ群	底部d	イ	底径2.4cm。橙褐色。縦撫で調整。内面丸い。	7号　下層床
271	Ⅱ群	底部c	イ	丸底。橙褐色。摩耗。	7号　下層床
272	Ⅱ群	底部d	イ	底径3cm。乳房状。内面丸い。軟質胎土。ポーラス。黄褐色。内面黒化。	7号　B50～55
273	Ⅱ群	底部d	イ	丸底。立ち上がりが急。内面丸い。橙褐色。撫で調整。	7号　D50～55
274	Ⅱ群	底部d	イ	丸底。外面に微弱な段。内面丸い。橙褐色。撫で調整。	7号　D40～45
275	Ⅰ群	伊波	-	山形口縁部資料。点刻による横位区画文（叉状工具）が確認できる。区画内は空白。	8－1号　B35～40
276	Ⅰ群	伊波	-	山形口縁部資料。押引による横位区画文（叉状工具1列）が確認できる。縦位区画文は2列。区画内は空白。	8－1号　B20～25
277	Ⅰ群	伊波	-	山形口縁部資料。点刻による横位区画文（叉状工具2列）が確認できる。区画内は不明。	8－1号　A20～25
278	Ⅰ群	荻堂	-	山形口縁部資料。押引による横位区画文（叉状工具2列）と縦位区画文（叉状工具1列）。	8－1号　C15～20
279	Ⅰ群	伊波	-	口縁部資料。短沈線による横位区画文（叉状工具1列）が確認できる。口唇部にも短沈線。	8－1号　B30～35
280	Ⅰ群	伊波	-	口縁部資料。短沈線による横位区画文（叉状工具2列）が確認できる。区画内は不明。	8－1号　D30～35
281	Ⅰ群	伊波	-	点刻による横位区画文（叉状工具2列）が確認できる。第Ⅱ層文様帯もしくは区画内は空白。	8－1号　D30～35
282	Ⅰ群	伊波・荻堂	-	短沈線による横位区画文（叉状工具1列）が確認できる。区画内もしくは第Ⅱ層文様帯が空白。	8－1号　B20～25
283	Ⅰ群	荻堂	-	短沈線による横位横位区画文（叉状工具1列）と沈線による鋸歯文が確認できる。	8－1号　D25～30
284	Ⅰ群	荻堂	-	単篦工具による鋸歯文が確認できる。	8－1号　B30～35
285	Ⅰ群	伊波・荻堂	-	横位の沈線文と斜位の沈線文。	8－1号　A
286	Ⅰ群	伊波・荻堂	-	斜位の沈線文？区画内文様と考えられる。器面状態悪く不鮮明。	8－1号　C30～35
287	Ⅰ群	荻堂	-	叉状工具による短沈線と鋸歯文。器面状態悪く不鮮明。	8－1号　C25～30
288	Ⅰ群	荻堂	-	叉状工具による鋸歯文。第Ⅱ層文様帯部分だと考えられる。	8－1号　A20～25

第２表（４）　土器観察表

番号	土器分類		混入物	特徴	出土地
289	Ⅰ群	伊波・荻堂	-	斜位の沈線文が確認できる。区画内もしくは第Ⅱ層文様帯部分だと考えられる。	8－1号 B20～25
290	Ⅰ群	伊波・荻堂	-	山形口縁部。押引による横位区画文(単篦工具2列)が確認できる。	8－1号 B30～35
291	Ⅰ群	荻堂	-	押引による横位区画文(叉状工具2列)と区画内もしくは第Ⅱ層文様帯の鋸歯文(押引)が確認できる。	8－1号 上
292	Ⅰ群	伊波	-	刺突による横位区画文(叉状工具2列)が確認できる。	8－1号 C
293	Ⅰ群	伊波・荻堂	-	山形口縁部。押引による横位区画文(単篦工具2列)が確認できる。	8－1号 D遺構内
294	Ⅰ群	伊波・荻堂	-	山形口縁部。押引による横位区画文(単篦工具2列)が確認できる。	8－1号 上
295	Ⅰ群	伊波	-	山形口縁部。押引よる横位区画文(半裁竹管状工具3列)が確認できる。区画内は空白。	8－1号 A.B間観察層 ～40
296	Ⅰ群	伊波	-	口縁部資料。器面の状態悪く不鮮明。点刻文？が横位に一条。	8－1号 B遺構内
297	Ⅰ群	？	-	沈線で菱形文を施す。横位区画文は見られない。	8－1号 152
298	Ⅰ群	伊波・荻堂	-	区画内の羽状文であると考えられる。	8－1号 A遺構内10－15
299	Ⅰ群	伊波・荻堂	-	器面状態悪く不鮮明。沈線？による横位区画文。区画内もしくは第Ⅱ層文様帯が空白。	8－1号 上
300	Ⅰ群	伊波・荻堂	-	器面状態悪く不鮮明。沈線による横位区画文の一部だと考えられる。	8－1号 D35～40
301	Ⅰ群	？	-	刷毛目調整痕	8－1号 D20～25
302	Ⅰ群	荻堂	-	山形口縁の瘤状突起部。横位・縦位の押引？が確認できる。	8－1号 C25～30
303	Ⅰ群	荻堂	-	荻堂式土器の瘤状突起部。	8－1号 A0～10
304	Ⅰ群	荻堂	-	山形口縁部。短沈線による横位区画文(叉状工具1列)が確認できる。	8－1号 E20～30
305	Ⅰ群	荻堂	-	山形口縁部。押引による横位区画文(単篦工具3列)と第Ⅱ層文様帯に鋸歯文。	8－1号 C遺構内15～20
306	Ⅰ群	荻堂	-	口縁部資料。押引による横位区画文(叉状工具1列)が確認できる。区画内は沈線による鋸歯文。その下の押引は横位小区画文だと考えられる	8－1号 C15～20
307	Ⅰ群	荻堂	-	口縁部資料。押引による横位区画文(叉状工具2列)。器厚は7mm。	8－1号 A1南北観察層
308	Ⅰ群	荻堂	-	口縁部資料。押引による横位区画文(叉状工具2列)が確認できる。	8－1号 A20～25
309	Ⅰ群	荻堂	-	押引による横位区画文(叉状工具2列)が確認できる。	8－1号 中
310	Ⅰ群	荻堂	-	胴部資料。押引による横位区画文(叉状工具2列)が確認できる。器厚は6mm。	8－1号 C30～35
311	Ⅰ群	荻堂	-	押引による横位区画文(叉状工具3列)が確認できる。第Ⅱ層文様帯は無文。	8－1号 上
312	Ⅰ群	大山	-	口縁部資料。単篦工具による4列の押引文。施文具の幅は2mm。頸部がしまり胴部に下るにつれて張り出す。	8－1号 D20～25
313	Ⅰ群	荻堂	-	口縁部資料。半裁竹管状工具による押引文が横位に一条。区画内には断続的に斜位の押引文を充填。	8－1号 中
314	Ⅰ群	伊波・荻堂	-	横位の沈線文。器面状態悪く不鮮明。	8－1号 上
315	Ⅰ群	伊波	-	口縁部資料。沈線による横位区画文(叉状工具1列)が確認できる区画内は空白。	8－1号 D遺構内
316	Ⅰ群	荻堂	-	口縁部資料。器面状態悪く不鮮明。半裁竹管状工具によるものと考えられる押引文が横位に1列確認できる。	8－1号 B30～40
317	Ⅰ群	荻堂・大山	-	口縁部資料。単篦工具による押引文が1列確認できる。	8－1号 C30～35
318	Ⅰ群	大山	-	口縁部資料。単篦工具による押引文が2列確認できる。	8－1号 中
319	Ⅰ群	荻堂	-	山形口縁部。押引による横位区画文(単篦工具2列)が確認できる。	8－1号 D30～35
320	Ⅰ群	大山	-	口縁部資料。押引による横位区画文(半裁竹管状工具3列)が確認できる。	8－1号 B25～30
321	Ⅰ群	荻堂・大山	-	押引による横位区画文(単篦工具2列)が確認できる。	8－1号 B30～40
322	Ⅰ群	荻堂・大山	-	押引による横位区画文(単篦工具2列)が確認できる。器厚は8mm。	8－1号 D10～15
323	Ⅰ群	荻堂	-	押引による横位区画文(半裁竹管状工具1列)と第Ⅱ層文様帯もしくは区画内の押引による斜線(鋸歯文？)が確認できる。	8－1号 B10～15
324	Ⅰ群	荻堂・大山	-	押引による横位区画文(単篦工具2列)が確認できる。	8－1号 A30～35
325	Ⅰ群	伊波・荻堂	-	口縁部資料。単篦工具による刺突文。	8－1号 D30～35
326	Ⅰ群	底部a	-	底部資料。	8－1号 B15～20
327	Ⅰ群	底部a	-	底部資料。	8－1号 C遺構内0～10
328	Ⅰ群	底部a	-	底部資料。	8－1号 A南北観察層10～40
329	Ⅰ群	底部a	-	底部資料。	8－1号 A30～35
330	Ⅰ群	底部a	-	底部資料。	8－1号 C北壁
331	Ⅰ群	底部a	-	底部資料。	8－1号 D遺構内15～20
332	Ⅰ群	底部a	-	底部資料。	8－1号 A15～20
333	Ⅰ群	底部a	-	底部資料。	8－1号 B30～35
334	Ⅰ群	底部a	-	底部資料。	8－1号 B25～30
335	Ⅰ群	底部a	-	底部資料。	8－1号 E観察層10～70
336	Ⅰ群	底部a	-	底部資料。	8－1号 G20～30
337	Ⅱ群	B1類	イ	口径17.8cm。典型的逆L字方形肥厚。暗茶褐色。横撫で調整。	8－1号 D35～40
338	Ⅱ群	B1類	イ	典型的逆L字方形肥厚。橙褐色。横篦撫で調整。	8－1号 A15～20
339	Ⅱ群	B1類	イ	縮小逆L字肥厚。橙褐色。横篦撫で調整。	8－1号 D20～25
340	Ⅱ群	B1類	イ	口径19.3cm。口縁外反。逆L字肥厚に近い。暗茶褐色。横篦撫で調整。	8－1号 D20～25
341	Ⅱ群	B1類	ウ	縮小方形肥厚。赤褐色。摩耗。	8－1号 D20～25
342	Ⅱ群	B3類	イ	口唇外傾し断面三角形に近い。橙褐色。横撫で調整。	8－1号 G0～10
343	Ⅱ群	B3類	イ	典型的逆L字方形肥厚。橙褐色。縦撫で調整。	8－1号 A15～20
344	Ⅱ群	B3類	イ	縮小逆L字肥厚。橙褐色。縦撫で調整。	8－1号 D0～10
345	Ⅱ群	B1類	イ	口径17.7cm。逆L字肥厚。橙褐色。縦撫で調整。	8－1号 B10～15
346	Ⅱ群	B3類	イ	口唇外傾し断面三角形に近い。橙褐色。摩耗。	8－1号 B15～20
347	Ⅱ群	B1類	イ	口径16cm。縮小逆L字肥厚。暗茶褐色。撫で調整。	8－1号
348	Ⅱ群	B1類	イ	口径10cm。小型深鉢。口唇幅広い。橙褐色。撫で調整。	8－1号 D
349	Ⅱ群	B1類	ア	口径18.3cm。矮小化逆L字肥厚。茶褐色。一部に篦痕。	8－1号 D20～25
350	Ⅱ群	B1類	イ	先端が薄い逆L字肥厚。橙褐色。縦撫で調整。	8－1号 C0～10
351	Ⅱ群	B1類	イ	薄手資料。微弱肥厚。暗茶褐色。摩耗。	8－1号 上
352	Ⅱ群	B2類	ア	縮小逆L字肥厚。若干屈曲。暗茶褐色。縦撫で及び横撫で調整。	8－1号
353	Ⅱ群	B1類	イ	微弱肥厚。橙褐色。摩耗。	8－1号 C35～40
354	Ⅱ群	B1類	ア	口径14.4cm。微弱肥厚。稜不明瞭。暗茶褐色。摩耗。	8－1号 A0～10
355	Ⅱ群	B3類	イ	微弱肥厚。外傾強い。舌状口唇。橙褐色。撫で調整。	8－1号 A0～10
356	Ⅱ群	B3類	イ	微弱肥厚。外傾強い。舌状口唇。橙褐色。撫で調整。	8－1号 D25～30
357	Ⅱ群	B1類	ウ	口径20cm。口唇外傾。断面三角形に近い肥厚。稜は中位。橙褐色。摩耗。	8－1号 B30～35
358	Ⅱ群	B2類	イ	口径12.6cm。微弱肥厚。丸みを帯びる。稜は中位。橙褐色。横撫で調整。	8－1号 A20～30
359	Ⅱ群	B2類	イ	微弱肥厚。口唇外傾。暗茶褐色。縦撫で及び横撫で調整。	8－1号 A15～20
360	Ⅱ群	B3類	イ	崩れた逆L字口縁。橙褐色。横撫で調整。	8－1号 A0～10
361	Ⅱ群	B2類	イ	微弱肥厚。橙褐色。横撫で調整。	8－1号 A20～25
362	Ⅱ群	B2類	イ	微弱肥厚。肥厚下を若干屈曲。暗茶褐色。摩耗。	8－1号 25～30
363	Ⅱ群	B1類	イ	口唇角をつまみ出し誇張。暗茶褐色。摩耗。	8－1号 C0130
364	Ⅱ群	B1類	イ	微弱肥厚。口唇外傾。橙褐色。横撫で調整。	8－1号 D20～25
365	Ⅱ群	B1類	イ	微弱肥厚。橙褐色。撫で調整。	8－1号 D20～25
366	Ⅱ群	B1類	イ	微弱肥厚。丸みを帯びる。橙褐色。撫で調整。	8－1号 A10～15
367	Ⅱ群	B1類	イ	微弱方形肥厚。口唇内傾。橙褐色。横撫で調整。	8－1号 10～15
368	Ⅱ群	B1類	ア	丸みのある肥厚口縁。暗茶褐色。撫で調整。	8－1号 C25～30
369	Ⅱ群	B1類	イ	口径約15cm。断面形三角形肥厚。稜は中位。茶褐色。撫で調整。	8－1号 C地点
370	Ⅱ群	B1類	イ	口径16.6cm。断面三角形肥厚。稜は中位。茶褐色。撫で調整。篦跡。	8－1号 A25～30
371	Ⅱ群	B1類	イ	口径14.4cm。口唇外傾。三角形に近い肥厚。稜は中位。橙褐色。横篦跡。	8－1号 A0～5
372	Ⅱ群	B3類	イ	口唇外傾。断面三角形に近い肥厚。稜は中位。橙褐色。8mm篦撫で。	8－1号 A20～30
373	Ⅱ群	B3類	イ	微弱肥厚。口唇外傾。断面三角形に近い。稜は中位。橙褐色。縦撫で調整。	8－1号 A35～40
374	Ⅱ群	B3類	イ	肥厚部外縁に丸み。橙褐色。摩耗。	8－1号 B30～35
375	Ⅱ群	C類	イ	口径20.8cm。口唇舌状。断面三角形肥厚。稜は下位。橙褐色。横撫で調整。	8－1号 D25～30
376	Ⅱ群	C類	イ	断面三角形肥厚。稜は中位。茶褐色。磨耗。	8－1号 C0～5
377	Ⅱ群	B3類	イ	断面三角形肥厚。口唇外傾。稜は中位。橙褐色。摩耗。	8－1号 B25～30
378	Ⅱ群	C類	イ	丸みのある三角形肥厚。口唇舌状。稜は中位。橙褐色。横撫で調整。	8－1号 A35～40
379	Ⅱ群	B3類	イ	丸みのある口唇を外反。橙褐色。指圧痕。横篦跡あり。	8－1号 B25～30
380	Ⅱ群	C類	イ	断面三角形肥厚。舌状口唇。稜は下位。茶褐色。縦篦撫で調整。	8－1号 15～20
381	Ⅱ群	C類	イ	丸みのある断面三角形肥厚。稜は下位。茶褐色。摩耗。	8－1号 35～40
382	Ⅱ群	C類	イ	三角形肥厚と方形肥厚の中間。刺突文。	8－1号 D0～30
383	Ⅱ群	C類	イ	断面三角形肥厚。舌状口唇。稜は中位。横撫で調整。	8－1号 A南北観察層
384	Ⅱ群	C類	ウ	蒲鉾状肥厚。暗褐色。摩耗。	8－1号 20～30

第２表（５）　土器観察表

番号	土器分類		混入物	特徴	出土地
385	Ⅱ群	B4類	イ	丸みのある口唇を外傾。橙褐色。横撫で調整。	8－1号　B10～15
386	Ⅱ群	B2類	イ	口径19.1cm。無肥厚口縁。外反。指圧痕。橙褐色。横撫で調整。	8－1号　D35～40
387	Ⅱ群	B1類	ウ	口径15cm。口唇角をつまみ出し誇張。暗茶褐色。頸部横撫で。胴部縦篦痕。	8－1号　D20～25
388	Ⅱ群	B1類	ウ	無肥厚。外反口縁。先端が薄い。茶褐色。摩耗。	8－1号　A25～30
389	Ⅱ群	B2類	ウ	無肥厚。屈曲させて口唇傾。暗茶褐色。摩耗。	8－1号　B25～30
390	Ⅱ群	B2類	イ	無肥厚。先端を屈曲。口唇丸い。橙褐色。摩耗。	8－1号　D10～15
391	Ⅱ群	B2類	ウ	薄手口縁。口唇外傾。茶褐色。摩耗。	8－1号　F353A15～20
392	Ⅱ群	B2類	ウ	疑似肥厚。口縁屈曲。口唇外傾。橙褐色。摩耗。	8－1号　D25～30
393	Ⅱ群	B1類	ア	口径18.6cm。逆L字形の擬似肥厚。暗茶褐色。篦横撫で。	8－1号　D20～25
394	Ⅱ群	B2類	ウ	口径19.2cm。無肥厚。口縁外反。口唇外傾。暗茶褐色。摩耗。	8－1号　D25～30
395	Ⅱ群	B2類	イ	無肥厚。口縁中位を圧迫し擬似肥厚。橙褐色。摩耗。	8－1号　A10～15
396	Ⅱ群	B1類	ア	微弱肥厚。肥厚下を圧迫する。茶褐色。撫で調整。	8－1号　D10～25
397	Ⅱ群	B2類	イ	無肥厚。口縁外反。口唇丸い。橙褐色。撫で調整。	8－1号　D30～35
398	Ⅱ群	B3類	イ	無肥厚。口縁外反。口唇丸い。橙褐色。撫で調整。	8－1号　D35～40
399	Ⅱ群	B1類	イ	無肥厚。口縁外反。口唇丸い。暗茶褐色。撫で調整。	8－1号　A25～30
400	Ⅱ群	B1類	イ	無肥厚。口唇丸い。明橙褐色。撫で調整。	8－1号　D20～25
401	Ⅱ群	B1類	ウ	無肥厚。口唇内傾。暗茶褐色。摩耗。	8－1号　G30～35
402	Ⅱ群	B1類	イ	無肥厚。口唇丸い。橙褐色。摩耗。	8－1号　A25～30
403	Ⅱ群	B1類	イ	無肥厚。口唇丸い。橙褐色。摩耗。	8－1号　A30～35
404	Ⅱ群	B1類	イ	無肥厚直口。橙褐色。摩耗。	8－1号　A15～20
405	Ⅱ群	B1類	イ	無肥厚直口。口唇丸い。橙褐色。摩耗。	8－1号　A25～30
406	Ⅱ群	B3類	イ	微弱肥厚。口唇丸い。橙褐色。摩耗。	8－1号　A15～20
407	Ⅱ群	B1類	ウ	微弱肥厚。口唇外傾。暗茶褐色。摩耗。	8－1号　A0～10
408	Ⅱ群	B3類	イ	口唇外傾。断面が三角形に近い。橙褐色。横撫で調整。	8－1号　D25～30
409	Ⅱ群	B3類	イ	縮小逆L字肥厚。橙褐色。縦撫で調整。	8－1号　D10～15
410	Ⅱ群	B4類	ア	擬似肥厚。逆L字形に近い。暗茶褐色。縦篦撫で及び撫で調整。	8－1号　D-0～30
411	Ⅱ群	B4類	イ	無肥厚。口縁を大きく外反。橙褐色。摩耗。	8－1号　C20～25
412	Ⅱ群	B3類	イ	口径17.2cm。口唇外傾。断面三角形。稜は上位。橙褐色。縦篦撫。	8－1号　A15～20
413	Ⅱ群	B4類	イ	口径13.2cm。縮小逆L字肥厚。橙褐色。縦篦撫で及び横撫で調整。	8－1号　B10～15
414	Ⅱ群	B2類	ア	口径12.4cm。三角形肥厚。舌状口唇。暗茶褐色。縦篦撫で及び横撫で。	8－1号　D20～25
415	Ⅱ群	B3類	イ	口径22.1cm。無肥厚。口縁外反。橙褐色。指圧痕と横撫で調整。	8－1号　A10～15
416	Ⅱ群	C類	イ	口径21cm。断面三角形肥厚。稜は中位。橙褐色。摩耗。	8－1号　D10～15
417	Ⅱ群	C類	イ	口径21.1cm。蒲鉾状肥厚。摩耗。茶褐色。	8－1号　C25～30
418	Ⅱ群	C類	ウ	口径18,6cm。丸味のある三角形肥厚。頚部に5mm叉状工具による横位点刻文が2条。横撫で調整。暗褐色。	8－1号　25～30cm
419	Ⅱ群	B2類	イ	口径17cm。外反疑似肥厚。摩耗。混入物多。7mm叉状工具による横位押引文1条。茶褐色。	8－1号　A25～30
420	Ⅱ群	C類	イ	口径14cm。三角形肥厚。稜は下位にある。肥厚部と肥厚下に叉状工具による刺突文。摩耗。茶褐色。	8－1号　D10～15
421	Ⅱ群	壷形2室川	イ	口径8.9cm。口縁下大きく屈曲。頚部を造る。矮小化した逆L字肥厚。横撫で調整。吹出原遺跡に類例。	8－1号　A35～40
422	Ⅱ群	壷形2	ア	口径10.1cm。口唇外傾。肥厚は小さい。稜は上位。肥厚下に叉状工具による押引文。茶褐色。摩耗。	8－1号　G10～20
423	Ⅱ群	壷形2	イ	口径10cm。無肥厚。口唇外傾。稜は中位。橙褐色。摩耗。	8－1号　D35～40
424	Ⅱ群	壷形2	イ	口径11cm。無肥厚。口唇外傾。稜中位。縦撫で後、横撫で調整。橙褐色。摩耗。	8－1号　D35～40
425	Ⅱ群	壷形2	イ	口径10.1cm。微弱肥厚。口唇外傾。稜は中位。橙褐色。摩耗。	8－1号　A10～15
426	Ⅲ群	喜念Ⅰ	エ	肥厚口縁。断面三角形。稜は下位。肥厚部に接してミミズ腫れ状凸帯と刺突文。摩耗。	8－1号　D10
427	Ⅲ群	犬田布	ア	逆L字肥厚。肥厚部から縦位に凸帯。下位の横位凸帯に連結。区画部分に綾杉状斜位沈線文。明橙褐色。撫で調整。	8－1号　D20～25
428	Ⅲ群	喜念Ⅰ	ウ	口径7cm。無肥厚。口唇外傾。頚部にミミズ腫れ状凸帯と刺突文2条。茶褐色。光沢のある撫で調整。	8－1号　A0～10
429	Ⅱ群	壷形2	イ	口径10.8cm。無肥厚。口唇外傾。稜は中位。橙褐色。混入物多。縦の撫で後横撫で調整。	8－1号　A25～30
430	Ⅲ群	喜念Ⅰ	イ	胴部。横位ミミズ腫れ状凸帯と刺突文。橙褐色。摩耗。	8－1号　G20～30
431	Ⅲ群	喜念Ⅰ	ア	壷頚部。終点を接した縦位と斜位のミミズ腫れ凸帯と刺突文。暗茶褐色。撫で調整。	8－1号　C25～30
432	Ⅰ群	荻堂	-	胴部。上位に横位沈線文1条と下位に刺突文2条。茶褐色。撫で調整。	8－1号　A15～20
433	Ⅲ群	喜念Ⅰ	ア	胴部破片。ミミズ腫れ状凸帯と刺凸文2条。茶褐色。摩耗。	8－1号　E10～20
434	Ⅲ群	喜念Ⅰ	イ	胴部破片。ミミズ腫れ状凸帯と刺突文2条。橙褐色。摩耗。	8－1号　A0～10
435	Ⅱ群	底部d	イ	平底。立ち上がりが緩やか。橙褐色。摩耗。	8－1号　A30～35
436	Ⅱ群	底部d	イ	厚みのある底部。橙褐色。摩耗。	8－1号　C20～25
437	Ⅱ群	底部e	イ	丸底。内面丸い。橙褐色。摩耗。	8－1号　A25～30
438	Ⅱ群	底部e	イ	尖底。内面平たい。橙褐色。撫で調整。	8－1号　南北観察層
439	Ⅱ群	底部e	イ	尖底。内面平たい。橙褐色。撫で調整。	8－1号　A25～30
440	Ⅱ群	底部e	イ	尖底。立ち上がり急。内面丸い。橙褐色。撫で調整。	8－1号　A25～30
441	Ⅱ群	底部e	イ	尖底。内面丸い。橙褐色。摩耗。	8－1号　A25～30
442	Ⅱ群	底部e	イ	尖底。微弱な乳房状。摩耗。	8－1号　A25～30
443	Ⅰ群	伊波	-	山形口縁部。刺突による横位区画文（叉状工具2列）が確認できる。	8－2号　A10～15
444	Ⅰ群	伊波	-	山形口縁部。刺突による横位区画文（叉状工具1列）が確認できる。口唇部にも刺突文。	8－2号　B25～30
445	Ⅰ群	伊波	-	山形口縁部資料。点刻による横位区画文（叉状工具1列）と区画内に斜位の沈線。	8－2号　A10～15
446	Ⅰ群	伊波	-	山形口縁部。刺突による横位区画文（叉状工具1列）が確認できる。区画内は空白。	8－2号　B
447	Ⅰ群	伊波	-	山形口縁部。点刻による横位区画文（叉状工具2列）が確認できる。	8－2号　B30～35
448	Ⅰ群	伊波	-	山形口縁部。点刻による横位区画文（叉状工具2列）が確認できる。	8－2号　B10～15
449	Ⅰ群	伊波	-	山形口縁部。点刻による横位縦位の区画文（叉状工具横位2列縦位1列）。口唇部に刻目文。	8－2号　C遺構内15～20
450	Ⅰ群	伊波	-	山形口縁部資料。短沈線による横位区画文（叉状工具1列）が確認できる。区画内は空白。	8－2号　A遺構内15～20
451	Ⅰ群	伊波	-	口縁部資料。短沈線による横位区画文（叉状工具1列）が確認できる。区画内は空白。	8－2号　A15～20
452	Ⅰ群	伊波・荻堂	-	口縁部資料。器面の状態悪く不鮮明。	8－2号　B25～30
453	Ⅰ群	伊波・荻堂	-	叉状工具によるものと考えられる1列の沈線文が確認できる。	8－2号　B0～5
454	Ⅰ群	伊波	-	山形口縁部。羽状文。上段省略型？	8－2号　B30～35
455	Ⅰ群	荻堂	-	区画内文様だと考えられる羽状文。	8号　A・B間観察層上層10～30
456	Ⅰ群	伊波・荻堂	-	沈線による横位区画文（叉状工具1列）と区画内には斜線が確認できる。	30
457	Ⅰ群	荻堂	-	沈線による横位区画文（叉状工具2列）と沈線による縦位区画文が確認できる。	8－2号　B25～30
458	Ⅰ群	伊波	-	乱雑化した網代状文。区画内文様だと考えられる。	8－2号　A遺構内25～30
459	Ⅰ群	伊波	-	点刻による横位区画文（叉状工具1列）と乱雑化した網代状文による区画内文様が確認できる。	8－2号　B30～35
460	Ⅰ群	荻堂	-	山形口縁部。押引による横位区画文（叉状工具上段1列下段2列）と区画内には鋸歯文。	8－2号　B25～30
461	Ⅰ群	伊波	-	沈線による横位区画文と区画内文様は鋸歯文（叉状工具）。	8－2号　A遺構内10～15
462	Ⅰ群	伊波・荻堂	-	器面状態悪く文様不鮮明。	8－2号　B0～5
463	Ⅰ群	伊波・荻堂	-	点刻による網代状文。区画内文様だと考えられる。	8－2号　C遺構内0～5
464	Ⅰ群	伊波	-	沈線もしくは押引による横位区画文（叉状工具3列）区画内は空白。	8－2号　B15～20
465	Ⅰ群	荻堂	-	山形口縁部の瘤状突起。突起上部に点刻文。	8－2号　A・B間観察上
466	Ⅰ群	荻堂	-	瘤状突起部。突起上部には棒状工具による刺突文。	8－2号　B15～20
467	Ⅰ群	荻堂	-	無紋の荻堂式土器。	8－2号　A20～25
468	Ⅰ群	伊波・荻堂	-	山形口縁部。点刻による横位区画文（叉状工具1列）が確認できる。	8－2号　B遺構内20～25
469	Ⅰ群	伊波	-	口縁部資料。短沈線による横位区画文（叉状工具2列）が確認できる。	8－2号　C遺構内0～5
470	Ⅰ群	伊波	-	口縁部資料。短沈線による横位区画文（叉状工具2列）が確認できる。区画内は空白の可能性が高い。	8－2号　B25～30
471	Ⅰ群	伊波	-	口縁部資料。短沈線による横位区画文（叉状工具2列）が確認できる。	8－2号　B15～20
472	Ⅰ群	荻堂	-	山形口縁部。押引による横位区画文（叉状工具3列）が確認できる。	8－2号　B15～20
473	Ⅰ群	荻堂	-	口縁部資料。押引による横位区画文（叉状工具4列）が確認できる。	8－2号　D0～10
474	Ⅰ群	荻堂	-	山形口縁部。押引による横位区画文（叉状工具6列）が確認できる。	8－2号　B・C観察層10～30
475	Ⅰ群	荻堂	-	口縁部資料。押引による横位区画文（叉状工具4列）が確認できる。	8－2号　A20～25
476	Ⅰ群	荻堂	-	山形口縁部。押引による横位区画文（叉状工具3列）が確認できる。	8－2号　B10～15
477	Ⅰ群	荻堂	-	押引による横位区画文（叉状工具5列）と押引による縦位区画文が確認できる。	8－2号　C遺構内0～5
478	Ⅰ群	荻堂	-	口縁部資料。押引による横位区画文（叉状工具2列）が確認できる。	8－2号　A遺構内
479	Ⅰ群	荻堂	-	横位区画文と考えられる2列の押引文が確認できる。	8－2号　A遺構内
480	Ⅰ群	荻堂	-	口縁部資料。押引による横位区画文（叉状工具2列）が確認できる。	8－2号　A15～20

第２表（６）　土器観察表

番号	土器分類		混入物	特徴	出土地
481	Ⅰ群	伊波・荻堂	-	器面状態悪く文様不鮮明。	8－2号　A遺構内15～20
482	Ⅰ群	荻堂	-	叉状工具による2列の押引文が確認できる。	8－2号　B15～20
483	Ⅰ群	荻堂	-	叉状工具による3列の押引文が確認できる。	8－1号　D20～25
484	Ⅰ群	荻堂	-	沈線文による縦位区画文が確認できる。その横に沈線による横位区画文らしきものも確認できる。	8－2号　A・B観察層30～40
485	Ⅰ群	荻堂	-	口縁部資料。押引による横位区画文（叉状工具2列）が確認できる。	8－2号　A15～20
486	Ⅰ群	荻堂	-	叉状工具による2列の押引文。	8－2号　A15～20
487	Ⅰ群	伊波・荻堂	-	叉状工具による1列の沈線文。器面状態悪く不鮮明。	8－2号　C地山30～35
488	Ⅰ群	荻堂	-	押引による横位区画文（叉状工具1列）と区画内もしくは第Ⅱ層文様帯に鋸歯文を施す。	8－2号　B10～15
489	Ⅰ群	荻堂	-	単篦工具による鋸歯文。器面状態悪く不鮮明。	8－2号　D0～10
490	Ⅰ群	荻堂	-	点刻による横位区画文（叉状工具2列）と区画内もしくは第Ⅱ層文様帯に鋸歯文が確認できる。	8－2号　B遺構内20～25
491	Ⅰ群	荻堂	-	山形口縁部。押引による横位区画文（叉状工具2列）と区画内に鋸歯文を充填。縦位凸帯上面および口唇部にも鋸歯文。	8－2号　C0～5
492	Ⅰ群	荻堂	-	口縁部資料。押引による横位区画文（叉状工具8列）第Ⅱ層文様帯には鋸歯文。	8－2号　B20～25
493	Ⅰ群	荻堂	-	山形口縁部。押引による横位区画文（単篦工具2列）が確認できる。口唇部には沈線文を施す。	8－2号　A・B
494	Ⅰ群	伊波	-	口縁部資料。押引による横位区画文（半裁竹管状工具1列）が確認できる。区画内は空白。	8－2号　B15～20
495	Ⅰ群	伊波	-	山形口縁部。押引による横位区画文（単篦工具1列）が確認できる。区画内は空白と考えられる。表面に擦痕が明瞭に残る	8－2号　B15～20
496	Ⅰ群	伊波・荻堂	-	口縁部資料。押引による横位区画文（叉状工具1列）が確認できる。区画内は空白。口唇部にも押引文。	8－2号　B15～20
497	Ⅰ群	伊波	-	口縁部資料。点刻による横位区画文（叉状工具2列）が確認できる。区画内は空白。	8－2号　A遺構内20～25
498	Ⅰ群	伊波・荻堂	-	口縁部資料。叉状工具による2列の短沈線。	8－2号　B25～30
499	Ⅰ群	伊波・荻堂	-	口縁部資料。叉状工具による1列の沈線。中段は空白。	8－2号　B15～20
500	Ⅰ群	荻堂・大山	-	単篦工具による3列の押引文。	8－2号　A10～15
501	Ⅰ群	伊波・荻堂	-	半裁竹管状工具による点刻文が3列確認できる。	8－2号
502	Ⅰ群	伊波・荻堂	-	器面状態悪く文様が不鮮明。	8－2号　A15～20
503	Ⅰ群	大山	-	口縁部資料。単篦工具による押引文が4列確認できる。	8－2号　B10～15
504	Ⅰ群	荻堂・大山	-	口縁部資料。半裁竹管状工具による押引文が2列確認できる。	8－2号　B15～20
505	Ⅰ群	荻堂	-	器面状態悪く文様が不鮮明。鋸歯文が確認できる。	20～25
506	Ⅰ群	伊波・荻堂	-	器面状態悪く文様が不鮮明。	8－2号　B20～25
507	Ⅰ群	大山	-	単篦工具による2列の押引文が確認できる。	8－2号　B10～15
508	Ⅰ群	大山	-	口縁部資料。単篦工具による押引文が1列確認できる。	8－2号　A15～20
509	Ⅰ群	伊波・荻堂	-	口縁部資料。半裁竹管状工具による点刻文が1列確認できる。	8－2号　B15～20
510	Ⅰ群	荻堂・大山	-	横位の凸帯上に沈線文。	8－2号　B10～15
511	Ⅰ群	伊波・荻堂	-	刺突による横位区画文（半裁竹管状工具2列）と沈線による縦位区画文もしくは区画内文様が確認できる。	8－2号　B25～30
512	Ⅰ群	荻堂・大山	-	単篦工具による押引文が1列確認できる。	8－2号　B30～35
513	Ⅰ群	？	-	口縁部資料。口縁部が微弱に肥厚する。肥厚部には単篦による刺突が施される。	8－2号　B5～10
514	Ⅰ群	荻堂・大山	-	口縁部資料。単篦工具による押引文が2列確認できる。	8－2号　B15～20
515	Ⅰ群	荻堂	-	器面状態悪く文様不鮮明。	8－2号　A5～10
516	Ⅰ群	底部a	-	底部資料。	8－2号　A・B間観察層上層
517	Ⅰ群	底部a	-	底部資料。	8－2号　A遺構内20～25
518	Ⅰ群	底部a	-	底部資料。	8－2号　B10～15
519	Ⅰ群	底部a	-	底部資料。	8－2号　B5～10
520	Ⅰ群	底部a	-	底部資料。	8－2号　B25～30
521	Ⅰ群	底部a	-	底部資料。	8－2号　D遺構内0～10
522	Ⅰ群	底部a	-	底部資料。	8－2号　C20～25
523	Ⅰ群	底部a	-	底部資料。	8－2号　A遺構内
524	Ⅰ群	底部a	-	底部資料。	8－2号　B30～35
525	Ⅰ群	底部a	-	底部資料。	8－2号　B・C観察層35～40
526	Ⅰ群	底部a	-	底部資料。	8－2号　A・B間観察層上層10～30
527	Ⅰ群	底部a	-	底部資料。	8－2号　B25～30
528	Ⅰ群	底部a	-	底部資料。	8－2号　B30～35
529	Ⅰ群	底部a	-	底部資料。	8－2号　B15～20
530	Ⅱ群	A類	ウ	口唇部1.1cm。肥厚幅1.3cm。歯ブラシ状方形肥厚。暗赤褐色。撫で調整。	8－2号　A15～20
531	Ⅱ群	A類	ウ	口唇部8mm。肥厚幅1.3cm。扁平な方形肥厚。暗赤褐色。篦撫で調整。	8－2号　15～20
532	Ⅱ群	A類	ウ	口唇破損。肥厚部幅2cm。歯ブラシ状肥厚。茶褐色。摩耗。	8－2号　20～25
533	Ⅱ群	A類	イ	歯ブラシ状肥厚。微弱な肥厚。頸部を屈曲。口唇に沈線文。摩耗。	8－2号　0～45
534	Ⅱ群	B3類	イ	矮小化逆L字肥厚。丸みを帯びる。暗褐色。摩耗。	8－2号　0～45
535	Ⅱ群	B1類	イ	微弱肥厚。口唇潰し平坦に成形。茶褐色。撫で調整。	8－2号　B15～20
536	Ⅱ群	B2類	イ	微弱肥厚。口唇が内側突出。茶褐色。撫で調整。	8－2号　C10～15
537	Ⅱ群	B2類	イ	口縁先端を屈曲。丸い口唇。茶褐色。撫で調整。	8－2号　B5～10
538	Ⅱ群	C類	ウ	断面三角形肥厚。稜は下位。5mm叉状工具による横位列点文1条。赤褐色。摩耗。	8－2号　5～10
539	Ⅱ群	C類	ウ	三角形肥厚。稜は下位。5mm叉状工具による連点文2条。暗褐色。撫で調整。	8－2号　0～5
540	Ⅱ群	B1類	イ	微弱肥厚。口唇潰し平坦に成形。橙褐色。摩耗。	8－2号　B20～25
541	Ⅱ群	B3類	イ	外傾して断面三角形肥厚。稜は中位。橙褐色。横撫で調整。	8－2号
542	Ⅱ群	B3類	イ	口径15.8cm。口縁を屈曲。口唇外傾。橙褐色。横撫で調整。	8－2号　0～20
543	Ⅰ群	伊波	-	山形口縁。突起先端を屈曲。8mm叉状工具の点刻文1条。摩耗。黄土色。	8－3号　20～30
544	Ⅰ群	伊波	-	山形突起がM字状。口唇部に4mm単篦工具の列点文。口縁部に8mm叉状工具の点刻文。	8－3号　D0～10
545	Ⅰ群	伊波	-	頚部。8mm叉状工具の点刻文を縦と横に1条。摩耗。茶褐色。	8－3号　20～30
546	Ⅰ群	伊波	-	頚胴部。5mm叉状工具の点刻文。橙褐色。撫で調整。	8－3号　30～35
547	Ⅰ群	伊波	-	胴部。4mm単篦工具の刺突文を施す。摩耗。橙褐色。	8－3号　0～10
548	Ⅰ群	伊波	-	胴部。2mm単篦工具の長沈線文が横1条。摩耗。暗茶褐色。	8－3号　20～30
549	Ⅰ群	伊波	-	胴部。8mm叉状工具の短沈線文が横1条。摩耗。暗茶褐色。	8－3号　20～30
550	Ⅰ群	伊・荻	-	口縁部。5mm叉状工具の連点文を縦に3条、斜沈線が2条。器形は伊波式文様は荻堂式的。摩耗。黒褐色。	8～3号　0～10
551	Ⅰ群	伊波	-	頚部。上に6mm叉状工具の点刻文が横1条。中に単篦工具の大きい鋸歯文が1条。摩耗。暗褐色。	8－3号　35～40
552	Ⅰ群	伊波	ウ	胴部。串状工具の綾杉文。摩耗。茶褐色。	8－3号　東西観察層0～10
553	Ⅰ群	伊波	ウ	胴部。串状工具の横長沈線文。下に斜位の長沈線文。綾杉文？。摩耗。茶褐色。	8－3号　東西観察層0～10
554	Ⅰ群	荻堂	-	山形口縁。肥厚する。5mm単篦工具の斜押引文2条。摩耗。茶褐色。	8－3号　20～30
555	Ⅰ群	荻堂	ウ	口縁部。肥厚する。6mm単篦工具の押引文1条。摩耗。茶褐色。	8－3号　0～10
556	Ⅰ群	荻堂	ウ	口縁部。肥厚する。口唇・口縁部に串状工具の押引文1条。摩耗。茶褐色。	8－3号　30～40
557	Ⅰ群	荻堂	-	口縁部内傾。8mm叉状工具の短沈線文3条。摩耗。黒褐色。	8－3号　B0～5
558	Ⅰ群	荻堂	ウ	口縁部。4mm叉状工具の連点文4条。撫で調整。暗褐色。	8－3号　20～30
559	Ⅰ群	荻堂	-	胴部。8mm叉状工具の短沈線文2条。摩耗。黒褐色。	8－3号　B0～5
560	Ⅰ群	荻堂	ウ	胴部。9mm叉状工具の列点文が横に2条。摩耗。茶褐色。	8－3号　東西観察層0～10
561	Ⅰ群	荻堂	ウ	口縁部。5mm単篦工具の押引文3条。摩耗。茶褐色。	8－3号　30～35
562	Ⅰ群	底部a	ア	平底。赤褐色。摩耗。	8－3号　BA10～25
563	Ⅱ群	底部a	イ	平底。橙褐色。摩耗。	8－3号　B0～5
564	Ⅱ群	A類	ウ	口唇部1.4cm。肥厚部2.4cm。歯ブラシ状方形肥厚。茶褐色。摩耗。	8－3号　B35～40
565	Ⅱ群	B1類	イ	逆L字状肥厚。口唇内傾。橙褐色横撫で調整。	8－3号　床面
566	Ⅱ群	B1類	イ	逆L字状に近い肥厚。横撫で。橙褐色。摩耗。	8－3号　D0～10
567	Ⅱ群	B1類	イ	縮小化逆L字方形肥厚。口唇内傾。橙褐色。縦撫で及び横撫で調整。	8－3号　AB30～35
568	Ⅱ群	B1類	イ	逆L字状に近い肥厚。篦横撫で調整。橙褐色。	8－3号　B0～10
569	Ⅱ群	B2類	イ	微弱肥厚。口唇外傾。三角形肥厚。橙褐色。縦撫で及び横撫で調整。	8－3号　BB25～30
570	Ⅱ群	B2類	イ	微弱肥厚。口縁を絞る。橙褐色。縦撫で及び横撫で調整。	8－3号　AB30～35
571	Ⅱ群	B3類	イ	微弱肥厚。口唇外傾。三角形肥厚。橙褐色。縦撫で及び横撫で調整。	8－3号　D0～10
572	Ⅱ群	B3類	イ	微弱方形肥厚。暗褐色。摩耗。	8－3号　D0～10
573	Ⅱ群	B1類	イ	微弱肥厚。口唇平坦。橙褐色。縦撫で及び横撫で調整。	8－3号　床面
574	Ⅱ群	B2類	イ	微弱肥厚。口唇外傾。三角形に近い。橙褐色。摩耗。	8－3号　B5～10
575	Ⅱ群	B2類	イ	微弱肥厚。口唇外傾し三角形に近い。稜は上位。橙褐色。摩耗。	8－3号　DA0～10
576	Ⅱ群	C類	イ	微弱肥厚。口唇外傾し三角形に近い。稜は中位。橙褐色。摩耗。	8－3号　D0～10

第２表（７）　土器観察表

番号	土器分類		混入物	特徴	出土地
577	Ⅱ群	B2類	イ	無肥厚口縁。口唇外傾。口縁中位が窪む。橙褐色。摩耗。	8－3号　DA0～10
578	Ⅱ群	C類	イ	三角形肥厚。口唇舌状。稜は下位。橙褐色。摩耗。	8－3号　BB20～25
579	Ⅱ群	B2類	イ	口径19.6cm。口唇外傾。三角形に近い。稜は上位。茶褐色。横篦痕。	8－3号　DB0～10
580	Ⅱ群	B2類	イ	口唇外傾。三角形に近い。稜は中位。暗茶褐色。横篦痕。	8－3号　BB35～40
581	Ⅱ群	B2類	イ	口唇外傾。三角形に近い。稜は中位。暗茶褐色。横篦痕。	8－3号　B0～10
582	Ⅱ群	C類	ウ	三角形肥厚。尖った口唇。稜は下位。茶褐色。	8－3号　10～20
583	Ⅱ群	C類	イ	三角形肥厚。口唇平坦。稜は下位。橙褐色。摩耗。	8－3号　B0～5
584	Ⅱ群	C類	ウ	丸みのある三角形肥厚。稜は中位。茶褐色。撫で調整。	8－3号　20～30
585	Ⅱ群	C類	イ	三角形肥厚。口唇舌状。稜は下位。橙褐色。横篦撫で。	8－3号　B0～5
586	Ⅱ群	B1類	イ	蒲鉾状肥厚。稜は不明瞭。茶褐色。摩耗。	8－3号　床面
587	Ⅱ群	C類	イ	蒲鉾状肥厚。口唇尖る。稜は中位。橙褐色。縦撫で調整。	8－3号　B20～30
588	Ⅱ群	B1類	イ	蒲鉾状に近い肥厚。橙褐色。縦撫で調整。	8－3号　床面
589	Ⅱ群	C類	ウ	口径20.2cm。三角形肥厚。稜は下位。5mm叉状工具による点刻文2条。暗褐色。撫で調整。	8－3号　床面
590	Ⅱ群	B1類	イ	口径16.5cm。無肥厚。口唇外向。稜は中位。橙器色。縦撫で調整。	8－3号　床面
591	Ⅱ群	B2類	イ	口径20.5cm。無肥厚。口縁屈曲。橙褐色。胴部は縦撫で。	8－3号　BB25～30
592	Ⅱ群	B1類	イ	口径20.8cm。無肥厚。口縁外反。縦撫で及び横撫で。茶褐色。黒斑。	8－3号　DD0～10
593	Ⅱ群	B1類	イ	無肥厚。口縁屈曲。橙褐色。縦撫で及び横撫で調整。	8－3号　BA20～30
594	Ⅱ群	B1類	ウ	無肥厚。口縁屈曲。橙褐色。縦撫で及び横撫で調整。	8－3号　DD0～10
595	Ⅱ群	B1類	イ	無肥厚。口縁屈曲。橙褐色。横撫で調整。	8－3号　BA20～30
596	Ⅱ群	B1類	イ	無肥厚。口縁外反。稜は中位。橙褐色。縦撫で調整。	8－3号　BA20～30
597	Ⅱ群	B1類	イ	無肥厚。口縁外反。稜は中位。橙褐色。縦撫で調整。	8－3号　BA20～30
598	Ⅱ群	B3類	オ	無肥厚直口。無頸壷か。茶褐色。撫で調整。	8－3号　Bc30～35
599	Ⅱ群	B2類	イ	無肥厚。口縁屈曲。橙褐色。撫で調整。	8－3号　BA20～30
600	Ⅱ群	B1類	イ	無肥厚口縁。口縁先端を屈曲。擬似肥厚。橙褐色。撫で調整。	8－3号　BA0～5
601	Ⅱ群	B1類	イ	無肥厚。口縁屈曲。口唇丸い。橙褐色。撫で調整。	8－3号　Bc0～10
602	Ⅱ群	B1類	イ	無肥厚。口縁屈曲。橙褐色。撫で調整。	8－3号　10～30
603	Ⅱ群	B3類	オ	無肥厚直口。無頸壷か。茶褐色。撫で調整。	8－3号　東西30～40
604	Ⅱ群	B3類	ア	口縁屈曲。擬似肥厚。逆L字形に近い。橙褐色。縦篦撫で及び横撫で調整。	8－3号　東西観察層30～40
605	Ⅱ群	B3類	イ	典型的逆L字状方形肥厚。橙褐色。横篦撫で。	8－3号　DE
606	Ⅱ群	B3類	イ	口径19.4cm。縮小逆L字肥厚。橙褐色。縦撫で及び横撫で調整。	8－3号　B0～10
607	Ⅱ群	B2類	イ	口径13cm。縮小逆L字肥厚。橙褐色。縦篦撫及び横撫で調整。	8－3号　床面
608	Ⅱ群	B3類	ア	縮小逆L字形肥厚。茶褐色。指圧痕。撫で調整。黒斑。	8－3号　BA5～10
609	Ⅱ群	B2類	イ	口径10.3cm。口唇外傾。三角形に近い。稜は上位。橙褐色。横撫で。一部に篦痕。	8－3号　D20～10
610	Ⅱ群	B1類	イ	口径11.1cm。口唇外傾。三角形に近い。稜は上位。暗褐色。横撫で調整。	8－3号　DA～10
611	Ⅱ群	B3類	イ	口径14.3cm。口唇外傾。三角形に近い。稜は上位。橙褐色。横撫で調整。	8－3号　東西観察層10～30
612	Ⅱ群	B4類	イ	口径18cm。口唇外傾。三角形に近い。稜は上位。橙褐色。横撫で調整。	8－3号　DB0～10
613	Ⅱ群	B2類	イ	口径12.5cm。口唇外傾。三角形に近い。稜は上位。橙褐色。横撫で調整。	8－3号　DD0～10
614	Ⅱ群	C類	イ	口径18.6cm。三角形肥厚。稜は下位。暗褐色。撫で調整。	8－3号　AB10～15
615	Ⅱ群	B3類	イ	口径15cm。口縁外反。稜は丸い。橙褐色。横撫で調整。	8－3号　床面
616	Ⅱ群	B3類	イ	口径15cm。口縁外反。稜は丸い。暗褐色。縦撫で調整。	8－3号　BB20～25
617	Ⅱ群	C類	ウ	三角形肥厚。口唇舌状。稜は下位。茶褐色。撫で調整。	8－3号　DE0～10
618	Ⅱ群	C類	イ	口唇外傾。三角形に近い。稜は中位。橙褐色。横撫で調整。	8－3号　BA20～30
619	Ⅱ群	B3類	ア	微弱肥厚。6mm単篦工具による押引文1条。下に斜沈線。暗茶褐色。撫で調整。	8－3号　DD0～10
620	Ⅱ群	B2類	ア	胴部破片。単篦工具による押引文を1条その上下に斜沈線。暗茶褐色。撫で調整。	8－3号　DD0～10
621	Ⅱ群	B2類	ア	口唇破損。上位に6mm単篦工具で押引文1条中位に斜沈線文3条。暗褐色。摩耗。	8－3号　DA0～10
622	Ⅱ群	B2類	ア	胴部破片。単篦工具による押引文2条。その間に斜沈線。暗茶褐色。撫で調整。	8－3号　DD0～10
623	Ⅱ群	B2類	ア	胴部破片。単篦工具による押引文1条。その間に斜沈線。暗茶褐色。撫で調整。	8－3号　DA0～10
624	Ⅱ群	B2類	ア	胴部破片。単篦工具による押引文2条。その間に斜沈線。暗茶褐色。撫で調整。	8－3号　DD0～10
625	Ⅱ群	C類	イ	口径16.6cm。断面三角形肥厚。稜は中位。頸部。橙褐色。縦撫で及び横撫で。	8－3号　BB15～20
626	Ⅱ群	C類	イ	口径16cm。広口の壷。山形口縁。間延びした三角形肥厚。稜は下位。橙褐色。肥縦撫で調整。	8－3号　DC0～10
627	Ⅱ群	B3類	ア	口径19cm。口唇外傾。稜は上位。6mm単篦工具で押引文を横位2条その間と下に羽状斜沈線文。暗赤褐色。撫で調整。	8－3号　D2 0～10
628	Ⅱ群	B3類	イ	口径16.4cm。丸い微弱肥厚。橙褐色。横撫で調整。	8－3号　東西観察層10～30
629	Ⅱ群	壷形2	イ	口径9.4cm。三角形肥厚。稜は中位。橙褐色。横撫で調整。	8－3号　D2 0～10
630	Ⅱ群	壷形1	イ	口径11cm。三角形肥厚。稜は中位。橙褐色。横撫で調整。	8－3号　床面
631	Ⅱ群	壷形2	ウ	口径は13.2cm。口縁外反。摩耗。	8－3号　B0～5
632	Ⅱ群	壷形1	ウ	口径7.2cm。無肥厚直口。茶褐色。頸部を絞込んだ縦皺。	8－3号　P0～45
633	Ⅱ群	C類	ウ	丸い三角形肥厚。稜は下位。5mm叉状工具による点刻文が2条。暗褐色。撫で調整。	8－3号　10～30
634	Ⅲ群	喜念Ⅰ	エ	胴部破片。上位に羽状細沈線下位にミミズ腫れ状の凸帯と刺点文。黒褐色。摩耗。	8－3号　BA0～5
635	Ⅲ群	喜念Ⅰ	エ	直口頸胴部。ミミズ腫れ状の凸帯と刺点文。黒褐色。	8－3号　Ⅱ層20～30
636	Ⅱ群	底部e	イ	底部にしては薄造り。厚みが均等。内面丸い。	8－3号　BB10～15
637	Ⅱ群	底部d・e	イ	均等な厚み。	8－3号　床面
638	Ⅱ群	底部e	イ	基本的に尖底の造り。底径2.8cm。内面平坦。	8－3号　床面
639	Ⅱ群	底部e	イ	基本的に尖底の造り。底径2cm。内面平坦。	8－3号　B0～5
640	Ⅱ群	底部d	イ	底部に厚みがある。立ち上がり部分の2倍。	8－3号　AB20～25
641	Ⅱ群	底部d	イ	立ち上がり部分。厚みは均等。	8－3号　DB 0～10
642	Ⅱ群	底部d	イ	厚みが均等。内面平坦。	8－3号　床面
643	Ⅲ群	底部e	エ	基本的に尖底の造り。底径2.4cm。内面平坦。	8－3号　BB35～40
644	Ⅰ群	伊波	-	緩やかな山形口縁。右方向叉状連点文。	9号　ニ・ヌ15・16　8D0～10
645	Ⅰ群	伊波・荻堂	-	胴部。叉状短沈線。	9号　A0～10
646	Ⅰ群	伊波	-	胴部。沈線による区画に斜沈線を充填。	9号　A観察アゼ
647	Ⅰ群？	？	-	外反する口縁。肥厚は見られない。山形口縁のようにも見えるが頸部の屈曲が大きく型式不明。	9号　Cニ・ヌ14・15　10-15
648	Ⅰ群	荻堂	-	瘤状突起。突起部は無文で縁に2対？連点文を山形に配す。	9号　Aニ・ヌ15・16　10～15
649	Ⅰ群	伊波・荻堂	-	胴部。叉状中沈線による鋸歯文連点文。	9号　Aニ・ヌ15・16　10～15
650	Ⅰ群	伊波	-	口縁。左方向？幅3mmの横捺刻文2条を上下に配しその間に単篦による鋸歯文。	9号　A0～10
651	Ⅰ群	伊波・荻堂	-	胴部。単篦もしくは棒状工具による鋸歯文叉状連点文2対。	9号　Cニ・ヌ15・16　0～10
652	Ⅰ群	伊波・荻堂	-	胴部。叉状連点文鋸歯文。	9号　BD　観察アゼ
653	Ⅰ群	荻堂	-	カーブのある胴部。叉状連点文3対以上。	9号　Aニ・ヌ15・16　10～15
654	Ⅰ群	伊波	-	胴部。浅めの単篦押引き文。	9号　BD　観察アゼ
655	Ⅰ群	伊波	-	胴部。押引き文。	9号　BD　観察アゼ
656	Ⅰ群	大山？	-	胴部。間隔が狭い押引き文。	9号　BD　観察アゼ
657	Ⅰ群	大山	-	口縁。幅3mmの左方向押引き文2条以上。	9号　Cニ・ヌ16　0～10
658	Ⅰ群	伊波・荻堂	-	胴部。叉状点刻文。	9号　C15～20
659	Ⅰ群	伊波・荻堂	-	胴部。斜沈線の組み合わせによる鋸歯文か。	9号　Aニ・ヌ15・16　10～15
660	Ⅰ群	底部a	-	立ち上がりが明瞭な平底。	9号　A0～10
661	Ⅰ群	底部a	-	内底も平坦な平底。	9号　A0～10
662	Ⅰ群	底部a	-	内底が緩やかな平底。	9号　4Bニ・ヌ15・16　0～10
663	Ⅰ群	底部a	-	平底。薄手。	9号　Dニ・ヌ15・16　0～10
664	Ⅰ群	底部a	-	内底が緩やかな平底。	9号　Bニ・ヌ15・16　0～10
665	Ⅱ群	底部b	イ	平底。底径3.0cm。	9号　C観察アゼ
666	Ⅱ群	底部d	ウ	丸底。茶褐色。摩耗。	9号　Bニ・ヌ15・16　0～10
667	Ⅱ群	底部d	イ	丸底。橙褐色。摩耗。	9号　A0～10
668	Ⅱ群	B1類	イ	口径21cm。逆L字肥厚。橙褐色。撫で調整。	9号　A0～10
669	Ⅱ群	壷形1	エ	口径10.8cm。微弱肥厚。口唇丸い。黒褐色。撫で調整。	9号　AC間
670	Ⅱ群	B1類	イ	無肥厚口縁。口縁屈曲。逆L字に近い。橙褐色。横撫で調整。	9号　A15～20
671	Ⅱ群	B1類	イ	微弱肥厚。橙褐色。撫で調整。	9号　A15～20
672	Ⅲ群	宇宿	エ	口径13.5cm。口縁屈曲。口唇外傾。黒褐色。撫で調整。	9号　ニヌ15・16 9D0～10

第２表（８）　土器観察表

番号	土器分類		混入物	特徴	出土地
673	Ⅱ群	B1類	イ	微弱肥厚。丸みを帯びる。橙褐色。摩耗。	9号　床
674	Ⅱ群	B1類	イ	蒲鉾状に近い肥厚口縁。摩耗。橙褐色。	9号　0～10
675	Ⅱ群	B1類	イ	口唇外傾。三角形に近い。稜は上位。橙褐色。摩耗。	9号　0～10
676	Ⅱ群	B1類	イ	口径20.4cm。口縁屈曲。口唇外傾。明茶褐色。	9号　A0～10
677	Ⅱ群	B1類	イ	口径18.2cm。三角形肥厚。稜が中位。明茶褐色。摩耗。	9号　D10～15
678	Ⅱ群	B2類	イ	微弱肥厚。口縁外反。三角形に近い。稜は中位。橙褐色。摩耗。	9号　ニヌ15･16 0～10
679	Ⅱ群	B2類	イ	微弱肥厚。摩耗。明茶褐色。	9号　A0～10
680	Ⅱ群	B1類	イ	微弱肥厚。三角形肥厚。口唇外傾。稜は中位。橙褐色。摩耗。	9号　A0～10
681	Ⅱ群	B1類	イ	口唇外傾。三角形に近い。稜は中位。橙褐色。摩耗。	9号　床
682	Ⅱ群	B1類	イ	口径18.7cm。口縁屈曲。赤茶褐色。撫で調整。輪積明瞭。	9号　C0～15
683	Ⅱ群	B1類	イ	微弱肥厚。丸みを帯びる。薄茶褐色。縦指撫で。	9号　Cニヌ15･16　0～10
684	Ⅱ群	B1類	イ	蒲鉾状肥厚に近い。明茶褐色。摩耗。	9号　床
685	Ⅱ群	B1類	イ	微弱方形肥厚。橙褐色。摩耗。	9号　ニヌ
686	Ⅱ群	B1類	イ	無肥厚。口縁先端を窪ませ口唇強調。橙褐色。摩耗。	9号　床
687	Ⅱ群	B2類	イ	無肥厚縁。口縁屈曲。口唇外傾。橙褐色。横撫で調整。	9号　Cニヌ15･16　0～10
688	Ⅱ群	B3類	イ	微弱肥厚。蒲鉾状に近い。明茶褐色。撫で調整。	9号　床
689	Ⅱ群	C類	イ	口径19cm。蒲鉾状肥厚。若干外反。明茶褐色。箆撫で。	9号　Cニヌ15･16　0～10
690	Ⅱ群	C類	イ	三角形肥厚。口唇舌状。稜は下位。暗褐色。摩耗。	9号　Cニヌ15･16　0～10
691	Ⅱ群	C類	ウ	三角形肥厚。舌状口唇。稜は下位。橙褐色。横撫で調整。	9号　C観察
692	Ⅱ群	C類	ウ	三角形肥厚。舌状口唇。稜は下位。橙褐色。横撫で調整。	9号　床
693	Ⅱ群	C類	ウ	三角形肥厚。舌状口唇。稜は中位。橙褐色。横撫で調整。	9号　ニヌ15･16　0～10
694	Ⅱ群	B3類	イ	口径14.6cm。矮小化L字状肥厚。薄橙褐色。横撫で調整。	9号　A15～20
695	Ⅱ群	B3類	イ	口径18.2cm。逆L状肥厚。茶褐色。縦撫で及び横撫で調整。	9号　ニヌ15･16 9D0～10
696	Ⅱ群	C類	イ	口径20.3cm。三角形肥厚。稜は下位。暗褐色。撫で調整。	9号　AC間 観察
697	Ⅲ群	喜念Ⅰ	ウ	頸胴部。ミミズ腫れ凸帯と刺突文を上下に2条。その間に縦に1条。暗褐色。撫で調整。	9号　Cニヌ15･16 9D0～10
698	Ⅲ群	喜念Ⅰ	イ	口径9.8cm。無肥厚。口唇外傾。ミミズ腫れ凸帯と刺突文を頸部下から胴部に3条口縁から胴部の凸帯にかけて縦位に3条。摩耗。茶褐色。	9号　A0～10
699	Ⅲ群	喜念Ⅰ	ウ	壷の頸部。終点を接した縦と斜位のミミズ腫れ状凸帯とその側面に刺突文。茶褐色。撫で調整。	9号　Bニヌ15･16 9D0～10
700	Ⅲ群	宇宿	エ	口径14.8cm。山形突起。三角形肥厚。稜は下位。黒褐色。撫で調整。	9号　D0～10
701	Ⅰ群	伊波	-	口縁部。8mm幅叉状工具短沈線文を横位2条。茶褐色。摩耗。	10号　A5～10
702	Ⅰ群	荻堂	-	口縁部干内傾。5mm単箆工具による押引文横位に6条。文様明瞭である。暗茶褐色。摩耗。	10号　A5～10
703	Ⅰ群	大山	-	頸部。串状工具による押引文。茶褐色。摩耗。	10号　A0～5
704	Ⅰ群	大山	-	頸部。上下に半裁竹管の押引文。中は凸帯で区画凸帯に単箆工具の斜沈線。暗赤褐色。	10号　A0～5
705	Ⅰ群	大山	-	頸部。横位凸帯に，単箆状工具の列点文。茶褐色。摩耗。	10号　A15～20
706	Ⅲ群	喜念Ⅰ	イ	頸部。横に2条の凸帯。側面に刺突文。赤茶褐色。摩耗。	10号　A20～40
707	Ⅱ群	B1類	イ	逆L字肥厚。薄茶褐色。撫で調整。	10号　A0～5
708	Ⅱ群	B3類	ウ	微弱肥厚。口唇平坦。撫で調整。指跡。暗褐色。	10号　A15～20
709	Ⅱ群	B1類	イ	微弱肥厚。口唇平坦。稜は明瞭。橙褐色。摩耗。	10号　A15～20
710	Ⅱ群	B3類	ウ	微弱肥厚。口唇平坦。赤茶褐色。5mm箆撫で調整。	10号　A10～40
711	Ⅱ群	B2類	イ	微弱肥厚。口唇平坦。茶褐色。撫で調整。	10号　A0～5
712	Ⅱ群	B2類	ウ	口唇外傾。三角形に近い肥厚。橙褐色。摩耗。	10号　B15～20
713	Ⅱ群	B3類	イ	丸みのある方形肥厚。茶褐色。撫で調整。	10号　A20～40
714	Ⅱ群	B1類	イ	微弱肥厚。口唇丸みあり。橙褐色。摩耗。	10号　A10～15
715	Ⅱ群	C類	ウ	丸い三角形肥厚。稜は中位。撫で調整。暗褐色。	10号　20～40
716	Ⅱ群	C類	イ	山形三角形肥厚。赤茶褐色。撫で調整。	10号　A5～10
717	Ⅱ群	C類	イ	偏平三角形肥厚口縁。舌状口唇。稜は下位。橙褐色。	10号　A20～40
718	Ⅱ群	B1類	ウ	口縁外反。口唇外傾。橙褐色。撫で調整。	10号　B5～10
719	Ⅱ群	B1類	イ	無肥厚。丸い口唇。撫で調整。茶褐色。摩耗。	10号　A15～20
720	Ⅱ群	B3類	イ	口唇外反。茶褐色。丁重に撫で調整。	10号　A10～15
721	Ⅱ群	B2類	ア	口唇外反。橙褐色。撫で調整。内面に指跡。	10号　A5～10
722	Ⅱ群	B2類	イ	口径19cm。口縁外反。撫で調整。橙褐色。	10号　B5～10
723	Ⅱ群	B3類	イ	口径17.6cm。微弱肥厚。外反。撫で調整。橙褐色。	10号　A0～5
724	Ⅱ群	C類	イ	口径13.2cm。三角形肥厚。山形突起。稜は下位。茶褐色。撫で調整。	10号　A15～20
725	Ⅱ群	底部b	イ	底径3.2cm。開く器形。内面丸い。橙褐色。撫で調整。	10号　A5～10
726	Ⅲ群？	底部d	エ	丸底。薄茶褐色。摩耗。軟質。ポーラス。	10号　A5～10
727	Ⅱ群？	底部b	ア	平底。底厚。茶褐色。摩耗。	10号　20～40
728	Ⅰ群	伊波･荻堂	-	口縁部に叉状工具による押引き文。	12号　0～15
729	Ⅰ群	伊波･荻堂	-	4条の横位刺突文が確認できる。	12号　15～20
730	Ⅰ群	？	-	2条の押引き文が確認できる。	12号　0～10
731	Ⅰ群	荻堂	-	叉状工具による押引き文。その直下に鋸歯文。	12号　3層15～20
732	Ⅰ群	大山	-	口縁部に1列の凸帯。凸帯上部は刻目文。口縁直下および凸帯下部に2条の押引き文が確認できる。	13号　0～10
733	Ⅰ群	？	-	2条の押引き文が確認できる。	13号　Ⅲ層　10～25
734	Ⅰ群	大山	-	3条の押引き文が確認できる。	13号　0～10　ホマ1516
735	Ⅱ群	B1類？	ア	口縁部は断面方形状。	13号　0～10
736	Ⅱ群	B1類？	ア	口縁部は断面方形状。	13号　FⅢ層15～20　ミ-16
737	Ⅰ群	大山	-	口縁部に2列の凸帯。凸帯上部は刻目文。凸帯間および下部に押引文が確認できる。	14号
738	Ⅰ群	大山	-	口縁部に2列の凸帯。凸上部は刺突文。凸帯間および下部に押引文が確認できる。	14号
739	Ⅰ群	大山	-	口縁部に2列の押引文。大山期の壺形土器と考えられる。	14号　A4　20～30
740	Ⅰ群	大山	-	口縁部が歯ブラシ状に肥厚。肥厚部には単箆による刺突。その直下には押引文が1列。その下に刺突文。	14号
741	Ⅰ群	大山	-	2列の刺突文が確認できる。1列は凸帯上に施文される。	14号　20～25　ム-16
742	Ⅰ群	？	-	口縁部資料。単箆工具による刺突文。743と同タイプ。	14号　西壁
743	Ⅰ群	？	-	口縁部資料。単箆工具による刺突文。742と同タイプ。	14号　E-1BⅢ層30～40
744	Ⅰ群	？	-	口縁部資料。刺突による横位区画文（棒状工具2列）が確認できる。口唇部にも刺突文。	14号　B-3　Ⅲ層10～20
745	Ⅰ群	荻堂	-	押引による横位区画文（叉状工具4列）が確認できる。	14号　東西セクション
746	Ⅰ群	荻堂	-	山形口縁部の瘤状突起。横位に1列の短沈線。凸帯上部にも短沈線。	14号
747	Ⅰ群	伊波･荻堂	-	横位に1列の沈線文。	14号　C-3　10～20
748	Ⅰ群	伊波･荻堂	-	区画内文様と考えられるが器面状態悪く文様不鮮明。	14号　地山面
749	Ⅰ群	荻堂	-	押引による横位区画文（叉状工具1列）と区画内には斜位の短沈線を充填。第Ⅱ層文様帯は無文。	14号　5～10
750	Ⅰ群	？	-	器面状態悪く文様不鮮明。	14号　BⅢ層0～5
751	Ⅰ群	伊波･荻堂	-	沈線による網代状文。区画内文様だと考えれられる。	14号　BⅢ層10～20
752	Ⅰ群	伊波･荻堂	-	器面状態悪く状態不鮮明。	14号　BⅢ層30～40
753	Ⅰ群	伊波･荻堂	-	器面状態悪く文様不鮮明。区画内文様だと考えられる。	14号　Ⅲ層50～60
754	Ⅰ群	荻堂	-	山形口縁部の瘤状突起。荻堂式の無文タイプ。	14号　東西セクション
755	Ⅰ群	荻堂	-	瘤状突起部。	14号　Ⅲ層30～60
756	Ⅱ群	B1類	ア	口縁。肥厚は貼り付けにより口唇水平。口縁下端に右方向の横捺刻文1条。	14号　地山面
757	Ⅱ群	B1類	イ	口縁。肥厚は貼り付けにより口唇丸みをもった内傾する面をもつ。口縁下端に左方向の押引き文1条。	14号　C4Ⅲ層20～30
758	Ⅰ･Ⅱ群？	大山･室川(B2類)	イ	わずかに外反する口縁。肥厚は貼り付けにより段状。口唇強調。押引による横位区画文（叉状工具3列）が確認できる。押引は引きが長い。	14号　Ⅲ層0～5
759	Ⅰ群	大山	-	口縁部資料。単箆による2列の押引と凸帯が確認できる。凸帯上にも刺突文。	14号　セクション東西
760	Ⅰ群	大山	-	口縁部資料。単箆による2列の押引と凸帯が確認できる。凸帯上にも刺突文。	14号　地山上
761	Ⅰ群	大山	-	口縁部資料。凸帯上部には単箆による刺突その上下には単箆による押引を施す。	14号　Ⅲ層0～5
762	Ⅱ群	B3類	ア	口縁。肥厚は貼り付けにより丸みがある。その下端に左方向の半裁竹管による横捺刻文1条。	14号　セクション
763	Ⅱ群	B3類	ア	口縁。肥厚は貼り付けにより丸みがある。その下端に左方向の半裁竹管による横捺刻文1条。762と同一か。	14号　Ⅲ層0～5
764	Ⅱ群	B3類	ア	口縁。肥厚は貼り付けにより口唇水平。その下端に左方向の半裁竹管による横捺刻文1条。	14号　B3Ⅲ層10～20
765	Ⅱ群	B1類	ア	口縁。肥厚は貼り付けにより幅8mmとやや太く水平な口唇。左方向の横捺濃く文2条か。	14号　A1　20～30
766	Ⅱ群	B1類	ア	口縁。肥厚は貼り付けにより逆「L」字形で口唇水平。肥厚部外面に単箆による刺突文。	14号　10～15
767	Ⅱ群	B1類	ア	口縁。肥厚は微弱だが口唇水平。口縁下端に左方向の単箆横捺刻文。	14号　西壁Ⅱ層

第２表（９）　土器観察表

番号	土器分類		混入物	特徴	出土地
768	Ⅱ群	B1類	ア	口縁。肥厚は貼り付けにより口唇水平。左方向の単篦横捺刻文。外面横位ハケ。	14号 B6 30～40
769	Ⅱ群	B1類	イ	口縁。肥厚は微弱だが口唇やや水平。左方向の半裁竹管による横捺刻文。	14号 Ⅲ層0～5
770	Ⅰ群	大山	-	口縁部に凸帯。凸帯上部には単篦工具による刺突文。	14号 B2Ⅲ層10～20
771	Ⅱ群	B3類	イ	口縁。肥厚は微弱だが口唇水平。口縁下端に不明瞭だが半裁竹管による刺突文？	14号 Ⅲ層0～5
772	Ⅱ群	B2類	イ	外反口縁。肥厚は不明瞭で稜を意識する外傾する水平面をもつ。胴部上端に左方向の浅めの横捺刻文。	14号 B3 Ⅲ層5～10
773	Ⅱ群	B1類	ア	口縁。肥厚は貼り付けにより口唇水平。口縁下端に単篦による横捺刻文。	14号 土器東西
774	Ⅰ群	大山・B3類	-	口縁。肥厚は貼り付けにより断面台形状。口唇ナデにより水平。引きの長い連点文が1条。	14号 B3Ⅲ層10～20
775	Ⅰ・Ⅱ群	大山・B3類	イ	口縁。肥厚は貼り付けにより段状。口唇ナデにより水平。連点文。	14号 セクション
776	Ⅱ群	A類	ア	粘土帯貼付により口縁成形。肥厚部棒状工具（幅約0.1㎝）による押引き文。	14号 B-3 20～30
777	Ⅱ群	B4類	イ	右下がり斜沈線施文。無肥厚。口縁外反。	14号 AⅢ層40～50
778	Ⅱ群	B4類？	ア	数条を1組とする斜沈線（左下がり）施文。無肥厚。口唇平坦。口縁外反。	14号 A-4 20～30
779	Ⅱ群	B4類	ア	口唇直下右下がりと左下がり斜沈線を羽状に施文。無肥厚。口縁外反。口唇平坦。	14号 C-4 0～10
780	Ⅱ群	B2類	エ	頚部に右傾の斜沈線が施される。	14号 B-3 20～30
781	Ⅲ群	喜念Ⅰ	ア	頚部右下がりと左下がりの斜沈線を綾杉状に施文。	14号 A-3 30～40
782	Ⅱ群	B2類？	ア	肥厚口縁部篦状工具（幅約0.2㎝）による押引き文。頚部右傾沈線。	14号 B-3 Ⅲ層10～20
783	Ⅰ群？	大山？	-	頚部叉状工具（幅約0.5㎝）による押引き文・右下がりの斜沈線。	14号 Ⅲ層0～5
784	Ⅱ群	B2類	ア	頚部先端丸味のある篦状工具（幅約0.5㎝）による刺突文・左下がり斜沈線。無肥厚。	14号 B-3 10～20
785	Ⅲ群	犬田布	イ	肥厚口縁・その直下先端方形状工具の角を刺突した刺突文。頚部以下右下がり・左下がりの斜沈線を羽状に施文。	14号 Ⅲ層40～50
786	Ⅱ群	B3類	ア	頚部右下がり・右傾斜沈線を挟んで篦状工具（幅約0.3㎝）による押引き文2条施文。	14号 B-4Ⅲ層10～20
787	Ⅱ群	B4類	ア	頚部叉状工具（幅約0.4㎝）による押引き文・右下がり及び右傾斜沈線。無肥厚。口唇平坦。	14号 地山
788	Ⅱ群	B2類	ア	先端方形状工具による押引き文によって区切られる右下がり斜沈線施文。無肥厚。口唇平坦。	14号 A-2Ⅲ層20～30
789	Ⅱ群	B2類	ア	縦位綾杉文を挟んで半截竹管状工具（幅約0.3㎝）による刺突文施文。無肥厚。	14号 10～15
790	Ⅱ群	B2類	ア	頚部縦位押引き文によって区切られる横位押引き文以下に右下がり・右傾斜沈線施文。	14号 B-3Ⅲ層10～20
791	Ⅱ群	B1類	ア	頚部篦状工具（幅約0.4㎝）による押引き文。口唇水平。	14号 D Ⅲ層40～50
792	Ⅲ群	喜念Ⅰ	エ	棒状工具による連点文を上下に伴うミミズ腫れ状突帯を挟んで綾杉文が配される。	14号 セ-7？（セク？）
793	Ⅱ群	B4類	ア	頚部2条の刺突文。無肥厚。脆弱。	14号 西壁 Ⅱ層
794	Ⅱ群？	？	ア	幅約0.8㎝の断面方形状突帯を貼付。突帯上下には横位ハケメ残る。	14号 B-3 Ⅱ層40～50
795	Ⅲ群	喜念Ⅰ	エ	棒状工具による連点文を上下に伴うミミズ腫れ状突帯が2条廻る。	14号 A-3 30～40
796	Ⅲ群	喜念Ⅰ	イ	連点文を上下に伴うミミズ腫れ状突帯の剥離痕を挟んで斜沈線施文。金雲母を含む。	14号 A-16 20～25
797	Ⅲ群	喜念Ⅰ	ア	棒状工具による連点文を上下に伴う幅約0.2㎝のミミズ腫れ状突帯上部に斜沈線施文。	14号 BⅢ層10～20
798	Ⅲ群	喜念Ⅰ	イ	棒状工具による連点文を上下に伴うミミズ腫れ状突帯貼付。金雲母を含む。	14号 B10～20
799	Ⅱ群？	？	ア	幅約0.8㎝の断面三角状突帯が貼付されその直下に半裁竹管状工具による刺突文が廻る。	14号
800	Ⅱ群？	？	ア	右下がり斜沈線と半裁竹管状工具による刺突文が断面方形状突帯によって区切られる。	14号 Ⅲ層40～50
801	Ⅱ群？	？	ア	外面木口痕僅かに残る。	14号 Ⅲ層D20～30
802	Ⅱ群？	B1・2類？	イ	右傾・左傾の沈線直下に半截竹管状工具（幅約0.5㎝）による押引き文。	14号 B②Ⅲ層10～20
803	Ⅱ群？	？	ア	幅約1.0㎝の断面半円状の突帯を貼付。	14号 セク土器東西
804	Ⅲ群	喜念Ⅰ	エ	口径約11.6㎝。連点文を上下に伴うミミズ腫れ状突帯を区画として綾杉文・斜沈線施文。	14号 B4 5～10
805	Ⅲ群	喜念Ⅰ	エ	棒状工具による連点文を上下に伴うミミズ腫れ状突帯直下に綾杉文施文。	14号 C-4 30～40
806	Ⅲ群	喜念Ⅰ	エ	棒状工具による連点文を上下に伴うミミズ腫れ状突帯を区画として綾杉文施文。	14号 A4 25～30
807	Ⅱ群	底部b	ア	底径約3.0㎝。	14号 ミ-16Ⅲ層10～？
808	Ⅱ群	底部b	イ	底径不明。外面幅約0.4㎝の工具痕残る。	14号 BⅡ層40～50
809	Ⅱ群	A類	ア	口径約16.6㎝。粘土帯貼付。	14号 B-4 30～40
810	Ⅱ群	B1類	イ	口径約16.0㎝。口唇丸味を帯びる。肥厚口縁直下指頭痕残る。	14号 西壁
811	Ⅱ群	B2類？	イ	口径約12.1㎝。口唇平坦。	14号 ミ-15 20～25
812	Ⅱ群	C類	イ	口縁内面調整によって凹線を作る。金雲母を含む。	14号 ム-16 20～25
813	Ⅱ群	B1類	イ	口唇水平。	14号 B3Ⅲ層10～20
814	Ⅱ群	壷1	ア	口径約6.8㎝。A類の口縁を持つ。	14号 AⅢ層10～20
815	Ⅱ群	壷2	ア	A類の口縁を持つ。	14号 C3-4
816	Ⅱ群	B3類	ア	口唇水平。脆弱。	14号 BⅢ層40～50
817	Ⅱ群	B1類	ア	口唇丸味を帯びる。肥厚口縁直下工具痕残る。	14号 B3Ⅲ層10～20
818	Ⅱ群	B2類	イ	口唇水平。	14号 セク土器東西
819	Ⅱ群	B2・壷1類？	カ	無肥厚。	14号 C2Ⅲ層5～10
820	Ⅱ群	B3・壷1類？	イ	無肥厚。口唇水平。	14号 H-13セクション
821	Ⅱ群	B2・C類？	エ	口唇丸味を帯びる。肥厚口縁直下工具痕残る。	14号 セクション
822	Ⅱ群	B4類	ア	無肥厚。	14号 D-24
823	Ⅱ群	B1類？	ア	無肥厚。口縁舌状。	14号 Ⅲ層A-3 10～20
824	Ⅱ群	B4類？	イ	無肥厚。口唇平坦。	14号 D1？20～25
825	Ⅱ群	B1類	ア	口唇水平。横位ナデにより口唇外縁部を尖鋭に成形。	14号 10～15
826	Ⅱ群	B1類？	イ	貼付された肥厚帯下部を工具によって成形される点でA類に近似するが肥厚口縁丸味を帯びる。	14号 B3Ⅲ層 10～20
827	Ⅱ群	B2類	ア	口唇平坦。	14号 B2Ⅲ層10～20
828	Ⅱ群	B3類	ア	無肥厚。口唇平坦。	14号 ミ-15 20～25
829	Ⅱ群	B1類	ア	無肥厚。口唇平坦。脆弱。	14号 Ⅲ層40～50
830	Ⅱ群	B3類	イ	口唇水平。	14号 セク
831	Ⅱ群	B1類？	ア	口縁粘土を折り曲げて肥厚を成形。	14号 Ⅲ層10～15
832	Ⅱ群	B1類	ア	無肥厚。	14号 Ⅲ層0～5
833	Ⅱ群	B1類	イ	口唇水平。	14号 地区不明ム-16
834	Ⅱ群	B3類	ア	口唇丸味を帯びる。	14号 BⅢ層5～10
835	Ⅱ群	B1類	イ	口唇水平。	14号 B3Ⅲ層10～20
836	Ⅱ群	A類	ア	粘土帯貼付により口縁成形。	14号 西壁Ⅱ層
837	Ⅱ群	B4類	ア	口唇舌状。	14号 セクション
838	Ⅱ群	B1類	ア	無肥厚。口縁屈曲。	14号 西壁Ⅱ層
839	Ⅱ群	B3類	イ	口唇水平。	14号 セク14南北
840	Ⅱ群	B3類	イ	口唇水平。	14号
841	Ⅱ群	B1類？	ア	口唇水平。	14号 セクション
842	Ⅱ群	B1類	イ	口唇水平。	14号 Ⅲ層0～5
843	Ⅱ群	B2類	イ	口唇平坦。	14号 B3Ⅲ層10～20
844	Ⅱ群	C類	ア	断面三角状の肥厚口縁は工具によって成形。	14号 20-25 5／4
845	Ⅱ群	B1類	ア	口唇水平。粘土帯貼付により口縁成形。壷形の可能性あり。	14号 Ⅲ層10～15
846	Ⅱ群	A類	ア	粘土帯貼付により口縁成形。	14号 西壁
847	Ⅱ群	B3類	イ	口径約12.2㎝。頚部丸味を帯びた工具（幅約0.4㎝）による押引き文。口唇水平。	14号 Ⅲ層20～30
848	Ⅱ群	B3類	イ	口径約13.2㎝。化粧土貼付。口唇水平。	14号 Ⅲ層0～5
849	Ⅱ群	B3類	ア	口径約15.4㎝。口唇水平。	14号 C 0～10
850	Ⅱ群	B3類	イ	口径約14.8㎝。口唇水平（ルーズ）。	14号 B3Ⅲ層10～20
851	Ⅱ群	B3類？	イ	口径約16.4㎝。口唇水平。	14号 地山
852	Ⅱ群	B3類	ア	口径約12.2㎝。口唇水平。	14号 B4 20～30
853	Ⅱ群	C類	イ	口径約13.0㎝。断面三角状の肥厚口縁は工具によって成形。	14号 C 10～20
854	Ⅱ群	B3類	イ	口径約15.2㎝。口唇水平。	14号 Ⅲ層0～5 18
855	Ⅱ群	B3類？	イ	口径約16.0㎝。口唇水平。	14号 地山上50～60
856	Ⅱ群	B3類	イ	口径約15.6㎝。口唇水平。	14号 地山上50～60
857	Ⅱ群	B1類	イ	口径約18.4㎝。口唇水平。	14号 AⅢ層40～50
858	Ⅱ群	B3類	イ	口径約18.2㎝。口唇水平。	14号 AⅢ層40～50
859	Ⅱ群	B2類	ア	口径約20.0㎝。口縁丸味を帯びる。	14号 D-4 10～20
860	Ⅱ群	B3類	イ	口径約26.2㎝。外面ハケメ残る。口唇水平。	14号 DⅢ層40～50
861	Ⅱ群	B2類	イ	無肥厚。口縁内面ナデによる凹線形成。	14号 セク
862	Ⅱ群	B1類	ア	口縁丸味を帯びる。脆弱。	14号 Ⅲ層10～15
863	Ⅱ群	B4類？	ア	無肥厚。口縁外反。脆弱。	14号 A4 20～30

第２表(10)　土器観察表

番号	土器分類		混入物	特徴	出土地
864	Ⅱ群	A類	イ	粘土帯貼付により口縁成形。肥厚口縁外面指頭押圧によりイビツ。	14号　セク
865	Ⅱ群	B4類	イ	無肥厚。口縁外反。外面木口痕(幅約1.3㎝)あり。	14号　B土地10～20
866	Ⅱ群	B4類	カ	無肥厚。口縁外反。	14号　セクション
867	Ⅱ群	B3類	イ	無肥厚。口唇水平。	14号　H-14地山
868	Ⅱ群	B3類	イ	口唇水平。	14号　Ⅲ層0～5
869	Ⅱ群	A類	ア	粘土帯貼付により口縁成形。	14号　セク土器東西
870	Ⅱ群	B3類？	エ	無肥厚。口唇水平。	14号　Ⅲ層0～5
871	Ⅱ群	B2類	イ	口径約12.8㎝。	14号　地山B50～60
872	Ⅱ群	B3類	イ	口唇水平。	14号　地山上50～60
873	Ⅱ群	B1類？	ア	口径約16.5㎝。口唇水平。胴部の張り弱い。	14号　10～15
874	Ⅱ群	B3類	イ	口唇水平。口唇ナデによる凹線形成。	14号　B3Ⅲ層10～20
875	Ⅱ群	C類	イ	口径約15.4㎝。断面三角状の肥厚口縁は工具によって成形。	14号　Ⅲ層10～30
876	Ⅱ群	B4類？	ア	無肥厚。	14号　10～15
877	Ⅱ群	B2類？	イ	口径約16.8㎝。無肥厚。	14号　C4 0～10
878	Ⅱ群	B2類	イ	口径約16.6㎝。口唇平坦。	14号　地山
879	Ⅱ群	B3類	イ	口径約10.0㎝。口唇水平。	14号　セク14南北
880	Ⅱ群	B3類	イ	口径約11.0㎝。口唇水平。	14号　Ⅲ層10～20
881	Ⅱ群	B3類	イ	口径約9.0㎝。口唇水平。外面ハケメ僅かに残る。	14号　D-4 30～40
882	Ⅰ群	伊波	-	口縁。叉状連点文2対。	15号
883	Ⅰ群	伊波・荻堂	-	胴部。叉状連点文鋸歯文。	15号
884	Ⅰ群	伊波・荻堂	-	胴部。叉状連点文単箆短鋸歯文。	15号
885	Ⅰ群	大山	-	口縁。右方向横捺刻文3条中央突帯。内外面左方向のハケ調整(10本/1.7㎝)。口径13.2㎝。	15号
886	Ⅰ群	大山	-	口縁。左方向の押引き文2条。	15号
887	Ⅱ群	B1類・室川	ア	口縁。貼付による水平で明瞭な肥厚。	15号
888	Ⅱ群	B2類	イ	外反する口縁。肥厚は微弱だが水平。	15号
889	Ⅱ群	B1類	イ	口縁。貼付による水平な肥厚。	15号
890	Ⅱ群	B2類	イ	外反口縁。口唇ではなく稜を意識する肥厚。	15号
891	Ⅱ群	B1類	イ	口縁。貼付による丸みのある肥厚。	15号
892	Ⅱ群	B1類	イ	口縁。貼付による微弱だが水平な肥厚。	15号
893	Ⅱ群	B1類	イ	口縁。貼付による微弱だが水平な肥厚。	15号
894	Ⅱ群	B1類	ア	口縁。貼付による微弱だが水平な肥厚。	15号
895	Ⅱ群	A類	ア	口縁。貼付による方形の肥厚帯。やや胴が張るか。	15号
896	Ⅱ群	B1類	イ	口縁。貼付によるやや水平の肥厚。	15号
897	Ⅱ群	B2類	イ	口縁。口唇ではなく稜を意識する肥厚。	15号
898	Ⅱ群	B2類	イ	口縁。口唇ではなく稜を意識する肥厚。	15号
899	Ⅱ群	B1類	ア？	口縁。貼付による水平で明瞭な肥厚。口径10.8㎝。	15号
900	Ⅱ群	B2類	イ	大きく外反する口縁。肥厚は微弱だがやや水平。	15号
901	Ⅱ群	A・B1類	ア	口縁。貼付による方形の肥厚帯。やや胴が張るか。	15号
902	Ⅱ群	C類	イ	口縁。三角形の肥厚帯。頸部をもつ胴が張る。	15号
903	Ⅱ群	B3類	イ	口縁。貼付による微弱だが水平な肥厚。	15号
904	Ⅱ群	B2類	ア	外反口縁。口唇ではなく稜を意識する肥厚。口径12.4㎝。	15号
905	Ⅲ群	宇宿上層	エ	壺2。稜を意識する貼付による肥厚。口径9.0㎝。	15号
906	Ⅱ群	B2類	イ	大きく開く外反口縁。肥厚は微弱。口径22.0㎝。	15号
907	Ⅱ群	B2類	イ	外反口縁。口唇ではなく稜を意識する肥厚。	15号
908	Ⅱ群	C類・壺2	イ	口縁。三角形の肥厚帯。口径8.8㎝。	15号
909	Ⅱ群？	C類・壺2	イ	口縁。三角形の肥厚帯。口径7.0㎝。ミミズ腫れ状突帯あり。	15号
910	Ⅱ群	C類・壺2	イ	口縁。三角形の肥厚帯。頸部は短い。	15号
911	Ⅱ群	B3類	イ	口縁。肥厚は微弱だが水平。胴がやや張る器形。	15号
912	Ⅱ群	B3類	イ	口縁。貼付による水平な肥厚。胴がやや張る器形。	15号
913	Ⅱ群	B3類	イ	口縁。口唇よりも稜を意識する肥厚。	15号
914	Ⅱ群	C類	イ	口縁。貼付による三角形の肥厚帯。頸部は緩やか。	15号
915	Ⅱ群	B3類	イ	口縁。口唇よりも稜を意識するやや丸みのある肥厚。	15号
916	Ⅰ群	荻堂？	-	外反口縁。左方向の連点文3条。	15号
917	Ⅲ群	喜念Ⅰ	エ	外反口縁。稜を意識する肥厚。ミミズ腫れ状突帯。	15号
918	Ⅲ群	喜念Ⅰ	エ	壺形。ミミズ腫れ状横突帯2条。金雲母が入るが石英も目立ち軟質。920と同一か。	15号
919	Ⅰ群	伊波	-	胴部。空白部分が多く叉状連点文2条。	15号
920	Ⅲ群？	喜念Ⅰ？	エ？	壺形。920と類する胎土文様。三角状の山形口縁で典型的な喜念Ⅰ式ではない。口径11.8㎝。ごく少量金雲母含む。	15号
921	Ⅱ群？	B類？その他	イ	胴部。縦横の叉状連点文。形式特定できず。	16号　5～10
922	Ⅲ群？	喜念Ⅰ？	ア	ミミズ腫れ状突帯を有する胴部。斜沈線による鋸歯文。胎土はほぼⅠ群と同一。	15号
923	Ⅰ群	伊波・荻堂	-	胴部。叉状？点刻文。	15号
924	Ⅱ群	底部c	イ	底径2.6㎝。底部中央は貼付による。	15号
925	Ⅰ群？	？	-	ハケ目を有する胴部。胎土からⅠ群か。	17号　C2　5～10
926	Ⅰ群	伊波	-	山形口縁。櫛描き(7本/1.5㎝)による綾杉文。	18号　0～5
927	Ⅰ群	伊波・荻堂	-	胴部。右方向叉状鋸歯文連点文鋸歯文。	18号　A　0～15
928	Ⅰ群	伊波・荻堂	-	胴部。叉状連点文鋸歯文。	18号　A　0～25
929	Ⅰ群	伊波・荻堂	-	胴部。短沈線？	18号　0～5
930	Ⅰ群	荻堂	-	胴部。右方向叉状連点文短沈線羽状文連点文。	18号　0～5
931	Ⅰ群	伊波・荻堂	-	胴部。単箆による鋸歯文？点刻文。	18号　A　0～25
932	Ⅰ群	伊波・荻堂	-	胴部。叉状鋸歯文連点文。	18号
933	Ⅱ群	C類	イ	口縁。稜を意識する肥厚帯。左方向叉状連点文2対。144と酷似。	18号　A　5～10
934	Ⅱ群	B2類	イ	外反口縁。肥厚は微弱だが水平。左方向の叉状点刻文。	18号　A　30～45
935	Ⅰ群	大山	-	胴部。3条以上の左方向の押引き文。	18号
936	Ⅱ群	B1類	ア	貼付による明瞭な肥厚を有する外反口縁。右方向単箆押引き文2条。口径28.0㎝。	18号　ヤ16B　15～25
937	Ⅰ群	伊波・荻堂	-	胴部。叉状点刻文。	18号　0～5
938	Ⅰ群	伊波・荻堂	-	胴部。叉状連点文。	18号　0～5
939	Ⅰ群	？	-	胴部。左方向横捺刻文？	18号　B床面下
940	Ⅰ群	大山	-	胴部。間隔を空けた2条の左方向押引き文。	18号　B5～10
941	Ⅰ群	大山	-	胴部。横突帯に左方向横捺刻文。	18号　30～40
942	Ⅰ群	伊波・荻堂	-	胴部。叉状？斜沈線単箆？連点文。	18号　0～5
943	Ⅰ群	伊波・荻堂	-	胴部。叉状単沈線文。	18号　B35～45
944	Ⅰ群	伊波・荻堂	-	胴部。単箆連点文。	18号　B　15～25
945	Ⅱ群	B2類	イ	外反口縁。肥厚は微弱だが水平。口径22.8㎝。	18号　A5～10
946	Ⅱ群	B2類	イ	外反口縁。肥厚は微弱だが水平。	18号　B
947	Ⅱ群	B1・A類	ア	口縁。肥厚は貼付による明瞭で水平な方形。口径11.6㎝。	18号　B床面下
948	Ⅱ群	B1・A類	ア	口縁。肥厚は貼付による明瞭で水平な方形。口径14.0㎝。	18号　0～5
949	Ⅱ群	A類	ア	口縁。段を意識する貼付による肥厚。張る器形。	18号　ヤ15　A25～35
950	Ⅱ群	B3類	イ	口縁。肥厚は貼付による水平。胴が張る。	18号　B5～10
951	Ⅱ群	B2類	イ	外反口縁。肥厚は微弱だが水平。口径13.4㎝。	18号　0～5
952	Ⅲ群？	宇宿上層？	エ	口縁。貼付による明瞭で水平な肥厚。口径15.0㎝。	18号　A床面下
953	Ⅱ群	B2類	イ	外反口縁。肥厚は微弱で稜を意識する。口径11.4㎝。	18号　0～5
954	Ⅱ群	B3類	イ	口縁。肥厚は微弱だが水平。胴が張る。	18号　0～5
955	Ⅱ群	B2類	イ	外反口縁。肥厚は微弱で稜を意識する。口径11.4㎝。	18号　A0～5
956	Ⅱ群	C類	イ	三角形の肥厚。胴は張る。口径13.0㎝。	18号　床面上
957	Ⅱ群	B2類	イ	外反口縁。肥厚は微弱だが水平。口径11.4㎝。	18号　床面上
958	Ⅱ群	B1類	イ	口縁。肥厚は水平だが微弱。	18号　5～10
959	Ⅱ群	B2類	イ	外反口縁。肥厚は微弱だが水平。口径13.4㎝。	18号

第２表(11)　土器観察表

番号	土器分類		混入物	特徴	出土地
960	Ⅱ群	B2類	ア	外反口縁。肥厚は微弱だが水平。口径16.6㎝。	18号　A0～10
961	Ⅱ群	B2類	イ	外反口縁。肥厚は微弱でやや丸い。口径16.2㎝。	18号　0～5
962	Ⅱ群	B2類	イ	外反口縁。稜を意識する肥厚だがシャープ。	18号　床面下
963	Ⅱ群	B1類	ア	口縁。貼付による微弱だが水平な肥厚。口径15.4㎝。	18号　B床面下
964	Ⅱ群	B2類	イ	外反口縁。肥厚は微弱でやや丸い。口径14.4㎝。	18号　0～5
965	Ⅱ群	B2類	イ	外反口縁。稜を意識する肥厚だがかなりシャープ。口径14.4㎝。	18号　B25～35
966	Ⅱ群	B2類	イ	外反口縁。口縁外面全体が微弱だが肥厚しヨコナデする。	18号　0～5
967	Ⅱ群	B1類	ア	口縁。貼付による肥厚だが外反するように見える。	18号　床面下
968	Ⅰ群？	壺1？	-	直口口縁。口径5～7㎝ぐらいか。肥厚なし。	18号
969	Ⅰ群？	大山？	-	破損が激しいので断定できないが押引き文か？	18号　B15～25
970	Ⅱ群	B1類	ア	口縁。肥厚は微弱だが水平。直線的か。	18号　A35～45
971	Ⅱ群	B1類	ア	口縁。肥厚は微弱だが水平。	18号　5～10
972	Ⅱ群	B1類	ア	口縁は貼付によりやや水平に肥厚。左方向押引き文。口径11.2㎝。	18号　B床面下
973	Ⅱ群	B2類	イ	やや外反口縁。貼付だが稜を意識する肥厚。	18号　5～10
974	Ⅱ群	B1類	ア	口縁。貼付による微弱で丸みのある肥厚。	18号
975	Ⅱ群	B1類	ア	口縁。貼付による丸みのある肥厚。左方向押引き文。	18号
976	Ⅱ群	C類	イ	やや外反口縁。貼付による三角形の肥厚帯。口径14.8㎝。	18号　0～10
977	Ⅱ群	B2類	イ	やや外反口縁。肥厚は微弱だが水平。	18号
978	Ⅱ群	B1類	イ	口縁。肥厚は貼付によるが微弱で丸みがある。	18号　0～5
979	Ⅱ群	B2類	イ	やや外反口縁。肥厚は微弱で稜を意識する。	18号　B5～10
980	Ⅱ群	B2類	ア	外反口縁。肥厚は微弱だが水平。口径14.6㎝。	18号　A床面下
981	Ⅱ群	B2類	ア	口縁。貼付による肥厚だが稜を意識するか？	18号
982	Ⅱ群	A類	ア	口縁。貼付により方形の肥厚帯を意識。	18号　B床面下
983	Ⅱ群	B1類	イ	口縁。肥厚はないが口唇をナデ。	18号　A30～40
984	Ⅱ群	B2類	ウ	やや外反口縁。貼付による肥厚。口径15.0㎝。	18号　A30～40
985	Ⅱ群	B2類	イ	外反口縁。肥厚は貼付だが稜を意識。口径14.4㎝。内面ヨコハケ。	18号　B35～45
986	Ⅱ群	B2類	イ	外反口縁。肥厚は貼付だが稜を意識。口径14.4㎝。	18号　15～25
987	Ⅱ群	B2類	イ	外反口縁。肥厚は微弱だが水平。口径16.2㎝。	18号　B
988	Ⅱ群	B2類	イ	外反口縁。肥厚は貼付だが稜を意識。口径16.4㎝。	18号　A10～20
989	Ⅱ群？	B2類	ウ	外反口縁。肥厚は微弱だが口唇を意識。ユビオサエ。口径19.4㎝。	18号　畦0～10
990	Ⅱ群	B2類	イ	肥厚は微弱で稜を意識する。口径17.0㎝。頸部と見るか？	18号　A35～45
991	Ⅱ群	B1類	イ	肥厚は貼付でやや水平にするが微弱。	18号　0～5
992	Ⅱ群	B2類	イ	やや外反口縁。肥厚は貼付だが微弱で口唇よりも稜を意識する。	18号　0～5
993	Ⅱ群	B2類	ア	やや外反口縁。肥厚は口縁外端にわずかに見られるのみ。	18号　30～45
994	Ⅱ群	B1類	オ	肥厚は貼付だが微弱で丸みがある。	18号　0～10
995	Ⅱ群	B1類	イ	肥厚は貼付で口縁全体がやや丸く肥厚帯のように見える。左方向押引き文で1㎝とストロークが長い。	18号　B床面下
996	Ⅱ群	B2類	イ	外反口縁。肥厚は微弱な貼付だが水平。器壁が5㎜と薄い。	18号
997	Ⅱ群	B2類	ア	外反口縁。肥厚は口縁外面に全体的に見られやや段状になる。口唇水平。	18号　ヤ15　A0～10アゼ
998	Ⅱ群	B1類	ア	貼付による口唇がやや凹む明瞭な肥厚。内面横位ハケ。	18号　ヤ15　A25～35
999	Ⅱ群	B1類	ア	肥厚は貼付だが口縁外端にわずか見られる。口唇はやや凹むが水平。	18号　A10～25
1000	Ⅱ群	B1類	ア	肥厚は微弱な貼付だが口唇水平。	18号
1001	Ⅱ群	B2類	イ	外反口縁。肥厚は微弱で口唇よりも稜を意識。	18号　A30～40
1002	Ⅱ群	B1類	ア	肥厚は微弱でやや水平。	18号　A10～25
1003	Ⅱ群	B2類	イ	外反口縁。肥厚は微弱で稜を意識する。	18号　5～10
1004	Ⅱ群	B3類	イ	肥厚は貼付によるが稜を意識する。	18号　0～5
1005	Ⅱ群	B2類	イ	外反口縁。肥厚は口縁外面に微弱。内面はユビオサエによる凹み顕著。	18号　セ15　A0～10アゼ
1006	Ⅱ群	B2類	イ	外反口縁。肥厚は口縁外面に微弱。内面はユビオサエによる凹み顕著。外面胴部斜位ハケ。	18号　ヤ15　A0～10アゼ
1007	Ⅱ群	B3類	イ	肥厚は微弱だが水平。口径19.0㎝。	18号　A35～45
1008	Ⅱ群	B2類	イ	外反口縁。肥厚は微弱だが口唇水平。口径20.0㎝。	18号　0～5
1009	Ⅱ群	B2類	イ	外反口縁。肥厚は端部にわずか見られ稜を意識。外面粗いハケ内面ハケ後ナデ。口径20.2㎝。	18号　ヤ16　B
1010	Ⅱ群	B2類	イ	外反口縁。肥厚は微弱だが口唇水平。内面ユビナデ縦位か。口径22.6㎝。	18号　A30～45
1011	Ⅱ群	B2類	イ	外反口縁。肥厚は端部にわずか見られ稜を意識。外面縦位ハケ内面横位ハケ後。口径22.0㎝。	18号　ヤ18A20～30
1012	Ⅱ群	B3類	ア	肥厚は端部にわずか見られ稜を意識。口径22.6㎝。	18号　B
1013	Ⅱ群	B2類	イ	外反口縁。肥厚は端部に見られ口唇水平。口径23.0㎝。	18号　0～5
1014	Ⅱ群	C類	イ	肥厚は貼付によるが稜を意識する三角形に近い肥厚。口径23.4㎝。	18号　A30～40
1015	Ⅱ群	C類	イ	肥厚は貼付による稜を意識する三角形に近い肥厚。口径24.0㎝。	18号　ヤ16B35～45
1016	Ⅱ群	B1類	イ	肥厚は貼付による微弱だが水平な口唇。	18号　0～5
1017	Ⅱ群	B3類	イ	肥厚は微弱だが水平な口唇。	18号　A15～25
1018	Ⅱ群	B1類	ア	外反口縁。貼付による方形の肥厚帯を作り左方向押引き文。	18号　0～5
1019	Ⅱ群	B1類	イ	口縁。貼付によるやや丸みのある肥厚。	18号　0～5
1020	Ⅱ群	B3類	イ	口縁。肥厚は貼付によるが稜を意識する。	18号　B35～45
1021	Ⅱ群	B1類	ア	口縁。肥厚は貼付により明瞭で口唇水平。	18号　0～5
1022	Ⅱ群	B1類	ア	口縁。肥厚は貼付による口唇やや水平。	18号　B床面下
1023	Ⅱ群	B1類	イ	口縁。肥厚は貼付により口唇水平。	18号　A30～45
1024	Ⅱ群	B1類	ア	口縁。肥厚は貼付により口唇水平。	18号　A15～25
1025	Ⅱ群	B3類	イ	口縁。肥厚は貼付により口唇やや水平。内面斜位ハケ。	18号　A10～20
1026	Ⅱ群	B1類	イ	口縁。肥厚は貼付により口唇水平。	18号　20～25
1027	Ⅱ群	C類	イ	口縁。貼付による微弱だがやや舌状に意識する肥厚帯。	18号　0～5
1028	Ⅱ群	B2類	イ	やや外反口縁。肥厚は微弱で稜を意識する。	18号　A5～10
1029	Ⅱ群	B2類	ア	外反口縁。肥厚は微弱だが稜を意識し水平。	18号　A35～45
1030	Ⅱ群	B2類	ア	外反口縁。肥厚は微弱で稜を意識。器壁が5㎜と薄い。	18号　A0～25
1031	Ⅱ群	B2類	イ	外反口縁。肥厚は貼付により水平だが稜を意識する。口縁外面ハケ後ナデ消す。	18号　A床面下
1032	Ⅱ群	B3類	イ	口縁。肥厚は微弱で丸くやや段状・稜を意識する。器壁が1.0㎝と厚い。	18号　床面
1033	Ⅱ群	B2類	イ	外反口縁。肥厚は微弱で稜を意識し水平。口縁内面は凹む。	18号　ヤ16　15～25
1034	Ⅱ群	B2類・壺1？	ア	外反口縁。肥厚は端部のみ見られ微弱。口径7.0㎝。小片のため壺かは断定できず。	18号　床面下
1035	Ⅱ群	壺2	ア	口縁。肥厚は貼付により微弱だが水平。口径7.0㎝。	18号　A20～30
1036	Ⅱ群	壺2	ア	口縁。肥厚は貼付により微弱で稜を意識。口径9.2㎝。	18号　B35～45
1037	Ⅱ群	C類・壺2	イ	口縁。貼付により稜を意識する舌状にちかい肥厚帯。口径8.0㎝。	18号　A15～25
1038	Ⅱ群	B3類・壺1？	イ	口縁。肥厚は貼付により水平。口径8.4㎝。小片のため壺かは断定できず。	18号　0～5
1039	Ⅱ群	B2類・壺2？	オ	外反口縁。肥厚は貼付により稜を意識。口径8.8㎝。	18号　0～5
1040	Ⅲ群？	喜念Ⅰ？壺2	イ	口縁。肥厚は微弱だが稜を意識。ミミズ腫れ状突帯だが刺突も甘い。口径8.8㎝。	18号　30～45
1041	Ⅱ群	B2類・壺1？	イ	口縁。肥厚は貼付で丸みがある。口径10.0㎝。小片のため壺かは断定できず。	18号　A5～10
1042	Ⅱ群	B4類・壺2？	イ	口縁。肥厚は貼付で稜を意識。口径10.0㎝。小片のため壺かは断定できず。	18号　Bヤ16
1043	Ⅱ群	B4類	イ	外反口縁。肥厚は貼付により稜を意識。口径12.6㎝。	18号　B5～10
1044	Ⅱ群	B3類	イ	口縁。肥厚は貼付により丸みがある。斜沈線文。	18号　A床面下
1045	Ⅱ群	B4類・壺2？	イ	外反口縁。肥厚は微弱で稜を意識し水平。縦横の叉状点刻文。壺か？	18号　A20～30
1046	Ⅲ群	喜念Ⅰ	エ	胴部。ミミズ腫れ状突帯。金雲母微量だが含む。	18号　0～5
1047	Ⅲ群	？	エ	胴部。横突帯に上下単篦点刻文。金雲母微量だが含む。	18号　A30～45
1048	Ⅱ群？	？	イ・エ？	胴部もしくは頸部。右下がり斜沈線。金雲母微量だが含む。	18号　5～10
1049	Ⅰ群	伊波	-	胴部。斜沈線の組み合わせによる鋸歯文左方向の押引き文。	18号　A
1050	Ⅱ群？	B3類	ア	口縁。肥厚は貼付により明瞭で口唇水平。上下に幅8㎜左押引き文斜沈線による綾杉文。	18号　A15～25
1051	Ⅱ群？	C類	イ・エ？	口縁。貼付による稜を意識する三角形の肥厚帯。斜沈線。金雲母を微量に含む。	18号　0～5
1052	Ⅱ群	底部b	ア？	底部。底径4.2㎝。かなり胴が開く器形。	18号
1053	Ⅲ群？	底部c	エ	底部。底径4.2㎝。底部中央は貼付により凹む。外面はユビオサエハケ。内面中央尖る。	18号　床下面
1054	Ⅱ群？	底部c	イ・エ？	底部。底径2.6㎝。内底はやや平坦。金雲母微量含む。	18号　ヤ15Aアゼ0～10
1055	Ⅱ群	底部d	イ	底部。丸底。内底はやや平坦で約3㎝。	18号　B15～25

第２表(12)　土器観察表

番号	土器分類		混入物	特徴	出土地
1056	Ⅲ群？	底部a	ウ・エ？	底部。平底。底径5.0㎝。内底の立ち上がり明瞭。金雲母やや含む。	18号　A15～25
1057	Ⅱ群	底部d	イ	底部。丸底。内底はやや平坦で約3㎝。	18号　0～5
1058	Ⅱ群	底部c？	イ	底部。小片だがやや平底であるのでc類か？	18号　0～5
1059	Ⅱ群	底部c？	イ	底部。小片だがやや平底であるのでc類か？	18号　0～25
1060	Ⅱ群	底部b・c？	イ	底部。小片だが内底の立ち上がりが明瞭なのでB・c類か？	18号　A0～10
1061	Ⅱ群	底部d	イ	底部。丸底。器壁が6㎜とやや薄め。	18号　0～5
1062	Ⅲ群？	底部e	エ	底部。貼付によりいわゆる乳房状尖底に近い。金雲母も含むが石灰岩微粒も見られる。	18号　A15～25
1063	Ⅰ群	伊波・荻堂	-	口縁。左方向の押引き文2条。	22号　床面上
1064	Ⅰ群	荻堂	-	胴部。右方向の叉状連点文2対。	23号
1065	Ⅱ群	B1類	ア	口縁。丸みのある粘土紐を貼付により明瞭な肥厚。口縁下に棒状工具？による凹線文。	22～24号
1066	Ⅱ群	B3類・壺1？	イ	口縁。肥厚は貼付により明瞭で口唇水平。胴部がかなり大きく開き壺形の可能性もあり。	24号
1067	Ⅱ群	B2類	イ	やや外反口縁。肥厚は貼り付けでやや丸みがある。	24号
1068	Ⅱ群	B1類	イ	口縁。肥厚は貼付により明瞭な水平。	24号
1069	Ⅱ群	B1類	イ	口縁。肥厚は貼付だが微弱で水平。	24号
1070	Ⅱ群	B2類	イ	やや外反口縁。肥厚は微弱だが口唇水平。口径14.0㎝。	24号
1071	Ⅱ群	B2類	イ	外反口縁。肥厚は微弱で稜を意識する口唇。内面ユビオサエ顕著。	24号
1072	Ⅱ群	B1類	イ	口縁。肥厚は貼付によりやや丸みのある口唇。	24号
1073	Ⅱ群	B4類	イ	外反口縁。肥厚は微弱で稜を意識する水平口唇。	24号
1074	Ⅱ群	B2類	イ	わずかに外反口縁。肥厚は微弱だが貼付により稜を意識する口唇。口径10.4㎝。	23号
1075	Ⅱ群	B2類	イ	やや外反口縁。肥厚は微弱だが丸みのある口唇。器壁が1.0㎝と厚い。口径19.0㎝。	24号
1076	Ⅱ群	B3類	イ	口縁。肥厚は微弱だが口唇水平。口縁は短く胴部の張りもやや弱い。	22～24号　0～10
1077	Ⅱ群	B2類	イ	外反口縁。肥厚は微弱で稜を意識する水平口唇。	24号
1078	Ⅱ群	壺1	イ	直口口縁。口唇はやや水平だが肥厚は不明瞭。	23号
1079	Ⅱ群	底部c	イ	底部。外底の付け根にわずかに凹む。底径2.0㎝。	24号
1080	Ⅱ群	底部b	イ	底部。平底。内底立ち上がりは緩やか。底径6.0㎝。	24号
1081	Ⅰ群	底部a	-	底部。平底。内底立ち上がり明瞭。底径5～6㎝。	24号
1082	Ⅱ群	底部d	イ	底部。丸底。内底2㎝の平坦面。	22号
1083	Ⅱ群	底部b	イ	底部。丸みのある平底。底径5.0㎝。	24号
1084	Ⅱ群	底部c	イ	底部。底部中央は貼付による。底径4.4㎝。	24号
1085	Ⅰ群	荻堂	-	山形口縁部資料。沈線による横位区画文(叉状工具2列)と鋸歯文が確認できる。	26号　モ7B10～20
1086	Ⅰ群	荻堂	-	口縁部資料。沈線による横位区画文(叉状工具1列)と鋸歯文。沈線による横位小区画文も認められる。	26号　モ7B10～20
1087	Ⅰ群	伊波・荻堂	-	口縁部資料。押引による横位区画文(叉状工具1列)が確認できる。	26号　モ8B10～20
1088	Ⅰ群	？	-	胴部資料。刷毛目調整痕あり。	26号　Bモ8　30～40
1089	Ⅰ群	伊波・荻堂	-	器面状態悪く文様不鮮明。	26号　モ8A20～30
1090	Ⅰ群	？	-	胴部資料。刷毛目調整痕あり。	26号　モ8B10～20
1091	Ⅰ群	？	-	口縁部資料。口縁部が微弱に肥厚する。	26号　Aモ8　30～40
1092	Ⅰ群	？	-	胴部資料。刷毛目調整痕あり。	26号　モ9号 A20～30
1093	Ⅰ群	荻堂・大山	-	壺形土器。	27号　A-3 B-3 5～10
1094	Ⅰ群	荻堂・大山	-	壺形土器。	27号　A-3 B-3 5～10
1095	Ⅰ群	荻堂・大山	-	壺形土器。	27号　B5～10
1096	Ⅰ群	荻堂・大山	-	壺形土器。	27号
1097	Ⅰ群	荻堂	-	山形口縁部。押引による横位区画文(叉状工具4列)が確認できる。	27号　B5～10
1098	Ⅰ群	荻堂・大山	-	口縁部資料。押引による横位区画文(単篦工具3列)が確認できる。口唇部には刺突文。	27号　A5～10
1099	Ⅰ群	荻堂・大山	-	器面状態悪く文様不鮮明。	27号　A2 5～10
1100	Ⅰ群	荻堂	-	M字状口縁部。	27号　5～15
1101	Ⅰ群	大山	-	口縁部資料。押引による横位区画文(単篦工具3列)が確認できる。	27号　B5～10
1102	Ⅰ群	大山	-	口縁部資料。押引による横位区画文(単篦工具3列)が確認できる。	27号　A-3B-3 5～10
1103	Ⅰ群	荻堂	-	押引による横位区画文(半裁竹管状工具2列)と区画内には斜沈線を充填した羽状文が確認できる。	27号　柱穴
1104	Ⅰ群	？	-	口縁部資料。棒状工具で刺突を充填する。	27号　A1 5～10
1105	Ⅰ群	荻堂	-	山形口縁部。瘤状突起上に点刻による縦位区画文(棒状工具3列)と点刻による横位区画文(棒状工具3列)。区画内には斜沈線。口唇部にも点刻文。	27号　柱穴
1106	Ⅰ群	荻堂	-	押引による横位区画文(単篦工具2列)が確認できる。区画内には羽状文。	27号　A2 5～10
1107	Ⅰ群	？	-	鍔をもち鍔上部及びその上下に単篦による押引を施す。胴部には斜線文。	27号　B5～10
1108	Ⅰ群	荻堂	-	山形口縁部の瘤状突起。押引による横位区画文(単篦工具1列)確認できる。	27号　B3 5～10
1109	Ⅰ群	？	-	口縁部資料。横位に凸帯を1列巡らせる。凸帯上部には刺突文。凸帯上方にも刺突文が確認できる。	27号　A5 5～10
1110	Ⅰ群	？	-	口縁部資料。文様帯を微弱に肥厚させる。文様帯には棒状工具による刺突を充填させる。	27号　B 5～10
1111	Ⅰ群	大山	-	口縁部資料。押引による横位区画文(単篦工具3列)が確認できる。	27号　B5～10
1112	Ⅰ群	荻堂	-	口縁部資料。瘤状突起部。横位に叉状工具による連点が確認できる。	27号　B3 5～10
1113	Ⅰ群	荻堂	-	押引による横位区画文(叉状工具2列)が確認できる。	27号　C2 5～10
1114	Ⅰ群	伊波・荻堂	-	点刻による横位区画文(叉状工具2列)が確認できる。	27号　A-3 B-3 5～10
1115	Ⅰ群	？	-	口縁部資料。横位に凸帯を1列巡らせる。凸帯上部には刺突文。凸帯上方にも刺突文が確認できる。	27号　B5～10
1116	Ⅰ群	？	-	胴部資料。刷毛目調整痕あり。	26号　モ8 30～40
1117	Ⅰ群	？	-	胴部資料。刷毛目調整痕あり。	26号　モ8 B20～30
1118	Ⅰ群	？	-	円盤状。	27号　B5～10
1119	Ⅰ群	底部a	-	底部資料。	27号　A5 5～10
1120	Ⅰ群	底部a	-	底部資料。	27号　B4 5～10
1121	Ⅰ群	底部a	-	底部資料。	27号　B5～10
1122	Ⅰ群	底部a	-	底部資料。	27号　B5～10
1123	Ⅰ群	底部a	-	底部資料。	27号　B4 5～10
1124	Ⅰ群	底部a	-	底部資料。	27号　B2 5～10
1125	Ⅱ群	B2類	イ	口縁。肥厚は微弱で稜を意識し口唇は外傾する水平面をもつ。口径20.4㎝。外面5本/1.5㎝幅の横位ハケで明瞭に残る。内面口縁横位ナデ胴部ユビオサエ。胴部はわずかに張る。	7号
1126	Ⅱ群	C類	イ	口縁。稜を意識するやや舌状の肥厚帯。頸部をもちやや張る器形。	ツ15　Ⅲ層0～10
1127	Ⅱ群	B4類？	イ	口縁。肥厚はほとんどないが口唇はやや面をもつ。器壁5㎜と薄い。胴部はおそらく大きく張るか？	セ10　Ⅲ層40～50
1128	Ⅱ群？	B1類？	ア？	口縁。肥厚はほとんどないが口唇水平。瘤状把手有す。粒子は粗い。	ム16　Ⅱ層
1129	Ⅱ群	B1類	ア	口縁。肥厚は貼付により明瞭で口唇水平。	ヤ16　Ⅱ層20～30
1130	Ⅱ群？	A・B3類？	ア？	口縁。肥厚は貼付により方形の肥厚帯。左方向幅7㎜横捺刻文。口縁・内面粗いハケによる調整。	メ14　Ⅱ層20～30
1131	Ⅱ群？	C類・壺2	イ？	口縁。肥厚は微弱な貼付で稜を意識。左方向押引き文斜沈線による格子文。金雲母含む。	Ⅱ層20～30
1132	Ⅰ群	荻堂	-	山形口縁で頂部に瘤状突起。叉状沈線による縦位区画文か。	ソ14　Ⅱ層0～15
1133	Ⅱ群	B4類？	イ	口縁。肥厚は微弱だが口唇ほぼ水平。おそらく短い頸部をもつ胴部が張る器形。	ツ14　Ⅲ層0～10
1134	Ⅱ群	底部b	イ	底部。底径6.0㎝。底部は1.3㎝と厚い。外底の立ち上がり明瞭。	セ5　Ⅱ層0～10
1135	Ⅱ群	C類・壺2	イ	肥厚は微弱で稜を意識する口唇に沈線。叉状長沈線による縦位区画文。外面縦位ハケ。口径10.0㎝。	7号　下層
1136	Ⅱ群	B2類	イ	外反口縁。肥厚は微弱で稜を意識しやや舌状。胴部はわずかに中位で膨らみ下半で窄まる。口径11.2㎝。	ス15　Ⅱ層10～20
1137	Ⅱ群	B3類	イ	口縁。肥厚は貼付だが微弱で口唇やや水平。胴部は張るか。口径20.4㎝。	ナ15　Ⅱ層0～10
1138	Ⅱ群？	C類・壺2	イ？	山形口縁もしくは注口か？稜を意識するやや舌状口縁。金雲母微量含む。口径9.4㎝。	チ15　Ⅱ層10～20
1139	Ⅱ群	B3類	イ	口縁。口縁は貼付により丸みのある肥厚帯。	ツ16　Ⅲ層
1140	Ⅱ群	C類	イ？	口縁。肥厚は低いカマボコ状で口唇は稜となる。金雲母微量含む。口径15.4㎝。	ツ14　Ⅲ層0～10
1141	Ⅱ群	B2類	イ	外反口縁。肥厚は不明瞭で稜を意識する口唇水平。胴部上半がやや張る。	テ15　Ⅲ層0～10
1142	Ⅱ群	B3類	イ	口縁。肥厚は微弱だが口唇水平。口縁外面横位ハケ。やや胴部貼る器形。	ソ17　Ⅲ層15～20
1143	Ⅱ群	C類	ウ？	口縁。肥厚は微弱だが稜を意識しやや三角形。わずかに胴部が張るか。金雲母少量含む。	ツ14　Ⅳ層0～10
1144	Ⅱ群	B1類	ア	やや外反口縁。肥厚は貼付により明瞭で口唇やや水平で尖る。	ス15　Ⅲ層0～10
1145	Ⅱ群	B3類	イ	口縁。肥厚は貼付により口唇水平。胴部やや張る器形。	ヤ14　Ⅲ層10～20
1146	Ⅱ群	C類	イ	口縁。貼付により稜を意識する舌状肥厚帯。頸部をもち胴部張る。	ツ15　Ⅲ層0～10
1147	Ⅱ群	C類	イ	山形口縁。肥厚は口唇を意識する三角形。緩やかな頸部をもつ。	チ15　Ⅲ層10～20
1148	Ⅱ群	B2・C類？	イ	外反口縁。肥厚は貼付により稜を意識するが口唇は水平面もつ。	セ8　Ⅲ層60～65
1149	Ⅱ群	C類	ウ？	口縁。肥厚は稜を意識する三角形。金雲母微量含む。	ツ15　Ⅲ層0～10

第２表(13)　土器観察表

番号	土器分類		混入物	特徴	出土地
1150	Ⅱ群	底部b	イ	底部。底径3.0㎝。内底は3.5㎝平坦面あり。	ミ16　Ⅲ層20～25
1151	Ⅱ群	底部c	イ	底部。底径3.0㎝。内底は3.5㎝平坦面あり。中央は貼付により平底。内底は丸みがある。	セ9　Ⅲ層10～15
1152	Ⅱ群	B4類	イ	口縁。肥厚は丸みがあり稜を意識。ゆるやかな頸部を作り胴部上半が張る。	ス15　Ⅲ層0～10
1153	Ⅱ群	C類	イ	口縁。やや舌状の三角形を呈する肥厚帯。胴部はゆるく張る。	Ⅲ層0～10
1154	Ⅰ群？	底部a	-	底部。平底。底径6.6㎝。やや開く。	Ⅱ層4Ⅲ層0～10
1155	Ⅱ群	B4類	イ	口縁。肥厚は微弱で口唇やや面もつ。短い頸部胴部下半が張る。口径10.0㎝。	不明
1156	Ⅱ群	B4類	イ	口縁。肥厚は貼付により明瞭で口唇水平。頸部をもち胴部上半が張る。口径14.4㎝。	不明
1157	Ⅰ群	荻堂？壺1	-	口径4.4㎝。1.8㎝の短い頸部から楕円形状の胴部になる。おそらく上半が残存。	不明
1158	Ⅱ群	C類・壺2	イ	肥厚は微弱で稜を意識し舌状に近い。1㎝前後と間隔が広い叉状点刻文による縦横位区画文。口径7.6㎝。	不明
1159	Ⅱ群	B4類？・壺2	イ	口縁。肥厚は微弱で稜を意識する口唇だが舌状ではない。口唇外端に叉状縦位列点文？頸部に3対の斜沈線を三角形に配し叉状点刻文。口径約10㎝で壺形か。	不明
1160	Ⅰ群	荻堂	ア	緩やかな山形口縁。口縁部は帯状に段となり叉状連点文1対胴部以下は連点文による横位区画間に叉状連点文による鋸歯文。	不明
1161	Ⅰ群？	?	-	胴部。鋭利な沈線による複合鋸歯文。	不明
1162	Ⅲ群	喜念Ⅰ・壺2	エ	口縁。肥厚は微弱で稜を意識する水平な口唇。叉状沈線による綾杉文横位のミミズ腫れ状突帯。壺形。	不明
1163	Ⅰ群	伊波		均整な裾部に段がつく山形口縁。単篦による左方向の押引き文上下各2条で横位区画を作り叉状長斜沈線を方向を違え交互に配す。口径16.6㎝。	不明
1164	Ⅰ群	大山？	-	口縁。左方向押引き文1条。肥厚はほとんどなく口唇水平。	不明
1165	Ⅱ群	C類	イ	口縁。稜を意識するやや舌状の肥厚帯。胴部は窄まる器形。	不明
1166	Ⅱ群	B1類	ア	口縁。肥厚は貼付により口唇やや水平。	表土
1167	Ⅰ群	底部b	-	底部。平底。底径4.4㎝。上方に向かって開く。外面ハケ。外底丁寧に平坦にする。	不明
1168	Ⅲ群？	底部e	ア？エ？	底部。非常に急角度の尖底。金雲母微量に含む。あまり見られないタイプ？	不明
1169	Ⅰ群	伊波・荻堂	-	山形口縁部。器面状態悪く文様不鮮明。	S地区1　Ⅱ層20～30
1170	Ⅰ群	荻堂	-	山形口縁部。押引による横位区画文(叉状工具2列)が確認できる。	S地区5　Ⅱ層20～30
1171	Ⅰ群	荻堂	-	口縁部資料。押引による横位区画文(叉状工具1列)と口唇部にも押引文が確認できる。	S地区4　Ⅱ層20～30
1172	Ⅰ群	荻堂	-	山形口縁部。無紋土器。	S地区4　Ⅱ層20～30
1173	Ⅰ群	荻堂	-	瘤状突起部。	S地区4　Ⅱ層20～30
1174	Ⅰ群	荻堂	-	山形口縁部。無紋土器。	S地区5　Ⅱ層0～15
1175	Ⅰ群	荻堂	-	瘤状突起。単篦工具による刺突も確認できる。	S地区1　Ⅱ層0～10
1176	Ⅰ群	荻堂	-	山形口縁部。押引による横位区画文(単篦工具3列)と口唇部にも押引文が確認できる。	S地区5　Ⅲ層20～25
1177	Ⅰ群	伊波・荻堂	-	口縁部資料。短沈線による横位区画文(叉状工具1列)が確認できる。	S地区5　Ⅲ層20～25
1178	Ⅰ群	荻堂	-	口縁部資料。押引による横位区画文(叉状工具3列)が確認できる。	S地区1　Ⅱ層30～40
1179	Ⅰ群	荻堂	-	口縁部資料。押引による横位区画文(単篦工具2列)と区画内に鋸歯文らしきものが確認できる。	S地区5　Ⅲ層15～20
1180	Ⅰ群	伊波	-	口縁部資料押引による横位・縦位区画文(単篦工具)が確認できる。区画内は空白。	S地区5　Ⅲ層15～20
1181	Ⅰ群	荻堂	-	押引による縦位区画文(単篦工具4列)が確認できる。横位区画文も一部認められる。	S地区5　Ⅲ層15～20
1182	Ⅰ群	伊波・荻堂	-	器面状態悪く文様不鮮明。	S地区5　Ⅱ層20～25
1183	Ⅰ群	荻堂	-	押引による横位区画文(叉状工具2列)と区画内もしくは第Ⅱ層文様帯に鋸歯文が確認できる。	S地区1　Ⅱ層0～10
1184	Ⅰ群	荻堂	-	第Ⅱ層文様帯の鋸歯文だと考えられる。	S地区4　Ⅱ層10～20
1185	Ⅰ群	伊波・荻堂	-	沈線文が確認できる。	S地区5　Ⅲ層15～20
1186	Ⅰ群	伊波・荻堂	-	区画内の斜線文だと考えられる。	S地区5　Ⅱ層10～15
1187	Ⅰ群	荻堂	-	叉状工具による押引文が確認できる。	S地区5　Ⅲ層0～15
1188	Ⅰ群	伊波・荻堂	-	叉状工具による沈線文が確認できる。文様不鮮明。	S地区5　Ⅱ層0～15
1189	Ⅰ群	伊波	-	短沈線による横位区画文(棒状工具2列)が確認できる。第Ⅱ層文様帯は空白。	S地区4　Ⅱ層30～40
1190	Ⅰ群	大山	-	口縁部資料。把手上には刺突文。口縁部には押引文が7列。口唇部にも押引文。	S地区4　Ⅱ層30～40
1191	Ⅰ群	荻堂・大山	-	口縁部資料。1列の押引文が確認できる。	S地区1　Ⅱ層30～40
1192	Ⅰ群	荻堂・大山	-	口縁部資料。断続的な押引文が1列確認できる。	S地区1　Ⅲ層0～10
1193	Ⅰ群	大山	-	口縁部資料。刺突による横位区画文(単篦工具2列)が確認できる。	S地区1　Ⅱ層20～30
1194	Ⅰ群	荻堂・大山	-	口縁部資料。押引による横位区画文(単篦工具3列)が確認できる。口唇部には刺突文。	S地区4　Ⅰ30～40
1195	Ⅰ群	荻堂・大山	-	口縁部資料。押引による横位区画文(単篦工具2列)と口唇部には刺突文が施される。	S地区4　Ⅱ層0～10
1196	Ⅰ群	荻堂	-	口縁部資料。押引による横位区画文(半裁竹管状工具2列)が確認できる。	S地区4　Ⅱ層30～40
1197	Ⅰ群	荻堂・大山	-	口縁部資料。引きの長い押引文が1列確認できる。	S地区3　Ⅱ層0～10
1198	Ⅰ群	荻堂・大山	-	口縁部資料。押引による横位区画文(単篦工具2列)が確認できる。	S地区3　Ⅱ層下部　土器集中区
1199	Ⅰ群	大山	-	口縁部資料。刺突による横位区画文(単篦工具2列)が確認できる。	S地区3　B集石Ⅱ層40～45
1200	Ⅰ群	荻堂・大山	-	口縁部資料。押引による横位区画文(単篦工具2列)が確認できる。	S地区3　B集石Ⅱ層40～45
1201	Ⅰ群	荻堂・大山	-	口縁部資料。押引による横位区画文(半裁竹管状工具4列)が確認できる。	S地区1
1202	Ⅰ群	大山	-	口縁部資料。押引による横位区画文(単篦工具2列)が確認できる。	S地区3　Ⅱ層40～45
1203	Ⅰ群	伊波・荻堂	-	口縁部資料。幅の狭い単篦工具による押引文が2列確認できる。区画内は空白。	S地区4　Ⅱ層10～20
1204	Ⅰ群	荻堂・大山	-	文様不鮮明。	S地区5　セクション付近
1205	Ⅰ群	荻堂・大山	-	単篦による押引文が2列確認できる。器面状態悪く文様不鮮明。	S地区1　Ⅱ層0～10
1206	Ⅰ群	大山	-	口縁部資料。単篦による斜位の刺突文が3列確認できる。	S地区1　Ⅱ層30～40
1207	Ⅰ群	荻堂・大山	-	口縁部資料。半裁竹管状工具による刺突文が1列確認できる。	S地区4　Ⅱ層20～30
1208	Ⅰ群	大山	-	口縁部資料。口縁が歯ブラシ状に微弱な肥厚を示す。肥厚部には単篦による刺突文。	S地区5　Ⅱ層30～40
1209	Ⅰ群	荻堂・大山	-	口縁部資料。単篦による押引文が1列確認できる。	S地区5　Ⅲ層15～20
1210	Ⅰ群	荻堂・大山	-	口縁部資料。単篦による押引文が1列確認できる。	S地区1　Ⅱ層20～30
1211	Ⅰ群	荻堂・大山	-	口縁部資料。刺突文。	S地区1　Ⅱ層45～50
1212	Ⅰ群	荻堂・大山	-	口縁部資料。半裁竹管状工具による押引文が確認できる。	S地区1　Ⅱ層0～10
1213	Ⅰ群	伊波	-	引きの長い押引による横位区画文(単篦工具2列)が確認できる。区画内及び第Ⅱ層文様帯は空白。	S地区5　Ⅲ層15～20
1214	Ⅰ群	伊波・荻堂	-	押引による横位区画文(半裁竹管状工具2列)が確認できる。区画内もしくは第Ⅱ層文様帯は空白。	S地区4　Ⅱ層30～40
1215	Ⅰ群	大山	-	押引文もしくは刺突文が1列確認できる。器面状態悪く不鮮明。	S地区5　Ⅱ層20～30
1216	Ⅰ群	大山	-	凸帯上に単篦による刺突文その上下に単篦による押引文が確認できる。	S地区3　Ⅱ層
1217	Ⅰ群	大山	-	凸帯上に刺突文が確認できる。	S地区1　Ⅱ層30～40
1218	Ⅰ群	大山	-	凸帯上に単篦による刺突文。	S地区5　Ⅱ層30～40
1219	Ⅰ群	大山	-	凸帯上に単篦による刺突文。その上下に単篦による押引文。	S地区5　Ⅲ層0～15
1220	Ⅰ群	荻堂・大山	-	刺突文？が僅かに確認できる。	S地区5　Ⅱ層30～40
1221	Ⅰ群	大山	-	単篦による刺突文が1列確認できる。	S地区4
1222	Ⅰ群	大山	-	単篦による刺突文が2列確認できる。	S地区5　Ⅲ層20～25
1223	Ⅰ群	大山	-	上部に単篦の刺突文を持つ凸帯が2列確認できる。	S地区5　Ⅱ層30～40
1224	Ⅰ群	大山	-	単篦による刺突文が1列その下部に単篦による沈線で擬似凸帯を作る。	S地区5　Ⅱ層20～30
1225	Ⅰ群	大山	-	単篦による刺突文が1列確認できる。	S地区5　Ⅱ層20～25
1226	Ⅰ群	大山	-	単篦による刺突文。	S地区5　Ⅲ層20～25
1227	Ⅰ群	大山	-	単篦による刺突文が2列確認できる。その間には単篦による押引文が1列確認できる。	S地区5　セクション付近
1228	Ⅱ群	B1類	ア	脆弱。	S地区5　Ⅲ層15～20
1229	Ⅰ群	大山	-	口縁部資料。単篦による刺突文が施された凸帯が2列確認できる。	S地区3　東
1230	Ⅱ群	B1類	エ	肥厚部篦状工具(幅約0.2㎝)による押引き文。頚部右下がり・右傾沈線文。	S地区3　Ⅱ層40～45
1231	Ⅱ群	B1類	ア	肥厚部縦位沈線文。頚部右下がり沈線文。脆弱。	S地区5　Ⅱ層15～20
1232	Ⅱ群	B1類	イ	口唇水平。頚部木口痕僅かに残る。	S地区3
1233	Ⅱ群	B1・2類？	イ	剥離著しい。	S地区5　Ⅲ層15～20
1234	Ⅱ群	B1・2類？	ア	頚部篦状工具(幅約0.4㎝)の先端右側を刺突する押引き文。その直下右下がりの沈線文。	S地区3　Ⅱ層40～45
1235	Ⅱ群	B4類？	ア	肥厚部イビツ。金雲母含む。	S地区1　Ⅱ層30～40
1236	Ⅱ群	B1類？	ア	肥厚部イビツ。金雲母含む。	S地区3　Ⅱ層20～30
1237	Ⅱ群	B1類	ア	口唇水平。外面ハケメ僅かに残る。	S地区1　Ⅱ層30～40
1238	Ⅱ群	B1類	ア	口唇水平。内外面ハケメ僅かに残る。	S地区3　Ⅱ層40～45
1239	Ⅱ群	B1類	イ	口径約15.6㎝。径約0.5㎝の半截竹管状工具の押引き施文。口唇外縁部粘土のヨレあり。	S地区5　Ⅲ層20～25
1240	Ⅱ群	B1類	イ	口唇水平。	S地区5　Ⅲ層15～20
1241	Ⅱ群	B2類	エ	口径約10.8㎝。口縁内面小孔(径約0.4㎝)穿たれる(貫通せず)。泥質。	S地区3　Ⅱ層17 10～20
1242	Ⅱ群	B2類	イ	口径約15.2㎝。金雲母含む。	S地区5　Ⅲ層15～20
1243	Ⅱ群	B2類	ア	口径約17.4㎝。外面頚部右下がりハケ→口縁横位ハケ。内面頚部以下左がりハケ→口縁横位ハケ。	S地区1　Ⅱ層30～40
1244	Ⅱ群	B2類	イ	外面篦状工具(幅約1.2㎝)による左下がりハケメ残る。	S地区3　石皿付近

第２表(14)　土器観察表

番号	土器分類		混入物	特徴	出土地
1245	Ⅱ群	B2類？	イ	口縁剥離著しい。	S地区3　Ⅱ層EF
1246	Ⅱ群	B4類	ア	無肥厚。口唇平坦。口縁屈曲。	S地区5　Ⅲ層
1247	Ⅱ群	B1類	イ	口縁に向かって開く胴部片。内面縦位(下→上)ハケ。	S地区4　Ⅱ層20～30
1248	Ⅱ群	A類	ア	口径約14.0㎝。粘土帯貼付。口縁篦状工具によって成形。	S地区4　Ⅱ層10～20
1249	Ⅱ群	A類	イ	口径約14.4㎝。粘土帯貼付。口縁篦状工具によって成形。	S地区5　Ⅲ層15～20
1250	Ⅱ群	B1類	ア	口径約14.2㎝。篦状工具と棒状工具の先端半分を器面に刺突した押引き文。右上がり斜沈線。	S地区3　Ⅱ層40～45
1251	Ⅱ群	B1類？	イ	口径約15.2㎝。口唇水平。内外面ナデによる調整痕残る。	S地区3　Ⅱ層40～45
1252	Ⅱ群	B1類	イ	口径約19.0㎝。口唇水平。口唇部ハケメ残る。	S地区5　Ⅲ層15～20
1253	Ⅱ群	B3類	イ	口径約12.0㎝。口唇水平。	S地区4　Ⅱ層30～40
1254	Ⅱ群	B1類？	ア	口径約10.8㎝。口唇水平。	S地区4　Ⅱ層20～30
1255	Ⅱ群	B3類	イ	口径約12.0㎝。頸部横位ハケメ僅かに残る。	S地区5　Ⅲ層0～15
1256	Ⅱ群	B1類	エ	内面指頭押圧により凹部を形成。	S地区4　Ⅱ層30～40
1257	Ⅱ群	B2類？	イ	肥厚部磨耗。	S地区3　Ⅱ層20～30
1258	Ⅱ群	B2類	イ	内面横位ハケメ僅かに残る。	S地区3　Ⅲ層20～30
1259	Ⅱ群	B2類	イ	外面ナデの調整痕(斜位)残る。	S地区3　Ⅱ層20～30
1260	Ⅱ群	B3類	イ	口唇丸味を帯びる。頸部に横位ハケメ僅かに残る。	S地区5　Ⅲ層
1261	Ⅱ群	B2類	イ	頸部棒状工具(径約0.4㎝)による押圧痕。また木口痕とナデによる調整痕残る。	S地区5　Ⅱ層20～30
1262	Ⅱ群	B1類	ア	肥厚口縁横位ハケメ僅かに残る。無肥厚。口縁屈曲。	S地区5　Ⅲ層0～15
1263	Ⅱ群	B1類	ア	頚部横位ハケメ残る。口唇水平。	S地区3　Ⅱ層20～30
1264	Ⅱ群	B2類	イ	内面僅かに調整痕残る。	S地区5　Ⅲ層15～20
1265	Ⅱ群	B3類	イ	口径約19.0㎝。外面口縁横位ハケ→頸部以下左下がりハケ。内面指頭痕残る。口唇水平。	S地区3　Ⅱ層30～40
1266	Ⅱ群	B3類	イ	口径約20.6㎝。外面頸部左下がりハケ→口縁横位ハケ。	S地区3　Ⅱ層40～45
1267	Ⅱ群	B3類	イ	口径約16.8㎝。頸部・口唇外縁部半截竹管状工具(幅約0.4㎝)による押引き文。口唇水平。	S地区3　Ⅱ層10～20
1268	Ⅱ群	B3類	イ	口径約18.0㎝。口唇水平。	S地区3　Ⅱ層40～45
1269	Ⅱ群	B3類	ア	口径約19.2㎝。口縁横位ハケ。内面頸部以下左上がりハケ→口縁横位ハケ。口唇水平。	S地区3　Ⅱ層40～45
1270	Ⅱ群	B3類	イ	口径約13.2㎝。内面口縁横位ハケ。口唇丸味を帯びるが意識して成形。	S地区5　Ⅲ層15～20
1271	Ⅱ群	B3類	イ	口径約12.8㎝。口唇ナデによって緩やかな凹部を形成する。	S地区3　Ⅱ層20～30
1272	Ⅱ群	B3類	イ	口径約8.2㎝。外面頸部横位ハケ。口唇水平。壷形の可能性あり。	S地区5　Ⅲ層20～25
1273	Ⅱ群	B3類	ア	肥厚口縁直下ナデの調整痕残る。口唇水平。脆弱。	S地区1　Ⅱ層40～45
1274	Ⅱ群	B3類	ア	肥厚部直下棒状工具(幅0.1㎝)による刺突文・右下がり斜沈線。口唇水平。	S地区5　Ⅱ層30～40
1275	Ⅱ群	B3類	イ	頚部指頭痕残る。口唇水平。	S地区4　Ⅱ層10～20
1276	Ⅱ群	B3類	ア	小孔(径約0.1㎝)が穿たれる(貫通せず)。口唇意識して成形。	S地区3　Ⅱ層60～65
1277	Ⅱ群	B3類	イ	口唇水平。	S地区3　Ⅱ層20～30
1278	Ⅱ群	B3類	イ	口唇水平。	S地区3　Ⅱ層20～30
1279	Ⅱ群	B3類	イ	外面横位ハケメ僅かに残る。また指頭痕残る。	S地区5　Ⅲ層0～15
1280	Ⅱ群	B3類？	ア	内外面横位ハケメ僅かに残る。口唇水平。	S地区3　Ⅱ層40～45
1281	Ⅱ群	B3類	イ	内面指頭痕残る。横位・斜位ナデによる調整痕残る。口唇水平。	S地区1　Ⅱ層20～30
1282	Ⅱ群	B3類	イ	内面工具痕残る。口唇水平。	S地区5　Ⅱ層20～30
1283	Ⅱ群	B3類	ア	外面横位ハケメ僅かに残る。口唇水平。	S地区3　Ⅱ層20～30
1284	Ⅱ群	B3類	エ	外面横位・斜位ハケメ残る。口唇水平。	S地区3　Ⅱ層20～30
1285	Ⅱ群	B3類？	エ	内外面横位ハケメ僅かに残る。口唇水平。	S地区5　Ⅱ層20～30
1286	Ⅱ群	B3類	イ	外面横位ハケメ僅かに残る。口唇水平。	S地区3　Ⅱ層20～30
1287	Ⅱ群	B3類	イ	口唇外縁部刻目廻る。また頚部棒状工具(径0.5㎝)による刺突文。剥離著しい。口唇水平。	S地区1　Ⅱ層20～30
1288	Ⅱ群	B3類	イ	口唇水平。	S地区4　Ⅱ層30～40
1289	Ⅱ群	B3類	ア	外面横位ハケメ僅かに残る。口唇水平。脆弱。	S地区3　Ⅱ層40～45
1290	Ⅱ群	B1類？	イ	外面横位ハケメ僅かに残る。口唇水平。	S地区3　Ⅱ層20～30
1291	Ⅱ群	B1類	ア	口唇水平。	S地区5　Ⅲ層15～20
1292	Ⅱ群	B3類	イ	先端M字状で丸味を持つ篦状工具(幅約0.4㎝)による刺突文。内外面指頭痕残る。外面横位ハケ。	S地区3　Ⅱ層20～30
1293	Ⅱ群	B3類	イ	口径約13.2㎝。外面横位ハケメ僅かに残る。口唇水平。	S地区3　Ⅱ層20～30
1294	Ⅱ群	B3類	イ	口径約12.8㎝。先端叉状を呈する篦状工具(幅約0.5㎝)による押引き文。口唇水平。	S地区5　Ⅲ層20～25
1295	Ⅱ群	B2類？	オ	口唇水平。	S地区1　Ⅱ層30～40
1296	Ⅱ群	B1類？	ア	口唇水平。	S地区1　Ⅱ層20～30
1297	Ⅱ群	B1類？	イ	口唇水平。	S地区1　Ⅱ層20～30
1298	Ⅱ群	B1類？	ア	口唇水平。脆弱。	S地区3　Ⅱ層20～30
1299	Ⅱ群	B1類	イ	口径23.2㎝。口縁内面横位ハケにより一部段が形成される。内面指頭痕残る。山形口縁。	S地区1　Ⅱ層40～45
1300	Ⅱ群	B3類	エ	口径約15.6㎝。肥厚口縁丸味を帯びる。	S地区5　Ⅲ層15～20
1301	Ⅱ群	B2類	ア	口径約12.0㎝。内外面横位ハケメ僅かに残る。	S地区3　Ⅱ層47cm
1302	Ⅱ群	B2類	ア	口径約11.6㎝。内外面横位ハケメ僅かに残る。	S地区3
1303	Ⅱ群	B2類？	ア	口径約9.8㎝。外面ハケメ(左上がり)僅かに残る。壷形の可能性あり。	S地区3　Ⅱ層20～30
1304	Ⅱ群	B2類？	ア	口径約8.4㎝。肥厚上面叉状工具(幅約0.7㎝)による押引き文。頚部斜位・横位の沈線文。	S地区3
1305	Ⅱ群	B2類？	イ	壷形の可能性あり。	S地区1　Ⅱ層20～30
1306	Ⅱ群	B2類	イ	外面横位ハケメ僅かに残る。口唇平坦。	S地区1　Ⅱ層30～40
1307	Ⅱ群	B2類	イ	脆弱。	S地区1　Ⅱ層20～30
1308	Ⅱ群	B2類？	オ	口唇外縁部横位調整によって尖鋭に成形。壷形の可能性あり。	S地区1　Ⅱ層30～40
1309	Ⅱ群	B2類	ア	頸部棒状工具(径約0.3㎝)の先端半分を刺突した押引き文。内外面横位ハケメ僅かに残る。	S地区4　Ⅱ層10～20
1310	Ⅱ群	B2類	イ	内外面横位ハケメ残る。口唇平坦。	S地区3　Ⅱ層
1311	Ⅱ群	B2類	ア	口唇平坦。脆弱。	S地区5　Ⅱ層0～5
1312	Ⅱ群	B2類	イ	内外面横位ハケメ僅かに残る。	S地区5　Ⅲ層0～15
1313	Ⅱ群	B2類	イ	外面横位ハケメ僅かに残る。口唇平坦。	S地区3　Ⅱ層20～30
1314	Ⅱ群	C類	エ	口径約10.4㎝。泥質。	S地区5　20～30
1315	Ⅱ群	C類	エ	外面横位ハケメ僅かに残る。脆弱。	S地区3
1316	Ⅱ群	C類	エ	内面横のハケメ僅かに残る。	S地区5　Ⅲ層15～20
1317	Ⅱ群	C類	エ	外面横位ハケメ僅かに残る。	S地区5　Ⅲ層0～15
1318	Ⅱ群	B1類	イ	口縁内面化粧土貼付。無肥厚。口唇水平。	S地区3　Ⅱ層50～55
1319	Ⅱ群	B2類	イ	無肥厚。口唇平坦。無肥厚。金雲母含む。	S地区3　Ⅱ層20～30
1320	Ⅱ群	B2類	エ	無肥厚。口唇平坦。脆弱。	S地区4　Ⅱ層30～40
1321	Ⅱ群	B2類	イ	無肥厚。口唇平坦。	S地区3　Ⅱ層
1322	Ⅱ群	B2類	イ	内外面指頭痕残る。無肥厚。口唇平坦(波状口縁の可能性あり)。金雲母含む。	S地区3　Ⅱ層40～45
1323	Ⅱ群	B2類	イ	無肥厚。剥離著しい。	S地区3　Ⅱ層20～30
1324	Ⅱ群	B2類	イ	外面工具痕残る。無肥厚。口唇平坦。	S地区5　Ⅲ層0～15
1325	Ⅱ群	B2類	イ	無肥厚。口唇水平(ルーズ)。	S地区3　Ⅱ層40～45
1326	Ⅱ群	B2類	イ	口唇平坦。	S地区5　Ⅱ層0～20
1327	Ⅱ群	B2類	イ	内外面横位ハケメ残る。無肥厚。	S地区5　Ⅲ層15～20
1328	Ⅱ群	B1類？	イ	内外面横位ハケメ僅かに残る。無肥厚。口唇水平(ルーズ)。	S地区5　Ⅲ層15～20
1329	Ⅱ群	B3類？	イ	外面横位ハケ(幅約0.9㎝)僅かに残る。無肥厚。口唇水平。	S地区5　Ⅲ層0～15
1330	Ⅱ群	B1類？	ア	頸部棒状工具(径約0.3㎝)の先端半分を刺突。外面横位ハケメ僅かに残る。無肥厚。脆弱。	S地区3　Ⅱ層50～55
1331	Ⅱ群	B1類？	イ	口径約13.2㎝。内面縦位あるいは斜位(右上がり)ハケ。外面横位ハケメ僅かに残る。無肥厚。	S地区3　Ⅱ層40～45
1332	Ⅱ群	B3類	ア	口唇水平。脆弱。	S地区1　Ⅱ層30～40
1333	Ⅱ群	B1類？	イ	無肥厚。口唇水平。剥離著しい。	S地区1　Ⅱ層30～40
1334	Ⅱ群	B1類	イ	無肥厚。	S地区3　Ⅱ層
1335	Ⅱ群	B2類	イ	無肥厚。口唇平坦。	S地区1　Ⅱ層40～45
1336	Ⅱ群	B2類	イ	無肥厚。口唇平坦。	S地区1　Ⅱ層30～40
1337	Ⅱ群	B2類	イ	無肥厚。口唇平坦。	S地区1　Ⅱ層20～30
1338	Ⅱ群	B2類	イ	口唇丸味を帯びる。	S地区1　Ⅱ層17～30
1339	Ⅱ群	B2類	イ	内面木口痕深く残る。無肥厚。	S地区3　Ⅱ層30～40
1340	Ⅱ群	B1類	ア	無肥厚。	S地区3　Ⅱ層40～45

第２表(15)　土器観察表

番号	土器分類		混入物	特徴	出土地
1341	Ⅱ群	B1類	イ	無肥厚。	S地区1　Ⅱ層30～40
1342	Ⅱ群	B3類？	エ	縦位沈線(約2.5cm)施文。	S地区1　Ⅱ層10～20
1343	Ⅱ群	B3類？	ア	無肥厚。壷形の可能性あり。脆弱。	S地区4　Ⅱ層30～40
1344	Ⅱ群	B2類	イ	無肥厚。剥離著しい。	S地区3　Ⅱ層下部EF断面土器集中区
1345	Ⅱ群	B2類？	イ	口唇丸味を帯びる。	S地区3　Ⅱ層40～45
1346	Ⅱ群	B3類？	ア	外面横位ハケメ僅かに残る。口唇水平。	S地区3　Ⅱ層40～45
1347	Ⅱ群	B2類	イ	無肥厚。	S地区3　Ⅱ層40～45
1348	Ⅱ群	B2類	ア	無肥厚。	S地区5　Ⅱ層20～30
1349	Ⅱ群	B3類？	イ	無肥厚。壷形の可能性あり。	S地区3　Ⅱ層下部EF断面土器集中区
1350	Ⅱ群	B2類	イ	剥離著しい。	S地区5　15～20
1351	Ⅱ群	B4類	イ	口径約11.0cm。頸部の工具(幅約0.3cm)による押引き文。口縁外反。	S地区1　Ⅱ層169(B)40～45
1352	Ⅱ群	B1類	ア	肥厚部先端方形状工具(幅約0.3cm)による刺突文。頸部以下左下がり沈線文。	S地区　Ⅱ層
1353	Ⅱ群	B2類	イ	口唇丸味を帯びる。	S地区5
1354	Ⅱ群	B4類	イ	口径約13.0cm。口縁外反。	S地区3　Ⅱ層47cm
1355	Ⅱ群	B4類	イ	口径約16.0cm。口縁篦状工具による押引き文。頸部沈線文が羽状または綾杉状を構成。口縁外反。	S地区4　Ⅱ層20～30
1356	Ⅱ群	B4類	ア	口径約17.2cm。頸部縦位沈線文。口縁外反。	S地区1　Ⅱ層17～30
1357	Ⅱ群	B2類	イ	口径約18.0cm。頸部先端M状の篦状工具(幅約0.8cm)による刺突文。金雲母含む。	S地区5　Ⅲ層0～15
1358	Ⅱ群	B4類	イ	口径約11.6cm。頚部横位調整痕残る。口縁外反。	S地区4　Ⅱ層20～30
1359	Ⅱ群	B4類	エ	口径約10.0cm。頸部横位ハケメ僅かに残る。口縁外縁部僅かに木口痕残る。口縁外反。	S地区5　Ⅱ層15～20
1360	Ⅱ群	B4類	イ	口径約15.4cm。先端丸味を帯びた工具(幅約0.5cm)による押引き文。口唇水平。口縁外反。	S地区5　Ⅲ層0～15
1361	Ⅱ群	B2類	イ	口唇平坦。	S地区3　Ⅱ層30～40
1362	Ⅱ群	C類	エ	外面横位ハケメ僅かに残る。断面三角状の肥厚口縁は工具によって成形。	S地区3　Ⅱ層40～45
1363	Ⅱ群	C類？	イ	断面三角状の肥厚口縁は工具によって成形。	S地区5　Ⅲ層0～15
1364	Ⅱ群	B2類？	イ	断面三角状の肥厚口縁は工具によって成形。口唇平坦。	S地区5　Ⅲ層15～20
1365	Ⅱ群	B4類	エ	内外面指頭痕残る。口縁外反。無肥厚。口唇外縁部粘土のヨレあり。	S地区4　Ⅱ層30～40
1366	Ⅱ群	B2類	イ	口唇丸味を帯びる。	S地区3　Ⅱ層20～30
1367	Ⅱ群	B2類	ア	無肥厚。口唇丸味を帯びる。	S地区3　Ⅱ層40～45
1368	Ⅱ群	B1類？	イ	無肥厚。口唇水平。	S地区3　Ⅱ層20～30
1369	Ⅱ群	B2類	イ	剥離著しい。	S地区3　Ⅱ層
1370	Ⅱ群	B4類	ア	口縁部工具により成形。	S地区4　Ⅱ層20～30
1371	Ⅱ群	B2類	イ	無肥厚。	S地区3　Ⅱ層下部　土器集中区
1372	Ⅱ群	B2類	ア	口唇平坦。剥離著しい。	S地区5　Ⅱ層20～25
1373	Ⅱ群	B2類？	ア	口唇平坦。剥離著しい。	S地区3　Ⅱ層65 40～45
1374	Ⅱ群	B4類？	イ	口唇平坦。剥離著しい。	S地区3　Ⅱ層40～45
1375	Ⅱ群	B2類	イ	口縁外反。	S地区5　Ⅲ層0～15
1376	Ⅱ群	B4類	ア	口径約13.6cm。口縁部篦状工具(幅約0.4cm)による押引き文。頸部右下がり沈線文。無肥厚。	S地区4　Ⅱ層30～40
1377	Ⅱ群	B4類	イ	口径約11.0cm。無肥厚。口縁外反。	S地区3　Ⅱ層50～55
1378	Ⅱ群	B4類	イ	口径約10.2cm。口唇・頸部先端方形状工具による刺突文。内面横位ハケ。無肥厚。口縁外反。	S地区1　Ⅱ層17～30
1379	Ⅱ群	B2類？	イ	口唇篦状工具による刻目。口縁篦状工具(幅約0.7cm)による楕円状の刺突文。無肥厚。	S地区3　Ⅱ層20～30
1380	Ⅱ群	B4類	ア	頸部棒状工具(径約0.3cm)による押圧痕。口縁外反。	S地区5　Ⅱ層20～30
1381	Ⅱ群	B4類	ア	頚部篦状工具による押引き文。口縁外反。	S地区4　Ⅱ層10～20
1382	Ⅱ群	B1類	ア	外面横位調整痕僅かに残る。	S地区5　Ⅱ層20～30
1383	Ⅱ群	B4類	イ	口縁外反。	S地区5　Ⅱ層20～30
1384	Ⅱ群	B2類？	ア	無肥厚。脆弱。	S地区3　Ⅱ層47cm
1385	Ⅱ群	B4類	イ	無肥厚。口縁外反。	S地区5　Ⅱ層20～30
1386	Ⅱ群	B2類？	ア	無肥厚。	S地区5　Ⅲ層0～15
1387	Ⅱ群	B1類？	ア	口縁部剥離。	S地区3　Ⅱ層20～30
1388	Ⅱ群	B4類	イ	内外面横位ハケメ僅かに残る。無肥厚。	S地区3　Ⅱ層
1389	Ⅱ群	A類	ア	粘土帯貼付。口縁篦状工具によって成形。	S地区3　Ⅱ層40～45
1390	Ⅱ群	B2類？	ア	口径約10.6cm。頚部ナデの調整痕残る。	S地区1　Ⅱ層40～45
1391	Ⅱ群	B2類？	ア	口径約9.2cm。断面三角状口縁部は工具による成形。口唇丸味を帯びる。壷形の可能性あり。	S地区3　Ⅱ層
1392	Ⅱ群	B1類？	ア	頸部幅約0.4cmの工具の角を刺突した押引き文。口唇水平。	S地区5　Ⅱ層15～20
1393	Ⅱ群	B1類	ア	頸部篦状工具(幅約0.3cm)による押引き文。	S地区4
1394	Ⅱ群	B1類	ア	先端丸味のある篦状工具(幅約0.3cm)による刺突文。口縁屈曲。	S地区5　Ⅱ層30～40
1395	Ⅱ群	B1類	ア	肥厚口縁篦状工具によって成形。口唇水平。	S地区1　Ⅱ層10～20
1396	Ⅱ群	B1類	エ	口唇水平。	S地区5　Ⅱ層0～15
1397	Ⅱ群	B2類	イ	口縁直下先端丸味を持つ篦状工具(幅約0.4cm)による押引き文。	S地区1　Ⅲ層15～20
1398	Ⅱ群	B3類	イ	口径12.4cm。口唇水平(ルーズ)。	S地区3　Ⅱ層40～45
1399	Ⅱ群	B1類	イ	口縁屈曲。	S地区5　Ⅲ層0～15
1400	Ⅱ群	B1類	ア	口縁横位ハケメ僅かに残る。口縁屈曲。	S地区5　Ⅲ層15～20
1401	Ⅱ群	B1類	ア	口唇篦状工具(幅約0.3cm)による押引き文。口縁屈曲。	S地区4　Ⅱ層10～20
1402	Ⅱ群	B4類	イ	口縁は篦状工具による成形。	S地区1　Ⅱ層20～30
1403	Ⅱ群	B1類	ア	口縁屈曲。	S地区5　Ⅲ層15～20
1404	Ⅱ群	B2類？	ア	頚部篦状工具(幅約0.5cm)による押引き文。	S地区1　Ⅱ層20～30
1405	Ⅱ群	B1類	ア	頚部半截竹管状工具(幅約0.4cm)による押引き文。口縁屈曲。	S地区1　Ⅱ層0～10
1406	Ⅱ群	B1・3類？	イ	口唇水平(ルーズ)。	S地区5　Ⅱ層20～30
1407	Ⅱ群	B1類？	ア	口唇水平。	S地区3　Ⅱ層20～30
1408	Ⅱ群	B1・3類？	ア	口唇水平。	S地区5　Ⅱ層20～30
1409	Ⅱ群	B1・3類？	ア	口唇水平。	S地区5　Ⅱ層20～30
1410	Ⅱ群	C類？	ア	肥厚口縁直下木口痕残る。	S地区5　Ⅲ層15～20
1411	Ⅱ群	B2類？	ア	剥離著しい。	S地区3　Ⅱ層20～30
1412	Ⅱ群	B3類？	ア	幅約0.3cmの工具による刺突文。	S地区4　Ⅱ層10～20
1413	Ⅱ群	B1・3類？	イ	外面横位ハケが僅かに残る。口唇水平。	S地区1　Ⅱ層20～30
1414	Ⅱ群	B2類？	ア	頚部篦状工具(幅約0.7cm)による押引き文。口縁屈曲。	S地区4　Ⅱ層30～40
1415	Ⅱ群	B2類	ア	篦状工具(幅約0.5cm)による刺突文。	S地区3　Ⅱ層下部　土器集中区
1416	Ⅱ群	B1・3類？	イ	口唇水平。	S地区5　Ⅱ層0～15
1417	Ⅱ群	B1・3類？	ア	口唇水平。	S地区5　？20～35
1418	Ⅱ群	B1類	ア	頚部文様磨耗した可能性あり。口唇水平。	S地区3　Ⅱ層40～45
1419	Ⅱ群	B1・3類？	イ	口唇水平。	S地区1　Ⅱ層20～30
1420	Ⅱ群	B1類	ア	叉状工具(幅約0.8cm)による押引き文。口唇水平。	S地区5　Ⅱ層0～15
1421	Ⅱ群	B2類？	イ	口唇丸味を帯びる。	S地区3　Ⅱ層20～30
1422	Ⅱ群	B1・3類？	ア	肥厚口縁外縁部横位ハケメ残る。口唇水平。	S地区1　Ⅱ層40～45
1423	Ⅱ群	B2類？	ア	口唇外縁部横位ナデによって尖鋭に成形。無肥厚。口唇丸味を帯びる。	S地区3　Ⅱ層20～30
1424	Ⅱ群	B2類？	ア	無肥厚。口唇丸味を帯びる。	S地区3　Ⅱ層40～45
1425	Ⅱ群	B2類？	ウ	無肥厚。口唇丸味を帯びる。	S地区1　Ⅱ層40～45
1426	Ⅱ群	B2類？	ア	無肥厚。脆弱。	S地区1　Ⅱ層20～30
1427	Ⅱ群	B2類？	イ	口唇叉状工具(幅約0.3cm)による刺突文。口縁左傾・右傾の沈線文。無肥厚。	S地区3　Ⅱ層10～20
1428	Ⅱ群	B1類？	イ	口唇直下方形状工具(幅約0.2cm)の先端1辺を右傾に刺突。無肥厚。	S地区1　Ⅱ層20～30
1429	Ⅱ群	B4類	ア	無肥厚。	S地区1　Ⅱ層(66～？)40～45
1430	Ⅱ群	B2類？	エ	口縁下部外面粘土の貼付によって口唇よりも器壁が厚手。	S地区4　Ⅱ層20～30
1431	Ⅱ群	B2類？	イ	肥厚口縁丸味を帯びる。	S地区5　Ⅱ層20～30
1432	Ⅱ群？	B2類？	イ	口縁屈曲するタイプの可能性あり。	S地区5　Ⅲ層0～15

第２表(16)　土器観察表

番号	土器分類		混入物	特徴	出土地
1433	Ⅰ群？	壷1	-	口径約7.2㎝。	S地区5　Ⅲ層0～15
1434	Ⅰ群？	壷1	-	口径約5.6㎝。	S地区4　Ⅱ層20～30
1435	Ⅰ群？	壷1	-	口径約3.2㎝。	S地区5　Ⅲ層0～15
1436	Ⅱ群？	壷1	ア	口径約6.0㎝。	S地区3　Ⅱ層50～55
1437	Ⅱ群	壺2	イ	口径約7.2㎝。口唇直下叉状工具(幅約0.4㎝)による押引き文・斜沈線(右下がり)。	S地区5　Ⅱ層30～40
1438	Ⅰ群？	壷1	-	口径約3.8㎝。口縁やや内傾。	S地区5　Ⅱ層20～30
1439	Ⅱ群	壷1	イ	口唇水平(ルーズ)。	S地区3　Ⅱ層30～40
1440	Ⅱ群？	壷1	ア	口縁段面三角状に肥厚。	S地区3　Ⅱ層20～30
1441	Ⅲ群	犬田布？	エ	頸部左下がり斜沈線。その下方に刻目が施された幅約0.8㎝の突帯貼付。	S地区4　Ⅲ層10～20
1442	Ⅲ群	喜念Ⅰ	イ	ミミズ腫れ状突帯(幅約0.3㎝)が縦位・斜位に貼付。脆弱。剥離著しく刺突文不明瞭。	S地区3　Ⅱ層20～30
1443	Ⅱ・Ⅲ群	底部c	オ	底径約2.0㎝。色調は淡黄色を呈す。	S地区3　Ⅲ層A集石7-D50～55
1444	Ⅰ・Ⅱ群	底部a・b	ア	外底面は稜を持つ。	S地区3　B集積14遺 40～50
1445	Ⅱ群	底部c	イ	底径2～3㎝。内面調整痕残る。	S地区3　Ⅱ層30～40
1446	Ⅱ群	底部d	ア	内面指頭痕残る。	S地区4　Ⅱ層30～40
1447	Ⅱ群	底部d	イ	脆弱。	S地区4　Ⅱ層30～40
1448	Ⅱ群	底部d	イ	内面指頭痕残る。	S地区3　Ⅱ層30～40
1449	Ⅱ群	底部b	イ	底径2～3㎝。粘土の貼付はみられない。	S地区4　Ⅱ層10～20
1450	Ⅱ群	底部c	イ	底径2～3㎝。	S地区4　Ⅱ層20～30
1451	Ⅱ群	底部b	イ	底径4～5㎝。	S地区3　Ⅱ層30～40
1452	Ⅱ群	底部b	イ	庭径3～4㎝。	S地区3　Ⅱ層30～40
1453	Ⅱ群	底部b	イ	底径4～5㎝。	S地区4　Ⅱ層20～30
1454	Ⅱ群	底部b	イ	庭径3～4㎝。	S地区4　Ⅱ層20～30
1455	Ⅱ群	底部b	イ	庭径3～4㎝。	S地区4　Ⅱ層40～45
1456	Ⅱ群	底部c	ア	底径2～3㎝。内面黒色物の付着がみられる。	S地区3　Ⅱ層下部　土器集中区
1457	Ⅰ群	伊波・荻堂	-	口縁部資料。押引による横位区画文(叉状工具2列)が確認できる。区画内は空白か？	P地区　Ⅱ層
1458	Ⅰ群	荻堂	-	口縁部資料。押引による横位区画文(叉状工具2列)が確認できる。	P地区　Ⅱ層
1459	Ⅰ群	伊波・荻堂	-	口縁部資料。短沈線による横位区画文(叉状工具2列)が確認できる。	P地区　Ⅱ層
1460	Ⅰ群	伊波	-	引きの長い押引による横位区画文(叉状工具1列)が確認できる。区画内および第Ⅱ層文様帯は空白。	P地区　Ⅱ層
1461	Ⅰ群	伊波	-	刺突による横位区画文(単篦工具2列)が確認できる。区画内および第Ⅱ層文様帯は空白。	P地区　Ⅱ層
1462	Ⅰ群	伊波・荻堂	-	斜線による区画内文様。	P地区　Ⅱ層
1463	Ⅰ群	伊波	-	区画内の網代状文と考えられる。	P地区　Ⅱ層
1464	Ⅰ群	伊波	-	押引による横位区画文(叉状工具1列)と区画内に斜線文が確認できる。第Ⅱ層文様帯は空白。	P地区　Ⅱ層
1465	Ⅰ群	伊波	-	押引による横位区画文(叉状工具1列)と区画内に沈線による斜線文が確認できる。	P地区　Ⅱ層
1466	Ⅰ群	荻堂	-	押引による横位区画文と縦位区画文(叉状工具)が確認できる。区画内は斜線文様。	P地区　Ⅱ層
1467	Ⅰ群	伊波	-	区画内の網代状文と考えられる。	P地区　Ⅱ層
1468	Ⅰ群	荻堂	-	横位の点刻文が1列沈線による縦位区画文が確認できる。	P地区　Ⅱ層
1469	Ⅰ群	伊波	-	点刻による横位区画文(叉状工具1列)が確認できる。区画内もしくは第Ⅱ層文様帯は空白。	P地区　Ⅱ層
1470	Ⅰ群	伊波・荻堂	-	斜線による区画内文様だと考えられる。	P地区　Ⅱ層
1471	Ⅰ群	伊波	-	押引による横位・縦位区画文(半裁竹管状工具)が確認できる。区画内は空白。	P地区　Ⅱ層
1472	Ⅰ群	伊波・荻堂	-	叉状工具による沈線文が2列確認できる。	P地区　Ⅱ層
1473	Ⅰ群	荻堂	-	口縁部資料。押引による横位区画文(叉状工具3列)と区画内には鋸歯文が確認できる。	P地区　Ⅱ層
1474	Ⅰ群	荻堂	-	押引による横位区画文(叉状工具2列)と区画内もしくは第Ⅱ層文様帯に鋸歯文が確認できる。	P地区　Ⅱ層
1475	Ⅰ群	伊波	-	口縁部資料。引きの長い押引による横位区画文(叉状工具1列)が確認できる。中段は空白。	P地区　Ⅱ層
1476	Ⅰ群	荻堂	-	沈線による横位区画文(叉状工具1列)と第Ⅱ層文様帯に鋸歯文が確認できる。	P地区　Ⅱ層
1477	Ⅰ群	荻堂	-	押引による横位区画文(叉状工具1列)と第Ⅱ層文様帯に鋸歯文が確認できる。	P地区　Ⅱ層
1478	Ⅰ群	荻堂	-	第Ⅱ層文様帯の鋸歯文。	P地区　Ⅱ層
1479	Ⅰ群	荻堂	-	点刻による横位区画文(叉状工具2列)と第Ⅱ層文様帯に鋸歯文が確認できる。	P地区　Ⅱ層
1480	Ⅰ群	荻堂	-	叉状工具による鋸歯文が確認できる。	P地区　Ⅱ層
1481	Ⅰ群	荻堂	-	押引による鋸歯文が確認できる。	P地区　Ⅱ層
1482	Ⅰ群	荻堂	-	押引による横位区画文(叉状工具1列)が確認できる。その下部には斜線文(鋸歯文？)。	P地区　Ⅱ層
1483	Ⅰ群	荻堂	-	山形口縁部。無紋土器。	P地区　Ⅱ層
1484	Ⅰ群	荻堂	-	山形口縁部。無紋土器。	P地区　Ⅱ層
1485	Ⅰ群	荻堂	-	山形口縁部。瘤状突起。無紋土器。	P地区　Ⅱ層
1486	Ⅰ群	荻堂	-	山形口縁部。無紋土器。	P地区　Ⅱ層
1487	Ⅰ群	荻堂	-	瘤状突起部。突起上部に押引文。	P地区　Ⅱ層
1488	Ⅰ群	荻堂	-	口縁部資料。押引文が2列確認できる。	P地区　Ⅱ層
1489	Ⅰ群	荻堂・大山	-	幅の狭い単篦工具による押引文が3列確認できる。	P地区　Ⅱ層
1490	Ⅰ群	荻堂	-	沈線による横位縦位区画文(叉状工具)と第Ⅱ層文様帯に鋸歯文が確認できる。	P地区　Ⅱ層
1491	Ⅰ群	荻堂・大山	-	単篦工具による2列の押引文が確認できる。	P地区　Ⅱ層
1492	Ⅰ群	荻堂・大山	-	単篦工具による2列の押引文が確認できる。	P地区　Ⅱ層
1493	Ⅰ群	荻堂・大山	-	単篦工具による2列の押引文が確認できる。	P地区　Ⅱ層
1494	Ⅰ群	伊波・荻堂	-	沈線が確認できるが器面状態悪く不鮮明。	P地区　Ⅱ層
1495	Ⅰ群	？(伊波？)	-	口縁部資料。口唇部には刻目文。刺突による横位・縦位区画文(単篦工具1列)。区画内は空白。	P地区　Ⅱ層
1496	Ⅰ群	大山	-	口縁部資料。単篦による刺突文が2列。その間に単篦による沈線を2列施す。	P地区　Ⅱ層
1497	Ⅰ群	大山	-	口縁部資料。押引による横位区画文(半裁竹管状工具2列)が確認できる。	P地区　Ⅱ層
1498	Ⅰ群	大山	-	口縁部資料。単篦工具による押引文が2列確認できる。	P地区　Ⅱ層
1499	Ⅰ群	大山	-	口縁部資料。単篦工具による押引文が2列確認できる。	P地区　Ⅱ層
1500	Ⅰ群	大山	-	口縁部資料。口縁部は四角く肥厚しその上部には単篦による刺突。その下部には凸帯(上部刺突)と2列の押引文。	P地区　Ⅱ層
1501	Ⅰ群	大山	-	口縁部資料。単篦による刺突文が2列確認できる。	P地区　Ⅱ層
1502	Ⅰ群	大山	-	口縁部資料。半裁竹管状工具による押引文が3列確認できる。	P地区　Ⅱ層
1503	Ⅰ群	大山	-	口縁部資料。単篦による3列の押引文が確認できる。	P地区　Ⅱ層
1504	Ⅰ群	大山	-	単篦による刺突文が2列確認できる。	P地区　Ⅱ層
1505	Ⅰ群	大山	-	単篦による刺突文が1列確認できる。	P地区　Ⅱ層
1506	Ⅰ群	大山	-	口縁部資料。単篦による刺突文が1列確認できる。	P地区　Ⅱ層
1507	Ⅰ群	大山	-	口縁部資料。単篦による押引文が1列確認できる。	P地区　Ⅱ層
1508	Ⅰ群	大山	-	半裁竹管状工具による刺突文が3列確認できる。	P地区　Ⅱ層
1509	Ⅰ群	大山	-	半裁竹管状工具による押引文と刺突文が1列ずつ確認できる。	P地区　Ⅱ層
1510	Ⅰ群	大山	-	半裁竹管状工具による押引文が2列確認できる。	P地区　Ⅱ層
1511	Ⅰ群	大山	-	単篦工具による押引文が2列確認できる。	P地区　Ⅱ層
1512	Ⅰ群	大山	-	単篦工具による押引文が2列とその下部に幅広の沈線が確認できる。	P地区　Ⅱ層
1513	Ⅰ群	大山	-	単篦工具による刺突文とその下部に幅広の沈線が確認できる。	P地区　Ⅱ層
1514	Ⅰ群	大山	-	単篦工具による刺突文が1列確認できる。	P地区　Ⅱ層
1515	Ⅰ群	大山	-	単篦工具による刺突文が1列確認できる。	P地区　Ⅱ層
1516	Ⅰ群	大山	-	単篦工具による刺突文が1列確認できる。	P地区　Ⅱ層
1517	Ⅰ群	大山	-	単篦工具による刺突文が1列確認できる。	P地区　Ⅱ層
1518	Ⅰ群	大山	-	単篦工具による刺突文が1列確認できる。	P地区　Ⅱ層
1519	Ⅰ群	大山	-	口縁部資料。口縁部が歯ブラシ状に肥厚。単篦工具による押引文が2列確認できる。	P地区　Ⅱ層
1520	Ⅰ群	大山	-	口縁部資料。単篦による押引文が2列確認できる。	P地区　Ⅱ層
1521	Ⅰ群	大山	-	口縁部資料。単篦工具による刺突文が1列確認できる。	P地区　Ⅱ層
1522	Ⅱ群	B2類	ア	口縁部を屈曲させる。幅0.3㎝のヘラ状工具による押し引き文を横位1列に配す。石英含む。	P地区　Ⅱ層
1523	Ⅱ群	B2類？	ア	胴部。幅0.8㎝の帯状の突帯文を横位1列に配す。	P地区　西端Ⅱ層
1524	Ⅱ群	B2類	ア	貼付による肥厚口縁。口唇は内面側に面をもち尖る。肥厚部にヘラ状工具による刺突文を配す。肥厚部直下に横位の押捺刻文を配す。	P地区　ⅡC層
1525	Ⅱ群	B1類	ア	貼付による肥厚口縁。口唇は面をもつ。肥厚部にヘラ状工具による刺突文を配す。	P地区　ⅡC層
1526	Ⅱ群	B1類	ア	貼付による肥厚口縁。口唇は面をもつ。肥厚部にヘラ状工具による押捺刻文その直下に同工具による押し引き文を配す(右→左)。	P地区　ⅡC層

第２表(17)　土器観察表

番号	土器分類		混入物	特徴	出土地
1527	Ⅱ群	B1類	ア	貼付による肥厚口縁。口唇は面をもつ。肥厚部とその直下にヘラ状工具による押捺刻文(右→左)を配す。	P地区　ⅡC層
1528	Ⅱ群	B1類	ア	貼付による肥厚口縁。口唇は面をもつ。肥厚部にヘラ状工具による刺突文を横位1列配す。	P地区　ⅡC層
1529	Ⅱ群	B1類	ア	貼付による肥厚口縁。口唇は面をもつ。肥厚部と口縁部にヘラ状工具による刺突文を横位に配す。	P地区　M12Ⅱ層
1530	Ⅱ群	B1類	ア	貼付による肥厚口縁。口唇は面をもつ。肥厚部とその直下にヘラ状工具による刺突文を横位に配す。	P地区　ⅡC層
1531	Ⅱ群	B1類	ア	貼付による肥厚口縁。口唇は丸みをおびる。肥厚部に半裁竹管による刺突文。その直下に同工具による押し引き文を配す。	P地区　Ⅱ層
1532	Ⅱ群	B1類	ア	口縁を屈曲させる。外面は工具調整による面をなしヘラ状工具による押し引き文を横位1列に配す。	P地区　Ⅱ層
1533	Ⅱ群	壺1	イ	口径は7.5cm。口唇は丸みを帯び肥厚する。指オサエ。	P地区　ⅡB層
1534	Ⅱ群	B3類	イ	貼付による肥厚口縁。口唇は面をもち三角形状をなす。又状工具による押し引き文(下→上)を縦位に2本配す。	P地区　ⅡC層
1535	Ⅱ群	B3類	ア	貼付による肥厚口縁。口唇は幅広の面をもつ。口唇直下に横位2列の押引き文(右→左)。石灰岩礫を密に含む。	P地区　ⅡC層
1536	Ⅱ群	B3類	イ	貼付による肥厚口縁。口唇は幅広い面をもつ。。器面調整丁寧。	P地区　Ⅱ層
1537	Ⅱ群	壺1	ア	口径は5.1cm。口唇は面をもち微弱な肥厚をなす。石灰岩礫を密に含む。	P地区　ⅡC層
1538	Ⅱ群	壺1	ア	口径は6.1cm。口唇は面をもち微弱な肥厚をなす。指オサエ。石灰岩礫を密に含む。	P地区　ⅡC層
1539	Ⅱ群	壺1	ア	口径は6.5cm。貼付による肥厚口縁。口唇は面をもつ。指オサエ明瞭に残る。石灰岩礫を密に含む。	P地区　Ⅱ層
1540	Ⅱ群	壺1	ア	口径は9.8cmとやや大きい。口唇はやや丸みを帯びて微弱な肥厚をなす。指オサエ。石灰岩礫を密に含む。	P地区　西端Ⅱ層
1541	Ⅱ群	壺1	ア	口径は10.1cmとやや大きい。口唇は丸みを帯びて微弱な肥厚をなす。指オサエ。砂粒子の混入物。	P地区　O14-ⅡC層
1542	Ⅱ群	B3類	イ	口径は15.2cm。口唇は面をもち肥厚をなす。指オサエ。外面の調整丁寧。	P地区　O13－ⅡC層
1543	Ⅱ群	B3類	ア	口径は15.3cm。貼付による肥厚口縁。口唇は丸みを帯びるが三角形状を呈す。指オサエ工具調整。	P地区　O18－ⅡC層
1544	Ⅱ群	B3類	ア	口径は14.8cm。貼付による肥厚口縁。口唇は面をもつ丸みをおびた三角形状を呈す。砂粒子の混入物。	P地区　ⅡC層
1545	Ⅱ群	B1類	ア	口径は12.9cm。口縁を大きく屈曲させる。口唇直下に横位1列の押捺刻文(右→左)。	P地区　Ⅱ層
1546	Ⅱ群	B1類	ア	口径は15.2cm。貼付による肥厚口縁。丸みを帯びた三角形状を呈す。半裁竹管による横位・縦位の押し引き文。	P地区　Ⅱ層
1547	Ⅱ群	B1類	イ	貼付による肥厚口縁。口唇は水平。工具調整による側面は面をもつ。棒状工具による押し引き文(右→左)。	P地区　Ⅱ層
1548	Ⅱ群	B1類	ア	口径は20.8cm。貼付による肥厚口縁。口唇は面をもち幅広い。口唇直下に横位1列の押し引き文(右→左)。	P地区　Ⅱ層
1549	Ⅱ群	B1類	ア	口径は17.8cm。貼付による肥厚口縁。口唇は面をもち幅広い。口唇直下に又状工具による押し引き文(右→左)。	P地区　Ⅱ層
1550	Ⅱ群	B1類	ア	口径は20.0cm。貼付による肥厚口縁。横位1列、縦位1列の押し引き文。	P地区　ⅡC層
1551	Ⅱ群	B1類	ア	貼付による肥厚口縁。口唇は面をもち幅広い。口唇直下に横位1列の押し引き文(左→右)。	P地区　Ⅱ層
1552	Ⅱ群	B1類	ア	貼付による肥厚口縁。口唇は面をなし幅広い。口唇直下に横位1列の押捺刻文(右→左)。	P地区　Ⅱ層
1553	Ⅱ群	B1類	ア	貼付による肥厚口縁。口唇は面をなし幅広い。側面は工具調整により面をなす。横位1列の押し引き文(右→左)。	P地区　ⅡB層
1554	Ⅱ群	B1類	ア	口縁を大きく屈曲させる。外面は工具調整により面をもつ。横位2列の押し引き文(右→左)。	P地区　L11－ⅡC層
1555	Ⅱ群	B1類orA類	ア	貼付による肥厚口縁。口唇は面をなし幅広く側面に工具調整。直下に横位1列の押し引き文(方向不明)。	P地区　Ⅱ層
1556	Ⅱ群	B1類	ア	貼付による肥厚口縁。口唇は面をなし幅広い。口唇直下に半裁竹管による横位1列の押し引き文(右→左)。	P地区　L10－ⅡC層
1557	Ⅱ群	B1類orA類	ア	貼付による肥厚口縁。口唇は面をもち側面も工具調整により面をもつ。横位1列の押し引き文(方向不明)。	P地区　Ⅱ層
1558	Ⅱ群	B1類	ア	貼付による肥厚口縁。口唇直下から横位2列の押捺刻文(右→左)。	P地区　Ⅱ層
1559	Ⅱ群	B1類	ア	貼付による肥厚口縁。口唇は面をなし側面も工具調整による面もつ。半裁竹管による押し引き文(右→左)。	P地区　L10－ⅡC層
1560	Ⅱ群	B1類	ア	貼付による肥厚口縁。口唇は面をもつが側面は丸みをおびる。横位1列の押し引き文(右→左)。	P地区　西端Ⅱ層
1561	Ⅱ群	B2類	ア	口唇は面をもち微弱な肥厚をなす。直下に押捺刻文(右→左)。	P地区　Ⅱ層
1562	Ⅱ群	B2類	イ	口唇が面をなして微弱な肥厚をなす。側面は工具調整により面をもつ。横位2列の押捺刻文(右→左)。	P地区　Ⅱ層
1563	Ⅱ群	B2類	ア	口唇は水平面をもち微弱な肥厚をなす。横位1列の押捺刻文(右→左)。指オサエ。	P地区　L11－ⅡC層
1564	Ⅱ群	B2類	ア	口唇は舌状をなす。横位1列の押し引き文(右→左)。指オサエ。	P地区　ⅡC層
1565	Ⅱ群	B1類？	ア	口唇は面をもち微弱な肥厚をなす。横位1列の押捺刻文(右→左)。	P地区　Ⅱ層
1566	Ⅱ群	B1類？	ア	口唇は丸みをおびて微弱な肥厚をなす。側面に工具調整を行い面をもつ。木口痕のこる。	P地区　O12-ⅡC層
1567	Ⅱ群	B1類？	ア	口唇は面をもち微弱な肥厚をなす。横位1列の押捺刻文(右→左)	P地区　Ⅱ層
1568	Ⅱ群	B1類	ア？	口径は9.8cm。貼付による肥厚口縁で丸みをおびて三角形状をなす。斜沈線を配す(右下がり)。	P地区　Ⅱ層
1569	Ⅱ群	B1類	イ	口径は14.2cm。口縁は大きく屈曲する。肥厚部直下にヘラ状工具による刺突文その下に斜位沈線(右下がり)。	P地区　Ⅱ層
1570	Ⅱ群	B3類	イ	口径は17. 0cm。貼付による肥厚口縁で丸みをおびる。口縁直下に横位1列の押捺刻文(右→左)。その下に右→左の斜位沈線。	P地区　Ⅱ層
1571	Ⅱ群	B3類	イ	口径は19.2cm。貼付による肥厚口縁。押捺刻文と斜位沈線を配す。	P地区　Ⅱ層
1572	Ⅱ群	B1類	ア	貼付による肥厚口縁。口唇は面をもち側面も工具調整により面をなす。又状工具による押し引き文(右→左)	P地区　O14-ⅡC層
1573	Ⅱ群	B2類	ア	貼付による肥厚口縁。貼付部分に横位1列の刺突文(右→左)。その下に右→左の斜位沈線。	P地区　Ⅱ層
1574	Ⅱ群	B1類	イ	貼付による肥厚口縁。口唇は面をもち幅広い。口唇上に押捺刻文(左→右)。口唇直下から斜位沈線。	P地区　ⅡC層
1575	Ⅱ群	B3類	ア	口唇への貼付と口縁部への貼付において区画をなす区画間は口唇直下の横位1列の押し引き文(右→左)その下に右→左の斜位沈線があり斜位沈線は縦位の押捺刻文によって区画される。犬田布式の文様要素。	P地区　ⅡC層
1576	Ⅱ群	B2類	ア	口唇は丸みをおびて微弱な肥厚をなす。横位1列の押し引き文(右→左)。その下に綾杉文。	P地区　O16-ⅡC層
1577	Ⅱ群	B1類	ア	貼付による肥厚口縁。貼付部分と口唇直下に横位1列の押捺刻文(右→左)。その下に左→右の斜位沈線。	P地区　Ⅱ層
1578	Ⅱ群	B2類or1	イ	貼付による微弱な肥厚口縁。横位の押捺刻文各1列で区画をなし間に羽状文を配する。	P地区　Ⅱ層
1579	Ⅱ群	B2類	ア	口縁は屈曲し舌状を呈す。押捺刻文(右→左)を1列配しその下に斜位沈線(左下がり)を配する。	P地区　Ⅱ層
1580	Ⅱ群	B1類	イ	貼付による肥厚口縁。口唇直下に押捺刻文(右→左)。その下に斜位沈線(左下がり)を配する。	P地区　O14-ⅡC層
1581	Ⅱ群	B1類	ア	貼付による肥厚口縁。口唇は面をもち幅広い。肥厚部直下に押捺刻文(右→左)。その下に斜位沈線(右下がり)。	P地区　M20-ⅡC層
1582	Ⅱ群	B2類？	ア？	貼付による肥厚口縁。又状工具による横位の刺突文。その下に斜位沈線(右下がり)。	P地区　ⅡB層
1583	Ⅱ群	B2類	ア	貼付による肥厚口縁。口唇は面をなし幅広い。肥厚部直下に横位の押捺刻文(右→左)を配す。	P地区　Ⅱ層
1584	Ⅱ群	B2類？	イ	胴部。半裁竹管による横位の押し引き文を1列(右→左？)。	P地区　M20-ⅡC層
1585	Ⅱ群	B2類？	イ	胴部。半裁竹管による横位の押し引き文を1列(方向不明)。	P地区　ⅡC層
1586	Ⅱ群	B2類？	イ？	胴部。半裁竹管による横位の押し引き文を1列(方向不明)。	P地区　ⅡC層
1587	Ⅱ群	B3類	ア	口径17.1cm。2列の帯状突帯で区画をなし間に網代文を配する。各帯状突帯には横位の押捺刻文を施す(右→左)。	P地区　Ⅱ層
1588	Ⅱ群	B3類	ア	2列の帯状突帯で区画をなし間に網代文を配する。帯状突帯には横位の押捺刻文を施す(右→左)。	P地区　ⅡC層
1589	Ⅱ群	B2類	ア	2列の帯状突帯で区画をなし間に網代文を配する。帯状突帯には横位の押捺刻文を施す(右→左)。	P地区　不明
1590	Ⅱ群	B2類	ア	口唇部は面をもち微弱な肥厚をなす。帯状突帯を1列回して口唇部分との間に区画し網代文を配す。	P地区　Ⅱ層
1591	Ⅱ群	B2類	ア	口唇部分は面をもち微弱な肥厚をなす。又状工具による刺突文を横位1列に配する(喜念Ⅰ式に類する)。	P地区　不明
1592	Ⅱ群	B4類	エ	口径14.4cm。口唇部は面をもち肥厚をなす。密な羽状文を配す。金雲母を含む。宇宿上層式。	P地区　O15-ⅡC層
1593	Ⅱ群	A類	ア	貼付による肥厚をなし側面も面をなす。肥厚部直下に半裁竹管により押し引き文が回る。カヤウチバンタ式。	P地区　Ⅱ層
1594	Ⅱ群	B2類	ア	貼付による微弱な肥厚をなす。肥厚部に半裁竹管による刺突文を配す。	P地区　Ⅱ層
1595	Ⅱ群	C類	ア	貼付による肥厚をなし肥厚は工具調整によって面し三角形をなす。ヘラ状工具による押し引き文(左→右)。宇佐浜式。	P地区　ⅡC層
1596	Ⅱ群	B2類	イ	貼付による肥厚をなし工具調整により側面は面をもつ。斜位の沈線文(右下がり)。	P地区　Ⅱ層
1597	Ⅲ群	宇宿上層？	エ	貼付による肥厚をなす。口唇部は丸みをおびるが三角形状を呈す。斜位の沈線文を配し羽状文の一部か。	P地区　ⅡC層
1598	Ⅲ群	宇宿上層？	エ	胴部。密な羽状文を配す。金雲母を含む。	P地区　L9-ⅡC層
1599	Ⅱ群	B2類？	ア	胴部。網代文を配しヘラ状工具による押し引き文(左→右)で区画をなす。	P地区　東Ⅳ層
1600	Ⅱ群	B3類？	イ	胴部(頸部付近)。ヘラ状工具による押し引き文(左→右)各1列で区画をなし間に網代文を配す。	P地区　ⅡC層
1601	Ⅱ群	B3類？	イ	胴部(頸部付近)。縦位と横位に帯状突帯で区画を行い内部に斜沈線縦位の沈線を組み合わせる。	P地区　Ⅱ層
1602	Ⅲ群	喜念Ⅰ？	ア	胴部。帯状突帯を巡らし突帯文中に棒状工具により刺突文を施す(右→左)。	P地区　ⅡC層
1603	Ⅲ群	喜念Ⅰ？	ア	胴部。帯状突帯を巡らし突帯文中にヘラ状工具により刺突文を施す(右→左)。	P地区　ⅡC層
1604	Ⅲ群	喜念Ⅰ？	ア	胴部。羽状文を配しその下部にミミズバレ状の突帯文を配する。	P地区　N11-ⅡC層
1605	Ⅲ群	喜念Ⅰ？	ア	胴部。ミミズバレ状の突帯文を横位に1本配する。喜念Ⅰ式。	P地区　O13-ⅡC層
1606	Ⅲ群	喜念Ⅰ	エ	ミミズバレ状の突帯文を横位3本1セットで配し破片左部にも同様の文様を配すか？。金雲母極少量含む。喜念Ⅰ式。	P地区　Ⅱ層
1607	Ⅲ群	喜念Ⅰ	エ	胴部。ミミズバレ状の突帯文を横位1列配する。金雲母含む。喜念Ⅰ式。	P地区　ⅡC層
1608	Ⅲ群	喜念Ⅰ	エ	胴部。ミミズバレ状の突帯文を横位1列配するが文様は雑である。金雲母含む。喜念Ⅰ式。	P地区　O13-ⅡC層
1609	Ⅲ群	喜念Ⅰ	エ	胴部。ミミズバレ状の突帯文を横位1列配する。金雲母含む。喜念Ⅰ式。	P地区　Ⅱ層
1610	Ⅲ群	喜念Ⅰ	エ	胴部。ミミズバレ状の突帯文を横位1列配する。金雲母含む。喜念Ⅰ式。	P地区　ⅡC層
1611	Ⅲ群	喜念Ⅰ？	イ	胴部。半裁竹管による押し引き文を2列配する。	P地区　東Ⅳ層
1612	Ⅲ群	喜念Ⅰ？	ア	胴部。帯状突帯を横位1列配し突帯文中に半裁竹管による刺突文を配する。	P地区　Ⅱ層
1613	Ⅲ群	喜念Ⅰ？	イ	胴部。突帯文に不規則に刺突文が配される。	P地区　Ⅱ層
1614	Ⅲ群	喜念Ⅰ	エ	胴部。ミミズバレ状の突帯文を配するが文様は雑である。金雲母を極少量含む。喜念Ⅰ式。	P地区　ⅡB層
1615	Ⅲ群	喜念Ⅰ	エ	胴部。ミミズバレ状の突帯文を横位2列配する。文様は雑である。金雲母含む。喜念Ⅰ式。	P地区　ⅡC層
1616	Ⅲ群	喜念Ⅰ	エ	ミミズバレ状の突帯文を横位1列配するが文様は雑である。金雲母を極少量含む。	P地区　ⅡB層
1617	Ⅲ群	喜念Ⅰ	エ	ミミズバレ状の突帯文を横位1列配する。金雲母含む。喜念Ⅰ式。	P地区　ⅡC層
1618	Ⅲ群	喜念Ⅰ	エ？	ミミズバレ状の突帯文を横位1列配する。	P地区　N17-ⅡC層
1619	Ⅲ群	喜念Ⅰ？	ア	ミミズバレ状の突帯文を横位2列配する。文様は非常に雑である。	P地区　ⅡC層
1620	Ⅱ群	A類	ア	貼付による肥厚をなす。口唇部は面をもち側面部も工具調整により面をもつ。カヤウチバンタ式。	P地区　O14-ⅡC層
1621	Ⅱ群	A類	ア	貼付による肥厚をなす。口唇ぶはやや丸みを帯びるが側面部は工具調整により面をもつ。カヤウチバンタ式。	P地区　ⅡC層

第２表(18)　土器観察表

番号	土器分類		混入物	特徴	出土地
1622	Ⅱ群	C類	イ	口径は26.6cm。貼付による肥厚口縁。口縁は三角形状を呈す。肥厚部下に横位1列の押し引き文(左→右)。	P地区　ⅡC層
1623	Ⅱ群	A類	ア	口径は13. 4cm。貼付幅約1.1cm。貼付による肥厚口縁で方形状を呈す。カヤウチバンタ式。	P地区　Ⅱ層
1624	Ⅱ群	A類	ア	口径は19.1cm。貼付幅約1.1cm。貼付による肥厚口縁で方形状を呈す。カヤウチバンタ式。	P地区　N12-ⅡC層
1625	Ⅱ群	A類	ア	口径は14.2cm。貼付幅約1.1cm。貼付による肥厚口縁で方形状を呈す。肥厚部下に凹部が巡る。カヤウチバンタ式。	P地区　Ⅱ層
1626	Ⅱ群	A類	イ？	口径は18.8cm。貼付幅約1.0cm。貼付による肥厚口縁で方形状を呈す。肥厚部下に凹部が巡る。カヤウチバンタ式。	P地区　Ⅱ層
1627	Ⅱ群	A類	エ？	貼付幅は約1.0cm。貼付により肥厚口縁で方形状を呈す。金雲母？極少量含む。カヤウチバンタ式？	P地区　ⅡB層
1628	Ⅱ群	A類	エ？	口径は21.2cm。貼付幅約1.2cm。貼付による肥厚口縁で方形状を呈す。金雲母？極少量含む。カヤウチバンタ式。	P地区　西端Ⅱ層
1629	Ⅲ群	宇宿上層	エ	口径は11.4cm。貼付による肥厚口縁。口縁は三角形状を呈す。宇宿上層式。	P地区　西端Ⅱ層
1630	Ⅱ群	A類	ア	口径は13.1cm。貼付幅約1.1cm。貼付による肥厚口縁で方形状を呈す。肥厚部直下に凹部が巡る。カヤウチバンタ式。	P地区　Ⅱ層
1631	Ⅱ群	A類	ア	口径は22.2cm。貼付幅約1.4cm。貼付による肥厚口縁で方形状を呈す。肥厚部直下に凹部が巡る。カヤウチバンタ式。	P地区　O17-ⅡC層
1632	Ⅱ群	壺1	イ	口径は7.0cm。口唇部は面をなし微弱な肥厚をなす。指オサエ。	P地区　ⅡB層
1633	Ⅱ群	A類	ア	口径22.4cm。貼付幅約1.2cm。貼付による肥厚口縁で方形状を呈す。指オサエ。カヤウチバンタ式。	P地区　L11-ⅡC層
1634	Ⅱ群	A類	ア	口径24.1cm。貼付幅約1.6cm。貼付による肥厚口縁で側面に面をもつ。カヤウチバンタ式？	P地区　N12-ⅡC層
1635	Ⅱ群	B1類	ア	口径17.4cm。貼付幅約0.6cmとやや小さい。貼付による肥厚口縁で方形状を呈す。カヤウチバンタ式。	P地区　西端Ⅱ層
1636	Ⅱ群	B2類	イ	口径18.4cm。口唇は面をもち微弱な肥厚をなす。	P地区　ⅡB層
1637	Ⅱ群	B3類	イ	口径18.4cm。貼付による肥厚口縁。口唇は若干丸みをおびるが面をなす。外面は工具調整明瞭(刷毛目)。	P地区　N12-ⅡC層
1638	Ⅱ群	B2類	ア	口径18.2cm。貼付による肥厚口縁。口唇は面をなす。外面の工具調整明瞭(木口残る)。	P地区　O17-ⅡC層
1639	Ⅱ群	B3類	ア	口径18.9cm。貼付による肥厚口縁。口唇は面をなし幅広い。外面への工具調整明瞭(木口残る)。	P地区　ⅡC層
1640	Ⅱ群	B1類	ア	口径19.3cm。貼付による肥厚口縁。口唇は面をもち幅広い。肥厚部側面にも面をなす。工具調整明瞭。	P地区　Ⅱ層
1641	Ⅱ群	B2類	ア	口径19.5cm。貼付による肥厚口縁。肥厚部側面は面をなす。肥厚部直下には凹部が巡る。カヤウチバンタ？	P地区　O14-ⅡC層
1642	Ⅱ群	B1類	ア	口径22.2cm。貼付による肥厚口縁。口唇は面をもち幅広い。指オサエ明瞭。	P地区　ⅡC層
1643	Ⅱ群	B2類？	ア？	口唇は舌状をなして極微弱な肥厚をなす。指オサエ。	P地区　O12-ⅡC層
1644	Ⅱ群	B2類	ア	口縁は僅かに外反。口唇は面を意識し極微弱な肥厚をなす。指オサエ。	P地区　Ⅱ層
1645	Ⅱ群	B3類	イ	貼付による肥厚口縁。口唇は面を意識するが丸みをおびる。外面は丁寧な工具調整。	P地区　O14-ⅡC層
1646	Ⅱ群	B1類	ア	口径は10.2cmと小型。貼付による肥厚口縁。口唇は面をなして幅広い。外面への工具調整明瞭(木口残る)。	P地区　Ⅱ層
1647	Ⅱ群	B2類	ア	口径は12.1cmと小型。貼付による肥厚口縁。口唇は面をなす。外面に指オサエ明瞭。	P地区　L10-ⅡC層
1648	Ⅱ群	B3類	ア	口径は12.8cmと小型。貼付による肥厚口縁。口唇は面をなし側面にも面を有する。指オサエ。	P地区　Ⅱ層
1649	Ⅱ群	B4類	イ	口径は12.8cmと小型。貼付による肥厚口縁。口唇は面をなす。外面に指オサエ。	P地区　Ⅱ層
1650	Ⅱ群	B1類	イ	口径は21.9cm。貼付による肥厚口縁。口唇は面をなしやや幅広い。	P地区　ⅡC層
1651	Ⅱ群	B1類	イ	口径は24.5cm。貼付による肥厚口縁。口唇は面をなし幅広い。指オサエ	P地区　O15-Ⅱ層
1652	Ⅱ群	B1類	イ？	口径は25.2cm。貼付による肥厚口縁。口唇は面をなし幅広く側面にも一部工具調整を行う。木口明瞭にのこる。	P地区　O16-ⅡC層
1653	Ⅱ群	B1類	ア	口径は26.2cm。貼付による肥厚口縁。口唇は面をなし幅広い。肥厚部側面にも面をもつ。指オサエ。工具調整。	P地区　O14-ⅡC層
1654	Ⅱ群	B1類	ア	貼付により肥厚口縁。口唇は面をなし幅広い。また側面にも工具調整を行い面をなす。指オサエ	P地区　ⅡC層
1655	Ⅱ群	B1類	ア	貼付による肥厚口縁。口唇は面をなし幅広い。また側面にも工具調整を行い面をなす。	P地区　Ⅱ層
1656	Ⅱ群	B1類	ア	貼付による肥厚口縁。口唇は面をなし幅広い。側面は工具調整により面をなす。指オサエ。	P地区　Ⅱ層
1657	Ⅱ群	B2類	イ	口唇は面をなし微弱な肥厚をなす。側面にも工具調整を行い面をなす。指オサエ。	P地区　Ⅱ層
1658	Ⅱ群	B2類	イ	貼付による肥厚口縁。口唇は面を意識するが丸みをおびる。側面は工具調整により面をなす。	P地区　Ⅱ層
1659	Ⅱ群	B2類	イ	口唇は面をなして微弱な肥厚をなす。外面には工具調整。	不明
1660	Ⅱ群	B1類	ア	貼付により微弱な肥厚をなす。口唇は面をなす。	P地区　M20-ⅡC層
1661	Ⅱ群	B1類	ア	貼付による肥厚口縁。口唇は面をなす。指オサエ。	P地区　Ⅱ層
1662	Ⅱ群	B1類	イ	貼付による肥厚口縁。口唇は面をなし側面も面をもつ。	P地区　O14-ⅡC層
1663	Ⅱ群	B3類	イ	貼付による肥厚口縁。口唇は意識するが指オサエ残る側面にも指オサエ明瞭。	P地区　Ⅱ層
1664	Ⅱ群	B1類	イ	貼付による肥厚口縁。口唇はやや丸みをおびる。指オサエ。	P地区　不明
1665	Ⅱ群	B3類	イ	口唇は面をなし微弱な肥厚をなす。側面も工具調整により面をなす。	P地区　O14-ⅡC層
1666	Ⅱ群	B1類	ア	口唇は面をなし肥厚をする。工具調整明瞭。	P地区　西端Ⅱ層
1667	Ⅱ群	B2類	イ	口唇はやや丸みをおびて肥厚する。指オサエ明瞭。	P地区　O14-ⅡC層
1668	Ⅱ群	B1類	イ	口径12.4cm。貼付による肥厚口縁。口唇は面をもち三角形状を呈す。指オサエ。	P地区　Ⅱ層
1669	Ⅱ群	B1類	イ	口径13.4cm。貼付による肥厚口縁。口唇は面をもつ。指オサエ明瞭。	P地区　Ⅱ層
1670	Ⅱ群	B2類	イ	口径14.0cm。貼付を行うが極微弱な肥厚。口唇は面をもつ。指オサエ明瞭。調整は粗い。	P地区　O14-ⅡC層
1671	Ⅱ群	B2類	イ	口径14.3cm。口唇は面をもち微弱な肥厚をなす。指オサエ明瞭。	P地区　ⅡC層
1672	Ⅱ群	B2類	ア	口径14.6cm。極微弱な貼付を行う肥厚口縁。口唇は面をもつ。指オサエ。石灰岩粒を密に含む。	P地区　ⅡC層
1673	Ⅱ群	B4類	イ	口径15.9cm。貼付による肥厚口縁。口唇は面をもつ。指オサエ横位の指ナデ。粘板岩は極僅か。	P地区　O12-ⅡC層
1674	Ⅱ群	B2類	ア	口径17.8cm。貼付による肥厚口縁。指オサエ。石灰岩粒を密に含む。	P地区　O16-ⅡC層
1675	Ⅱ群	B2類	イ	口径16.3cm。口唇は面を意識するが丸みをおび微弱な肥厚をなす。指オサエ。	P地区　ⅡB層
1676	Ⅱ群	B2類	イ	口径16.8cm。口唇は面をなし微弱な肥厚をなす。指オサエ。粘板岩は極僅かで粗い石灰岩粒や石英が顕著。	P地区　Ⅱ層
1677	Ⅱ群	B2類	イ	口径17.1cm。貼付による肥厚口縁。口唇は面をなす。粘板岩が極僅かで粗い石灰岩粒や石英が顕著。	P地区　O14-ⅡC層
1678	Ⅱ群	B2類	ア	口径16.8cm。貼付による微弱な肥厚口縁。口唇は面をもつ。石灰岩礫を密に含む。	P地区　O15-Ⅱ層
1679	Ⅱ群	B2類	イ	口径17.8cm。極微弱な貼付による肥厚口縁。口唇部は丸みをおびる。指ナデヘラ状工具による調整明瞭。	P地区　Ⅱ層
1680	Ⅱ群	B2類	イ	口径19.1cm。貼付による肥厚口縁。口縁は三角形状を呈す。指オサエ。混入の礫大きい。	P地区　ⅡC層
1681	Ⅱ群	B3類	ア	口径19.9cm。貼付による肥厚口縁。一部側面に面をもつが丸みを帯びた三角形状を呈す。刷毛目調整明瞭。	P地区　東Ⅳ層
1682	Ⅱ群	B3類	イ	口径20.0cm。貼付による肥厚口縁。口唇は面をもつ。調整丁寧。混入の礫は大きい。	P地区　Ⅱ層
1683	Ⅱ群	B2類	イ	口縁は外反する。口唇は面をなし微弱な肥厚をなす。側面も工具調整により面をなす。	P地区　ⅡC層
1684	Ⅱ群	B2類	ア	貼付による肥厚口縁。口唇は面をなし三角形状を呈す。側面への工具調整明瞭で一部面をもつ。	P地区　O16-ⅡC層
1685	Ⅱ群	B2類	ア	貼付による極微弱な肥厚口縁。口唇は面をもつ。外面への工具調整明瞭で一部面をなす。石灰岩粒を密に含む。	P地区　O14－ⅡC層
1686	Ⅱ群	B2類	イ	口唇は面を意識し微弱な肥厚をなす。指オサエ。混入の礫大きい。	P地区　L11－ⅡC層
1687	Ⅱ群	B2類	ア	口唇は面をなし肥厚する。側面は工具調整により面をもつ指オサエ。	P地区　O14－ⅡC層
1688	Ⅱ群	B2類	ア	口唇は面をもつ微弱な肥厚をなす。	P地区　L11－ⅡC層
1689	Ⅱ群	B2類	イ	口唇は面をなして肥厚する。側面に工具調整。指オサエ。	P地区　O14－ⅡC層
1690	Ⅱ群	B2類	イ	口唇は面をなして微弱な肥厚をなす。指オサエ明瞭。	P地区　O17－ⅡC層
1691	Ⅱ群	B2類	ア	口唇は面をなして微弱な肥厚をなす。	P地区　N11－ⅡC層
1692	Ⅱ群	B3類	イ	口唇は面をなして微弱な肥厚をなす。口縁は僅かに外反する。器面調整丁寧。指オサエ。	P地区　Ⅱ層
1693	Ⅱ群	B2類	イ・エ	口径16.1cm。口縁を屈曲させる。口唇は丸みをおびて微弱な肥厚をなす。微細な金雲母混入。	P地区　Ⅱ層
1694	Ⅱ群	B2類	イ・エ	口径19.1cm。口縁を外反。口唇は丸みをおびて微弱な肥厚をなす指オサエ。微細な金雲母混入。	P地区　O14－ⅡC層
1695	Ⅱ群	B2類	ア	口径22.1cm。口唇は面をなして微弱な肥厚をなす。口唇などに指オサエ明瞭。石灰岩礫などを密に含む。	P地区　Ⅱ層
1696	Ⅱ群	B2類	ア	口径24.9cm。口縁を大きく屈曲。口唇は面をなして微弱な肥厚をなす。石灰岩礫などを密に含む。	P地区　Ⅱ層
1697	Ⅱ群	B3類	ア	口径26.6cm。口縁を屈曲。口唇は丸みをおびて微弱な肥厚をなす。指オサエ。石灰岩礫などを密に含む	P地区　O16－ⅡC層
1698	Ⅱ群	B2類	イ	口径18.4cm。口縁を屈曲。口唇は面をなして微弱な肥厚をなす。指オサエ。	P地区　Ⅱ層
1699	Ⅱ群	B2類	ア	口径17.4cm。口唇は面をなして微弱な肥厚をなす。指オサエ。刷毛目調整明瞭。	P地区　O－18ⅡC層
1700	Ⅱ群	B3類？	イ	口縁は外反する。口唇は面をなして微弱な肥厚をなす。指オサエ。	P地区　ⅡB層
1701	Ⅱ群	B2類	ア	口縁は外反する。口唇は面をなして微弱な肥厚をなす。指オサエ。	P地区　M20－ⅡC層
1702	Ⅱ群	B2類	ア	口唇は面をなして微弱な肥厚をなす。側面に工具調整。指オサエ。	P地区　O11－ⅡC層
1703	Ⅱ群	B3類？	イ	口縁を屈曲させる。口唇は面を意識しており微弱な肥厚をなす。指オサエ明瞭。	P地区　O14－ⅡC層
1704	Ⅱ群	B3類？	イ	口唇は面をなして微弱な肥厚をなす。側面に工具調整を行い面をもつ。指オサエ。粘板岩は少量。	P地区　ⅡB層
1705	Ⅱ群	B2類？	ア	口唇は面をもち肥厚する。	P地区　N－17ⅡC層
1706	Ⅱ群	B2類	イ	口縁を屈曲させる。口唇は面をもち微弱な肥厚をなす。指オサエ明瞭。	P地区　ⅡB層
1707	Ⅱ群	B2類	イ	口唇は面を意識するが丸みをおび微弱な肥厚をなす。指オサエ。	P地区　O14－ⅡC層
1708	Ⅱ群	B2類	ア	口縁は外反する。口唇は面をなして微弱な肥厚をなす。口唇直下に横位の指ナデ。石灰岩礫を密に含む。	P地区　西端Ⅱ層
1709	Ⅱ群	B2類	ア	口唇は僅かに面をもつがほぼ無肥厚に近い。指オサエ。	P地区　M20－ⅡC層
1710	Ⅱ群	B2類	イ・エ	口唇は面を意識し微弱な肥厚をなす。指オサエの後横位の刷毛調整。微細な金雲母を含む。	P地区　ⅡB層
1711	Ⅱ群	B2類	イ	口唇は面をなして微弱な肥厚をなす。口唇直下の指ナデ明瞭。	P地区　O14－ⅡC層
1712	Ⅱ群	B2類	イ	口唇は面を意識するが丸みをおび微弱な肥厚をなす。指オサエ明瞭。混入物粗い。	P地区　ⅡC層
1713	Ⅱ群	B2類	イ	口唇は丸みをおびて微弱な肥厚をなす。指オサエ。石英も含む。	P地区　ⅡC層
1714	Ⅱ群	B2類	イ	口唇が丸みをおび微弱な肥厚。横位の指ナデ。	P地区　O14－ⅡC層
1715	Ⅱ群	壺1	イ	口径は7.6cm。口唇は面を意識するが丸みをおびる。微弱な肥厚。ユビオサエ。	P地区　L11－ⅡC層
1716	Ⅱ群	壺2	エ	口径11.3cm。口縁を外反させる。口唇は面を意識する。金雲母を僅かに含む。	P地区　Ⅱ層
1717	Ⅱ群	壺1	ア	口径11.3cm。口唇は面をもち微弱な肥厚。横位の刷毛調整明瞭で外面全体に認められる。	P地区　ⅡC層

第２表(19)　土器観察表

番号	土器分類		混入物	特徴	出土地
1718	Ⅱ群	B2類	ア	口径14.3㎝。口唇は舌状を呈する。口唇直下に指オサエ。	P地区　ⅡC層
1719	Ⅱ群	B2類	ア	口径15.4㎝。口唇は面をもち微弱な肥厚をなす。指オサエの後工具調整(木口残る)。	P地区　Ⅱ層
1720	Ⅱ群	B3類	ア	口径13.7㎝。口唇は面をもち微弱な肥厚をなす。口唇直下に横位の指ナデ明瞭。	P地区　O18－ⅡC層
1721	Ⅱ群	B2類	ア	口径15.0㎝。口唇は面をもち微弱な肥厚をなす。口唇直下に横位の指ナデ明瞭。	P地区　O17－ⅡC層
1722	Ⅱ群	B2類	イ	口径14.8㎝。口唇は面を意識し微弱な肥厚をなす。側面に工具調整を行い面をもつ。粘板岩は少量。	P地区　Ⅱ層
1723	Ⅱ群	B2類	ア	口径14.2㎝。口唇は面を意識するが丸みをおび微弱な肥厚をなす。指オサエ。	P地区　Ⅱ層
1724	Ⅱ群	B4類	ア	口径15.2cm。口縁は強い外反。口唇は丸みをおびる。指オサエ。	P地区　Ⅱ層
1725	Ⅱ群	B4類	ア	口径17.8㎝。口唇は面をもち微弱な肥厚。。口唇直下に木口が明瞭に残る。	P地区　K10－ⅡC層
1726	Ⅱ群	B4類	イ	口径17.8㎝。口唇は面をなして微弱な肥厚をなす。指オサエ明瞭。	P地区　Ⅱ層
1727	Ⅱ群	B4類	イ	口径18.6㎝。口唇は面をなし微弱な肥厚をなす。指オサエ明瞭。	P地区　Ⅱ層
1728	Ⅱ群	B2類	ア	口径16.4㎝。口唇は面をなす微弱な肥厚をなす。指オサエ。	P地区　ⅡC層
1729	Ⅱ群	A類	ア	口径14.9㎝。肥厚部は方形状を呈し側面幅は0.7㎝。横位の刷毛目調整明瞭。カヤウチバンタ式。	P地区　Ⅱ層
1730	Ⅱ群	B2類	イ	口径21.4㎝。口縁は屈曲。口唇は丸みを帯び舌状を呈する。直下に横位の刷毛目調整。	P地区　Ⅱ層
1731	Ⅱ群	B3類	ア	口径24.4㎝。口唇は面をもち微弱な肥厚。指オサエ刷毛目調整。	P地区　Ⅱ層
1732	Ⅱ群	B3類？	ウ？	口径23.6㎝。口唇は面をもち微弱な肥厚。胴部の張りが口縁近くにある(中原式?)。裏面の粘土帯明瞭に残る。	P地区　Ⅱ層
1733	Ⅱ群	B1類	ア	口唇は面をもち肥厚する。側面への工具調整？指オサエ。石灰岩礫を密に含む。	P地区　西端Ⅱ層
1734	Ⅱ群	B2類	イ	口縁は外反する。口唇は面をもち微弱な肥厚。側面に工具調整をい行い面をもつ。指オサエ。	P地区　ⅡC層
1735	Ⅱ群	B2類	イ	口唇は面をもち微弱な肥厚。口唇上部に指ナデが回り側面は工具調整で面をもつ。指オサエ。	P地区　O14－ⅡC層
1736	Ⅱ群	B2類	イ	口唇は面をもち微弱な肥厚。指オサエ口唇直下に横位の指ナデ。	P地区　Ⅱ層
1737	Ⅱ群	B2類	イ	口唇は面を意識するが丸みをおび微弱な肥厚をなす。指オサエ明瞭。粘板岩大きい。	P地区　Ⅱ層
1738	Ⅱ群	B2類	イ	口唇は面を意識するが僅かに丸みをおび微弱な肥厚をなす。指オサエ。	P地区　ⅡC層
1739	Ⅱ群	B2類	ア	口唇は面をもち微弱な肥厚。横位の刷毛目調整明瞭。暗褐色の胎土をなしⅠ群に類似する胎土。	P地区　Ⅱ層
1740	Ⅱ群	B3類	イ	口唇は丸みをおび微弱な肥厚をなす。側面一部に工具調整(木口残る)。指オサエ。	P地区　O17－ⅡC層
1741	Ⅱ群	B1類	ア	口唇は面を意識するが丸みをおび微弱な肥厚。口唇直下に指ナデ。	P地区　Ⅱ層
1742	Ⅲ群	宇宿上層？	エ？	口縁部は三角形状の肥厚。口唇直下に木口痕残る。胎土は暗褐色を呈する。宇宿上層式か？	P地区　ⅡC層
1743	Ⅲ群	宇宿上層	エ	貼付による肥厚口縁。口唇は丸みをおびるが三角形状を呈する。指オサエ。金雲母含む。宇宿上層式か？	P地区　不明
1744	Ⅲ群	宇宿上層？	エ？	貼付による肥厚口縁。口唇は丸みをおびるが三角形状を呈する。指オサエ。	P地区　Ⅱ層
1745	Ⅲ群	宇宿上層	エ	口縁は屈曲する。貼付による肥厚口縁。口唇は丸みをおびるが側面の一部は工具による面をもつ。木口。金雲母含む	P地区　ⅡC層
1746	Ⅱ群	B1類？	イ	口唇は面を意識するが一部指オサエが残る。無肥厚。指オサエ明瞭。粘板岩極僅かに含む。	P地区　O9－ⅡC層
1747	Ⅱ群	B2類	ア	口唇は丸みをおび微弱な肥厚。指オサエ木口明瞭。	P地区　Ⅱ層
1748	Ⅱ群	B2類	イ	口唇は面をもち微弱な肥厚。指オサエ明瞭。	P地区　N17－ⅡC層
1749	Ⅱ群	B2類	イ？	口唇は面をもち微弱な肥厚。口唇上部直下に木口明瞭。	P地区　M20－ⅡC層
1750	Ⅱ群	B2類	ア	口唇は面を意識するが丸みをおびる。極めて微弱な肥厚。側面に工具調整？	P地区　O16ⅡC層
1751	Ⅱ群	B3類	ア	口径19.2㎝。口唇は丸みを帯び肥厚する。口唇直下に木口明瞭。	P地区　O15
1752	Ⅱ群？	B2・3類	ア？	胴部。縦2.7横1.2㎝の耳型取っ手をつける。指オサエ工具調整明瞭。粘板岩は認められない。	P地区　Ⅱ層
1753	Ⅱ群	B2類	ア	口縁は屈曲する。口唇は工具調整により三角状を呈する部分と丸みをおびる部分がある。指オサエ。	P地区　MO9－ⅡC層
1754	Ⅱ群	B2類	イ	口径13.9㎝。口唇は丸みをおび微弱な肥厚をなす。指オサエ。混入物の礫大きい。	P地区　Ⅱ層
1755	Ⅱ群	B2類	ア	口径14.3㎝。口唇は水平面をもち微弱な肥厚をなす。指オサエ。	P地区　不明
1756	Ⅱ群	B3類	ア？	口径14.2㎝。口唇は面をもち極めて微弱な肥厚。口唇直下に横位の刷毛目調整胴部は斜位横位の刷毛目調整。	P地区　O－18ⅡC層
1757	Ⅱ群	B1類	ア？	口径19.0㎝。貼付による肥厚口縁。口唇は丸みを帯び幅広。口唇直下に横位の刷毛目調整。指オサエ。	P地区　ⅡC層
1758	Ⅱ群	B2類	イ・エ	口径17.6㎝。口唇を折り曲げ幅広の肥厚口縁を意識する。指オサエ。微細な金雲母を含む。	P地区　Ⅱ層
1759	Ⅱ群	B1類orB2類	イ	口径16.8㎝。口縁は外反する。口唇は丸みをおびる。指オサエ。	P地区　ⅡB層
1760	Ⅱ群	B1類	ア	口径18.6㎝。口唇は水平面をもつが無肥厚口縁。指オサエ横位の刷毛目調整明瞭。石灰岩礫を密に含む。	P地区　N11－ⅡC層
1761	Ⅱ群	壺1	ア	口径11.4㎝。貼付による肥厚口縁・口唇は面をもち丸みをおびて三角形状を呈す。石灰岩礫を密に含む。	P地区　Ⅱ層
1762	Ⅱ群	壺1	エ	口径12.1㎝。口唇は面をもち微弱な肥厚をなす。金雲母を含む。	P地区　O13－ⅡC層
1763	Ⅱ群	壺1	イ	口径11.9㎝。口唇は面をもち丸みをおびて微弱な肥厚をなす。	P地区　O15－ⅡC層
1764	Ⅱ群	壺1	エ	口径13.6㎝。貼付による肥厚口縁。口唇は面をもち側面も工具調整によって面をもつ。指オサエ。金雲母を含む。	P地区　ⅡB層
1765	Ⅱ群	B3類	イ	口径15.9㎝。口唇は面をもち微弱な肥厚をなす。指オサエ。粘板岩少量。	P地区　N12－ⅡC層
1766	Ⅱ群	B3類	エ	口径18.4㎝。貼付による肥厚口縁。丸みを帯びるが三角形状を呈する。金雲母を含む。宇宿上層式か？	P地区　O16－ⅡC層
1767	Ⅱ群	B3類	イ	口径18.2㎝。貼付による肥厚口縁で三角形状を呈する。外面には指オサエと工具調整。	P地区　ⅡC層
1768	Ⅱ群	B3類	イ	口径18.5㎝。口唇は丸みをおび微弱な肥厚をなす。口唇直下には指オサエと指ナデ。	P地区　ⅡC層
1769	Ⅱ群	B3類	イ	口径20.2㎝。口唇は面をもち微弱な肥厚をなす。側面の調整は不十分で指オサエが明瞭。	P地区　O14－ⅡC層
1770	Ⅱ群	B2類	イ	口径24.0㎝。口唇は面をもち微弱な肥厚を呈し丸みをおびた三角形状を呈す。指オサエ。	P地区　O14－ⅡC層
1771	Ⅱ群	B2類	ア	口径15.4㎝。口唇は丸みをおび微弱な肥厚をなす。一部工具調整がみられる。石灰岩礫を密に含む。	P地区　不明
1772	Ⅱ群	B2類	エ	口径15.2cm。口唇は面をもち微弱な肥厚をなす。口唇直下に工具調整明瞭。微細な金雲母を含む。	P地区　Ⅱ層
1773	Ⅱ群	B3類	エ	口径15.1㎝。貼付による肥厚口縁。口唇は面をもつ側面も工具調整によって面をもつ。金雲母含む。宇宿上層式か？	P地区　Ⅱ層
1774	Ⅱ群	B2類	エ	口径16.1㎝。口唇は丸みをおびて肥厚をなす。口唇直下に指オサエ工具調整。金雲母含む。宇宿上層式か？	P地区　O12－ⅡC層
1775	Ⅱ群	B2類	イ	口径16.8㎝。口唇は面を意識するが丸みをおびて側面幅広の微弱な肥厚。指オサエ。	P地区　Ⅱ層
1776	Ⅱ群	B2類	イ	貼付による肥厚口縁。口唇は面をもち三角形状をなす。口唇直下に指オサエ横位の工具調整。	P地区　ⅡB層
1777	Ⅱ群	B3類	イ	貼付による肥厚口縁。口唇は面をもち三角形状を呈す。口唇直下に指オサエ横位の工具調整。	P地区　O14－ⅡC層
1778	Ⅱ群	B2類	イ	貼付による肥厚口縁。口縁部は外反する。口唇は面を意識し三角形状を呈する。横位の工具調整。	P地区　Ⅱ層
1779	Ⅱ群	C類	イ	貼付による肥厚口縁。口唇は面をもち三角形状を呈す。口縁部内面に指オサエ明瞭。	P地区　O14－ⅡC層
1780	Ⅲ群	宇宿上層	エ	貼付による肥厚口縁。口縁はカマボコ状を呈す。金雲母を密に含む。	P地区　Ⅱ層
1781	Ⅱ群	C類	イ	貼付による肥厚口縁。口縁は丸みをおびた三角形を呈す。宇佐浜式。	P地区　Ⅱ層
1782	Ⅱ群	C類	イ	貼付による肥厚口縁。口縁は三角形を呈す。肥厚部への工具調整明瞭で木口が残る。宇佐浜式。	P地区　O15－Ⅱ層
1783	Ⅱ群	C類	イ	貼付による肥厚口縁。口縁は丸みをおびた三角形を呈す。指オサエ。宇佐浜式。	P地区　Ⅱ層
1784	Ⅱ群	C類	イ	貼付による肥厚口縁(肥厚はやや微弱)。口縁の断面形態は三角形を呈す。宇佐浜式。	P地区　Ⅱ層
1785	Ⅱ群	C類	イ	貼付による肥厚口縁。口縁は三角形状を呈す。肥厚部やその直下に指オサエや工具調整が明瞭に残る。宇佐浜式。	P地区　O14－ⅡC層
1786	Ⅱ群	B2類	イ	貼付による肥厚口縁。口縁は丸みをおびた三角状を呈す。指オサエ横位の工具調整。	P地区　ⅡC層
1787	Ⅱ群	B2類	イ	貼付による肥厚口縁。口縁は丸みをおびる。指オサエ一部に横位の工具調整。	P地区　ⅡB層
1788	Ⅱ群	C類	イ	貼付による肥厚口縁。肥厚部は帯状を呈し肥厚部幅は約1.4㎝。指オサエ明瞭に残る。カヤウチバンタ式の範疇か？	P地区　Ⅱ層
1789	Ⅱ群	C類	イ	口唇は面をもつが無肥厚である。指オサエ明瞭に残る。	P地区　O13－ⅡC層
1790	Ⅱ群	C類	イ	口唇は面をもつが無肥厚である。口縁部への指オサエによって三角形を意識する。	P地区　O14－ⅡC層
1791	Ⅱ群	C類	ア	貼付による肥厚口縁。口縁は三角形状を呈す。指オサエ工具調整。宇佐浜式。	P地区　O16－ⅡC層
1792	Ⅱ群	B2類	イ	貼付による肥厚口縁(微弱)。口縁部は丸みをおびる。指オサエ。	P地区　ⅡC層
1793	Ⅱ群	C類	ア	貼付による肥厚口縁。口縁は三角形状を呈す。工具調整木口明瞭に残る。宇佐浜式。	P地区　MO9－ⅡC層
1794	Ⅱ群	B2類	イ	口唇は丸みをおびて微弱に肥厚する。指オサエ横位の工具調整。	P地区　ⅡB層
1795	Ⅱ群	B2類	イ	口唇は微弱な肥厚をなす。指オサエ。	P地区　N－17ⅡC層
1796	Ⅱ群	C類？	イ	口唇は面をもち微弱な肥厚をなして三角状を呈す。指オサエ横位の工具調整。	P地区　Ⅱ層
1797	Ⅱ群	C類	エ	貼付による肥厚口縁。口縁は三角形状を呈す。指オサエ横位の工具調整。金雲母を極少量含む。	P地区　O14－ⅡC層
1798	Ⅱ群	C類	イ	口縁部は微弱な肥厚をなし三角形状を呈する。指オサエ。	P地区　ⅡC層
1799	Ⅱ群	C類	イ	貼付による肥厚口縁。口縁部は微弱な肥厚をなし三角形状を呈する。指オサエ横位の工具調整。	P地区　Ⅱ層
1800	Ⅱ群	C類	イ	貼付による肥厚口縁。貼付部分には指オサエ明瞭。宇佐浜式。	P地区　L11－ⅡC層
1801	Ⅱ群	台状の底部	イ	特殊な底部である。外底は内底面よりも非常に広く台状を呈する。	P地区　ⅡC層
1802	Ⅱ群	底部b	イ	底径約4.0㎝。外底内底ともに丸みをおびて立ち上がる。内定立ち上がり部分に指オサエが回る。	P地区　ⅡC層
1803	Ⅱ群	底部b	イ	外底内底ともに丸みをおびて立ち上がる。指オサエ。	P地区　ⅡC層
1804	Ⅱ群	底部a？	ア	外底は立ち上がりが明瞭。内底は丸みをおびる。指オサエ。	P地区　L11－ⅡC層
1805	Ⅱ群	底部b	イ	外底の立ち上がりは明瞭でやや鈍角。内底は丸みをおびる。指オサエ。	P地区　O14－ⅡC層
1806	Ⅱ群	底部b	イ	底径約2.6㎝。外底の立ち上がりはやや丸みをおび内底も丸みをおびる。内底立ち上がり部分に指オサエ明瞭。	P地区　O9－ⅡC層
1807	Ⅱ群	底部a？	ア	底径約5.4㎝と広い。立ち上がり部分は欠損。内底立ち上がり部分に指オサエが回り中心部が凸。	P地区　不明
1808	Ⅱ群	底部c	ア	外底面への粘土がはずれる。外底立ち上がり部分はやや丸みをおびる。立ち上がりは比較的鋭角。	P地区　O14－ⅡC層
1809	Ⅱ群	底部a	ア	外底の立ち上がりは明瞭。内底はやや丸みをおびる。指オサエ。	P地区　ⅡC層
1810	Ⅱ群	底部a？	ア	外底の立ち上がりは丸みをおびるものの比較的鋭角。内底も丸みをおびる。石灰岩砂礫を密に含む胎土。	P地区　Ⅱ層
1811	Ⅱ群	底部b	イ	底径約3.4㎝。外底内底ともに立ち上がりは丸みをおびる。指オサエ。	P地区　O14－ⅡC層
1812	Ⅱ群	底部b	イ	底径約5.0㎝。外底・内底ともに立ち上がりは丸みをおびる。内底は指オサエ指ナデが回り。中心部が凸。	P地区　ⅡB層
1813	Ⅱ群	底部b	イ	外底・内底ともに立ち上がりは丸みをおびる。指オサエ。	P地区　O14－ⅡC層

第２表(20)　土器観察表

番号	土器分類		混入物	特徴	出土地
1814	Ⅱ群	底部a	ア	外底内底とも立ち上がりは明瞭。内底は中心部が凸。	P地区　L11－ⅡC層
1815	Ⅱ群	底部a？	ア	外底の立ち上がりは明瞭。内底立ち上がりはやや丸みをおびる。指オサエ。	P地区　N12－ⅡC層
1816	Ⅱ群	底部b	イ	底径約1.8cm。外底・内底ともに立ち上がりは丸みをおびる。指オサエ。	P地区　Ⅱ層
1817	Ⅱ群	底部a？	ア	外底の立ち上がりはやや丸みをおびる。内底の立ち上がりは明瞭。指オサエ。	P地区　ⅡC層
1818	Ⅱ群	底部a？	ア	外底内定ともに立ち上がりはやや丸みをおびる。	P地区　西端Ⅱ層
1819	Ⅱ群	底部a	ア	外底内底ともに立ち上がりは明瞭。底厚は比較的薄い。	P地区　O13－ⅡC層
1820	Ⅰ群	底部a	-	外底内底ともに立ち上がりが明瞭。内定には指オサエ明瞭。	P地区　Ⅱ層
1821	Ⅱ群	底部a	ア	底径約6.0cm。外底内底ともに立ち上がりは明瞭。指オサエ。混入物の礫は比較的大きい。	P地区　不明
1822	Ⅱ群	底部a？	ア	外底内底ともに立ち上がりは丸みをおびる。	P地区　ⅡC層
1823	Ⅱ群	底部b	イ	外底立ち上がりは丸みをおび内底の立ち上がりは不明瞭。指オサエ。	P地区　Ⅱ層
1824	Ⅱ群	底部a？	ア	底径約5.8cm。外底の立ち上がりはやや丸みをおび内底は不明瞭。	P地区　ⅡC層
1825	Ⅱ群	底部a・b	ア	外底内底ともに立ち上がりは丸みをおびる。立ち上がりは鋭角。。刷毛目調整残る。	P地区　O17－ⅡC層
1826	Ⅱ群	底部b	ア	外底立ち上がりは丸みをおびる。ほぼ外底面の部分のみ残る。	P地区　Ⅱ層
1827	Ⅱ群	底部a？	ア	外底内底ともに立ち上がりは丸みをおびるが鋭角。底厚器壁は薄い。	P地区　ⅡC層
1828	Ⅱ群	底部a	ア	外底の立ち上がりは明瞭。内底は比較的丸みをおびる。石灰岩砂礫を密に含む。	P地区　ⅡC層
1829	Ⅱ群	底部a？	イ	底径6.2cm。外底立ち上がりはやや丸みをおびる。内底は不明瞭。指オサエ。	P地区　Ⅱ層
1830	Ⅱ群	底部b	イ	外底内底ともに丸みをおびる。指オサエ。	P地区　O14－ⅡC層
1831	Ⅱ群	底部a？	ア	外底内底ともに丸みをおびる。指オサエ。	P地区　L17－ⅡC層
1832	Ⅱ群	底部b	ア	外底の立ち上がり明瞭であるが比較的鋭角。内定は丸みをおびる。指オサエ。	P地区　L11－ⅡC層
1833	Ⅱ群	底部b	イ	外底内底ともに立ち上がりは丸みをおびる。指オサエ。	P地区　N17－ⅡC層
1834	Ⅰ群	底部a	-	底径5.4cm。外底の立ち上がり明瞭。内底は丸みをおびる。指オサエ。	P地区　Ⅱ層
1835	Ⅱ群	底部b	ア	外底内底ともに丸みをおびる。指オサエ。	P地区　O21－ⅡC層
1836	Ⅰ群	底部a	-	立ち上がり部分は大部分が欠損するが鈍角である。内底には。調整(指ナデ？)によって隆起がある。	P地区　ⅡC層
1837	Ⅱ群	底部b	イ	外底の立ち上がりは明瞭であるが比較的鋭角。内底は丸みをおびる。指オサエ。	P地区　L10－ⅡC層
1838	Ⅱ群	底部b	イ	外底内底ともに立ち上がりは丸みをおびる。指オサエ。	P地区　Ⅱ層
1839	Ⅱ群	底部b	ア	外底内底ともに立ち上がりは丸みをおびる。指オサエ。石灰岩砂礫を密に含む。	P地区　Ⅱ層
1840	Ⅱ群	底部b	ア	外底は比較的明瞭な立ち上がりで鋭角。内底は不明瞭。	P地区　Ⅱ層
1841	Ⅱ群	底部b	イ	外底の立ち上がりは丸みをおびる。内底は不明瞭で立ち上がり部分に指ナデが回る。	P地区　ⅡC層
1842	Ⅱ群	底部b	イ	外底内底ともに立ち上がりは丸みをおびる。石灰岩砂礫を密に含む。	P地区　Ⅱ層
1843	Ⅱ群	底部b	イ	外底の立ち上がりは丸みをおびる。内底は不明瞭。指オサエ。	P地区　ⅡB層
1844	Ⅱ群	底部a？	ア	外底の立ち上がりは丸みをおびるが比較的鈍角。	P地区　Ⅱ層
1845	Ⅰ群	底部a	-	外底の立ち上がり明瞭で鈍角。内底は不明瞭。指オサエ。石灰岩砂礫を密に含む。	P地区　Ⅱ層
1846	Ⅱ群	底部b	イ	外底内底の立ち上がりは丸みをおびる。工具調整か(木口?)。指オサエ。	P地区　Ⅱ層
1847	Ⅰ群	底部a・c	-	底径約6.6cm。外底の立ち上がりは明瞭で立ち上がり部分に指ナデが回る。内底は不明瞭。指オサエ。	P地区　O16－ⅡC層
1848	Ⅱ群	底部b	イ	外底は丸みをおび鈍角に立ち上がる。内底は不明瞭。	P地区　L11－ⅡC層
1849	Ⅱ群	底部b	ア	外底は丸みをおび鈍角に立ち上がと想定される。	P地区　O16－ⅡC層
1850	Ⅱ群	底部a？	ア	外底は鋭角に立ち上がると想定される。	P地区　Ⅱ層
1851	Ⅰ群	底部a	-	外底は若干丸みをおびるが鋭角に立ち上がる。内底は不明瞭。指オサエ。	P地区　O14－ⅡC層
1852	Ⅰ群	底部a	-	外底は明瞭に立ち上がり鋭角。内底の立ち上がりも比較的明瞭で指ナデが回る。	P地区　M18－Ⅱ層
1853	Ⅱ群	底部b	イ	外底は丸みをおび鋭角に立ちあがると想定される。	P地区　Ⅱ層
1854	Ⅱ群	底部b	イ	外底内底ともに丸みをおびる。指オサエ。	P地区　ⅡC層
1855	Ⅰ群	底部a	-	外底は明瞭に立ち上がり鋭角。内底の立ち上がりも明瞭。指オサエ。	P地区　ⅡC層
1856	Ⅱ群	底部b	ア	外底内底とも立ち上がりは丸みをおび鈍角。	P地区　Ⅱ層
1857	Ⅱ群	底部c	イ	丸底の底部に粘土を貼付する。くびれる。貼付面の調整はあらい。指オサエ。極少量であるが粘板岩を含む。	P地区　Ⅱ層
1858	Ⅱ群	底部b	イ	外底の立ち上がりは丸みをおびる。粘土の貼付が外底側面からおこなわれる。指オサエ。	P地区　O9－ⅡC層
1859	Ⅱ群	底部d	ア	いわゆる丸底の底部である。指オサエ。石灰岩砂礫を密に含む。	P地区　O14－ⅡC層
1860	Ⅱ群	底部d	イ	いわゆる丸底の底部である。底面が若干つぶれている。粘板岩を極少量含む。	P地区　ⅡC層
1861	Ⅰ群	底部a？	-	底面部分であるが比較的鋭角に立ち上がると想定される。石灰岩砂礫を密に含む。底部厚厚い。	P地区　ⅡC層
1862	Ⅱ群	底部c	イ	外底面に粘土を貼り付ける。尖底気味の底部形態をなす。	P地区　Ⅱ層
1863	Ⅱ群	底部b	イ	立ち上がりが非常に鈍角であり丸底と近似する底部である。内底面を回る指オサエが認められる。	P地区　Ⅱ層
1864	Ⅱ群	底部c	イ	外底面に粘土を貼り付ける。指オサエ。	P地区　Ⅱ層
1865	Ⅱ群	底部c	イ	外底面への粘土の貼り付けは微弱である。指オサエ。	P地区　ⅡC層
1866	Ⅱ群	底部b	ア	外底の立ち上がりは丸みをおびる丸底気味の底部をなす。指オサエ。	P地区　ⅡB層
1867	Ⅱ群	底部b	イ	外底の立ち上がりは丸みをおびる。底面も比較的丸い。	P地区　O12－ⅡC層
1868	Ⅱ群	底部b・d	ア	外底の立ち上がりが丸みをび底面も比較的丸い。底部bとdの中間的な底部。	P地区　ⅡB層
1869	Ⅱ群	底部a？	ア	外底から鋭角に立ち上がると想定される。指オサエ。	P地区　O12－ⅡC層
1870	Ⅱ群	底部b・d	イ	底面も丸みをおびており底部bとdの中間的な底部。	P地区　O14－ⅡC層
1871	Ⅱ群	底部c	ア	外底面に広く粘土を貼り付ける。外底は丸みをおび鈍角に立ち上がると想定される。内底は不明瞭。指オサエ。	P地区　ⅡB層
1872	Ⅱ群	底部b・d	イ	底面も丸みをおびており底部bとdの中間的な底部。	P地区　O13－ⅡC層
1873	Ⅱ群	底部b	ア	残りが非常に少なく比較的鈍角に立ち上がると想定される。	P地区　ⅡC層
1874	Ⅱ群	底部d	イ	いわゆる丸底。指オサエ。極少量であるが粘板岩を含む。	P地区　ⅡC層
1875	Ⅱ群	底部c	イ	外底面に微弱であるが粘土の貼り付けを行っている。貼付面の調整は比較的あらい。指オサエ。	P地区　Ⅱ層
1876	Ⅱ群	底部b	ア	底径はおそらく小さい。胴部へ直線的に開いている。指オサエ。	P地区　Ⅱ層
1877	Ⅱ群	底部b	イ	外底は比較的明瞭で鋭角に立ち上がる。指オサエ。	P地区　ⅡC層
1878	Ⅱ群	底部c	ア	外底面に微弱であるが粘土の貼り付けを行っている。指オサエ。	P地区　西端Ⅱ層
1879	Ⅱ群	底部d	イ	いわゆる丸底の底部。	P地区　ⅡC層
1880	Ⅱ群	底部c	イ	外底面に微弱であるが粘土の貼り付けを行う。。胴部に向かって直線的に開く。	P地区　Ⅱ層
1881	Ⅱ群	底部b	ア	外底の立ち上がりは丸みをおび直線的に広がる鈍角である。指オサエ。	P地区　ⅡB層
1882	Ⅱ群	底部c	エ	外底面に微弱であるが粘土の貼り付けを行っている。金雲母含む。	P地区　O14－ⅡC層
1883	Ⅱ群	底部c	イ	外底面に粘土の貼り付けを行っている指オサエ。	P地区　ⅡC層
1884	Ⅱ群	底部c	イ	外底面に粘土の貼り付けを行っている指オサエ。	P地区　O12－ⅡC層
1885	Ⅱ群	底部b・d	ア	外底は丸みをおびて鈍角に立ち上がる。底面も丸みをおびており底部BとDの中間的な底部。	P地区　Ⅱ層
1886	Ⅱ群	底部b	ア	内底の立ち上がりは不明瞭。指オサエ。	P地区　ⅡC層
1887	Ⅱ群	底部c	イ	外底面に粘土の貼り付けを行っている。指オサエ。調整は丁寧。	P地区　O14－ⅡC層
1888	Ⅱ群	底部b・d	ア	外底面は丸みをおびており内底には指ナデが行われる。底部bとdの中間的な底部。	P地区　ⅡC層
1889	Ⅱ群	底部c	イ	外底面に粘土の貼り付けを行う。指オサエ。	P地区　O14－ⅡC層
1890	Ⅱ群	底部c	イ	外底面に粘土を貼り付ける。指オサエ。	P地区　Ⅱ層
1891	Ⅱ群	底部b	ア	外底は丸みをおびて鋭角に立ち上がる。指オサエ。	P地区　排土
1892	Ⅱ群	底部c	ア	外底面に貼付を行う底部であるが貼付部分は欠損する。指オサエ。	P地区　MO9－ⅡC層
1893	Ⅱ群	底部c	イ	外底面に貼付を行う。指オサエ。	P地区　O14－ⅡC層
1894	Ⅱ群	底部c	ア	外底面に僅かに貼付を行う。乳房状の形態をなす。	P地区　L11－ⅡC層
1895	Ⅱ群	底部c	ア・イ	外底面に貼付を行う。乳房状の形態をなす。指オサエ。	P地区　Ⅱ層
1896	Ⅱ群	底部c	イ	外底面に貼付を行い幅広の底面をなす。指オサエ。極少量の粘板岩を含む。	P地区　Ⅱ層
1897	Ⅱ群	底部c	イ	外底面に貼付を行い幅広の底面をなす。指オサエ。	P地区　ⅡC層
1898	Ⅱ群	底部c	エ	外底面に微弱な貼付を行う。丸底状の形態をなす。指オサエ。極微量の金雲母を含む。	P地区　Ⅱ層
1899	Ⅱ群	底部a	ア	外底は明瞭な立ち上がりをなし鋭角である。内定の立ち上がりも比較的明瞭で指オサエが回る。	P地区　ⅡC層
1900	Ⅱ群	底部c	オ	外底面に微弱な貼付を行い丸底状の形態をなす。指オサエ。いわゆるポーラスの胎土。	P地区　ⅡB層
1901	Ⅱ群	底部c	イ	底径約2.8cm。外底面に微弱な貼付を行い底径は非常に小さい。	P地区　Ⅱ層
1902	Ⅱ群	底部c	イ	底径約2.4cm。外底面に微弱な貼付を行う。底径は小さく丸底に近い形状。指オサエ。	P地区　Ⅱ層
1903	Ⅱ群	底部d？	イ	いわゆる丸底状の底部。外底面がわずかにつぶれる。指オサエ。	P地区　Ⅱ層
1904	Ⅰ群	伊波	-	又状工具による短沈線文(左→右)。その下位にも同様の文様があったと想定される。	P地区　O10－Ⅳ層
1905	Ⅰ群	伊波・荻堂	-	胴部。2列の刺突文と、縦位の沈線文を配す。	P地区　N11－Ⅳ層
1906	Ⅰ群	伊波・荻堂	-	胴部。斜位の沈線文。その下位に押し引き文(左→右)。	P地区　O13－Ⅳ層
1907	Ⅰ群	伊波	-	口唇は面をなし胴部も調整により器面は平坦。又状工具による押し引き文を3列配する(左→右？)。	P地区　東Ⅳ層
1908	Ⅰ群	伊波	-	口径は11.1cm。口唇は面をもつ。沈線文を8列配する(方向不明)。裏面には刷毛目調整明瞭。	P地区　O11－Ⅳ層
1909	Ⅰ群	大山？	-	胴部。横位2列の押捺刻文(左→右)。指オサエ。	P地区　東Ⅳ層

第２表(21)　土器観察表

番号	土器分類		混入物	特徴	出土地
1910	Ⅰ群	大山？	-	ヘラ状工具による押し引き文を横位2列配する。(左→右)	P地区　東Ⅳ層
1911	Ⅰ群	大山？	-	胴部。ヘラ状工具による横位2列の刺突文(方向不明)。	P地区　O11－Ⅳ層
1912	Ⅱ群	B2類	ア	口径15.6cm。口縁部に横位1列の半裁竹管による刻文。その下位に半裁竹管による押し引き文を巡らす。	P地区　O11－Ⅳ層
1913	Ⅱ群	B2類	イ	口径18.0cm。貼付による微弱な肥厚。口唇側面とも丁寧な工具調整で面を有する。横位2列の押捺刻文(右→左)。	P地区　東Ⅳ層
1914	Ⅱ群	A類	ア	口径13.9cm。貼付による帯状の肥厚口縁。肥厚幅1.1cm。カヤウチバンタ式。	P地区　東Ⅳ層
1915	Ⅱ群	A類	ア	貼付による帯状の肥厚口縁。肥厚幅1.7cmとやや広め。肥厚部に工具調整がなされ面をもつ。カヤウチバンタ式。	P地区　東Ⅳ層
1916	Ⅱ群	A類	ア	貼付による帯状の肥厚口縁。肥厚幅1.8cmとやや広め。肥厚部直下に凹がみられる(工具調整?)。カヤウチバンタ式。	P地区　O11－Ⅳ層
1917	Ⅱ群	A類	エ	貼付による肥厚口縁。肥厚幅1.5cm。口唇が尖る。工具調整明瞭。金雲母を少量含む。カヤウチバンタ式。	P地区　O11－Ⅳ層
1918	Ⅱ群	A類	ア	口径16.4cm。貼付による肥厚口縁。肥厚部は丸みをおびが側面に面をもつ。カヤウチバンタ式？	P地区　O11－Ⅳ層
1919	Ⅱ群	B4類	イ	口径13.2cm。口唇は面をもち微弱な肥厚をなす。指オサエ工具調整。	P地区　N11－Ⅳ層
1920	Ⅱ群	A類	イ	貼付により肥厚口縁であるが極めて微弱。肥厚幅は0.8cmと口唇上部幅よりも狭い。カヤウチバンタ式？	P地区　O13－Ⅳ層
1921	Ⅱ群	A類	ア	貼付による肥厚口縁。肥厚幅1.0cm。肥厚部などに工具調整。指オサエ。カヤウチバンタ式。	P地区　O13－Ⅳ層
1922	Ⅱ群	B4類	イ	貼付による微弱な肥厚。口唇は面をもつ。指オサエ工具調整(木口残る)。	P地区　O12－Ⅳ層
1923	Ⅱ群	B4類	ア	口唇は面をもち微弱な肥厚。又状工具により横位2列の押し引き文(左→右)で文様間の凸も強調されている。	P地区　N12－ⅡC層
1924	Ⅱ群	B2類	ア	口径20.0cm。貼付による肥厚口縁。横位1列の押捺刻文(右→左)。指オサエ。	P地区　N11－Ⅳ層落ち込み
1925	Ⅱ群	C類	ア	貼付による肥厚口縁。口縁部は三角形状を呈す。肥厚部の直下に半裁竹管による押し引き文(方向不明)。宇佐浜式。	P地区　O11－Ⅳ層
1926	Ⅱ群	C類	ア	貼付による肥厚口縁。口縁部は三角形状を呈す。羽状文を配する。	P地区　O11－Ⅳ層
1927	Ⅱ群	B2類	イ	貼付による肥厚口縁。肥厚部直下にヘラ状工具による刺突文(右→左)。	P地区　O11－Ⅳ層
1928	Ⅱ群	B2類	イ	貼付による肥厚口縁。口唇部とその側面に面をもつ。肥厚部直下に刻文(工具方向不明)。	P地区　O11－Ⅳ層
1929	Ⅱ群	C類	オ	貼付による肥厚口縁。口縁部は三角状を呈す。口唇上部に刺突文(右→左)肥厚部直下より羽状文を配する。	P地区　O11－Ⅳ層
1930	Ⅱ群	B3類	イ	貼付による微弱な肥厚口縁。口唇は面を意識するが丸みをおびる。指オサエ。	P地区　O10－Ⅳ層
1931	Ⅱ群	B3類	ア	口径15.9cm。貼付による肥厚口縁。口唇部は面をもつ。肥厚部側面に工具調整を行い面をもつ。	P地区　O12－Ⅳ層
1932	Ⅱ群	B3類	イ	口径14.4cm。口唇は面をもち微弱な肥厚をなす。指オサエ。	P地区　O10－Ⅳ層
1933	Ⅱ群	B3類	ア	口径16.0cm。貼付による肥厚口縁。口唇上面が幅広い。指オサエ工具調整(木口残る)。	P地区　O11－Ⅳ層
1934	Ⅱ群	B2類	イ	口径17.6cm。口縁を屈曲させる。口唇は丸みをおびるが側面は工具調整により一部面をもつ。	P地区　N11－Ⅳ層
1935	Ⅱ群	B3類	イ	口径17.1cm。口縁を屈曲させる。口唇は水平面をもち比較的幅広い。側面も工具調整による面をもつ。	P地区　O11－Ⅳ層
1936	Ⅱ群	B3類	イ	口径19.7cm。口唇は面をもち微弱な肥厚をなす。指オサエ。	P地区　O11－Ⅳ層
1937	Ⅱ群	B2類	ア	口径20.3cm。口唇は面を意識するが丸みをおびて微弱な肥厚をなす。	P地区　O13－Ⅳ層
1938	Ⅱ群	B2類	ア	口径19.7cm。貼付による肥厚口縁で口唇上部は幅広い。口唇部に指オサエ胴部に横位の刷毛目調整明瞭に残る。	P地区　O10－Ⅳ層
1939	Ⅱ群	B2類	イ	口径21.2cm。貼付による微弱な肥厚口縁。口唇は面をもち幅広い。側面にも工具調整を行い面をもつ。指オサエ。	P地区　東Ⅳ層
1940	Ⅱ群	B2類	イ	口径21.9cm。貼付による肥厚口縁。口唇は面をもち幅広い。口唇側面に工具調整を行い面をもつ。	P地区　東Ⅳ層
1941	Ⅱ群	B3類	ア	口径22.7cm。貼付による肥厚口縁。口唇は水平面をもち幅広い。側面は工具調整明瞭で面をもつ。	P地区　O13－Ⅳ層
1942	Ⅱ群	B1類	ア	貼付による肥厚口縁。典型的なL字型の肥厚形態。口唇側面にも工具調整を行い面をもつ。	P地区　東Ⅳ層
1943	Ⅱ群	B2類	ア	貼付による肥厚口縁。口唇は面をもちやや幅広い。側面も工具調整により面をもつ。刷毛目調整明瞭。	P地区　O11－Ⅳ層
1944	Ⅱ群	B2類	ア	貼付による微弱な肥厚口縁。口唇は面を意識するが丸みをおびる。胴部は工具調整明瞭。	P地区　O11－Ⅳ層
1945	Ⅱ群	B3類	イ	口縁部は外反する。口唇は丸みをおび微弱な肥厚をなす。指オサエ工具調整残る(木口明瞭に残る)。	P地区　O10－Ⅳ層
1946	Ⅱ群	B2類	イ	貼付による微弱な肥厚口縁。口唇は面をもつ。指オサエ。	P地区　O11－Ⅳ層落ち込み
1947	Ⅱ群	B3類	ア	口唇は面をもち微弱な肥厚をなす。刷毛目調整明瞭。	P地区　OⅣB層
1948	Ⅱ群	B2類	イ	口唇は面をもち微弱な肥厚をなす。混入物粗い。	P地区　Ⅱ層
1949	Ⅱ群	B2類	イ	貼付による微弱な肥厚口縁。口唇は面をもつ。混入物粗い。	P地区　O10－Ⅳ層
1950	Ⅱ群	B3類	イ	口縁が屈曲する。口唇は丸みをおびるが側面は工具調整により面をもつ。指オサエ。	P地区　O13－Ⅳ層
1951	Ⅱ群	B2類	イ	貼付による肥厚口縁。口唇は面をもつが指オサエが明瞭にのこる。刷毛目調整明瞭。	P地区　O11－Ⅳ層
1952	Ⅱ群	B2類	イ	口唇は丸みをおび極微弱な肥厚をなす。工具調整。	P地区　O13－Ⅳ層
1953	Ⅱ群	B2類	イ	口唇は面をもち微弱な肥厚をなす。指オサエ工具調整。	P地区　OⅣB層
1954	Ⅱ群	B2類	エ	口唇は面をもち微弱な肥厚をなす。指オサエ。	P地区　O13－Ⅳ層
1955	Ⅱ群	B3類	イ	口径22.6cm。口唇は面をもち微弱な肥厚をなす。指オサエ。	P地区　N11－Ⅳ層
1956	Ⅱ群	B4類	イ	口径23.8cm。口縁部が外反する。口唇は面をもち微弱な肥厚をなす。指オサエ工具調整(木口残る)。	P地区　O12－Ⅳ層
1957	Ⅲ群	喜念Ⅰ	エ	口唇は面をもち微弱な肥厚をなす。ミミズバレ状の突帯文様。金雲母含む。喜念式。	P地区　O11－Ⅳ層
1958	Ⅲ群	宇宿上層	エ	口縁は屈曲する。口唇は丸みをおび微弱な肥厚をなす。斜位の沈線を4本配す(左下がり)。金雲母含む。	P地区　O11－Ⅳ層
1959	Ⅲ群	宇宿上層	エ	口唇は面をもち微弱な肥厚をなす。器面調整丁寧。斜位の沈線を6本配す(右下がり)。金雲母含む。	P地区　N11－Ⅳ層落ち込み
1960	Ⅲ群	喜念Ⅰ？	イ	胴部。ミミズバレ状の突帯文様を横位に2本施す。粘板岩僅かであるが混入する。	P地区　O11－Ⅳ層落ち込み
1961	Ⅲ群	喜念Ⅰ？	イ	胴部。ミミズバレ状の突帯文様を横位に2本施す。粘板岩僅かであるが混入する。	P地区　O11－Ⅳ層
1962	Ⅲ群	喜念Ⅰ？	イ	胴部。ミミズバレ状の突帯文様を横位に1本施す。粘板岩僅かであるが混入する。	P地区　O12－Ⅳ層
1963	Ⅲ群	喜念Ⅰ？	イ	胴部。ミミズバレ状の突帯文様を横位に1本施す。粘板岩僅かであるが混入する。	P地区　O12－Ⅳ層
1964	Ⅲ群	喜念Ⅰ？	イ	胴部。0.5cm幅の帯状の突帯を横位に1本配しその突帯に刺突文を施す。粘板岩を含む。	P地区　東Ⅳ層
1965	Ⅲ群	喜念Ⅰ	エ	胴部。又状工具による刺突文を施す。金雲母含む。	P地区　東Ⅳ層
1966	Ⅲ群	宇宿上層	エ	貼付による肥厚口縁。口縁はカマボコ状を呈する。肥厚部直下に半裁竹管による押し引き文(方向不明)。宇宿上層式。	P地区　N11－Ⅳ層
1967	Ⅲ群	壺	エ	口径8.6cm。口唇は丸みをおびる。金雲母を含む。宇宿上層式の壺形と想定される。	P地区　東Ⅳ層
1968	Ⅱ群	B2類	ア	口径18.8cm。貼付による肥厚口縁。口縁は三角形状を呈す。又状工具による押し引き文(左→右)。	P地区　O12－Ⅳ層
1969	Ⅲ群	宇宿上層	エ	口径12.6cm。貼付による肥厚口縁。断面形は三角形をなす。金雲母を極僅かであるが含む。	P地区　東Ⅳ層
1970	Ⅱ群	B2類	イ	口径16.1cm。貼付を行うが極微弱な肥厚。口唇は丸みをおびるが側面は工具調整により面をもつ。	P地区　O11－Ⅳ層
1971	Ⅱ群	B2類	ア	口径12.8cm。口縁上部を屈曲させる。指オサエ工具調整明瞭(木口残る)。石灰岩粒を密に含む。	P地区　O12－Ⅳ層
1972	Ⅱ群	B3類	イ	口径15.8cm。貼付による肥厚口縁。口唇は尖り側面は工具調整による面をもつ。口唇直下に横位の指ナデ。	P地区　O13－Ⅳ層
1973	Ⅱ群	B2類	イ	口径16.3cm。口唇は面をもつが指ナデにより凹む。微弱な肥厚。工具調整。	P地区　O15－Ⅳ層
1974	Ⅱ群	B2類	イ	口径16.6cm。貼付による肥厚口縁で三角形状を呈す。側面は工具調整で面をもつ。指オサエ工具調整(木口のこる)。	P地区　東Ⅳ層
1975	Ⅲ群	宇宿上層	エ	口径17.6cm。口唇は丸みをおび微弱な肥厚をなす。刷毛目調整明瞭。金雲母含む。	P地区　O11－Ⅳ層
1976	Ⅱ群	B4類	ア	口唇は面をもち微弱な肥厚をなす。指オサエ工具調整(木口のこる)。石灰岩粒を密に含む。	P地区　O11－Ⅳ層
1977	Ⅱ群	B2類	イ	貼付による微弱な肥厚口縁。口縁は三角形状を呈す。指オサエ工具調整(木口のこる)。	P地区　O11－Ⅳ層
1978	Ⅲ群	宇宿上層	エ	貼付による肥厚口縁。口縁形態は三角形状を呈す。。刷毛目調整明瞭。金雲母含む。	P地区　O11－Ⅳ層
1979	Ⅱ群	B2類	ア	貼付による微弱な肥厚口縁。口唇は丸みをおびる。指オサエ工具調整。石灰岩粒を密に含む。	P地区　O11－Ⅳ層
1980	Ⅱ群	B3類	イ	貼付による微弱な肥厚口縁。口唇は丸みをおびる。指オサエ。	P地区　O12－Ⅳ層
1981	Ⅱ群	B2類	イ	口唇は舌状をなす。無肥厚口縁。指オサエ。石灰岩粒子を密に含む。	P地区　N11－Ⅳ層
1982	Ⅱ群	B2類	エ	口縁は外反する。口唇は面をもち微弱な肥厚をなす。側面も工具調整により面をもつ。指オサエ。金雲母含む。	P地区　N11－Ⅳ層
1983	Ⅱ群	B2類	イ	口縁は外反する。口唇は舌状をなす。無肥厚口縁。指オサエ。	P地区　O13－Ⅳ層
1984	Ⅱ群	B2類	イ	口唇は面をもち微弱な肥厚をなす。指オサエ工具調整。	P地区　O11－Ⅳ層
1985	Ⅱ群	B2類	ア	口唇は面をもち微弱な肥厚をなす。指オサエ工具調整。	P地区　O15－Ⅳ層
1986	Ⅱ群	B2類	ア	口唇は面をもち極微弱な肥厚をなす。指オサエ。	P地区　O15－Ⅳ層
1987	Ⅱ群	B2類？	イ	胴部。両面より穿孔を施すが外面の方が強く斜位に入る。回転穿孔。外面径1.0cm孔径0.3cm内面径0.5cm。	P地区　東Ⅳ層
1988	Ⅰ群	底部a	-	底径2.0cm。外底の立ち上がりは丸みをおびるが鋭角。内底は比較的明瞭。指オサエ。	P地区　O15
1989	Ⅱ群	底部a	イ	底径4.8cm。外底の立ち上がりは比較的明瞭で鋭角。内底は不明瞭。指オサエ。	P地区　O13－Ⅳ層
1990	Ⅱ群	底部c	ア	底径2.4cm。外底面に貼付を行い僅かにくびれを有する。指オサエ。	P地区　O11－Ⅳ層
1991	Ⅰ群	底部a	-	底径3.8cm。外底の立ち上がりは明瞭で縦位の刷毛目調整明瞭。内底の立ち上がりは不明瞭。指オサエ。	P地区　O10－Ⅳ層
1992	Ⅱ群	底部a	ア	底径2.4cm。外底は若干丸みをおびるものの鋭角に立ち上がる。縦位の刷毛目調整明瞭。内底は不明瞭。指オサエ。	P地区　O12－Ⅳ層
1993	Ⅱ群	底部b	イ	外底内底とも立ち上がりは不明瞭。指オサエ。	P地区　東Ⅳ層
1994	Ⅱ群	底部c	ア	外底面に微弱な貼付を行う。内底は不明瞭。指オサエ。	P地区　O13－Ⅳ層
1995	Ⅱ群	底部a	ア	外底は明瞭な立ち上がりをなし鋭角である。内定の立ち上がりも比較的明瞭で指オサエ・指ナデが回る。	P地区　O12－Ⅳ層
1996	Ⅱ群	底部c	ア	外底面に微弱な貼付を行う。内底には指オサエが明瞭。	P地区　O13－Ⅳ層
1997	Ⅱ群	底部c	ア	外底面に微弱な貼付を行う。内底には指オサエが明瞭。	P地区　O12－Ⅳ層
1998	Ⅱ群	底部a	ア	外底の立ち上がりは明瞭で鋭角。内底は不明瞭。指オサエ	P地区　O10－Ⅳ層
1999	Ⅱ群	底部c	エ	外底面に貼付を行うが貼付部分は一部欠損する。内底は不明瞭で指オサエ。金雲母密に含む。	P地区　O11－Ⅳ層
2000	Ⅱ群	底部c	ア	外底面に粘土の貼り付けを行う。外底面の立ち上がりは比較的明瞭であるが鈍角。内底は不明瞭。指オサエ。	P地区　N11－Ⅳ層
2001	Ⅱ群	底部a	ア	外底面の立ち上がりは僅かに丸みをおび比較的鋭角。内底は不明瞭で指オサエ。	P地区　O11－Ⅳ層
2002	Ⅱ群	底部b	イ	外底・内定ともに立ち上がりは丸みをおびる。指オサエ。	P地区　O12－Ⅳ層
2003	Ⅱ群	底部b?	ア	外底の立ち上がりは僅かに丸みを帯び鈍角。内定は不明瞭。	P地区　O15－Ⅳ層
2004	Ⅱ群	底部a・b？	エ	外底は明瞭で鋭角に立ち上がると想定される。内底も比較的明瞭。金雲母を含む。	P地区　O12－Ⅳ層
2005	Ⅱ群	底部b	イ	外底は丸みを帯びて鈍角に立ち上がる。内底も不明瞭。外面への指オサエ明瞭。	P地区　O11－Ⅳ層

第２表(22)　土器観察表

番号	土器分類	混入物	特徴	出土地
2006	Ⅰ群	荻堂	-	口縁。左方向叉状連点文2対。内面斜めハケ。口径14.8cm。	P1号
2007	Ⅰ群	荻堂	-	口縁。左方向叉状連点文2対。内面斜めハケ。口径12.8cm。	P1号
2008	Ⅰ群	伊波？	-	胴部。斜沈線。	P1号
2009	Ⅰ群	伊波	-	胴部。左方向長さ8mm叉状連点文2対区画内は空白か。外面横位ハケ。	P1号
2010	Ⅰ群	大山？	-	口縁。口唇に縦沈線横捺刻文。外面押引き文。	P1号　A
2011	Ⅰ群？	？	ア・エ？	胴部。棒状？工具による点刻文。金雲母含む。	P1号
2012	Ⅰ群	荻堂	-	若干肥厚する山形口縁。	P1号
2013	Ⅰ群	荻堂	-	若干肥厚する山形口縁。	P1号
2014	Ⅰ群	大山	-	口縁。半裁竹管による左方向の押引き文凹線文。2016と同一か。口径10.8cm。	P1号　A
2015	Ⅰ群	大山	-	胴部。半裁竹管による左方向の押引き文。2015と同一か。	P1号　A
2016	Ⅰ群	大山	-	胴部。押引き文突帯押引き文。	P1号
2017	Ⅰ群	大山	-	胴部。押引き文2条以上。	P1号
2018	Ⅱ群	A類	ア	口縁。幅1.2cmの方形の肥厚帯を貼付。やや胴が張る器形。口径15.4cm。	P1号　A
2019	Ⅱ群	A類	ア	口縁。幅1.4cmの方形肥厚帯を貼付で左方向の押引き文を施文。やや胴が張る器形。	P1号
2020	Ⅱ群	A類	ア	口縁。幅1.0cmの方形肥厚帯を貼付。やや胴が張る器形。	P1号
2021	Ⅱ群	A類	ア	口縁。幅1.5cmの方形肥厚帯を貼付。肥厚帯中央やや凹む。内外面横位ハケ。	P1号
2022	Ⅱ群	A類	ア	口縁。幅1.1cmの方形肥厚帯を貼付だが口唇幅1.3cmとやや広い。貼付に板状工具の痕跡。口径15.8cm。	P1号　A
2023	Ⅱ群	A類	ア	口縁。幅1.0cmの方形肥厚帯を貼付口唇幅も1.0cm。やや胴が張る。	P1号
2024	Ⅱ群	A類	ア	口縁。幅1.5cmで薄い方形肥厚帯を貼付。	P1号
2025	Ⅱ群	B1類	ア	口縁。肥厚は貼付でやや丸みがある。胴部に2条の押引き文。	P1号　C
2026	Ⅱ群	B1類	ア	口縁。肥厚は貼付だが微弱でやや水平。左方向押引き文。	P1号
2027	Ⅱ群	B1類	ア	口縁。肥厚は貼付でやや方形口唇は内傾し外反して見える。口唇外面押引き文胴部上半にも。	P1号
2028	Ⅱ群	B1類	ア	口縁。肥厚は明瞭な貼付でやや水平。口径13.4cm。	P1号
2029	Ⅱ群	B1類	ア	口縁。肥厚は微弱で口唇水平だがやや外傾。口径13.2cm。	P1号　A
2030	Ⅱ群	B1類	ア	口縁。肥厚は貼付でやや水平。胴部やや外側に開く。口径14.8cm。	P1号　A
2031	Ⅱ群	B1類・壺2？	イ	口縁。肥厚は貼付によりやや水平。口径9.0cm。	P1号
2032	Ⅱ群	B1類	ア	口縁。肥厚は微弱だが口唇は明瞭に水平。口径11.4cm。	P1号
2033	Ⅱ群	B1類	ア	口縁。肥厚は微弱だが口唇は水平。	P1号
2034	Ⅱ群	B2類	ア	やや外反口縁。肥厚は微弱で丸みがあり稜を意識。	P1号
2035	Ⅱ群	B2類	ア	やや外反口縁。肥厚は微弱でやや水平だが稜を意識。	P1号　A
2036	Ⅱ群	B1類	ア	口縁。肥厚は貼付によりやや台形。ハケ？板状工具によるナデ調整。口径21.0cm。	P1号
2037	Ⅱ群	B1類	ア	口縁。肥厚は明瞭な貼付によりややえ丸みがある。口径26.0cm。胴部上半凹線状に落ち込む。	P1号　A
2038	Ⅱ群？	？	ア・エ？	やや外半口縁。叉状？斜沈線突帯文棒状工具による点刻文。金雲母？少量含む。	P1号
2039	Ⅱ群	底部d	オ	底部。丸底。厚さ1.7cm。	P1号
2040	Ⅱ群	底部b	イ	底部。平底か。	P1号
2041	Ⅱ群	底部c	イ	底部。ややくびれる平底。	P1号
2042	Ⅱ群	底部c・d？	ア	底部。貼付による平底か丸底。	P1号
2043	Ⅱ群？	底部b	ア	底部。平底。底径4.4cm。	P1号　A
2044	Ⅰ群？	底部a・b？	-	底部。平底。	P1号
2045	Ⅰ群？	底部a・b？	-	底部。平底。	P1号
2046	Ⅱ群	底部b	ア	底部。平底。厚さ1.0cm。	P1号
2047	Ⅰ群？	底部a？	-	底部。平底。	P1号
2048	Ⅱ群	底部b・c	オ	底部。くびれのある平底か丸底。	P1号
2049	Ⅱ群	底部c	ア	底部。ややくびれる平底か。	P1号
2050	Ⅰ群	底部a	-	底部。厚さ1cmのしかっりした平底。	P1号
2051	Ⅰ群	大山	-	口縁。左方向の横捺刻文押引き文横捺刻文。口径10.4cm。	P5号
2052	Ⅰ群	大山	-	胴部。左方向押引き文横捺刻文の組合せが2対。胴径13.4cm。	P5号
2053	Ⅰ群	大山	-	胴部。左方向横捺刻文深めに止まる押引き文。	P5号
2054	Ⅰ群	大山	-	口縁。やや間隔が5mmと広い押引き文。	P5号
2055	Ⅰ群	荻堂	-	肥厚が強い山形口縁で3面を形成する。3mm幅の狭い単篦による押引き文で縦位区画内を横位で施す。	P5号
2056	Ⅱ群	B2類	ア	やや外反口縁。肥厚は微弱で丸みが強い。	P5号
2057	Ⅱ群	B2類	ア	やや外反口縁。肥厚は微弱だが口唇水平。	P5号
2058	Ⅱ群	B2類	ア	やや外反口縁。肥厚は微弱だが口唇水平。	P5号
2059	Ⅱ群	底部c	ア	底部。貼付によるくびれのある平底。底径2.0cm。	P5号
2060	Ⅰ群	底部a	-	底部。底径約5cmの明瞭な平底。	P5号
2061	Ⅰ群？	底部b	-	底部。やや開く器形か。	P5号
2062	Ⅰ群	荻堂	-	肥厚が強い山形口縁で頂部が尖る。左方向押引き文横捺刻文押引き文。	P2号
2063	Ⅰ群	伊波	-	胴部。2条の横位連点文の空間が2cmと広い。縦位は単篦点刻文。	P2号
2064	Ⅰ群	伊波・荻堂	-	胴部。左方向叉状連点文短鋸歯文。	P2号　B
2065	Ⅰ群	伊波・荻堂	-	胴部。叉状連点文。	P2号　B
2066	Ⅰ群	荻堂	-	胴部。叉状連点文による縦位区画。	P2号　D
2067	Ⅰ群	伊波	-	胴部。斜沈線。	P2号
2068	Ⅰ群	伊波	-	胴部。幅5mmとやや狭く1cmを越える長いストロークの押引き文2条。	P2号　D
2069	Ⅰ群	大山	-	胴部。押引き文2条。	P2号
2070	Ⅰ群	大山？	-	胴部。横捺刻文。	P2号
2071	Ⅰ群	大山	-	口縁。肥厚が貼付により口唇水平で強調。左方向のストロークが密な押引き文2条。	P2号　D
2072	Ⅱ群	A類・B1類？	ア	口縁。幅1.5cmの貼付による方形肥厚帯口唇も同じ幅。左方向押引き文。口径16.4cm。	P2号　E
2073	Ⅱ群	B1類	ア	口縁。肥厚は貼付により口唇水平。左方向押引き文叉状？斜沈線。	P2号
2074	Ⅱ群	B1類	ア	口縁。肥厚は貼付により口唇水平。左方向押引き文。	P2号
2075	Ⅱ群	A類	ア	口縁。幅7mmのやや狭い方形肥厚帯。胴部は外側に開く。口径8.0cm。	P2号　B
2076	Ⅱ群	A類	ア	口縁。幅1.6cmの方形肥厚帯。その下端はやや凹線状。外面縦位ハケ。口径12.0cm。	P2号　F
2077	Ⅱ群	A類	ア	口縁。幅1.8cmの方形肥厚帯。口径12.4cm。	P2号　F
2078	Ⅱ群	A類	イ	口縁。幅1.7cmの方形肥厚帯。口縁内面やや凹む。口径15.6cm。	P2号　F
2079	Ⅱ群	B1類	イ	口縁。肥厚は貼付により明瞭だが下端はゆるやか。口径16.8cm。	P2号　D
2080	Ⅱ群	B1類・A類	ア	口縁。幅1.2cmの方形肥厚帯だが口唇も同じ幅で内傾する。口径16.6cm。	P2号
2081	Ⅱ群	B1類	ア	口縁。肥厚は貼付により明瞭で口唇ははやや水平。内面は細かいハケ。口径18.0cm。	P2号
2082	Ⅰ群？	壺1	-	口縁。器厚5mmと薄い。口径5～8cm。	P2号
2083	Ⅱ群	B1類	ア	口縁。肥厚は微弱で丸みがある。外面横位ハケ。	P2号
2084	Ⅲ群	喜念Ⅰ	エ	胴部。斜沈線による綾杉文ミミズ腫れ状突帯。	P2号
2085	Ⅱ群？	？	ア	無文胴部下半。	P2号
2086	Ⅰ群	底部a？	-	底部。平底。器厚が薄い。底径5cm程度か。	P2号
2087	Ⅰ群	底部a？	-	底部。平底。底径5cm程度か。	P2号
2088	Ⅰ群？	？	-	肥厚はなく直立する口縁。口唇は水平な面もつ。型式特定できず。	P3号
2089	Ⅱ群	B2類	ア	やや外反口縁。肥厚は微弱でやや稜を意識する口唇。	P3号　A
2090	Ⅰ群	伊波？	-	胴部。斜沈線。叉状点刻文？	P3号
2091	Ⅱ群	B2類	ア	やや外反口縁。肥厚は微弱だが口唇水平な面もつ。	P4号
2092	Ⅱ群	B4類・C類	ア？	口縁。肥厚は貼付により稜を意識する三角形の口唇。凹線状叉状斜沈線。口径13.2cm。	P4号
2093	Ⅱ群	B1類	ア	肥厚は貼付かは不明だがほぼ直角に折り曲げており直線的な器形。外面横位ハケ。口径12.8cm。	P4号
2094	Ⅱ群	B1類	ア	口縁。肥厚は貼付だが微弱で丸みがある。口径14.0cm。	P4号
2095	Ⅱ群	B2類	ア	やや外反口縁。肥厚は微弱で丸みがあり胴部内面上半に稜がある。内外面粗いハケ(2mm)。口径15.2cm。	P4号
2096	Ⅱ群	B2類	ア	わずかに外反口縁。肥厚はごくわずかで口唇は水平。口径17.6cm。	P4号
2097	Ⅱ群	B1類	ア	口縁。肥厚は貼付により外面が丸く肥厚し口唇水平。内外面横位ハケ(9本/1.5cm)。口径22.0cm。	P4号　A
2098	Ⅱ群	B2類	ア	外反口縁。肥厚は微弱だが端部に見られ稜を意識し口唇は面をもつ。	P4号
2099	Ⅱ群	B1類	ア	口縁。肥厚は端部に微弱で見られ口唇は丸みをもつ。	P4号
2100	Ⅱ群	B1類	ア	口縁。肥厚は明瞭に貼付によるが全体的に丸みがある。口縁下端に凹線状になる。	P4号
2101	Ⅱ群	A類・B1類	ア	口縁。幅1.4cmのやや緩やかな方形肥厚帯。外面粗いハケ(2mm)。	P4号

第２表(23)　土器観察表

番号	土器分類		混入物	特徴	出土地
2102	Ⅱ群	B1類	ア	口縁。肥厚は貼付により明瞭で直角に曲がる水平な口唇。	P4号
2103	Ⅱ群	B1類	ア	口縁。肥厚は貼付により明瞭で口唇水平。	P4号
2104	Ⅱ群	A類・B1類	ア	口縁。肥厚は外面と口唇の幅1.0cmである。口唇は内傾する。	P4号　A
2105	Ⅱ群	A類	ア	口縁。幅1.2cmの薄い方形肥厚帯。口唇は幅0.8cmで内傾する。	P4号
2106	Ⅰ群	大山？	-	胴部。突帯に横捺刻文。	P4号
2107	Ⅰ群	伊波？	-	胴部。沈線による綾杉文。	P4号　A
2108	Ⅰ群	荻堂？	-	胴部。幅3mmの横捺刻文2条。	P4号
2109	Ⅰ群	荻堂？	-	胴部。棒状工具？による点刻文。	P4号
2110	Ⅱ群	底部b	ア	底部。丸みのある平底。厚さ1.5cm。	P4号
2111	Ⅱ群	B1類	ア	口縁。肥厚は貼付により全体に丸みがある口唇。又状連点文。	P8号
2112	Ⅰ群	荻堂	-	口縁。又状連点文1対鋸歯文？口径11.0cm。	P8号
2113	Ⅱ群	B1類	ア	口縁。肥厚は貼付により端部が尖るが口唇は水平。単篦点刻文。	P8号
2114	Ⅰ群？	伊波	-	胴部。左方向の単篦押引き文2条。間隔が広い。	P8号
2115	Ⅱ群	B2類	ア	口縁。肥厚は貼付によるが稜を意識し口唇は外傾し面をもつ。押引き文。	P8号
2116	Ⅱ群	B1類	ア	口縁。肥厚は貼付により明瞭で口唇水平だが内傾。口縁外面胴部上半押引き文2条以上。	P8号
2117	Ⅱ群	B2類	ア	外反口縁。肥厚は微弱で端部に見られるのみ。単篦横捺刻文。	P8号
2118	Ⅱ群	A類・B1類	ア	口縁。幅1.0cmの外面への貼付による方形肥厚帯で口唇は内傾する。口径16.0cm。	P8号
2119	Ⅱ群	B1類・A類	ア	口縁。幅1.5cmの外面への貼付による台形に近い肥厚帯で口唇はやや内傾する。口径19.2cm。	P8号
2120	Ⅱ群	B3類	ア	やや外反口縁。肥厚は貼付だが稜を意識し口唇は外傾し水平。内面やや凹む。胴部は張る。	P8号
2121	Ⅱ群	B2類	ア	外反口縁。肥厚は貼付で微弱だが口唇水平。	P8号
2122	Ⅱ群	B3類	ア	口縁。肥厚は貼付により端部が尖り口唇は水平。胴部はやや張る。	P8号
2123	Ⅱ群	B3類	ア	口縁。肥厚は貼付によるが微弱で口唇は水平。器厚は5mmと薄い。胴部は張る。	P8号
2124	Ⅱ群	B1類・壺1	ア	口縁。肥厚は貼付で端部は尖り口唇は丸みがある。口径9.2cm。	P8号
2125	Ⅱ群	B1類	ア	口縁。肥厚は貼付で端部が尖る。器厚4mmと薄い。	P8号
2126	Ⅱ群	B4類	イ	口縁。肥厚は微弱で稜を意識し口唇は外傾する面をもつ。頸部がゆるやかで胴部は張る。口径13.4cm。	P8号
2127	Ⅱ群	B1類	ア	口縁。肥厚は貼付によりやや方形に近い。口径16.4cm。	P8号
2128	Ⅱ群	B類・壺2	ア	口縁。肥厚は端部にわずかか見られ丸みがある。口径6.8cm。	P8号
2129	Ⅱ群	B1類	ア	口縁。肥厚はほぼ直角に折り曲げて内傾する口唇に見える。口縁外面は水平な面。内面横位ハケ。口径18.0cm。	P8号
2130	Ⅲ群	喜念Ⅰ・壺	エ	胴部。縦横のミミズ腫れ状突帯。壺か？	P8号
2131	Ⅱ群	B4類	イ	口縁。肥厚は不明瞭。頸部をもつか。	P8号
2132	Ⅱ群	B4類	イ	口縁。肥厚は微弱で稜を意識し口唇は外傾する面をもつ。胴部は張る。口径19.8cm。	P8号
2133	Ⅱ群？	底部c	ア？エ？	底部。平底。底径1.8mm。金雲母含む。	P8号
2134	Ⅱ群	底部b	ア	底部。平底。底径5cm前後。	P8号
2135	Ⅱ群	底部c	ア	底部。くびれのある平底か。	P8号
2136	Ⅱ群	底部b	ア	底部。器厚1.3cmの平底。底径5cm前後。	P8号
2137	Ⅱ群	底部b	イ	底部。平底。底径4.0cm。	P8号
2138	Ⅰ群	伊波	-	口縁。口唇・外面に尖った棒状工具？による点刻文。	P9号
2139	Ⅰ群	伊波	-	胴部。又状連点文による羽状文？	P9号
2140	Ⅰ群	荻堂	-	胴部。左方向の押引き文3条。	P9号
2141	Ⅰ群	荻堂	-	口縁。肥厚は貼付により口唇やや水平。端部外面に単篦による8mmと間隔の広い横捺刻文2条。	P9号
2142	Ⅰ群	大山	-	胴部。幅2mmと狭い押引き文又状？中沈線による鋸歯文。	P9号
2143	Ⅱ群	B1類	イ	口縁。幅1.2cm・厚さ3mmの貼付による方形肥厚帯だが口唇は丸みを帯びる。口径16.4cm。	P9号
2144	Ⅰ群	大山	-	胴部。縦横に長さ3mmとストロークの短い押引き文。	P9号
2145	Ⅱ群	B1類	イ	口縁。幅1.2cm・厚さ4mmの貼付による中央が凹む肥厚帯だが口唇は丸い。	P9号
2146	Ⅱ群	A類・B1類	ア	口縁。2143と肥厚・横捺刻文2条が類似するが色調が赤く器厚も1.3cmとやや厚い。	P9号
2147	Ⅱ群	B1類・A類	ア	外反口縁。肥厚は貼付によるが稜を意識する口唇。口径13.2cm。	P9号
2148	Ⅱ群	A類・B1類	ア	口縁。幅8mmの貼付による薄い方形肥厚帯だが口唇も同じ幅。胴がやや張る器形。口径16.8cm。	P9号
2149	Ⅱ群	B1類？	ア	やや外反口縁か。肥厚は貼付によるが三角形に近い稜を意識する口唇。口径12.0cm。	P9号
2150	Ⅱ群	B類？	ア	外反口縁で頸部を有す。肥厚は不明瞭で口唇丸い。	P9号
2151	Ⅱ群	B類？その他	ア	やや外反口縁。肥厚は稜を意識し口唇は外傾する面をもつ。	P9号
2152	Ⅱ群	B類？	ア	口縁。肥厚は稜を意識する口唇に又状点刻文。外面にも同様で縦突帯を有す。	P9号
2153	Ⅱ群	B2類	イ	やや外反口縁。肥厚は微弱で端部に見られる稜を意識する口唇。口径13.2cm。	P9号
2154	Ⅱ群	B2類	イ	外反口縁。肥厚は微弱で端部に見られるのみで口唇は水平な面をもつ。口径17.2cm。	P9号
2155	Ⅱ群	B2類	イ	外反口縁。肥厚は微弱で端部のみに見られ口唇は水平な面をもつ。口径18.0cm。	P9号
2156	Ⅱ群	B1類	ア	頸部のある胴部。2条の押引き文による横帯間に斜沈線で充填また縦位区画をつくる。	P9号
2157	Ⅱ群	B1類	イ	2150と同一か？	P9号
2158	Ⅱ群	B3類	イ	口縁。肥厚は貼付で口唇やや水平。口縁下端に爪形？痕。	P9号
2159	Ⅱ群	B1類	ア	口縁。肥厚は貼付により明瞭だが口唇が丸く垂下する。左方向押引き文2条。	P9号
2160	Ⅱ群	B1類	ア	斜沈線による綾杉文幅5mmと太い左方向の押引き文。	P9号
2161	Ⅱ群	B1類	ア	外反口縁。肥厚は不明瞭で稜を意識する口唇。口径12.0cm。	P9号
2162	Ⅱ群？	B2類？C類	ア？エ？	底部。内底がやや膨らむ平底。底径約4cm。	P9号
2163	Ⅱ群	B4類	イ	口縁。肥厚は貼付か折り曲げかは判断できないが口唇はやや水平。	P9号
2164	Ⅱ群	B2類	イ	口縁。肥厚は貼付で端部が尖り口唇はやや水平で外傾。口径17.6cm。	P9号
2165	Ⅱ群	B4類？	イ	外反口縁。肥厚は稜を意識し三角形に近い口唇。通常のアの胎土に比べると粒子が細かいⅢ群か？	P9号
2166	Ⅲ群	喜念Ⅰ	エ	底部。中央は欠損だが貼付による。	P9号
2167	Ⅲ群	喜念Ⅰ	エ	底部。中央は欠損だが貼付による。厚さ1.3cmとやや厚め。	P9号
2168	Ⅰ群？	？	-	口唇が水平な口唇。左方向横捺刻文3条。外面横位ハケ(7本/1.5cm)。口径9.2cm。	P9号
2169	Ⅱ群？	底部b	ア	底部。丸底。内底はわずかな平坦面あり。	P9号
2170	Ⅱ群？	底部b	ア	底部。7mmと薄めの丸底。内底はやや尖り気味。	P9号
2171	Ⅱ群	底部d	ア	胴部。半裁竹管による凹線文か	P9号
2172	Ⅱ群	底部d	イ	底部。平底。底径4.2cm。厚さ1.2cm。内外面ともに平坦だが立ち上がりは緩やか。	P9号
2173	Ⅱ群	底部c？	ア	胴部。ミミズ腫れ状突帯斜沈線による綾杉文か。	P9号
2174	Ⅱ群	底部c？	イ	胴部。ミミズ腫れ状突帯斜沈線による綾杉文か。2166に似るが色調は橙色で異なる。	P9号
2175	Ⅰ群	伊波・荻堂	-	山形口縁か。左方向の又状連点文が約1cmの間隔を空け2対。石灰岩は少ないがチャートが目立つ。	P10号
2176	Ⅱ群？	B2類？	ア	やや外反口縁。肥厚は口縁外面に玉縁状に見られる。左方向横位及び縦位の押引き文。	P10号
2177	Ⅱ群	壺1	ア	口縁。肥厚は貼付により方形だが口唇も水平。口径7.2cm。内面上半ユビオサエ下半縦位ハケ(7本/1.5cm)。外面も下半同様のハケかその後ナデ消しかただ器面は平滑(ミガキ？)。	P10号
2178	Ⅱ群	A類	ア	口縁。幅1.0cmの方形肥厚帯口唇は7mmでやや水平。口径10.8cm。	P10号
2179	Ⅱ群	B3類	ア	口縁。肥厚は貼付だが微弱口唇水平。器厚は5mmと薄い。胴部は開く。口径11.6cm。	P10号
2180	Ⅱ群	B2類	ア	やや外反口縁。肥厚は微弱で端部のみで稜を意識。口径11.6cm。	P10号
2181	Ⅱ群	B1類	ア	口縁。肥厚は貼付だがやや微弱口唇水平。	P10号
2182	Ⅱ群	B1類	ア	口縁。肥厚は貼付により厚さ1.0cmの方形を成す。	P10号
2183	Ⅱ群	B2類	ア	わずかに外反口縁。肥厚はごくわずかで口唇は水平。	P10号
2184	Ⅱ群？	底部b？	ア	底部。平底。	P10号
2185	Ⅱ群	底部b	ア	底部。平底。立ち上がりはやや明瞭。	P10号
2186	Ⅰ群？	底部a	-	底部。内底が膨らむ平底。底径は5～6cmか。	P11号
2187	Ⅱ群？	底部b	ア	底部。平底か。	P11号
2188	Ⅰ群	伊波・荻堂	-	胴部。又状連点文1cmの間隔で2対。又状連点鋸歯文。	P12号
2189	Ⅱ群？	A類・B1類？	ア	口縁。幅1.4mmの台形肥厚帯で幅3mmの狭い左方向の押引き文2条口唇は内傾し幅1.5cm。胴部も押引き文1条以上。大山と見るか？口径20.8センチ。	P12号
2190	Ⅰ群？	？	-	胴部。又状斜沈線？	P12号
2191	Ⅱ群	A類	ア	やや外反口縁。幅1.2cm厚さ3mmの方形肥厚帯。下端は凹線状になる。	P12号
2192	Ⅱ群	A類・B1類？	ア	口縁。幅1.2cm厚さ2mmの方形肥厚帯口唇は内傾するがやや水平。幅3mmの横捺刻文。	P12号
2193	Ⅱ群	B4類	イ	外反口縁。肥厚は端部のみで稜を意識し口唇は水平面をもつ。頸部をもつ。	P12号
2194	Ⅱ群	B2類	イ	わずかに外反口縁。肥厚はごく微弱で端部のみで口唇水平。	P12号
2195	Ⅱ群	B2類？	イ	ごくわずかな外反口縁。肥厚は微弱でやや稜を意識するか。口唇水平。口径13.2cm。	P12号

第２表(24)　土器観察表

番号	土器分類		混入物	特徴	出土地
2196	Ⅱ群	B2類	ア	外反口縁。肥厚は稜を意識し口唇は外傾するがやや水平。	P12号
2197	Ⅱ群	B1類	イ	口縁。肥厚は貼付だが口唇は丸みがある。	P12号
2198	Ⅲ群	喜念Ⅰ	ア・エ？	頸部。ミミズ腫れ状突帯。金雲母含むが石灰岩も多い。	P12号
2199	Ⅱ群？	底部b	ア	底部。内底がやや凹む平底。立ち上がりは明瞭で直線的。底径4.6cm。	P12号
2200	Ⅱ群	底部b	イ	底部。内底が平坦な平底。	P12号
2201	Ⅱ群	荻堂	ア	胴部。左方向の叉状連点文3対以上。	P13号
2202	Ⅰ群	大山	-	胴部。左方向の単篦押引き文3条以上。	P13号
2203	Ⅱ群	B2類	ア	やや外反口縁。口唇やや外傾する水平面をもつ。	P13号
2204	Ⅰ群	伊波・荻堂？	-	胴部。単篦による鋸歯文か縦位区画も有すか？	P15号
2205	Ⅰ群	伊波	-	均整な山形口縁。山形頂部に遭わせた左方向の押引き文2条。	P16号
2206	Ⅰ群	伊波	-	胴部。幅7mmの左方向の押引き文間隔を空ける。区画内は空白か。	P16号
2207	Ⅱ群	B3類？A類？	ア	口縁。肥厚は微弱で端部のみだが口唇水平。口縁下3cmに高さ5mmの貼付突帯を有する。	P16号
2208	Ⅱ群	B1類	ア	口縁。肥厚は貼付で口唇は丸みがある。器厚は3mmと非常に薄い。	P16号
2209	Ⅰ群	伊波	-	胴部。叉状点刻文鋸歯文。	P17号
2210	Ⅰ群	大山？	-	やや開く口縁。左方向押引き文。	P17号
2211	Ⅰ群	荻堂？	-	胴部。縦横に組み合わせる叉状点刻文。	P17号
2212	Ⅰ群	大山	-	口縁。単篦沈線による横位区画。右方向？半裁竹管による点刻文。	P17号　A
2213	Ⅱ群	B類？	オ	胴部。単篦横捺刻文？砂礫はほとんど混じらない。ポーラスではない。	P17号
2214	Ⅰ群	大山	-	口縁。横捺刻文凹線。口径11.2cm。	P17号　A
2215	Ⅱ群	A類	ア	口縁。幅1.1cmの厚さ3mmの方形肥厚帯。口縁下端左方向の停止痕がやや不明瞭な押引き文凹線？口径11.2cm。	P17号
2216	Ⅰ群	大山？	-	口縁。単篦横捺刻文2条以上。口径14.0cm。	P17号
2217	Ⅱ群	A類	ア	口縁。幅1.5cm厚さ2mmの方形肥厚帯。やや胴が張るか。口径12.8cm。	P17号
2218	Ⅱ群	B1類	イ	口縁。肥厚は端部が丸みを帯びる。口縁下端には左方向の長さ1cmの押引き文。口径22.0cm。	P17号
2219	Ⅱ群	A類	ア	口縁。幅1.1cm厚さ1mmのやや不明瞭な方形肥厚帯。	P17号　D
2220	Ⅰ群？	大山？A類	-	口唇が欠損する口縁。器厚が1.0cmと厚いため方形肥厚帯か。右方向の押引き文2条。	P17号
2221	Ⅱ群	A類	ア	口縁。幅1.7cmの厚さ2mmの方形肥厚帯。口唇は丸みがあり内傾。口径14.0cm。	P17号
2222	Ⅱ群	壺1	イ	口縁。口径9.2cm。肥厚は不明瞭だが口唇はやや水平。	P17号
2223	Ⅱ群	B4類・壺2？	イ	口縁。肥厚はほとんどない。	P17号
2224	Ⅱ群	B1類	イ	口縁。肥厚は貼付により口唇は水平で単篦横捺刻文。斜沈線により鋸歯文か。口径16.4cm。	P17号
2225	Ⅱ群	B1類	イ	口縁。肥厚は明瞭な貼付だが端部がやや尖り丸みがある。口径13.2cm。	P17号
2226	Ⅱ群	B3類	イ	口縁。肥厚は貼付で口唇は丸みがある。おそらく胴がやや張る。口径14.0cm。	P17号
2227	Ⅱ群	B2類	ア	外反口縁。肥厚は端部のみで稜を意識し口唇は水平面をもつ。	P17号
2228	Ⅱ群	B1類	イ	口縁。肥厚は貼付だが口唇はやや丸みがある。胴部中央がわずか張るか？口径16.0cm。	P17号
2229	Ⅱ群	B3類	イ	口縁。肥厚は貼付で口唇は水平だが外面は斜めになる。頸部は不明瞭で胴部が張る。	P17号
2230	Ⅱ群	B1類？	ア	口縁。肥厚は微弱で稜を意識し口唇は外傾する水平面をもつので典型的なB1類ではない可能性。	P17号
2231	Ⅱ群	B2類	イ	やや外反口縁。肥厚は貼付だが口唇は丸みがありやや稜を意識。口径16.0cm。	P17号
2232	Ⅱ群	B1類	イ	口縁。肥厚は貼付で口唇はやや水平。	P17号
2233	Ⅱ群	B2類	イ	やや外反口縁。肥厚はごくわずかで口唇は丸い。	P17号
2234	Ⅱ群	B2類	イ	わずかな外反口縁。肥厚は貼付で微弱だが口唇は丸みがある。	P17号
2235	Ⅱ群	B3類	イ	ゆるい外反口縁。肥厚は明瞭な貼付で口唇は丸みがあり稜をやや意識。胴が張る。口径21.6cm。	P17号
2236	Ⅱ群	B4類	ア	短い頸部をもつ口縁。肥厚は不明瞭だが口唇は外傾する水平面をもつ。外面横位ハケ。	P17号
2237	Ⅲ群？	喜念Ⅰ？	ア	頸部をもつ口縁。肥厚は微弱だが口唇は稜を意識し外傾する面をもつ。ミミズ腫れ状突帯ではあるが全体的に大まかな印象で典型ではないか。金雲母は含まない。口径26.4cm。	P17号　地山直上
2238	Ⅲ群	喜念Ⅰ	エ	胴部。斜沈線。刺突文は突帯上部にみられる幅5mmと太目のミミズ腫れ状突帯。2239と同一。	P17号
2239	Ⅲ群	喜念Ⅰ	エ	2238と同一個体。	P17号
2240	Ⅲ群	喜念Ⅰ	エ？	胴部。幅3mmのミミズ腫れ状突帯2条。金雲母も含むが石灰岩も一定量見られる。	P17号
2241	Ⅲ群	喜念Ⅰ	エ？	胴部。幅5mmの太めのミミズ腫れ状突帯。金雲母も見られるが石灰岩が多い。	P17号
2242	Ⅱ群？	B3類？壺1？	ア・エ？	口縁は直立し胴は張るか。肥厚は微弱で口唇は丸い。口径10.6cm。金雲母は微量。	P17号
2243	Ⅱ群	B3類	ア	口縁は直立し胴が張るか。肥厚はほとんどなく口唇水平。	P17号
2244	Ⅱ群	B1類？	ア	直立する口縁。肥厚はなく口唇はやや水平。	P17号　D
2245	Ⅱ群	B3類	ア	口縁は直立し胴が張るか。肥厚は不明瞭で口唇やや水平。	P17号　D
2246	Ⅱ群	底部d	イ	底部。丸底だが内底は4cm前後の平坦面あり。	P17号
2247	Ⅱ群？	底部b	ア	底部。底径4cm前後の平底か。内底はゆるやか。	P17号　D
2248	Ⅰ群？	底部a	-	底部。底径5cm前後の平底。内底の立ち上がりは明瞭で中央はやや膨らむ。	P17号
2249	Ⅱ群？	底部c	ア・エ？	底部。底径2cm前後のややくびれる平底か。金雲母少量含むが石灰元が主体。	P17号
2250	Ⅰ群	底部a	-	底部。底径5cm前後の平底。内底の立ち上がりは明瞭。	P17号
2251	Ⅰ群	荻堂	-	口縁。叉状連点文3対。	P18号　A
2252	Ⅱ群	B1類	ア	口縁。肥厚は貼付により口唇は端部が尖りやや丸い。	P18号　A
2253	Ⅱ群	B2類	ア	口縁を外反させ口唇は内傾する。端部はやや尖る。口径21.2cm。	P18号
2254	Ⅲ群	喜念Ⅰ	エ？	胴部。幅2mmのミミズ腫れ状突帯。金雲母より石灰岩が多い。	P18号
2255	Ⅱ群	B2類	ア	わずかな外反口縁。肥厚は不明瞭だが口唇は内傾。	P18号
2256	Ⅰ群	伊波・荻堂	-	胴部。左方向の叉状連点文2対。	P19号
2257	Ⅰ群	伊波・荻堂	-	胴部。斜沈線による綾杉文。	P20号
2258	Ⅰ群	荻堂	-	山形裾部で段を形成する山形口縁。	P19号
2259	Ⅰ群？	？	-	胴部。貼付突帯により矩形の文様。	P19号
2260	Ⅰ群	伊波・荻堂	-	胴部。左方向の叉状連点文。	P19号
2261	Ⅰ群	大山	-	口縁。左方向の押引き文(6本/5mmの単篦)3条。外面縦斜位内面横位ハケ(8本/1.2cm)。口径16.0cm。	P19号　床面
2262	Ⅰ群	大山	-	口縁。左方向の横捺刻文2条。	P19号
2263	Ⅰ群？	大山？B1類	-	口縁。左方向の浅い押引き文。やや間隔が空いてもう1条あるか？	P19号
2264	Ⅰ群	伊波・荻堂	-	胴部。単篦による点刻文？	P19号
2265	Ⅱ群	A類	ア	口縁。幅1.1cmの厚さ1mmの方形肥厚帯。胴はやや開く器形。	P19号
2266	Ⅱ群	？	ア	頸部。押引き文による縦横区画をなす。横位が縦位よりも先に施文。区画内に斜沈線。Ⅱ群B類の範疇か？	P19号
2267	Ⅱ群	B1類	ア	口縁。肥厚は貼付により端部が尖り口唇はやや外傾。やや胴が膨らむ器形か。口径10.8cm。	P19号　西北隅柱穴
2268	Ⅱ群	B3類	ア	口縁。肥厚は貼付により端部が尖り口唇はやや丸い。口縁は直立し胴が張る。口径18.8cm。	P19号
2269	Ⅱ群	B1類	ア	わずかに外反口縁。肥厚は貼付により幅1.7cmの口唇をつくりやや内傾する水平面をもつ。	P19号
2270	Ⅱ群	B2類	ア	やや外反口縁。肥厚は微弱だが口唇は水平。	P19号
2271	Ⅱ群	B1類	ア	口縁。肥厚は貼付により明瞭で幅1.5cmの水平面をもつ口唇。	P19号
2272	Ⅱ群	B1類	ア	口縁。肥厚は貼付により微弱だが口唇は水平。	P19号
2273	Ⅱ群	B3類	ア	口縁。肥厚は貼付により微弱だが口唇は水平。口縁は直立しやや胴が張るか。	P19号
2274	Ⅱ群	B1類	ア	口縁。肥厚は微弱だが口唇は水平。	P19号
2275	Ⅱ群	B1類	ア	口縁。肥厚は貼付により微弱だが口唇は水平。口縁は直立しやや胴が張るか。器厚は5mmと薄い。	P19号
2276	Ⅱ群	B1類	イ	口縁。肥厚は貼付により外面がやや段となる。	P19号
2277	Ⅱ群	B2類	イ	やや外反口縁。肥厚は微弱だが外面全体がやや盛りあがる。口唇は外傾する面をもつ。器厚は1cm。	P19号
2278	Ⅲ群	喜念Ⅰ	エ	胴部。ミミズ腫れ状突帯。斜沈線による綾杉文？色調は橙色で金雲母も多いが石灰岩も含む。	P19号
2279	Ⅱ群	B1類	イ・エ？	口縁。肥厚は外面全体的に丸いが口唇は水平。金雲母と粘版岩石灰岩を含む。口径11.6cm。	P19号
2280	Ⅱ群	C類・壺2	オ	口縁。貼付により舌状の三角形の肥厚帯。壺形か。	P19号
2281	Ⅱ群	B4類	ア	頸部をもつ口縁。肥厚は稜を意識し三角形に近い口唇。	P19号
2282	Ⅱ群	B4類・C類	ア	短い頸部をもつ口縁。肥厚は外面が全体的に丸くややカマボコ形か。	P19号
2283	Ⅱ群	B2類	ア・エ？	やや外反口縁。肥厚はほとんどなく口唇がやや尖る。金雲母やや含む。	P19号
2284	Ⅱ群	B1類	イ	直立する口縁。肥厚はないが口唇は水平。口径13.6cm。	P19号
2285	Ⅱ群？	底部b	ア	底部。平底。底径3.4cm。	P19号
2286	Ⅱ群	底部b	イ	底部。底径3～4cmの平底か。	P19号
2287	Ⅰ群	底部b？	-	底部。底径3～4cmのやや丸みのある平底か。	P19号
2288	Ⅱ群	底部a・b？	ア	底部。立ち上がりがやや明瞭な平底。	P20号
2289	Ⅱ群	底部b	ア	底部。底径3～4cmの胴が開く平底か。	P19号
2290	Ⅰ群	荻堂	-	山形口縁。左方向の叉状短沈線連点文。	P20号

第２表(25)　土器観察表

番号	土器分類		混入物	特徴	出土地
2291	Ⅱ群	B2類？	ア	口縁。肥厚は微弱で稜を意識し口唇は外傾する水平面をもつ。叉状点刻文。	P20号
2292	Ⅰ群	伊波？	-	胴部。叉状沈線。	P20号
2293	Ⅰ群	荻堂？	-	口縁。半裁竹管？による左方向の押引き文が3条。	P20号
2294	Ⅱ群	B2類？	ア	わずかに外反口縁。肥厚は微弱だが口唇は外傾する面をもつ。単箆による横捺刻文1条？	P20号
2295	Ⅱ群	壺1	イ	直立する口縁。口唇はほとんどなく口唇は丸みがある。口径10.4㎝。	P20号
2296	Ⅱ群	B2類	イ	やや外反口縁。肥厚は端部のみで稜を意識し口唇は外傾する。左方向の押引き文2条。	P20号
2297	Ⅱ群	B1類	ア	口縁。肥厚は貼付で口唇はやや水平。横捺刻文2条。	P20号
2298	Ⅱ群	B1類	ア	口縁。肥厚は貼付で丸みのある口唇。棒状工具？による点刻文。	P20号
2299	Ⅱ群	B1類	ア	わずかに外反口縁。肥厚は貼付だが微弱で口唇丸い。棒状工具？による左方向の点刻文2条を上下に配し2対の叉状沈線による鋸歯文。	P20号
2300	Ⅰ群？	？	-	胴部。突帯に叉状？点刻文を配す。	P20号
2301	Ⅱ群	B1類	イ	口縁。肥厚は貼付により口唇はやや水平で端部尖る。内外面横位幅2㎜の粗いハケ。口径12.8㎝。	P20号
2302	Ⅱ群	B1類	ア	口縁。肥厚は貼付によるが口唇はやや水平で端部尖る。胴部上半が張る器形。口径14.8㎝。	P20号
2303	Ⅱ群	B3類	イ	口縁。肥厚は端部のみで稜を意識し口唇は外傾。頸部は明瞭ではなく胴が張る。縦位の幅3㎜粗いハケ。口径14.4㎝。	P20号 ③
2304	Ⅱ群	B2類	ア	わずかに外反口縁。肥厚は微弱だが口唇水平で内傾。口径19.2㎝。	P20号
2305	Ⅱ群	B2類	ア	わずかに外反口縁。肥厚は貼付だが端部のみ見られ稜を意識。口径18.0㎝。	P20号
2306	Ⅱ群	B3類	ア	口縁。肥厚は微弱な貼付だが口唇水平。横位ハケ(7本/1.5㎝)。口縁は直立し胴が張る。口径20.0㎝。	P20号 ①
2307	Ⅱ群	B2類	ア	外反口縁。肥厚は貼付により方形の面をもつ。下端にはユビオサエ？	P20号
2308	Ⅱ群	B1類	ア	口縁。肥厚は折り曲げることにより丸みがある口唇をなす。	P20号
2309	Ⅱ群	B3類	ア	口縁。肥厚は微弱だが外面全体に見られ口唇は水平。口縁はやや直立し胴はやや開く。	P20号
2310	Ⅱ群	B3類	ア	口縁。肥厚はほとんどないが口唇は水平。口縁は短く直立し胴部は開く。	P20号
2311	Ⅱ群	B3類	ア	口縁。肥厚はほとんどないが口唇は内傾する面をもつ。口縁は直立し胴がわずかに開く。	P20号
2312	Ⅱ群	B3類	ア	口縁。肥厚はほとんどないが口唇は水平。口縁は直立し胴がわずかに開く。	P20号
2313	Ⅱ群	底部d	ウ？	底部。内底はやや平坦な丸底。少量だが石英のみが目立つ。	P20号
2314	Ⅱ群	底部d	ア	底部。大きく開く丸底。	P20号
2315	Ⅱ群	底部d	ア	底部。丸底。	P20号
2316	Ⅰ群	底部a	-	底部。底径5㎝前後の立ち上がりが明瞭でやや開く平底か。	P20号
2317	Ⅰ群	伊波・荻堂	-	胴部。叉状連点文もしくは長沈線か。外面は縦位ハケ後ナデ消し。内面横位ハケ(8本/1.5㎝)。	P23号
2318	Ⅰ群	大山？	-	口縁。左方向の長さ5㎜で浅めの横捺刻文3対。	P23号
2319	Ⅰ群	大山？	-	口縁。5㎜下がった地点に左方向の2㎜幅の横捺刻文を施した突帯をもちその上位にも同様の文様。	P23号
2320	Ⅰ群	大山	-	胴部。やや3㎜と深めの左方向の横捺刻文2条以上の下に高さ3㎜の突帯を有する。	P23号
2321	Ⅰ群？	壺1	-	直立する口縁。肥厚は端部のみにわずか見られるが口唇は水平。口径5.6㎝。	P23号
2322	Ⅱ群？	B2類	ア・エ？	外反口縁。肥厚は貼付によるが稜を意識し三角形に近い口唇。口縁下端は凹線状。口径13.8㎝。金雲母少量。	P23号
2323	Ⅱ群	B2類	ア	やや外反口縁。肥厚は端部にわずか見られ口唇は水平。	P23号
2324	Ⅰ群？	底部a	-	底部。底径5.8㎝。立ち上がりが明瞭で内底中央が膨らむ平底。	P23号
2325	Ⅱ群	底部b	ア	底部。立ち上がりが緩やかで開く平底。底径4㎝前後か。	P22号
2326	Ⅱ群	底部c	ア	底部。貼付による平底か。底径2～3㎝か。	P23号
2327	Ⅱ群？	底部a・b？	ア	底部。立ち上がりが明瞭な平底。底径4～5㎝。	P23号
2328	Ⅰ群？	底部a	-	底部。内底はやや緩やかで大きく胴が開く平底。底径6.6㎝。	P23号
2329	Ⅰ群？	底部a	-	底部。立ち上がりが明瞭な平底。底径6㎝前後。外面の剥離がひどく二次焼成か？	P23号
2330	Ⅰ群	伊波	-	山形口縁。右方向の段差があまりない押引き文2条。	P24号
2331	Ⅰ群	伊波・荻堂？	-	胴部。左方向の叉状連点文。	P28号
2332	Ⅱ群	B2類？	ア	やや外反口縁。肥厚は貼付により稜を意識する外傾する口唇。口縁帯に幅1㎜の左方向の横捺刻文。	P28号
2333	Ⅱ群	B3類	イ	口縁。肥厚は貼付により端部が尖る。口縁はやや直立し胴部はやや開く。	P28号
2334	Ⅱ群	B2類	イ	外反口縁。肥厚は微弱だが端部が尖り口唇はやや丸い。	P28号
2335	Ⅱ群	B2類	イ	やや外反口縁。肥厚は微弱だが稜を意識する丸みのある口唇。	P28号
2336	Ⅱ群	B1類	エ・オ	口縁。肥厚は貼付により全体的に丸い口唇。混入物がほとんどないが金雲母が少量。口径12.2㎝。	P28号
2337	Ⅱ群	B2類	イ	外反口縁。肥厚は微弱だが稜を意識する丸みのある口唇。口径13.8㎝。	P28号
2338	Ⅱ群	B3・4類？	ア	口縁。肥厚は明瞭な貼付により幅1.2㎝のやや水平な口唇。口縁はやや直立し胴部は大きく張る。口径14.0㎝。	P28号
2339	Ⅱ群	B1類	ア	口縁。肥厚は貼付により方形のやや内傾する口唇。口径18.0㎝。器壁が3㎜。	P28号
2340	Ⅱ群	B1類	ア	口縁。肥厚は貼付により方形で水平な口唇。口径18.8㎝。	P28号
2341	Ⅱ群	B1類	ア	口縁。肥厚は貼付により端部はやや垂下する水平な口唇。口径19.0㎝。	P28号
2342	Ⅱ群	B2類	イ	やや外反口縁。肥厚は端部のみに見られる。外面横位ハケ(5本/1.5㎝)。内面はユビオサエ顕著。	P28号
2343	Ⅱ群	B2類	イ	やや外反口縁。肥厚は微弱だが口唇は外傾し稜を意識する。	P28号
2344	Ⅱ群	B2類	イ	やや外反口縁。肥厚は微弱で口唇はやや丸くわずかに外傾。	P28号
2345	Ⅱ群	B3類	イ	直立する口縁。肥厚は微弱だが口唇は水平。口縁外面はユビオサエによりやや凹み口唇もやや波打つ。胴部は張る。	P28号
2346	Ⅱ群	C類	イ	口縁。口唇は尖り外面全体的に低くカマボコ状に肥厚する。胴部はやや張るタイプか。	P28号
2347	Ⅱ群	C類	イ	口縁。口唇は尖り肥厚は貼付により幅1.5㎝の舌状をなす。胴は直線的か。	P28号
2348	Ⅱ群	B4類	イ	短い頸部のある口縁。肥厚は微弱で稜を意識するが口唇は外傾する水平面をもつ。	P28号
2349	Ⅱ群	底部c	イ・エ？	底部。底径2㎝前後の貼付による平底。金雲母が含まれるが石灰岩も多い。	P28号
2350	Ⅱ群	底部d	イ	底部。器壁が1.0㎝の厚い丸底か。	P30号
2351	Ⅱ群	底部e	イ	底部。やや開く尖底。内底はやや平坦。	P28号
2352	Ⅱ群	底部c	ア・エ？	底部。底径2㎝前後の中央部が貼付によるくびれのある大きく開く平底。金雲母が含まれるが石灰岩も多い。	P28号
2353	Ⅱ群	底部c	イ	底部。貼付によるくびれのある底径3.4㎝の平底。	P28号
2354	Ⅱ群	底部b	イ	底部。器壁が5㎜と薄めで底径4㎝前後の平底。立ち上がりはやや丸みがあり内底は平坦。	P28号
2355	Ⅱ群	底部d	イ	底部。器壁が1.0㎝と厚いゆるやかな丸底。	P28号
2356	Ⅱ群	底部d	イ	底部。器壁が1.0㎝と厚いゆるやかな丸底。	P28号
2357	Ⅱ群	底部d	イ	底部。器壁が5㎜と薄い丸底。	P28号
2358	Ⅱ群	B2類	ア	わずかに外反口縁。肥厚は端部にごく微弱だが口唇は水平。	P28号
2359	Ⅰ群	伊波・荻堂	-	胴部。叉状連点文2条。	P30号
2360	Ⅲ群	喜念Ⅰ	エ	頸部のある口縁。壺形か。斜沈線による綾杉文。	P30号
2361	Ⅱ群	B3類	イ	端部のみをやや外反させる口縁。肥厚は微弱で稜を意識し口唇は外傾する。胴は開く。	P30号
2362	Ⅱ群	B4類	イ	頸部があり胴が大きく開く口縁。肥厚は貼付によるが口唇は外傾する水平面をもつ。	P30号
2363	Ⅱ群	B1類	イ	口縁。肥厚は貼付により丸みのある端部が尖る口唇。	P30号
2364	Ⅱ群	底部d	ア？	底部。胴がかなりすぼまる丸底。	P30号

第４節　石器・石製品

本遺跡より出土した石器・石製品は、破片を含め総数284点である。調査区別の出土内訳は１次地区148点、Ｓ地区50点、Ｐ地区86点となっている。そのうち完形品や残存状態の良好なもの、および特徴的なもの218点を図示した。掲載した資料を含め出土石器・石製品の観察結果は第３表に示した通りである。なお、観察表の石質の項において、() で示したものについては未鑑定である。以下、石器、石製品の順に記述する。その後、各遺構の出土状況について概略する。

１．石器（第101～125図）

石器は１次地区、Ｓ地区、Ｐ地区を合わせて総数269点が得られている。うち器種が判別可能なものは252点で、石斧・敲打器類・磨石・砥石・石皿・ノミ状石器・削器状石器・円盤状石器の８種となっている。

Ａ．石斧

石斧は合計で156点出土している。地区別の内訳は１次地区が76点、Ｓ地区が27点、Ｐ地区が53点となっている。今回出土した石器の中で最も出土量が多く、全体の55％を占めている。現存の状態からすると、両刃と片刃の両方があり、ほとんどが磨製石斧である。石質は緑色片岩、緑色千枚岩を主体とし、他に変輝緑岩や僅かではあるが砂岩も使用されている。石斧については、製作過程において残る痕跡（研磨調整・敲打調整・剥離調整等）と破損形態、大きさなどを元に分類を試みた。以下に分類基準を示す。

（Ａ）　製作過程による分類

Ⅰ類：打ち欠きまたは剥離調整のみで、製作途中あるいは未完の状態と思われるもの。

Ⅱ類：研磨が全体に行き届いているもの。使用による剥落などの破損がみられるものを含む。

Ⅲ類：比較的研磨は全体に及ぶが、一部敲打、剥離などの調整痕や自然面が残るもの。

Ⅳ類：研磨が刃部などごく一部に限られるもの。

Ⅴ類：破損、磨耗などによってⅠ～Ⅴ類のいずれにも属さないもの。

（Ｂ）　破損形態による分類

ａ類：全体に完形を保っているもの。

ｂ類：ほぼ完形に近い形状を保つが、一部僅かに破損のみられるもの。

ｃ類：基端部または刃部が欠失しているもの。あるいはその両方が欠失しているもの。

ｄ類：横折れにより全体の１／３以上が欠失し、基部または刃部、あるいは刃部付近のみ残存するもの。

ｅ類：縦割れにより片側が欠失しているもの。

ｆ類：表あるいは裏面、または両面の剥離が著しいもの。

ｇ類：石斧の一部が剥落した破片。

（Ｃ）　型による分類（基部から刃先までの長軸を基準とする）

Ｓ（小）：　７㎝未満

Ｍ（中）：　７㎝以上12㎝未満

Ｌ（大）：　12㎝以上17㎝未満

本遺跡から出土した石斧は、形態、大きさともにバリエーションが豊富である。これらの石斧の多くは、基部や側縁に自然面や敲打痕を残すⅢ類が多いが、１・９・88・97・106・118・152・161のように研磨が行き届いたⅡ類も一部見られる。一方、量的にはわずかだが、Ⅰ類とした石斧の形態は剥離調整により仕上げられているが、全く研磨が及んでおらず、剥離面及び自然面を全体に残すものもある。ただ、これらが未製品なのかまたは別の機能を有するのか決めがたい。このⅠ類は、その形態からさらに２タイプ見られる。一つは、10・123のように大形で、石斧の形態は剥離により仕上げられているが、刃部側も厚いままのものである。もう一つは、17・110のようにやや小形で厚さ１㎝前後の扁平薄型となっており、上下の縁辺も剥離により先が細く仕上げられている。

形態は、全体的に扁平で撥形に属するものが多いが、これもいくつかバリエーションがあり、いわゆる撥形と言われている刃先がやや直線的で基端部が細くなる三角形状のほか、刃先が丸くカーブし、滴形を呈する

もの、また細長くヘラ状になるものや刃部で細くなる逆撥形まで様々である。83は、断面が楕円形であるが、刃部には明瞭な研磨はされておらず、平面形は中央がやや凹みT字形となっており、典型的な石斧の形態とはなっていない。

大きさに関しては、実用的とは思えないようなミニチュア石斧から刃部のみだが重厚で大型と思われる石斧も出土している。割合としてはやや小型と中型（長軸が７㎝以上12㎝未満）のものが多い。厚みも重厚なものから扁平薄型までみられることから、当時の人々が用途に合わせて石斧の形態を変えながら使用していた可能性も考えられる。使用している石材に関しても、緑色片岩や緑色千枚岩など特定の岩石を用いていることから、加工しやすく粘り強さをもつという岩石の性質を経験的にしっていたことを窺わせるものである。

B．敲打器類

敲打器は破片を含め36点出土している。敲石と凹石の二種類に分けられる。使用されている石材は砂岩が最も多く、次いでチャートや緑色片岩、閃緑岩、安山岩などがある。形態と大きさにより以下に分類した。

（A）平面形態による分類

敲石	Ⅰ類：楕円形状	凹石	Ⅰ類：楕円形状
	Ⅱ類：方形状		Ⅱ類：円形または球状
	Ⅲ類：不定形		Ⅲ類：不定形

（B）型による分類（基準は長軸）

Ｓ（小）：８㎝未満
Ｍ（中）：８㎝以上12㎝未満
Ｌ（大）：12㎝以上

C．磨石

磨石は破片も含め38点得られている。大きさは、長軸が７㎝以下の小型のものから16㎝を超える重厚なものまで様々である。使用されている石材は砂岩が多く、次いで緑色片岩や安山岩、チャートなどがある。磨石についても平面形態と大きさにより以下に分類した。

（A）平面形態による分類

Ⅰ類：楕円形状
Ⅱ類：円形状
Ⅲ類：不定形

（B）型による分類（基準は長軸）

Ｓ（小）：８㎝未満
Ｍ（中）：８㎝以上12㎝未満
Ｌ（大）：12㎝以上

D．砥石

90は砥石で、１次地区包含層より１点のみの出土である。破損により全形は窺えないが、両面に使用痕と思われる深い溝が残る。細粒砂岩製。

E．石皿

石皿は14点得られている。ほとんどが破損し、表面は風化している。そのうち1点が千枚岩を利用したもので、その他は砂岩を利用している。

F．ノミ状石器

ノミ状石器は91・148・160で、３点とも基部上部は欠失しているが、棒状で表面は丸味を帯び裏面はやや平らに形成されている。91・160は小型で、後者は基部に比べ刃部がさらに細くなる形状である。また表面は丁寧に研磨されている。148は残存長軸が８㎝とやや大きめである。形状は前述の２点と類似するが、刃先が平らな面を形成している点で異なる。なめし用など別の用途も考えられる。３点と類似する資料が古我知原貝塚で出土している（沖縄県教育委員会1987）。

G．削器状石器

削器状石器は82・94で、扁平あるいは薄い剥片の一部または周縁を剥離調整し刃状に仕上げていると思われる。形状や大きさから削器（スクレイパー）状だが、表面が風化しており判然としない。２点とも緑色片岩製である。

H．円盤状石器

円盤状石器は157で、Ｐ地区19号遺構より出土している。扁平な自然礫の表面および周縁を打ち欠き円盤状に整形してある。周縁は磨耗しているが、製作直後は鋭利な部分もあったのではないかと思われ、利器的な使用も考えられるが詳細不明である。類似の資料が具志原貝塚（沖縄県教育委員会1997）や地荒原遺跡（沖縄県教育委員会1986）などから出土している。

I．不明石器

石斧の一部と思われる剥片あるいは石器の一部と思われるが小片の為、判別できないものがほとんどである。特徴的なものとして、182は琉球石灰岩に上下斜め（あるいは左右）に大きく孔を貫通させたものである。孔の内面は研磨され滑らかである。外面は特に手が加えられた様子は見られない。錘的な使用も考えられる。N16グリッドⅢ層より出土。

２．石製品（第126図204～218）

石製品は調査区全体で15点が得られている。装飾品の可能性がある有孔石製品と、非常に薄く一端に刃部を形成する小型扁平利器と称されているものの二種類に大別できる。

有孔石製品には、幾つかの形態がある。204～209・214・215は、楕円形に成形してほぼ中央に１つの孔を開けるいわゆる大珠状のものがある。その中でも、207は後述するようにＸ線分析の結果、糸魚川・青海産のヒスイ輝石製と同定されたもので、鰹節状に成形し大きめの孔を穿つ大珠と考えられる（第５章第５節）。破損しているが、ほぼ半分は残存しており、推定全長約４㎝で、ほぼ中央に開けられた孔は1.4㎝前後である。

その他は、この大珠を模倣したものと考えられ、石材は粘板岩、千枚岩、結晶質石灰岩と本島北部周辺で採取できるものである。しかしながら、全長約３～４㎝に対して開けられる孔は0.5㎝前後と小さく、また中央より一端にやや寄っているといった点が異なっている。この大珠状の有孔石製品は、１次地区、Ｓ地区、Ｐ地区で各地区で出土している。しかし、１次８－１・３号で３点とやや集中して出土している。

210は、非常に薄く台形に仕上げられた有孔石製品で、その孔は0.5㎝前後で長辺に平行して一辺に寄って２つ開けられている。

216は、一部欠損しているが、二等辺三角形に近い形で、孔は２つ見られるが、１つは未貫通である。この形態が元来のものであるならば、サメ歯状製品の模倣の可能性も考えられようか。

217は、琉球石灰岩製で扁平な丸玉状に仕上げられている。表面に一部紐ずれのような痕跡が見られる。

211～213と218は、いずれも一端が刃状に成形されている。全体の形状はカミソリのようである。218の資料に関してはどちらかというと石斧に近い。材質も石製品のなかでは一点のみ緑色千枚岩製である。利器など実用品としての用途が考えられる。これらの資料と類似のものがシヌグ堂遺跡（沖縄県教育委員会1985）、地荒原遺跡などで出土している。

３．石材

本遺跡では、数点だが明瞭な石核を含む拳大のチャート95kg、本来磨石などの一部であった砂岩片が77kg、石斧の素材となる緑色片岩が２kg、一方明瞭な加工痕などは見られないが砂岩72kg、粘板岩が３kg、その他の石は８kgが出土している。一方、総重量90.7ｇのチャート、石英の１㎝前後の小剥片が出土している。

４．１次地区出土石器（第101図～第112図、第126図205・207～210・212）

以下、遺構における石器の種類・大きさなどの組成、特徴的なものについて述べる。ここで記載する点数は、図面掲載外も含めており、それらも観察表に特徴を記載している。

２号竪穴（１～８） 石斧は５点で、小型２点、破損のため推定だが大型２点、１点は小片である。磨石は

４点で、小型２点、推定も含め大型２点である。凹石は、中型１点である。
３号竪穴（９～15・103）　石斧は３点で、推定も含め中型１点、大型２点である。ただ、10は粗割でおおよその形は成形されているように見えるが刃部の作成、研磨は全く行われていない。磨石は３点で、小型１点、推定だが中型１点、大型１点である。石皿は破片のみ３点である。
４号遺構（16～18）　石斧は２点だが、１点は破片である。17は周縁を剥離することで薄く楕円形に仕上げているが刃部の成形、研磨はされておらず、別の機能を持つ可能性もある。磨石は１点で小型である。敲石は１点で、本来は磨石で破損した後に使用している。
５号遺構(19～23･210)　石斧は１点だが､破損している｡凹石は３点で､中型２点､推定だが大型１点である｡22は中型だが､側面片方も大きく凹む｡敲石は１点｡23はチャート製で､自然面がほとんど残らないもので､周縁全体に剥離が及び側面片方のみ敲打痕が見られる｡側縁の一辺に連続した敲打痕が見られる｡210は有孔石製品で、孔は２つ開けられている。ただ刃部の成形はなく、利器ではないと思われる。
７号竪穴（24～30）　石斧は２点で、１点が小型である。凹石は２点で、共に断面が方形である。28は1.5㎝と非常に薄く､中央に深さ1.0㎝の大きな凹み､側面にも幅１㎝の溝状の凹みがあり､砥石としての使用か｡29は石皿片、30は大型で楕円形の磨石である。
８－１号竪穴(31・32･36～39･208)　石斧は５点だが､破片が多く､32は敲石に転用している｡磨石は２点で､36はかなり磨り減っている｡敲石２点で、１点は磨石と兼用している｡39は明瞭な凹石である｡208は千枚岩製の有孔石製品である｡
８－２号竪穴（33・40）　Ⅰ群土器の主体の遺構である。33は扁平で刃部があまり開かない石斧である。40は小型の敲石である。
８－３号竪穴（34・35・41・42・ 207・209）　石斧は２点で、35は刃部を敲石に兼用している。41は良く使用されている敲石１点、42は方形に成形した可能性がある磨石である。207はヒスイ輝石製の大珠、209はそれを模倣したと思われる千枚岩製の有孔石製品が出土している。
９号竪穴（43）　43は磨石と思われるが、使用痕が明瞭ではない。
10号竪穴（44・45）　44は厚い基部の石斧、45は小型の磨石で敲き痕も見られる。
13号竪穴（46）　46は石斧である。
14号竪穴（47～53・212）　石斧は７点あり、小型２点で、他は欠損が激しい。磨石３点である。212は小型扁平利器で、非常に薄く仕上げられ、刃部を一辺成形されている。
15号竪穴（54・55）　磨石が２点である。
16号竪穴（56・57）　敲石が２点である。
18号竪穴（58～62）　石斧が５点である。欠損しているが、全て刃部と基部がほぼ同じ幅で細長いタイプである。60は、刃先に敲打痕が見られ非常に激しい使用か転用された可能性が考えられる。また、側縁中央が凹んでいることも、この石斧がやや特異なものであることを示していようか。
21号竪穴（63）　石斧が１点である。
22～24号竪穴（64）　石斧１点である。
26号竪穴（65～69）　石斧１点、磨石２点、凹石１点、石皿２点である。67は磨石だが周縁のほとんどは剥離している。
27号竪穴（70・71・104）　石斧２点である。石皿１点である。
Ⅱ・Ⅲ層ほか（72～90・205）　特徴的なものについてのみ触れる。
82は微調整剥離が周縁に見られる削器か。
83は刃部が明瞭な研磨はされておらず、平面がＴ字形と特異な形態である。
90は不定形で扁平な砥石で、二面に深さ1.0㎝、幅1.5㎝前後のＵ字状の凹みが見られる。類例はあまり見られないが、例えば矢柄研磨器などとされるような、細い棒状のものを研磨したものであろうか。
91は方形柱状の形態で、ノミ状石器としたものである。
95は厚さが１㎝もなく非常に薄く仕上げられており、明瞭な使用痕も見られない。石斧として使用するなら、伐採用ではなく加工用と考えられるのであろうか。

５．Ｓ地区出土石器（第113図～第115図、第126図204・206、213）

石斧27点、磨石10点、凹石３点、石皿２点、敲石２点。小型扁平利器２点、有孔石製品２点、不明石器

２点である。

石斧で特徴的なものとしては、実用しているならば加工用と考えられる非常に小型の105・106や、研磨を施さず扁平薄型に仕上げた110が挙げられる。また、123は剥離のみで厚めの細長形としており、未製品か別用途であろうか。

磨石は、124～129のように、５～７cm前後の小型球形のものが目立つ。敲石は130・131のように上下端のみに見られるものが多い。凹石では、133のように側縁中央、平面中央が凹むものがある。

204・206は有孔石製品で、この地区にも出土している。

６．Ｐ地区出土石器（第116図～第125図、第126図214～218）

Ｐ地区は遺構内の石器はそれほど多くない。Ｐ19号竪穴がやや多い。

Ｐ２号遺構（137～140・174）　石斧が４点ある。敲石１点である。

Ｐ８号竪穴（141～143）　石斧が４点ある。

Ｐ９号竪穴（144）　凹石が１点ある。

Ｐ12号竪穴（145）　石斧が１点ある。

Ｐ15号竪穴（146）　石斧が１点ある。

Ｐ17号竪穴（147・148）　石斧１点、ノミ状石器１点、磨石１点である。148は欠損しているが、方形柱状でやや太めの刃部端部には擦痕が見られるため、加工用であろうか。

Ｐ19号竪穴（149～157･177）　石斧７点、石皿１点、円盤状石器１点である。152は、全体的に光沢が強いが、刃部側に横方向に細長くより強い部分があり、柄の装着痕であろうか。177は石皿で非常に薄いタイプである。

Ｐ23号竪穴（158）　石斧１点である。

Ｐ29号遺構（159）　石斧１点である。

Ⅱ層・Ⅳ層ほか（160～173・178～203）　特徴的なものについて触れる。

182は琉球石灰岩に貫通させており、石錘であろうか。

214・215は有孔石製品で、やはり大珠状形に成形する。

第３表（１）　石器観察表

挿図番号	番号	器種	分類	法量（計測値）/cm.g 長軸	短軸	厚さ	重量	石質	残存状況	観察事項	出土地層位
101	1	石斧	ⅡａＭ	8.7	5.2	2.2	166.8	緑色片岩	完形	全磨製の片刃石斧。特に刃部の研磨は丁寧である。刃先は細かな刃こぼれがあり、刃面には研磨痕か使用痕か判然としないが線条痕が明瞭である。基端部、表裏面ともに部分的に剥離が残されているが使用時のものか。全体としては、基端から側面中央部でくびれ、刃部に撥形状に広がる形態である。側面からみると片面に膨らみをもつ形態で、中央部から刃部にかけ湾曲する。撥形。	2号最下部
101	2	石斧	Ｖd	(7.5)	5.5	2.4	182.8	（緑色千枚岩）	破損	両刃の磨製石斧。横折れにより基部途中から上部欠失。扁平で全体に研磨が行き届き表面は滑らかである。刃先は使用により全体破損している。	2号Ⅲ層60-65
101	3	石斧	ⅢcＭ	(7.4)	4.5	1.6	82	緑色千枚岩	破損	扁平小型の磨製石斧。比較的研磨は丁寧で、表面は研磨痕を残し、裏面に自然面を残す。側面はやや定角に形成。刃先は使用時のものか欠失している。基端部僅かに剥落。撥形。	2号柱穴11下
101	4	磨石	ⅡＳ	6.9	7.0	(3.7)	265	（砂岩）	破損	小型の球状磨石。手のひらに入る程の自然礫を使用している。片側が大きく破損。磨り面の中央がやや窪んでいる。側面には敲き痕あり。表面は若干風化。	2号C最下部
101	5	磨石	ⅢＳ	6.5	5.9	3.5	246.6	緑色岩	完形	扁平小型の磨石。手のひらにすっぽり収まる程の河原石を使用している。使用面は二面で、かなり磨り減り面を形成する。周縁には僅かに敲き痕有り。	2号最下部
101	6	磨石	－	(8.7)	8.3	4.9	560	（砂岩）	破損	磨石の一部。河原石を使用している。使用面が残るのは僅かで、表面の一部及び裏面部分が大きく破損。表面は風化が進み脆くなっている。	2号C最下部
101	7	凹石	ＩＭ	9.6	5.5	4.2	375	（砂岩）	完形	ほぼ完形で小型の凹石。表裏および側面にも使用痕が残る。自然礫を利用。表面は若干風化。	2号柱穴
101	8	磨石	ⅢＬ	14.7	12.0	6.3	1940	（砂岩）	完形	大型で重量感のある磨石である。表面の風化が進んでいるため磨り面は不明瞭だが、両面を使用していたと思われる。周囲には敲き痕が残る。	2号イ・ピット１
－	219	石斧	ＶdＬ	(5.2)	5.0	2.8	112	緑色片岩	破損	石斧片。横折れにより基部上部から下は欠失。基端部及び側面には敲き痕が残る。表面は若干風化している。	2号C・30-35
－	220	石斧	Ｖg	－	－	－	32.4	（緑色岩）	破片	石斧剥片。磨製石斧製作中、若しくは使用時に剥がれたものと思われる。研磨は丁寧で表面は滑らかである。	2号柱穴４下
102	9	石斧	ⅡdＭ	(7.2)	5.2	1.7	113.6	緑色千枚岩	破片	局部磨製の扁平片刃石斧。基部半分より上部は横折れにより欠失。全体的に研磨がかかるが、両側面と刃部の研磨は特に丁寧である。刃部一部破損。撥形。	3号B・Ⅲ層0-10
102	10	石斧	ＩａＬ	12.4	5.5	3.5	380	緑色片岩	完形	石斧未製品か、全体に荒い打ち欠き痕のみである。刃部の形成はなく使用痕は見当たらない。磨製石器途中の荒仕上げか？	3号石皿下

第３表（２）　石器観察表

挿図番号	番号	器種	分類	法量（計測値）/cm.g 長軸	短軸	厚さ	重量	石質	残存状況	観察事項	出土地 層位
102	11	石斧	ⅢcL	(11.1)	5.9	3.6	349	砂岩	破損	全磨製の石斧片。砂岩を使用している。表面は研磨されるが一部自然面を残す。刃部欠損。表裏ともに使用時の際に欠失したと思われる剥離が残る。基端部と側面に敲打調整痕有り。刃部の状態から、何回か研磨調整しては斧として再利用したと思われ、最初の石斧の形状からは、かなり寸づまりになった形になっている。撥形。	3号 ス14 Ⅲ層0-10
102	12	磨石	ⅡＳ	7.0	6.5	7.2	540	砂岩	完形	手のひらに丁度収まる程度の大きさで、ほぼ球体の自然礫を使用。使用面は一面で平らになっている。。表面は風化の為か凸凹しており、一見すると敲打で調整されたようである。	3号 D・35-40
102	13	磨石	ⅡＭ	(8.8)	7.7	5.0	560	（緑色岩）	破損	1/2程度破損。やや扁平な河原石を利用している。使用面は表裏の二面。頭部にわずかだが打痕がみられる。割れ面の一部は摩滅している。	3号 C・20-25
102	14	磨石	ＩＬ	16.3	9.8	4.4	1200	（砂岩）	完形	ほぼ完形。扁平楕円で重量感のある磨石である。使用面は両面と思われるが表面が風化している為はっきりしない。周囲に剥離痕および敲き痕有り。	3号 石皿下
102	15	石皿	—	(9.0)	(9.9)	6.4	660	砂岩	破損	小型の石皿の一部と思われる。断面は三角状を呈し、三面とも使用されている。どの面も左右から中心に向かって凹んでいる。	3号 P・5-10
—	221	石皿	—	(12.2)	(11.3)	6.6	900	（砂岩）	破片	石皿の一部と思われるが、残存部位からは判然としない。使用面は二面と思われ、僅かに窪んでいる。	3号 石皿下
—	222	石皿	—	(13.3)	(13.5)	9.5	1860	（安山岩）	破片	石皿片。かろうじて使用面の一部が残存。使用面は中心が凹んでいる。表面は風化し若干脆くなっている。	3号 石皿下
—	223	不明	—	(5.7)	(4.4)	(1.5)	55.1	（緑色千枚岩）	破片	石器から一部が剥落したものと思われるが、小破片のため詳細不明。	3号B・20-25
—	224	不明	—	(8.0)	3.3	(0.8)	39.1	（緑色片岩）	破片	扁平小型の石斧破片。片面は剥落している。表面は磨耗しており、研磨か自然面かはっきりしない。	3号F・30-35
103	16	石斧	Ｖg	(7.3)	5.7	1.7	120.4	（緑色千枚岩）	破片	裏面に大きな剥離痕及び側面に一部剥離調整痕を残す。石斧の一部が剥落した物と思われるが詳細不明。	4号セ9 Ⅲ層0-30
103	17	石斧	ＩcＭ	8.9	4.2	1.4	83.5	（緑色片岩）	破損	石斧片の一部かあるいは製作途中のものであると思われる。自然礫を利用していると思われ、表面は研磨されているのか判然としない。周囲を楕円状に剥離成形している。一部やや鋭利な部分があることから礫器としての可能性もある。	4号ソ10 Ⅲ層50-55
103	18	磨石	ⅡＳ	7.8	7.2	5.1	425	（砂岩）	完形	片手で握れる程の手頃な河原石を利用。使用面は一カ所のみ。敲き痕などは見られない。	4号 30-40
—	225	敲石	—	6.1	8.7	4.4	395	（砂岩）	破損	全体の1/2欠損。磨石と敲石の両方に使用。敲石として使用したのは破損の後と思われる。磨り面はやや光沢を帯びる。	4号　ソ10 Ⅲ層25-30
103	19	石斧	Ⅲc	(7.8)	5.2	2.4	164.2	緑色千枚岩	破損	扁平な石斧で刃部は欠失。全体に研磨がかかるが自然面を多く残す。基端部と側面は敲打調整痕、また側面には抉りを加えてある。	5号　セ8 Ⅲ層20-25
103	20	磨石	Ⅰ	(7.1)	8.5	4.6	480	（砂岩）	破損	河原石を利用。全体の1/2程度破損。使用痕は表のほうが顕著で、擦り面は光沢を持つほどである。側面及び裏面が一部赤く変色。周囲に敲き痕有り。	5号　セ7 Ⅲ層65-70 内C5A
103	21	凹石	ＩＭ	9.3	5.4	2.9	201.7	砂岩	完形	偏平小型のの凹石で自然礫を使用。凹みは四面に確認できる。上下には敲き痕有り。火を受けたと思われ、表面は赤く変色し非常に脆くなっている。	5号セ8 Ⅲ層70-75
103	22	凹石	ⅢＭ	10.2	6.0	2.2	167.9	片状砂岩	完形	偏平小型の凹石。片面の一カ所に使用痕の凹みが確認できる。側面も両側から凹む形状を呈するが表面はかなり風化しており使用の為か判然としない。	5号 ソ8 Ⅲ層35-40
103	23	敲石	ⅢL	13.2	7.3	4.3	605	（チャート）	完形	使用痕が下部に明瞭に残る。丁度片手で持ち、使用しやすいよう周縁に剥離調整を加えてある。自然面も残るが、露頭あるいは原石から割ったものか。	5号 セ8 Ⅲ層40-45
—	226	凹石	ＩL	13.1	9.2	(4.9)	715	（砂岩）	破損	自然礫を利用した凹石。使用によるものか片面は大きく欠失。形状は楕円形を呈し、残存ずる部分に凹みが確認できる。全体に赤みがかっている。	5号 ソ8 Ⅲ層60-70
—	227	不明	—	(5.4)	5.6	3.3	141.4	（緑色片岩）	破片	石斧の刃部片か。横折れにより基部欠失。表面は凹凸しており風化か敲打調整かはっきりしない。刃先の一部は破損している。	5号 ソ8 Ⅲ層15-20
—	228	不明	—	—	—	—	33.7	（緑色岩）	破片	石斧の表面の一部から剥離した破片で僅かに研磨痕を残す程度である。一部に石斧の側面部が残る。研磨と剥離調整痕が確認できる。	5号 セ8 Ⅲ層20-25
—	229	不明	—	(7.5)	4.5	(1.8)	86.1	（緑色千枚岩）	破損	石斧の基部片。刃部は欠失。基端部、側面に敲き痕有り。表面は磨耗しており研磨は不明瞭。裏面は自然剥離面を残す。	5号 ソ7 Ⅲ層30-40
104	24	石斧	ⅢcＭ	9.6	4.4	2.0	144.5	緑色片岩	破損	扁平小型の両刃石斧。頭部(表)剥離痕を残す。中央から先端にかけて研磨痕が形成されているが大半が欠損。基端部、両側面は敲打調整痕がみられる。使用時のものか刃部欠損。撥形。	7号 床面
104	25	石斧	Ｖc	(8.0)	6.1	2.7	242.1	（緑色千枚岩）	破損	石斧基部片。両面とっも大部分剥落しているが、残存する面の研磨は丁寧である。基端部、刃部先端ともに欠損。破損の後敲石に転用したと思われ、上下部分ともに敲きによって潰れている。	7号 D・50-55
104	26	凹石	Ⅱ	(7.1)	6.9	5.3	360	（砂岩）	破損	凹石の破片。全体の1/2欠損。使用痕が確認できるのは一カ所のみで、他は表面が風化しているため判然としない。凹みは不明瞭。	7号 床面
104	27	凹石	ⅡＳ	7.0	4.1	3.6	176.8	（砂岩）	完形	長軸が5cm程の小さな凹石である。自然礫を使用。火を受けたのか表面は赤く変色し脆くなっているが、両面の凹みは比較的明瞭である。	7号 チ15 Ⅲ層20-30
104	28	不明	—	10.8	8.2	1.5	286.8	片状砂岩	破損	厚みは1.5cm程度で、破損している為全形は不明。中央部分に擂鉢状に凹みが残る。凹みの片側には不明瞭であるが、幅1cm程の浅い溝が走っている。砥石的な要素をもったものか。詳細は不明である。	7号 B7 50-55
104	29	石皿	—	(10.2)	(8.5)	8.6	980	（安山岩）	破片	石皿の一部。残存部は磨り面のみで、表面は風化が進み脆い。底にあたる部分は平面を形成するが自然面のようである。	7号 F1 20-30
104	30	磨石	ＩL	13.0	8.3	5.4	920	（緑色岩）	破損	一見石斧の基部のような形状を呈するが、自然礫を利用した磨石のようである。使用面は両面で、下部の割れ面は石灰が付着し白くなっている。	7号 床面
105	31	石斧	ⅣbＭ	8.6	4.4	2.4	132.1	緑色千枚岩	破損	小型の石斧で基端部で最も細くなる形状である。研磨は刃部付近のみで基部には一部自然摩滅痕を残す。刃部は二、三刃こぼれがあるが比較的保存状態が良い。使用時のものかサイドは大きく抉れたように破損。撥形。	8-1号 D・0-5

第３表（３）　石器観察表

挿図番号	番号	器種	分類	法量（計測値）/cm.g 長軸	短軸	厚さ	重量	石質	残存状況	観察事項	出土地 層位
105	32	石斧	Ⅴc	(7.3)	6.1	4.0	303.8	緑色片岩	破損	石斧の基部の一部。破損した後敲石に転用したと思われ、上下に敲打による潰れが確認できる。上下の割れの部分以外は研磨面が残る。	8-1号 C・10-40
―	230	石斧	Ⅴg	(7.0)	(3.6)	―	29.4	（緑色千枚岩）	破片	表面は研磨されているが裏面は自然剥離面を残す。非常に薄く、裏面の状態から石器の一部から剥がれ落ちたものと思われる。	8-1号 B・25-30
―	231	石斧	Ⅴd	(8.4)	(5.4)	2.7	196.9	（緑色岩？）	破損	石斧片。基部が斜めに折れ、刃部は欠失している。研磨が行き届き側面は面を形成している。基端部は敲打調整痕が残る。	8-1号 A・25-30
―	232	石斧	Ⅴd	―	―	―	14.4	（緑色片岩）	破片	小型石斧の刃部片。残存部は僅かで、かろうじて両刃ということが確認できる。先端部に研磨痕を残す。表面は風化している。	8-1号 F3 30-40
―	233	石斧	Ⅴg	―	―	―	33.3	（緑色片岩）	破片	石斧の刃部付近から一部剥落したもの。研磨がかかるが僅かに自然面も残る。剥片のため詳細不明。	8-1号 テ14 Ⅲ層0-10
105	33	石斧	ⅣbM	7.8	5.3	1.7	126.2	（緑色片岩）	完形	扁平小型の石斧。研磨は刃部のみで他は剥離調整によって整えられている。側面に浅く抉りが残る。刃部に刃こぼれ有り。撥形。	8-2号 B・20-25
105	34	石斧	Ⅲc	(5.8)	3.1	1.9	62.6	緑色片岩	破片	小型石斧の基部片と思われるが両側面の作りが全く異なっている。片方は面を持ち、丁寧に研磨され平らであるがもう一方は敲き痕のみである。表裏面とも研磨されている。基端部は一部剥落。撥形。	8-3号 床面
105	35	石斧	Ⅲd	(7.7)	5.8	4.2	362.8	緑色片岩	破損	基部から横折れし頭部は欠失しているが残存部から推測すると、重厚で大型の石斧であったと思われる。研磨は丁寧だが一部自然面を残す。破損の後転用したと思われ、刃先及び上部は敲打により潰れている。短冊形か。	8-3号 床面
105	36	磨石	ⅢM	8.4	6.6	4.2	314.8	砂岩	完形	小型の磨石で河原石を使用している。使用面は二面で、使用頻度が高かったと思われ、だいぶ磨り減り平面を形成している為稜線がやや明瞭である。	8-1号 A・25-30
105	37	磨石	Ⅰ	(7.7)	8.6	4.0	440	（砂岩）	破損	自然礫を使用。1/2程度破損。使用面は表裏の二面である。一部が大きく剥離。全体にやや赤みがかっている。	8-1号 C・0-10
105	38	敲石	ⅠM	8.6	6.6	5.7	515	チャート	完形	片手で握れる程の手頃な河原石を使用。やや卵形に近い形状。使用痕は上下、周囲の五カ所に確認できる。	8-1号 A・25-30
―	234	敲石	―	13.8	8.4	6.0	1045	（砂岩）	破損	河原石を使用。片側が全体の1/4程度欠失。磨石と敲石の両方に使用している。磨り面は一カ所、敲き痕は三カ所に確認できるが、表面が磨耗しているため明確には判断し難い。	8-1号 D6・0-30
105	39	凹石	ⅠM	10.0	7.7	5.5	780	（砂岩）	完形	手頃な大きさの自然礫を利用している。使用痕である凹みは表裏、側面の四カ所に認められるが表裏の凹みは特に深い。表面は風化が進んでいる。	8-1号 A・25-30
105	40	敲石	ⅢS	7.0	6.3	4.0	240	（チャート）	破損	手のひらにすっぽり入る程の小さなチャートの河原石を使用。敲き痕は上下の二カ所に残る。	8-2号 表採
106	41	敲石	ⅢM	9.7	7.0	6.5	705	チャート	完形	手頃な河原石を利用している。使用頻度は高かったと思われ、上下の使用痕が明瞭である。平面観はコーンの粒状である。	8-3号 床面
106	42	磨石	ⅠL	12.3	7.7	4.3	680	砂岩	完形	扁平な河原石を使用。表裏面の磨り面の角度によって、全体にひねったような形状である。周縁には敲き痕が残るが、一見礫を方形に整える為の調整痕の印象を受ける。両面中央に浅い凹み有り。	8-3号 床面
106	43	磨石	ⅠL	12.5	9.2	5.0	880	砂岩	完形	扁平楕円の自然礫を使用。表面は風化が進み脆くなっている。使用痕は不明瞭。	9号 床面
106	44	石斧	Ⅲd	(10.3)	6.0	3.9	420	（緑色岩）	破片	石斧の基部片。基端部に僅かに敲き痕があるが研磨は丁寧で全体に及ぶ。撥形か。	10号 A・0-5
106	45	磨石	ⅡS	6.5	6.2	5.6	385	緑色岩	完形	小型の磨石で球状の自然礫を利用している。使用面は一カ所で、その周囲に敲き痕が残る。	10号 A・0-5
106	46	石斧	Ⅳd	(8.7)	5.2	2.4	157.1	（緑色千枚岩）	破片	石斧刃部片。刃部のみ研磨され研磨痕が明瞭に残る。両側面には剥離調整痕と敲き痕が確認できる。使用後再研磨したのか刃線に歪みが見られる。残存形態より推測すると基部に向かって広がる逆バチ形か。	13号 ホ・マ・15・16
106	47	石斧	Ⅳc	(7.5)	3.7	(1.8)	73.3	（緑色片岩）	破損	小型の石斧で表裏面とも刃部に僅かに研磨痕が残されており、全体に自然剥離面が残る。側面には剥離調整痕が残る。刃縁は丸くカーブする形状。短冊形。	14号 B4 30-40
106	48	石斧	ⅣaS	4.4	1.8	0.6	8.2	粘板岩	完形	ミニチュア石斧。刃先幅2mm程度を研磨している。基部上部に剥離調整によって僅かに抉りを形成している。石質そのものは脆い。撥形を呈する。	14号 50-60
106	49	石斧	ⅢcS	(5.6)	4.6	1.9	70	緑色片岩	破損	小型の石斧で、基端部に打ち欠き痕が残る意外は比較的丁寧に研磨されている。両側面に僅かに抉りを形成。微細な刃こぼれ有り。基部、刃部ともに僅かに欠損。	14号 地山上
106	50	石斧	Ⅴd	(6.0)	5.2	1.9	96	（緑色岩）	破損	刃部だけを残し、基部、基端が欠失している。刃部には表裏面ともに研磨調整痕と思われる細い線条痕を刃部に沿って横あるいは斜めに残す。二、三小さな刃こぼれ有り。刃部ははっきりとは刃面を形成しているわけではないが、何面か平らな面が確認される。刃縁は丸くカーブしている。	14号 地山上50-60
106	51	石斧	Ⅱc	(5.4)	4.1	1.9	78.7	緑色片岩	破片	基部中央から基端部にかけて欠失しているが、研磨が行き届き均整のとれた形状である。側面の稜線もやや明瞭。刃部に刃こぼれ有り。使用痕か若しくは製作痕と思われるものが刃面に残るが表面が若干風化している為判然としない。撥形。	14号 B・0-5
107	52	磨石	ⅠL	15.3	9.8	4.4	1060	（砂岩）	破損	自然礫を使用。周囲および側面が若干剥離している。表面は風化しており使用痕は明瞭ではない。使用面は一面で敲き痕も残る。敲石兼用。	14号 地山上50-60
107	53	磨石	ⅡM	11.0	8.7	4.5	600	（砂岩）	破損	扁平で、やや卵形の手頃な河原石を使用。火を受けたのか全体に赤く、状態も脆くなっている。表面は風化している為、使用痕ははっきりしない。	14号 ム16 Ⅲ層20-25 E2
―	235	石斧	Ⅲe	7.4	(2.1)	1.9	54.5	（緑色岩）	破損	両刃の磨製石斧片。基部から刃部まで幅1cm－2cm程が残存している。側面と刃部が研磨され、他は自然面が残る。やや小型の石斧と思われる。	14号 西壁
―	236	磨石	―	(6.6)	10.5	4.2	555	（緑色岩）	破損	磨石片。1/2程度破損。扁平な河原石を用いている。使用面は二面で頭部付近に使用痕が観察できる。周縁に僅かに敲き痕も確認できる。	14号 地山面50-60
107	54	磨石	ⅡS	6.9	5.7	4.4	244.9	（砂岩）	完形	卵形の小さな河原石を使用。一部赤く変色している。使用痕は明瞭ではないが、周縁に敲き痕も確認できる。敲石兼用か。	15号

第３表（４）　石器観察表

挿図番号	番号	器種	分類	法量（計測値）/cm.g 長軸	短軸	厚さ	重量	石質	残存状況	観察事項	出土地 層位
107	55	磨石	ⅡＭ	8.0	7.0	4.2	327.2	砂岩	完形	やや小型の磨石。側面に若干剥離痕。表面は風化が進んでいる為使用痕は不明瞭。	15号
107	56	敲石	ＩＭ	9.5	5.3	4.4	346.4	（砂岩）	完形	細長く手のひらにすっぽりと収まる大きさである。自然礫を使用。上下に使用痕が確認できる。	16号
107	57	敲石	ＩＬ	12.2	7.2	5.9	865	（砂岩）	破損	やや大きめの自然礫を使用。一部破損している。使用面は上部、一側面、表面の三カ所。	16号 ホ 0-15
108	58	石斧	Ⅱｄ	(3.5)	3.0	1.8	34.9	片状砂岩	破損	小型両刃の磨製石斧。基部のほとんどを欠失しているが、研磨が非常に丁寧である。刃縁は僅かに偏りがみられるが、実用品ではない可能性もある。	18号 A・25-35
108	59	石斧	ⅤcＭ	8.5	4.7	1.5	138.7	（緑色片岩）	破損	扁平両刃の磨製石斧。全体に研磨がかけられているが、裏面は自然剥落がある。頭部および刃部欠損。撥形。	18号 A・10-15
108	60	石斧	ⅢａＭ	9.2	3.7	2.2	122.9	（緑色片岩）	完形	やや細身の磨製石斧である。基端部、刃部ともに潰れ凹状を呈している。両側面は中央付近で大きく抉れており、敲打痕も確認できる。撥形。	18号 床面
108	61	石斧	ⅡcＭ	(10.6)	4.6	2.8	256.1	（緑色千枚岩）	破損	全体に研磨の行き届いた石斧。片面に膨らみをもつ。基端部は潰れ、刃先は欠失。表裏面ともに擦痕状のものを残すが、使用痕かははっきりしない。残存部から推測するとやや片刃的である。撥形。	18号 A・5-10
108	62	不明	Ⅴｄ	(6.5)	5.3	3.0	140.7	（砂岩）	破損	石斧の基部片とも思われるが、やや特異な形状である。半分以上欠失の為詳細は不明。裏面は平で断面形が蒲鉾状を呈する。	18号 B・ヤ16 15-25
108	63	石斧	Ⅲｄ	(8.5)	4.9	3.0	196.9	（緑色片岩）	破片	研磨は比較的全体に及ぶが、表裏面とも一部自然面を残す。基端部付近は一部剥落。刃部は斜めに欠失している。撥形か。	Ｓ地区21号 Ｉ・J断面
108	64	石斧	ⅢeＭ	9.7	(4.4)	2.8	165.9	（緑色岩）	破損	片側が大きく欠失している。裏面の剥落が著しい。刃部は潰れている。撥形。	22～24号 池地区南
108	65	石斧	Ⅳｇ	(7.8)	5.3	(1.4)	94.9	（緑色片岩）	破片	刃部剥落片。刃部に研磨痕を残し、刃先は部分的に小さな刃こぼれを残す。側面は片方のみ定角に成形。刃部表面は、刃縁に平行し細かな線状痕を残す。撥形。	26号 モ8A 10-20
108	66	磨石	―	(6.6)	9.1	4.8	485	（砂岩）	破損	1/2程度破損。自然礫を使用し、擦り面は二面でやや光沢を持つ。上部に敲打痕あり。敲石兼用。	26号 A1 0-5
108	67	磨石	ＩＭ	11.6	8.5	4.4	755	（砂岩）	完形	扁平、楕円形の自然礫を使用。使用痕が確認できるのは一面で、他は風化の為か表面は凹凸している。	26号 モ7A 20-30
109	68	凹石	ⅡＭ	8.2	6.1	4.6	440	砂岩	完形	小型の凹石で、丁度手のひらに収まる大きさ。平面、断面形は方形。使用面は両面、両サイドの四面。表面は火を受けたのか若干赤く、脆くなっている。	26号 モ7 10-20
109	69	石皿	―	(8.9)	(10.2)	4.6	800	（砂岩）	破片	表面はかなり風化しており、使用部分が僅かに残存するのみでほかは破損。元の形態は不明だが小型の石皿か。	26号 最下
―	237	石皿	―	(11.3)	(9.5)	(5.2)	820	（砂岩）	破片	小型の石皿片か。使用面を含め表面はかなり風化しており、割れの部分と元の面との区別が難しい。使用面は中心に向かって凹んでいる。	26号 B3 0-5
109	70	石斧	Ⅴｄ	(4.9)	4.4	2.1	70.1	緑色片岩	破損	表裏面ともに研磨されている。基部は欠失し、刃先も破損。表面は風化が進み、若干脆くなっている。	27号 C2 5-10
109	71	石斧	ⅣcＭ	8.7	3.8	1.8	98.3	（緑色千枚岩）	破損	両刃の磨製石斧。ほぼ自然面を残すが研磨は丁寧で光沢をもつ。刃部の残りは良好で刃縁に対して垂直に細かい線条痕が確認できる。裏面に大きな剥落痕がみられる。撥形。	27号 B・5-10
109	72	不明	―	(6.1)	(2.5)	2.4	44	（緑色片岩）	破損	小型石斧の基部かと思われるが詳細不明。残存部下部は断面をみると比較的厚みがある。上部にかけて細く、薄くなっている。表面は研磨され、裏面と側面は打痕が残る。	ヤ15 Ⅱ層30-40
109	73	石斧	Ⅴｃ	(5.0)	3.0	1.5	38.7	（緑色千枚岩）	破損	小型扁平石斧の基部片。表面は磨耗しているが、基端、側面ともに面を形成している。撥形。	モ8 Ⅱ層30-40
109	74	石斧	Ⅴｄ	(3.3)	(3.0)	1.3	19.7	（緑色片岩）	破片	小型の両刃磨製石斧。刃部のみ残存、刃部も1/4程度破損。刃部の研磨は丁寧。	ヤ14 Ⅱ層30-40
109	75	石斧	Ⅴｄ	(4.2)	4.1	1.6	51	（緑色千枚岩）	破片	扁平でやや小型の石斧刃部片。研磨が行き届き刃部の形成は丁寧である。片刃で刃縁に偏りがある。裏面は自然面が残る。	ソ8 Ⅱ層30-35
109	76	石斧	ⅣcＳ	5.9	4.3	1.3	61.9	（緑色千枚岩）	完形	扁平で小型の石斧。刃部と表の一部を研磨している。両側面には敲打調整痕が残る。撥形。	セ9 Ⅱ層10-20
109	77	石斧	ⅢcＭ	7.6	5.3	2.8	170.7	緑色片岩	完形	平面観が滴形をした小型の石斧である。基端部で最も厚くなる。研磨は刃部に一部残るのみ。両面及び側面に敲打痕が残る。刃先は潰れている。撥形。	モ8 Ⅱ層20-30
109	78	石斧	ⅤcＳ	6.7	4.0	(1.8)	65.6	（緑色千枚岩）	完形	表裏面ともに全体に研磨痕を残すが、刃部の研磨は徹底している。基部に膨らみをもち刃部は蛤刃を形成。基端部欠失。裏面は大きく剥落。撥形。	モ8 Ⅲ層0-10
109	79	石斧	ⅣcＭ	7.7	4.1	1.4	79	（緑色岩）	破損	裏面は自然面の状態から、石器の一部が剥落したものを再利用か。表に一部研磨面と思われる部分が残るがはっきりしない。表面は研磨痕を残し、基端部、両側面は剥離調整痕が残る。撥形。	モ12 Ⅲ層0-10
109	80	石斧	ⅣｆＭ	8.3	4.3	2.3	122.9	（緑色片岩）	破損	小型石斧。刃部でやや薄く基端部で最も厚くなる。刃部に一部研磨面が残るが他は剥落した部分と自然面が残る。基端部と側面に敲打痕。撥形を呈する。	モ14 Ⅱ層0-20
109	81	石斧	ⅣcＭ	7.7	4.6	2.2	114.4	（緑色千枚岩）	完形	小型石斧。先端刃部に研磨痕を残す。全体的に自然剥離を残し、刃部、基端部ともに欠損。両側面には敲打調整痕が残る。基部上部左右に抉りがある。撥形。	タ15 Ⅱ層0-10
109	82	削器？	―	(5.0)	4.6	1.7	59.9	緑色片岩	破損	表面と裏面先端部分に研磨痕を残す石器片。石斧の刃部を再利用したものか、周縁にわずかに剥離調整がみられることから削器(スクレイパー)的な使用も考えられるが、表面が風化しておりはっきりしない。	メ14 Ⅱ層0-20
110	83	石斧	ⅣcＭ	8.5	5.1	2.0	168.6	（緑色片岩）	破損	扁平な石斧で全体的に粗製である。裏面は殆ど自然面。全体的に側面に抉りの入った石斧の形態を呈しているが、基端部、刃部の形成はなし。周囲には敲打痕があり、下部は凹状にへこみを形成。	Ⅲ層0-15
110	84	石斧	ⅢcＬ	12.4	5.7	3.2	384.8	緑色千枚岩	完形	全体に研磨された両刃石斧である。刃部は比較的鋭利に形成され、頭部には打欠痕を残す。刃部には研磨痕、両側面には敲打調整痕が残る。撥形。	フ16 内
110	85	石斧	Ⅲｃ	(12.8)	6.4	3.4	480	（緑色千枚岩）	破損	表面は研磨痕を残す。裏面はほぼ全体に剥離している。頭部、刃部欠損。	セ10 Ⅱ層10-20

第３表(５)　石器観察表

挿図番号	番号	器種	分類	法量（計測値）/cm.g 長軸	短軸	厚さ	重量	石質	残存状況	観察事項	出土地 層位
110	86	石斧	Ｖd	(6.6)	6.8	2.0	144.5	（緑色片岩）	破片	扁平でやや大型の石斧刃部片である。先端部に研磨痕を残す。薄い石斧であるが刃部のみの為、詳細不明。	セ15 Ⅲ層10-20
110	87	石斧	ⅢeM	9.4	(4.3)	3.3	219.3	（緑色千枚岩）	破片	基端部を除き、全面研磨の石斧である。刃部から基端部にかけて斜めに破損している。基端部には敲打痕がみられるが破損の後の使用によると思われる。上部で最も厚く、刃部にかけて僅かに薄くなる。短冊形。	Ⅲ層10-20
110	88	石斧	ⅡａM	10.5	5.7	3.1	316.7	緑色千枚岩	完形	均整のとれた全磨製石斧。やや扁平で平面形、断面形ともに楕円を呈する蛤刃石斧。研磨の際、いくつかの面が残る。頭部に摩滅痕を残し、使用中の際の自然剥離痕が残る。刃部には刃こぼれがあり、使用の際のものと思われる。	ス13 Ⅱ層10-20
110	89	敲石	ＩＭ	8.0	5.1	3.2	212	（チャート）	完形	小型の河原石を利用している。上下の二カ所に僅かに敲き痕が確認できる。	ソ6 Ⅲ層10-30
110	90	砥石	—	(8.4)	(9.2)	2.5	228.5	細粒砂岩	破損	表面は磨耗しており全形は窺えない。両面に使用痕の深い溝が残る。	ト15 Ⅲ層10-15
—	238	石斧	ＶfM	8.3	4.2	(1.4)	78	（緑色千枚岩）	破損	刃部のみ研磨された扁平小型の石斧。表裏面とも大きく剥離している。基端部と側面には細かな剥離調整痕が残る。製作途中で廃棄されたものか。撥形を呈する。	ヤ16 Ⅱ層20-30
—	239	石斧	Ｖd	(3.7)	3.9	2.3	51.6	（緑色片岩）	破損	石斧の基部片。基端部付近のみ残存。表は研磨され、裏は一部剥落している。	モ15 Ⅱ層20-25
—	240	石斧	Ⅳd	(6.2)	4.7	1.9	109.6	（緑色片岩？）	破片	扁平磨製石斧の基部片。表面は所々剥離しているが、研磨により基端部と側面はやや面を形成する。表裏面の研磨は徹底されておらず、剥離調整および自然面が残る。撥形か。	モ13 Ⅱ層10-20
—	241	石斧	—	(9.5)	(5.4)	(3.7)	272.6	（緑色千枚岩）	破片	石斧の一部と思われるが、表面に一部研磨痕がみられる他は自然剥離面となっており判然としない。僅かに敲き痕も観察できる。	ソ7 Ⅱ層30-35
—	242	石斧	Ｖc	6.4	(2.8)	2.1	41.2	緑色千枚岩	破損	幅の狭い細身の小型石斧片。刃部付近残存。片面は大きく剥離している。表面は磨耗しており研磨は不明瞭。刃こぼれ有り。	ツ15 Ⅱ層10-20
—	243	石斧	Ｖf	(6.2)	(4.3)	2.0	91.5	（緑色千枚岩）	破損	小型の石斧片。表裏ともに研磨痕を残すが全体に剥離が目立つ。刃部付近大きく剥落。基端部、側面には敲打調整痕、両側面には抉りを残す。	セ8 Ⅱ層20-30
—	244	石斧	Ｖd	—	—	—	10.7	（緑色千枚岩）	破片	石斧破片。刃先部分だけを残し破損。先端部に擦痕有り。小片の為詳細不明。	ス15 Ⅱ層0-10
—	245	石斧	Ｖd	—	—	—	7.4	（変輝緑岩）	破片	石斧の刃部片。刃部片側部分から剥離したもの。丁寧に研磨されているが小片の為、形態等は不明。	モ16 Ⅲ層15-20
—	246	石斧	—	(8.4)	(4.7)	(1.5)	93.6	（緑色千枚岩）	破片	石斧の表面から一部剥落した破片と思われる。表に研磨面が残るが小片の為、詳細不明。	モ9 Ⅲ層0-10
—	247	不明	—	7.9	(3.2)	(1.1)	39.2	（緑色千枚岩）	破片	全体に細長い楕円形を呈する。薄い剥片の周囲を剥離調整している。器種、用途ともに不明である。	ス15 Ⅲ層0-10
—	248	不明	—	—	—	—	90.1	（緑色片岩）	破損	表面に研磨痕を残す石器片。剥片のため詳細不明である。	モ5 Ⅱ層30-45
111	91	ノミ状石器	—	(5.6)	2.7	1.7	46.3	緑色片岩	破損	細身で刃部の幅も小さく鑿を思わせる形状である。裏面は平で表は膨らみ、断面形はやや台形になる。刃部と両側面を研磨している。	マ16 Ⅰ
111	92	石斧	ＶcS	(6.1)	4.1	1.2	49.5	（緑色千枚岩）	破片	扁平小型の磨製石斧。裏面先端部のみに研磨痕を残し、両側面には剥離調整痕が残る。基端部欠失。撥形。	ツ15 Ⅰ
111	93	石斧	ⅣcM	6.9	3.9	1.6	72.5	（緑色片岩）	破損	扁平小型の石斧。表裏面とも刃部のみに研磨の痕があり、全体は自然面を残す。全体に荒い打ち欠き痕があり、表面は一部赤く変色している。刃こぼれ有り。撥形。	ホ15 Ⅰ
111	94	削器？	—	4.6	4.3	0.9	32	緑色片岩	破片	先端部分に僅かに研磨痕を残し、裏面は自然面を残す。薄い剥片の周囲を打ち欠いている。削器としての用途も考えられる。	へ15 Ⅰ
111	95	石斧	ⅣbM	8.2	4.9	0.8	69.3	（緑色千枚岩）	完形	基端部から刃部にかけて一様に薄く仕上げられた石斧である。研磨は刃先のみで、両側面は敲打調整により整えられ、抉りを形成する。使用痕は確認できない。撥形。	表採
111	96	石斧	ⅢcL	13.8	5.7	3.4	460	変輝緑岩	破損	ほぼ全体に研磨を加えた石斧。基端部及び裏面が大きく剥落し、刃部は潰れ偏刃である。側面は敲打調整によって抉りを形成。撥形を呈する。	表採
111	97	石斧	ⅡcL	13.4	6.4	3.3	460	緑色片岩	完形	両刃の磨製石斧。研磨は全体に及ぶと思われるが、所々摩滅している。基部は剥離痕が残る。両側面に敲打痕有り。刃部は僅かに刃こぼれしている。撥形。	表採
111	98	石斧	ⅣfM	7.7	3.6	1.4	60.3	（緑色千枚岩）	完形	扁平小型の石斧。表裏面は剥離、基端部と側面は敲打調整によって成形されている。研磨は刃部のみで、刃こぼれ有り。撥形。	不明
111	99	石斧	ⅣcL	16.0	6.3	2.7	414	砂岩	破片	偏平な石斧で全体に自然面を残し、先端部分に僅かに研磨痕を残す。刃部僅かに破損。表面は若干風化し赤く変色している。撥形。	不明
111	100	敲石	ＩＭ	10.3	7.6	4.7	585	（砂岩）	完形	扁平楕円の自然礫を利用している。表面は風化しているが、ほぼ全面に敲打痕が確認できる。	不明
—	249	石斧	Ｖd	(4.6)	4.0	2.2	76.8	（緑色片岩）	破片	石斧の基部片。基部途中から下は横折れにより欠失。両面は研磨され基端部及び側面には敲打調整が残る。	マ16 Ⅰ
—	250	石斧	Ⅲd	(5.9)	4.7	3.0	144	（緑色片岩）	破損	石斧の基部片。基端部一部剥落。横折れにより基部途中から下は欠損。全体に研磨がかかるが側面には敲き痕も残る。	メ14 Ⅰ
—	251	石斧	ⅣcL	13.7	6.3	3.5	484	（緑色片岩）	完形	石斧片。基端部、刃部ともに欠失。基部の研磨は徹底していない。一部自然面が残る。側面には敲打調整痕と小さな摩滅痕有り。破損品か。撥形。	表採
—	252	石斧	Ｖd	(2.4)	(2.6)	(1.3)	9.2	（緑色岩）	破片	ミニチュア石斧の刃部片。先端部だけを残し破損。刃部に摩滅痕を残す。研磨は比較的丁寧である。刃先は尖っておらず平らである。	表採
—	253	石斧	Ｉc	(9.1)	5.4	(1.0)	90	（緑色千枚岩）	破片	全体に荒い打ち欠きで仕上げられた薄い石斧である。刃部は欠失。表裏とも刃部近くに研磨痕が残るが、ほぼ打ち欠きと自然面である。撥形。	不明
—	254	石斧	Ｖd	(3.6)	3.5	1.5	30.3	（緑色片岩）	破片	石斧の基端部付近の破片。残存部からすると扁平小型のようである。側面と表の一部を研磨。側面はやや定角に形成。	不明

第３表（６）　石器観察表

挿図番号	番号	器種	分類	法量（計測値）/cm.g 長軸	短軸	厚さ	重量	石質	残存状況	観察事項	出土地層位
―	255	石斧	Ｖd	―	―	―	4.7	（緑色千枚岩）	破片	石斧の刃部片で、扁平小型で薄い。研磨面が僅かに残る。側面は研磨によりやや面を形成する。	不明
―	256	不明	―	10.0	5.4	2.4	195	（緑色千枚岩）	破片	打製石斧？。上部は大きく剥離。側面には剥離と敲打調整痕らしきものが残るが、残存形態からは石斧かどうか判別し難い。表面の一部は赤く変色。	不明
112	101	磨石	ＩＭ	10.8	8.2	5.3	595	（安山岩）	完形	扁平で卵形の自然礫を使用。表面は風化しており軽石のような様相を呈する。そのため使用痕は不明瞭である。	不明
112	102	敲石	ⅡＭ	10.1	8.8	(3.6)	580	（砂岩）	破損	扁平円礫を使用している。下部および裏面が破損。周囲には打痕が残る。凹みかたは僅かで、片面に擦り面も確認できることから磨石からの転用か。表面は若干風化している。	表採
112	103	石皿	―	(23.6)	24.4	19.6	11.96 (kg)	（砂岩）	破損	大型の石皿で全体の1/3程度破損している。表面は風化しているが使用面の凹みは比較的明瞭。	３号
112	104	石皿	―	(22.8)	24.0	14.8	17.72 (kg)	（砂岩）	破損	大型の石皿で全体の約1/2は欠損。使用面は一面と思われるが、底にあたる部分に溝状に凹みが走る。自然の割れと思われるが表面が風化しており判然としない。	27号
113	105	石斧	ⅣａＳ	4.0	2.7	0.7	11.3	（粘板岩）	完形	刃部のみ研磨されている。表面は僅かに風化し、脆くなっている。今回出土した石斧のなかでは最小である。撥形。	Ｓ地区1
113	106	石斧	ⅡａＳ	5.9	2.3	1.3	22.8	粘板岩	完形	全体に研磨がかかると思われるが、磨耗のため不明瞭。表裏面とも先端部に研磨痕、擦痕が見られる。撥形。	Ｓ地区3
113	107	石斧	ⅣａＳ	6.2	2.9	1.2	63.2	緑色千枚岩	完形	ほぼ完形の両刃石斧。先端部から内側1.5cm間に研磨痕を残す。両側面には剥離調整と抉りを残す。基端部が僅かに細くなる。撥形。	Ｓ地区4 Ⅱ層20-30
113	108	石斧	Ⅲe	8.1	(3.1)	1.4	58.9	（片状砂岩）	破損	表側は全体に研磨を残し、裏側は刃先付近に研磨痕を残す。全体としては薄く未完のようである。縦割れにより片側1/3欠失。使用時のものか刃こぼれあり。	Ｓ地区1 Ⅲ層0-10
113	109	石斧	ⅣfＭ	7.5	3.7	1.8	83.2	緑色千枚岩	完形	先端部分に僅かに研磨痕を残しているが、全体的に荒い打欠きがなされ、形態的にも不定形で石器か石斧かはっきりしない。両側面(特に裏側)にも打欠きがある。	Ｓ地区4 Ⅱ層0-10
113	110	石斧	ＩfＭ	7.5	3.9	(1.2)	45.1	（緑色千枚岩）	破片	全体的に自然面を残し、研磨面は見られない。周縁は剥離調整のみ。打痕と自然面を残していることから、斧身から剥落したものを再利用か。撥形。	Ｓ地区2 Ⅱ層30-40
113	111	石斧	ⅣcＭ	(7.6)	4.7	1.4	103	（緑色片岩）	破片	基端部欠落。先端部に研磨痕を残す両刃の石斧。刃部に刃こぼれ有り。周縁は剥離調整が残る。一部自然面も確認できる。撥形。	Ｓ地区2 Ⅱ層20-30
113	112	石斧	ⅢcＭ	7.5	4.4	1.6	80.6	（緑色千枚岩？）	破損	表面前面に研磨が施され、周縁は剥離調整である。裏面は刃先のみ研磨され、他は自然面を残すが、表同様全面研磨したものが剥落した可能性あり。撥形。	Ｓ地区4
113	113	石斧	ⅤfＭ	(8.3)	5.0	2.4	159.9	緑色片岩	破損	表面は全体に研磨痕を残すが裏面はほとんど剥落し、一部僅かに研磨面が残る。両サイドには抉りを形成。刃部に刃こぼれがあり、基端部は欠失。撥形か。	Ｓ地区5 Ⅱ層30-40
113	114	石斧	ⅣcＭ	9.2	5.3	2.1	158	（緑色片岩）	完形	両刃の石斧。研磨は徹底されておらず刃部に研磨痕を残す。両側面は剥離調整され、裏面は自然面を残す。基端部欠失。刃部に使用による刃こぼれがある。撥形。	Ｓ地区1
113	115	石斧	ⅤcＭ	(9.0)	4.3	3.1	223	緑色千枚岩	破損	刃部を欠いているため石斧かどうかはっきりしない。表面が若干摩滅しており研磨は確認できない。上下に敲打痕がみられることから転用品とも考えられる。棒状。	Ｓ地区2 B集石最下
113	116	石斧	Ｖd	(4.6)	3.9	2.3	76.5	（緑色片岩）	破損	基端部、周縁に敲打痕を残す。全面に研磨されているが先端部分を欠いているので詳細不明。敲打器として使用された可能性あり。	不明 Ⅱ層50-55
113	117	石斧	Ｖg	(5.4)	4.5	(0.9)	29.5	（緑色千枚岩）	破損	薄い表面に自然摩滅痕を残し、表面は自然の剥離面を残す。石斧の刃部剥片とも思われる。撥形か。	Ｓ地区2 Ⅱ層0-10
113	118	石斧	Ⅱd	(6.7)	4.1	1.0	61.4	（緑色千枚岩）	破片	全体に研磨がかかった扁平薄型の石斧。基端部欠失。刃部は両刃で先端に刃こぼれがみられる。裏面刃部先端に擦痕状のものが確認できる。裏面は一部自然面を残す。短冊形か。	Ｓ地区3 Ⅱ層40-50
113	119	石斧	Ⅲd	(5.4)	4.0	1.8	56.5	緑色片岩	破損	両刃の磨製石斧。全体的に研磨されているが一部自然面も残る。側面はやや面を成し、稜線は比較的明瞭である。刃先に研磨痕あり。短冊形か。	Ｓ地区3 Ⅱ層40-45
114	120	石斧	Ｖd	(5.0)	3.3	2.0	38.6	緑色片岩	破損	両刃の小型磨製石斧。頭部は欠失し刃部付近のみ残存。表面が磨耗しており、研磨痕は不明瞭である。	Ｓ地区 不明
114	121	石斧	Ｖd	(7.5)	6.8	3.3	167.5	緑色片岩	破損	石斧刃部片。残存部より推測すると、やや大型の石斧と思われる。刃部に使用痕などはみられない。刃縁は丸くカーブした形で、刃先のみ研磨している。	Ｓ地区3
114	122	石斧	ⅣcＬ	16.5	5.6	3.3	560	緑色片岩	完形	ほぼ完形の両刃の磨製石斧。研磨は丁寧で光沢をもつほどである。表裏面ともに敲打痕があり、研磨は全体には及んでいない。刃先は僅かに刃こぼれ有り。短冊形。	Ｓ地区3 土器集中区
114	123	石斧	ＩfＬ	15.0	5.8	2.9	426	緑色片岩	完形	表裏面ともに自然面を残し、荒い剥離痕もみられる。頭部に打痕有り。側面にも大きな打欠き痕を残す。一見打製石器のようにも見えるが、磨製への途中荒仕上げとも考えられる。撥形。	Ｓ地区5 Ⅲ層0-15
―	257	石斧	Ｖe	(7.4)	(4.4)	(1.7)	64.9	（緑色千枚岩）	破損	小型石斧片。裏面が大きく剥落し、表も剥離部分が大きく、研磨面は一部僅かに残存するのみ。完形の石斧から剥げ落ちたものか。	Ⅱ層60-65
―	258	石斧	ＩcＬ	(12.2)	6.2	2.6	264	（緑色片岩）	破片	全体を荒い打欠きで成形されている。全体的には打製石器の形態を見せるが、磨製石器を製作する途中のものか。基端部欠損。刃部と思われる部分は一部破損しているが使用によるものかは判然としない。撥形。	Ｓ地区3 Ⅱ層40-45
―	259	石斧	Ⅳe	(11.7)	(3.6)	3.5	236.4	（緑色千枚岩）	破片	両刃の局部磨製の石斧片。手頃な自然礫を利用している。縦割れにより片側欠損。刃部のみ研磨され、側面には敲打調整痕が残る。刃部には使用痕が僅かに残されている。	Ｓ地区4 Ⅱ層0-10
―	260	石斧	Ｖe	(9.0)	5.1	(2.2)	194.6	（緑色片岩）	破片	石斧片。基端部欠失。縦割れにより片側半分は欠損。表面は研磨され、側面の一部には敲打調整痕が残る。	Ｓ地区5 Ⅲ層20-25
―	261	石斧	Ｖc	(8.2)	5.4	3.4	249.1	（変輝緑岩）	破損	石斧の基部片。破損した後敲石に転用したと思われ、上下、側面は敲きにより潰れている。表裏面に研磨面が僅かに残っている。側面にわずかに抉り痕が残る。	Ｓ地区 A集石

第３表（７）　石器観察表

挿図番号	番号	器種	分類	法量（計測値）/cm.g 長軸	短軸	厚さ	重量	石質	残存状況	観察事項	出土地 層位
－	262	石斧	Ｖd	(5.2)	－	－	41.1	（緑色岩？）	破片	石斧刃部片。研磨は丁寧で表面は滑らか。刃先の幅は狭い。表面に研磨痕と思われる線条痕がやや明瞭に残る。表裏ともに擦痕がみられる。	Ｓ地区2 Ⅱ層20-30
－	263	石斧	Ｖc	(8.9)	4.7	(2.8)	175.6	（緑色片岩）	破損	平面形態は石斧状を呈するが、割れによる破損が著しく石斧か敲打器なのかはっきりしない。一部僅かに研磨面と思われる部分が残存する。敲き痕もあることから石斧からの転用も考えられる。	Ｓ地区2 Ⅱ層10-20
－	264	石斧	Ｖg	(8.1)	5.7	(2.3)	163	（緑色千枚岩）	破片	石斧の剥落片。基部と刃部の一部が残存。研磨は行き届き全体に及んでいたと思われるが、剥片のため詳細不明。	Ｓ地区5 Ⅱ層30-40
114	124	不明	ⅡＳ	5.0	5.0	5.2	188.1	（砂岩）	完形	表面は調整されたように凸凹。風化の為か磨り面はみられない。磨石あるいは敲石とは断定できず、他の用途も考えられる。石球状である。	Ｓ地区5 Ⅲ層20-30
114	125	磨石	ⅡＳ	6.5	6.1	3.7	271.7	緑色岩	完形	小さな河原石を利用している。両面とも磨り減り、断面形は扁平に近くなっている。磨り面は光沢を帯びるほどである。周縁に敲打痕有り。	Ｓ地区5 Ⅲ層15-20
114	126	磨石	ⅡＳ	6.1	5.8	4.5	271.4	（変質玢岩）	完形	No.125同様小さな磨石である。両面とも磨り減り平らになっているため稜線も明瞭である。周縁に敲打痕有り。	Ｓ地区3 A集石
114	127	磨石	ⅡＳ	7.6	6.2	4.7	324.6	チャート	完形	河原石を使用。表面が一部剥落している。下部に僅かだが敲き痕が確認できる。	Ｓ地区3 Ⅱ層30-40
114	128	磨石	ⅡＳ	6.3	5.8	5.0	277.3	（砂岩）	完形	球状の小さな河原石を使用。表面は磨り減り滑面を形成(三面)。上下に僅かに敲き痕も認められる。	Ｓ地区5
114	129	磨石	ⅡＳ	(5.9)	6.4	4.1	237	緑色岩	破損	扁平小型の河原石を使用している。片側が1/3程欠損。表面に剥離痕。磨り面もはっきりしている。	Ｓ地区 不明
115	130	敲石	ⅢＭ	11.6	8.9	5.7	840	（チャート）	完形	手頃な大きさの自然礫を利用。使用痕は一カ所に集中している。不定形。	Ｓ地区 Ⅱ層60-65
115	131	敲石	ＩＬ	13.3	7.7	6.2	1035	（砂岩）	完形	重厚だが片手で持てる大きさの河原石を使用。使用痕は上下と表の三カ所。裏面はやや平らな面を形成するが磨り面かどうかはっきりしない。	Ｓ地区5
115	132	磨石	ＩＬ	15.2	9.0	4.1	980	緑色片岩	完形	扁平楕円の河原石を使用。使用頻度が高かったと思われ、周縁との境の稜線は比較的明瞭である。片面中央付近および周縁に敲き痕有り。	Ｓ地区 土器集中区
115	133	凹石	ＩＬ	15.3	8.4	4.4	1100	（砂岩）	完形	扁平楕円の自然礫を利用。使用痕が残るのは表裏、両側面でうち表の一カ所は深く凹んでいる。平面観は長方形を呈す。周囲にも敲き痕が残る。	Ｓ地区5 Ⅲ層0-15
115	134	凹石	ⅢＬ	13.0	8.5	6.7	1080	閃緑岩	完形	不定形で厚みのある自然礫を使用。使用痕は表および側面の三カ所に確認できる。裏面はやや平になっている。表面の一部が黒く変色。	Ｓ地区
115	135	凹石	ＩＬ	12.2	8.1	4.3	695	（砂岩）	破損	偏平楕円の河原石を使用している。一部欠損。確認できる使用面は三カ所。表面は若干風化している。	Ｓ地区 B集石
115	136	石皿	－	(18.5)	(11.8)	(12.5)	2500	（砂岩）	破損	割り取った礫の一面をそのまま利用した印象をもつ。使用面が一部残るほかは破損している。使用面は若干赤く変色している。	Ｓ地区4 Ⅱ層30-40
－	265	磨石	ＩＬ	15.2	8.5	4.3	905	（砂岩）	破損	偏平、楕円形で重量感のある自然礫を使用。表面が風化し脆くなっているが、一部に使用面が僅かに確認できる。	Ｓ地区3 土器集中区
－	266	磨石	－	(7.3)	10.6	4.7	540	（砂岩）	破損	磨石片。全体の1/2が破損。使用面は両面で、やや光沢を帯びるほどである。周縁には敲き痕も残る。扁平楕円の河原石を利用している。	Ｓ地区3 Ⅱ層40-45
－	267	磨石	－	(9.3)	9.8	4.5	585	（砂岩）	破損	磨石片。扁平楕円の河原石を使用。全体の1/3程度欠失。使用面は表裏の二面。使用頻度が高かったと思われ磨り面が偏っている。全体に赤っぽく変色し表面は若干脆くなっている。	Ｓ地区5 Ⅱ層0-20
－	268	磨石	ⅡＳ	6.9	7.0	(3.7)	405	（砂岩）	完形	小型の磨石片。使用面である磨り面が一部残存するが、その部分以外は破損の後敲石として再利用したと思われ、敲きにより潰れている。表面は若干風化。	Ｓ地区2 B集石最下
－	269	石皿	－	(8.2)	(6.4)	3.7	260	（砂岩）	破片	小型の石皿片。下部は破損している。使用により表面はやや凹んでいる。表面は風化し脆くなっている。	Ｓ地区3 Ⅱ層0-10
－	270	不明	－	(19.5)	(8.5)	8.0	1460	（砂岩）	破片	石器かどうかはっきりしない。一面は面を持つように平らだが他は割れている。石皿の使用部分の一部とも思われるが、全体に磨耗しており判然としない。	Ｓ地区4 Ⅱ層10-20
116	137	石斧	ⅢａＳ	6.0	4.3	2.3	97	緑色岩	破損	刃部から基端部までが極端に短い小型の石斧である。側面、基端部は敲打調整が残る。基端部は磨耗しているが研磨は丁寧である。刃部に使用痕は見当たらないが、刃線にやや歪みがあるのは再研磨によるものか。	Ｐ地区 2号
116	138	石斧	ⅣcＭ	10.1	4.7	2.2	168	（緑色千枚岩）	破損	扁平で手頃な河原石に敲打調整を加え石斧状に仕上げているが、刃部付近が一部大きく剥離し、刃部形成は不明瞭。一部研磨面が残るがほぼ自然面を残す。刃部に向かって僅かに広がる撥形。	Ｐ地区 2号
116	139	石斧	ＶcＭ	(10.6)	5.0	2.7	194	砂岩	破損	砂岩を利用した石斧である。表面は風化の為か凹凸しており研磨、その他の調整痕は確認できない。刃部は使用によるものか片面が大きく剥落。一部が赤く変色し、表面は脆い。撥型。	Ｐ地区 2号
116	140	石斧	Ｖc	(8.4)	5.8	3.4	281	緑色片岩	破損	石斧の基部片。側面は敲打調整が残る。表面は風化しており研磨は確認できない。破損の後、石斧から敲石へ転用したとも考えられるが判然としない。	Ｐ地区 2号
116	141	石斧	ⅣcＬ	(13.4)	5.7	3.4	361	緑色片岩	破損	基端部が細くなる形状である。刃部は欠失。基端部は若干ひねりを加えられたような形状である。研磨面は僅かでほぼ自然面が残る。側面は敲打調整痕が残る。撥形。	Ｐ地区 8号
116	142	石斧	ⅢcＭ	(8.3)	4.1	2.1	138	緑色千枚岩	破損	手頃で扁平な河原石を利用している。研磨は丁寧だが一部自然面も残る。刃部は欠失しているが表の膨らみと裏面の平らな形態から推測すると片刃的石斧か。側面は敲打調整痕が残る。両面ともに研磨が施される。撥形。	Ｐ地区 8号
116	143	石斧	Ｖc	9.5	5.0	3.0	285	（緑色千枚岩）	破損	全体に剥離及び敲打調整痕が残るが研磨は見られない。基端部は欠損し、刃部の形成もなし。石斧の製作途上品か。撥形。	Ｐ地区 8号
－	271	石斧	Ｖg	－	－	－	17	（緑色片岩）	破片	石斧の刃部の一部が剥離した小破片。刃先が僅かに残存するのみだが、かろうじて両刃と確認できる。	Ｐ地区 8号
117	144	凹石	ＩＭ	8.2	5.2	3.1	193	砂岩	完形	自然礫をそのまま利用、人工的な痕は敲打痕のみ。手のひらに収まる程度の小さな凹石である。使用面は両面、両側面の四カ所。周縁に敲き痕有り。表面は風化している。	Ｐ地区 9号

第３表（８）　石器観察表

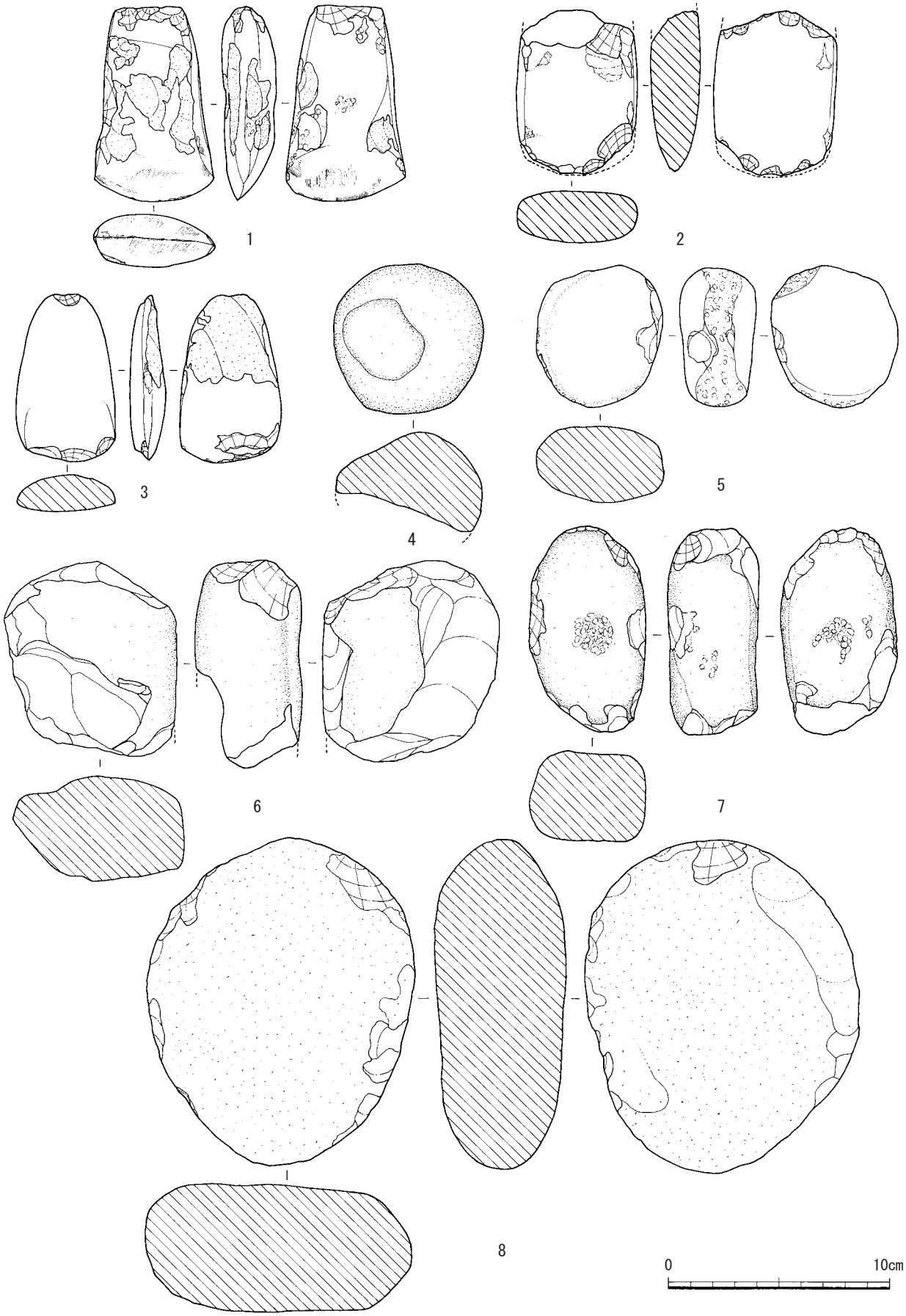
挿図番号	番号	器種	分類	法量（計測値）/cm.g 長軸	短軸	厚さ	重量	石質	残存状況	観察事項	出土地 層位
117	145	石斧	ⅢcM	(7.9)	5.0	1.8	134	（変輝緑岩）	破損	扁平でやや小型の石斧。基端部欠失。比較的全体に研磨が行き届き作りは丁寧である。刃部に明瞭な線条痕が残るが、使用痕かどうかはっきりしない。裏面一部剥落している。撥形。	Ｐ地区 12号 ⅡＣ層層
117	146	石斧	ⅤeM	(9.5)	4.1	(2.1)	140	（緑色片岩）	破片	石斧片。裏面は縦割れにより基端部付近から刃部まで大きく欠失している。研磨は表面の刃部に一部の残るほかは自然面。周縁には敲打調整が残る。撥形。	Ｐ地区 15号
117	147	石斧	Ⅳd	(5.7)	4.3	2.7	109	（緑色片岩）	破損	石斧刃部片。基部中央から上部欠失。刃部のみ研磨したと思われ基部は打痕のみが残る。刃幅はやや狭く厚みのある刃部片である。刃先は僅かに刃こぼれがあり、表面は若干風化している。	Ｐ地区 17号
117	148	ノミ状石器	－	(8.0)	3.7	2.7	139	緑色片岩	破損	基部上部は横折れにより欠失。敲打痕･打剥がみられる。刃先にあたる部分が平面を形成しており磨り面をもつことから、なめし用あるいはノミなど別の用途も考えられる。	Ｐ地区 17号
－	272	磨石	－	(6.1)	(8.1)	(4.1)	373	（砂岩）	破片	磨石の破片。河原石を利用。僅かに磨り面の一部が残存している。表面には一部僅かに敲き痕も確認できる。全体の1/4が残存する程度。	Ｐ地区 17号
117	149	石斧	ⅣａＳ	6.0	4.5	1.7	73	緑色片岩	破損	扁平小型の石斧。石斧を再加工したものか。研磨は刃部のみで丁寧である。基部および側面に剥離痕が見られ、側面は敲打調整が残る。刃先に潰れ。No.137と類似する形態である。撥形。	Ｐ地区 19号
117	150	石斧	ⅣａＭ	9.8	5.0	2.3	184	（緑色千枚岩）	破片	扁平礫の周縁を敲打によって整形し、刃部のみに研磨を施した石斧である。刃部は僅かに破損。平面観はややくの字状である。撥形。	Ｐ地区 19号
117	151	石斧	Ｖd	(6.1)	6.4	2.9	219	（緑色片岩）	破損	基部は横折れにより欠失。残存部をみる限りでは比較的扁平で大型の磨製石斧である。刃先は僅かに破損している。裏面一部剥落。	Ｐ地区 19号
118	152	石斧	ⅡａＭ	11.9	5.6	3.7	420	変輝緑岩	完形	基端部が僅かに剥落しているが、完形で形状の整った蛤刃石斧である。重厚で均整のとれた形状。全体的に丁寧な研磨が施されており、表面は光沢をもつ程である。刃面と側面の境は稜線が明瞭。基端部に僅かに打痕と剥離が残る。撥形。刃部両面に浅くて太い溝状の使用痕有り。（佐原真氏所見）	Ｐ地区 19号
118	153	石斧	ⅢbM	10.3	5.4	3.2	305	緑色片岩	完形	平面観がいわゆる短冊形を呈する両刃の石斧。研磨は刃部付近のみ丁寧で、基部は一部剥離。刃部に刃こぼれ有り。周囲と基端部には敲打調整が残る。	Ｐ地区 19号
118	154	石斧	ⅢcL	(13.1)	5.3	3.1	382	変輝緑岩	破損	使用により刃先は欠失。研磨は全体に及ぶが徹底していない。基部で膨らみ基端部で細くなる形態。基端部に潰れ、側面下部に敲打痕。短冊形。	Ｐ地区 19号
118	155	石斧	ⅣcM	(11.5)	4.5	3.1	319	（緑色片岩）	破損	刃部は欠失しているが、破損した後に再研磨を施し再利用したものと思われ、表刃面に再研磨面が確認できる。側面観は基部が若干カーブしており、平面観撥形を呈する。基端部僅かに破損。	Ｐ地区 19号
118	156	石皿	－	(9.1)	8.6	5.4	600	砂岩	破損	小型の石皿片と思われる。使用面は一面と思われるが、表面は磨耗しており判然としない。割れは新しく、採取時のものか。	Ｐ地区 19号
118	157	円盤状石器	－	8.3	8.7	2.4	248	砂岩	完形	用途不明。自然礫の周縁及び片面を打ち欠き、円盤状に整形してある。製作直後は縁に鋭い部分もあったかと思われるが、磨耗のため詳細は不明。その為、利器として使用された可能性も考えられる。	Ｐ地区 19号
119	158	石斧	ⅣａＭ	9.9	4.0	2.9	163	緑色片岩	完形	僅かに剥離部分がある意外は完形に近い石斧である。研磨は徹底されておらず刃部以外は敲打調整のみ。基端部にかけて細くなる形状で、基部付近で最も膨らむ。再研磨のためか刃線に一部歪みがみられる。撥形。	Ｐ地区 23号
119	159	石斧	Ⅲc	(7.3)	3.7	3.2	147	（緑色片岩）	破損	基部で膨らみ基端部で細くなる形状である。表裏面とも研磨され、両サイドは敲打調整が残る。刃部は欠損。撥形か。	Ｐ地区 29号
119	160	ノミ状石器	－	(3.6)	(2.5)	(1.6)	23	緑色岩	破損	基部から上は欠失しているが、基部に比べ刃部が極端に細くなる。表面は丁寧に研磨が施されており滑らかで刃先は鋭利である。小型。鑿としての用途も考えられる。	Ｐ地区Ｏ13 ⅡＣ層
119	161	石斧	ⅡcM	(6.1)	4.4	1.6	78	変輝緑岩	破損	基端部を欠損しているが全体に偏平で形の整った石斧。研磨は丁寧で光沢を有する。側面も面が取られ稜線は明瞭。刃部に横方向の線条痕が残る。撥形。	Ｐ地区Ｏ13 ⅡＣ層
119	162	石斧	Ⅲc	(5.9)	4.1	1.4	56	（緑色千枚岩）	破損	偏平小型の石斧。基部途中から刃部にかけ欠失している。表面には打剥がみられる。刃部の剥離形態からは再生途中とも考えられる。表裏面とも研磨されるが、一部自然面も残る。撥形。	Ｐ地区Ｏ11 Ⅳ層
119	163	石斧	ⅢbM	7.9	4.9	1.6	98	緑色片岩	破損	偏平小型の石斧で、基端部が細くなるタイプ。側面は僅かに抉りを形成し、使用の為剥離している。刃こぼれ有り。表面は比較的研磨が行き届き、研磨痕も明瞭に残る。撥形。	Ｐ地区Ｏ14 Ⅳ層
119	164	石斧	ⅢcM	(6.8)	4.5	2.0	109	緑色片岩	破損	No.163と同様の形状だが、やや基部に厚みがある。基端部僅かに欠失。刃部片面に使用痕と思われる線条痕が明瞭に残る。研磨は丁寧で、基部側面には敲打痕有り。撥形。	Ｐ地区Ｎ16 ⅡＣ層
119	165	石斧	Ｖc	(10.8)	5.0	2.4	187	緑色片岩	破損	基端部、刃部ともに欠失。刃部を含め頭部および側面が大きく剥離しているため、元の形状は不明であるが残存状況から扁平片刃とも考えられる。	Ｐ地区Ｏ11 Ⅳ層
119	166	石斧	ⅣbM	8.6	4.6	2.7	199	（緑色岩）	破損	刃先は潰れているが基部に厚みのある蛤刃状の石斧である。基端付近剥落。研磨はあまり丁寧ではない。側面は敲打調整で僅かに抉りが残る。短冊形。	Ｐ地区Ｍ9 ⅡＣ層
120	167	石斧	ⅢeL	14.0	(3.4)	3.6	315	（片状砂岩？）	破損	基部から刃部にかけて片側が大きく破損。側面観は基部で最も膨らみレンズ状を呈する。蛤刃状である。側面に僅かに敲打痕が残る。撥形。	Ｐ地区Ｎ19 Ⅲ層
120	168	石斧	ⅤdL	(11.1)	4.8	3.8	306	（緑色片岩）	破損	基部から基端部にかけて細くなる。刃部は欠損。基部側面に僅かに凹み。表面は磨耗しており研磨痕は確認できない。横断面はやや厚みのある楕円形である。撥形。	Ｐ地区Ｋ10 ⅡＣ層
120	169	石斧	ⅡcL	(9.1)	5.2	3.4	269	変質玢岩（久米島グリーンタフ）	破損	全体に研磨が行き届き側面はやや面を形成する。刃部は欠失。基部に膨らみをもつ両刃の石斧と思われる。撥形か。	Ｐ地区Ｏ14 ⅡＣ層
120	170	石斧	Ｖd	(5.1)	4.8	3.3	159	（変輝緑岩）	破損	基部中央から刃部にかけて欠失。やや稜線は不明瞭だが側面は面を形成する。比較的厚みのある石斧である。	Ｐ地区Ｎ11 Ⅳ層
120	171	石斧	Ⅱc	(6.7)	4.0	2.0	88	緑色片岩	破損	偏平でやや小型の定角式石斧である。側面はほぼ平らな面を形成。刃部は欠失しているが全体に研磨が行き届いている。補正のための研磨痕が残る。撥形。	Ｐ地区Ｏ16 ⅡＣ層

第３表（９）　石器観察表

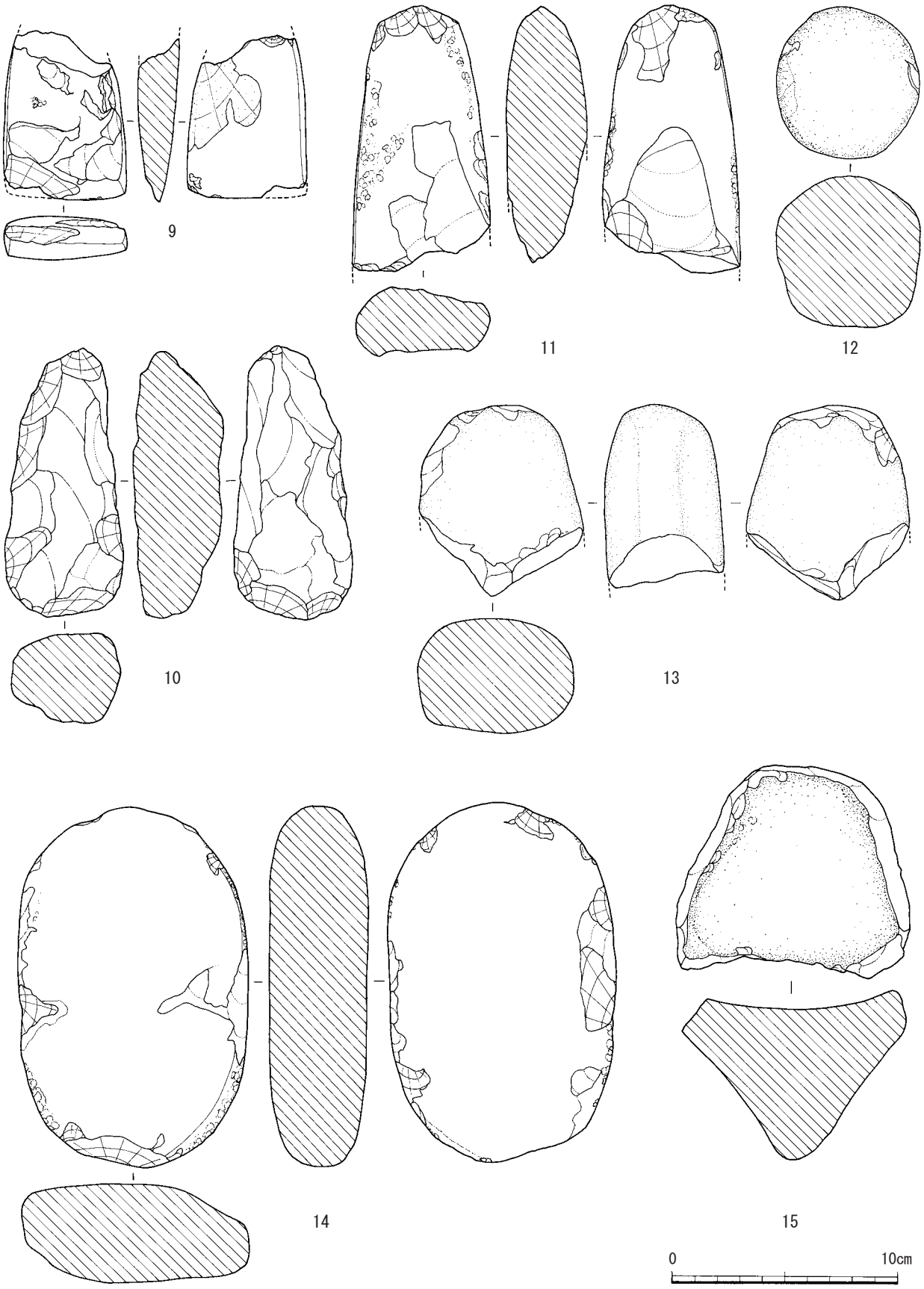
挿図番号	番号	器種	分類	法量（計測値）/cm.g 長軸	短軸	厚さ	重量	石質	残存状況	観察事項	出土地層位
120	172	石斧	Ｖd	(6.5)	4.5	2.4	130	変輝緑岩	破損	基部中央より上部欠失。破損の後の再調整か刃線に歪みが確認できる。側面にも研磨が行き届きやや面を形成している。僅かに刃こぼれ有り。撥形。	Ｐ地区M21 Ⅱ Ｃ層
120	173	石斧	Ｖd	(6.5)	5.3	2.9	198	緑色片岩	破損	刃部付近のみ残存。稜線は明瞭。全面研磨が行き届いており光沢をもつほどである。刃部の研磨は刃こぼれを修正するためと思われ、そのために刃縁が片減り状になりいくつか面を形成している。	Ｐ地区Ｏ11 Ⅳ層
121	174	敲石	ＩＬ	15.2	12.9	8.1	2860	（砂岩）	完形	偏平楕円で厚みのある大型の敲石。表面は磨耗している。側面に敲き痕。	Ｐ地区 2号
121	175	敲石	ＩＬ	17.4	8.2	4.9	1480	安山岩	破損	偏平楕円の大きな自然礫を使用している。上部わずかに破損。磨耗が進み使用痕は明確ではない。	Ｐ地区不明
121	176	敲石	ＩＬ	(14.5)	10.7	6.4	1480	（砂岩）	破損	大型で重厚な敲石。片面および側面に敲き痕が残る。1/3弱欠損している。自然石を利用。	Ｐ地区Ｏ11 Ⅳ層
121	177	石皿	－	(26.4)	(27.0)	3.4	3.3 (kg)	千枚岩	破損	1/4程度破損している。使用面は周囲から内側中央に向かって凹んでいる。風化が進み非常にもろく崩れやすい。	19号
122	178	凹石	ⅡＭ	8.0	6.7	4.8	480	砂岩	完形	手の平に収まる大きさの自然礫を使用。方形状で厚みがあり、表面に磨り面が残ることから磨石としても利用していたとみられる。上下に敲打痕が残る。	Ｐ地区Ｏ17 Ⅱ Ｃ層
122	179	敲石	ＩＭ	11.3	6.6	4.4	600	緑色岩	完形	河原石を利用。使用痕である敲き痕は側面のみであまり明瞭ではない。	Ｐ地区Ｎ10 Ⅲ Ｃ層
122	180	敲石	ⅢＭ	11.4	6.9	(2.5)	331	緑色片岩	破片	河原石を利用。上下に敲き痕が明瞭に残る。片面半分以上が欠損。敲き痕の他に使用痕はみられない。	Ｐ地区Ｏ17 Ⅱ Ｃ層
122	181	敲石	ⅢＭ	11.1	8.4	(4.2)	560	砂岩	破片	片面1/2破損。使用部分は上下の二カ所。使用によるものか上下とも剥落部分がある。	Ｐ地区Ｏ12 Ⅳ層
122	182	不明	－	9.0	5.1	4.4	157	琉球石灰岩	完形	用途は不明。上下斜め(あるいは左右)に孔が貫通している。孔の内面は研磨され滑らかな面を形成している。外側表面には特に手を加えた様子は見られない。孔径2.4㎝。	Ｐ地区Ｎ16 Ⅲ層
－	273	石斧	Ⅲe	(9.1)	4.7	(1.8)	129	（砂岩）	破片	刃部欠失。片面が大きく剥離。表面は風化しているが全体に研磨調整され、基端部で最も細くなる形状である。	Ｐ地区Ｏ13 Ⅱ Ｃ層
－	274	石斧	Ｖg	(10.0)	(4.4)	1.5	86	緑色岩	破片	石斧の一部が剥落したものである。側面と基部の一部が残る。基端部と思われる部分に剥離調整痕有り。	Ｐ地区Ｌ10
－	275	石斧	Ｖg	－	－	－	46	（緑色片岩）	破片	石斧の側面の一部。小片の為詳細不明だが、丁寧に研磨され残存する側面の稜線は比較的明瞭に残る。	Ｐ地区M10 Ⅱ Ｃ層
－	276	不明	－	－	－	－	19	緑色千枚岩	破片	石器の一部と思われるが、小破片のため詳細不明。	Ｐ地区Ｎ16 Ⅱ Ｃ層
－	277	不明	－	－	－	－	46	（緑色片岩）	破片	石器の一部が剥がれ落ちたもの。剥片になって以降は手は加えられていないようである。詳細不明。	Ｐ地区Ｌ10
－	278	磨石	－	(9.8)	7.2	4.9	520	（変輝緑岩）	破損	磨石片。片面は大きく剥落している。磨り面は一面のみで他は周囲、裏面とも敲き痕が残る。1/2程度欠失している。	Ｐ地区Ｋ10 Ⅱ Ｃ層
－	279	磨石	－	(7.1)	(3.6)	6.6	245	（安山岩？）	破片	磨石片。小型の河原石を使用。周縁に僅かに敲き痕が残る。元は球状を呈していたと思われるが1/2が欠失している。	Ｐ地区Ｏ13 Ⅱ Ｃ層
122	183	石斧	ⅣbＳ	5.8	4.9	1.6	65	緑色片岩	破損	大きさ、形態はNo.137、149と類似。刃部は表裏ともに研磨調整が、基端部と側面は剥離調整がなされている。平面観は三角形状を呈し、やや扁平で撥型の石斧である。刃先の破損は新しいもの。	Ｐ地区不明
122	184	石斧	ⅣbＭ	7.6	4.3	(1.2)	67	（緑色片岩）	破損	扁平な円礫を二つ割りにして利用している。刃部のみ研磨され、側面は剥離調整、他は自然面である。刃縁に線条痕が残る。小型で撥形。	Ｐ地区不明
123	185	石斧	ⅢcＭ	7.4	3.9	1.6	80	緑色片岩	破損	扁平小型の石斧。刃部は潰れ、基端部欠失。両側面、刃部に近い部分にやや抉りが残り、側面は若干カーブする。全体に比較的丁寧な研磨が施されている。刃部が僅かに広がる撥形。	Ｐ地区不明 Ⅱ Ｃ層
123	186	石斧	Ⅳf	(6.9)	4.3	(1.5)	75	（緑色千枚岩）	破片	基端部、刃部とも欠失。表面僅かに研磨面が残るが全体に打剥調整が著しく、小型石斧への再生途中のものとも考えられる。側面片側一方に敲打調整痕が残る。残存部側面観からすると、扁平小型である。撥形。	Ｐ地区不明 Ⅱ Ｃ層
123	187	石斧	ⅢａＭ	8.1	4.7	2.1	131	（緑色片岩）	完形	扁平小型の石斧。比較的研磨は行き届いている。片側面に剥離痕が残る。刃部両面に使用痕と思われる線条痕が観察できる。基部に膨らみをもつ両刃石斧。撥形。	Ｐ地区不明 Ⅱ Ｃ層
123	188	石斧	ⅣcＭ	9.4	5.2	1.9	142	（緑色片岩）	破損	刃部の一部、基端部、表面が剥離。刃部は一度破損した後再研磨したと思われ偏刃である。刃部には線条痕が残るが、再研磨した部分には確認できない。扁平両刃の石斧で平面観は撥形を呈する。	Ｐ地区不明 Ⅱ層
123	189	石斧	ⅣcＭ	(10.4)	4.6	2.9	230	（緑色片岩）	破損	刃部は欠失。研磨を確認できるのは刃部付近のみである。基部側面に抉りを持ち、残存形態から推測すると片刃的である。刃部の剥離痕は再利用の為の調整剥離か。基部に膨らみを持ち、刃部に向かって僅かに広がる撥形。	Ｐ地区不明 Ⅱ層
123	190	石斧	ⅣcＭ	(8.4)	4.3	(1.8)	116	（緑色千枚岩）	破片	扁平で短冊形の石斧。制作途中のものか刃部の形成はなし。裏面は剥落しており、周縁に剥離痕と敲打痕が残る。表に一部研磨面も残る。	Ｐ地区不明 Ⅱ層
123	191	石斧	Ｖd	(3.5)	3.9	2.8	71	（緑色片岩）	破損	石斧の基部片。基部中央から刃部にかけて斜めに欠失。全体に研磨がなされ、側面はやや面を持つ。基端部に敲打痕が残る。横断面は楕円形を呈する。	Ｐ地区不明 Ⅱ層
123	192	石斧	Ｖd	(5.8)	4.6	2.6	122	（緑色片岩？）	破損	石斧刃部片。基部は欠失。刃先が僅かに破損している。全体に研磨が行き届いており、側面は研磨によって面を形成しているため稜線は比較的明瞭である。撥形か。	Ｐ地区不明 Ⅱ層
124	193	石斧	ⅣfＭ	10.6	4.4	2.5	173	（緑色千枚岩）	破損	自然礫の一部を利用している。刃先のみ研磨し、裏面は剥離調整痕が残る。基部上部裏は大きく剥離。刃部の研磨痕は明瞭で、僅かに刃こぼれがある。撥形。	Ｐ地区不明 Ⅱ Ｃ層
124	194	石斧	ⅢcＭ	(11.8)	6.0	3.5	420	（緑色片岩）	破損	基端部及び刃部は欠失。両側面には敲打調整により僅かに抉りがみられる。研磨は徹底しておらず一部自然面を残す。刃部は欠失しているが再研磨の痕か僅かに面が残る。撥形。	Ｐ地区不明 Ⅱ層
124	195	石斧	Ｖd	(10.4)	7.1	(3.2)	460	（緑色片岩）	破損	横折れにより基部欠失。表面は若干風化しており研磨は確認できない。基部側面に僅かに抉りが残る。刃部に大きな剥離痕が残る。自然のままを利用し、全体の形態調整はあまりなされていない。	Ｐ地区不明 Ⅱ層

第３表(10)　石器観察表

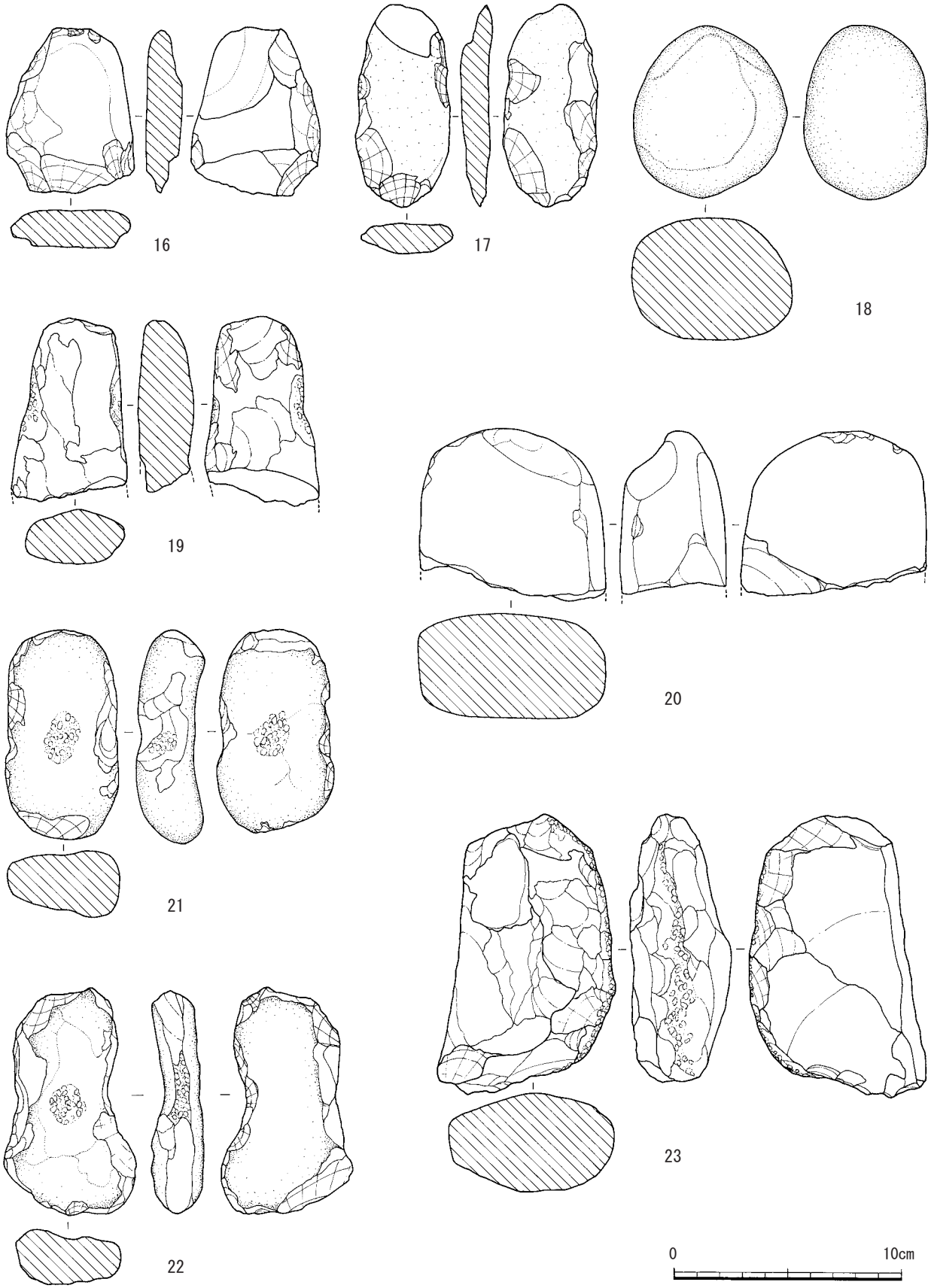
挿図番号	番号	器種	分類	法量（計測値）/cm.g 長軸	短軸	厚さ	重量	石質	残存状況	観察事項	出土地 層位
124	196	石斧	Ｖd	(6.9)	6.2	2.6	228	変輝緑岩	破損	石斧の刃部片。基部から横折れし上部を欠失している。研磨は全体に及ぶと思われるが一部摩滅していると思われはっきりしない。刃部は両刃で僅かに刃こぼれしている。	Ｐ地区不明 Ⅱ層
124	197	敲石	ＩＭ	9.1	4.1	2.0	144	緑色片岩	完形	扁平で手にすっぽり入る程の小型の河原石を使用。自然礫をそのまま使用したものであろう。周縁には使用痕と思われる敲き痕が確認できる。	Ｐ地区不明 ⅡB層
124	198	凹石	ＩＬ	12.4	7.9	4.8	820	（砂岩）	完形	手頃な大きさの自然礫を利用。表面と両側面の三カ所に凹みが確認できる。周縁には敲き痕有り。	Ｐ地区不明 Ⅱ層
125	199	磨石	－	(8.6)	(7.3)	(4.4)	480	（砂岩）	破片	磨石の一部。全体の1/4が残る程度だが、使用面が僅かに残存。一部敲き痕がみられることから、敲石兼用と思われる。	Ｐ地区不明 Ⅱ層
125	200	磨石	ⅡＳ	(7.1)	7.0	(2.7)	238	緑色岩	破損	丸く偏平な小型の磨石。裏面が大きく欠損しているが、少なくとも片面と側面の二箇所を磨面として利用していたと思われる。1/4程度欠損。周囲の一部に僅かに敲き痕有り。	Ｐ地区不明 Ⅱ層
125	201	磨石	ⅡＳ	(3.3)	6.1	4.6	175	緑色岩	破損	河原石を使用した小型の磨石である。1/2程度破損しているが、使用痕は両面に確認できる。周縁及び片面中央に敲き痕が残るが不明瞭である。平面観は円状を呈すると思われる。敲石兼用。	Ｐ地区不明 ⅡＣ層
125	202	凹石	ＩＳ	(5.8)	6.7	1.8	106	砂質片岩	破損	扁平で薄い自然礫を使用している。約1/2程度欠失しているが、表裏の中央部分に使用痕を確認できる。殆ど自然面を残し、周縁には敲打痕有り。小型の凹石。	Ｐ地区不明
125	203	石皿	－	(19.6)	27.2	19.6	12.48 (kg)	（砂岩）	破損	大型で厚みのある石皿。表面は火を受けたと思われ全体に赤く変色し、脆くなっている。使用面は一面で、中心に向かって僅かに凹みを形成。	Ｐ地区不明
－	277	石斧	Ｖg	(7.3)	(4.6)	(1.3)	66	（緑色片岩）	破片	石斧の刃部付近から剥落した破片。刃部と思われる部分のみ研磨が残る。	Ｐ地区不明
－	280	石斧	Ｖg	－	－	－	48	（緑色片岩）	破片	石斧片。基部の一部が剥落したもの。表面は研磨されている。刃部片面の一部が僅かに残っている。	Ｐ地区不明
－	281	石斧	Ｖg	(8.3)	5.1	(2.1)	144	（緑色片岩）	破片	石斧の基部の一部が剥離した破片。一部に研磨面が残る。小片のため形状不明。	Ｐ地区不明
－	282	磨石	－	(11.7)	(5.0)	3.4	323	（砂岩）	破片	磨石破片。自然礫を利用している。1/3程度残存。残存部の形状より元は扁平楕円を呈していたと思われる。使用面は表裏の二面。	Ｐ地区不明
－	283	石皿	－	(13.0)	(7.5)	(10.0)	1540	（閃緑岩）	破片	石皿の一部と思われるが表面は磨耗しており使用痕ははっきりしない。	Ｐ地区不明
126	204	有孔石製品（大珠状）	－	4.6	2.0	0.63	9.1	粘板岩	完形	扁平で楕円形。上部から1.3cmの部分、やや中心からずれた位置に孔を穿っている。周縁に一部敲打調整の痕が残る。両面とも研磨。孔径2mmである。	Ｓ地区3 土器集中区 P4落込
126	205	有孔石製品（大珠状）	－	4.38	2.0	0.49	7.3	粘板岩	完形	扁平楕円形。表面にいくつもの筋が見られるが、製作過程によるものなのかは不明。孔は上部から1.9cm、やや中心からずれた位置に穿たれている。孔径3.1mmである。	チ14 Ⅲ層0－10
126	206	有孔石製品（大珠状）	－	3.0	1.35	0.4	2.9	結晶質石灰岩	完形	偏平楕円形。乳白色で小型だが孔径が4.8mmと比較的大きい。全体に丁寧に研磨され表面は滑らか。上部から1cmの部分中央に孔を穿つ。	Ｓ地区5 Ⅲ層20－25 覆土②
126	207	有孔石製品（大珠）	－	2.1 (4.0)	1.8	0.4	3.1	ヒスイ輝石	破損	ヒスイ製の垂飾品の一部思われる。1/2は欠失。孔径は他と異なり大きく推定1.2cmで、全体の推算最大長は４cmである。孔部分内側まで丁寧に研磨され、孔付近に紐擦れの痕が残る。色調は乳白色の中に緑色が筋状に入る。	8－3号 Ⅲ層0-10
126	208	有孔石製品（大珠状）	－	3.4	2.0	0.3	4.1	千枚岩	完形	偏平で薄くやや方形。孔は中央に一箇所穿ってある。両面、周縁とも丁寧に研磨調整され、周縁は面を形成する。孔径2.5mmである。	8－1号 B・30-35
126	209	有孔石製品（大珠状）	－	2.8	2.45	0.65	5.3	砂質千枚岩	破損	扁平楕円形。表面は風化の為かやや凹凸している。1/2程度欠失。中心からややずれた位置に孔を穿つ。孔付近に紐擦れ痕と思われる僅かな凹みが残る。孔径2.5mm。	8－3号 B4 20-30
126	210	有孔石製品	－	2.86	3.8	0.26	5.1	粘板岩	完形	形状は一部欠けているがやや方形に近い。非常に薄く仕上げられ、孔は上部のやや中心からはずれた位置に二カ所開けられている。孔付近には紐擦れ痕は見られない。孔径3mm、2.9mm。	5号 Ⅲ層40-45
126	211	小型扁平利器	－	6.4	2.23	0.35	9.4	粘板岩	完形	長方形を呈し、全体に研磨がかかり非常に薄く仕上げられている。上下端は刃先のようにさらに鋭利に仕上げてある。用途は不明。	Ｓ地区3 Ⅱ層55－60 土器集中区
126	212	小型扁平利器	－	2.2	2.0	0.22	2.1	粘板岩	破損	元の形状はNo.211のように長方形だと思われるが1/2程度欠失か。非常に薄く残存部全体に研磨がかかり、特に刃部と思われる部分の研磨痕は明瞭である。使用痕と思われる刃こぼれが観察できる。側面も面取りがなされ平らである。	14号?
126	213	小型扁平利器	－	4.24	2.27	0.49	8.2	頁岩	完形	表面は磨耗していると思われるが、上下端は研磨痕が横に走っているのが僅かに観察できる。下部は刃部なのか面が形成されている。一部欠けているが長方形を呈す。用途不明。	Ｓ地区3 Ⅰ層 A集石断面
126	214	有孔石製品（大珠状）	－	3.08	1.49	0.3	2.9	粘板岩	完形	扁平楕円形。上下部分を研磨し、平らにすることで形を整えている。孔は未貫通。製作途上品あるいは製作途中で遺棄されたものか。研磨は丁寧で周縁も面を形成している。	Ｐ地区4号
126	215	有孔石製品（大珠状）	－	3.44	1.68	0.48	5.1	方解石（結晶質石灰岩か）	完形	扁平楕円形。手馴れのせいか全体的に稜がはっきりせず丸みを帯びる。やや上部中心に孔を穿っている。裏面孔付近に紐擦れの痕が僅かに残る。孔径2.7mm。	Ｐ地区Ｎ11 Ⅱ層
126	216	サメ歯状石製品	－	3.0	1.6	0.8	4.8	チャート	完形	全体に磨耗しており、表面は滑らかで光沢を帯びる。原型なのか破損した後に磨耗したのか、定かではないが形状はやや三角形を呈す。未完あるいは失敗作の可能性も考えられる。端のほうに一箇所孔が穿ってある。孔付近に紐擦れとはやや異なる痕跡がみられる。表に未貫通の痕跡あり。孔径1mm。	Ｐ地区1号
126	217	有孔石製品	－	2.12	1.85	0.79	2.8	（琉球石灰岩）	完形	他の石製品とは材質も形状も異なっている。表面の一部に紐擦れのような溝が、浅いが明瞭に残っている。孔径9mm。	Ｐ地区4号
126	218	小型扁平利器	－	5.1	3.0	1.0	25.7	緑色千枚岩	破損	石斧様の形状を呈する。扁平な自然礫を利用している。上部は欠損。刃部のように整形された部分に研磨時のものと思われる線条痕が残る。実用品かと思われるが、用途は不明。	Ｐ地区Ｎ16 Ⅲ層



第101図　１次地区出土石器(1) ２号

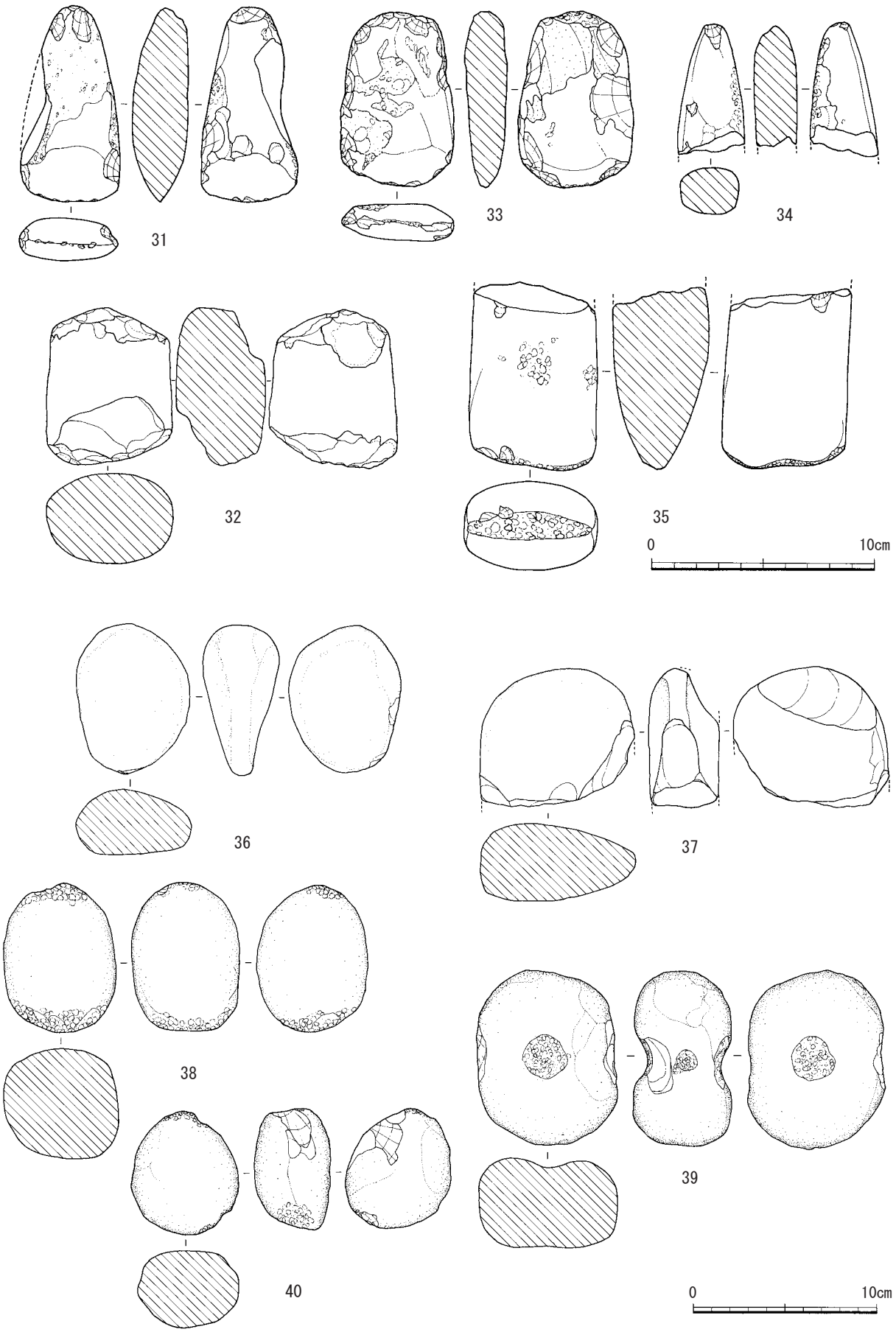


第102図　１次地区出土石器(2) ３号

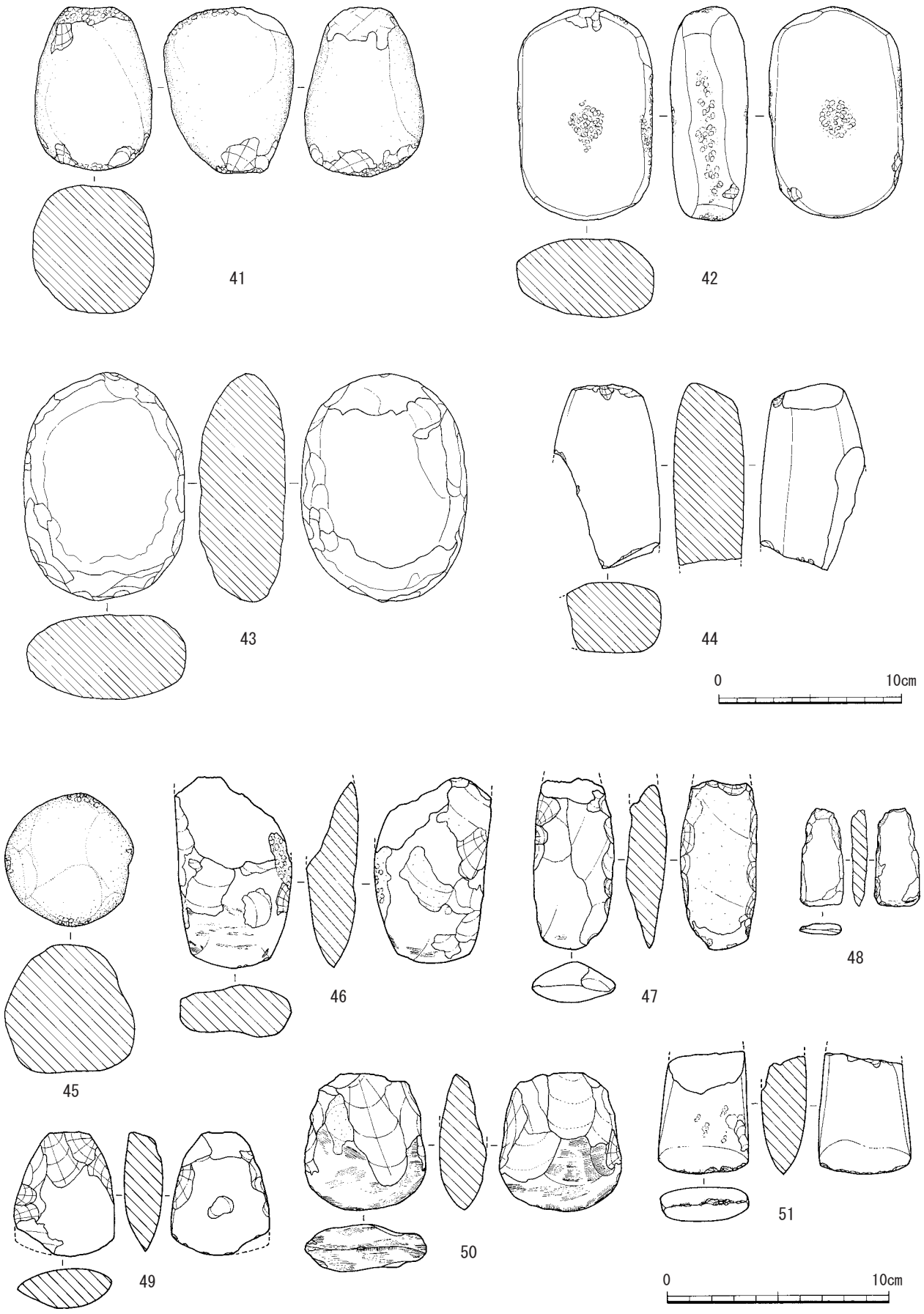


第103図　１次地区出土石器(3)４号(16～18)、５号(19～23)

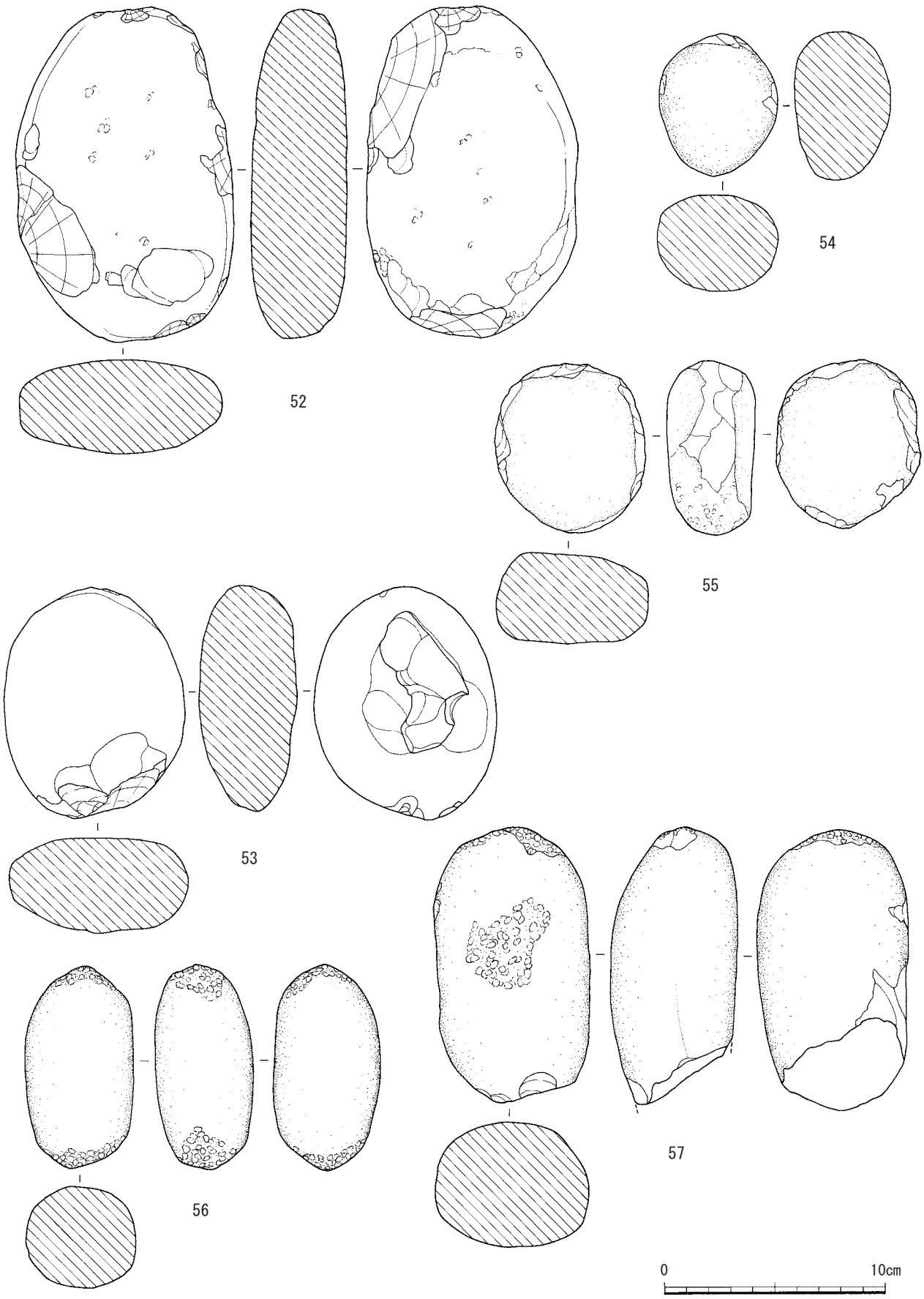
第104図　１次地区出土石器(4) ７号



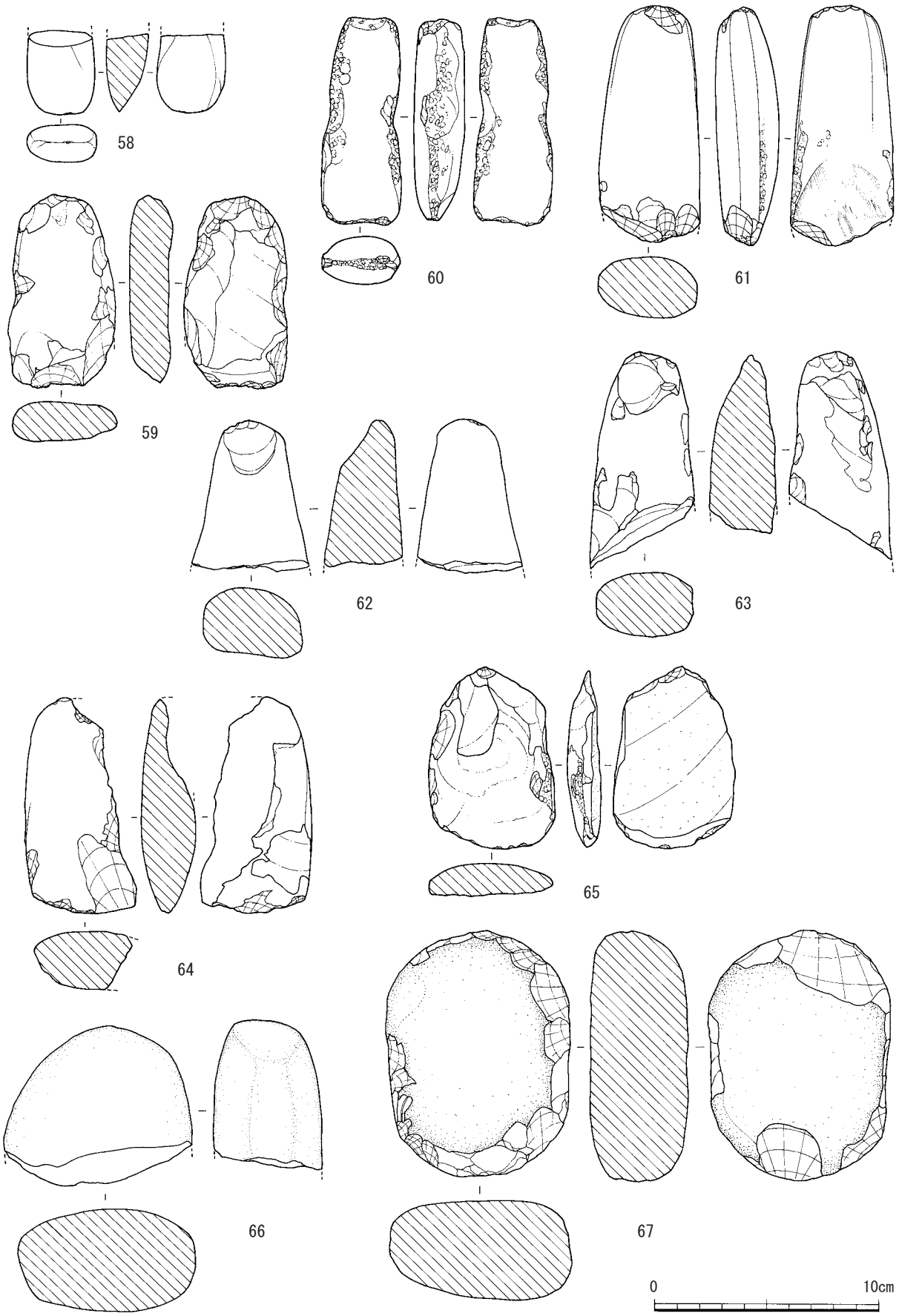
第105図　１次地区出土石器(5) ８－１号(31・32・36～39)、８－２号(33・40)
８－３号(34・35)　※36～40はS=1/3



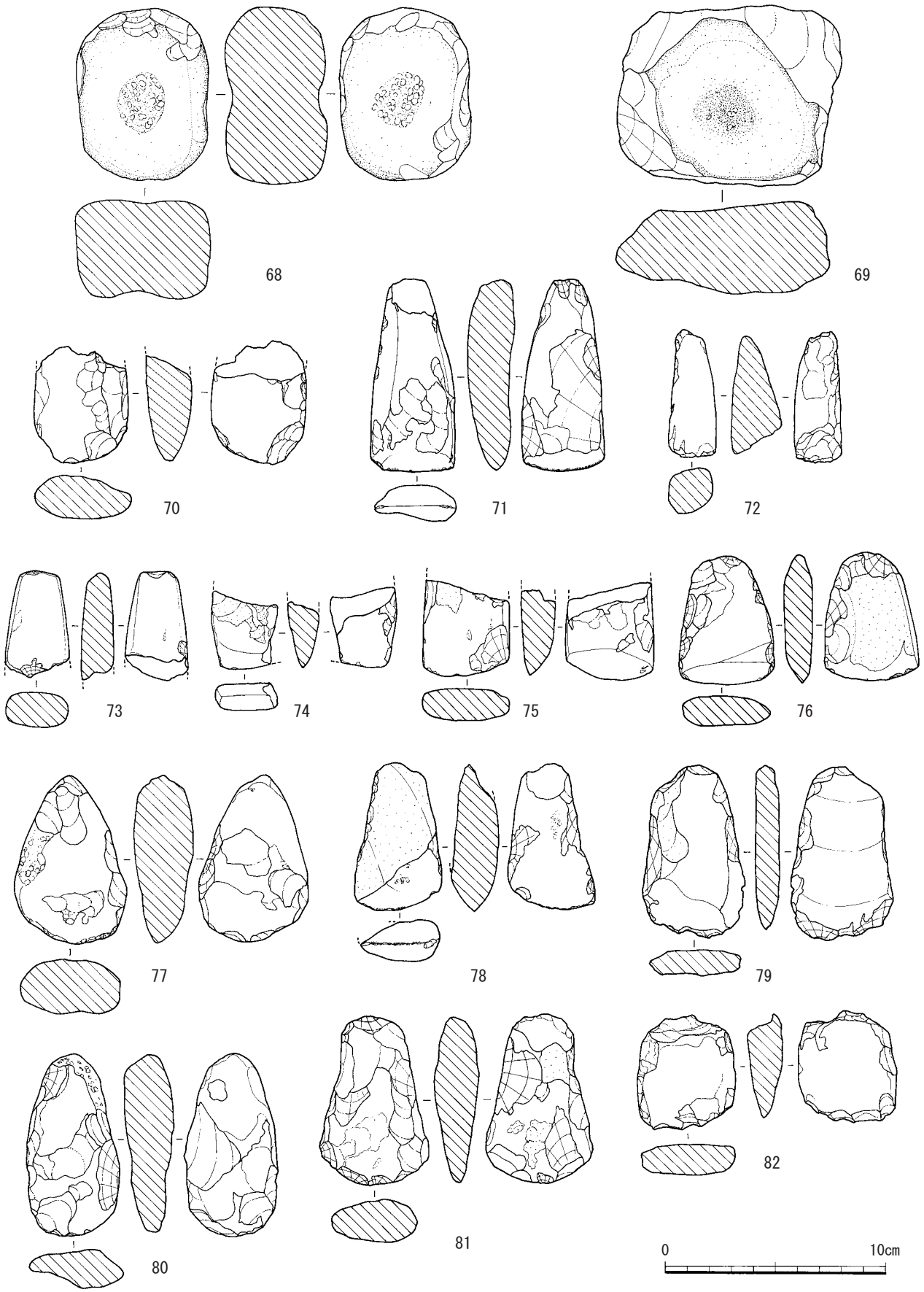
第106図　１次地区出土石器(6) ８－３号(41・42)、９号(43)、10号(44・45)
13号(46)、14号(47～51)　※41～44はS=1/3



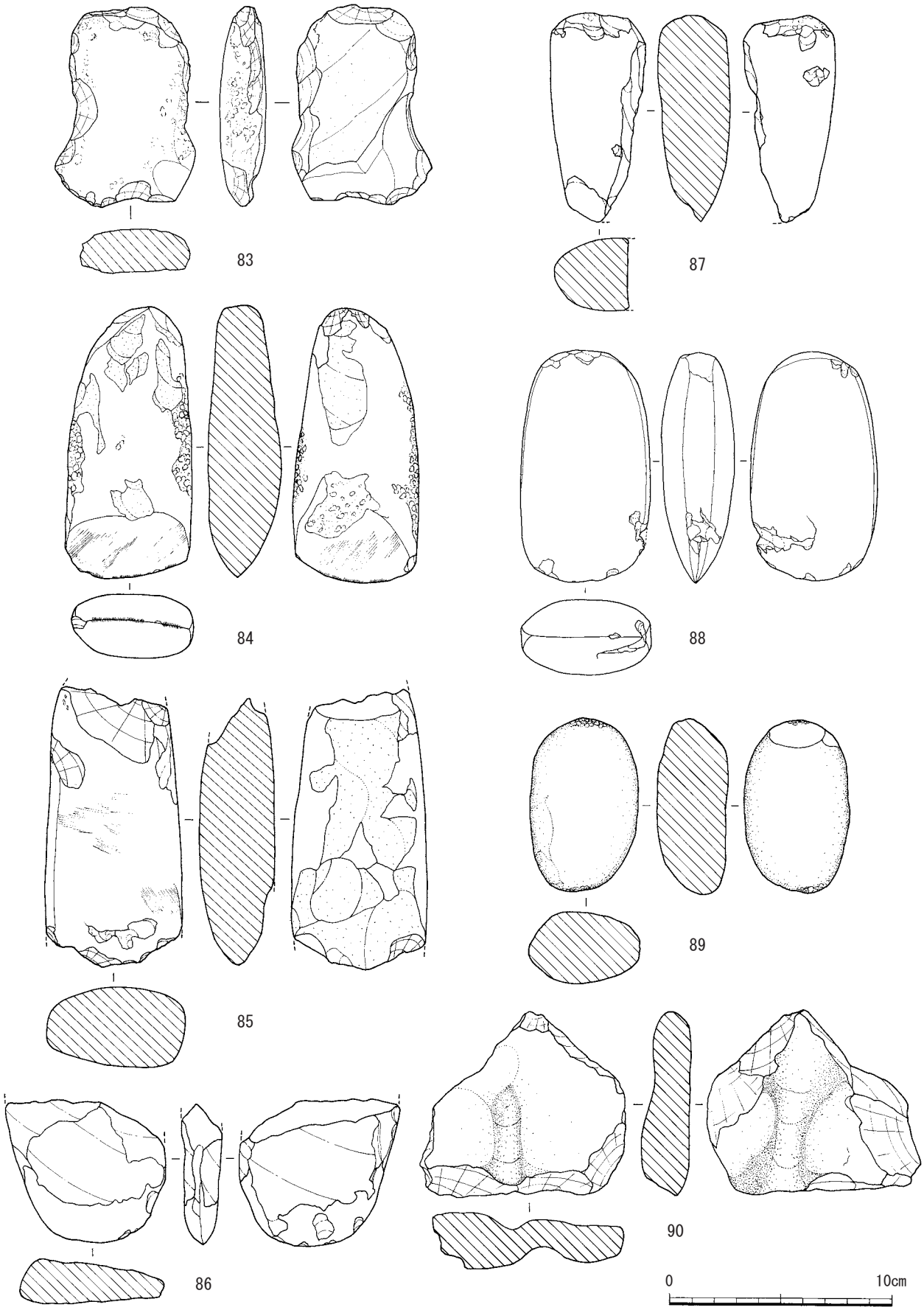
第107図　１次地区出土石器(7)14号(52・53)、15号(54・55)、16号(56・57)



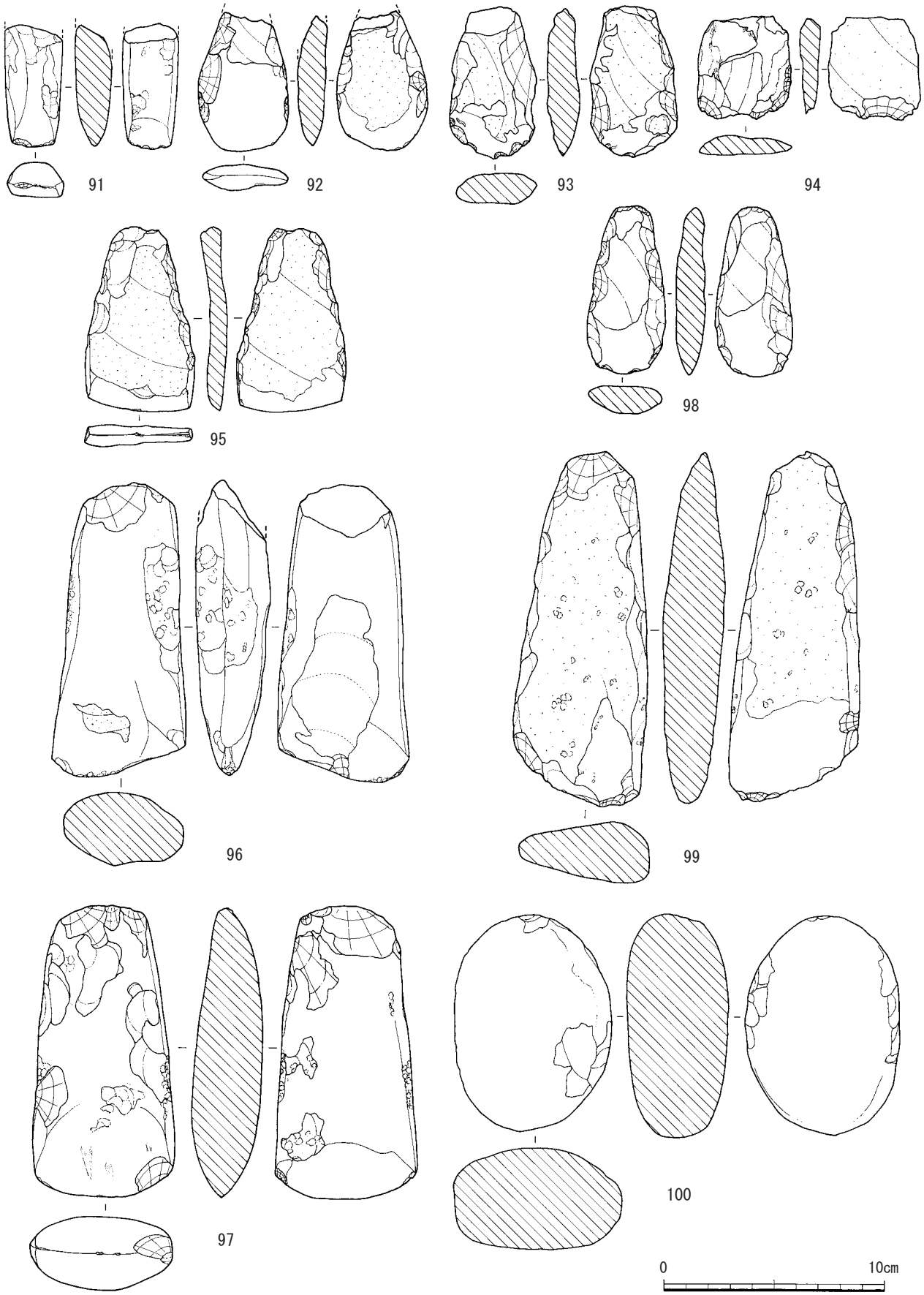
第108図　１次地区出土石器(8)18号(58～62)、21号(63)、22～24号(64)、26号(65～67)



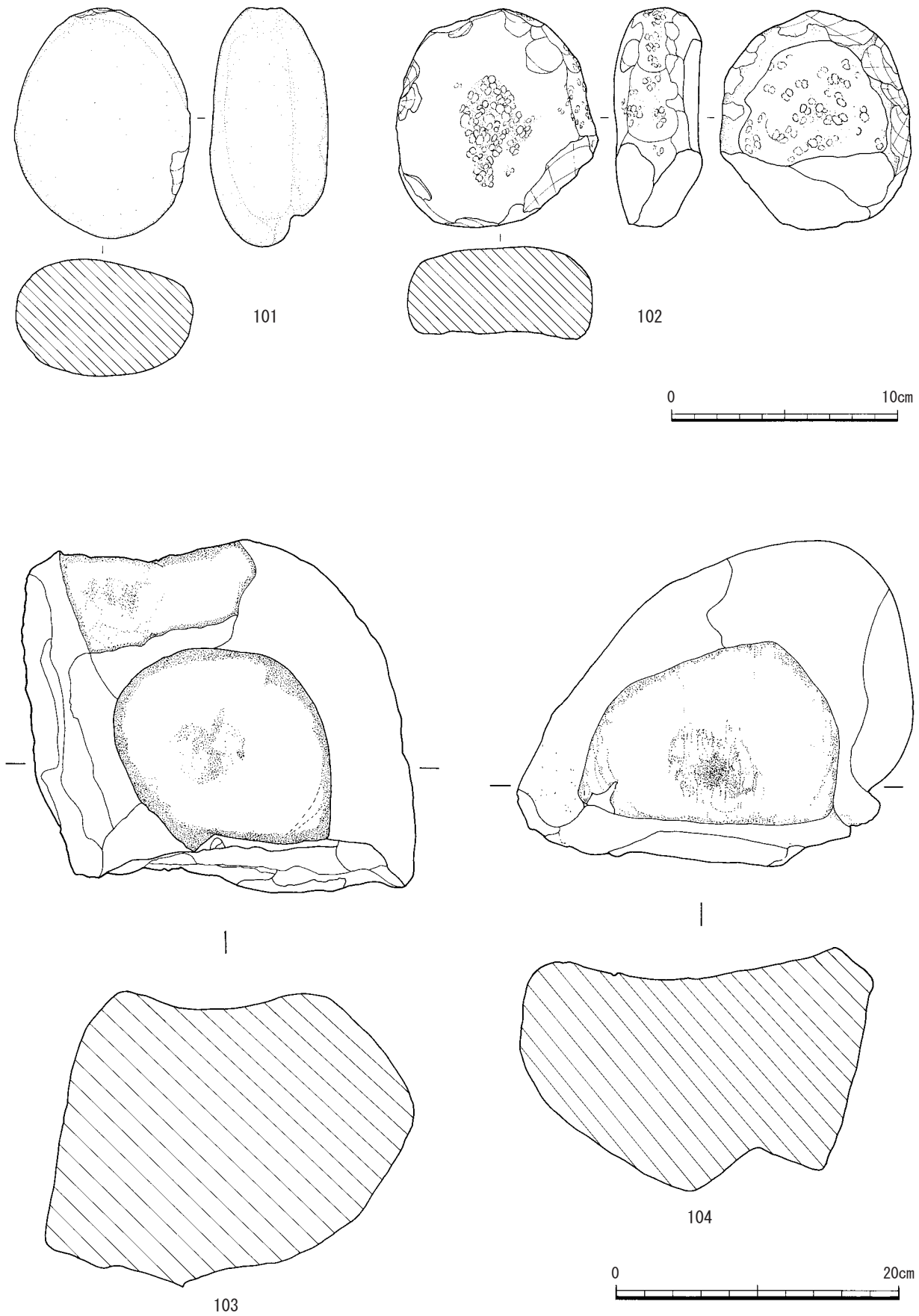
第109図　１次地区出土石器(9)26号(68・69)、27号(70・71)、包含層(72～82)



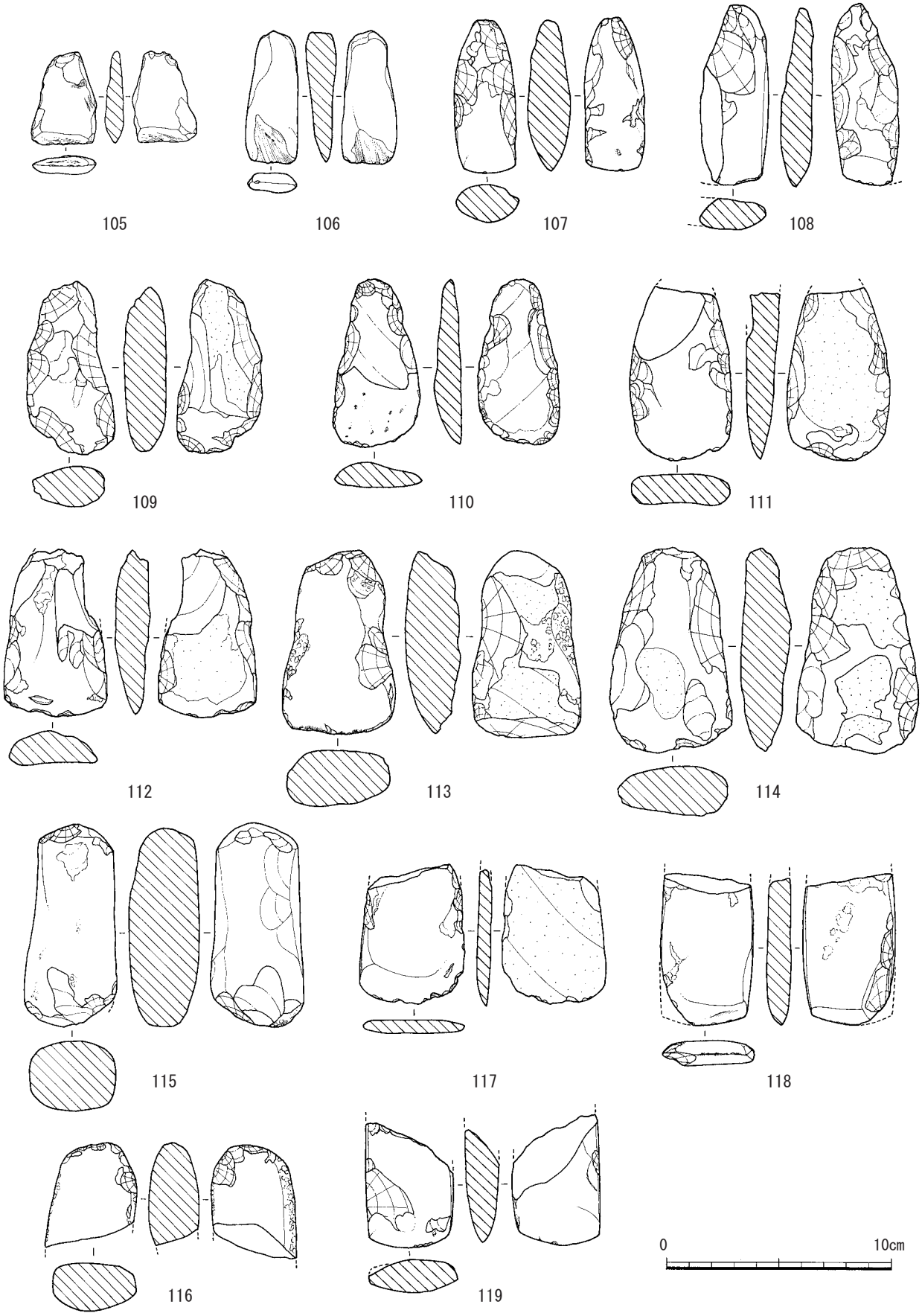
第110図　１次地区出土石器(10)包含層出土



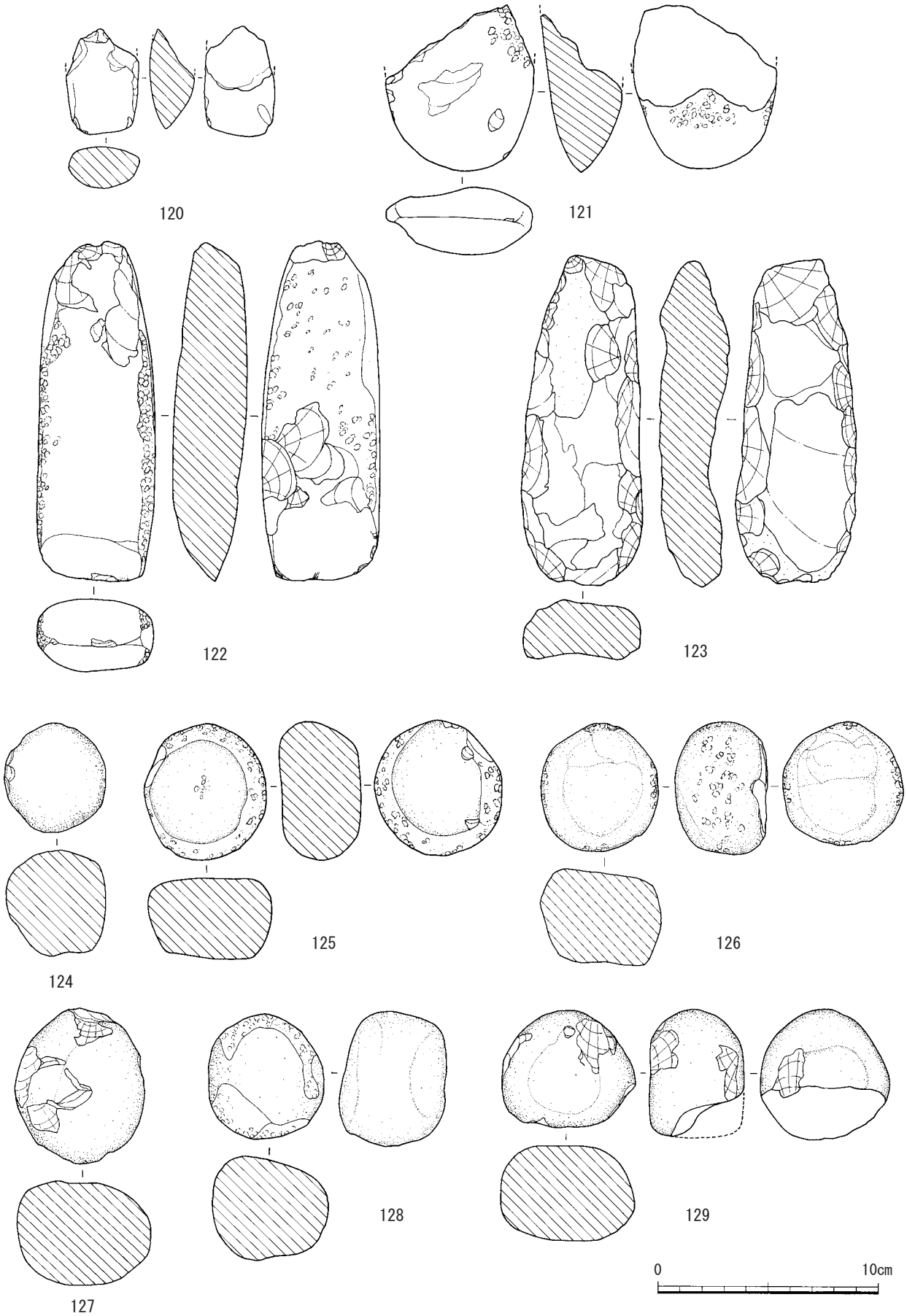
第111図　１次地区出土石器(11) Ⅰ層(91～94)、表採(95～97)、出土地不明(98～100)



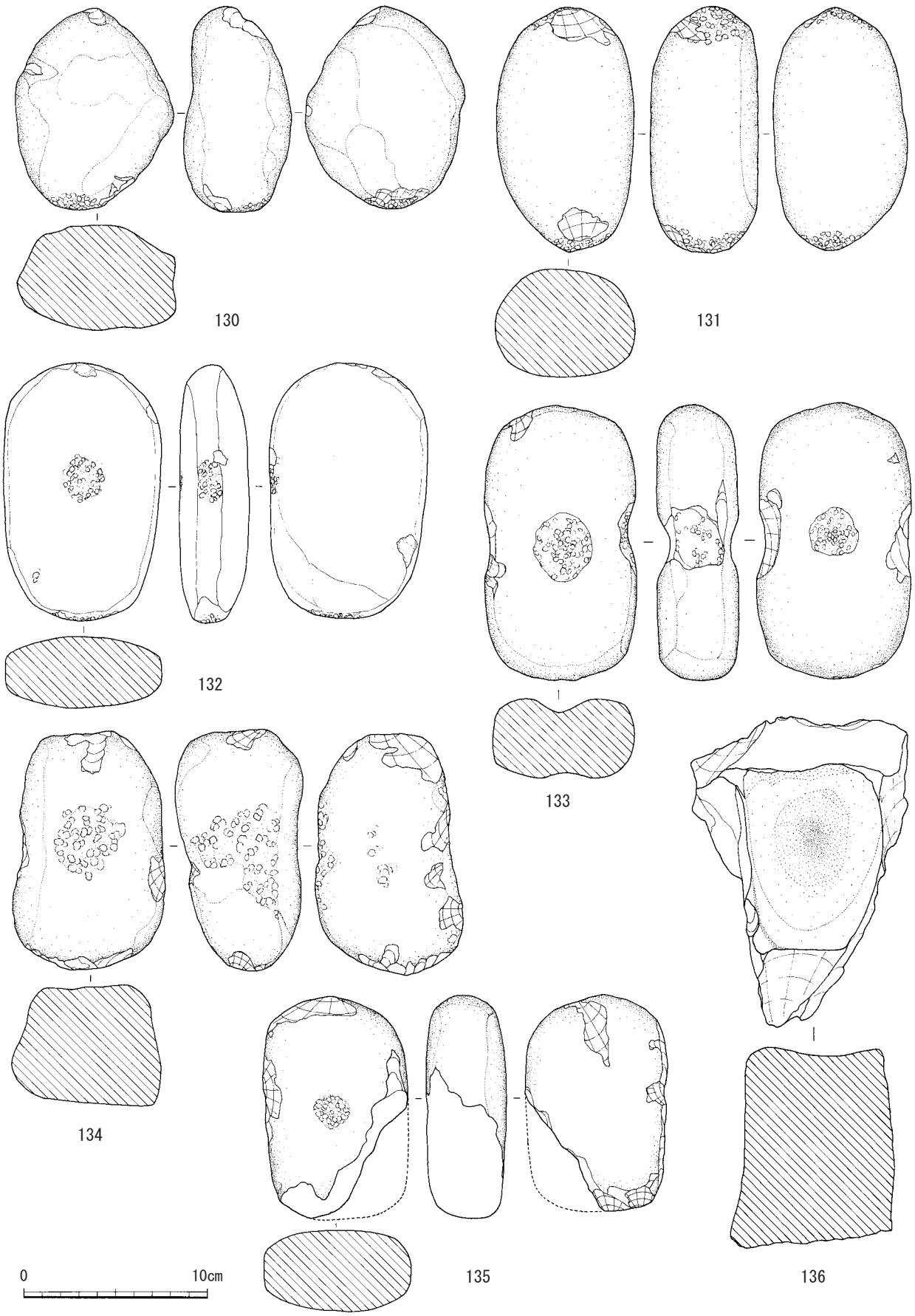
第112図　１次地区出土石器(12)出土地不明(101)、表採(102)、３号(103)、27号(104)
※103・104はS=1/4



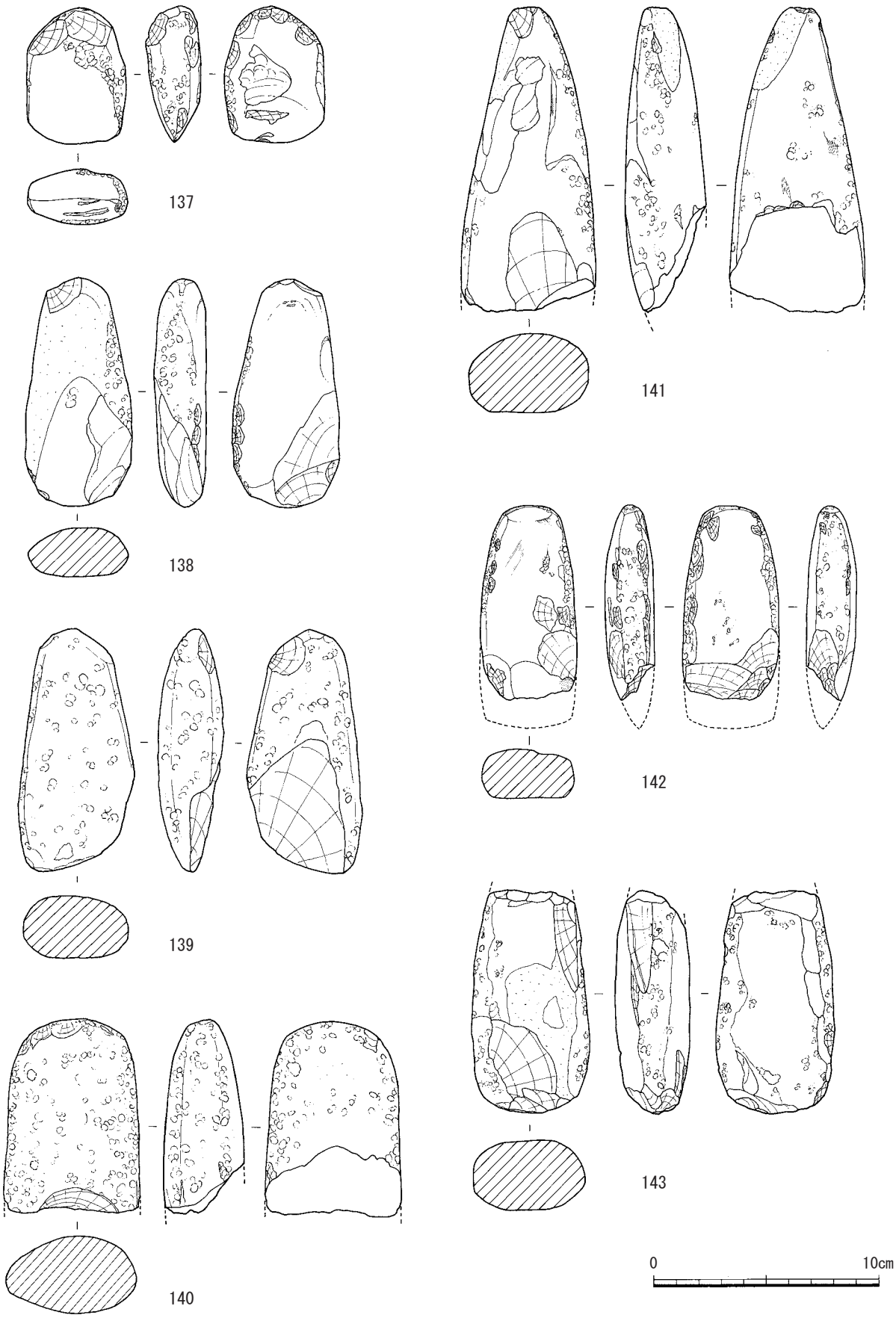
第113図　Ｓ地区出土石器(1)



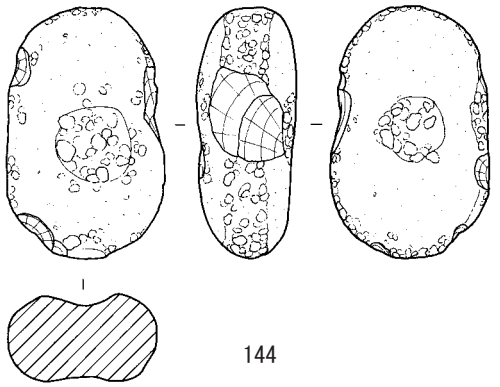
第114図　S地区出土石器(2)

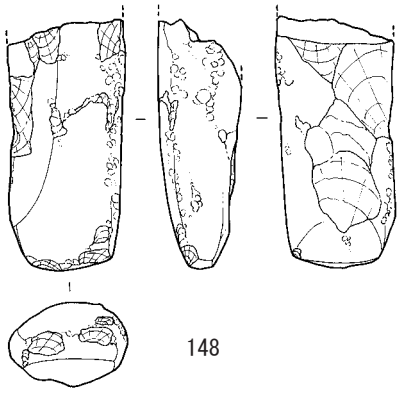


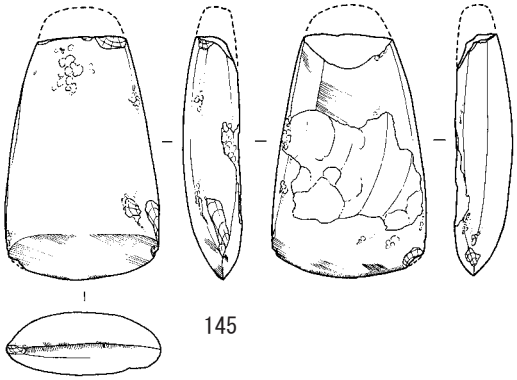
第115図　S地区出土石器(3)

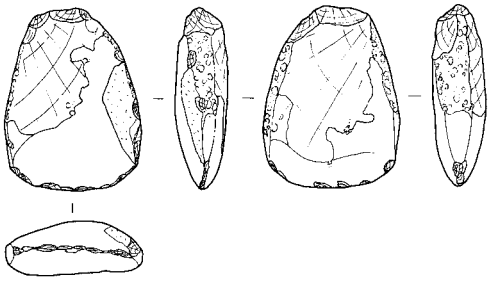


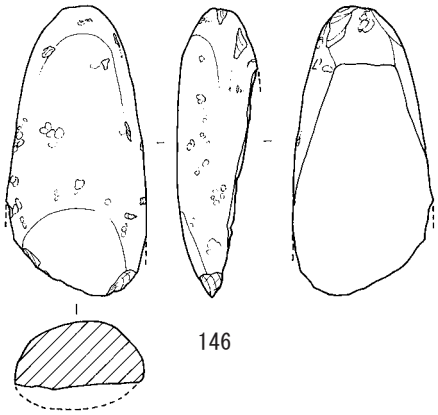
第116図　Ｐ地区出土石器(1) ２号(137～140)、８号(141～143)

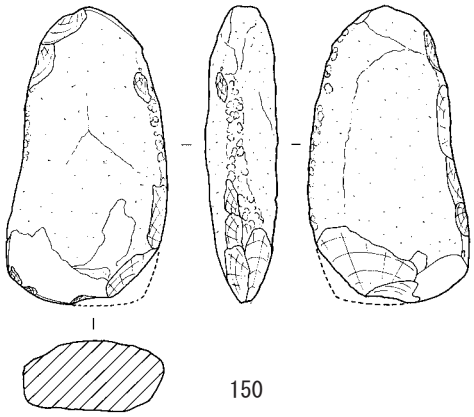


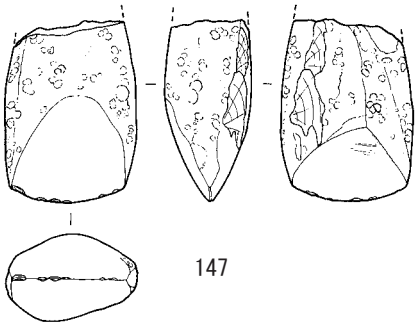


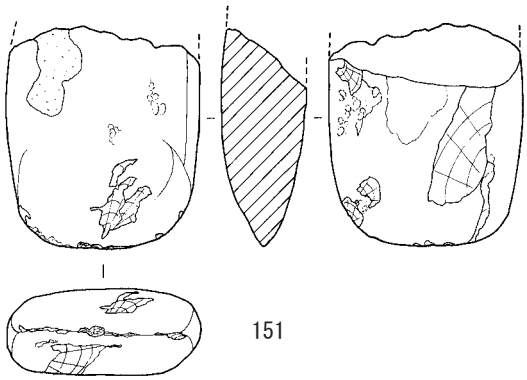


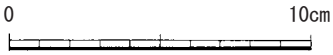




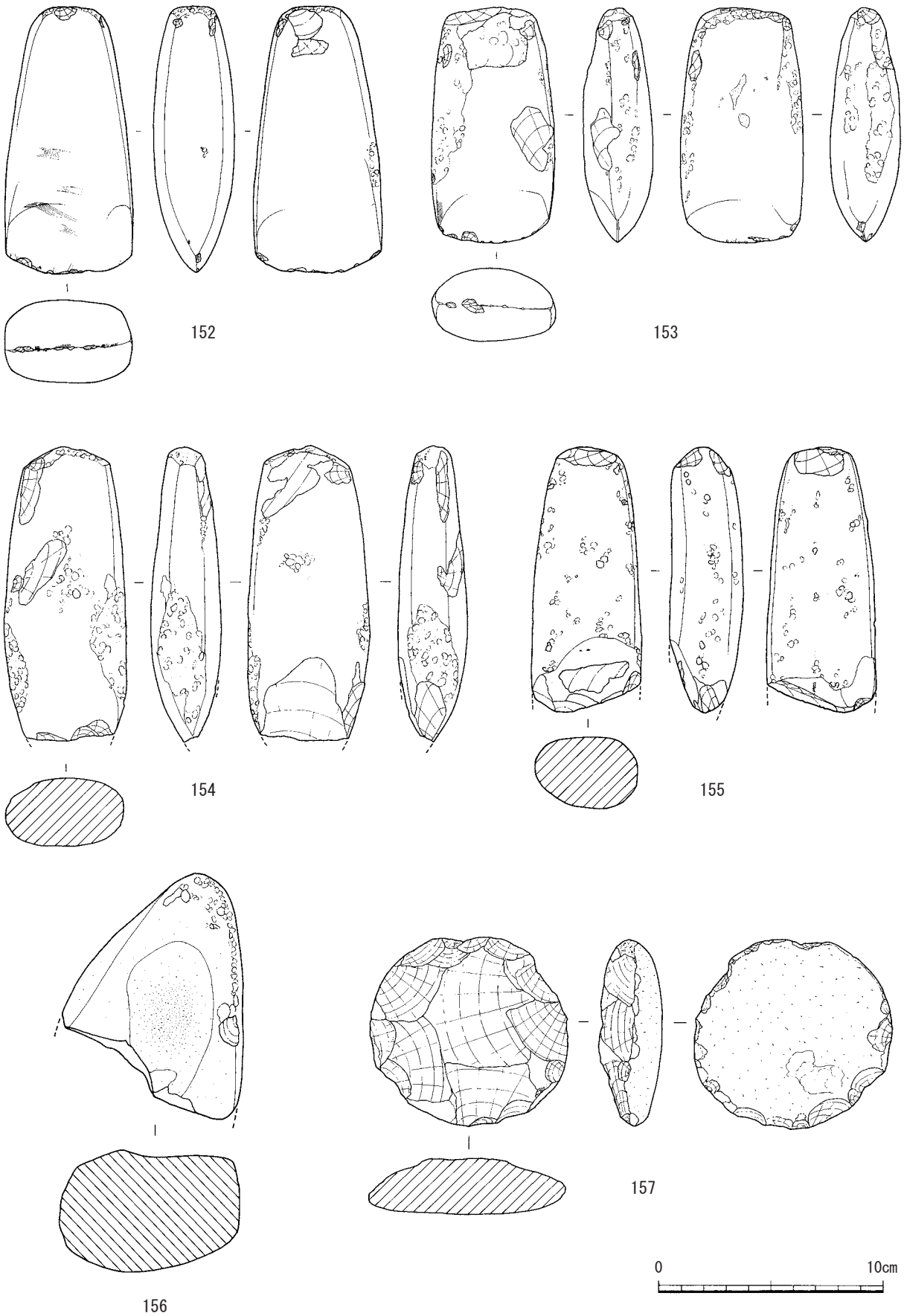




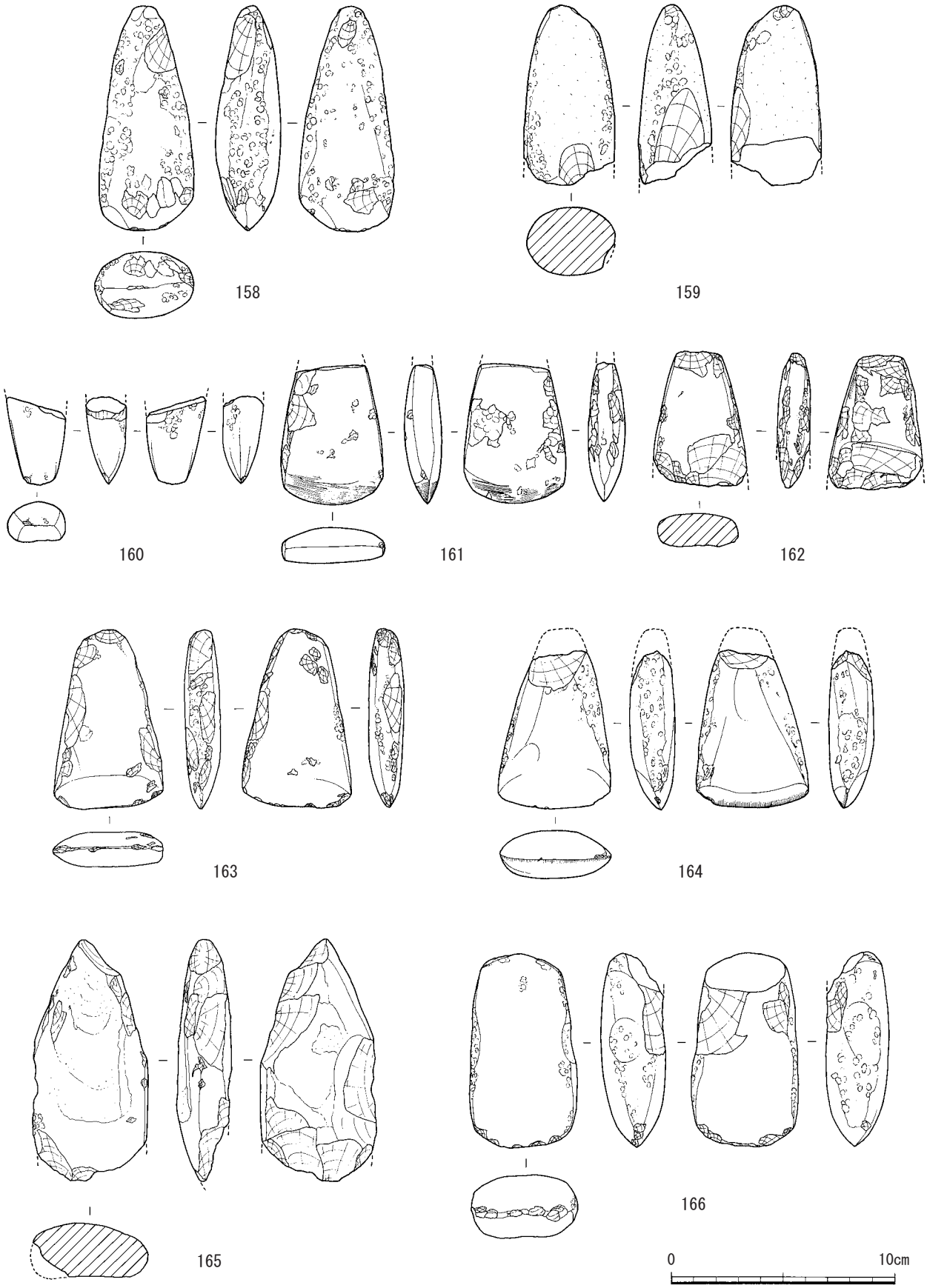




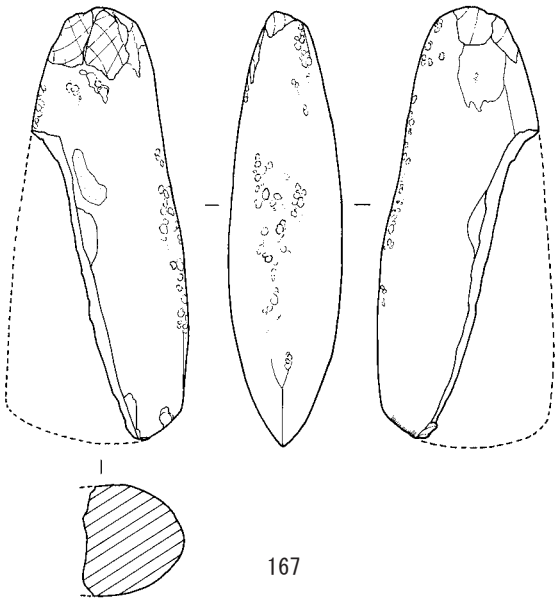
第117図　Ｐ地区出土石器(2) ９号(144)、12号(145)、15号(146)
17号(147・148)、19号(149～151)

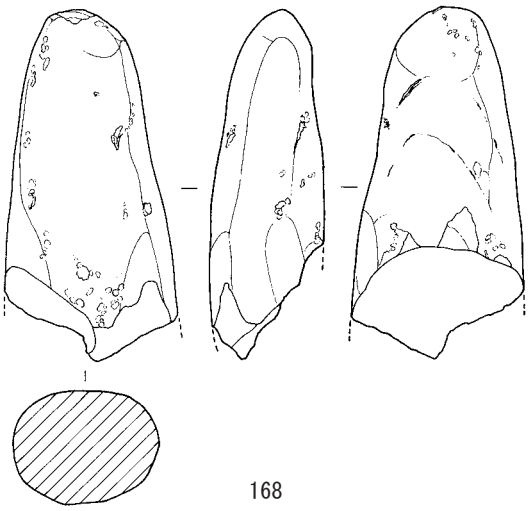


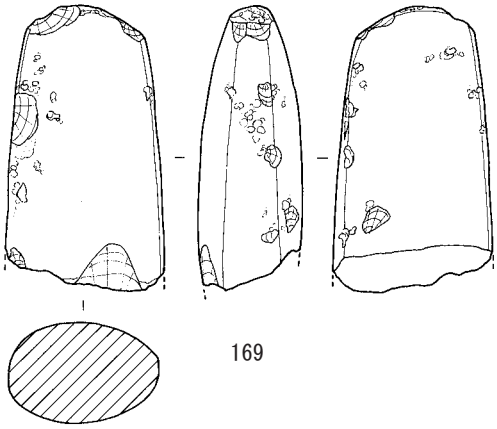
第118図　Ｐ地区出土石器(3)19号

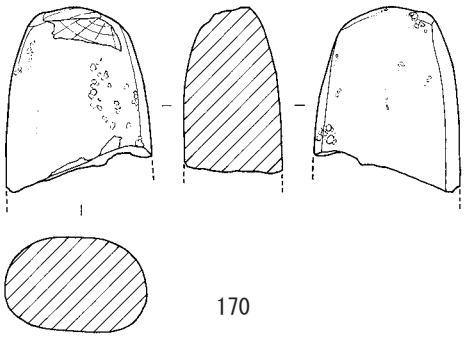


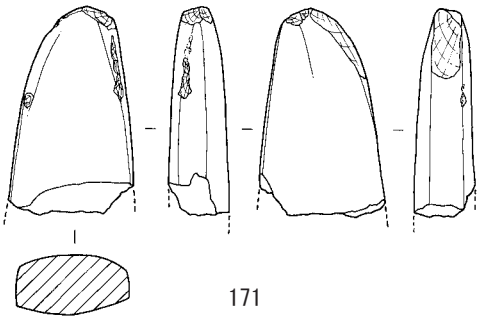
第119図　Ｐ地区出土石器(4)23号(158)、29号(159)、包含層出土(160～166)

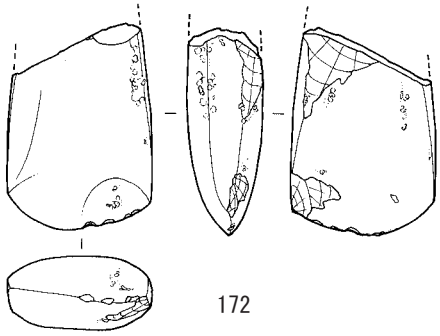


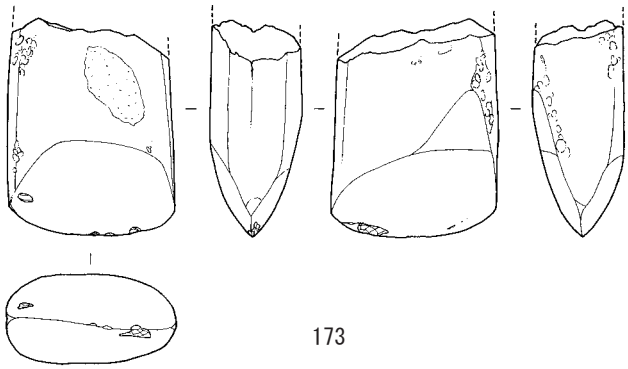


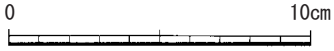




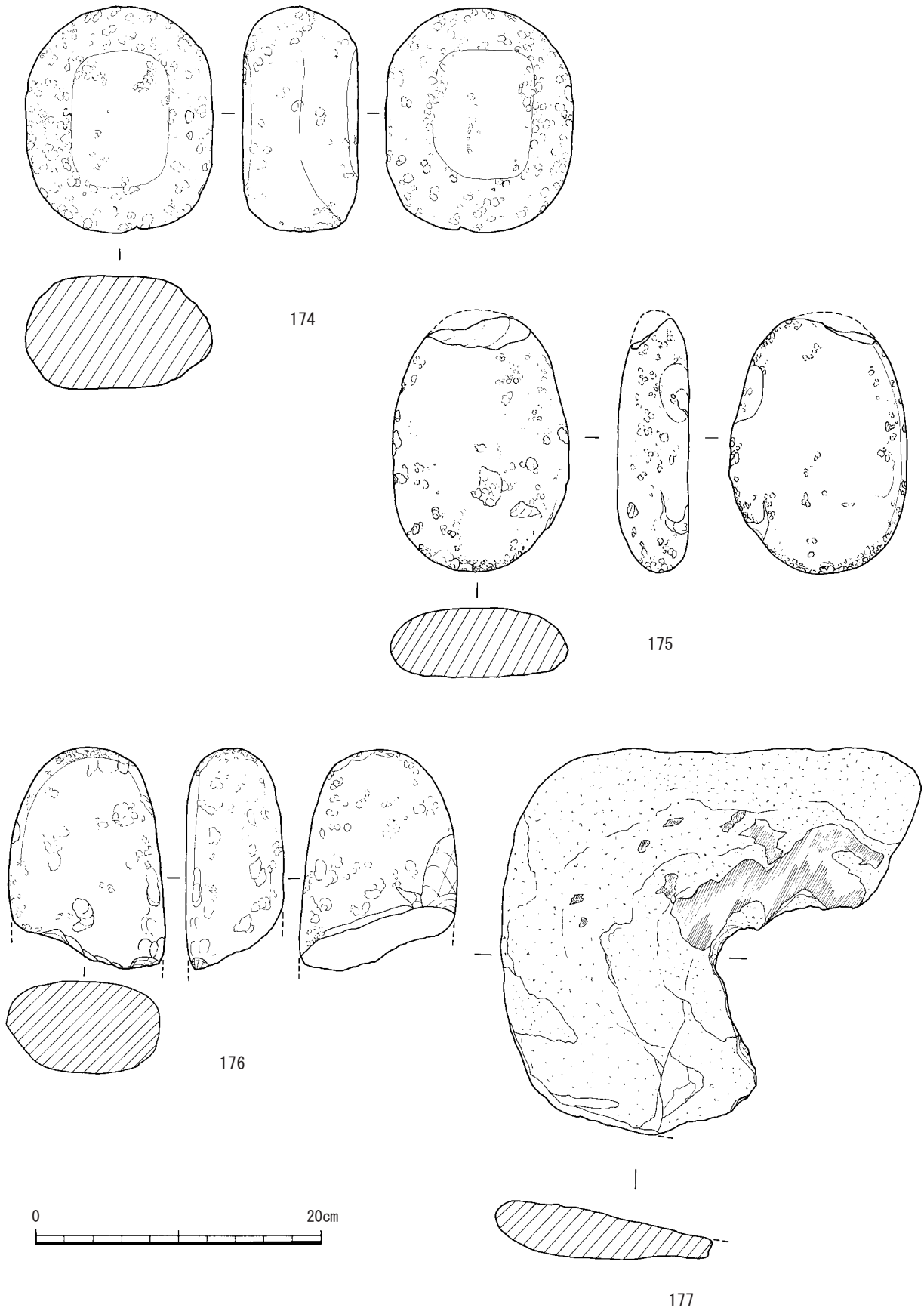




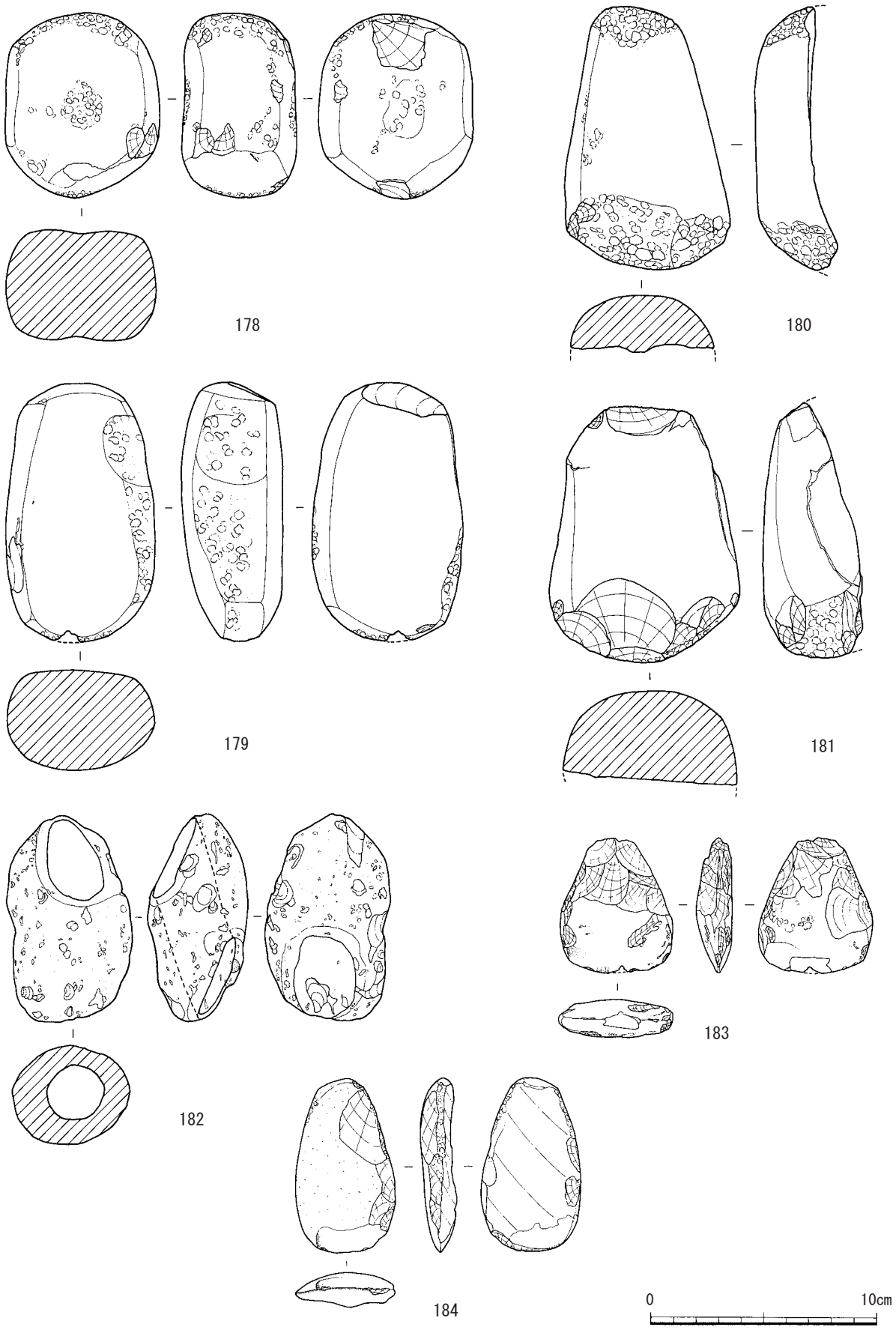




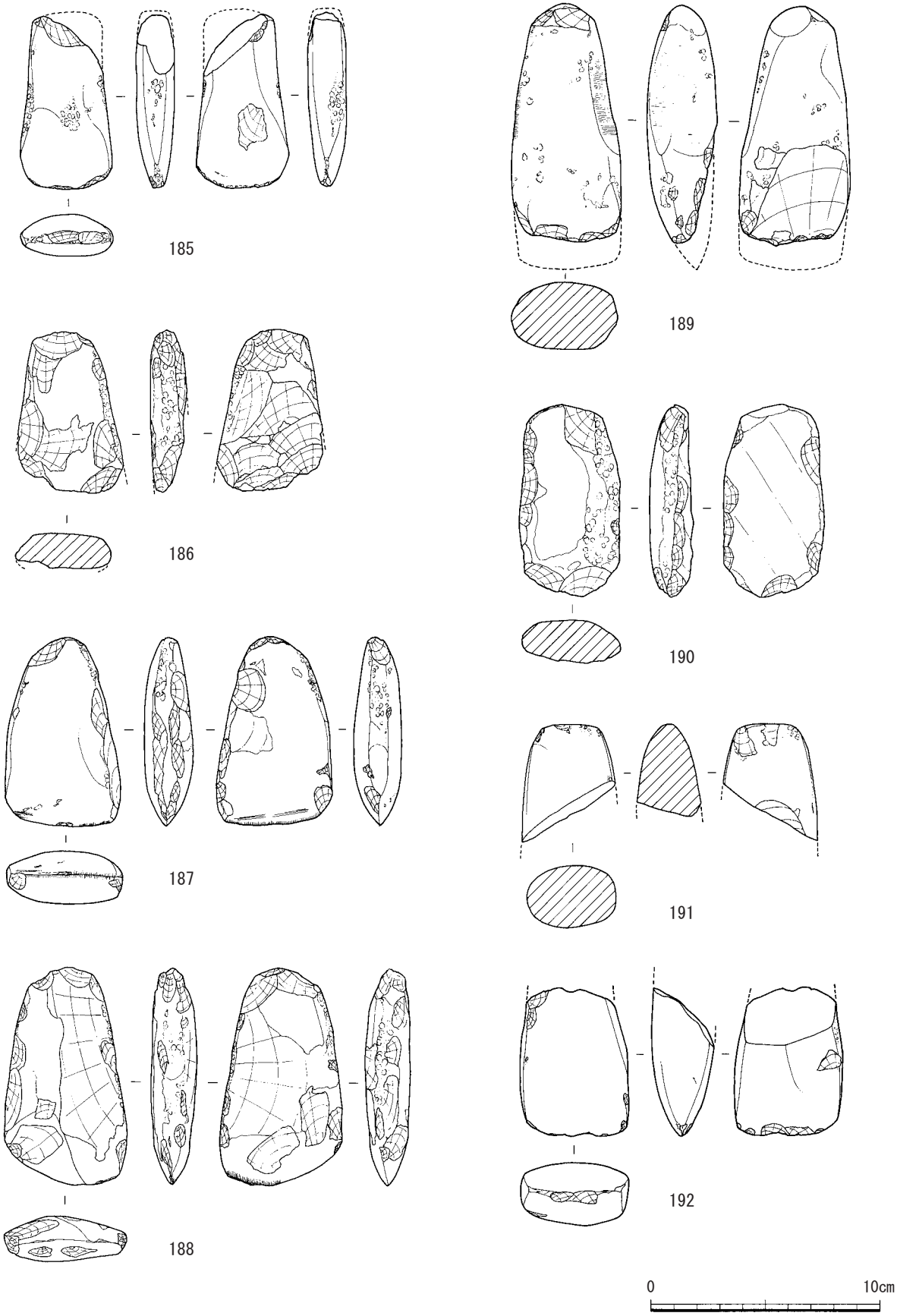
第120図　Ｐ地区出土石器(5)包含層出土



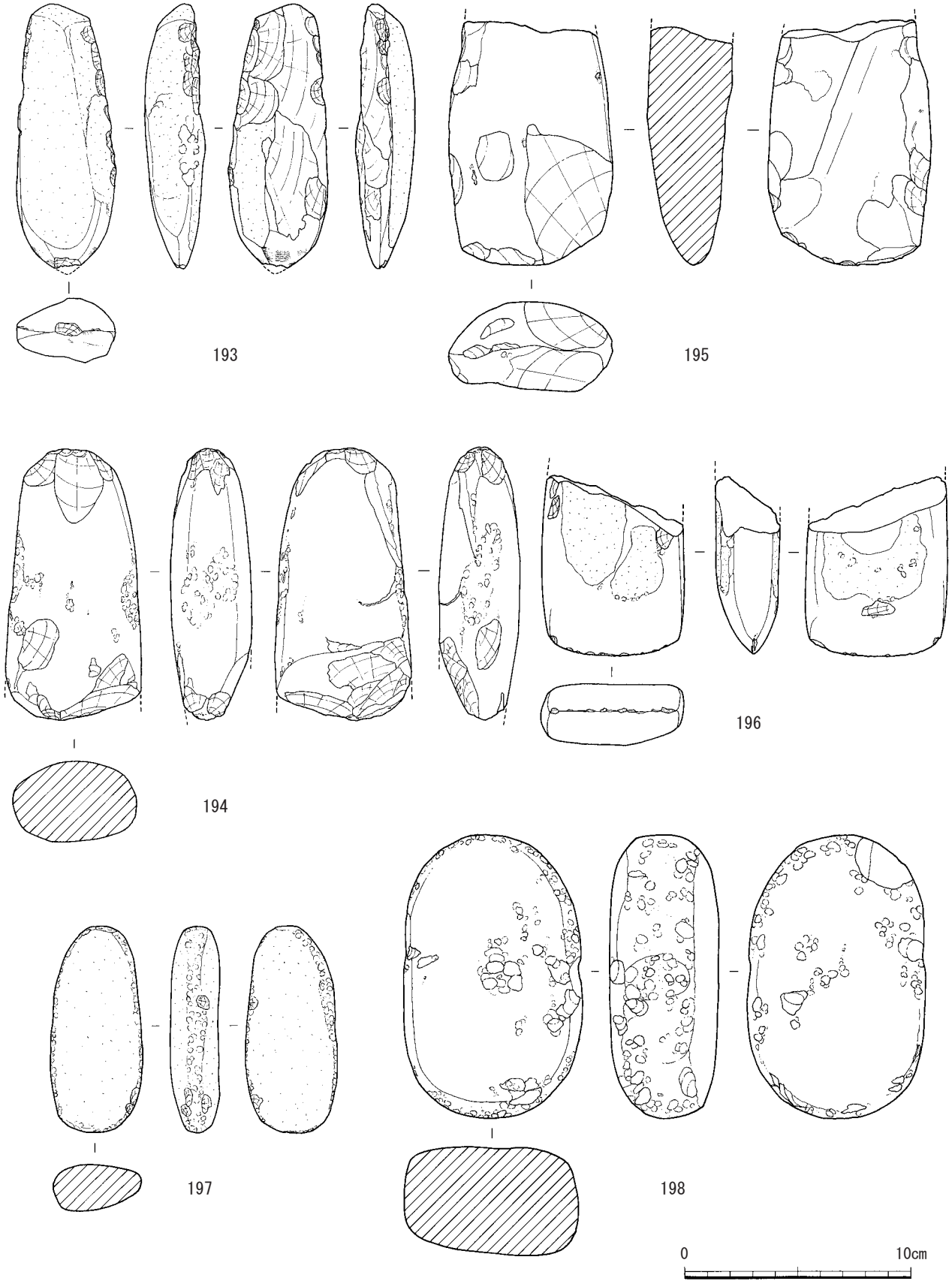
第121図　Ｐ地区出土石器(6) ２号(174)、出土地不明(175)、包含層(176)、19号(177)



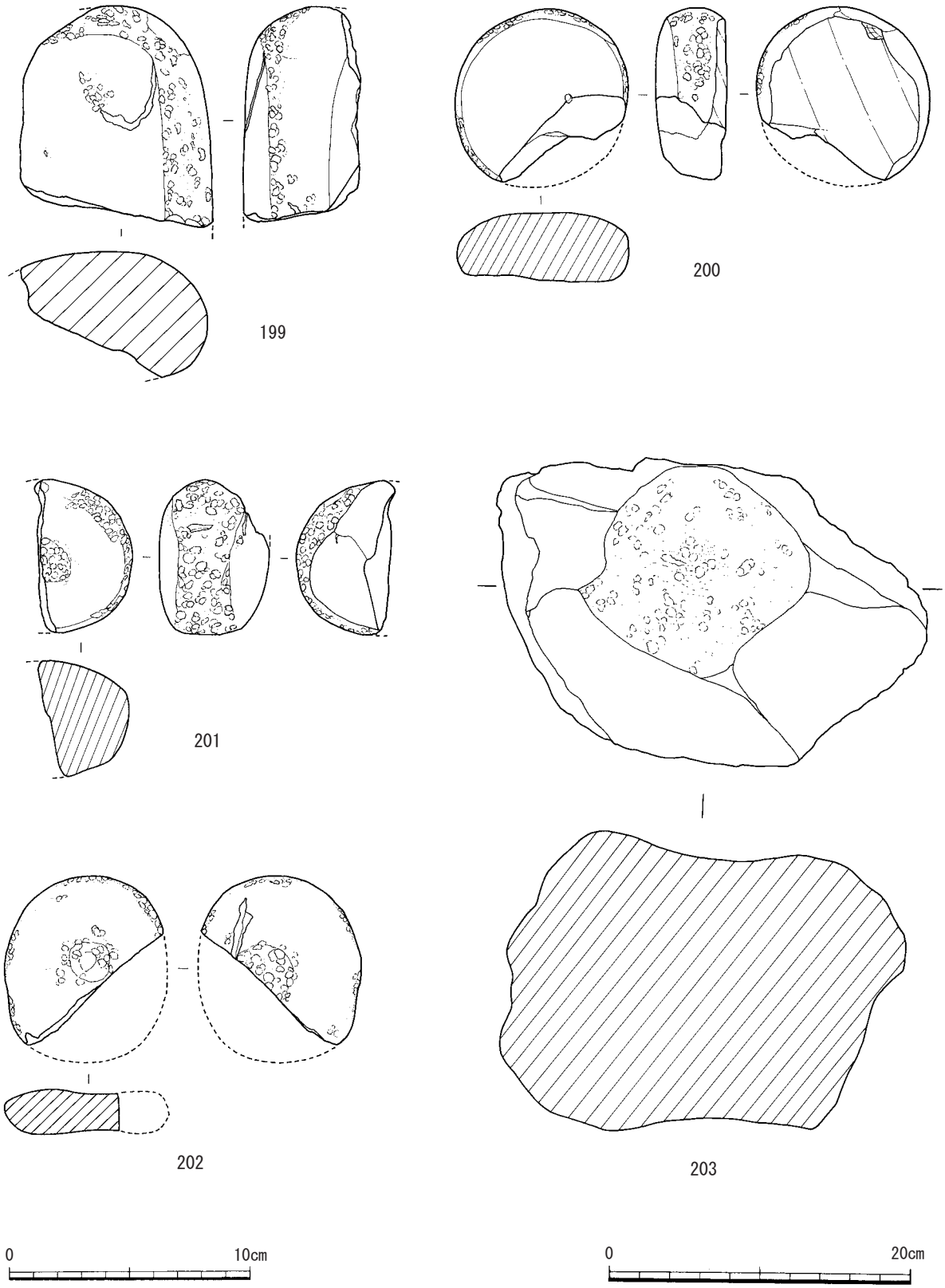
第122図　Ｐ地区出土石器(7)包含層出土(178～182)、出土地不明(183・184)



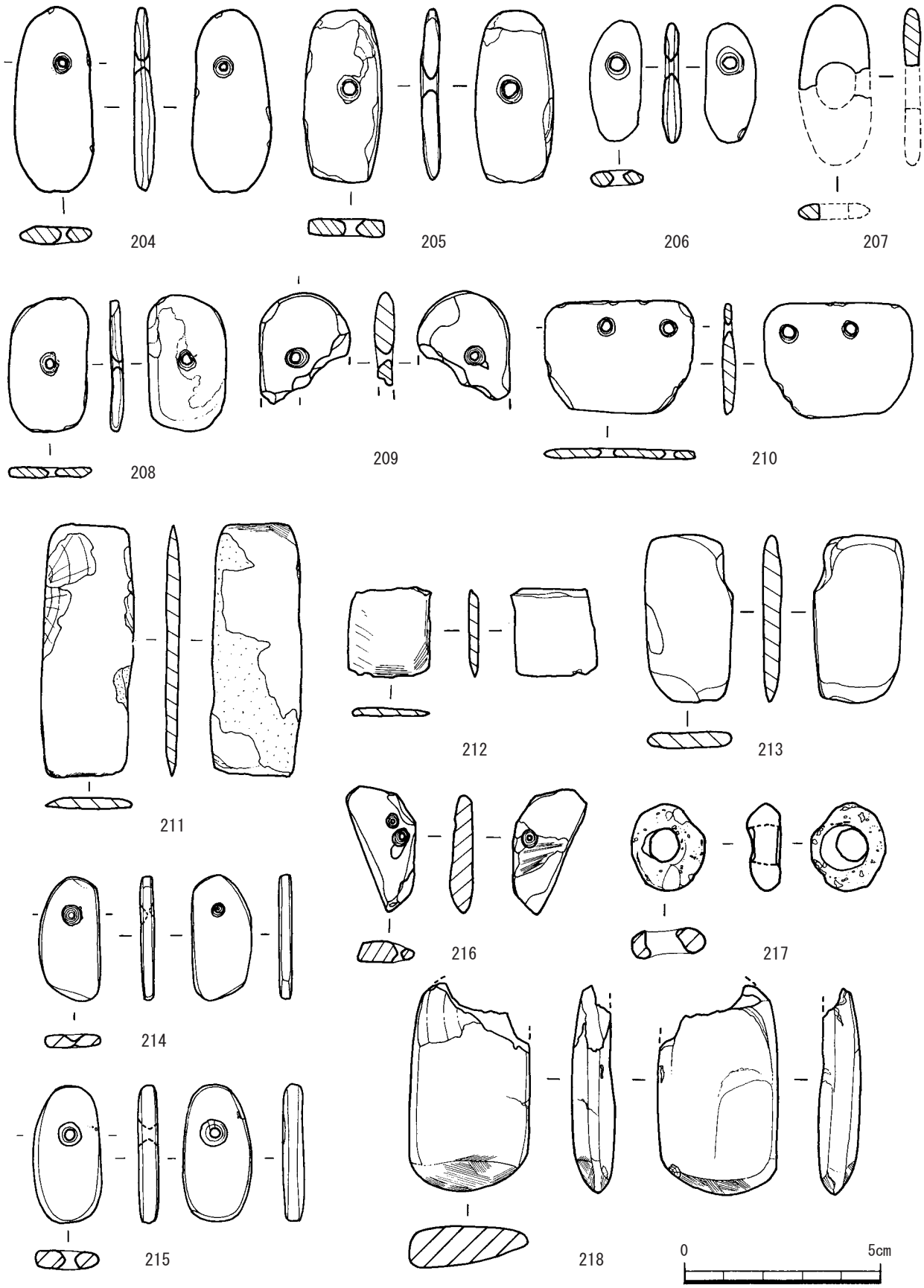
第123図　Ｐ地区出土石器(8)出土地点不明



第124図　Ｐ地区出土石器(9)出土地点不明



第125図　Ｐ地区出土石器(10)出土地点不明　　※203はS=1/4



第126図　石製品　１次地区出土(205・207～210・212)、Ｓ地区出土(204・206・211・213)
Ｐ地区出土(214～218)

第５節　骨製品・貝製品（第127図）

西長浜原遺跡からは、骨製品20点（内18点を実測）、貝製品６点が出土している。これらの製品は、大きく生産用具と非生産用具に２大別される。骨製品の生産用具としては、骨針（１～３）、刺突具（４～14）が認められ、非生産用具としては、垂飾品（15・16・18）、簪（17）が認められた。貝製品も同様に生産用具（19～21）と非生産用具（22～24）に分けた。以下、各遺物の観察事項を記す。

骨製品

１はイノシシ科・腓骨（Ｒ）を素材とし、骨体中間部～遠位端までを使用している。完形品で、長さ9.3㎝である。骨体の中間部ほどから打ち割って成形した後、その先端部に研磨を施して尖りだしを行う。研磨は製品の外側部分全体と遠位端内側にまで及んでおり、外側部分は扁平に整形されている。また、遠位端はずれ部分近くには両側からの回転穿孔を施す（孔径4.5㎜）。１次調査区・18号遺構出土。

２はイノシシ科・腓骨（Ｌ）を素材とし、近位端～骨体中間部までを使用している。完形品で、長さ10.5㎝である。骨体の中間部から打ち割って成形した後、その先端部に研磨を施して尖りだしを行う。研磨は先端部のみに限られる。Ｐ地区東凹区最下層出土。

３もイノシシ科・腓骨（Ｌ）を素材とし、近位端付近のみが残存する。片側からの回転穿孔を施す（孔径3.1㎜）。Ｐ地区Ｏ９・Ⅱｃ層出土。

４は、イノシシ科・尺骨（Ｒ）を素材としている。大部分が欠損し、近位端はずれ付近のみが残存する。両側からの回転穿孔により孔径8.4㎜の穿孔を行う。Ｓ地区・21号遺構出土。

５はイヌ科・尺骨（Ｌ）を素材とする。骨体（遠位端付近）に研磨を施して尖りだしを行う。先端の一部は欠損するものの､左上がりの条痕が無数に観察される。成形･調整痕と思われる。Ｐ地区･第19号遺構出土。

６～８、10～12は、いずれもイノシシ科・尺骨を素材としている（４・６・11・12はＲ、７・８・10はＬを使用）。

６は近位端はずれ～骨体（滑車切痕付近）を使用しており、完形品で長さは9.1㎝とやや短めである。滑車切痕付近を斜位に打ち割って、その面に研磨を施して尖りだしを行っている。先端部は使用のためか、丸みを帯びている。Ｓ－５・Ⅱ層（30～40㎝）出土。

７は近位端はずれ～骨体（遠位端付近）を使用しており、完形品で長さ11.2㎝である。骨体の遠位端付近に研磨を施して尖り出しを行う。Ｓ－５・Ⅲ層出土。

８も、近位端はずれ～骨体（遠位端付近）を使用しており、完形品で長さ10.6㎝である。骨体の遠位端付近に研磨を施して先端部の尖りだしを行う。先端部には条痕が斜位（右上がり）に無数に観察されるが、均一で同方向を向いていることから研磨の調整痕として捉えられる。Ｐ地区１－Ａ遺構出土。

９はイノシシ科・脛骨（Ｒ）を素材としている。骨体の中間部から遠位端にむけて斜位に打ち欠き、その面に研磨を施して尖りだしを行っている。両端部は欠損する。Ｐ地区・Ｏ－９・Ⅱｃ層出土。

10は近位端側が欠損する。骨体（遠位端付近）に研磨を施して尖りだしを行っている。光沢を有する。Ｐ地区・１－Ａ号遺構出土。

11・12も尺骨の骨体の遠位端付近に研磨を施して尖りだしを行っている。いずれも先端部が残存するのみである。11はＰ地区・Ｏ15・Ⅱｃ層、12はＳ－２・Ⅱ層（30～40㎝）出土である。

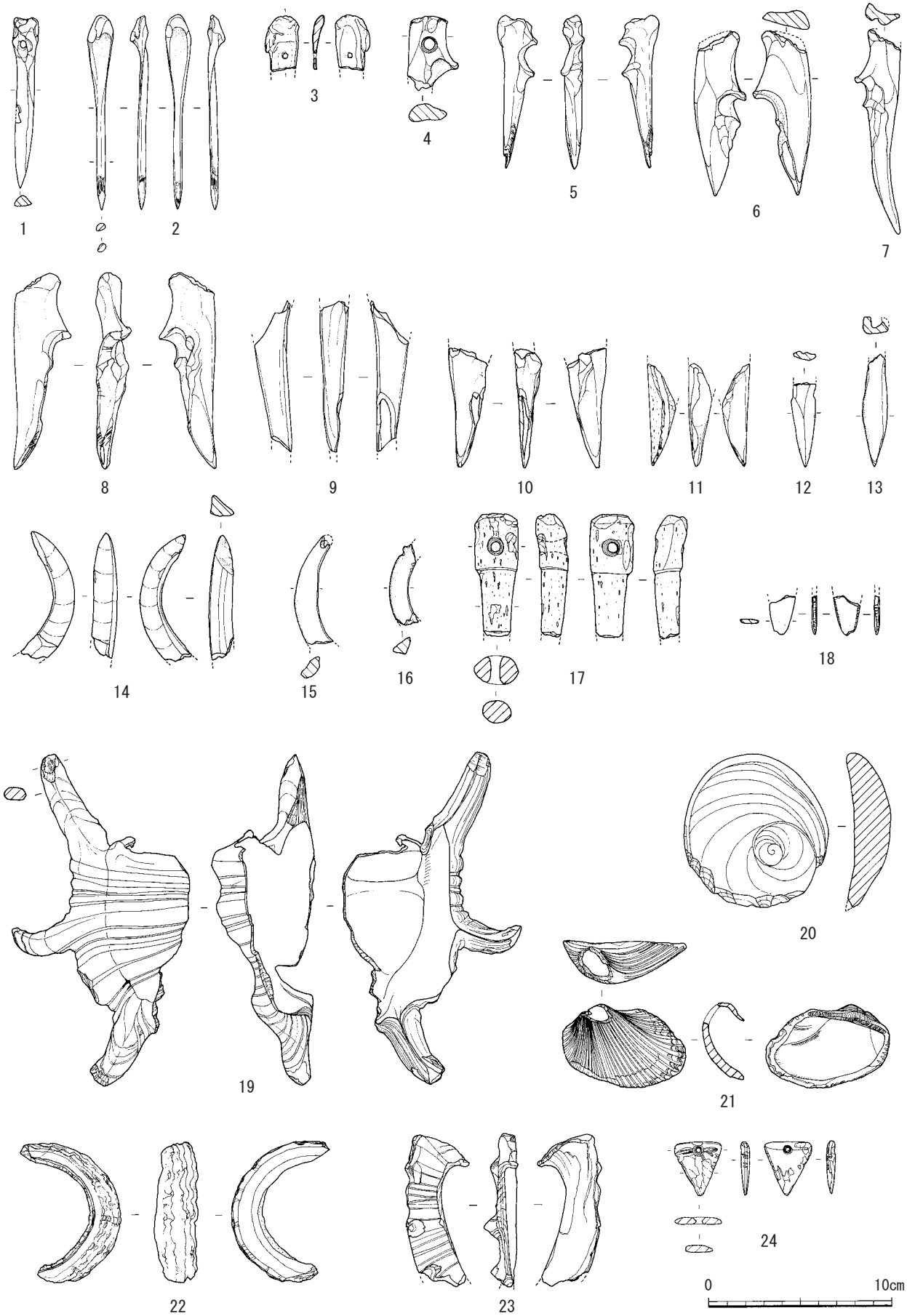
13は部位不明であるが、斜位に打ち欠いた後、研磨を施して尖りだしを行っている。Ｓ－３・Ⅱ層（20～30㎝）出土。

14はイノシシ科・下顎骨側犬歯（雄・Ｌ）を素材としている。犬歯の先端部象牙質側に一部研磨が認められる（自然面の可能性もある）。Ｐ地区Ｏ14・Ⅱｃ層出土。

15はイノシシ科・下顎骨側犬歯（雄・Ｒ）を素材とし、先端部に象牙質側からの回転穿孔を行っている。歯根部は欠損する。Ｓ－５・Ⅲ層（15～20㎝）出土。

16はイノシシ科・下顎骨側犬歯（雄・Ｒ）を素材とし、切歯側に２箇所、臼歯側に２箇所にＶ字状の抉りを施している。両端部は欠損する。Ｓ－２・Ⅱ層（0～10㎝）出土。

17はジュゴンの肋骨を素材とした簪である。軸頂部より1.2㎝のところに孔径0.8㎝の孔を有する。両側からの回転穿孔である。そして、軸頂から2.8㎝のところで、段を形成する。Ｐ地区・Ｏ20‐Ⅱ層出土。



第127図　骨製品・貝製品

18は素材不明であるが、厚さ２㎜ほどの扁平な部分を用いている。サメ歯製垂飾品の骨製模造品として捉えられる。両側面部には、横位の線状の文様（鋸歯の刻みだし）を施す。新里・上村（1998）ａ群１類Ⅰ種に相当する。

貝製品

19はスイジガイ製利器である。上原静（1981）に従うと①番突起に研磨が施されている。平刃状を呈する。Ｐ地区・Ｏ12・Ⅳ層出土。

20はヤコウガイ蓋製敲打器である。辺縁部を打ち割って成形を行っている。Ｐ地区・Ｏ15・Ⅱｃ層出土。

21はリュウキュウサルボウ（Ｌ）を素材とした有孔製品である。殻頂部に打割によって孔をもうけている。孔は縦長であり（2.0×0.9㎝）、自然面をよく残している。縁辺部は磨耗して丸みを帯びている。本製品は貝錘としての用途が推察される。

22はオオベッコウガサガイを素材とした貝輪である。半分欠損する。孔径は約6.0㎝と推察される。穿孔部は、比較的良く自然面を残す。縁辺部はやや磨耗する。Ｐ地区・Ｏ12・Ⅳ層出土。

23はクモガイを素材とした貝輪である。本製品は約半分が欠損している。突起部はいずれも除去され、穿孔部分は、摩滅している。Ｐ地区・Ｏ13・Ⅳ層出土。

24はサメ歯製垂飾品の模造品である。貝種は不明であるが、二等辺三角形状に成形し、両側面には刻み目を施しており、模造品としては精巧な作りである。上部には、両側からの回転穿孔を施しており、表面には上辺に有孔部を通して平行するように溝が設けられている。新里・上村（1998）ａ群１類Ⅰ種に相当する。

骨製品の生産用具の特徴としては、刺突具が多く出土しており、イヌ科も含めて尺骨の利用頻度が最も高い。尺骨は、動物遺体の面からも比較的残存状況が良く、本部位を意図的に残す解体方法が推測される。貝製品においては、貝錘が１点のみ出土している。本遺跡から大量の魚骨が出土することなどから、漁労方法は検討課題の１つであるが、貝錘が少ないという点を考慮した、別の道具や漁労方法も考えなければならない。非生産用具としては、サメ歯状模造品について骨製、貝製の模造品が出土している。いずれも側面部に鋸歯を刻みだす精巧な作りである。貝輪については、オオベッコウガサガイとクモガイを素材としている。

第５章　自然遺物及び自然科学的調査

第１節　　サンプリング方法

西長浜原遺跡のＳ地区・第１次調査区の発掘調査においては、微細な動物遺体（特に魚骨）が大量に出土しており、これらの検出作業として篩水洗を行っている。これらの資料は、一旦現場で直接作業が行われた資料と、採取された土の状況で残された資料の２つに分けられる。大部分の資料が前者であり、後者は全体の１～２割ほどであった。今回はこれらの資料に関して、再度資料の洗いを行った。

篩水洗の作業には、1.7㎜と4.4㎜（アロン ふるい＃33　アロン化成株式会社）の篩を使用した（一部1.0㎜と3.0㎜）。作業の段階としては、まず始めに、資料番号をふり、残された状況の確認（水洗済みか未水洗なのかの確認）を行い、重量を測って記録を行った。その後、広めのコンテナに水をはり、4.4㎜と1.7㎜を重ねた篩をセットして、資料を入れていった。この段階では、資料が破損しないように篩を揺する程度で土を溶かしていった。第１次調査区・27号竪穴資料では、この段階で炭化物が浮いてきており、その採取作業を行うことができた。その後、篩を一旦コンテナ内の水からあげ、ホースの弱流を用いて残った土の塊を溶かす作業などを行って、資料の洗い出しを行った。そして資料を各篩の目ごとに、トレイなどに取り上げて乾燥をさせた。その後、水洗後の重量を測り、各遺物への仕分けを行った。また、一部の資料に関しては再検討用として、各地区の包含層や遺構ごとで資料を残した。

前述したように、大部分の資料が一度水洗された資料であり、微細な動物遺体の検出作業が行われた重要な資料であった。今回は、これらの整理作業を行うにとどまったが、今後の食料残滓の検出作業・整理状況を確認する意味でも貴重な遺跡の資料であった。

第２節　西長浜原遺跡の脊椎動物遺体

樋泉岳二

ここでは西長浜原遺跡1977年発掘調査で採集された脊椎動物遺体（骨類）の同定結果を報告する．今回は紙数が限られているためデータの提示と記載を主眼とし，考察は最小限にとどめたが，重要資料であるため改めて詳細な報告を行いたいと考えている．

１．資料と分析方法

資料には，堆積物の水洗選別によって採集された資料（以下「水洗選別資料」）と発掘現場において手で拾い上られた資料（以下「ピックアップ資料」）がある．水洗選別資料はＳ地区の包含層と１次調査地区の遺構覆土から採集されている．使用されたフルイ目は1.7㎜と4.4㎜（試料No．１～３は1㎜と3㎜）である．Ｓ－３・Ｓ－４区Ⅱ層のピックアップ資料にはフルイで採取されたと思われる小型骨がかなり混じるが，同定資料は4.4㎜と同程度以上と思われるサイズの骨に限った．

なお，Ｓ地区の水洗選別資料の魚骨は膨大な量であり，これまでに分析を終えたのは，4.4㎜の椎骨以外については第７表に示した14試料（重量比で全体の約3/4），4.4㎜の椎骨は第８表に示した９試料（全体の半分弱），1.7㎜資料は第９表に示した４試料である．ピックアップ資料のＳ－４区の魚類椎骨も未分析である．

同定は，魚類・リクガメ類（および水洗選別資料の魚骨に混在していたカエル・ヘビ類，小型獣類）を筆者が，その他を久貝弥嗣氏が担当した．魚骨の同定方法は現生標本との比較を原則とした．比較に用いた現生標本は，筆者の所蔵標本のほか，国立歴史民俗博物館西本豊弘氏・小林園子氏および沖縄県立埋蔵文化財センターの所蔵標本も参照させていただいた．魚骨の同定対象部位は，前上顎骨・歯骨・椎骨の全資料（これらは未同定・保留資料もすべてデータ化した）に加え，他の部位もできるだけ同定するよう努めた．なお椎骨の同定に関しては基礎研究がきわめて不十分なため，特徴の明確なもののみを同定し，その他は「保留」とした．同定結果で「同定不可」としたものは，破損のため分類群の特定が明らかに困難なものである．イノシシの完存四肢骨の計数方法は，近位端・遠位端をそれぞれ１とカウントした．

２．同定結果

採集された骨類の大部分は魚骨である．その他ではイノシシ，次いでリクガメ類が多く，ウミガメ類，ジュゴンも普通である．以下では魚骨を中心に同定結果を記述する．

(1) 魚類

軟骨魚類（板鰓類）３分類群，硬骨魚類（真骨類）52分類群が同定された（第４表）．以下，主要種と要注意種について同定所見を簡単に記載する．

サメ類　歯に２タイプがみられた．サメ類 (A) はメジロザメ科かと思われるもの，サメ類 (B) は主尖頭の両側に副尖頭が各１（まれに２）みられるもので主尖頭側縁に鋸歯はない．

ニシン科　少なくとも２種がある．サッパ近似種とした主上顎骨・角骨・主鰓蓋骨・第１椎骨はサッパにごく近いが，第１椎骨は明らかに別種である．サッパに近縁のニシン亜科であり，ヤマトミズン属の可能性が高い．コノシロ近似種とした第１・第２椎骨はコノシロに近似するが別種で，おそらくドロクイ属と思われる．第１椎骨以外の椎骨についても，骨質堅牢で椎体がやや短いものと，そうでないものの２型があり，おそらく前者はコノシロ近似種，後者はサッパ近似種と推測される．

ウナギ属　やや大型でウナギとは形態が若干異なる．オオウナギの可能性が高い．

ウツボ科　主上顎骨，歯骨，前上顎骨－篩骨－前鋤骨板（表では前鋤骨板と略記）には２タイプがみられ，ウツボ科 (A)，(B) とした．ウツボ科 (A) は一般的なウツボ類の形態だが，ウツボ科 (B) の前鋤骨板・歯骨は歯が面的に密生する．いずれも大小各サイズが混じるが，小型のものが多い．

トビウオ科　腹椎が確認された．側突起が前下方に伸びる点，腹面中央を薄く明確な隆起線が縦走する点などによって近縁のダツ科，サヨリ科と判別できる．

ハタ科　前上顎骨と歯骨に２型がみられ，マハタ属に一般的な形態のものをマハタ型，スジアラに近似するものをスジアラ型とした．前者は小型の個体が主体だが，後者は比較的大型である（第128図）．他の部位はハタ科として一括したが，第１椎骨以外の椎骨はフエダイ科などとの判別が困難なことから「ハタ型」とした．

アジ科　マアジなどの小型種に類するタイプをアジ科 (A)，ギンガメアジ・カスミアジなどに類するものをアジ科 (B) とした．水洗1.7㎜資料の腹椎はすべて前者だが，ムロアジとは異なる．「アジ科 (A) ？」とした第１椎骨は，マアジにやや近いが別種であり，アジ科か否かを含めて検討を要する．なお尾椎でのタイプ判別は今のところ困難である．

フエフキダイ科　前上顎骨にはヨコシマクロダイ，メイチダイ属，フエフキダイ属と考えられる資料が確認された．フエフキダイ属が大部分で，全体形がわかるものはハマフエフキに近似するタイプが大半を占めるが，顎骨体の長短などにバリエーションがあり複数種が混在している可能性がある（フエフキダイ科の同定は慶應義塾大学名島弥生氏との共同研究の所見に基づく）．中型の個体が主体である（第128図．前上顎骨は計測可能な資料が少なかったため歯骨高を計測したが，ほとんどはフエフキダイ属と思われる）．椎骨は第１椎骨と腹椎の一部を除き，タイ科などとの判別が確実でないことから，「タイ型」とした．

ベラ科　咽頭骨は金子（1996，2005）による「コブダイ」，「タキベラ」，「ベラ科 (A)」，「同 (B)」，「同 (C)」の各タイプのほか，様々な形態のものが確認された．金子の分類にないタイプについてはベラ科 (D)，(E) を設定し，それ以外は「ベラ科（その他）」として一括した．なお，コブダイ・タキベラについては咽頭骨で種の特定が可能か明確でないことから（たとえば筆者の所蔵現生標本の観察ではコブダイとシロクラベラ・イラなどのイラ属の咽頭骨は類似性が高い），ここでは「コブダイ型」，「タキベラ型」とした．量的にはベラ科 (A) が最も多く，コブダイ型，ベラ科 (D) がこれに次ぐ．下咽頭骨の計測値をみると（第128図），コブダイ型とベラ科 (B) は全幅で35～60㎜前後，ベラ科 (A) は25～35㎜前後で，ともに小型個体が少ない．ベラ科 (D) や「その他」は20㎜を越えるものはまれであり，小型種と推測される．

ブダイ科　咽頭骨・前上顎骨・歯骨によってミゾレブダイ，ブダイ属，イロブダイ属，アオブダイ属が同定された．量的にはアオブダイ属が大半を占める．ミゾレブダイとブダイ属は近縁だが，前者は前上顎骨・歯骨が明確な歯板を成す点で判別できる．ただし今回は咽頭骨の検討が不十分なことや記録の不備などから両者を一括した．アオブダイ属は小型の個体が主体であり，イロブダイ属は大型個体が目立つ（第128図）．

サバ属またはグルクマ（サバ類）　マサバに近似する資料をサバ類とした．歯骨はマサバより歯が大きく，近縁の別種（グルクマ？）と考えられる．いずれも小型の個体である．

スマ　腹椎・尾椎が同定された．カツオにごく近縁の種だが，尾椎の側面隆起線がカツオより太いことなどからスマと判定した．なお腹椎は後神経関節突起形状などにカツオに類する特徴がみられること，尾柄部の尾椎ではマグロとの判別が確実でないことから，さらに検討を要する．

ニザダイ科　ヒラニザに類似するものとツマリテングハギやサザナミトサカハギに類似するものがあり，前者をニザダイ科（A），後者を同（B）とした．前者は全般に小型で，水洗選別資料から多数検出されている．後者は大型個体が多い．

その他　ツッパリサギに近似する資料をクロサギ科，オジサンに近似する資料をヒメジ科，オグロトラギスに近似する資料をトラギス科，オニオコゼの現生標本に類似する資料をオニオコゼ科？とした．いずれも現生標本の収集比較が不充分なため暫定的な同定だが，形態はかなり個性的で判別は容易である．

出土魚類の量的な組成をみると，全体的にアオブダイ属が最も多く，各種ベラ科，ハタ科，フエフキダイ属がこれに次ぐ．水洗選別資料ではウツボ科，カマス属，アジ科（A），ニザダイ科などの小型魚，ピックアップ資料ではクロダイ属，ミゾレブダイ・ブダイ属，イロブダイ属，ハリセンボン科なども普通である．アオブダイ属以外に目立った優占種はなく，多様性の強い組成が特徴である（第129図）．また少数要素をみても，サッパ近似種，コノシロ近似種，ウナギ属，トビウオ科，アジ科（A），ヒメジ科，クロサギ科，チョウチョウウオ科，スマ，サバ類など，これまでほとんど報告されることのなかった種類が多く含まれている．

生息環境別にみるとサンゴ礁・岩礁性の魚が主体をなすが，サッパ近似種，サヨリ科，ダツ科，トビウオ科，カマス属，アジ科，サバ類，スマといった回遊魚，砂泥底域の底魚であるヒメジ科，トラギス科，コチ科，カレイ目，藻場を好むミゾレブダイ・ブダイ属，河口域周辺に生息するコノシロ近似種（おそらくドロクイ属），ボラ科，クロダイ属や淡水性のウナギ属など，様々な水域の生息種が混在している．こうした魚類遺体群は，これまで奄美・沖縄ではまったく知られてこなかったものである．

（2）両生類・爬虫類・鳥類

両生類では水洗選別資料からカエル類が普通に検出されている．自然遺骸と思われる．爬虫類ではリクガメ類（リュウキュウヤマガメと考えられる）がやや多く出土している．ウミガメ類も普通である．水洗選別資料からはヘビ類の椎骨も多く検出されているが，自然遺骸の可能性がある．鳥骨も普通だが，これまでに種類が判明したのはカラス属のみである．

（3）哺乳類

陸獣類ではイノシシが豊富に出土したほか，イヌが若干みられた．イノシシの顎歯と四肢骨に基づく最小個体数は，Ｓ地区ではそれぞれ５（下顎M1L）：14（踵骨L），Ｐ地区では10（下顎骨R）：12（肩甲骨L），１次調査地区では２（下顎M3Lなど）：５（脛骨R遠位端）となった．全体に四肢骨が多めだが，Ｐ地区では下顎骨の出土も目立つ．下顎骨の臼歯萌出状況をみると，乳臼歯を残すものが28資料中９資料あり，若齢個体がやや目立つ（第19表）．顎骨の性別にはとくに偏りはみられないようである．そのほか，水洗選別資料からはネズミ類とオオコウモリが得られた．ネズミ類は多数の試料から検出されている．多くはドブネズミ大だが，それよりかなり大型の資料があり，ケナガネズミの可能性が考えられる．オオコウモリも顎骨・臼歯の検出が珍しくない．海獣類はジュゴンが普通である．胸椎１点以外はすべて肋骨である．他にイルカ類の椎骨がわずかに得られた．

３．まとめ

（1）骨類の分布状況

骨類の出土状況を地区別にみると，Ｓ地区における魚骨の集中的な出土が目立つ．水洗選別資料からの魚骨検出点数（同定対象部位のみ）をみると，Ｓ地区では4.4㎜で最大830点（第７表・第８表），1.7㎜で最大1940点（第９表）に達しており，とくにＳ－３区での検出量が多い．Ｓ地区以外で水洗選別が行われているのは１次調査地区の遺構のみだが（第６表），ここではＳ－３区に隣接する14号遺構で約400点（4.4㎜・1.7㎜合計）と多いのを除けば100点前後かそれ以下である．ピックアップ資料（第10表～第12表）でも，Ｓ地区ではＳ－３区約1370点，Ｓ－４区約460点，Ｓ－１区約300点（ただしＳ－３区とＳ－４区にはフルイで採取されたと思しき資料が多く混じる）であるのに対して，Ｐ地区では合計で約80点，１次調査区ではわずかに20点である．調査面積は１次調査区が最大で，以下Ｐ地区，Ｓ地区の順であるから，密度に換算すると格差はさらに著しくなる．このように，魚骨の分布状況はＳ－３区を中心とするＳ地区への集中を明確に示している．

イノシシは，ピックアップ資料点数でみるとＳ地区が約270点（うちＳ－３区約180点）に対し，Ｐ地区約280点，１次調査地区約140点で（第15～20表），密度的にはやはりＳ地区が最多だが，魚類に比べると格差はかなり小さい．これに対しウミガメ類やジュゴンはＳ地区ではむしろ少なく（第21表），１次調査区やＰ地区，とくに遺構からの出土が目立つ点で傾向が明確に異なる．

(2) 動物資源利用の特色

本遺跡の狩猟・漁労活動（貝類採集を除く）は，きわめて活発な漁労（魚類利用）とイノシシ猟やリクガメ猟を主軸としていたと推定される．ウミガメ類やジュゴンもコンスタントな出土がみられることから計画的な猟が行われていた可能性が強いが，ジュゴンの出土部位が肋骨に偏っている点は検討を要する．

漁労は遺跡前面のサンゴ礁域でのブダイ科，ハタ科，フエフキダイ科，ベラ科などの漁が主力である．これらの魚のサイズ分布は，小型魚（幼魚または小型種）が主体となるもの（ハタ科マハタ型，ベラ科 (D)，アオブダイ属，ニザダイ科 (A) など），小型魚がみられないもの（ハタ科スジアラ型，フエフキダイ属，ベラ科コブダイ型，同 (A)，イロブダイ属）など種類によってパターンが異なっており，前者はたとえば網漁など，後者は大型魚を選択的に捕獲する漁法（たとえば釣漁や刺突漁など）といったように，漁法の違いを反映している可能性がある．また砂泥底の内湾域に生息するクロサギ科，ヒメジ科，トラギス科，コチ科，カレイ目や，藻場を好むミゾレブダイが確認されたことは，遺跡の西方海岸に発達する広いイノー内での漁労活動を示唆する．

本遺跡の魚類相の大きな特色のひとつはサッパ近似種，サヨリ科，ダツ科，トビウオ科，カマス属，アジ科，サバ類，スマといった回遊魚類が目立つ点である．スマ以外はいずれも小型魚であり，群をなすものが多いことから，回遊してくる魚群をねらった網漁の存在が示唆される．スマは出土数がごく少ないため計画的な漁が行われていたかは定かでないが，行われていたとすれば釣漁を想定するのが妥当であろう．またトビウオ科やスマは外洋性が強く沿岸浅瀬に寄りつくことはまれであることから，漁場はサンゴ礁外の海域にある程度の広がりをもっていたと推定される．沖縄諸島の貝塚時代遺跡において外海域での漁労が明確に確認されたのは今回が初めてである．さらに河口周辺や淡水域でもクロダイ属，ボラ科，コノシロ近似種（ドロクイ属？），ウナギ属などを対象とした漁が行われていたと推定される．

以上のように，本遺跡ではこれまで知られてこなかった多様な漁労形態の存在が確認された．これは，水洗選別による微小骨の詳細な採集が行われたこと，また魚骨の同定に際して椎骨など従来対象とされてこなかった部位も対象としたことの成果である．今後，他の遺跡においてもこうした資料・データの蓄積を進めることにより，沖縄貝塚時代の漁労活動のより多様な実態が明らかになるものと期待される．

参考文献

金子浩昌 1996「動物遺体（軟体動物を除く）」平敷屋トウバル遺跡　沖縄県教育委員会

金子浩昌 2005「脊椎動物遺体」，『首里城－書院・鎖之間地区発掘調査報告書』，沖縄県立埋蔵文化財センター

第４表　西長浜原遺跡から検出された脊椎動物遺体の種名一覧

軟骨魚綱（板鰓亜綱）	Chondrichthyes (Elasmobranchii)
サメ類A（メジロザメ科？）	Carcharhinidae ?
サメ類B	Galeomorphii
エイ目	Rajiformes
硬骨魚綱（真骨類）	Osteichthyes (Teleostei)
サッパ近似種	Clupeinae cf. *Sardinella zunasi*
コノシロ近似種	Dorosomatinae cf. *Konosirus punctatus*
ウナギ属	*Anguilla*
ウツボ科（A）	Muraenidae A
ウツボ科（B）	Muraenidae B
アナゴ科	Congridae
ダツ科	Belonidae
サヨリ科	Hemiranphidae
トビウオ科	Exocoetidae
イットウダイ亜科	Helocentrinae
トウゴロウイワシ科？	Atherinidae ?
ボラ科	Mugilidae
カマス属	*Sphyraena*
スズキ属	*Lateolabrax*
ハタ科（マハタ型）	Serranidae cf. *Epinephelus*
ハタ科(スジアラ型)	Serranidae cf. *Plectropomus leopardus*
アジ科（A）	Carangidae A
アジ科（B）	Carangidae B
ヒメジ科	Mullidae
クロサギ科	Gerreidae
フエダイ科	Lutjanidae
コショウダイ属またはコロダイ	*Plectorhynchus* / *Diagramma pictum*
ヘダイ	*Sparus sarba*
クロダイ属	*Acanthopagrus*
ヨコシマクロダイ	*Monotaxis grandoculis*
メイチダイ属	*Gymnocranius*
フエフキダイ属（ハマフエフキ型）	*Lethrinus* cf. *L. nebulosus*
チョウチョウウオ科	Chaetodontidae
スズメダイ科	Pomacentridae
ベラ科（「コブダイ」型）	Labridae cf. "*Semicossyphus reticulatus* "
ベラ科（「タキベラ」型）	Labridae cf. "*Bodianus perditio* "

（右段につづく）

硬骨魚綱（つづき）	Osteichthyes (cont.)
ベラ科（A）	Labridae A
ベラ科（B）	Labridae B
ベラ科（D）	Labridae D
ベラ科（E）	Labridae E
ベラ科（その他）	Labridae (others)
ミゾレブダイ	*Leptoscarus vaigiensis*
ブダイ属	*Calotomus*
イロブダイ属	*Bolbometopon*
アオブダイ属	*Scarus* spp.
スマ	*Euthynnus affinis*
サバ属またはグルクマ	*Scomber* / *Rastrelligar kanagurta*
ニザダイ科（A）	Acanthuridae A
ニザダイ科（B）	Acanthuridae B
アイゴ属	*Siganus*
トラギス科	Pinguipedidae ?
オニオコゼ科？	Synanceiidae ?
コチ科	Platycephalidae
カレイ目	Pleuronectiformes
モンガラカワハギ科	Balistidae
ハコフグ科？	Ostraciidae ?
ハリセンボン属	*Diodon*
両生綱	Amphibia
カエル類	Salientina
爬虫綱	Reptilia
リュウキュウヤマガメ	*Geoemyda spengleri japonica*
ウミガメ科	Cheloniidae
ヘビ類	Ophidia
鳥綱	Aves
カラス属	*Corvus*
哺乳綱	Mammalia
オオコウモリ属	*Pteropus*
ネズミ亜科	Murinae
イルカ類	Cetacea
イヌ	*Canis familiaris*
ジュゴン	*Dugong dugon*
リュウキュウイノシシ	*Sus scrofa riukiuanus*

第５表　遺構からピックアップ法で採取された魚骨　左右にある部位は左 / 右で表示（第６表以降も同様）

地区		P地区								1次調査地区								
遺構		1号	2号	5号	8号	10号	17号	19号	20号	10号	12号	13号	14号	15･16号	18号	21号	26号	27号
サメ類	椎骨												1		1			2
エイ目	椎骨												1					
ウツボ科(A)	前鋤骨板	1																
ウツボ科(B)	歯骨														1 /			
ウツボ科	椎骨								1									
ダツ科	歯骨				1		/ 1											
サヨリ科	腹椎								1									
カマス属	腹椎								1									
ハタ科（マハタ型）	前上顎骨												/ 1					
ハタ科（マハタ型）	歯骨												1 /					
ハタ科	前鰓蓋骨							/ 1										
ハタ型	腹椎												1					
ハタ型	尾椎				1													
クロダイ属	前上顎骨				1 /					1 /			1 /	1 /				/ 1
フエフキダイ属	前上顎骨												/ 3		/ 1	/ 1		
フエフキダイ科	歯骨							/ 1			1 /							
フエフキダイ科	角骨					1 /												
フエフキダイ科	腹椎								2									1
タイ型	椎骨				1				7				11					1
ベラ科(コブダイ型)	上咽頭骨												1					
ベラ科(コブダイ型)	下咽頭骨												3		1		1	
ベラ科(A)	下咽頭骨												1			1		
ベラ科(B)	上咽頭骨																/ 1	
ベラ科(B)	下咽頭骨												1			1		1
ベラ科(カンムリベラ型)	前上顎骨														1 / 1			
ベラ科	第1椎骨												1					
ベラ科	腹椎												1					
ベラ科	尾椎												1					
イロブダイ属	歯骨												1 / 1					
イロブダイ属	上咽頭骨														/ 1			/ 1
イロブダイ属	下咽頭骨											1	4				1	
アオブダイ属	前上顎骨			/ 1						/ 2			3 / 1		/ 1			/ 2
アオブダイ属	歯骨									1 / 1			3 / 6		2 / 1		3	2 / 2
アオブダイ属	上咽頭骨									/ 2			1 /		2 / 3			/ 1
アオブダイ属	下咽頭骨			1						4			2	1				2
ブダイ科	方骨							/ 1										
ブダイ科	第1椎骨								2									
ブダイ科	腹椎								7						1			
ブダイ科	尾椎				2				26	3			8		1			
ニザダイ科(A)	腹椎								1									
ニザダイ科(A)	尾椎				1				14									
ニザダイ科(B)	腹椎								1									
アイゴ属	尾椎														1			
ハリセンボン科	歯骨														1			
ハリセンボン科	前上顎/歯骨																	1
真骨類・保留	尾椎		1			1			28				4					
真骨類・同定不可	椎骨								2	2			2		1			
		1	1	2	7	2	1	3	93	16	1	1	65	2	21	1	8	17

第６表　遺構から水洗選別で採集された脊椎動物遺体（リクガメ類は第13表参照）

地区		1次調査地区									
遺構		1号		2号		3号	14号		15号		26号
試料番号		No.44		No.45・47・48		No.50	No.58		No.59		No.64
メッシュ		4.4mm	1.7mm	4.4mm	1.7mm	4.4mm	4.4mm	1.7mm	4.4mm	1.7mm	4.4mm
サメ類？	歯(破片)									1	
サッパ近似種？	腹椎							5		1	
サッパ近似種？	尾椎							4			
コノシロ近似種？	腹椎							1			
コノシロ近似種？	尾椎							2			
ウナギ属	腹椎							1			
ウツボ科(A)	歯骨						/ 1				
ウツボ科	椎骨		4		3			18	1	1	
ダツ科	腹椎								1		
サヨリ科	腹椎		1					4			
トビウオ科	腹椎				2			1			
カマス属	腹椎				1				2	1	
カマス属	尾椎										
ハタ科(マハタ型)	前上顎骨			1 /							
ハタ科	角骨			1 /							
ハタ科	前鰓蓋骨		1 /								
ハタ科	第1椎骨		1					3		1	
ハタ型	腹椎	1	1								
ハタ型	尾椎							4	1		
アジ科(A)？	第1椎骨							2			
アジ科(A)？	第2?椎骨		2		1			1			
アジ科(A)	腹椎							5			
アジ科	尾椎							4			
フエダイ科	歯骨	1 /									
クロダイ属	前上顎骨			1 /							
クロダイ属？	犬歯									1	
フエフキダイ属	前上顎骨			1 / 1		1 /	/ 1				
フエフキダイ属	口蓋骨						/ 1				
フエフキダイ科	主上顎骨			/ 1							
フエフキダイ科	歯骨	1 /					/ 1				
フエフキダイ科	第1椎骨							1			
フエフキダイ科	腹椎	1						2			
タイ型	椎骨	3							1		
チョウチョウウオ科	腹椎				1						
ベラ科(コブダイ型)	上咽頭骨								/ 1		
ベラ科(A)	上咽頭骨	1 / 1									
ベラ科(A)	下咽頭骨			1			1				
ベラ科(B)	下咽頭骨						1				
ベラ科(その他)	上咽頭骨			1 /				1 / 2			
ベラ科(その他)	下咽頭骨		1		1		1	1	1	1	
ベラ科(型不明)	上咽頭骨							/ 1			
ベラ科(型不明)	下咽頭骨							1			
ベラ科	前上顎骨						/ 1				
ベラ科	歯骨							/ 1			
ベラ科	第1椎骨							1			
ベラ科	第2?椎骨		2					3			
ベラ科	腹椎							2	1		
ブダイ属/ミゾレブダイ	歯骨							/ 2			
ブダイ属/ミゾレブダイ	下咽頭骨			1							
イロブダイ属	歯骨										1 /
イロブダイ属	上咽頭骨						/ 1	1 /			
アオブダイ属	前上顎骨	2 / 2		/ 3	2 / 1				2 / 2	1 /	
アオブダイ属	歯骨		1 /		/ 1		2 / 1			3 /	
アオブダイ属	上咽頭骨			/ 2	/ 1		/ 1	2 /			
アオブダイ属	下咽頭骨	2		1			2				
ブダイ科	主上顎骨						1		2 /		
ブダイ科	角骨	/ 1									
ブダイ科	方骨	/ 1		1 /							
ブダイ科	第1椎骨							2			
ブダイ科	腹椎				5			15	1	2	
ブダイ科	尾椎	3	2		4			23	2	5	
ニザダイ科	第2椎骨							2		1	
ニザダイ科	腹椎				1			1			
ニザダイ科	尾椎				1			7		1	
ニザダイ科	楯鱗			1							
アイゴ属	第1椎骨							1			
アイゴ属	腹椎							2			
アイゴ属	尾椎							3			
カレイ目	尾椎				1			1			
モンガラカワハギ科	鱗							1			
ハリセンボン属	棘						4				
ハリセンボン科	歯骨			1							
ハリセンボン科	前上顎骨/歯骨			1							
真骨類・未同定	第1椎骨									1	
真骨類・保留	第1椎骨				1						
真骨類・保留	椎骨	2	50		38			##	1	29	
真骨類・同定不可	椎骨	6	22		5			19	6	4	
カエル類	撓尺骨						1 /				
カエル類	椎骨							1			
ヘビ類	椎骨	1			1			4	2	1	
オオコウモリ属	臼歯									1	
ネズミ亜科	臼歯							2		1	
ネズミ科	踵骨							1 /			
合計		29	88	19	71	1	21	395	27	57	1

第７表　Ｓ地区包含層の水洗4.4mm（試料No.１～３は3.0mm）資料から検出された脊椎動物遺体

椎骨は第８表，リクガメ類は第14表参照　fr：破片

層準		Ⅱ層													Ⅲ層＊
位置		土器集中区				礫集中区	石礫集中区	A集石	B集石		包含層				包含層
グリッド		S-3				S-1	S-3	S-3	S-1	S-2	S-3	S-3	S-4	S-4	S-5
試料番号		No.1	No.2	No.3	No.4	№37	No.12	No.9	№40	No. 78	No.18	No.25	№28	№30	№80
サメ類	歯				1		1								
エイ目	尾棘														1
ウナギ属	前鋤骨板				1						1		1		
ウナギ属	歯骨												1 /		
ウナギ属	角骨												1 / 1		
ウナギ属	舌顎骨												1 / 1		
ウツボ科(A)	前鋤骨板			2								1		1	
ウツボ科(A)	主上顎骨											1 /	/ 1		
ウツボ科(A)	歯骨	2 /	/ 1	/ 1		2 / 1					1 /	1 / 1	/ 1		
ウツボ科(B)	前鋤骨板	1		1	1	/					1	1			
ウツボ科(B)	歯骨	1 /		/ 2		2 / 1		/ 1							/ 1
ウツボ科	角骨			1 /		/ 1			1 /		1 /		1 /		
ウツボ科	方骨				1 /								1 /		
ウツボ科	舌顎骨										1 /		/ 1		
アナゴ科	前鋤骨板	1													
アナゴ科	主上顎骨			1 /			/ 1								
アナゴ科	方骨								1 /						
ダツ科	前上顎骨fr			1	1									1	
ダツ科	歯骨fr													1	
ダツ科	方骨					1 /									
イットウダイ科	角骨						/ 1				1 /		1 /		
ボラ科	方骨		1 /												
カマス属	前上顎骨											2 /	1 /		
カマス属	歯骨				/ 1	1 /							1 / 1		
カマス属	角骨	/ 1		2 /	1 / 1	1 /									
カマス属	方骨		/ 1	1 /	1 /		/ 1						1 / 3		
ハタ科(マハタ型)	前上顎骨	1 / 6	1 / 2	3 / 1	6 / 1	2 / 1	1 /				3 /	1 / 2	4 / 6		/ 1
ハタ科(マハタ型)	歯骨	4 /	1 / 1	1 / 3	4 /	3 /			/ 1		1 / 1	2 / 3	4 /		2 /
ハタ科(スジアラ型)	歯骨								/ 1				1		
ハタ科	主上顎骨	3 /		4 / 2	2 /	3 /	/ 2	/ 1			4 / 3	4 / 1	2 / 2		
ハタ科	角骨	1 / 1	/ 1	3 / 3	1 / 2	1 / 1	1 / 1				4 / 1	/ 2	6 / 3		
ハタ科	前鰓蓋骨		1 / 3	1 / 2	3 / 1	1 /	1 / 2	1 /	1 /		3 / 2	/ 3	5 / 2		
ハタ科	主鰓蓋骨														/ 1
アジ科(B)	主上顎骨						1 /								
アジ科(B)	前上顎骨					/ 1									
アジ科(B)	歯骨											1 / 1			
アジ科(B)	角骨						1 /								
アジ科？	主上顎骨			/ 1											
アジ科？	角骨			/ 1											
アジ科	稜鱗			1					1				1		
クロサギ科	角骨					1 /									
クロサギ科	方骨	1 /													
ヒメジ科	主上顎骨							/ 1							
ヒメジ科	歯骨										/ 1				
ヒメジ科	方骨											1 /			
フエダイ科	主上顎骨				/ 2	1 /									
フエダイ科	前上顎骨	/ 1									1 /	/ 1			
フエダイ科	歯骨		1 / 1		1 /										
フエダイ科	角骨			/ 1		/ 1				1 /			/ 2		
ヨショウダイ属	方骨					1 /					1 /				
ヘダイ	前上顎骨						/ 1								
クロダイ属	主上顎骨		1 /		1 /			/ 1			/ 1			/ 1	
クロダイ属	前上顎骨	1 /	1 /	/ 2	1 / 1	1	/ 2	/ 1			/ 3	2 /	1 / 2		1 /
クロダイ属	歯骨	1 /		2 /	1 / 2		1 /	/ 1	2 / 2		4 /	1 / 1	1 / 2		
クロダイ属	角骨				/ 1			2 /			/		1 / 1		
クロダイ属	方骨				1 /						1	/ 1	1 /		
クロダイ属	口蓋骨	1 /		1 /	1 /	1 / 1						2 / 1	/ 1		
クロダイ属	臀鰭棘												1		
ヨコシマクロダイ	前上顎骨								1						
メイチダイ属	前上顎骨		/ 2												
フエフキダイ属	前上顎骨	3 / 2	3 / 1	2 / 3	4 / 2	4 / 2	1 / 3	/ 4	2		3 / 3	4 / 4	2 / 7	3 / 1	1 / 1
フエフキダイ属	口蓋骨	3 / 3	1 / 4	2 / 2	5 / 2	1 / 7	2 / 3	1 /		/ 1	2 / 2	1 /	5 / 3		1 /
フエフキダイ科	主上顎骨		/	3 / 1	2 /	2 / 1	1 / 1	1 /			/ 1		1 / 3		
フエフキダイ科	歯骨	3 / 3	2 / 4	2 / 1	/ 1	/ 1	1 / 1	/ 1	1		1 / 6	2 / 2	/ 2		
フエフキダイ科	角骨		/ 2	2 / 3	1 / 3	/ 1	1 /	/ 3			5 / 4	2 / 4	/ 4	1 /	1 / 1
フエフキダイ科	方骨	2 / 2	/ 2	2 / 5	2 / 9	4 / 1	1 / 1	2 /			6 / 2	2 / 2	2 / 5	2 / 1	1 / 5
ベラ科(コブダイ型)	上咽頭骨		1 / 1	3 / 1	2 /	1 / 2	1 / 1	1 / 1			1 /	/	2 / 1	/ 1	
ベラ科(コブダイ型)	下咽頭骨	1				1		1			3	1	1		1
ベラ科(タキベラ型)	上咽頭骨					/ 1									
ベラ科(タキベラ型)	下咽頭骨	1				3		1							
ベラ科(A)	上咽頭骨	6 / 7	1 /	2 / 3	1 / 3	1 / 3	4 /	1 / 1	2 / 2		5 / 4	1 / 2	6 / 6	/ 1	3 / 2
ベラ科(A)	下咽頭骨	4	2	3	3		4	1	2		4	4	4	4	1
ベラ科(B)	上咽頭骨					1 /	1 /				1 /		/ 1		1 /
ベラ科(B)	下咽頭骨	1	1												1
ベラ科(D)	下咽頭骨		2	1							1				
ベラ科(E)	下咽頭骨	1				1									
ベラ科(その他)	上咽頭骨		/ 1	1 / 2	1 /						/ 2	1 /	/ 1		
ベラ科(その他)	下咽頭骨	3	2	3	3	2						1	4		2
ベラ科(ｶﾑﾘﾍﾞﾗ型)	前上顎骨	1 / 1		1 /	/ 1		/ 2					1 /			/ 2
ベラ科(ｶﾑﾘﾍﾞﾗ型)	歯骨	1 / 1			/ 1		1 /					1 /			1 / 2
ベラ科	前上顎骨	1 / 2	1 /		1 /	1 / 2	/ 1		/ 2		2 / 1	1 / 1	2 / 4		
ベラ科	歯骨	3 / 1	1 /	4 / 3	/ 4	1 / 2	3 / 1	1	1 /		1 / 3	1 / 1	1 / 3	/ 1	
ﾌﾀﾞｲ属/ﾐｿﾞﾚﾌﾀﾞｲ	前上顎骨	1 / 1	1 /	2 / 1		1 /					1 / 1		/		
ﾌﾀﾞｲ属/ﾐｿﾞﾚﾌﾀﾞｲ	歯骨	/ 1									/ 1		1 / 2		
ﾌﾀﾞｲ属/ﾐｿﾞﾚﾌﾀﾞｲ	上咽頭骨	/ 1	1 /	/ 1	/ 2	/ 2					1 /	1 / 1	/ 1		
ﾌﾀﾞｲ属/ﾐｿﾞﾚﾌﾀﾞｲ	下咽頭骨	1		1		1		1				1	3	1	

（次ページにつづく）

第７表（つづき）

層準		Ⅱ層													Ⅲ層＊
位置		土器集中区				礫集中区	石礫集中区	A集石	B集石		包含層				包含層
グリッド		S-3				S-1	S-3	S-3	S-1	S-2	S-3	S-3	S-4	S-4	S-5
試料番号		No.1	No.2	No.3	No.4	№37	No.12	No.9	№40	№. 78	No.18	No.25	№28	№30	№80
イロブダイ属	前上顎骨	2 /					1 /								
イロブダイ属	歯骨											2 /			
イロブダイ属	上咽頭骨		1 /				/ 1	1 / 2			/ 1		1 /		/ 1
イロブダイ属	下咽頭骨			2	1						2	1			
アオブダイ属	前上顎骨	10 / 18	10 / 9	16 / 17	12 / 7	9 / 5	11 / 7	2 / 8	1 / 3		17 / 17	/	18 / 9	3 / 2	8 / 8
アオブダイ属	歯骨	10 / 14	8 / 7	11 / 16	10 / 11	6 / 7	6 / 6	4 / 4	2 / 4		17 / 10	6 / 11	11 / 18	3 / 1	12 / 10
アオブダイ属	上咽頭骨	5 / 6	3 / 5	11 / 12	8 / 11	8 / 10	5 / 10	2 / 2	2 /		16 / 9	15 / 21	13 / 9	1 / 3	7 / 5
アオブダイ属	下咽頭骨	12	9	17	12	10	9	7	4		23	18	22	4	10
ブダイ科	主上顎骨	1 /	4 / 1	7 / 4	2 / 5	1 / 2	1 / 3	1 / 1	1 /		8 / 5	3 / 1	6 / 10	1 /	/ 2
ブダイ科	角骨	2 / 7	2 / 2	5 / 2	3 / 3	3 / 1	3 / 1	/			7 / 1	1 / 2	2 / 3		
ブダイ科	方骨	4 / 5	2 / 1	6 / 6	3 / 4	2 / 3	4 / 2	2 /	/ 1		6 / 4	3 / 7	16 / 8	1 /	1 / 3
ニザダイ科	前上顎骨			/ 1							/ 1				
ニザダイ科	歯骨													/ 1	
ニザダイ科	方骨												/ 1		
ニザダイ科	舌顎骨			/ 1											
ニザダイ科	主鰓蓋骨					/ 1	/ 1				1 / 1	1 /	1 /		
ニザダイ科	擬鎖骨		1 /	1 /	2 /	2 /					/ 2		4 / 2		
ニザダイ科	楯鱗	2	1	3	3	3	1				2	1	2	1	1
アイゴ属	前上顎骨	1 /				/ 1					1 /	2 /	/ 1		
アイゴ属	歯骨										/ 1		/ 1		
アイゴ属	方骨				1 /										1 /
アイゴ属？	前頭骨				1 / 1	1 /	/ 1				/ 3				
アイゴ属？	主鰓蓋骨					/ 1					1 /		/ 1		
アイゴ属？	擬鎖骨			1 /								1	1 / 1		
オニオコゼ科？	主上顎骨			/ 2									1 /		
オニオコゼ科？	歯骨														/ 1
オニオコゼ科？	角骨	/ 1		1 / 1	1 /							/ 1		/ 1	1 /
オニオコゼ科？	主鰓蓋骨	/ 1		1 / 1		2 /						1 / 1		/ 1	1 /
コチ科	前上顎骨					/ 1									
コチ科	歯骨				1 /										
モンガラカワハギ科	方骨				/ 1										
モンガラカワハギ科	腰帯					1									
モンガラカワハギ科	背鰭棘			3	1						1				
モンガラカワハギ科	鱗			1	1										
モンガラカワハギ科？	舌顎骨				1										
ハコフグ科？	鱗板	1		3	1	1									
ハリセンボン属	棘	1	10	13	5	2	3				5		1		
ハリセンボン科	前上顎骨										1				
ハリセンボン科	歯骨		1			1					1				
ハリセンボン科	前上顎/歯骨	1			1				2				2	1	2
真骨類・未同定	主上顎骨				1 /	1 /							1 / 2		
真骨類・未同定	歯骨												1 /		
真骨類・未同定	角骨			2 /		/ 1					2 /				
真骨類・未同定	方骨							/ 1							
真骨類・保留	歯骨						1 /								
真骨類・保留	方骨	/ 1		1 /								1 /		1	
カエル類	上腕骨	1	1												
カエル類	寛骨			3 / 1	/ 1								1 /		
鳥類・同定不可	指骨			1											
ネズミ亜科	上顎骨											1 /			
ネズミ亜科	下顎骨						/ 1							/ 1	
ネズミ科	上顎切歯													1 /	
ネズミ科	寛骨		/ 1	1 /							/ 1		1 / 1		
ネズミ科	大腿骨		1 /										/ 1		
オオコウモリ属	下顎骨			1 /		1 /									
オオコウモリ属	臼歯	1													
合計		195	133	279	209	167	131	67	43	2	274	180	318	47	108

＊S-5区の「Ⅲ層」は遺構覆土ではなく包含層だが，Ⅱ層下部のものをさす（以下同様）．

第８表　Ｓ地区包含層の水洗4.4mm（試料No.１～２は3.0mm）資料から検出された脊椎動物遺体（椎骨）

層準		Ⅱ層							
位置		土器集中区		礫集中区	石礫集中区	A集石	B集石		包含層
グリッド		S-3		S-1	S-3	S-3	S-1	S-2	S-3	S-4
試料番号		No.1	No.2	No.37	No.12	№.9	No.40	No.78	No.25	No.28
サメ類	椎骨		1					3	1	1
ニシン科	尾椎	3								
ウナギ属	腹椎	1								41
ウナギ属	尾椎								1	22
ウツボ科	椎骨	13	7	13	9	2	3		6	22
アナゴ科	腹椎	2	1							
ダツ科	第1椎骨									
ダツ科	腹椎	9	5	7	9	1	2		3	11
ダツ科	尾椎			1	2					3
サヨリ科	第1椎骨								1	
サヨリ科	腹椎	1	1	1	1				3	2
サヨリ科	尾椎			1						
トビウオ科	腹椎	4	5		1					1
ボラ科	腹椎	2		1						1
ボラ科	尾椎									2
カマス属	腹椎	2	1						3	2
カマス属	尾椎		2	3	1				4	5
ハタ科	第1椎骨	1	1	1	1	1			2	1
ハタ型	腹椎	16		5	3	3	1		10	9
ハタ型	尾椎	9	14	8	5	1	1		7	11
アジ科(A)	腹椎			1	2					
アジ科	尾椎	6		4		1			1	4
ヒメジ科	第1椎骨									1
ヒメジ科	腹椎	1								
タイ科？	第1椎骨									1

（右段につづく）

層準		Ⅱ層							
位置		土器集中区		礫集中区	石礫集中区	A集石	B集石		包含層
グリッド		S-3		S-1	S-3	S-3	S-1	S-2	S-3	S-4
試料番号		No.1	No.2	No.37	No.12	№.9	No.40	No.78	No.25	No.28
フエフキダイ科	第1椎骨	3	1	3	3		3		1	5
フエフキダイ科	腹椎	5	3	8	4	1	3		4	8
タイ型	椎骨	31	14	33	21	10	1		23	41
ベラ科	第1椎骨	2	1						1	4
ベラ科	腹椎	5		5	3				2	1
ベラ科	尾椎	5		6	1				3	2
ブダイ科	第1椎骨	6	6	4	7				2	6
ブダイ科	腹椎	51	33	34	19	11	5	1	18	13
ブダイ科	尾椎	160	89	150	77	15	9	2	89	
ニザダイ科(A)	腹椎	1	2	5		1			5	4
ニザダイ科(A)	尾椎	19	22	20	3			1	6	13
ニザダイ科(B)	腹椎						1			2
ニザダイ科(B)	尾椎						1			
アイゴ属	腹椎	3		5	1		1		2	9
アイゴ属	尾椎	9	6	6	5	1			4	11
オニオコゼ科？	腹椎	1		1					2	
カレイ目	尾椎	3	1	1						1
モンガラカワハギ科	腹椎			1	2					
真骨類・未同定	第1椎骨		3		1					
真骨類・未同定	椎骨	11	11	16	8	5	4		9	19
真骨類・保留	第1椎骨	3	2			2				3
真骨類・保留	椎骨	105	62	58	35	21	1		52	71
真骨類・同定不可	椎骨	142		84	46	41	22	1	56	99
ヘビ類	椎骨	33	7	42	25	5	3		23	19
鳥類・同定不可	椎骨		1							1
合計		668	302	528	295	122	61	8	344	472

第９表　Ｓ地区包含層の水洗1.7mm（試料No.2は1.0mm）資料から検出された脊椎動物遺体

fr：破片

層準		Ⅱ層			
位置		土器集中区	A集石	石礫集中区	包含層
グリッド		S-3	S-3	S-3	S-3
試料番号		No.2	No.9	No.12	No.25
サメ類A	歯			1	
サメ類B	歯	1		1	2
サメ類	歯		1	1	1
板鰓類	椎骨	2			1
サッパ近似種	主上顎骨	/ 1			
サッパ近似種	角骨				1 / 1
サッパ近似種	主鰓蓋骨	/ 1			2 /
サッパ近似種	第1椎骨	2			
サッパ近似種？	腹椎	19	4	3	15
サッパ近似種？	尾椎	10	3	1	17
コノシロ近似種	第1椎骨		1		
コノシロ近似種	第2椎骨				1
コノシロ近似種？	腹椎	1	1	1	2
コノシロ近似種？	尾椎	1		4	6
ウナギ属	前鋤骨板				1
ウナギ属	腹椎		2	1	4
ウナギ属	尾椎		2		4
ウツボ科(A)	前鋤骨板		2	2	
ウツボ科(A)	主上顎骨				/ 1
ウツボ科(A)	歯骨	1 /	/ 1	1 /	2 / 2
ウツボ科(B)	歯骨	1 /			
ウツボ科	角骨	/ 2			2 / 2
ウツボ科	椎骨	35	16	12	99
アナゴ科	歯骨				/ 1
アナゴ科	角骨			1 /	
アナゴ科	方骨	/ 1	/ 1		
アナゴ科	腹椎	1		1	2
アナゴ科	尾椎			1	1
ダツ科	前上顎骨fr				2
ダツ科	歯骨fr	1			
ダツ科	腹椎		2	1	3
ダツ科？	尾椎		1		
サヨリ科	腹椎	7	2	4	14
トビウオ科	腹椎	13	4		3
イットウダイ亜科？	前鰓蓋骨				1 /
イットウダイ科	前上顎骨				1 /
イットウダイ科	歯骨		/ 1		1 /
トウゴロウイワシ科？	腹椎				5
カマス属	歯骨	1 /			1 / 1
カマス属	角骨				1 /
カマス属	方骨	1 / 2	1 /		/ 1
カマス属	腹椎		1		2
カマス属	尾椎		1		3
ハタ科(マハタ型)	前上顎骨	3 / 2		1 / 1	5 / 4
ハタ科(マハタ型)	歯骨	5 / 6	/ 1	/ 3	5 / 3
ハタ科	主上顎骨	2 / 2	1 /	/ 1	5 / 1
ハタ科	角骨	1 / 1	2 /	/ 1	6 / 2
ハタ科	方骨	2 / 4	1 /		
ハタ科	前鰓蓋骨	1 /			/ 2
ハタ科	主鰓蓋骨	2 /			
ハタ科	擬鎖骨	/ 2			
ハタ科	第1椎骨	6	5		8
ハタ型	腹椎	8	8	7	18
ハタ型	尾椎	1	4	1	1
アジ科(A)	前上顎骨	/ 1			
アジ科(A)	歯骨				2 /
アジ科(A)？	第1椎骨	4	2	2	1
アジ科(A)？	第2?椎骨	5	1	2	7
アジ科(A)	腹椎	11	10	5	13
アジ科？	角骨		1 /		
アジ科	尾椎	5	1		6
アジ科	尾部棒状骨	1			
アジ科	稜鱗				2
クロサギ科	角骨		1 /		
ヒメジ科	主上顎骨				1 /
ヒメジ科	前上顎骨			/ 1	
ヒメジ科	方骨	/ 1	/ 1		/ 1
ヒメジ科？	第1椎骨	1			1
フエダイ科	主上顎骨	1 /		/ 1	
フエダイ科	前上顎骨	1 /	/ 1	2 /	1 /
フエダイ科	歯骨			1 /	1 /
クロダイ属	前上顎骨	1 /	1 /		
クロダイ属	歯骨				2 / 1
クロダイ属	犬歯		2	2	8
クロダイ属	方骨		1 /		1 /
クロダイ属	口蓋骨			/ 1	
フエフキダイ属	前上顎骨		1 /		2 / 1
フエフキダイ属	方骨	1 /	1 / 1		2 / 4
フエフキダイ属	口蓋骨				/ 3
フエフキダイ科	主上顎骨	1 / 1			1 / 1
フエフキダイ科	歯骨				2 /
フエフキダイ科	角骨				1 /
フエフキダイ科	第1椎骨				2
タイ型	椎骨				5
チョウチョウウオ科	主上顎骨	/ 1			
チョウチョウウオ科	第1椎骨	1			
チョウチョウウオ科	腹椎	1			4
スズメダイ科	角骨				/ 1
ベラ科(コブダイ型)	上咽頭骨		1 /		
ベラ科(コブダイ型)	下咽頭骨		1		
ベラ科A	上咽頭骨	/ 1			2 / 2
ベラ科A	下咽頭骨				2
ベラ科D	下咽頭骨	1	1		1

（右段につづく）

層準		Ⅱ層			
位置		土器集中区	A集石	石礫集中区	包含層
グリッド		S-3	S-3	S-3	S-3
試料番号		No.2	No.9	No.12	No.25
ベラ科(その他)	上咽頭骨	5 / 5	2 / 1	2 / 2	8 / 9
ベラ科(その他)	下咽頭骨	3	2	2	7
ベラ科(型不明)	上咽頭骨	2 / 1			
ベラ科(型不明)	下咽頭骨	2	1		
ベラ科(「ｶﾝﾑﾘﾍﾞﾗ」型)	歯骨		/ 1	/ 1	
ベラ科	主上顎骨	/ 1	1 /		3 / 2
ベラ科	前上顎骨	3 / 2	1 /		2 / 2
ベラ科	歯骨	/ 5	/ 1	1 /	5 / 3
ベラ科	角骨	/ 4			/ 1
ベラ科	方骨	/ 2			
ベラ科	第1椎骨	2	2	2	5
ベラ科	第2?椎骨	8	3	5	2
ブダイ属/ﾐｿﾞﾚﾌﾞﾀﾞｲ	上咽頭骨	/ 1	1 / 1		1 /
ブダイ属/ﾐｿﾞﾚﾌﾞﾀﾞｲ	下咽頭骨	1	1	1	3
ブダイ属/ﾐｿﾞﾚﾌﾞﾀﾞｲ	前上顎骨	/ 1			1 / 2
ブダイ属/ﾐｿﾞﾚﾌﾞﾀﾞｲ	歯骨			/ 1	1 / 1
アオブダイ属	上咽頭骨	1 / 2	4 / 3	3 / 6	8 / 5
アオブダイ属	下咽頭骨	3		1	6
アオブダイ属	前上顎骨	3 / 7	13 / 2	2 / 4	20 / 9
アオブダイ属	歯骨	5 / 3	1 / 4	2 / 5	9 / 12
ブダイ科	主上顎骨			/ 2	3 / 2
ブダイ科	角骨	1 / 6	2 / 2	5 / 2	5 / 7
ブダイ科	方骨	1 / 2	/ 1	4 / 2	8 / 3
ブダイ科	第1椎骨	7	4	3	9
ブダイ科	腹椎	13	21	19	46
ブダイ科	尾椎	13	43	59	94
サバ類	主上顎骨	/ 1			
サバ類	歯骨				1 /
サバ類	腹椎	3		1	2
ニザダイ科	前上顎骨	1 /			/ 1
ニザダイ科	主鰓蓋骨			2 /	/ 1
ニザダイ科	擬鎖骨		1 / 1	/ 1	1 /
ニザダイ科	第1椎骨	7	2	1	2
ニザダイ科	第2椎骨	5			3
ニザダイ科	腹椎	4	3		2
ニザダイ科	尾椎	14	14	15	33
アイゴ属？	前頭骨		1		
アイゴ属	歯骨				1
アイゴ属	前上顎/歯骨	1		1	
アイゴ属	角骨		1 /	1 /	
アイゴ属	方骨	1			
アイゴ属	主鰓蓋骨		/ 1		
アイゴ属	第1椎骨	2		1	
アイゴ属	腹椎	6	4	6	13
アイゴ属	尾椎	11	1	4	19
トラギス科	第1椎骨	1			1
トラギス科？	腹椎	1			
オニオコゼ科？	主上顎骨				1 /
オニオコゼ科？	歯骨				/ 1
オニオコゼ科？	角骨		1 /		
オニオコゼ科？	腹椎	1	1		1
カレイ目	尾椎	3	1		1
モンガラカワハギ科	方骨				1
モンガラカワハギ科	背鰭棘			1	1
モンガラカワハギ科	鱗	10	1	3	18
ハコフグ科？	鱗板？	4	1		24
ハリセンボン属	棘	7		3	9
真骨類・未同定	主上顎骨	/ 1		2 /	1 / 1
真骨類・未同定	前上顎骨	/ 1	/ 1		1 / 2
真骨類・未同定	歯骨	/ 1		1 / 1	
真骨類・未同定	顎骨fr	1			
真骨類・未同定	角骨	/ 1	/ 1	/ 1	2 / 1
真骨類・未同定	方骨	3 / 1	1 /		1 / 3
真骨類・未同定	第1椎骨	6	3	1	5
真骨類・保留	主上顎骨				1 / 1
真骨類・保留	歯骨			1 /	
真骨類・保留	角骨		1 /	/ 1	2 / 1
真骨類・保留	方骨	3	1 / 1	1 /	
真骨類・保留	第1椎骨	2	2	1	6
真骨類・保留	椎骨	537	259	254	942
真骨類・保留	楯鱗？				2
真骨類・同定不可	第1椎骨	2	2	1	
真骨類・同定不可	椎骨	259	173	74	175
カエル類	上腕骨	/ 1			1 / 1
カエル類	橈尺骨	/ 1	1	1	2 / 2
カエル類	寛骨			1	1
カエル類	尾椎	3	2	1	2
カエル類	椎骨	1		1	1
ヘビ類	椎骨	10	10	9	106
オオコウモリ属	臼歯		1		
ネズミ亜科	臼歯	5	1	4	1
ネズミ科	上顎切歯	1 /			
ネズミ科	下顎切歯			/ 1	1 /
ネズミ科	上腕骨		/ 2		
ネズミ科	尺骨				1
ネズミ科	脛骨			/ 1	
ネズミ科	踵骨			1 /	
哺乳類・保留	歯	1	1		
哺乳類・保留	中手/中足骨		2		
鳥類/哺乳類	指骨	6			2
鳥類/哺乳類	不明(長骨)			2	1
合計		1237	714	605	2063

第10表　包含層からピックアップ法で採集された魚骨(１)Ｓ地区(その１)Ｓ－４区の椎骨は未分析

層準		Ⅱ層		
位置		包含層		
グリッド		S-1	S-3	S-4
サメ類A	歯			1
サメ類B	歯		1	
サメ類	椎骨		1	–
ウナギ属	前鋤骨板	1		
ウナギ属	腹椎	2		–
ウツボ科(A)	前鋤骨板	1		1
ウツボ科(A)	主上顎骨		/ 1	1 /
ウツボ科(A)	歯骨	1 / 1		
ウツボ科(B)	前鋤骨板			2
ウツボ科(B)	歯骨		/ 1	/ 3
ウツボ科	方骨		1 /	/ 1
ウツボ科	舌顎骨		1 / 1	
ウツボ科	椎骨	4	18	–
アナゴ科	歯骨		1 /	
アナゴ科	舌顎骨		/ 1	
ダツ科	前上顎骨		/ 1	1 /
ダツ科	歯骨	1 /		
ダツ科	腹椎	4	14	–
ダツ科	尾椎	1	1	–
イットウダイ科	主上顎骨			/ 2
イットウダイ科	角骨			/ 1
イットウダイ科	方骨			/ 1
ボラ科	尾椎	1	1	–
カマス属	歯骨		/ 1	
カマス属	角骨	1 /	1 /	/ 1
カマス属	方骨			/ 1
カマス属	腹椎	1	1	–
スズキ属	歯骨			
スズキ属	方骨		/ 1	
ハタ科(マハタ型)	前上顎骨	/ 2	4 / 4	8 / 15
ハタ科(マハタ型)	歯骨	1 / 4	7 / 9	4 / 10
ハタ科(スジアラ型)	歯骨	1 /		
ハタ科	主上顎骨	1 /	3 / 3	4 / 4
ハタ科	角骨	1 / 2	2 / 1	3 / 6
ハタ科	前鰓蓋骨	2 /	4 / 2	1 /
ハタ科	主鰓蓋骨	/ 1		
ハタ科	第1椎骨		3	–
ハタ型	腹椎	2	23	–
ハタ型	尾椎	8	13	–
アジ科(B)	前上顎骨		1	
アジ科(B)	腹椎		1	–
アジ科(B)	尾椎	1		–
アジ科	総鰭			2
ヒメジ科	第1椎骨	1		–
フエダイ科	主上顎骨			/ 1
フエダイ科	前上顎骨		1 /	1 /
コショウダイ属	主上顎骨		1 /	
クロダイ属	主上顎骨	1 /	1 / 2	
クロダイ属	前上顎骨	3 / 1	3 / 4	3 / 2
クロダイ属	歯骨	2 / 1	2 / 3	/ 1
クロダイ属	角骨	1 /	/ 1	
クロダイ属	方骨			1 / 1
クロダイ属	口蓋骨	1 /	1 /	/ 1
ヨコシマクロダイ	前上顎骨			1
メイチダイ属？	方骨			1
フエフキダイ属	前上顎骨	7 / 3	18 / 17	7 / 3
フエフキダイ属	口蓋骨	1 /	7 / 3	4 / 4
フエフキダイ科	主上顎骨	/ 3	9 / 6	2 / 6
フエフキダイ科	歯骨	/ 4	9 / 8	8 / 3
フエフキダイ科	角骨	/ 2	7 / 7	5 / 5
フエフキダイ科	方骨	2 /	6 / 7	6 / 1
フエフキダイ科	第1椎骨	1	7	–
フエフキダイ科	腹椎	2	25	–
タイ型	椎骨	8	29	–
ベラ科(コブダイ型)	上咽頭骨		2 / 1	/ 2
ベラ科(コブダイ型)	下咽頭骨	4	12	3
ベラ科(タキベラ型)	上咽頭骨			1 /
ベラ科(A)	上咽頭骨	/ 2	7 / 5	6 / 2
ベラ科(A)	下咽頭骨	4	13	2
ベラ科(B)	上咽頭骨	1 /	1 / 2	1 /
ベラ科(B)	下咽頭骨		1	1

(右段につづく)

層準		Ⅱ層		
位置		包含層		
グリッド		S-1	S-3	S-4
ベラ科(D)	下咽頭骨		15	11
ベラ科(E)	下咽頭骨		5	
ベラ科(その他)	上咽頭骨		5 / 4	4 / 2
ベラ科(その他)	下咽頭骨		5	7
ベラ科(タイプ不明)	下咽頭骨		3	24
ベラ科(カンムリベラ型)	前上顎骨		1 /	/ 1
ベラ科(カンムリベラ型)	歯骨		1 / 1	
ベラ科	前上顎骨	/ 1	3 / 3	7 / 7
ベラ科	歯骨	/ 1	5 / 8	10 / 2
ベラ科	腹椎		7	–
ベラ科	尾椎		14	–
ﾌﾞﾀﾞｲ属/ｼﾞﾝﾍﾞﾌﾞﾀﾞｲ	前上顎骨		4	
ﾌﾞﾀﾞｲ属/ｼﾞﾝﾍﾞﾌﾞﾀﾞｲ	歯骨		/ 1	1 /
ﾌﾞﾀﾞｲ属/ｼﾞﾝﾍﾞﾌﾞﾀﾞｲ	上咽頭骨		/ 1	1 /
ﾌﾞﾀﾞｲ属/ｼﾞﾝﾍﾞﾌﾞﾀﾞｲ	下咽頭骨		1	1
イロブダイ属	前上顎骨		1	
イロブダイ属	歯骨		2 /	
イロブダイ属	上咽頭骨		2 / 2	
イロブダイ属	下咽頭骨	1	4	2
アオブダイ属	前上顎骨	7 / 13	20 / 35	18 / 22
アオブダイ属	歯骨	7 / 5	49 / 42	26 / 34
アオブダイ属	上咽頭骨	5 / 8	46 / 42	25 / 27
アオブダイ属	下咽頭骨	10	50	35
ブダイ科	主上顎骨		10 / 9	6 / 6
ブダイ科	角骨		12 / 13	
ブダイ科	方骨	3 / 2	20 / 12	3 / 4
ブダイ科	第1椎骨	3	7	–
ブダイ科	腹椎	3	50	–
ブダイ科	尾椎	34	130	–
スマ	腹椎		1	–
スマ	尾椎		2	–
ニザダイ科(A)	腹椎	1	3	–
ニザダイ科(A)	尾椎	6	11	–
ニザダイ科(B)	腹椎		4	–
ニザダイ科(B)	尾椎		2	–
ニザダイ科	前上顎骨	/ 1	/ 1	
ニザダイ科	歯骨			/ 1
ニザダイ科	主鰓蓋骨	1 /		1 /
ニザダイ科	擬鎖骨			/ 1
ニザダイ科	擬鰭	1	5	1
アイゴ属	前上顎骨			1 /
アイゴ属	歯骨			/ 1
アイゴ属	主鰓蓋骨			1 /
アイゴ属	腹椎	1	4	–
アイゴ属	尾椎	4	5	–
オニオコゼ科？	主鰓蓋骨	1 /	/ 1	/ 1
モンガラカワハギ科	尾椎		2	–
モンガラカワハギ科	背鰭棘	1		
ハコフグ科？	鱗板			1
ハリセンボン属	棘	1	3	4
ハリセンボン科	前上顎骨			1
ハリセンボン科	歯骨	1	2	
ハリセンボン科	前上顎/歯骨		3	1
真骨類・未同定	主上顎骨			1 / 1
真骨類・未同定	前上顎骨	/ 1	1 /	
真骨類・未同定	方骨		1	1 /
真骨類・未同定	椎骨	3	14	
真骨類・保留	主上顎骨		/ 1	
真骨類・保留	前上顎骨			/ 1
真骨類・保留	角骨		/ 1	
真骨類・保留	椎骨	33	65	–
真骨類・同定不可	椎骨	39	139	–
カエル類	上腕骨			/ 1
カエル類	寛骨			/ 1
カエル類	腓骨			1
ヘビ類	椎骨	3	12	
鳥類・同定不可	椎骨			1
ネズミ亜科	臼歯			1
ネズミ亜科	上顎骨			/ 1
ネズミ科	寛骨			/ 2
		301	1303	472

第11表　包含層からピックアップ法で採集された魚骨(２)Ｓ地区(その２)

層準		Ⅱ層					Ⅲ層
位置		土器集中区	礫集中区	A集石	B集石	包含層	包含層
グリッド		S-3	S-3	S-3	S-3	不明	S-5
ウツボ科(A)	歯骨			1 /			
ハタ科(マハタ型)	歯骨				1 /		/ 1
ハタ科(スジアラ型)	歯骨				/ 1	/ 1	
ハタ型	尾椎	1					
フエフキダイ属	前上顎骨	1 /		/ 1		2 /	1 /
フエフキダイ属	口蓋骨				1 /		
フエフキダイ科	主上顎骨				1 /	1 /	
フエフキダイ科	歯骨		1 / 1				1 /
フエフキダイ科	腹椎	1					
タイ型	椎骨	3		2			
ベラ科(コブダイ型)	下咽頭骨	1			2	1	1
ベラ科(A)	下咽頭骨	1	1				
ベラ科(B)	上咽頭骨					1 /	
ベラ科	前上顎骨	/ 2					
ベラ科	尾椎					1	
イロブダイ属	歯骨			1 /	1 /		
イロブダイ属	上咽頭骨	1 /					
アオブダイ属	前上顎骨	4 / 3	1 / 2		1 /		1 /
アオブダイ属	歯骨	/ 1	3 /	/ 3		/ 1	/ 1
アオブダイ属	上咽頭骨	1 /	1 / 1	/ 2	/ 2		
アオブダイ属	下咽頭骨		1	1			2
ブダイ科	腹椎	4	/	1			
ブダイ科	尾椎		1			1	
スマ	尾椎	1					
スマ？	尾椎(尾柄部)	1					
ニザダイ科	尾椎	2					
ハリセンボン科	歯骨	3					
真骨類・保留	椎骨	3		2			
真骨類・同定不可	椎骨	1		1		1	3
合計		35	13	15	10	10	11

第12表　包含層からピックアップ法で採集された魚骨(３)Ｐ地区・１次調査地区

地区		P地区			1次調査地区	
層準		Ⅱc層	Ⅳ層	不明	Ⅱ層	Ⅲ層
サメ類	椎骨				1	
ウツボ科(A)	歯骨			1 / 2		
ウツボ科(B)	歯骨			1 / 1		
ダツ科	歯骨			/ 1		
ハタ科	角骨		/ 1			
ハタ型	腹椎	1				
ハタ型	尾椎			1		
フエダイ科	主上顎骨		1 / 1			
クロダイ属	前上顎骨		1 /	1 /		1 /
クロダイ属	歯骨	/ 1				
フエフキダイ属	前上顎骨	1 /	1 /	1 /		1 /
フエフキダイ属	口蓋骨	/ 2	1 /	/ 1		
フエフキダイ科	主上顎骨	/ 1				
フエフキダイ科	歯骨	2 /	1 /			
タイ型	椎骨	1	1			
ベラ科(コブダイ型)	上咽頭骨				/ 1	
ベラ科(コブダイ型)	下咽頭骨	1		5	3	2
ベラ科	前上顎骨			2 / 1		
イロブダイ属	前上顎骨				1 /	
イロブダイ属	歯骨				/ 1	
イロブダイ属	下咽頭骨	1		1	1	
アオブダイ属	前上顎骨	1 /				/ 1
アオブダイ属	歯骨	/ 2	/ 1	1 / 8		
アオブダイ属	上咽頭骨		/ 1	/ 12	1 / 1	
アオブダイ属	下咽頭骨	3	1	9	1	2
ブダイ科	方骨		1 /			
ブダイ科	腹椎	2				
ブダイ科	尾椎	1				
ハリセンボン属	棘			1		
真骨類・保留	椎骨			1		
真骨類・同定不可	椎骨		1			
層準		20	13	51	11	7

第13表　遺構から採集されたリクガメ類遺体　斜体時は水洗4.4mm資料．その他はピックアップ資料

地区	P地区		1次調査地区					
遺構	17号	20号	2号	14号	15号	18号	20号	21号
椎骨板		3						
椎骨板(最後尾)	1							
肋骨板		5						
縁骨板		10				1		
上腹板		1 / 1						
中腹板		3 /					/ 1	1 /
下腹板		2 /						
剣状腹板		1 / 4		1 /				
甲板fr	1 /	19	*2*		*2*	1 /		
合計	2	49	2	1	2	2	1	1

第14表　包含層から採集されたリクガメ類遺体　PU：ピックアップ

地区	S地区													P地区
層準	Ⅱ層											Ⅲ層	層・位置不明	層不明
位置	土器集中区		礫集中区	石礫集中区	A集石	B集石	包含層					包含層		包含層
グリッド	S-3	S-3	S-1	S-3	S-3	S-1	S-1	S-3	S-3	S-4	S-4	S-5		−
採集方法	3.0mm	4.4mm	4.4mm	4.4mm	4.4mm	4.4mm	PU	4.4mm	PU	4.4mm	PU	4.4mm	4.4mm	PU
試料番号	No.1-3	No.4-8	No.37	No.12	No.9	No.40	−	No.13-25	−	No.27-30・77	−	No.32-36・80	No.69-71	−
烏口・肩甲骨	/ 1			/ 1										
上腕骨				1 /			/ 1	/ 1						
寛骨(腸骨)		1 /												
大腿骨	/ 1					1 /								
頂骨板												1		
椎骨板		1						1	1	1	1	2		
椎骨板(最後尾)				1										
肋骨板	2	1					1	4	1	6	2	2		
縁骨板	12	6	3	3			3	5	2	5	5	2	3	1
上腹板									/ 1		/ 1	/ 1		
内腹板	1	2								1				
中腹板	/ 1			/ 1										
下腹板	1 /		/ 1				1 / 3				1 /			/ 1
剣状腹板		/ 1						1 /			1 /	/ 1		
甲板破片	27	27	6	5	1	1	2	20	6	13	15	18	3	1
合計	46	39	10	12	1	2	11	32	11	26	26	27	6	3

第15表　遺構からピックアップ法で採集されたイノシシ遺体（顎骨・歯は第19・20表を参照）
部位略号については表末参照（第16～18表も同様）

地区		P地区															1次調査地区						
遺構		1号	2号	4号	5号	8号	9号	10号	11号	17号	19号	20号	22号	23号	25号	30号	10号	14号	15号	18号	21号	26号	27号
上顎骨	fr	1 /									1												
下顎骨	fr	1 /		/ 1	/ 1			1 /		1 / 3	2 /	/ 1						1 / 1		1 / 2			
下顎骨	fr																			2			
頸椎																		1					
胸椎			1							2								1		1			
腰椎																		2					
仙骨											1												
椎骨																		2		1	1		
肩甲骨	関節	1 / 1	1 /			1 /				1 / 2	1 /	2 /	1 /					/ 1		/ 1	1 /		
肩甲骨	fr	2								2											2		
上腕骨	p																			/ 1			
上腕骨	(p−)					/ 1				1 /										1 / 1			
上腕骨	(d−)		/ 2																				
上腕骨	(d)																					1 /	
上腕骨	d									1 /		1 /						2 / 1					
上腕骨	m	2	1			1		1		4	2							2		4		1	1
橈骨	p																	2 /		/ 1			
橈骨	(p−)					/ 1																	
橈骨	(d−)																	/ 1					
橈骨	m		1						1							1		2					
尺骨	p					/ 1												1 /			/ 1		/ 1
尺骨	m	1						1		1	1	1		1				4		1			
橈側手根骨																		/ 1					
中間手根骨				/ 1																			
第2中手骨	p～d		1 /																				
第3中手骨	p										/ 1							/ 1		1 /			
第3中手骨	d		/ 1															/ 1		1 /			
第3中手骨	m																	1					
第4中手骨	p									/ 1	1 / 1							/ 1					
第4中手骨	m																						1
第5中手骨	p～d				1 /																		
中手骨	(d−)							1										1					
寛骨	寛骨臼									1 /	/ 1							2 / 1	1 /				
寛骨	fr	1				1		1		1								1					
大腿骨	(d−)	1 /																1 / 1					
大腿骨	(d)																	1 /					
大腿骨	m			1																1	1		
膝蓋骨																		1 /					
脛骨	(p−)										1 / 2							1 /	/ 1		/ 1		1 /
脛骨	(d−)										/ 1						/ 1	/ 2					1 /
脛骨	d		1 /															/ 1		/ 1			1 /
脛骨	m	1	1	1						1													
距骨			/ 1															/ 2	/ 1				
踵骨		/ 1					/ 1											2 / 3					
中心足根骨												1 /											
第4足根骨												/ 1											
第2中足骨	p～d																	1 /					
第2中足骨	(d−)									/ 1													
第3中足骨	p											1 /											
第4中足骨	p	/ 1																					
第5中足骨	p										/ 1												
中手/中足骨																	1	2		1			2
基節骨			1	1							1							3		1			1
中節骨																							1
肋骨	p										1			1									
肋骨	fr	6	1							1	1				1	2				2			3
合計		20	13	5	2	6	1	5	1	24	20	8	1	1	1	4	2	55	3	25	7	2	13

部位略号凡例　p 近位端，d 遠位端，m 骨幹，fr 破片．(p)・(d)は未癒合の骨端のみ，(p−)・(d−)は骨端が未癒合で脱落していることを示す（第16～18表も同様）

第16表　Ｓ地区包含層から水洗選別で採集されたイノシシ遺体（顎･歯は第19・20表を参照）

層準		Ⅱ層						Ⅲ層
位置		土器集中区	石礫集中区	礫集中区	A集石	包含層		包含層
グリッド		S-3	S-3	S-1	S-3	S-3	S-4	S-5
頚椎		1						
胸椎		1						
腰椎						1		
肩甲骨	関節部					1 /		1 /
上腕骨	p						1 /	
上腕骨	(p-)					1 /		
上腕骨	(d)	/ 1						
上腕骨	m				1			
橈骨	p	1 /		1 /				
橈骨	(p)						/ 1	
橈骨	(p-)						/ 1	
橈骨	(d-)					/ 1		
橈骨	(d)	1 /				/ 1		
尺骨	p						1 /	
尺骨	m						1	2
橈側手根骨		2 /	/ 1				/ 2	
中間手根骨		1 /				1 /		
尺側手根骨		/ 1					2	
第3手根骨				/ 1				
第3中手骨	p					1 /		
第4中手骨	p					1 /		
第5中手骨	p	/ 1						
寛骨	fr	1						
大腿骨	(p)	/ 1						
膝蓋骨								/ 1
脛骨	(p-)		1 /					
脛骨	d					1 /		
腓骨	(p-)							1 /
距骨						/ 1		
踵骨			1 /					
中心足根骨					1 /	1 /		
中手･中足骨	d	3						
基節骨		3				1	3	2
中節骨	d	4	1	1		1	5	2
末節骨		5			1		2	1
肋骨	p				1		1	
肋骨	fr			1				2
合計		27	4	4	4	13	20	12

第18表　包含層からピックアップ法で採集されたイノシシ遺体（２）

Ｐ地区・１次調査地区．顎･歯は第19・20表を参照

地区		P地区			1次
層準		Ⅱc層	Ⅳ層	層不明	調査区
上顎骨	fr			/ 1	
下顎骨	fr	2 /	1 /	/ 2	
下顎骨	fr		1	2	
尾椎				1	
椎骨		1			1
肩甲骨	関節部		2 / 1	2 /	/ 2
肩甲骨	fr	1	1	1	2
上腕骨	(p-)			/ 1	
上腕骨	(d-)			/ 1	
上腕骨	d	1 /		1 /	
上腕骨	m	5	3	3	1
橈骨	p	1 / 1		/ 1	
橈骨	(p-)	1 /			
橈骨	m		3		
尺骨	p	/ 1	/ 4	1 /	1 /
尺骨	m	3	2	2	3
第2中手骨	p～d	1 /			
第3中手骨	p～d	/ 1		1 /	
第4中手骨	p	4 /	3 /		
第4中手骨	(p-)	/ 1			
第4中手骨	(d-)	/ 1	/ 1		
第4中手骨	d	1 /	1 /		
第5中手骨	p～d	/ 1		1 /	
寛骨	寛骨臼	/ 1		1 /	
寛骨	fr	1			
大腿骨	p	1 /	/ 1		
大腿骨	(p-)	1 /			
大腿骨	(d-)		1 / 2	1 / 1	
大腿骨	d	/ 1			
大腿骨	m	2	1		
脛骨	(p-)	1 /	1 /	1 / 1	/ 1
脛骨	(d-)	1		3 /	
脛骨	d	2 / 2	/ 1	2 /	
脛骨	m	4		1	
距骨				1 /	1 /
踵骨		1 / 1	1 /	1 / 1	
第2中足骨	p～d		/ 1		
第3中足骨	p	1 /		1 /	
第4中足骨	p～(d-)			1 /	
中手･中足骨	d	1	1		1
基節骨		1		1	
末節骨				1	1
肋骨	p	2	1	2	
肋骨	m	4	2	3	
合計		55	36	44	14

第17表　包含層からピックアップ法で採集されたイノシシ遺体（１）

Ｓ地区顎･歯は第19・20表を参照．Ⅱ層上部は後世の遺物の混入がみられる

層準		Ⅱ層上部	Ⅱ層					Ⅲ層
位置		包含層	土器集中区	A集石	B集石	包含層		包含層
グリッド		S-1～5	S-3	S-3	S-1	S-3	S-3以外	S-5
側頭骨						/ 1	1 /	
下顎骨	fr				/ 1	1 /	1 /	
環椎			1					
頚椎			2			1		
胸椎		1		1		11	2	1
腰椎			1		1	4	1	
椎骨		1					2	
肩甲骨	関節部	3 /	1 /	/ 1	/ 1	/ 3		
肩甲骨	fr		6			2		
上腕骨	p	1 /		/ 1		2 /		
上腕骨	(p-)	/ 1				1 / 2		
上腕骨	(d-)	1 /				2 /		
上腕骨	(d)						1 /	
上腕骨	d	1 / 1				/ 1	2 /	
上腕骨	m	5		1	1	9	1	2
橈骨	p	1 /	/ 3			1 / 1		
橈骨	(p-)				1 /	/ 1		
橈骨	(d-)					/ 4		
橈骨	m	1				1	1	
尺骨	p	1 /	1 /			2	/ 1	
尺骨	m	3	3	1		5	3	
橈側手根骨						/ 1		
第4手根骨						1 /		
第3中手骨	p	/ 1	/ 1			1 / 1	/ 1	1 /
第3中手骨	(d-)						1 /	
第3中手骨	d		/ 1			1 / 1		
第4中手骨	p	/ 1				1 /		
第4中手骨	d	/ 1						
第4中手骨	m		1					
第5中手骨	p～d		/ 1					
寛骨	寛骨臼	1 /			/ 1	/ 3		
寛骨	fr	2			1		2	
大腿骨	p					1 / 4		
大腿骨	(p)					2 /	/ 1	
大腿骨	(p-)	1 /	1 /			1 /		
大腿骨	(d-)					/ 1		
大腿骨	d					1 /	/ 1	
大腿骨	m	1	1	2		1	2	1
膝蓋骨	w	/ 1						
脛骨	w							
脛骨	p					2 / 1		
脛骨	(p)						1 /	
脛骨	(p-)	1 / 1			1 /	1 /		
脛骨	(d-)	1 /			1 /	1 /		
脛骨	(d)						1 /	
脛骨	d		1 /			1 / 2	1 /	1 /
脛骨	m	1	2			1	3	
腓骨	p						1 /	
腓骨	(d-)					1 /		
腓骨	d					/ 1		
距骨		1 /				1 / 1		
踵骨		2 / 2	2 / 1		/ 1	6 / 2	3 / 2	
中心足根骨							1 /	
第4足根骨						1 / 1	/ 1	
第2中足骨	p	/ 1				/ 1		
第2中足骨	(d-)					/ 1		
第2中足骨	d					/ 1		
第3中足骨	p		/ 1					
第3中足骨	(d-)		/ 1					
第4中足骨	p		/ 1					
第4中足骨	m	1						
中手/中足骨	d		1	1		2	1	
基節骨		4				6	4	
中節骨		1				2	3	
末節骨						1	1	1
肋骨	p	/ 2		1		3	1	
肋骨	fr	13	3		1		8	1
合計		61	37	9	11	116	56	8

第19表　イノシシ顎骨の詳細

PUはピックアップ、4.4は水洗4.4mm〔 〕は顎骨残存範囲，〈 〉は萌出中，網掛け部分は脱落歯

上/下	地区	層準	レベル(cm)	出土位置	採集方法	LR	顎骨の残存範囲／歯の植立状況												性別
							連合部	I1 i1	I2 i2	I3 i3	C c	P1	P2 dm2	P3 dm3	P4 dm4	M1	M2	M3	
上顎骨	S	Ⅱ層		土器集中区	PU	R					〔 C		P2	P3 〕					
下顎骨	1次	Ⅲ層	10-15	18号遺構	PU	L					〔 C		P2	P3 〕					
						R					〔 C	–	P2	P3	P4	M1	M2	M3 〕	
下顎骨	1次	Ⅲ層	20-30	26号遺構	PU	R												〔 M3 〕	
下顎骨	P			17号遺構	PU	L												〔 M3 〕	
下顎骨	P	Ⅱc層		–	PU	L							〔 dm2	dm3	dm4 〈	M1 〉〕			
下顎骨	P	Ⅱc層		–	PU	L									〔 P4	M1	M2	M3 〕	
下顎骨	P	Ⅱc層		–	PU	L					〔 C		P2	P3	P4	M1	M2	M3 〕	♂
下顎骨	P	Ⅱc層		–	PU	R									〔 dm4 〕				
下顎骨	P	Ⅱc層		–	PU	R							〔 dm2	dm3	dm4	M1 〕			
下顎骨	P	Ⅱc層		–	PU	R								〔 P3	P4	M1	M2 〕		
下顎骨	P	Ⅱc層		–	PU	R										〔 M1	M2	M3 〕	
下顎骨	P	不明		P1	PU	L									〔 P4	M1	M2	M3 〕	
下顎骨	P	不明		P-19	PU	L							〔 dm2	dm3	dm4	M1 〕			
下顎骨	P	不明		P-I	PU	L					〔 C		P2	P3	P4	M1	M2 〈	M3 〉〕	♀
下顎骨	P	不明		–	PU	L									〔 dm4 〈	M1 〉〕			
下顎骨	P	不明		–	PU	L											〔 M2	M3 〕	
下顎骨	P	不明		P17	PU	R					〔 C	–	P2	P3	P4	M1	M2 〕		♀
下顎骨	P	不明		P19	PU	R										〔 M1 〕			
下顎骨	P	不明		P23	PU	R								〔 P3	P4	M1	M2 〕		
下顎骨	P	不明		P3-B	PU	R					〔 C	–	P2	P3	P4 〕				♀
下顎骨	P	不明		P4	PU	R					〔 C		P2	P3	P4 〕				♀?
下顎骨	P	不明		P4	PU	R							〔 P2	P3 〕					
下顎骨	P	不明		P8	PU	R								〔 dm3	dm4 〕				
下顎骨	P	不明		P-I	PU	R					〔 c		dm2	dm3	dm4 〕				♂
下顎骨	P	不明		P-I	PU	R									〔 dm4	M1 〈	M2 〉〕		
下顎骨	S	Ⅱ層		土器集中区	PU	L							〔 P2 〕						
下顎骨	S	Ⅱ層	40-65	A集石	PU	L	〔 +	I1	I2	I3	C	P1	P2	P3	P4	M1	M2 〕		
						R		I1	I2	I3	C	P1	P2	P3	P4	M1	M2 〕		♂
下顎骨	S	Ⅱ層	55-60	S-3 No.25	4.4	L										〔 M1	M2 〕		
下顎骨	S	Ⅱ層	10-20	S-4	PU	L	〔 +	I1	I2	I3	C		dm2	dm3	dm4	M1 〕			
						R		I1	I2	I3	C		dm2	dm3	dm4	M1 〕			

第20表　イノシシ遊離歯の詳細

採集法のPUはピックアップ，3.0・4.4は水洗3.0mm・4.4mm.

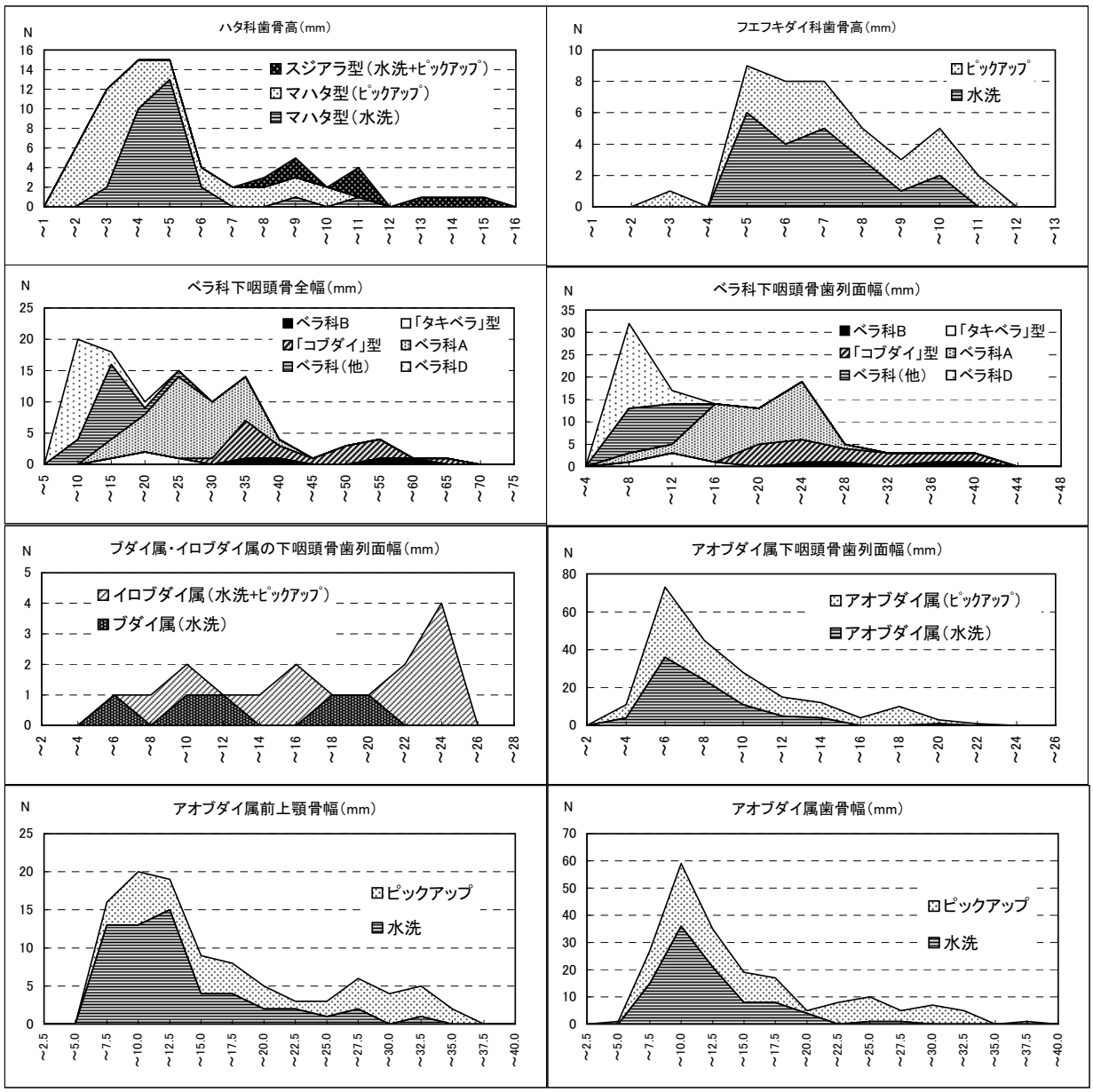
地区	層準	出土位置	ﾚﾍﾞﾙ(cm)	採集法	上下	歯種	LR	性別
1次	Ⅲ層	14号遺構	30～40	PU	上	I2	R	
1次	Ⅲ層	14号遺構	40～50	PU	下	I3	L	
1次	Ⅲ層	14号遺構	10～20	PU	下	C	L	♀
1次	Ⅲ層	14号遺構	10～20	PU	下	dm4	L	
1次	Ⅲ層	14号遺構	0～5	PU	下	P4	L	
1次	Ⅲ層	14号遺構	10～20	PU	下	M1	L	
1次	Ⅲ層	18号遺構	0～5	PU	下	I1	R	
1次	床面	18号遺構		PU	下	I1	L	
1次	Ⅲ層	18号遺構	5～10	PU	下	I3	L	
1次	Ⅲ層	18号遺構	35～45	PU	下	C	R	♂
1次	Ⅲ層	18号遺構	10～15	PU	下	M2	R	
1次	Ⅲ層	18号遺構	10～15	PU	下	M3	L	
1次		26号遺構	20～30	PU	下	M3	L	
1次		26号遺構	20～30	PU	下	M3	R	
1次	Ⅲ層	ヤ15	5～10	PU	上	M3	L	
P	Ⅲ層	19号遺構		PU	下	C	L	♂
P	Ⅲ層	25号遺構		PU	下	C	L	♂
P	Ⅱc層	–		PU	下	C	R	♂
P	Ⅱc層	–		PU	下	C	R	♂
P	Ⅱc層	–		PU	下	C	L	♂
P	Ⅱc層	–		PU	下	C	L	♂
P	Ⅱc層	–		PU	下	C	R	♀
P	Ⅱc層	–		PU	下	M2	L	
P	Ⅱc層	–		PU	下	M3	L	
P	Ⅳ層	–		PU	下	C	L	♂
P	–	–		PU	下	I1	R	
P	–	–		PU	下	I1	L	
P	–	–		PU	下	I3	R	
P	–	–		PU	下	C	L	♂
P	–	–		PU	下	C	L	♂
P	–	–		PU	下	C	L	♀
P	–	–		PU	下	P4	L	
P	–	–		PU	下	P3	L	
S	Ⅱ層	土器集中区	40～45	3.0	上	I2	R	
S	Ⅱ層	土器集中区		PU	上	M2	R	
S	Ⅱ層	土器集中区		4.4	上	M3	R	
S	Ⅱ層	土器集中区		PU	下	(I1)	R	
S	Ⅱ層	土器集中区	30～40	PU	下	I2	R	
S	Ⅱ層	土器集中区	50～55	3.0	下	dm4	R	
S	Ⅱ層	B集石	40～45	PU	上	C	L	♂
S	Ⅱ層	B集石	40～45	PU	下	M3	L	
S	Ⅱ層	S-1	30～40	PU	下	I1	L	
S	Ⅱ層	S-1	30～40	PU	下	P2	?	
S	Ⅱ層	S-1	30～40	PU	下	M2	R	
S	Ⅱ層	S-2	30～40	PU	下	C	R	♂
S	Ⅱ層	S-2	20～30	PU	下	M1	L	
S	Ⅱ層	S-2	20～30	PU	下	M3	R	
S	Ⅱ層	S-3		PU	上	I1	L	
S	Ⅱ層	S-3		PU	下	I2	R	
S	Ⅱ層	S-3		PU	下	C	L	♀
S	Ⅱ層	S-3		PU	下	M2	L	
S	Ⅱ層	S-4	30～40	PU	上	M1	R	
S	Ⅱ層	S-4	30～40	PU	下	dm4	R	
S	Ⅱ層	S-4	30～40	PU	下	P4	R	
S	Ⅱ層	S-4	30～40	PU	下	M3	L	
S	Ⅱ層	S-4	30～40	PU	下	M3	R	
S	Ⅱ層	S-5	0～15	PU	下	I?	?	
S	Ⅲ層	S-5	0～10	PU	下	I1	L	
S	Ⅲ層	S-5	15～20	4.4	下	M1	L	

第21表　その他の脊椎動物遺体

＊は水洗4.4mm資料．その他はピックアップ資料

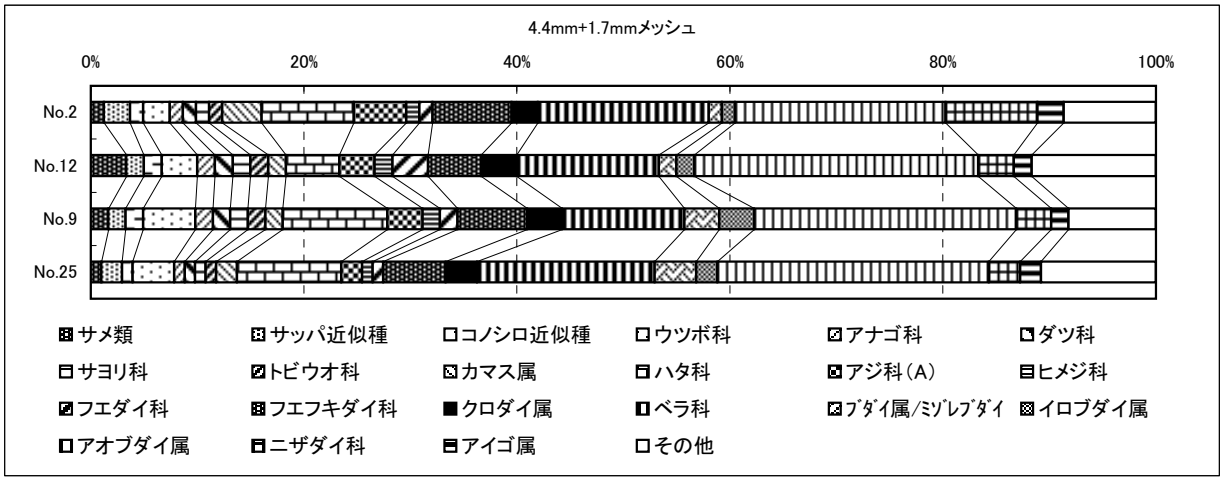
種	地区	層準/遺構・位置		部位	位置	LR	数
ウミガメ科	S	Ⅱ層	S-1	不明	m	?	1
ウミガメ科	S	Ⅱ層	S-3	尺骨	m	R	1
ウミガメ科	S	Ⅱ層	S-3	橈骨	m	L	1
ウミガメ科	S	Ⅱ層	S-4	指骨			2
ウミガメ科	P		2号	橈骨	完存	R	1
ウミガメ科	P		17号	脛骨	m	R	1
ウミガメ科	P		19号	剣状突起	fr		1
ウミガメ科	P	Ⅳ層	–	指骨			1
ウミガメ科	P	不明	–	指骨	完存？		1
ウミガメ科	P	不明	–	上腕骨	m	L	1
ウミガメ科	P	不明	–	大腿骨	m	L	1
ウミガメ科	P	不明	–	指骨			1
ウミガメ科	1次		14号	不明			1
ウミガメ科	1次		14号	指骨			1
ウミガメ科	1次		15号	大腿骨	完存	R	1
ウミガメ科	1次		15号	橈骨	m	R	1
ウミガメ科	1次		18号	不明	fr		1
ウミガメ科	1次		26号	剣状突起	fr		3
カラス属	S	Ⅲ層	S-5	尺骨	完存	L	1
カラス属	1次		S21号	尺骨	p-m	L	1
ニワトリ	P	不明	–	大腿骨	m-d	R	1
ニワトリ	P	不明	–	脛骨	m-d	R	1
鳥類	S	Ⅱ層	A集石	脛骨	m	L	1
鳥類	S	Ⅱ層	S-1	大腿骨	p-m	R	1
鳥類	S	Ⅱ層	S-1	脛骨	m	L	1
鳥類	S	Ⅱ層	S-3	橈骨？	m	?	1
鳥類	S	Ⅱ層	S-3	脛骨	m	L	1
鳥類	P		2号	尺骨	m	?	1
鳥類	P		17号	尺骨	m-d	R	1
鳥類	P		25号	脛骨	m-d	L	1
鳥類	P	不明	P23	尺骨	m	R	1
鳥類	P	不明	–	上腕骨	完存	L	1
鳥類	P	不明	–	脛骨	m	R	1
ネズミ科	S	Ⅱ層	S-1	下顎骨		R	1
ネズミ科	S	Ⅱ層	S-1	大腿骨	m	L	1
ネズミ科	S	Ⅱ層	S-3	下顎骨		R	1
ネズミ科	S	Ⅱ層	S-3	大腿骨	m	R	1
ネズミ科	P	不明	P19	下顎骨	fr	L	1
ノルカ	S	Ⅱ層	S-3	推骨	fr		2
イヌ＊	P		2号	前臼歯			1
イヌ	P	Ⅱc層	–	第3中手骨	完存		1
イヌ＊	S	Ⅱ層	土器集中区	前臼歯			1
イヌ＊	S	Ⅱ層	S-3	前臼歯			1
イヌ	1次		18号	尺骨	p	R	1
ジュゴン	S	Ⅱ層	土器集中区	肋骨	fr		1
ジュゴン	S	Ⅱ層	S-3	肋骨	fr	?	3
ジュゴン	P		17号	肋骨	fr	?	1
ジュゴン	P		19号	肋骨	fr	R	1
ジュゴン	P		20号	肋骨	fr	?	1
ジュゴン	P	Ⅱc層	–	肋骨	fr	?	4
ジュゴン	P	Ⅳ層	–	肋骨	fr	L	3
ジュゴン	1次		14号	肋骨	fr	?	2
ジュゴン	1次		14号	肋骨	fr	?	1
ジュゴン	1次		18号	肋骨	p	R	1
ジュゴン	1次		18号	肋骨	fr	?	2
ジュゴン	1次		27号	椎体	fr		1
ジュゴン	1次		27号	胸椎	fr		1
ジュゴン	1次	不明	モ6	肋骨		?	1
ブタ	S	Ⅱ層	S-4	肋骨	fr	R	6
ブタ	S	Ⅱ層	S-4	肋骨	fr	L	7
ブタ	1次	Ⅰ層	マ16	上腕骨	fr	R	1
ブタ	1次	Ⅰ層	へ16	肋骨	fr	L	1
ウシ	S	Ⅱ層	S-2	寛骨		R	1
ウシ	S	Ⅱ層	S-2	肋骨	fr	?	1

ネズミ類についてはS地区の水洗資料の結果も参照されたい．



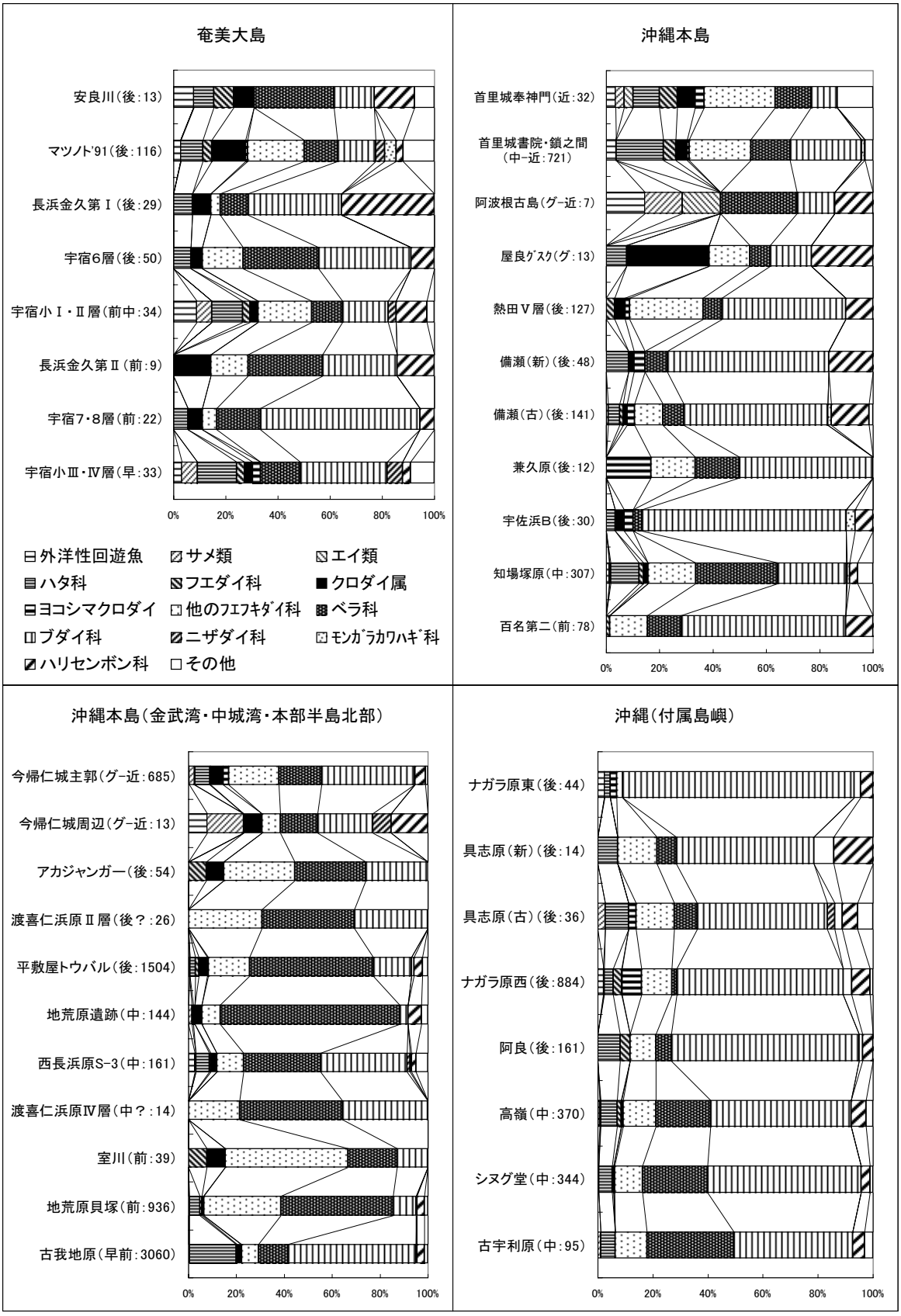
第128図　主要魚種の計測結果

ベラ科下咽頭骨の水洗資料とピックアップ資料は計測値に明確な差がみられなかったことから一括した（ベラ科Ｄとベラ科（その他）以外はピックアップ資料はまれである）.

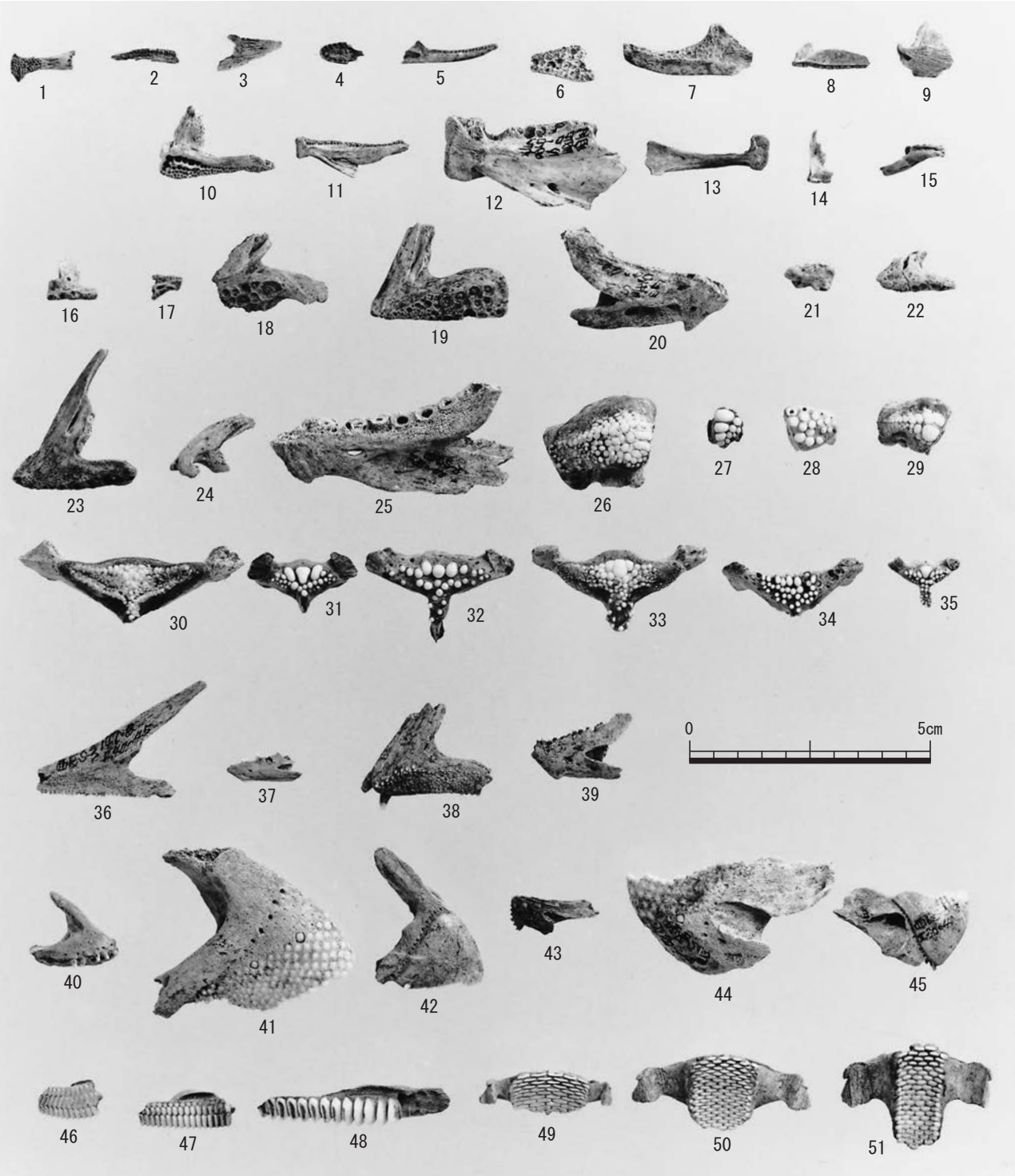


(注釈) №2:S-3・土器集中地区(Ⅱ層) №12:S-3・石礫集中区(Ⅱ層) №9:S-3・A集石(Ⅱ層) №25:S-3・包含層(Ⅱ層)
＊1.7mm(No.2は1.0mm)資料まで全量分析したもののみ

第129図　Ｓ地区Ⅱ層の水洗選別試料における魚類組成（最小固体数）

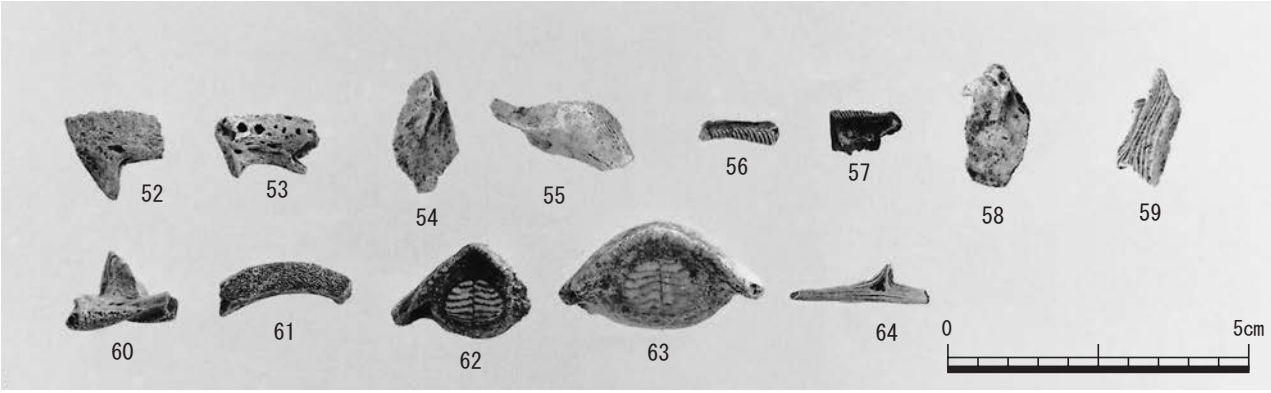


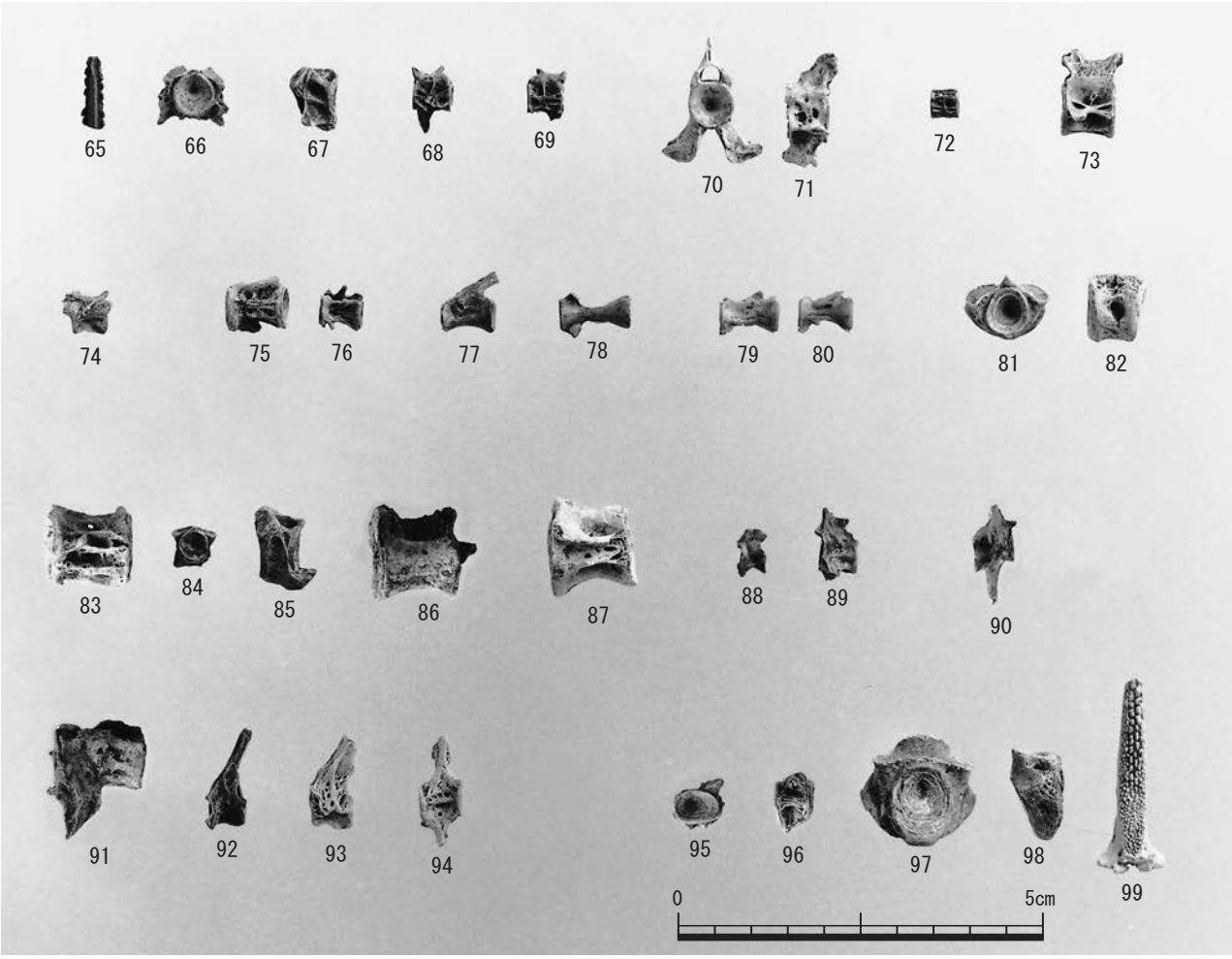
第130図　最小個体数（MNI）による魚類遺体群の組成の比較（現地採集資料）.
西長浜原遺跡はS-3区データに基づいて計算．外洋性回遊魚：カマス・ダツ科・アジ科・サバ科など



図版６　骨１(魚骨①)

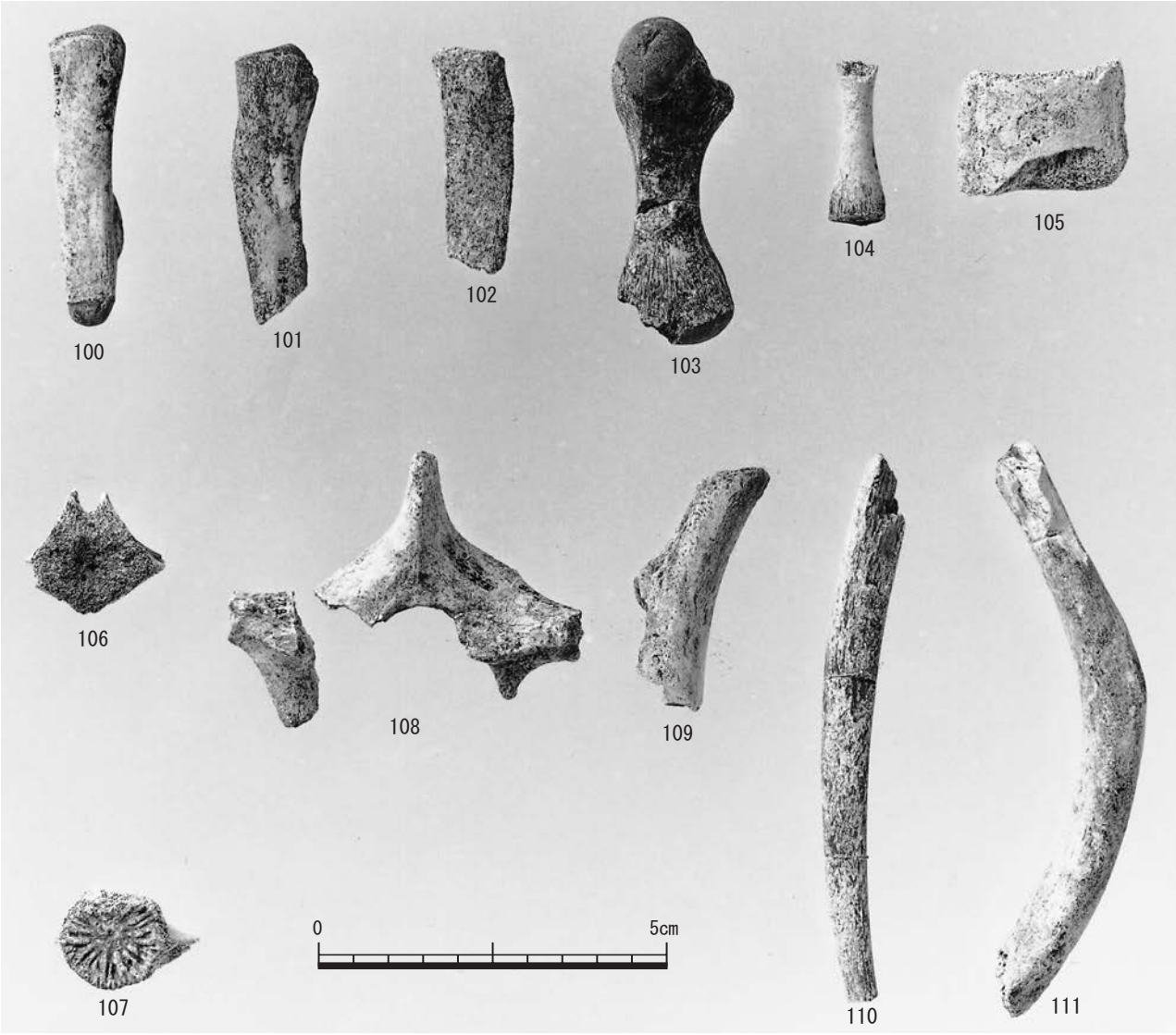
1：ウナギ属（前鋤骨板）　2：ウナギ属（歯骨 L）　3：ウナギ属（角骨 R）　4：ウツボ科 A(前鋤骨板）　5：ウツボ科 A(歯骨 L）　6：ウツボ科 B(前鋤骨板）　7：ウツボ科 B(歯骨 R）　8：アナゴ科（主上顎骨 R）　9：イットウダイ科（角骨 R）　10：ハタ科・マハタ型（前上顎骨 R）　11：ハタ科・マハタ型（歯骨 R）　12：ハタ科・スジアラ型（歯骨 R）　13：アジ科 B(主上顎骨 L）　14：アジ科 B(前上顎骨 R）　15：ヒメジ科（歯骨 R）　16：フエダイ科（前上顎骨 L）　17：フエダイ科（歯骨 R）　18：ヘダイ（前上顎骨 R）　19：クロダイ属（前上顎骨 R）　20：クロダイ属（歯骨 R）　21：ヨコシマクロダイ（前上顎骨 L）　22メイチダイ属（前上顎骨 R）　23：フエフキダイ属（前上顎骨 R）　24:フエフキダイ属（口蓋骨 L）　25:フエフキダイ科（歯骨 R）　26:ベラ科・コブダイ型（上咽頭骨 R）　27ベラ科・タキベラ型（上咽頭骨 L）　28:ベラ科・A(上咽頭骨 L）　29:ベラ科・B(上咽頭骨 R）　30:ベラ科・コブダイ型（下咽頭骨）　31:ベラ科・タキベラ型（下咽頭骨）　32：ベラ科・A(下咽頭骨）　33：ベラ科・B(下咽頭骨）　34：ベラ科・E(下咽頭骨）　35：ベラ科・D(下咽頭骨）　36ベラ科・カンムリベラ型（前上顎骨 R）　37:ベラ科・カンムリベラ型（歯骨 L）　38:ベラ科（前上顎骨 R）　39:ベラ科（歯骨 L）　40:ブダイ属（前上顎骨 R）　41：イロブダイ属（前上顎骨 R）　42：アオブダイ属（前上顎骨 R）　43：ミゾレブダイ（歯骨 L）　44：イロブダイ属（歯骨 L）　45：アオブダイ属（歯骨 R）　46：ブダイ属（上咽頭骨 R）　47：イロブダイ属（上咽頭骨 R）　48：アオブダイ属（上咽頭骨 R）　49：ブダイ属（下咽頭骨）　50：イロブダイ属（下咽頭骨）　51：アオブダイ属（下咽頭骨）

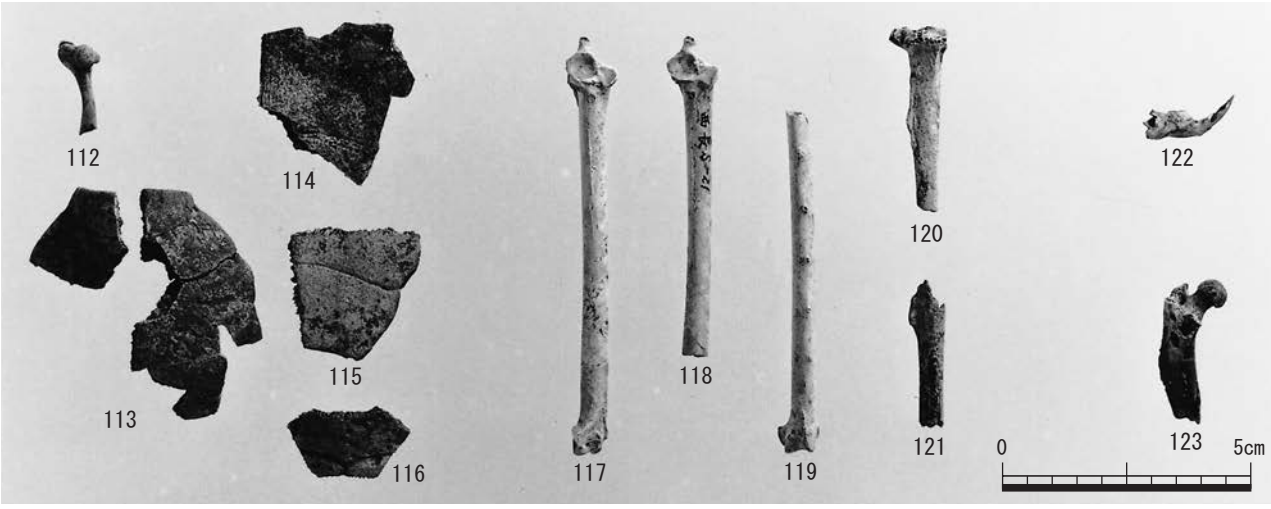




図版７　骨２（魚骨②）

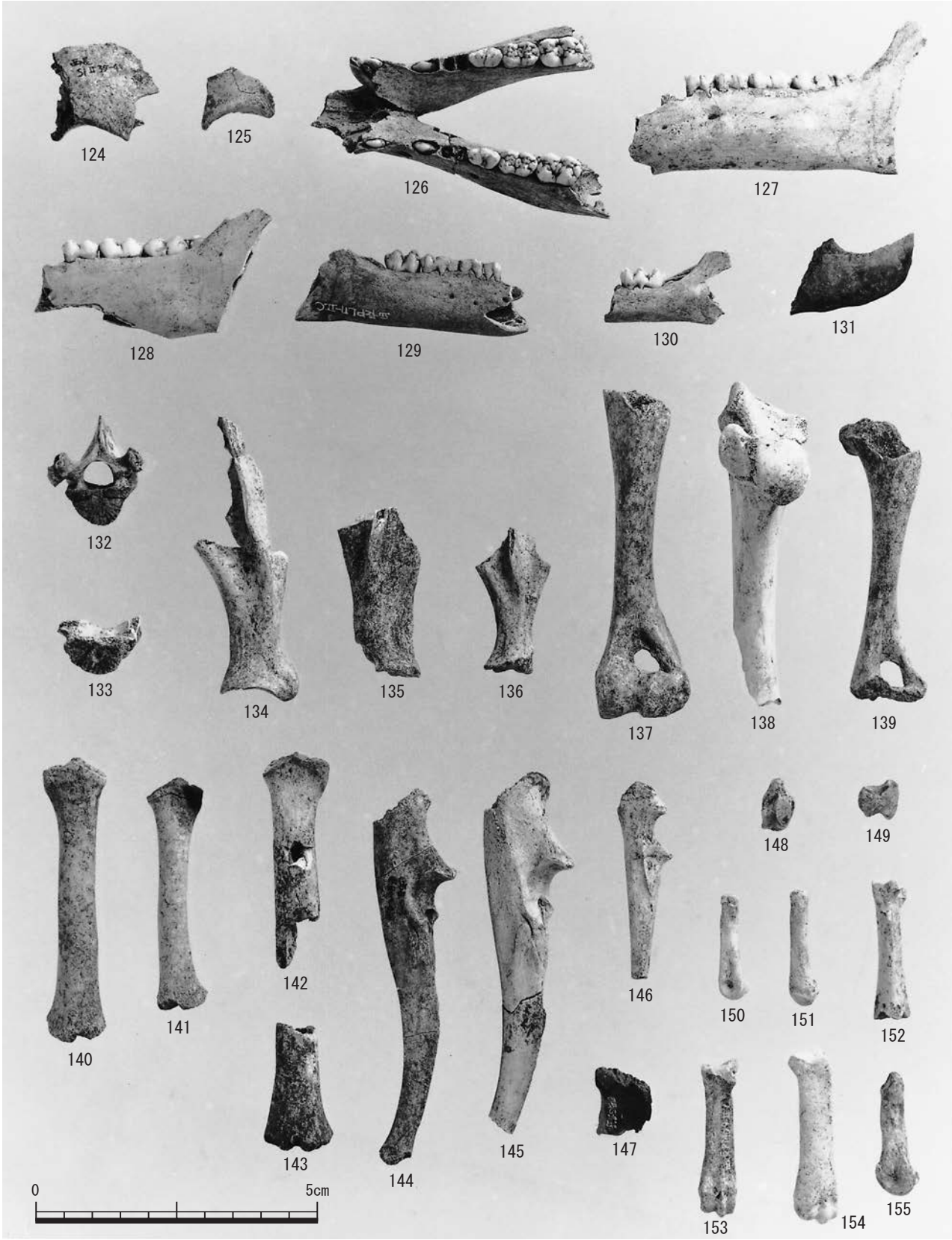
上段　52：ニザダイ科（前上顎骨 R）　53：ニザダイ科（歯骨 R）　54：ニザダイ科（主鰓蓋骨 R）　55：アイゴ属？（擬鎖骨 L）
56：アイゴ属（前上顎骨）　57：アイゴ属（歯骨 L）　58：アイゴ属？（主鰓蓋骨 L）　59：ニザダイ科（擬鎖骨 R）　60：コチ科（前上顎骨 R）
61：コチ科（歯骨 L）　62：ハリセンボン科（前上顎骨）　63：ハリセンボン科（歯骨）　64：ハリセンボン科（棘）
下段　65：エイ目（尾椎）　66・67：ブダイ科（第１椎骨）　68：ウナギ目（腹椎）　69：ウナギ目（尾椎）　70・71：ウツボ科（椎骨）
72：アナゴ科（腹椎）　73：ダツ科（腹椎）　74：ボラ科（腹椎）　75・76：ボラ科（尾椎）　77・78：カマス科（腹椎）
79・80：カマス科（尾椎）　81・82：ハタ科（第１椎骨）　83：アジ科〈B〉ギンガメアジ類（腹椎）　84・85：ベラ科（第１椎骨）
86：スマ（腹椎）　87：スマ（尾椎）　88・89：ニザダイ科〈A〉（腹椎）　90：ニザダイ科〈A〉（尾椎）
91：ニザダイ科〈B〉〈テングハギ類似種〉（腹椎）　92・93：アイゴ属（腹椎）　94：アイゴ属（尾椎）
95・96：オニオコゼ類似種（腹椎）　97・98：フエフキダイ科（第１椎骨）　99：モンガラカワハギ科（背鰭棘）





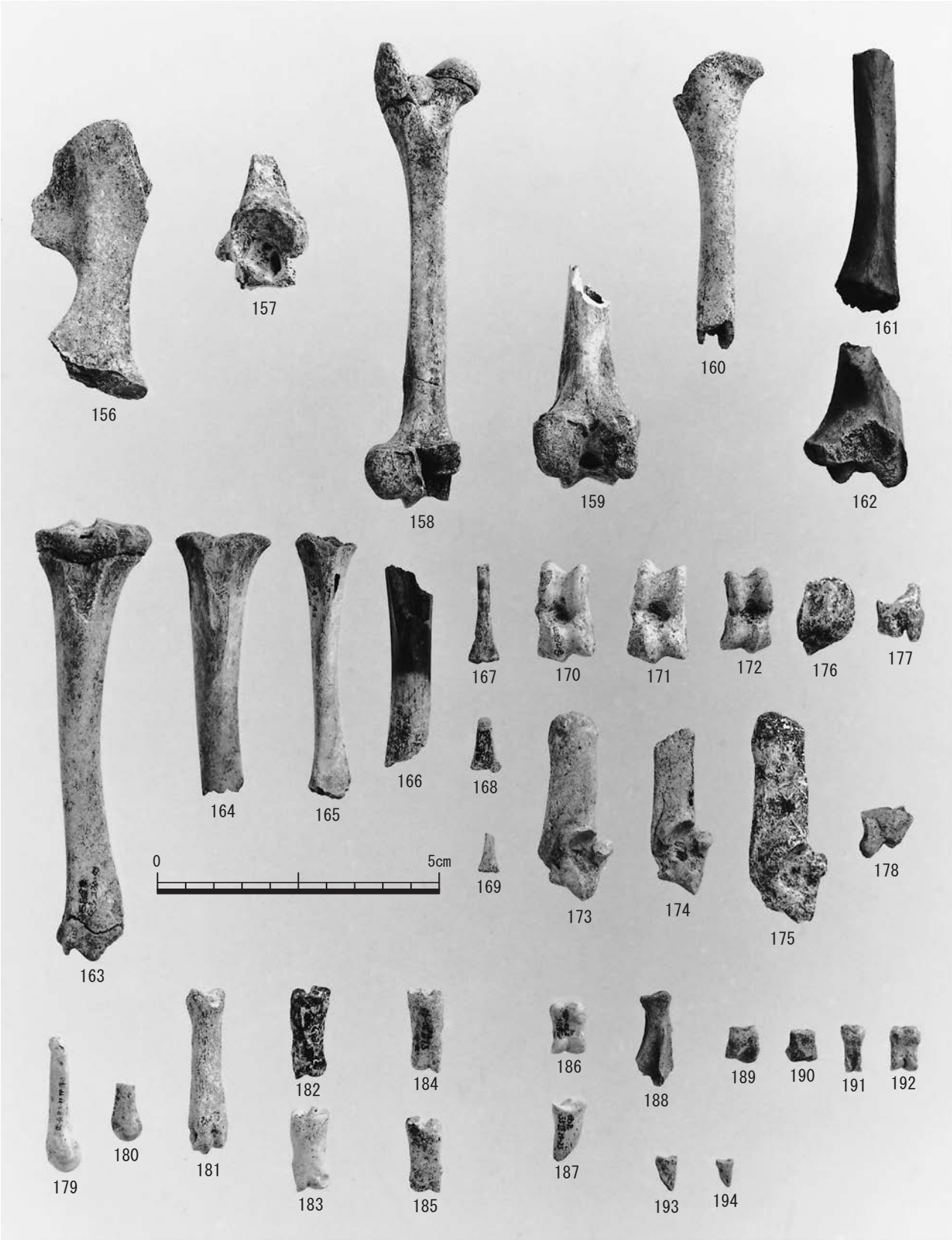
図版８　骨３（ウミガメ類・イルカ類・ジュゴン・リクガメ・トリ類・ネズミ類）

100：ウミガメ類（橈骨 R）　101：ウミガメ類（橈骨 R）　102：ウミガメ類（橈骨 L）　103：ウミガメ類（大腿骨 R）
104：ウミガメ類（指骨）　105ウミガメ類（剣状突起）　106：イルカ（椎骨）　107：イルカ（椎骨）　108：ジュゴン（胸椎）
109：ジュゴン（肋骨）　110：ジュゴン（肋骨）　111：ジュゴン（肋骨）　112：リクガメ（上腕骨 R）　113：リクがメ（上腹板＋中腹板）
114：リクガメ（腹板 R）　115：リクがメ（剣状腹板 L）　116：リクガメ（椎骨板（最後尾））　117：カラス属（尺骨 L）
118：カラス属（尺骨 L）　119カラス属（尺骨 R）　120：トリ類（脛骨 L）　121：トリ類（脛骨 L）122：ネズミ類（下顎骨）
123：ネズミ類（大腿骨 L）



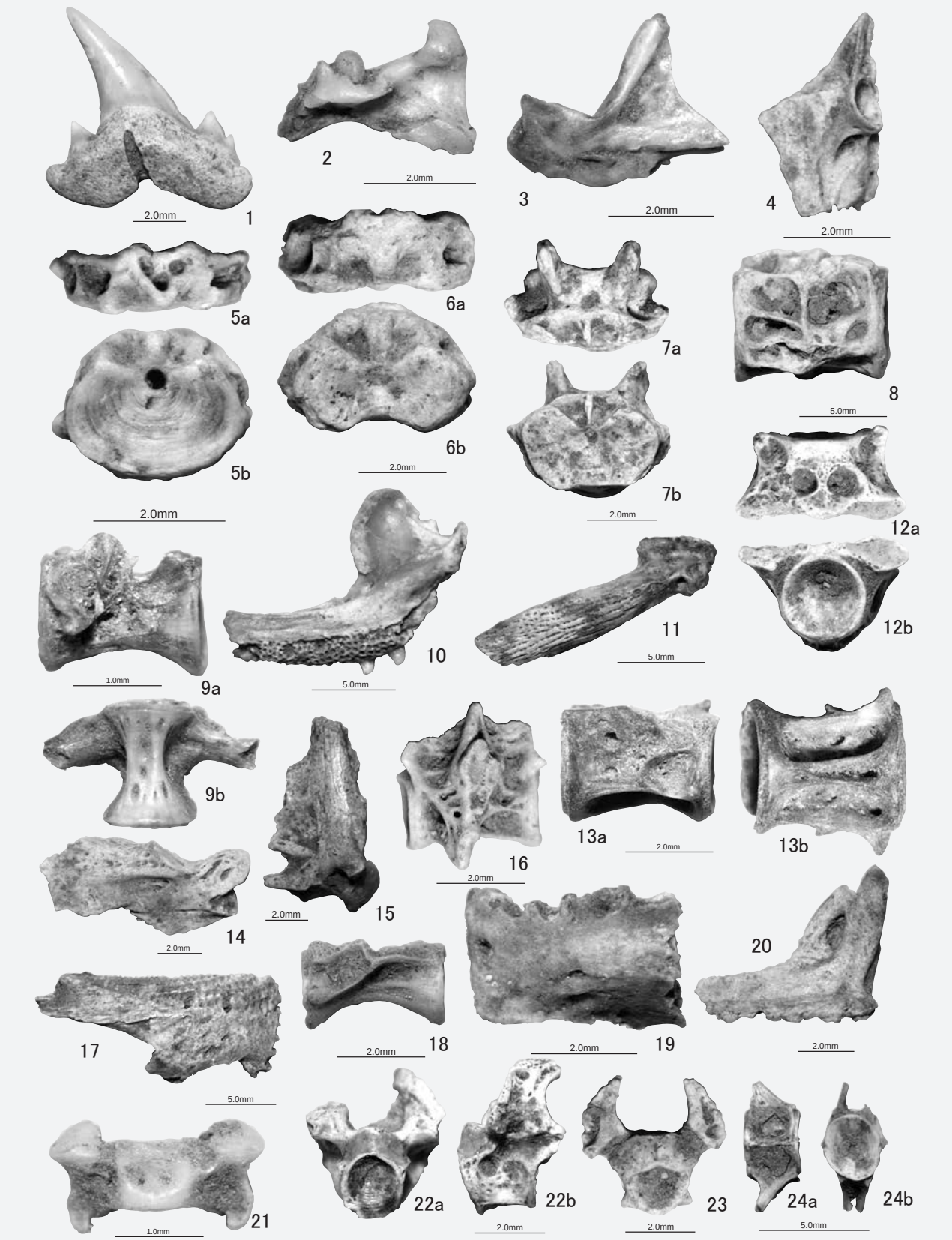
図版９　骨４（イノシシ・イヌ）

124：頭骨・頬骨Ｌ　125：頭骨Ｌ　126：下顎骨（RL）　127：下顎骨Ｌ　128：下顎骨Ｌ　129：下顎骨Ｒ　130：下顎骨Ｌ
131：下顎骨Ｌ〔焼骨〕　132：胸椎　133：腰椎　134：肩甲骨Ｒ　135：肩甲骨Ｌ　136：肩甲骨Ｒ　137：上腕骨Ｌ　138：上腕骨Ｒ
139：上腕骨Ｌ　140：橈骨Ｒ　141：橈骨Ｌ〔一部焼〕　142：橈骨Ｌ　143：橈骨Ｒ　144：尺骨Ｒ　145：尺骨Ｒ　146：イヌ・尺骨Ｒ
147：尺骨Ｒ〔焼骨〕　148：第４手根骨Ｌ　149：橈側手根骨Ｒ　150：第２中手骨Ｌ　151：第２中手骨Ｒ　152：第３中手骨Ｌ
153：第３中手骨Ｒ　154：第４中手骨Ｒ　155：第５中手骨Ｒ



図版10　骨５（イノシシ）

156：寛骨Ｒ　157：寛骨Ｌ　158：大腿骨Ｌ　159：大腿骨Ｒ　160：大腿骨Ｒ　161：大腿骨Ｒ〔焼骨〕　162：大腿骨Ｒ〔焼骨〕　163：脛骨Ｌ
164：脛骨Ｌ　165：脛骨Ｌ　166：脛骨Ｌ〔一部焼〕　167：腓骨Ｌ　168：腓骨Ｌ　169：腓骨Ｌ　170：距骨Ｒ　171：距骨Ｒ　172：距骨Ｌ
173：踵骨Ｌ　174：踵骨Ｌ　175：踵骨Ｌ　176：膝蓋骨Ｒ　177：第４足根骨　178：第４足根骨　179：第２中足骨Ｒ　180：第２中足骨
181：第３中足骨　182：基節骨　183：基節骨　184：基節骨　185：基節骨　186：中節骨　187：末節骨　188：肩甲骨Ｌ
189・190：尺側手根骨Ｒ　191：基節骨　192：中節骨　193：末節骨　194：末節骨　＊186～194は4.4ミリより出土。



図版11　骨６（魚骨③　＊水洗選別試料顕微鏡写真）

１：サメ類B(歯）２～５：サッパ近似種（２：主上顎骨Ｒ ３：角骨Ｒ ４：主鰓蓋骨Ｌ ５a・b：第１椎骨）
６a・b コノシロ近似種（第１椎骨） ７a・b：コノシロ近似種（第２椎骨） ８：ウナギ属（腹椎） ９a・b：トウゴロウイワシ科？（腹椎）
10：イットウダイ科（前上顎骨Ｌ） 11：イットウダイ科（歯骨Ｒ） 12a・b：アジ科Ａ？（第１椎骨） 13a・b：アジ科Ａ（腹椎）
14：クロサギ科（角骨Ｌ） 15：クロサギ科（方骨Ｌ） 16：チョウチョウウオ科（腹椎） 17：ミゾレブダイ（歯骨Ｒ） 18：サバ類（腹椎）
19：サバ類（歯骨Ｌ） 20：ヒメジ科（前上顎骨Ｒ） 21：トラギス科（第１椎骨） 22a・b：アイゴ属（第１椎骨） 23：ニザダイ科（第１椎骨）
24a・b：カレイ目（尾椎）

第３節　西長浜原遺跡の貝類遺体

黒住耐二（千葉県立中央博物館）

はじめに

西長浜原遺跡は、沖縄島北西部、本部半島北岸の今帰仁村の海岸段丘上に位置する沖縄貝塚時代前期末・中期前半を中心とする遺跡である。本遺跡は、それまで中期には魚介類が少ないことが指摘されていたが、同一遺跡内でも場所によってこれらの遺体の多いことが認識された重要なものであった（宮城，1978）。その後、与勝諸島の宮城島で同時期の住居址から比較的多くの魚介類が得られている例（比嘉，1985b;黒住，1989）等が知られるようになってきている。

今回、1977年および2004年度に発掘された貝類遺体を検討する機会を与えていただいた。ここに、その結果を報告し、貝類遺体から見た本貝塚の特徴について述べてみたい。報告に先立ち、サンプルの検討に種々お世話いただいた沖縄県立埋蔵文化財センターの瀬戸哲也氏、集計等でお世話になった喜屋武朋子氏にお礼申し上げる。

方法

本遺跡の貝類遺体は、1977年発掘のＳ地区、１次地区、Ｐ地区と３つに区別された地区と、2004年度の資料からなっていた。得られた貝類遺体は、ほとんどのものがピックアップ法(現場資料)によるものであり、本報告書の魚類遺体で明らかなように、一部では土壌資料のフルイを用いた抽出も行われた可能性もあったが、僅かにＳ地区Ⅱ層の一部のサンプルで、フルイ法由来の可能性があったものの、確認できたサンプルや当時の調査状況からは（宮城，1978参照)、他のフルイ法のサンプルは確認できなかった。そのため、今回は、検討できた貝類遺体を一括して、本遺跡の状況として報告する。

貝類遺体は、種を同定し、確認部位・製品の有無・現生個体の可能性・焼けている個体および成貝・各サイズの幼貝等の成長段階等を記録した。この結果を元に、各発掘単位ごとに最少個体数(MNI)を求めた。ただ、本遺跡の標本は、貝殻が溶解しているものも多く認められ、詳細な種まで同定できなかったものも存在した。食用貝類組成の検討等では、タカラガイ類・イモガイ類・シャコガイ類等で、種までの同定できなかったものも、そのグループごとに、種まで同定できた種の割合にあわせて個体数に組み込んで解析を行った。また、チョウセンサザエとヤコウガイでフタ長径を、サラサバテイラで殻径を、シャコガイ類で殻長を測定した。この時、溶解の進んだものは対象とせず、逆に破損していても推定できるものはサイズを復元し、対象とした。

結果および考察

１．優占種と採集空間

本遺跡からは、海産腹足類（巻貝類)17科54種、淡水産腹足類１科１種、陸産貝類３科３種、海産二枚貝類16科、腕足類１科１種の合計38科88種が確認された。

今回、遺跡全体と出土量の多かったＳ地区のⅡ層下部、１次地区の全体、Ｐ地区の全体で、食用貝類遺体の優占種（第131図）と生息場所類型組成（第132図）を示した。その結果、遺跡全体の優占種では、チョウセンサザエが極めて多く、全体の１／４を占め、サラサバテイラ・クモガイ・ギンタカハマ・アラスジケマン・マガキガイ・シラナミ・シレナシジミが３％以上であった。個体数の多いＰ地区でも、全体の傾向と同様であり、チョウセンサザエ・サラサバテイラ・ギンタカハマの割合がさらに高くなっていた。１次地区では、サラサバテイラ・ギンタカハマの割合が減少し、ハナマルユキ・シャゴウ・アンボンクロザメの割合が増加していた。これらに比べ、Ｓ地区Ⅱ層下部では、チョウセンサザエの割合が１割程度となり、アラスジケマンの方が多く、さらに他では認められなかった小形巻貝のリュウキュウウミニナが６％程度と多かった。他地区との相違は、フルイ資料の含まれている可能性にあるが、アラスジケマン等フルイ資料で個体数が増加しないと考えられる種も多いことから、異なった場所での採集に起因すると考えられる。

食用貝類各種の生息場所を貝類採集場所と考え、採集空間を推定した結果を第132図に示した。遺跡全体では、外洋－サンゴ礁域でクモガイ・マガキガイ・シラナミ等の生息するイノー内（I-2）とチョウセンサザエのすむ干瀬（I-3）が、それぞれ約30％を占め、サラサバテイラのみられる礁斜面（I-4）が約19％、アラスジケマン・シレナシジミの得られる河口干潟－マングローブ域（Ⅲ）が約10％となっており、他の

第22表（1） 西長浜原遺跡貝類遺体出土状況

和名	学名	S地区																						1次地区	
		Ⅰ層・壁面		Ⅱ層上部(0～30cm)		Ⅱ層下部(30～60cm、S－5のみⅡ層30～40・Ⅲ層)														Ⅱ層		合計		Ⅰ層	
						S－1		A集石		S－2		S－3		B集石		S－4		S－5		小計	地点不明				
		N		N		N		N		N		N		N		N		N			N		N	N	
腹足綱(海産)	Gastropoda (Marine)																			0			0		
ヨメガカサガイ科	Nacellidae																			0			0		
オオベッコウガサ	Cellana testudinaria																			0			0		
リュウテン科	Turbinidae																			0			0		
コシダカササエ	Turbo (Mar.) stenogyrum											2	2j(1B)							2			2		
チョウセンササエ	Turbo (Mar.) angyrostomus			6	1a,5u	5	1a,4u	11	3a,8u,1b,1f			5	1a,4u,3f	5	4a,1u			1	1u	27	1	1b	34	1	1f
同(フタ)	(operculum)	1	1u	7	8a(1c,1d),1u	2	2a	4	4a(1d),1uB,1fB			4	2a(1B),2u							10			18	9	7a,3u(1d)
ヤコウガイ	Turbo (Lunatia) marmoratus							1	2f					1	2f			1	1f	3			3		
同(フタ)	(operculum)											1	1f							1			1		
カンギク	Lunella moniliformis											2	1j,1b,1fB							2			2	1	1u
同(フタ)	(operculum)							1	1a											1			1	1	1a
オオウラウズ	Astralium rhodostoma																			0			0		
ニシキウズ科	Trochidae																			0			0		
ニシキウズ	Trochus (s.s.) maculatus			2	2u							1	1f	1	1b,1f					2			4		
ムラサキウズ	Trochus (s.s.) stellatus							1	1a					2	1a,1u 1f					3			3	1	1f(1c)
キンダカハマ	Trochus (Tectus) pyramis			1	1u	3	2a,1u,1f	9	3a,4u,2b,1f			2	2u	2	1u,1b					16			17		
コシダカキンダカハマ	Trochus (Tectus) triserialis							1	1u											1			1		
サラサバテイラ	Trochus (Tectus) conus			2	2u,1f	5	2a,3u	6	6u,1b,3f			2	1a,2f	8	8u			1	1u	22			24	1	1f
アマオブネ科	Neritidae																			0			0		
イシダタミアマオブネ	Nerita (Ritena) helicinoides											2	2u(1B)							2			2		
イガカノコガイ	Clithon brevispira											4	2aB,2uB							4			4		
オニノツノガイ科	Cerithiidae																			0			0		
オニノツノガイ	Cerithium (s.s.) modulosum					1	1b	1	1u											2			2	1	1a
ミツカドカニモリ	Cerithium (s.s.) patulus											1	1uB							1			1		
カサリカニモリ	Rhinoclavis articlatus																			0			0		
ヒメトウガタカニモリ	Rhinoclavis cedonulli																			0			0		
フトヘナタリ科	Potamididae																			0			0		
ヘナタリ	Cerithidea cingulata											3	2a,1b							3			3		
ウミニナ科	Batilariidae																			0			0		
リュウキュウウミニナ	Batillaria flectosiphonata					1	1a(1B)	1	1u			12	6a(5B),5u(1B),1b,22f(18B)							14			14		
イボウミニナ	Batillaria zonata											3	2a,1u							3			3		
スイショウガイ科	Strombidae																			0			0		
マガキガイ	Strombus (Con.) luhuanus			2	2u			3	3u					3	2a,1u					6			8	3	1ac,3u
ラクダガイ	Lambis truncata sebae																			0			0		
クモガイ	Lambis lambis	1	1ol	4	2u,2il,2ol,1f	3	1u,2ol,1fB	7	1a,4u(1B),4il,6ol,1fB	1	1ol	3	1u,2ol,2f(1d,1B)	6	1a,1u,4ol,2il			1	1f,1u	21			26	1	1il(1e),4f(1d)
スイジガイ	Harpago chiragra							1	1il,2f											1			1	1	1f
タカラガイ科	Cypraeidae																			0			0		
キイロダカラ	Cypraea (Mon.) moneta																			0			0		
ハナビラダカラ	Cypraea (Mon.) annulus																			0			0		
ハナマルユキ	C. (Rav.) caputserupentis			1	1ac,2ol(1e)			3	1aB,2il,1ol											3			4	3	3a(2dl,1c),1ol,2il(1c,1d)
ホシキヌタ	Cypraea (Mys.) vitellus			1	1ol															0			1		
ヤクシマダカラ	Cypraea (Arabica) arabica			1	1ol									1	1il,1ol					1			2	2	3il(1e),1ol
ホシダカラ	Cypraea (s.s.) tigris	1	1f	1	1u	1	1il	1	1il,1ol,1f											2			4		
タカラガイ科の一種	Cypraeidae sp.					1	1ol	1	1ol											2			2	1	1f
タマガイ科	Naticidae																			0			0		
トミガイ	Polinices tumidus																			0			0		
ヘソアキトミガイ	Polinices vavaosi																			0			0		
オキニシ科	Bursidae																			0			0		
オキニシ	Bursa bufonis dunkeri																			0			0	1	1a
シワクチナルトボラ	Tutufa rebeta																			0			0		
フジツガイ科	Ranellidae																			0			0		
フジツガイ	Cymatium lotorium																			0			0		
ホラガイ	Charonia tritonis													1	1f					1			1		
アッキガイ科	Muricidae																			0			0		
ツノテツレイシガイ?	Mancinella hippocastaqnus?																			0			0		
ツノレイシ	Mancinella tuberosa																			0			0		1ue
シラクモガイ	Thais (Stram) armigera			1	1b			1	1u					1	1f					2			3	1	1f
オニコブシガイ科	Vasidea																			0			0		
オニコブシ	Vasum ceramicum																			0			0		
コオニコブシ	Vasum turbinellum							1	1b			1	1b							2			2	2	1a,1u
フトコロガイ科	Columbellidea																			0			0		
フトコロガイ	Euplica vesicolor											1	1a							1			1		
イトマキボラ科	Fasciolariidae																			0			0		
イトマキボラ	Pleuroploca trapezium											1	1f							1			1		
ナガイトマキボラ	Pleuroploca filamentosa																			0			0		
イトマキボラ科の一種	Fasciolariidae sp.																			0			0		
イモガイ科	Conidae																			0			0		
マダライモ	Conus (Virro.) ebraeus																			0			0		
小形イモガイ	Conus spp. (small size)											1	1uB							1			1		1ue
キヌカツギイモ	Conus (Virgiconus) flavidus																			0			0		1bc
イボシマイモ	Conus (Virgiconus) lividus													1	1u					1			1		
ヤナギシボリイモ	Conus (Rhizoconus) miles				1uc															0			0		
サラサナミシ	Conus (Rhizo.) capitaneus																			0			0		
カバミナシ	Conus (Rhizo.) vexillum																			0			0		
クロミナシ	Conus (s.s.) marmoreus																			0			0		

和　名	1次地区											P地区									地区不明		16年度 No.2 トレンチ				総計	生息場所類型
	Ⅱ層上部(0～30cm)				Ⅱ層下部(30～		Ⅲ層(遺構埋土)		不明		合計	Ⅱ層		Ⅲ層(遺構埋土)		Ⅳ層・落ちこみ		P地区Ⅲ・Ⅳ層(遺構名は特定できず)		合計			3層(Ⅱ層上部)		4層(Ⅱ層下部)			
	北半(メ～ヤ以		南半(メ～ヤ)		南半(メ～ヤ)																							
	N		N		N		N		N		N	N		N		N		N		N	N		N		N		N	
腹足綱(海産)											0					0												
ヨメガカサガイ科											0					0												
オオベッコウガサ											0					1	1fA?	1	1f	2							2	I-0-a
リュウテン科											0					0												
コシダカサザエ											0									0							2	I-2-a
チョウセンサザエ			1	1u			2	1a,1u	1	1u	5			1	2f	1	1a	173	150a(1d),23u,21b(1B),38f	175	2	1a,1b			3	1a,2u,6f	219	I-3-a
同(フタ)			17	15a(1c,1d),1u	3	2a,1u	2	2a,1fB	1	1a	32			12	10a(4B),2u(1B)			58	58a(4B)	70	2	2a,5f(4B)	2	2a	35	35a,2f	<163>	
ヤコウガイ			1	1u,1f			1	1fj			2							2	2uj,3f	2							<7>	I-4-a
同(フタ)			1	1u	1	1u					2	2	1aA,1u					12	12a(1d,3A),6f(1d)	14							17	
カンギク											1									0							3	II-1-b
同(フタ)			1	2a(1e)			1	1a			3									0							4	
オオウラウズ									1	1b	1							2	2a	2							3	I-2-a
ニシキウズ科											0					0												
ニシキウズ											0							16	5a,4u,7b	16	1	1u					21	I-2-a
ムラサキウズ											1							3	1a,2b	3							7	I-3-a
キンダカハマ			1	2f			1	1a			2							49	18a,31u,24b(1B),8f	49	2	1a,1u					70	I-4-a
コシダカキンダカハマ											0									0							1	I-4-a
サラサバテイラ			1	1u							2			1	1f			63	15a,48u,7b,33f	64	6	5u,1b			1	1b,9f	97	I-4-a
アマオブネ科											0					0												
イシダタミアマオブネ											0									0							2	I-0-a
イガカノコガイ											0									0							4	III-1-d
オニノツノガイ科											0					0												
オニノツノガイ	1	1u	1	1f							3							12	4a,8u	12					1	1f	18	I-2-c
ミツカドカニモリ											0									0							1	III-1-a
カザリカニモリ	1	1a									1									0							1	I-2-c
ヒメトウガタカニモリ	1	1a									1									0							1	I-2-c
フトヘナタリ科											0					0												
ヘナタリ											0									0							3	III-1-c
ウミニナ科											0					0												
リュウキュウウミニナ											0									0	1	1b					15	II-1-b
イボウミニナ											0									0							3	III-1-c
スイショウガイ科											0					0												
マガキガイ			5	2ac,9u(1c,3e)							8							29	25a,4u	29	1	1u	1	1u	2	2u(1d),1b	49	I-2-c
ラクダガイ											0							1	1j	1							1	I-4-c
クモガイ			2	2ol,2f(1e)					1	1f(1B)	4			1	1fB	4	1a,2u,3ol,2fe	32	9a(1d),16u,26ol(1e,1d),8f	37	4	4ol	1	1f	1	1ol,8f	73	I-2-c
スイジガイ											1					2	1a,1f	2	2u,1il,2ol	4					1	1j	7	I-2-c
タカラガイ科											0					0												
キイロダカラ											0							1	1a	1							1	I-1-a
ハナビラダカラ			1	1a							1									0							1	I-1-a
ハナマルユキ			1	2ac,1il,1ol,1fd			1	1a			5			2	3ol(1e),1f			4	1a,3u	6							15	I-3-a
ホシキヌタ											0									0			1	1dl			2	I-2-a
ヤクシマダカラ			1	1il,1f							3			1	1il			4	1il,4ol	5			1	1ol	1	1ol	12	I-2-a
ホシダカラ											0					4			1a(dl),1u,3il,2ol	4							8	I-2-c
タカラガイ科の一種			1	1f							2									0			2	2ol	1	1ol,2f	7	I
タマガイ科											0					0												
トミガイ											0							1	1a	1							1	I-2-c
ヘソアキトミガイ			1	1a							1									0							1	I-2-c
オキニシ科											0					0												
オキニシ											1									0							1	I-3-a
シワクチナルトボラ											0							1	1a	1							1	I-4-a
フジツガイ科											0					0												
フジツガイ											0							1	1b	1							1	I-4-a
ホラガイ											0							5	2a,3u,1f	5							6	I-4-a
アッキガイ科											0					0												
ツノテツレイシガイ?			1	1f							1									0							1	I-1-a
ツノレイシ				1fc							0									0							0	
シラクモガイ			1	1b							2							5	5a	5							10	I-3-a
オニコブシガイ科											0					0												
オニコブシ											0							1	1a	1							1	I-3-a
コオニコブシ			1	1f							3							3	2a,1f	3			1	1f			9	I-2-a
フトコロガイ科											0					0												
フトコロガイ											0									0							1	II-2-d
イトマキボラ科											0					0												
イトマキボラ											0							3	3a	3							4	I-2-a
ナガイトマキボラ											0							1	1a	1							1	I-2-a
イトマキボラ科の一種											0			1	2f					1							1	I
イモガイ科											0					0												
マダライモ											0							2	2a	2							2	I-1-a
小形イモガイ			1	1u							1									0							2	I
キヌカツギイモ				1uc							0									0							0	I-2-a
イボシマイモ											0									0							1	I-2-a
ヤナギシボリイモ											0									0							0	I-3-a
サラサナミシ											0							4	1a,2u,1b	4							4	I-2-a
カバミナシ			1	1u							1							1	1a	1							2	I-4-a
クロミナシ											0							1	1a	1							1	II-2-c

第22表（2） 西長浜原遺跡貝類遺体出土状況

和名	学名	S地区																						1次地区	
		Ⅰ層・壁面		Ⅱ層上部(0～30cm)		Ⅱ層下部(30～60cm、S－5のみⅡ層30～40・Ⅲ層)														Ⅱ層 地点不明		合計		Ⅰ層	
						S－1		A集石		S－2		S－3		B集石		S－4		S－5		小計					
		N		N		N		N		N		N		N		N		N			N		N	N	
アジロイモ	Conus (Dario.) pennaceus																			0			0		1ac
中形イモガイ	Conus spp. (middium size)							1	1u(1A?)											1			1	4	1a,6u(3e)
アンボンクロザメ	Conus (Litho.) litteratus			1	1b			1	1u											1			2	1	1u
クロフモドキ	Conus (Litho.) leopardas																			0			0		
大形イモガイ	Conus spp. (large size)							1	1u,1b											1			1		
イモガイ科(同定不能)	Conus spp.							1	1b,1f			23	1ju,22b(3B)							24			24		
海産腹足類不明	unknown (marine gastorpods)											1	23f							1			1		
																				0			0		
腹足綱(淡水産)	**Gastropoda(Fresh water)**																								
カワニナ科	Pleuroceridae																			0			0		
カワニナ	Semisulcospira libertina											1	1b							1			1		
																				0			0		
腹足綱(陸産)	**Gastropoda(Terrestrial)**																			0			0		
ヤマタニシ科	Cyclophoridae																			0			0		
オキナワヤマタニシ	Cyclophorus turgidus						1b		1f				1u		2a,1u					0			0		
ナンバンマイマイ科	Camaenidae																								
シュリマイマイ	Satsuma (s.s.) m.				1ac				1a,1f				1f		3b					0			0		
オナジマイマイ科	Bradybaenidae																			0			0		
パンダナマイマイ	Bradybaena circulus																			0			0		
二枚貝綱(海産)	**Bivalvia (Marine)**																			0			0		
フネガイ科	Arcidae																			0			0		
リュウキュウサルボウ	Anadara antiquata			1	0/1f	1	0/1B	1	1f/1f	1	0/1f							1	1f	4			5		
タマキガイ科	Glycymerididae																			0			0		
ソメワケグリ	Glycymeris reevei																			0			0		
イガイ科	Mytilidae																			0			0		
リュウキュウヒバリ	Modiolus auriculatus																			0			0	1	0/1f
ウグイスガイ科	Pteriidae																			0			0		
クロチョウガイ	Pinctada margaritifera			1	0/1f(1A?)															0			1		
イタヤガイ科	Pectinidae																			0			0		
イタヤガイ科の一種	Pectinidae sp.																			0			0		
ヒオウギ類	Mimachlamys sp.																			0			0		
ウミギク科	Spondylidae																			0			0		
メンガイ類	Spondylus sp. cf. squamosus							1	1u/0					1	0/1f					2			2		
ベッコウガキ科	Picnodonteidae																			0			0		
シャコガキ	Hyotissa hyotis																			0			0	1	0/1f
イタボガキ科	Ostreidae																								
ニセマガキ?	Saccostrea echinata?	1	0/1u					1	0/2f			1	1u/1uj,1fB	1	0/1f					3			4		
イタボガキ科の一種	Ostreidae sp.													1	0/1u					1			1		
キクザル科	Chamidae																			0			0		
シロザルガイ?	Chama brassica?																			0			0		
キクザル科の一種	Chama sp.																			0			0	1	0/1f
ザルガイ科	Cardiidae																			0			0		
カワラガイ	Fragum unedo											1	1u/0							1			1		
オオヒシガイ	Fragum fragum																			0			0		
シャコガイ科	Tridacnidae																			0			0		
シラナミ	Tridacna maxima			1	1u/0	1	1u/2f	1	0/1uB,2f(1B)			1	1f/2f	2	1f/2a,4f			1	0/1f	6			7	1	0/2u(1c),11f
ヒレジャコ	Tridacna squamosa			1	0/1u,1f			1	1u/1u,4f					1	0/1f			1	0/1u	3			4	1	0/2f
ヒメジャコ	Tridacina crocea																			0			0	1	0/1u(1c),2f
シャゴウ	Hippopus hippopus			1	0/2f				0/1fd									1	0/1f	1			2	1	0/1u,4f
シャコガイ類	Tridacna spp.			1	0/1u,1f	1	0/3f	2	2u/2f(1B)			1	2f(1B)	1	0/6f(1B)			1	0/3f	6			7	1	1ud/46f(2c,1B)
イソハマグリ科	Mesodesmatidea																								
イソハマグリ	Atactodea striata																			0			0	0	1ae/1ac
イソシジミ科	Psammobiidae																			0			0		
リュウキュウマスオ	Asaphis violacens											1	1u/0							1			1		
マスオガイ	Psammotaea elongata																	1	0/1u	1			1		
シジミ科	Corbiculidae																			0			0		
シレナシジミ	Geloina erosa					3	3u/1u	3	3u(1B)/1f	1	1u/1u	1	1u/1u	2	1a,1u/1uB			1	0/1f	11			11	1	0/1f
ニッコウガイ科	Tellinidae																			0			0		
サメザラガイ	Scutarcopagia scobinata																			0			0		
マルスダレガイ科	Veneridae																			0			0		
ヌノメガイ	Periglypta puerpera							1	0/1f											1			1	1	0/1f
ホソスジイナミ	Gafrarium pectinatum																			0			0		
アラスジケマン	Gafrarium tumidum	1	0/1u	3	1a,2u/2u	6	4u/1a,5u	7	1a,6u/3u			9	2a,7u/2u	5	3u/1a,4u					27			31	1	1u/0
オキシジミ	Cyclina sinensis					1	1uB/0					2	2u(1B)/2u	1	1u/1f					4			4		
アツシラオ	Circe intermedia																			0			0		
スダレハマグリ	Katelysia japonica											1	1f							1			1		
マルスダレガイ科の一種	Veneridae sp.							1	0/1u											1			1		
二枚貝類不明	unknown (marine bivalves)							1	3fB			1	2fB							2			2		
腕足類不明	Brachiopoda sp.																			0			0		
合計		5		39		35		78		3		95		47		0		11		269	1		314	46	

A:製品, a:成貝, B:焼け, b:体層, c:後代のもの, d:死殻, dL:背面欠, e:磨滅, f:破片, il:内唇, j:幼貝, ol:外唇, u:殻頂,二枚貝は左殻/右殻.
Nは食用貝類の最少個体数.

和　名	1 次 地 区											P 地 区									地区不明		16 年 度 No. 2 トレンチ				総計	生息場所類型
	Ⅱ層上部(0～30cm)				Ⅱ層下部(30～		Ⅲ層(遺構埋土)		不明		合計	Ⅱ層		Ⅲ層(遺構埋土)		Ⅳ層・落ちこみ		P地区Ⅲ・Ⅳ層(遺構名は特定できず)		合計			3層(Ⅱ層上部)		4層(Ⅱ層下部)			
	北半(メ～ヤ以		南半(メ～ヤ)		南半(メ～ヤ)																							
	N		N		N		N		N		N	N		N		N		N		N	N		N		N		N	
ｱｼﾞﾛｲﾓ											0									0							0	II-2-c
中形ｲﾓｶﾞｲ			2	1a,1ue,1b				1ue			6							1	1a	1							8	
ｱﾝﾎﾟﾝｸﾛｻﾞﾒ			1	1u,1f							2							5	2a,3u,2b,1f	5					1	1u	10	I-2-c
ｸﾛﾌﾈﾓﾄﾞｷ											0			1	1b,1f			5	1ac,2u,4b(1e)	6							6	I-2-c
大形ｲﾓｶﾞｲ											0							4	4b	4							5	I
ｲﾓｶﾞｲ科(同定不能)			1	1A?							1							1	1u	1					3	3u,1f	29	I
海産腹足類不明							1	1			1			1	1f					1							3	
											0									0								
腹足綱(淡水産)																												
カワニナ科											0					0												
ｶﾜﾆﾅ											0									0							1	IV-5.6
											0									0								
腹足綱(陸産)											0					0												
ヤマタニシ科											0					0												
オキナワヤマタニシ										1b	0								2a,1f	0		1a					0	V-8
ﾅﾝﾊﾞﾝﾏｲﾏｲ科																												
ｼｭﾘﾏｲﾏｲ								1ac			0									0		1f					0	V-8
オナジマイマイ科											0					0											0	
ﾊﾟﾝﾀﾞﾅﾏｲﾏｲ		1a		1ac,1jc,1bc							0									0		1a					0	V-8.9
二枚貝綱(海産)											0					0												
フネガイ科											0					0												
ﾘｭｳｷｭｳｻﾙﾎﾞｳ			1	0/2f							1					1	1a(1A)	7	6a(1A),2u,1f/2a,1u,2f	8					1	1a,1f/0	15	II-2-c
タマキガイ科											0					0												
ｿﾒﾜｹｸﾞﾘ											0							2	2a/0	2							2	II-2-c
イガイ科											0					0												
ﾘｭｳｷｭｳﾋﾊﾞﾘ											1									0							1	I-1-a
ｳｸﾞｲｽｶﾞｲ科											0					0												
ｸﾛﾁｮｳｶﾞｲ											0							1	1u(1B)/0	1							2	I-4-a
イタヤガイ科											0					0												
イタヤガイ科の一種											0								0/1f	0		1f					0	VI-12
ﾋｵｳｷﾞ類			1	1u/0							1									0							1	I-4-a
ウミギク科											0					0												
ﾒﾝｶﾞｲ類											0			1	1f			3	2a/3a,2f(1A?)	4							6	I-2-a
ﾍﾞｯｺｳｶﾞｷ科											0					0												
ｼｬｺｶﾞｷ			1	0/1fB			1	0/9f(7B)			3							1	1uB/0,14f(5B)	1					1	0/2f	5	I-2-c
イタボガキ科																												
ﾆｾﾏｶﾞｷ?											0							6	6a/4f	6	2	2uB/0			1	1a/0	13	II-1-a
イタボガキ科の一種							1	0/8f(2B)			1					0											2	
キクザル科											0					0												
ｼﾛｻﾞﾙｶﾞｲ?											0							1	1u/0	1							1	I-2-a
キクザル科の一種											1									0							1	I-2-a
ザルガイ科											0					0												
カワラガイ											0							2	0/2u	2							3	II-2-c
オオヒシガイ				1uc/0							0									0							0	I-2-c
シャコガイ科			1	0/3f							1									0							1	
シラナミ			1	1uce/1u,2f			1	1f/0			3							15	5a,5u,6f/7a,8u,16f	15			2	2f/2u(1d)	4	2j,2u,3f/1a,3j(1e),1u,1f	31	I-2-a
ﾋﾚｼﾞｬｺ			1	1u/1f			1	0/1f			3			1	1ue/0			8	4u,2f/1a,7u,38f(4B)	9			1	1j/0	1	0/6f	18	I-2-c
ﾋﾒｼﾞｬｺ			1	1u/0							2									0							2	I-2-a
ｼｬｺｳ			1	0/2f	1	1u/1f					3							2	1a/1a,1u,6f	2	1	0/1f	1	0/3f	1	0/4f	10	I-2-c
ｼｬｺｶﾞｲ類			1	0/3f	1	0/1f					3			1	8f(1d)			1	52f	2			1	0/7f	1	0/23f	14	I
イソハマグリ科																												
ｲｿﾊﾏｸﾞﾘ											0									0							0	I-1-c
イソシジミ科											0					0												
ﾘｭｳｷｭｳﾏｽｵ											0							4	4a/4a	4							5	II-1-c
ﾏｽｵｶﾞｲ											0							1	1u/0	1							2	II-2-c
シジミ科											0					0												
シレナシジミ			1	1u/0			1	0/1f			3			1	0/1u,2f			21	5a,13u(1B)/5a,16u,3f	22							36	III-0-c
ﾆｯｺｳｶﾞｲ科											0					0												
ｻﾒｻﾞﾗｶﾞｲ											0							1	1f/0	1							1	I-2-c
マルスダレガイ科											0					0												
ﾇﾉﾒｶﾞｲ			1	1u/0							2							2	0/2u,1f	2							5	II-2-c
ﾎﾝｽｼﾞｲﾅﾐ											0							1	1a/0	1							1	II-1-c
ｱﾗｽｼﾞｹﾏﾝ			1	1u/1u	1	1u/0			1	1u/0	4			1	3f			26	13a,13u,3f/10a,11u,3f	27							62	III-1-c
オキシジミ											0									0							4	III-1-c
ｱﾂｼﾗｵ											0							5	3a,2u/1a	5							5	II-2-c
ｽﾀﾞﾚﾊﾏｸﾞﾘ											0							1	0/1a	1							2	II-1-c
ﾏﾙｽﾀﾞﾚｶﾞｲ科の一種											0					0											1	
二枚貝類不明											0			1	4f					1	1	56f(41B)					4	
腕足類不明											0									0		1f					0	VI-12
合計	3		57		7		14		5		132	2		27		9		624		662	23		14		60		1039	

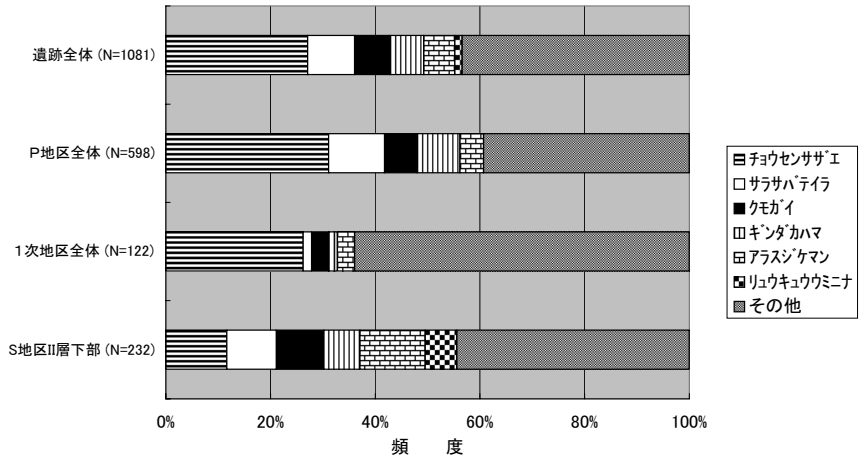
生息場所類型　I:外洋－サンゴ礁域　IV:淡水域　0:潮間帯上部(Iではﾉｯﾁ, IIIではﾏﾝｸﾞﾛｰﾌﾞ)　5:止水　8:林内・林縁部　11:打ち上げ物　b:転石
II:内湾－転石域　V:陸域　1:潮間帯中・下部　3:干瀬(Iにのみ適用)　6:流水　9:林縁部　12:化石　c:砂/泥
III:河口干潟-ﾏﾝｸﾞﾛｰﾌﾞ域 VI:その他　2:亜潮間帯上縁部(Iではｲﾉｰ)　4:礁斜面及びその下部　7:林内　10:海浜部　a:岩礁　d:礫底

類型は僅かであった。個体数の多かったＰ地区も同様な傾向を示すが、礁斜面の割合が高くなり、河口干潟の割合が低くなっていた。１次地区では、イノー内が40％を超え、干瀬も35％と高かったが、他の類型は少なかった。Ｓ地区では、優占種でもアラスジケマンの多い河口干潟が23％、内湾－転石域（Ⅱ）も12％と多くなり、礁斜面・干瀬の割合が他より低くなっていた。全体として、サンゴ礁域のものが多い傾向にあり、一部の地区で内湾側での採集が多かったことがわかる。

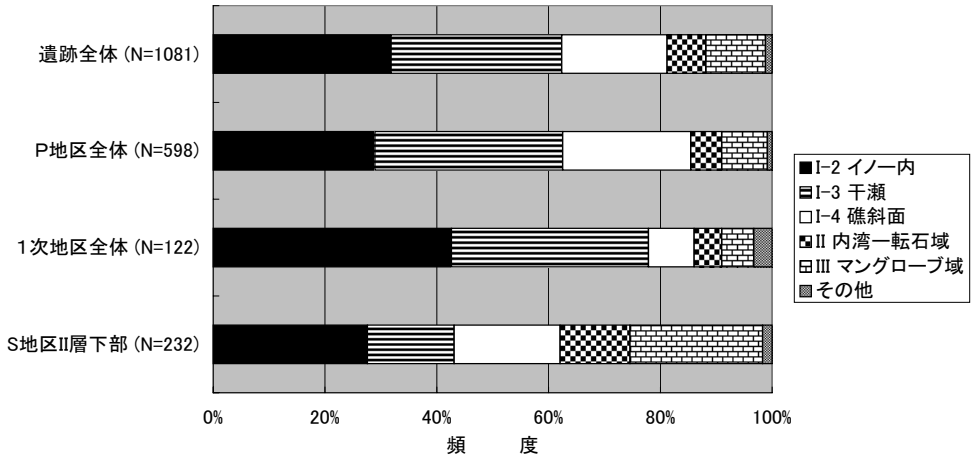
２．遺跡内での投棄場所の偏在

本遺跡では、「従来、中期の遺跡では貝殻や獣魚骨などの自然遺物が少なく、また、これらの遺物がほとんどない遺跡もあると報告されている。本遺跡の場合も遺跡の南側の遺構では、ほとんど自然遺物の出土しない状況であったが、北側（海寄り）の遺構では、また遺構内の埋土を洗浄したところ細かい多量の魚骨も検出された」（宮城，1978）という貝類遺体にとって重要な状況が報告されている。多少不確実なところもあるが、この記述での「南側の遺構」は１次地区の南半を指し、「北側の遺構」がＳ地区及び１次地区の北半であると考えられる。

第22表に示したとおり、１次地区の貝類遺体の最少個体数は、Ｐ地区の１／５程度であり、調査面積あたりに換算すると、その差はさらに大きくなる。また、よりＰ地区に近いＳ地区では、約50㎡の小面積の調査にかかわらず、１次地区の倍以上の貝類が出土している。上記のように、優占種（第131図）と生息場所類型（第132図）とも、両地区でほとんど同じであった。両地区で出土個体数に大きな相違はあるが、その優各地区で貝類遺体の出土層序や遺構に関しては、別途述べられており（瀬戸、本報告書第４章第２節）、また、時期ごとの投棄空間の推定も行なわれている（瀬戸、本報告書第６章）。詳細な検討は後日の課題として、ここでは、本遺跡内での貝類遺体出土量の偏在は投棄場所の違いだと考えたい。同時期の遺跡でも、その後の調査で住居址ごとに出土量に大きな差のある例も知られるようになってきたことも（黒住，1988,



第131図　貝類遺体の優占種

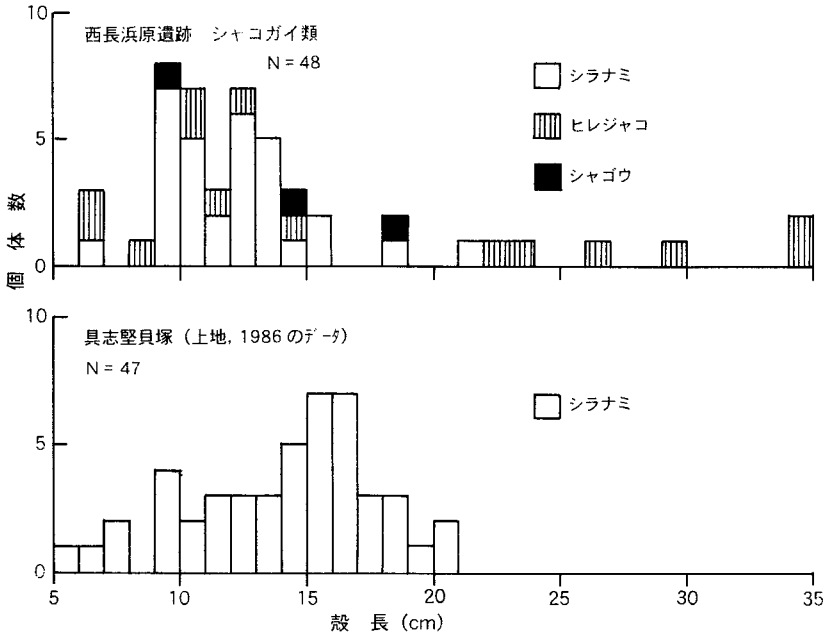


第132図　貝類遺体の生息場所類型組成

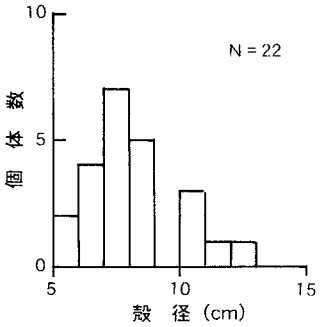
1989a)、この時期の貝類遺体の少なさは投棄場所の違いに由来することを示唆しよう。ただ、同時期でも、シヌグ堂遺跡のように、海産貝類の出土量がかなり少なく、遺跡内で出土量に大きな相違が認められない例（島袋，1985）も存在する。そのため、貝塚時代中期における貝類遺体の少なさは、投棄場所の偏在だけで説明できない可能性もあろう。

3．サイズ組成

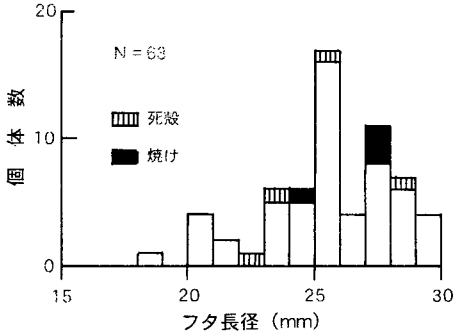
次にいくつかの種のサイズ組成を示し、他遺跡等との比較を行ってみたい。イノー内の優占種の一つであるシャコガイ類のシラナミは、およそ5-20cmのサイズのものが得られており、特に10-15cmのものがほとんどであった（第133図上）。本遺跡と同じ本部半島北岸に位置する貝塚時代後期の具志堅貝塚のシラナミ（上地，1986のデータ）と比較すると（第133図下）、多少西長浜原のものの方が小形であった。しかし、貝塚時代後期のシラナミの殻長組成では、西長浜原と同様な10-15cmにモードを示す遺跡がほとんどであることが知られている（黒住，2002）。西長浜原のシャコガイ類のうち、ヒレジャコは少ない個体数ながら5-35cmまで様々なサイズのものが得られており、シャゴウはかなり少なく10-20cm程度のものが得られていた。この両種でも、およその傾向は貝塚時代後期と同じであり、グスク時代のものとは異なっていた（黒住，2002参照）。干瀬での優占種のチョウセンサザエでは、フタのサイズが18-30mmの範囲で、25mm程度にピークを持っていた（第134図）。このサイズは、琉球列島における様々な時代の多くの遺跡でのサイズと同じような傾向にあった（例えば高嶺遺跡［黒住，1989a］；宇佐浜Ｂ貝塚［黒住，1989b］等）。礁斜面の優占種であるサラサバテイラの殻径組成は（第135図）、８cm程度にピークを持ち、10cm以上の大形個体もかなり含まれていた。この大形個体の多いことは、貝塚時代後期の遺跡でも、それ程は多くない（黒住，2002）。同じく礁斜面のヤコウガイのフタサイズでは、40mm未満の小形個体も認められたが、70mm付近にピークを持つ（第136図）。本種のフタサイズでは、貝塚時代後期の宇佐浜Ｂ貝塚（黒住，1989b）と奄美大島の



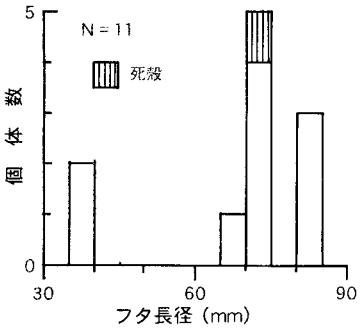
第133図　西長浜原遺跡と具志堅貝塚のシャコガイ群の殻長組成



第135図
サラサバティラの殻径組成



第134図　チョウセンサザエのフタ長径組成



第136図　ヤコウガイのフタ長径組成

６－８世紀のマツノト遺跡（木下， 2006）ともに、小形のフタも得られているが、大形のフタのピークはおよそ80㎜付近にあり、西長浜原遺跡の本種は多少小形であったと言えそうである。

黒住（2002）でも考察したが、これらの食用貝類の組成といくつかの種のサイズ組成から、遺跡形成時のサンゴ礁環境を推定すると、現在の主に地理学から検証されているサンゴ礁の発達史（茅根・米倉，1990等）とは異なり、貝類遺体から見る限り現在と同じようなサンゴ礁が形成されていたと考えられる。

４．ダシ的利用遺体のシフト

本遺跡の特徴として、チョウセンサザエ・サラサバテイラ・クモガイ・シラナミ等のサンゴ礁域の中・大形貝類が多かったことが挙げられよう。逆に、アマオブネ類やイソハマグリ等の岸側潮間帯に生息する小形貝類がほとんど得られなかった。これらの種は小形であることから溶解した可能性も残るものの、Ｓ地区では小形種のウミニナ類も比較的多く確認されていること（第131図）や、宮城（1978）の報告では水洗選別により多量の魚類遺体を抽出しながら小形貝類遺体に関しては何も触れられていないことも、本遺跡では潮間帯の小形種の採集は盛んでなかったものと考えられる。この岸側潮間帯の小形種は、「ダシ的」（ダシを主目的に、軟体部＝も食用にしたと考えている）に利用された可能性が想定されている（黒住， 2002）。この想定が正しければ、本遺跡で小形種が少なかったことは、特徴的なことだと考えられる。沖縄諸島の同時期の遺跡では、知場塚原遺跡（黒住， 1988）や高嶺遺跡（黒住， 1989a）において小形貝類はイソハマグリが得られているものの、やはり小形種は少ない。ただ、ほぼ同時期の沖永良部島住吉貝塚では、土壌資料を篩うことによってアマオブネ類や小形カサガイ類等多くの小形貝類が出土しており（黒住， 2006a）、この時期でもダシ的に利用する小形貝類利用に多少の差異が存在した可能性もある。

今回の西長浜原遺跡（樋泉， 本報告書）や同時期の沖永良部島住吉貝塚（樋泉， 2006）では、土壌資料の細かいフルイでの水洗選別によって、外洋域の種を含む大量の小形の魚類遺体が得られている。西長浜原遺跡では、サラサバテイラやギンタカハマといった礁斜面の種が優占種となっており、さらに貝輪としての利用が認められているゴホウラは確認できなかったものの、ラクダガイ・シワクチナルトボラ・フジツガイ等の礁斜面に生息する他遺跡での出土量が極めて少ない種が出土している（第22表）。これらの種の出土は、サンゴ礁の外側の魚類を得る機会のあったことに由来するのかもしれない。

また、今回明らかになった大量の魚類遺体の出土（樋泉， 本報告書）とダシ的利用の小形貝類の少ない出土量を併せて考えると、この時期になってダシ的利用が小形貝類から小形の魚類に変わったと考えることも可能ではないかと思われる。この推定によると、沖縄島の地荒原遺跡で、魚類遺体が多いにもかかわらず、貝類遺体は極めて少ない現象（岸本， 1979；島袋， 1986）も理解できると考えられる。さらに沖縄の貝塚前期の遺跡では、小形貝類遺体が多いことが知られている（例えば山内， 1981；大城， 1982等）。この現象も小形貝類のダシ的利用と考えると、貝塚時代前期と中期の遺跡がほぼ同一地域に存在しながら、中期になると貝類遺体が減少する例（例えば呉屋， 1977；黒住， 2003等）も、この貝から魚へのダシ的利用のシフトの例とできるのではないだろうか。

今後、貝塚時代中期遺跡の土壌を水洗選別することによって、この考えの可否をある程度検証できると思われる。しかし、この考えでは中期の遺跡で、中・大形貝類の少ないことや魚類・貝類両遺体がほとんど得られていない遺跡の存在（例えば島袋， 1986参照）は説明できない。さらに、中期になると住居址が一挙に増加する傾向がある等、生活形態に大きな変化が生じた訳であり、その要因は、このダシ的利用のシフトが原因であるとは考えにくいものの、このシフトという考えが妥当であれば、生活形態変化の一因にはなっているものと思われる。貝塚時代中期終末期と考えられる沖縄島熱田第２貝塚では、サラサバテイラ（報告のベニシリダカを含むと考えられる）・チョウセンサザエ・マガキガイ等の中・大形種が優占しており、魚類遺体は極めて少なく、貝塚時代後期と同様な組成を有していることが知られており（阿利， 1979）、上記で議論してきた傾向とは異なると考えられる。このことは、逆に中期の貝類から魚類へのシフトという考えを示唆しているのかもしれない。

５．貝製品や焼けた貝類

今回の西長浜原遺跡では、貝製品、特に装飾品はかなり少ない（久貝， 本報告書）。中期の貝塚では、装飾貝製品の多いシヌグ堂遺跡（島袋， 1985a）・高嶺遺跡（島袋， 1989）・住吉貝塚（森田， 堂込2006）等のグループと、これの少ない本遺跡や渡喜仁浜原貝塚（比嘉， 1977）・地荒原遺跡（岸本， 1979；島袋，

1986）・知場塚原遺跡（岸本，1988）等のグループに大別できるのかもしれない。もちろん、装飾貝製品の出土量は、発掘量・方法・遺構の内容等に依存するので、今後の詳細な検討が必要である。

本遺跡では、大形の二枚貝であるシャコガキで、多くの個体が焼けていた（第22表）。焼けている貝類の多くは、優占種の破片や小形種であり、本種のような大形種で焼けているものは少ない。破片や小形種の焼けている現象は、中・大形の食用貝類を炉の周辺で処理し、小さな貝殻や破片は炉の周辺から掃き出されてたり、まとめて貝塚部分に投棄された結果であると考えられる（黒住，2006b）。同時期で近接した位置に存在する知場塚原遺跡でも、３個体と出土個体数は少ないものの、シャコガキでは全ての個体が焼けていた（黒住，1988）。このような状況から、もしかしたら大形種のシャコガキが焼けている事例は、単に通常の種と異なり焼いて食用にしたというだけでなく、もう少し強いシャコガキを焼く意図があったのかもしれない。

６．陸産貝類の情報

本遺跡では、陸産貝類の出土個体数はかなり少なかった（第22表）。この時期の主に住居址内貝層からは、陸産のオキナワヤマタニシが極めて大量に出土している例が数多く知られている（例えば島袋，1985b；黒住，1989a 等）。陸産貝類に関して、食用という考えがあるが（例えば国分ら，1959）、その集中性（黒住，1988）や大形種のみの遺跡への分散（黒住，2006a）などから食用ではないと、報告者は考えている（黒住・金城，1988 も参照）。陸産貝類が食用であったならば、この時期ではどこでも得やすい陸産貝類の出土量に大きな相違が生じることは少ないと考えられ、今回の僅かな陸産貝類の出土はやはり食用ではなかったことを示すものと考えられる。また、この時期の林縁性のオキナワヤマタニシの大量出土は、焼畑農耕による結果ではないかとも考えられたが（伊藤，1993）、直接的な植物遺体の出土状況から、農耕は否定されている（例えば高宮．2002）。食用の当否と同じく、本遺跡での陸産貝類の極めて少ない個体数は、やはり焼畑の存在を示唆しない事例の一つになろう。

引用文献

阿利直冶．1979．食料残滓．In 金武正紀ら（編），恩名村熱田第２貝塚発掘調査．pp. 19-26, 72-75. 日本電信電話公社・沖縄県教育委員会．

呉屋義勝．1977．貝類遺存体・食糧残滓小結．In 渡喜仁浜原貝塚調査報告書［I］，今帰仁村文化財調査報告書，(1):46-63, 65-66, pls. 15-17. 今帰仁村教育委員会，沖縄．

比嘉春美．1977．貝製品．In 渡喜仁浜原貝塚調査報告書［I］，今帰仁村文化財調査報告書，(1):125-135, pls. 34-37. 今帰仁村教育委員会，沖縄．

伊藤慎二．1993．琉球縄文文化の枠組み．南島考古，(13):19-34.

茅根創・米倉伸之，1990．サンゴ礁を掘る．In サンゴ礁地域研究グループ（編），日本のサンゴ礁．1. 熱い自然，pp. 176-185. 古今書院，東京．

木下尚子．2006．ヤコウガイ交易の検証―６～８世紀の奄美大島３遺跡の分析．In 木下尚子（編），先史琉球の生業と交易，II 熊本大学文学部．（印刷中）

岸本義彦（編）．1979．地荒原遺跡・苦増原遺跡，具志川市文化財調査報告書，(3)．具志川市教育委員会，沖縄．

岸本義彦（編）．1988．知場塚原遺跡，本部町文化財調査報告書，(5)，208 pp. 本部町教育委員会，沖縄．

国分直一・河口貞徳・曽野寿彦・野口義麿・原口正三．1959．奄美大島の先史時代．In 九学会連合奄美大島共同調査委員会（編），奄美－自然と文化，論文編，92 pp. 日本学術振興会，東京．（河口貞徳．沖永良部住吉貝塚の調査．；1996．復刻発行，沖縄県立図書館）

黒住耐二．1988．軟体動物遺存体．In 岸本義彦（編），知場塚原遺跡，本部町文化財調査報告書，(5)：95-115. 本部町教育委員会，沖縄．

黒住耐二．1989a．高嶺遺跡出土の貝類遺存体．In 金武正紀・金城亀信（編），宮城島遺跡分布調査報告，沖縄県文化財調査報告書，(92)：179-189, 2 pls.

黒住耐二．1989b．軟体動物遺存体．In 岸本義彦（編）宇佐浜遺跡発掘調査報告，沖縄県文化財調査報告書，(93)：95-117.

黒住耐二．2002．貝類遺体からみた奄美・沖縄の自然環境と生活．In 木下尚子（編），先史琉球の生業と交易II―奄美・沖縄の発掘調査から―，pp. 67-86. 熊本大学文学部．

黒住耐二．2003．貝類遺存体．In 春成秀雨．新田清重（編），沖縄茅打バンタ遺跡，考古学資料集，(29)：56-63．国立歴史博物館，千葉．
黒住耐二．2006a．貝類遺体からみた沖永良部島住吉貝塚の特徴．In 森田大樹・堂込秀人（編），住吉貝塚，知名町埋蔵文化財調査報告書．知名町教育委員会，鹿児島．(印刷中)
黒住耐二．2006b．貝類遺体からみた遺跡の立地環境と生活．In 木下尚子（編），先史琉球の生業と交易Ⅱ．(印刷中)
黒住耐二・金城亀信．1988．豊見城村の長嶺、保英茂および平良グスク試掘調査により出土した貝類．In 金城亀信（編），豊見城村の遺跡，豊見城村文化財調査報告書，(3)：137-153．豊見城村教育委員会，沖縄．
宮城長信．1978．沖縄県西長浜原遺跡．In 日本考古学年報．1976年版．
森田大樹・堂込秀人（編）．2006．住吉貝塚，知名町埋蔵文化財調査報告書．知名町教育委員会，鹿児島（印刷中）
大城明子．1982．貝類遺存体．In 岸本義彦ら（編），古座間味貝塚，沖縄県文化財調査報告書，(43)：146-149．
島袋春美．1985a．貝製品．In 金武正紀（編），シヌグ堂遺跡，沖縄県文化財調査報告書，(67)：160-177．
島袋春美．1985b．貝類．In 金武正紀（編），シヌグ堂遺跡，沖縄県文化財調査報告書，(67)：180-181．
島袋春美．1986．貝製品・動物遺存体．In 大城慧（編），地荒原遺跡，沖縄県文化財調査報告書，(75)：112-120．
島袋春美．1989．骨製品・貝製品．In 金武正紀・金城亀信（編），宮城島遺跡分布調査報告，沖縄県文化財調査報告書，(92)：37-40，5 pls．
高宮広土．2002．植物遺体からみた奄美・沖縄の農耕のはじまり．In 木下尚子（編），先史琉球の生業と交易Ⅱ－奄美－沖縄の発掘調査から―，pp．35-46．熊本大学文学部．
樋泉岳二．2006．魚類遺体群からみた住吉貝塚の特徴と重要性．In 森田大樹・堂込秀人（編），住吉貝塚，知名町埋蔵文化財調査報告書．知名町教育委員会，鹿児島（印刷中）
上地千賀子．1986．貝類遺存体．In 岸本義彦（編），具志堅貝塚調査報告，本部町文化財調査報告書，(3)：25-34，156-173．本部町教育委員会，沖縄．
山内勝美．1981．貝類遺存体について．In 岸本義彦（編），久里原貝塚，伊平屋村文化財調査報告書，(1)：28-36．伊平屋村教育委員会，沖縄．

第４節　西長浜原遺跡出土炭化物の放射性年代測定及び種実・材同定

株式会社古環境研究所

１．放射性炭素年代測定

西長浜原遺跡で検出された住居跡の年代を推定することを目的に、各遺構から採取された炭化物について放射性炭素年代測定を行った。測定にあたっては、米国の Beta Analytic Inc. , の協力を得た。

試料と方法

測定試料は、27Ｂ号竪穴・№67, 68から採取された炭化物１点と８－３号竪穴・Ｐ１号竪穴から採取された炭化物１点の計２点である。

これら試料は、２次的に混入した有機物を取り除くために、まず蒸留水中で細かく粉砕し、超音波洗浄および煮沸洗浄を行った。次に塩酸（HCl）により炭酸塩を除去した後、水酸化ナトリウム（NaOH）により２次的に混入した有機酸を除去した。さらに塩酸（HCl）で洗浄し、最後にアルカリによって中和した。これら前処理をした試料は、定温乾燥機内で80℃で乾燥した。乾燥後、試料中の炭素を燃焼して二酸化炭素に変え、これを真空ライン内で液体窒素、ドライアイス・メタノール、ｎ－ペンタンを用いて精製し、高純度の二酸化炭素を回収した。こうして得られた二酸化炭素を鉄触媒による水素還元法でグラファイト粉末とし、アルミニウム製のターゲットホルダーに入れてプレス機で圧入しグラファイトターゲットを作製した。

これらのターゲットをタンデトロン加速器質量分析計のイオン源にセットして測定を行った。

測定試料と方法を第23表、年代測定の結果を第24表に示した。

第23表　試料と方法

試料名	試料の詳細	種類	前処理・調整	測定法
№1	27Ｂ号竪穴No.67,68・4.4mm	炭化物	酸－ｱﾙｶﾘ－酸洗浄	ＡＭＳ
№2	８－３号竪穴・Ｐ１	炭化物	酸－ｱﾙｶﾘ－酸洗浄	ＡＭＳ

AMS（Accelerator Mass Spectrometry）は加速器質量分析法

第24表　測定結果

試料名	測定No. (Beta-)	14C 年代[1)] (年 BP)	δ 13C[2)] (‰)	補正14C 年代[3)] (年 BP)	暦年代（西暦）[4)]
№1	210491	2830±40	-24.8	2830±40	交点：cal BC　990 １σ：cal BC 1020 ～ 920 ２σ：cal BC 1100 ～ 900
№2	210492	3240±40	-26.1	3220±40	交点：cal BC 1500 １σ：cal BC 1520 ～ 1440 ２σ：cal BC 1540 ～ 1410

１）^{14}Ｃ年代測定値

試料の^{14}Ｃ／^{12}Ｃ比から、単純に現在（AD1950年）から何年前かを計算した値。^{14}Ｃの半減期は、国際的慣例により Libby の5,568年を用いた。

２）デルタδ^{13}Ｃ測定値

試料の測定^{14}Ｃ／^{12}Ｃ比を補正するための炭素安定同位体比（^{13}Ｃ／^{12}Ｃ）。この値は標準物質（PDB）の同位体比からの千分偏差（‰）で表す。

３）補正^{14}Ｃ年代値

δ^{13}Ｃ測定値から試料の炭素の同位体分別を知り、^{14}Ｃ／^{12}Ｃの測定値に補正値を加えた上で算出した年代。

４）暦年代

過去の宇宙線強度の変動による大気中^{14}Ｃ濃度の変動を較正することにより算出した年代（西暦）。cal

はcalibrationした年代値であることを示す。較正には、年代既知の樹木年輪の^{14}Cの詳細な測定値、およびサンゴのU-Th年代と^{14}C年代の比較により作成された較正曲線を使用した。最新のデータベースでは約19,000年BPまでの換算が可能となっている。ただし、10,000年BP以前のデータはまだ不完全であり、今後も改善される可能性がある。

暦年代の交点とは、補正^{14}C年代値と暦年代較正曲線との交点の暦年代値を意味する。1σ（シグマ）（68％確率）と2σ（95％確率）は、補正^{14}C年代値の偏差の幅を較正曲線に投影した暦年代の幅を示す。したがって、複数の交点が表記される場合や、複数の1σ・2σ値が表記される場合もある。

所見

得られた年代値を同位体分別効果により補正し、さらに暦年代較正を行った結果、試料1では2830±40年BP（2σの暦年代でBC 1100～900年)、試料2では3220±40 年BP（同じくBC 1540～1410年）の年代値が得られた。

2．種実同定

植物の種子や果実は比較的強靭なものが多く、堆積物中に残存する。堆積物から種実を検出しその群集の構成や組成を調べ、過去の植生や群落の構成要素を明らかにし古環境の推定を行うことが可能である。また出土した単体試料等を同定し、栽培植物や固有の植生環境を調べることができる。

試料

試料は、約2800年から3200年前の遺構から出土した水洗選別済みの炭化物である。試料の内訳は、27Ａ号竪穴が31点、Ｓ地区１地点・Ⅰ層、同４地点・Ⅱ層、同Ｂ集石西側の３点、Ｐ地区５号遺構の１点、１次調査地区３号竪穴、10号竪穴、14号竪穴、26号竪穴、８－３号竪穴・Ｐ１、セ10・Ⅲ層、ソ10・Ⅲ層の７点、調査区不明９地点･床面スミの１点、遺構不明の５点の計44点である。

方法

試料を肉眼及び双眼実体顕微鏡で観察し、形態的特徴および現生標本との対比によって同定を行った。結果は同定レベルによって科、属、種の階級で示した。

結果

（1）分類群

樹木２分類群が同定された。学名、和名および粒数を第25表に示し、主要な分類群を写真に示す。以下に同定根拠となる形態的特徴を記す。

〔樹木〕

オキナワジイ Castanopsis sieboldii Hatusima ex Yamazaki et Masiba var. lutchuensis H.Ohba　子葉（完形・半形・破片）　ブナ科

果実内部の種子の種皮の取れた炭化子葉であり、広卵形を呈し、表面はなめらかで、縦方向に一条の凹線が入る。

オキナワジイは琉球に産するスダジイの地理的変種で、スダジイに比べて殻斗はひと回り大きいが、堅果はひと回り小さい。長さ×幅 -6.3㎜×5.1㎜･7.1㎜×5.0㎜･6.9㎜×5.3㎜･6.1㎜×4.0㎜･6.1㎜×5.2㎜

未分類１　Unknowen

炭化しているため黒色で広卵形を呈し、扁平である。表面はなめらかで、縦方向に一条の凹線が入り、両端がややとがる。

未分類２　Unknowen

炭化しているため黒色で球形を呈す。表面には小孔が散在する。長さ×幅 -4.6㎜×4.1㎜･4.2㎜×3.9㎜

（2）種実群集の特徴

27Ｂ号竪穴で、オキナワジイ完形２、半形108、破片２が検出された。他の遺構の炭化物は種子ではなかった。

考察

西長浜原遺跡で検出された竪穴住居跡と考えられる27Ｂ号竪穴出土の炭化種実は、オキナワジイの果皮と種皮の欠落した炭化子葉が主要に同定された。オキナワジイの果実（堅果）は､アク抜きなしで食べられ、優良な食糧になる。

第25表　西長浜原遺跡における炭化種同定結果

地区・遺構名		分類群 学名	分類群 和名	部位	個数	炭化物・材
27Ｂ号竪穴		Castanopsis sieboldii Hatusima ex Yamazaki et Masiba var. lutchuensis H.C	オキナワジイ	子葉(完形)	2	炭化物(34.04g)
				子葉(半形)	108	
				子葉(破片)	725	
		Unknown	未分類１		6	
		Unknown	未分類２		21	
Ｓ地区	1地点Ｉ層					*17.03g
	4地点Ⅱ層					*15.47g
	B集石西側					炭化物+(2.44g)
Ｐ地区	5号竪穴					炭化材+(103.93g)骨1
第１次地区	3号竪穴					炭化材+(3.46g)
	10号竪穴					炭化材+(23.14g)
	14号竪穴					炭化材+(10.25g)
	26号竪穴					炭化材+(2.04g)
	セ10Ⅲ層					炭化材+(7.44g)
	ソ10Ⅲ層					炭化材+(5.04g)
	8-3号竪穴・Ｐ１					炭化材+(46.35g)
調査区不明	9地点床面スミ					炭化材+(8.57g)
遺構不明	①					炭化材+(9.24g)
	②					炭化材+(9.86g)
	③					*7.78g
	④(一括)					炭化材+(503.08g)

参考文献

南木睦彦（1993）葉・果実・種子．日本第四紀学会編，第四紀試料分析法，東京大学出版会，p.276-283.
渡辺誠（1975）縄文時代の植物食．雄山閣，187p.

３．樹種同定

木材は、セルロースを骨格とする木部細胞の集合体であり、解剖学的形質から、概ね属レベルの同定が可能である。木材は、花粉などの微化石と比較して移動性が少ないことから、比較的近隣の森林植生の推定が可能であり、遺跡から出土したものについては、木材の利用状況や流通を探る手がかりとなる。

試料

試料は、第１次地区、Ｐ地区、Ｓ地区、地区不明より出土した炭化材15点である。時期は沖縄先史時代中期（2500年前）と考えられる。

方法

試料を割折して新鮮な横断面（木口と同義）、放射断面（柾目と同義）、接線断面（板目と同義）の基本三断面の切片を作製し、落射顕微鏡によって50～1000倍で観察した。同定は、解剖学的形質および現生標本との対比によって行った。

結果

結果を第26表に示し、主要な分類群の顕微鏡写真を写真図版に示す。以下に同定の根拠となった特徴を記す。

マツ属複維管束亜属　Pinus subgen. Diploxylon　マツ科　図版15- 1

仮道管、放射柔細胞、放射仮道管及び垂直、水平樹脂道を取り囲むエピセリウム細胞から構成される針葉樹材である。

横断面：早材から晩材への移行は急で、垂直樹脂道が見られる。

放射断面：放射柔細胞の分野壁孔は窓状である。放射仮道管の内壁には鋸歯状肥厚が存在する。

接線断面：放射組織は単列の同性放射組織型であるが、水平樹脂道を含むものは紡錘形を呈する。

以上の形質より、マツ属複維管束亜属に同定される。マツ属複維管束亜属には、クロマツ、アカマツ、リュウキュウマツがある。その内、クロマツとアカマツは北海道南部、本州、四国、九州に分布する。リュウキュウマツは吐葛喇列島以南の琉球に分布する。いずれの樹種も常緑高木である。

コナラ属アカガシ亜属　Quercus subgen. Cyclobalanopsis　ブナ科　図版15- 2

横断面：中型から大型の道管が、１～数列幅で年輪界に関係なく放射方向に配列する放射孔材である。道管は単独で複合しない。

放射断面：道管の穿孔は単穿孔で、放射組織は平伏細胞からなる。

接線断面：放射組織は同性放射組織型で、単列のものと大型の広放射組織からなる複合放射組織である。

以上の形質よりコナラ属アカガシ亜属に同定される。コナラ属アカガシ亜属にはアカガシ、イチイガシ、アラカシ、シラカシ、ウラジロガシ、オキナワウラジロガシなどがある。その内、アカガシ、イチイガシ、アラカシ、シラカシは、本州、四国、九州に分布する。ウラジロガシは、本州、四国、九州、琉球に、オキナワウラジロガシは琉球に分布する。いずれの樹種も常緑高木である。

アカネ科　Rubiaceae　図版15- 3

横断面：極めて小型でやや角張った道管が、ほぼ単独で散在する散孔材である。

放射断面：道管の穿孔は単穿孔である。放射組織は異性である。

接線断面：放射組織は異性放射組織型で、直立細胞からなる高い両翼部を持ち、１～３細胞幅である。

以上の形質よりアカネ科のうちのクチナシ、シロミミズ、ミサオノキのいずれかとである。なお本試料は小片のうえ炭化等による変形もあり、広範囲及び各組織の細部にわたる観察が困難な事から、アカネ科の同定にとどめる。クチナシとミサオノキは、本州（西部）、四国、九州、琉球に分布する常緑の低木である。シロミミズは屋久島、種子島から琉球に分布する常緑の小高木である。

散孔材　diffuse-porous wood

横断面：小型の道管が散在する。

放射断面：道管と異性の放射組織が存在する。

接線断面：放射組織は異性放射組織型で、多列幅である。

以上の形質より散孔材に同定される。本試料は小片のうえ炭化等による変形があり、広範囲における観察が困難である事から、散孔材の同定にとどめる。

広葉樹　broad-leaved tree

横断面：部分的ではあるが、やや小型の道管が見られる。

放射断面：道管と放射組織が存在する。

接線断面：道管と放射組織が存在する。

以上の形質より広葉樹に同定される。本試料は小片のうえ炭化等による変形があり、広範囲における観察が困難である事から、広葉樹の同定にとどめる。

所見

同定の結果、西長浜原遺跡で出土した炭化材は、マツ属複維管束亜属４点、コナラ属アカガシ亜属１点、アカネ科５点、散孔材４点、広葉樹１点であった。マツ属複維管束亜属、コナラ属アカガシ亜属、アカネ科は生態上からそれぞれ、リュウキュウマツ、ウラジロガシとオキナワウラジロガシ、クチナシとミサオノキとシロミミズが相当する。リュウキュウマツは海岸近くに多く、極端な乾燥地や瘠せ地以外によく生育する常緑高木である。ウラジロガシとオキナワウラジロガシは山地等に普通に生育する常緑の高木である。クチナシ、ミサオノキ、シロミミズの樹種は、林内もしくはその縁辺に生育する常緑広葉樹である。いずれの種も遺跡周辺に分布していたと考えられる。

参考文献

佐伯浩・原田浩（1985）針葉樹材の細胞．木材の構造，文永堂出版，p.20-48.

佐伯浩・原田浩（1985）広葉樹材の細胞．木材の構造，文永堂出版，p.49-100.

島地謙・伊東隆夫（1988）日本の遺跡出土木製品総覧，雄山閣，p.296

山田昌久（1993）日本列島における木質遺物出土遺跡文献集成，植生史研究特別第１号，植生史研究会，p.242

第26表　西長浜原遺跡における樹種同定結果

遺構	結果（学名／和名）	
１次地区　３号竪穴	Rubiaceae	アカネ科
１次地区　４号竪穴	Rubiaceae	アカネ科
	diffuse-porous wood	散孔材
１次地区　10号竪穴	Pinus subgen. Diploxylon	マツ属複維管束亜属
	diffuse-porous wood	散孔材
１次地区　14号竪穴	Rubiaceae	アカネ科
	Pinus subgen. Diploxylon	マツ属複維管束亜属
１次地区　26号竪穴	broad-leaved tree	広葉樹
Ｐ地区　５号竪穴	Rubiaceae	アカネ科
	diffuse-porous wood	散孔材
Ｓ地区　Ｂ集石西側	Rubiaceae	アカネ科
	Pinus subgen. Diploxylon	マツ属複維管束亜属
	Quercus subgen. Cyclobalanopsis	コナラ属アカガシ亜属
	diffuse-porous wood	散孔材
地区遺構名不明	Pinus subgen. Diploxylon	マツ属複維管束亜属

図版12　西長浜原遺跡27Ｂ号竪穴炭化種子出土状況

1　オキナワジイ子葉

2　オキナワジイ子葉

3　オキナワジイ子葉

4　オキナワジイ子葉

1.0mm

5　オキナワジイ子葉

6　オキナワジイ子葉

7　オキナワジイ子葉

8　オキナワジイ子葉

1.0mm

1.0mm

9　オキナワジイ子葉

10　オキナワジイ子葉

11　オキナワジイ子葉

12　オキナワジイ子葉

1.0mm

13　オキナワジイ子葉

14　オキナワジイ子葉

15　不明炭化種実

16　不明炭化種実

1.0mm

1.0mm

図版13　西長浜原遺跡の種実Ⅰ

1　27Ａ号竪穴・67
　　シイ属子葉（破片）

5.0mm

4　27Ａ号竪穴・68
　　シイ属子葉（破片）

5.0mm

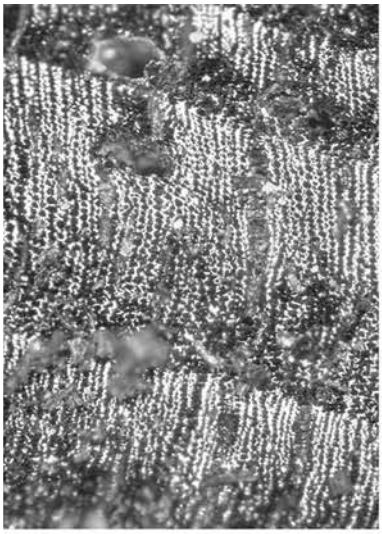
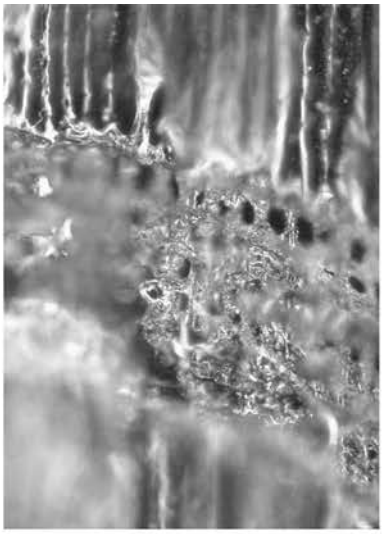
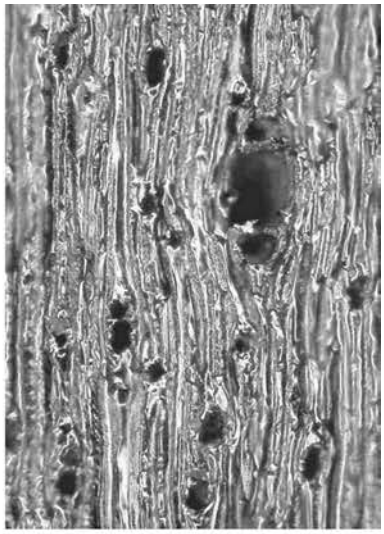
13　Ｓ地区
　　炭化物片

5.0mm

16　Ｐ地区
　　炭化材片

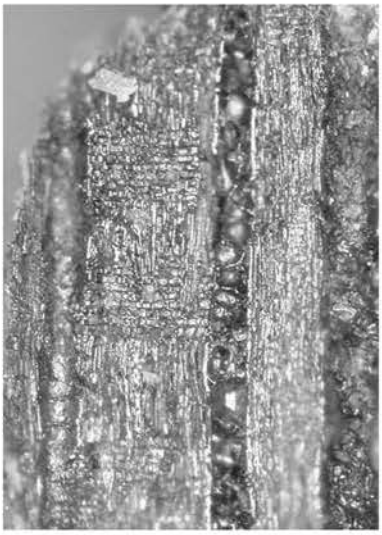
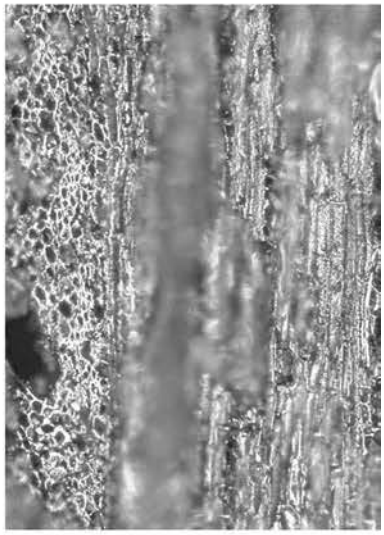
5.0mm

図版14　西長浜原遺跡の種実Ⅱ

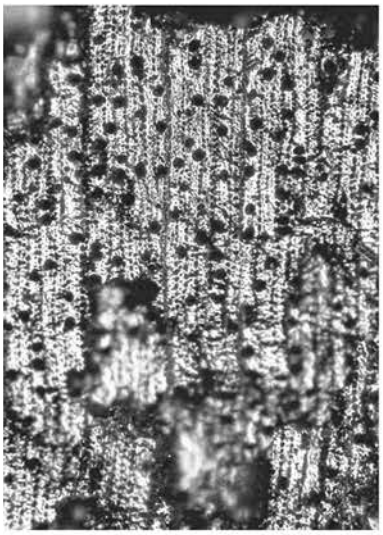
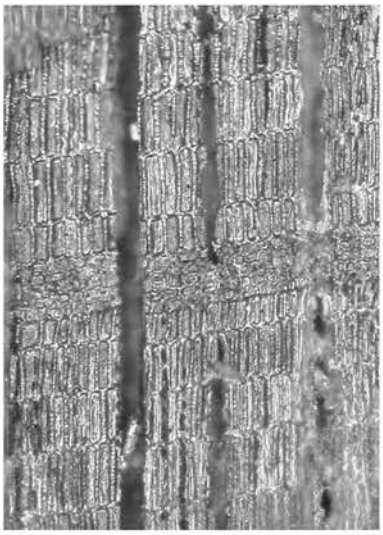
横断面 ━━━━━━ ： 0.4㎜　放射断面━━━━━━ ： 0.1㎜　接線断面━━━━━━ ： 0.2㎜

１．１次地区　10号竪穴　マツ属複維管束亜属

横断面 ━━━━━━ ： 0.4㎜　放射断面━━━━━━ ： 0.4㎜　接線断面━━━━━━ ： 0.2㎜

２．Ｓ地区　Ｂ集石西側　コナラ属アカガシ亜属

横断面 ━━━━━━ ： 0.4㎜　放射断面━━━━━━ ： 0.2㎜　接線断面━━━━━━ ： 0.2㎜

３．Ｐ地区　５号竪穴　アカネ科

図版15　西長浜原遺跡の炭化材

第５節　西長浜原遺跡出土のヒスイ製品分析

新里貴之・宮島　宏

西長浜原遺跡で出土したヒスイ製品について、肉眼観察及びエネルギー分散型Ｘ線装置による半定量分析を行うことによって、その産地の検討を行った。

１．鑑定要領

肉眼観察：ルーペ・双眼実態顕微鏡

観察項目：色調・透明度・結晶粒の有無と形・劈開の有無、共生鉱物種の有無とその種類、およその比重

分析機器：日本電子製走査型電子顕微鏡 JSM－6300にオックスフォード社製エネルギー分散型Ｘ線スペクトロメーターを取り付けた分析走査型電子顕微鏡を用いて、資料の半定量分析を行った。

分析条件：加速電圧15Kv，ワーキングディスタンス39㎜、分析範囲１㎜×0.8㎜、分析時間30～120秒。必要に応じて複数箇所を分析し、大きな相違がないことを確認した。肉眼鑑定の結果と検出された元素の種類とそれぞれのピークの高さから資料の石種を判断した。

その他　：①資料の表面に汗、土壌などが付着していると、それらも検出されるので、あらかじめ表面にある汚れは蒸留水を含ませた脱脂綿で数回拭いて除去し十分に乾燥させた。

②前もって清澄にした資料をφ100㎜の試料載台に分析用をカーボンテープを用いて軽く固定する。

③分析走査型電子顕微鏡での半定量分析は、資料に炭素蒸着をするのが普通であるが、考古学的な資料に炭素蒸着をすると資料表面を汚してしまうので、今回は無蒸着の状態で分析を行った。

２．分析結果（第137図）

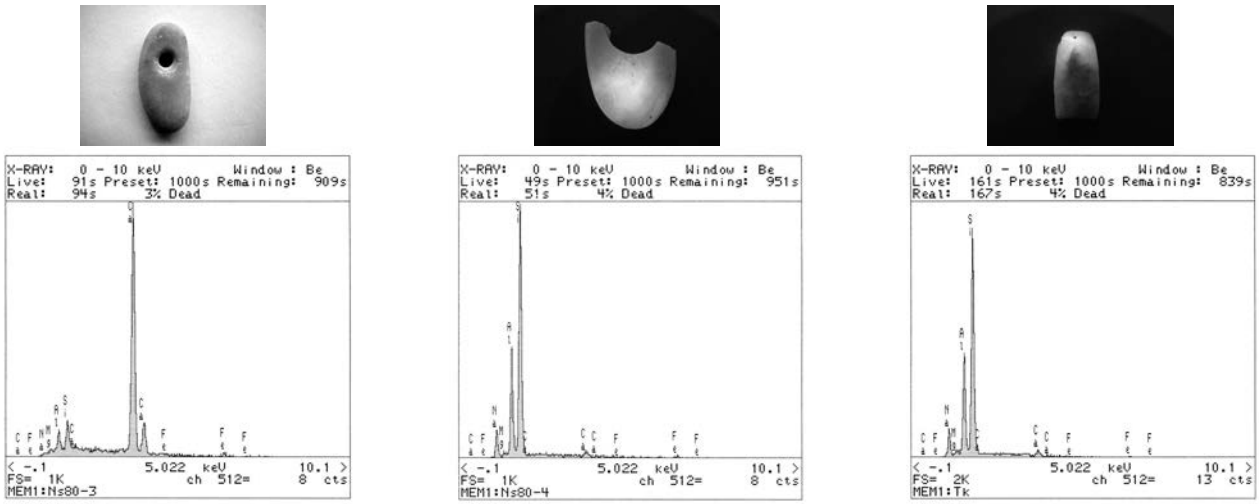
西長浜原遺跡において、肉眼でヒスイの可能性があるものについて上記の分析を行った。

１　大珠状製品　形状や研磨などは２に類似するが、ヒスイではなく結晶質石灰岩。

２　大珠状製品　糸魚川・青海産のヒスイ輝石（NaAlSio206）。

３　参考高嶺遺跡出土管玉再利用品　糸魚川・青海産のヒスイ輝石（NaAlSio206）。

その他、うるま市宮城島高嶺遺跡の管玉再利用１点、鹿児島県徳之島伊仙町トマチン遺跡の丸玉・円盤状品など、現在種子島から沖縄諸島で出土・採集されているヒスイの疑いのある玉類は全て糸井川・青海産のヒスイと判定された。



１．西長浜原遺跡Ａ（第126図206）　２．西長浜原遺跡Ｂ（第126図207）　３．高嶺遺跡

第137図　Ｘ線分析結果

第６章　結語

これまで1977年と、2004年の調査内容を記載してきた。竪穴とした遺構は52基であるが、切り合いが非常に複雑であり本来はもっとあったものと思われる。貯蔵穴と考えられる土坑は２基確認している。遺物には膨大な土器、石斧・石皿・磨石などの石器、遠く離れた糸魚川・青海産ヒスイ製の大珠、食糧残滓である炭化したオキナワジイ、大量の魚骨・獣骨・貝殻がある。最後に、土器・遺構変遷について若干まとめる。

第１節　西長浜原遺跡出土のⅡ群Ｂ類土器の検討

本遺跡の出土土器において主体的なⅡ群Ｂ類土器は、おおかた室川式の範疇に分類されるが、標式遺跡である沖縄市室川貝塚出土の室川式には見られない特徴を有している。そこで、以下に室川式に関する主な研究をまとめ、既存の型式概念と比較しながら本遺跡の室川式土器の位置づけを若干検討する。

型式設定前　室川式に相当する土器が初めて報告されたのは、1927年（昭和２年）の小牧実繁による城嶽貝塚の発掘調査報告予報（小牧　1927）と考えられる。城嶽出土の資料を確認した高宮廣衞によれば、報告書中に "口縁部上端が横に突起し" と記述される土器は室川Ａ式及びＢ式に相当するものとしている（高宮1991）。続いて1956年に、多和田真淳は平安名貝塚の「平安名式」と面縄貝塚の「面縄第一式」を型式設定し（多和田ほか1956）、1962年の地荒原貝塚発掘報告（多和田ほか1962）では、室川式と方形肥厚口縁土器を広義の平安名式及び面縄第一式に含めて報告している。さらに、多和田は同報告書において地荒原貝塚の土器編年を試みており、その中で平安名式と面縄第一式をカヤウチバンタ式から宇佐浜式へ移行する段階に位置づけ、"壷化する" という表現で器形の変化を指摘している。1968年に高宮は、壷川貝塚から出土した肥厚口縁土器は小牧氏が調査した城嶽貝塚の資料に類似すると指摘している（高宮　1968）。後にこれを「壷川式」と呼称しており、室川式と方形肥厚口縁土器を含んだ型式となっている。1974年に高宮は、地荒原貝塚出土の有文カヤウチバンタ式を地荒原Ａ式、有文の宇佐浜式を地荒原Ｂ式、口唇部が１㎝前後の幅を有する数種の肥厚口縁土器を地荒原Ｃ式と仮称しており、地荒原Ｃ式には室川式及び方形肥厚口縁土器が含まれている（高宮　1974）。

型式設定以前において、現在の室川式が含まれる「平安名式」、「面縄第一式」、「壷川式」、「地荒原Ｃ式」が型式設定されたことは、これらの肥厚口縁土器がカヤウチバンタ式や宇佐浜式とは区別されていたことを示している。しかし、それらの土器型式には室川式の他に数種の肥厚口縁も含まれていた。

室川式土器の型式設定　1974～ 77年にかけて沖縄国際大学（高宮他）による室川貝塚の発掘調査が実施され、その成果は沖国大考古において報告された（沖縄国際大学1978～1982）。1978年には、当初第１～３次の概報で室川式及び室川上層式は第７類土器（その他の土器）に分類されていたものを（沖縄国際大学1978）、同年に高宮は室川式と室川上層式の型式設定を行っている（高宮　1978）。高宮によれば、室川式は深鉢を主体とし、口唇部を幅広く誇張するところに特徴があり、典型は２㎝前後を測る。口縁部は肥厚するものと、口縁部を屈曲して擬似肥厚を成すものなどがある。室川式の口縁形態のバリエーションについては沖国大考古第３号で図式化されている（沖縄国際大学　1979）。底部は平底で、３～５㎝を測り、胎土は明るい器色で石灰岩粒を混入する。尚、壷形は希少である。編年的には前Ⅳ期末に位置づけられ、大山式からの移行型と考えられるが、具体的なつながりは今後の課題とされている（高宮　1982）。室川式に後続する室川上層式は前Ⅴ期初頭に位置づけられる。器種は深鉢を主体とし、壷形の増加傾向が見られる。口縁部は室川式の形態を継続するが矮小化する傾向にある。底部は３㎝程の小型平底や尖底である。器面は多孔質で本型式の大きな特徴とされている（高宮　1982）。尚、肥厚部の幅が縮小し、口唇部の幅が広くなったカヤウチバンタ式は、以前地荒原Ｃ式に含まれていたが、室川貝塚の調査成果により室川式期の同型式として位置づけられた（沖縄国際大学　1979）。本遺跡出土のⅡ群Ａ類土器もこのタイプである。

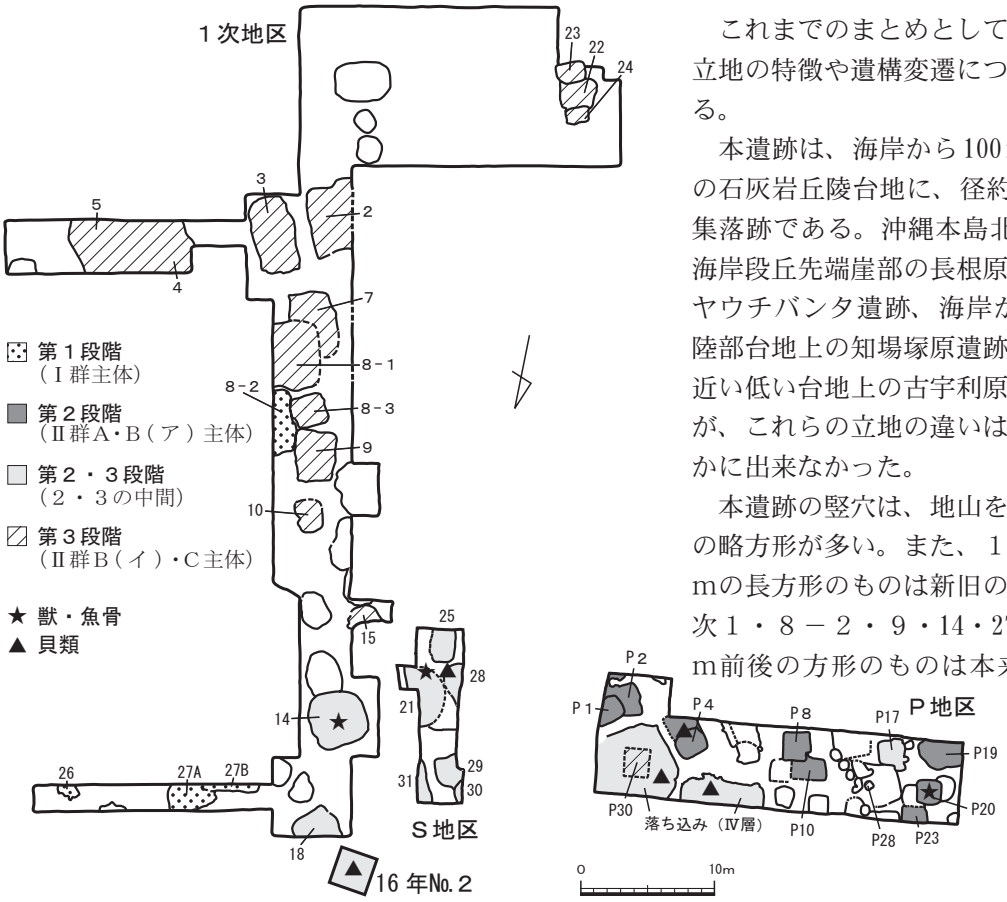
西長浜原遺跡の室川式土器　本遺跡のⅡ群Ｂ類土器は、深鉢を主体とし、口唇部を誇張する口縁形態から室川式の範疇で分類を行ったが、先述のとおり、既存の型式概念とは異なる特徴も見られる。以下、類例資料との比較により、当該土器の位置づけを試みる。

Ⅱ群Ｂ類土器は深鉢が主体で、壷形が全体の５％を占め、室川貝塚資料と比較すると壷形の増加傾向が認められる。深鉢形の器形は室川貝塚や古座間味遺跡（沖縄県教委　1982）で見られる口径を最大とし直線的なもの（Ｂ１類）や、胴部に若干張りのあるもの（Ｂ２類）に加え、口縁が直口し、胴径を最大とするもの（Ｂ

３類）と、口縁部を湾曲させて頸部を造り胴部が大きく張るもの（Ｂ４類）が増加している。口縁部は室川資料（沖縄国際大学 1979）で図示されている口縁形態の範疇にあるが、当該土器の場合、口唇部が２㎝前後の典型的な逆Ｌ字肥厚は少なく、口唇部を平坦に幅広くした程度の微弱な肥厚口縁や、口縁部を外反させて口唇外側の角（稜）を誇張するものが主流となる。底部は標式的な土器が３～５㎝径の平底であるのに対し、当該類土器は平底の矮小化や丸底、尖底も見られるようになる。当該土器の混入物は石灰岩を主体とする（ア）が３割、粘板岩を主体とする（イ）が６割で、既存の型式概念とは異なる。混入物と深鉢形の対応関係は、（ア）がＢ１・Ｂ２類に圧倒的に多く、（イ）はＢ２類を主体とし、Ｂ１類も多いが、Ｂ３・Ｂ４類や壷形の増加傾向が顕著である。地点・遺構別に見ると、（ア）がＰ地区において６割を占めるが、同地区Ｐ１・２・８・10・19・20号の各竪穴遺構においては９割を占めている。（イ）は１次調査地区において８割を占め、14･18号竪穴遺構以外においては９割を占めている。この様相は古宇利原Ａ遺跡でも見られ、（ア）相当のⅠ類が遺構内で主体、（イ）相当のⅡ類が遺構外で主体となる傾向があり、室川貝塚での室川式Ａと室川式Ｂに対応させ、Ⅱ類がやや新しいとの見解は、本遺跡でも概ね肯ける（今帰仁村教委 1983）。また、知場塚原遺跡は本Ⅱ群Ｂ２・３類（イ）を主体とする良好な資料である。

以上から、本遺跡の室川式に比類されるⅡ群Ｂ類土器は、混入物の（ア）・（イ）によって器種・器形、出土地点などに傾向が見られる。（ア）はＰ地区において多く、Ｂ１・Ｂ２類を主体とし、口縁肥厚部も明瞭で、有文を伴っている。底部も３～５㎝径程度であり、ほぼ既存の型式概念に該当する。（イ）は１次地区において多く、Ｂ２・Ｂ１類を主体としながらも、Ｂ３・Ｂ４類と壷形の増加が顕著である。口縁肥厚部の矮小化、平底の矮小化、丸底・尖底の出現などは新しい要素と考えられる。これらの状況と、室川貝塚における室川式から室川上層式へ移行を考慮した場合、今後、Ⅱ群Ｂ類土器の（ア）・（イ）について層位的な把握を行い、型式的な移行について検討していく必要がある。本遺跡１次地区における出土状況は、前Ⅳ期末から前Ⅴ期にかけて標式的な室川式や宇佐浜式を主体としないⅡ群Ｂ類（イ）土器の時期があった可能性を示している。

第２節　西長浜原遺跡の遺構変遷（第138図）



第138図　西長浜原遺跡の遺構変遷

これまでのまとめとして、現段階での本遺跡の立地の特徴や遺構変遷について簡単にまとめてみる。

本遺跡は、海岸から100ｍも離れない標高６ｍの石灰岩丘陵台地に、径約100ｍの範囲に広がる集落跡である。沖縄本島北部の同時代遺跡では、海岸段丘先端崖部の長根原遺跡・宇佐浜遺跡・カヤウチバンタ遺跡、海岸から約２㎞と離れる内陸部台地上の知場塚原遺跡、本遺跡のような海岸近い低い台地上の古宇利原Ａ・Ｂ遺跡などがあるが、これらの立地の違いは何に由来するかは明らかに出来なかった。

本遺跡の竪穴は、地山を掘りこんだ一辺約２ｍの略方形が多い。また、１次２・３号のように６ｍの長方形のものは新旧の重複と思われるが、１次１・８－２・９・14・27・Ｐ19号など一辺３ｍ前後の方形のものは本来の規模の可能性があ

る。シヌグ堂・高嶺遺跡のように深さによる新旧は不明瞭である。竪穴のコーナーに一部石材を使用するものは見られるが、全周するものはない。

本遺跡の時期幅は、先述してきたように高宮編年前Ⅳ期～前Ⅴ期前半であるが、大きく３つの段階に分けられる。第１段階は、伊波・荻堂・大山式を主体とする前Ⅳ期で、１次８－２・26・27号がある。第２段階は、Ⅱ群Ａ・Ｂ１（ア）類が主体とする室川式相当期と考えられる前Ⅳ期後半・末で、Ｐ地区１・２・４・８・10・19・20号がある。第３段階は、Ⅱ群Ｂ２・３（イ）類を主体とする室川上層式に近い時期と考えられる前Ⅴ期前半で、１次２～５・７・８－１・８－３・９・10・15・22～24・Ｐ28号がある。第２・３段階にまたがるものとして、Ｓ地区、１次14・18号、Ｐ地区落ち込み（Ⅳ層）・Ｐ17号がある。

１次地区北西側にまず竪穴が営まれ、海に近いＰ地区、次にＳ地区・1次地区北側へ移動し、最後にはより山側への１次地区南側へ変遷するのであろう。食糧残滓は、Ｐ地区の２・４号竪穴や落ち込み（Ⅳ層）で貝のみが大量に出土し、Ｓ地区の遺構よりも上層であるⅡ層下部では大量の獣・魚骨と中量の貝類が、１次14号竪穴・Ｐ20号竪穴でも骨が一定量出土する。土器による画期で見ると、第２段階ではＰ地区東側で大量の貝類が、第２～３段階ではＳ地区一帯に中量の貝類、大量の獣･魚骨が廃棄される様相が想定できるが、各地区間での層序や遺構の検討が十分には行なえておらず、今後の検討に委ねたい。

参考・引用文献

伊仙町教育委員会　1984　『犬田布貝塚』伊仙町埋蔵文化財発掘調査報告書（２）　1984

伊藤慎二　2000『琉球縄文文化の基礎的研究』未完成考古学叢書２　ミュゼ

伊平屋村教育委員会　1981『久里原貝塚』伊平屋村文化財調査報告書第一集

沖縄県教育委員会　1982『古座間味遺跡』範囲確認調査　沖縄県文化財調査報告書第43集
1985『シヌグ堂遺跡―第1・2・3次発掘調査報告―』
1986『地荒原遺跡―県道10号改良工事に伴う発掘調査報告書―』
1987『古我地原貝塚―沖縄自動車道（石川～那覇間）建設工事に伴う緊急発掘調査報告書（6）―』
1988『知場塚原遺跡―発掘調査報告―』
1989「高嶺遺跡」『宮城島遺跡調査報告』
1997『具志原貝塚発掘調査報告書』

沖縄国際大学文学部考古学教室　1978『室川貝塚第１～３次発掘調査概報』沖国大考古第２号
1979『室川貝塚第３～４次発掘調査概報』沖国大考古第３号
1980『室川貝塚第２～４次発掘調査概報』沖国大考古第４号
1981『室川貝塚第３～５次発掘調査概報』沖国大考古第５号
1982『室川貝塚第４次発掘調査概報』　沖国大考古第６号

河口貞徳　1974「奄美における土器文化の編年について」『琉大史学』第６号
1982「奄美諸島の文化」『縄文土器研究』雄山閣
1988『日本の古代遺跡38　鹿児島』保育社

小牧実繁　1927「那覇市外城嶽貝塚発掘調査報告―予報」『人類学雑誌』　第42巻８号

高宮廣衛　1968「那覇市の考古資料」『那覇市史』資料篇第1巻１那覇市役所　総務部市史編集室
1974「いわゆるカヤウチバンタ式および宇佐浜式土器について」『沖国大文学部紀要』２
1978「沖縄諸島における新石器時代の編年（試案）」『南島考古第６号』沖縄考古学会
1980「伊波式土器と荻堂式土器」『国分直一博士古稀記念論文集　考古篇』
1982「沖縄諸島の土器」『縄文土器研究』雄山閣
1991「第二部　縄文時代」『先史古代の沖縄』南島文化叢書

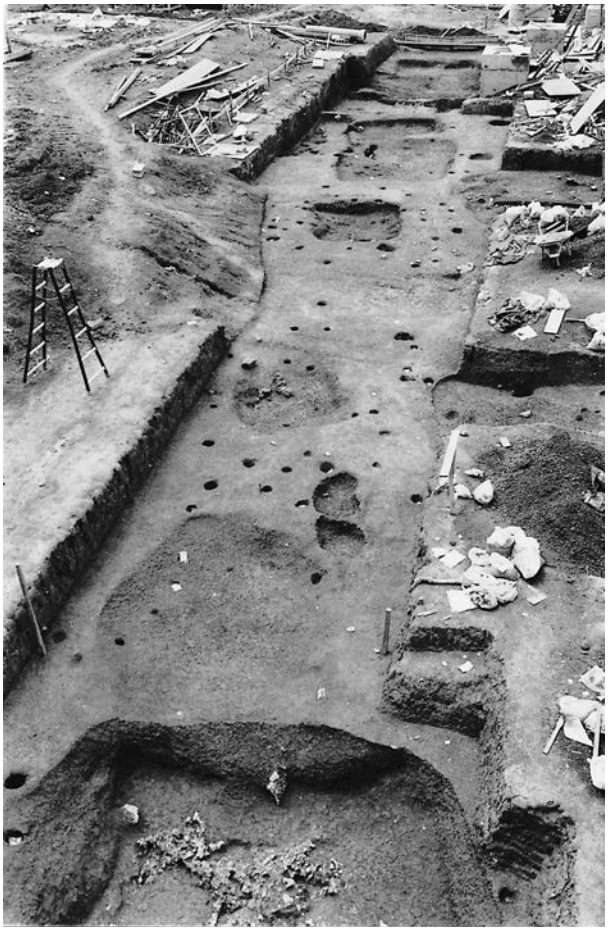
多和田真淳ほか　1956「琉球列島の貝塚分布と編年の概念」『文化財要覧』琉球政府文化財保護委員会
1962「地荒原貝塚発掘報告」『文化財要覧』琉球政府文化財保護委員会

今帰仁村教育委員会　1983『古宇利原Ａ遺跡』今帰仁村文化財調査報告書第８集
2004『古宇利原Ｂ遺跡発掘調査報告書』今帰仁村文化財調査報告書第16集

平井勝　1991『考古学ライブラリー64―弥生時代の石器』　ニューサイエンス社

図　　版

図版16　西長浜原遺跡遠景



図版17　１次地区全景

図版18　Ｓ地区全景

図版19　１次地区　北半全景

図版20　１次地区４・５号遺構

図版21　１次地区26・27号遺構

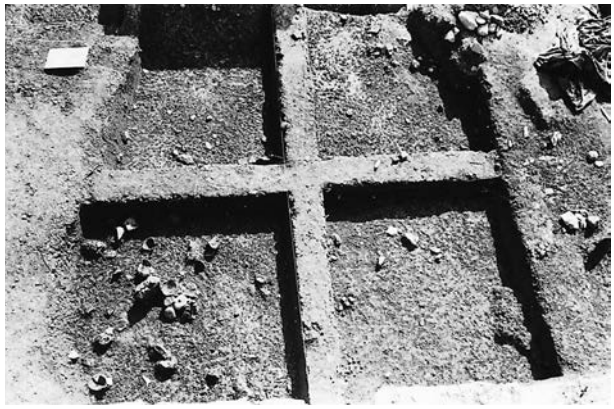
図版22　１次地区７号８号検出状況

図版23　１次地区8-1・8-2・8-3号竪穴

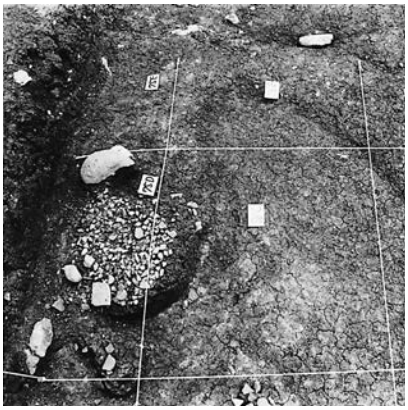
図版24　１次地区３号竪穴

図版25　１次地区10号竪穴

図版26　１次地区８－１・８－２号竪穴



図版27　１次地区８－１号竪穴



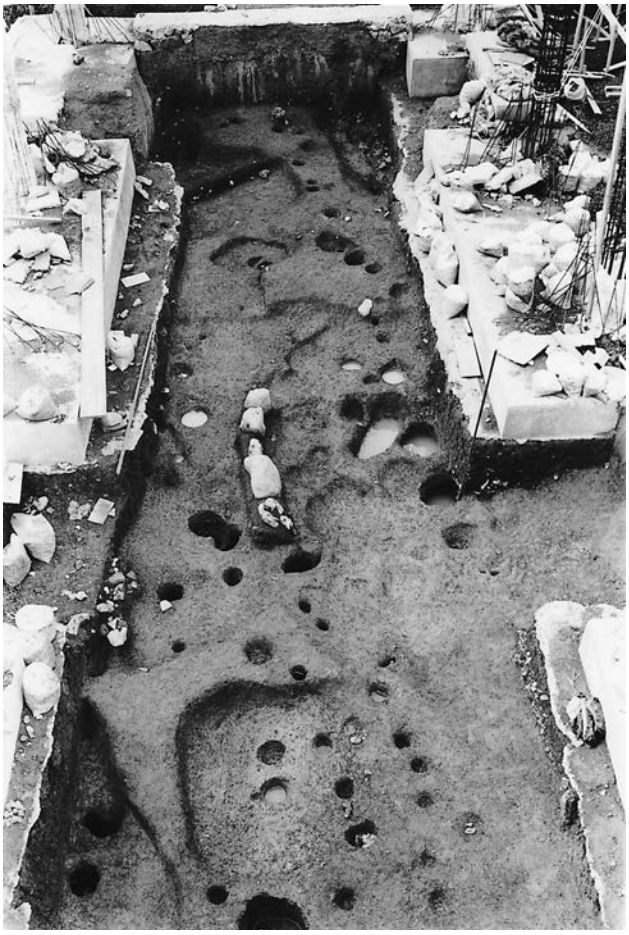
図版28　７号礫集中地点

図版29　８－１号土器出土状況

図版30　１次地区14号竪穴床面

図版31　１次地区コ－20人骨検出状況

図版32　Ｓ地区Ⅱ層下部集石検出状況



図版33　Ｓ地区完掘状況

図版34　Ｓ２地区断面

図版35　Ｓ４地区断面

図版36　Ｓ１・３集石Ａ・Ｂ

図版37　Ｓ地区Ⅱ層下部断面

図版38　集石Ａ検出状況（右：同アップ）

図版39　集石Ａ獣骨・貝類出土状況（右：同アップ）

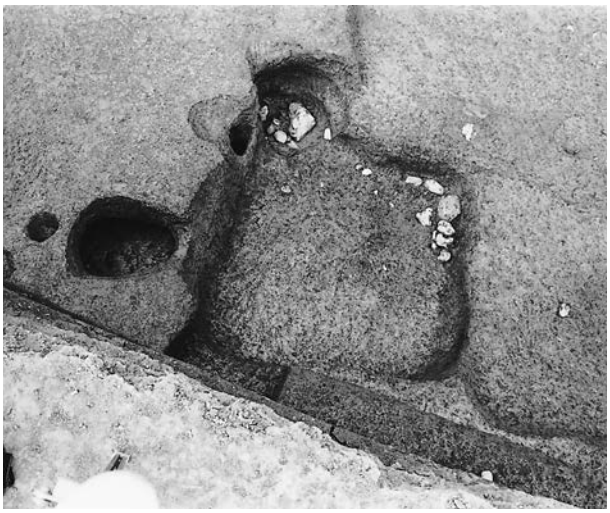
図版40　Ｓ３地区土器集中地点（右：同全体）

図版41　Ｓ５Ⅲ層有孔石製品の出土状況

図版42　Ｓ５地区29～31号竪穴検出状況

図版43　Ｐ地区全景（左：西から　右：東から）

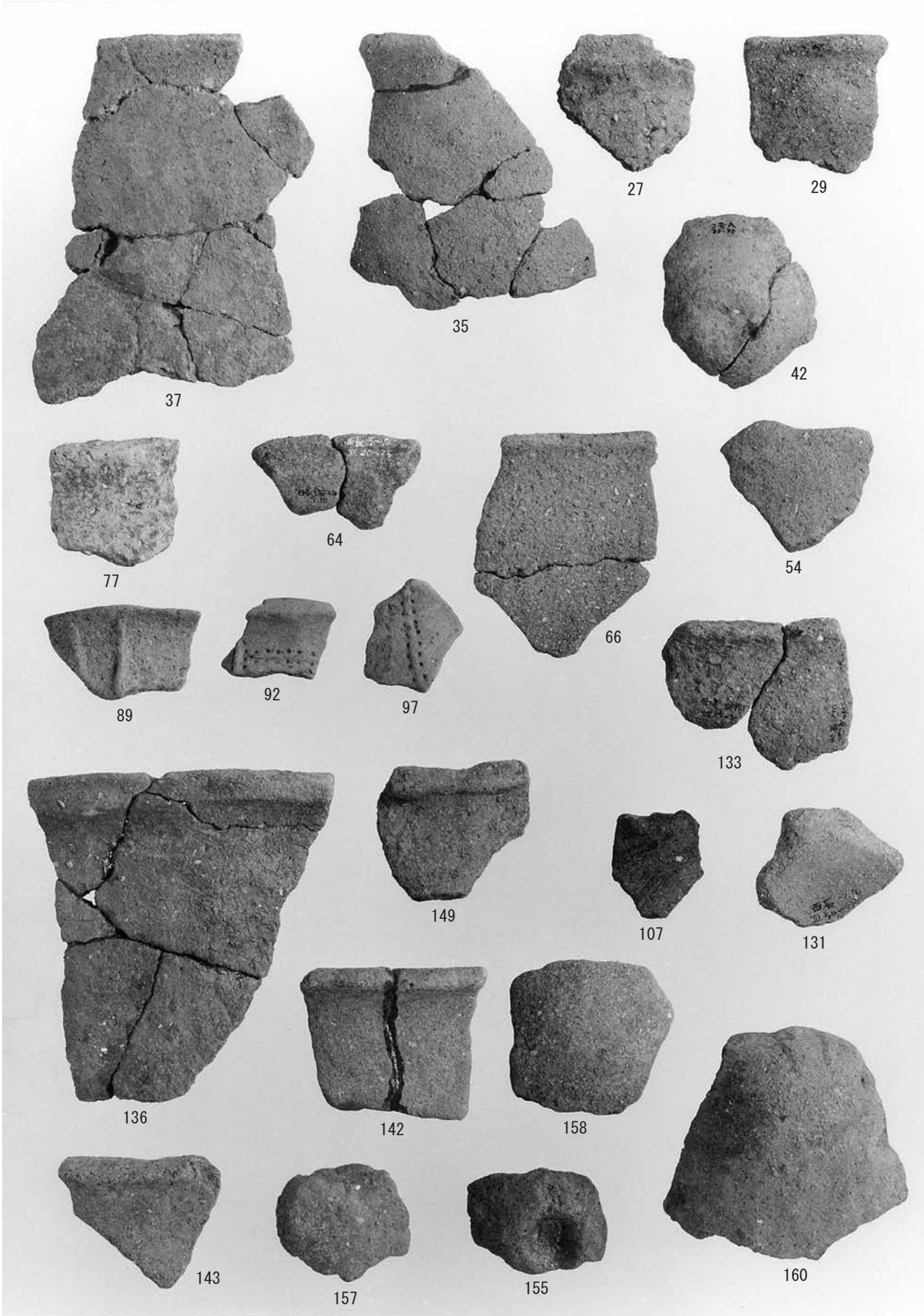
図版44　Ｐ地区竪穴検出面



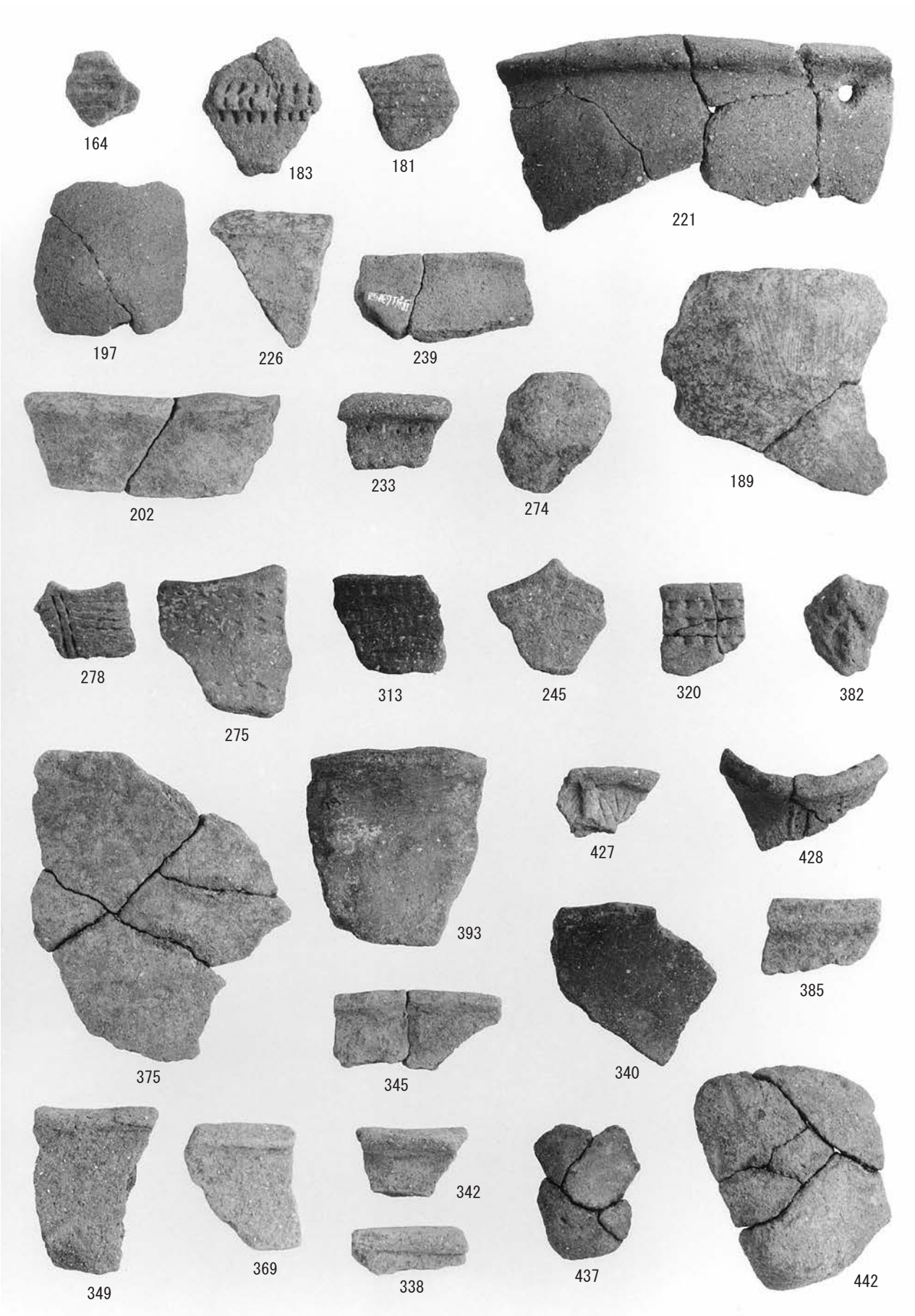
図版45　Ｐ地区17号竪穴検出面

図版46　Ｐ地区18号竪穴検出面

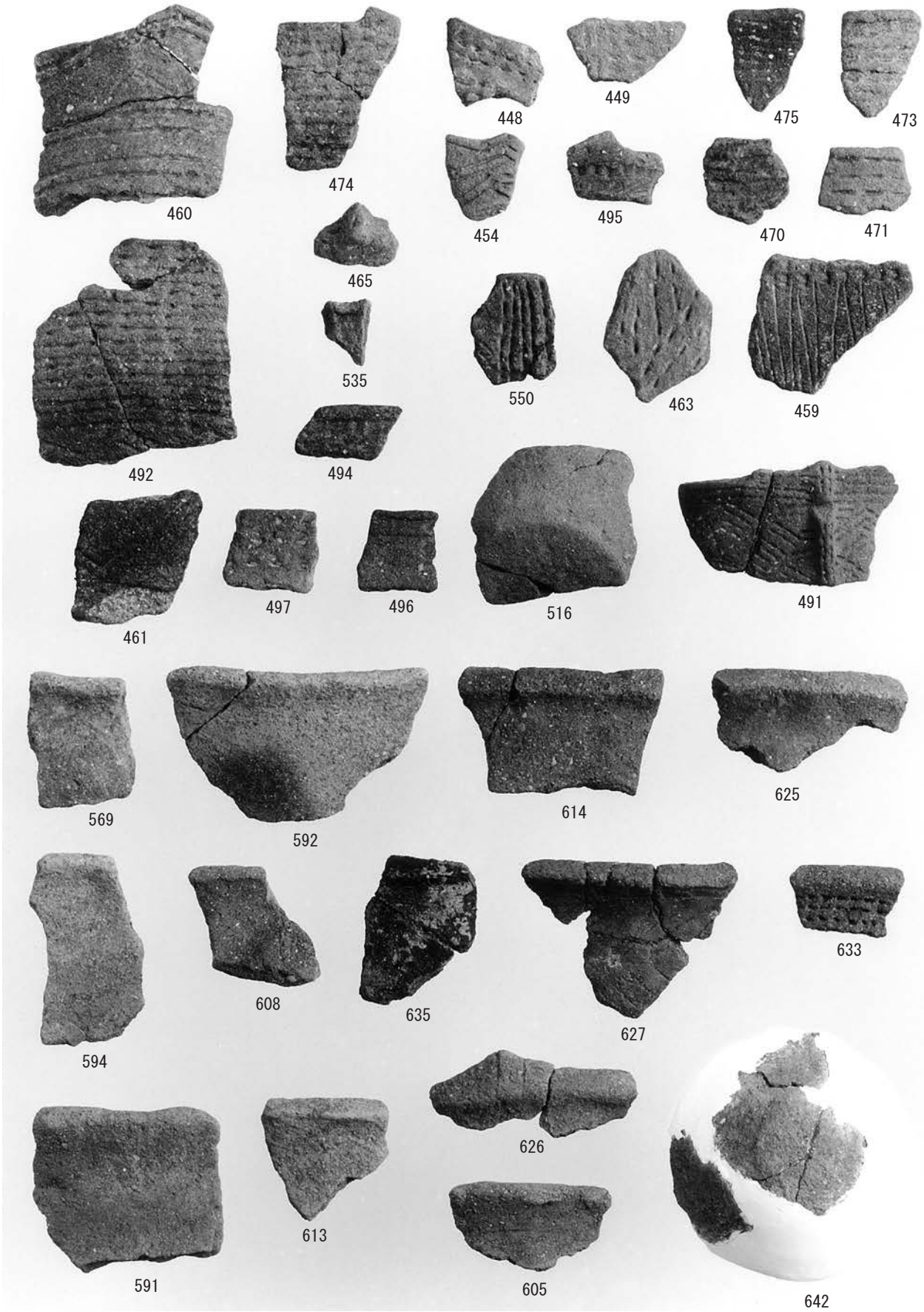
図版47　Ｐ地区17－Ａ号遺構



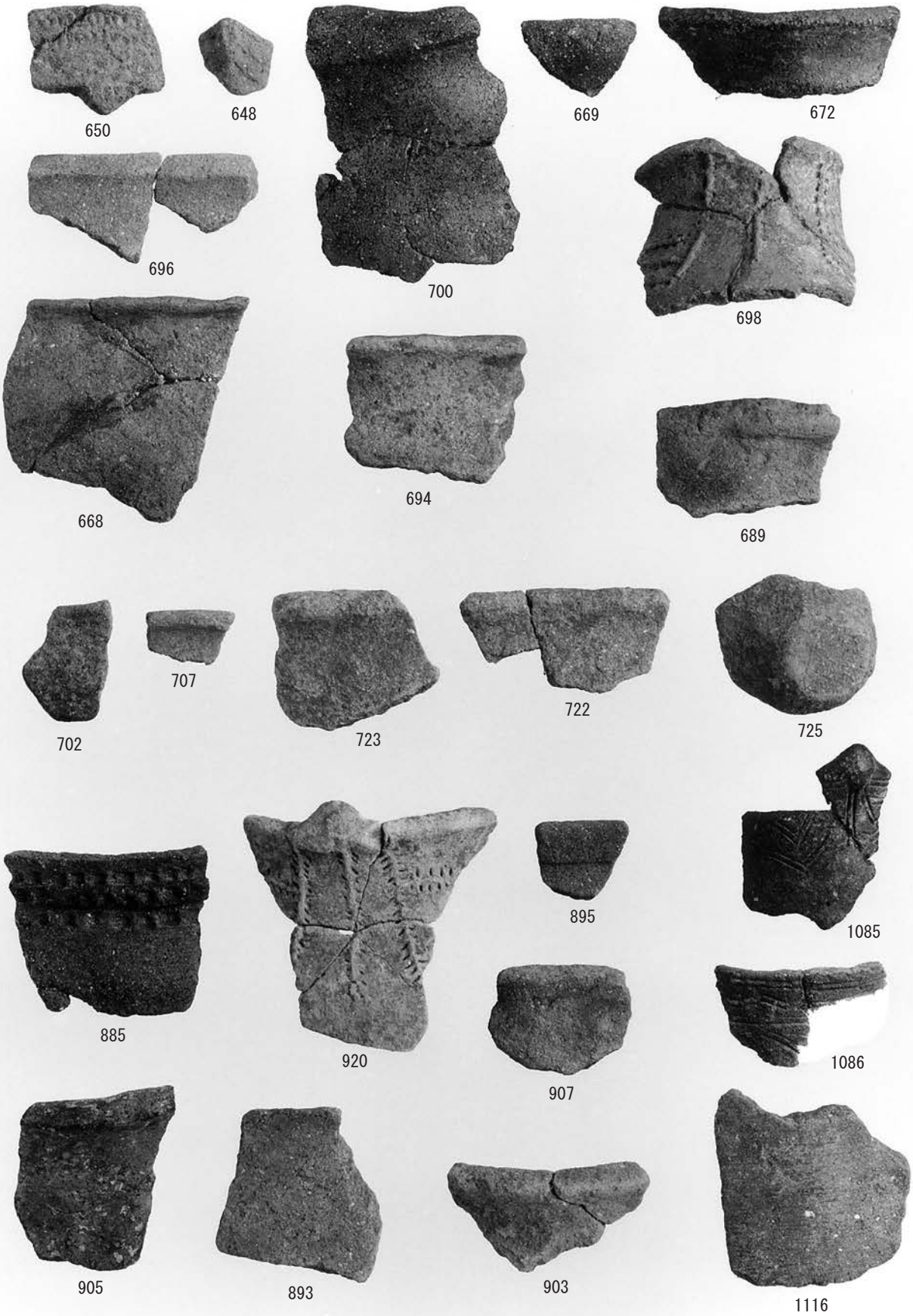
図版48　１次地区出土土器（１）２号（27～42）、３号（54～97）、４号（107～133）、５号（136～160）



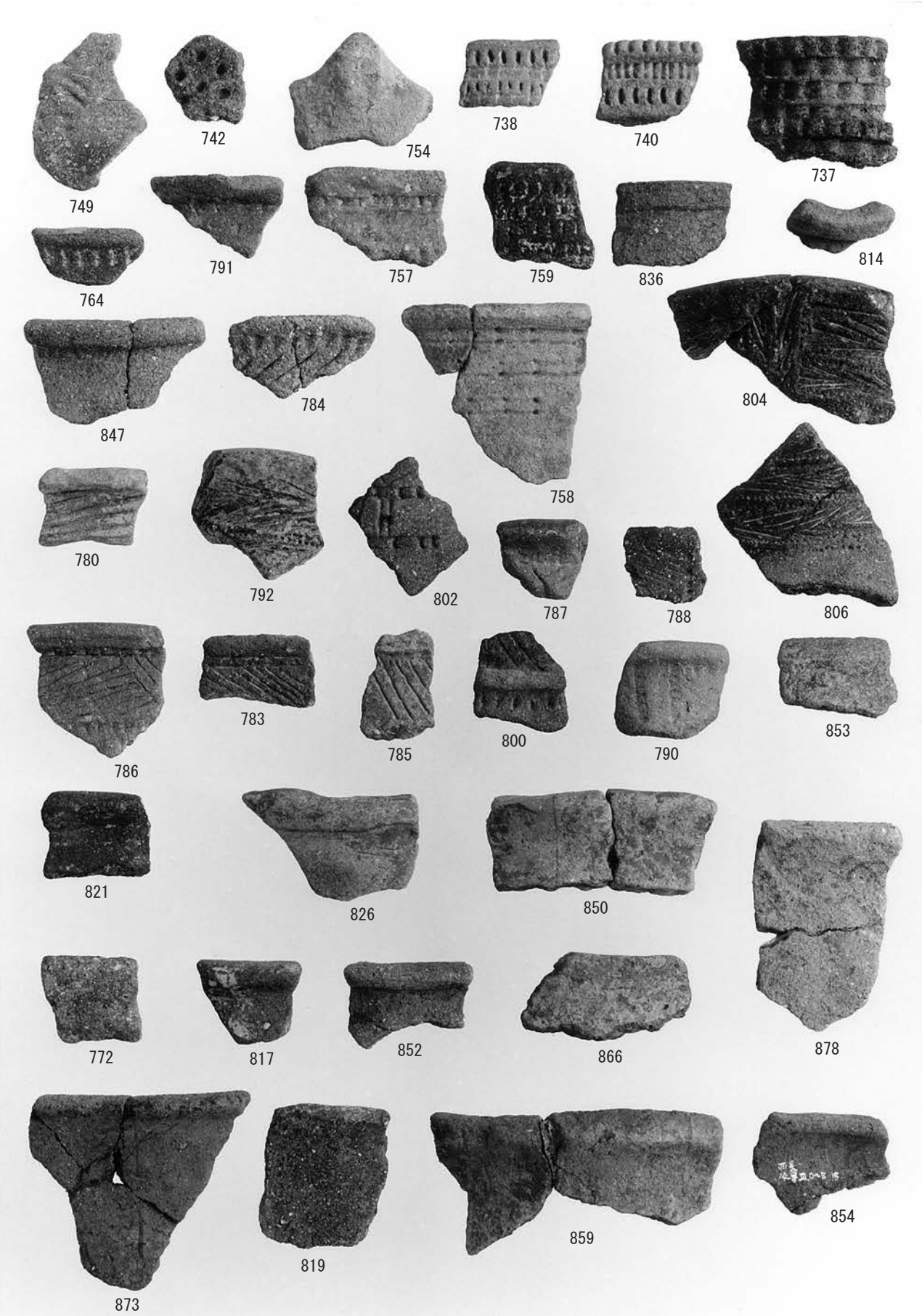
図版49　１次地区出土土器（２） ７号（164～274）、８－１号（275～442）



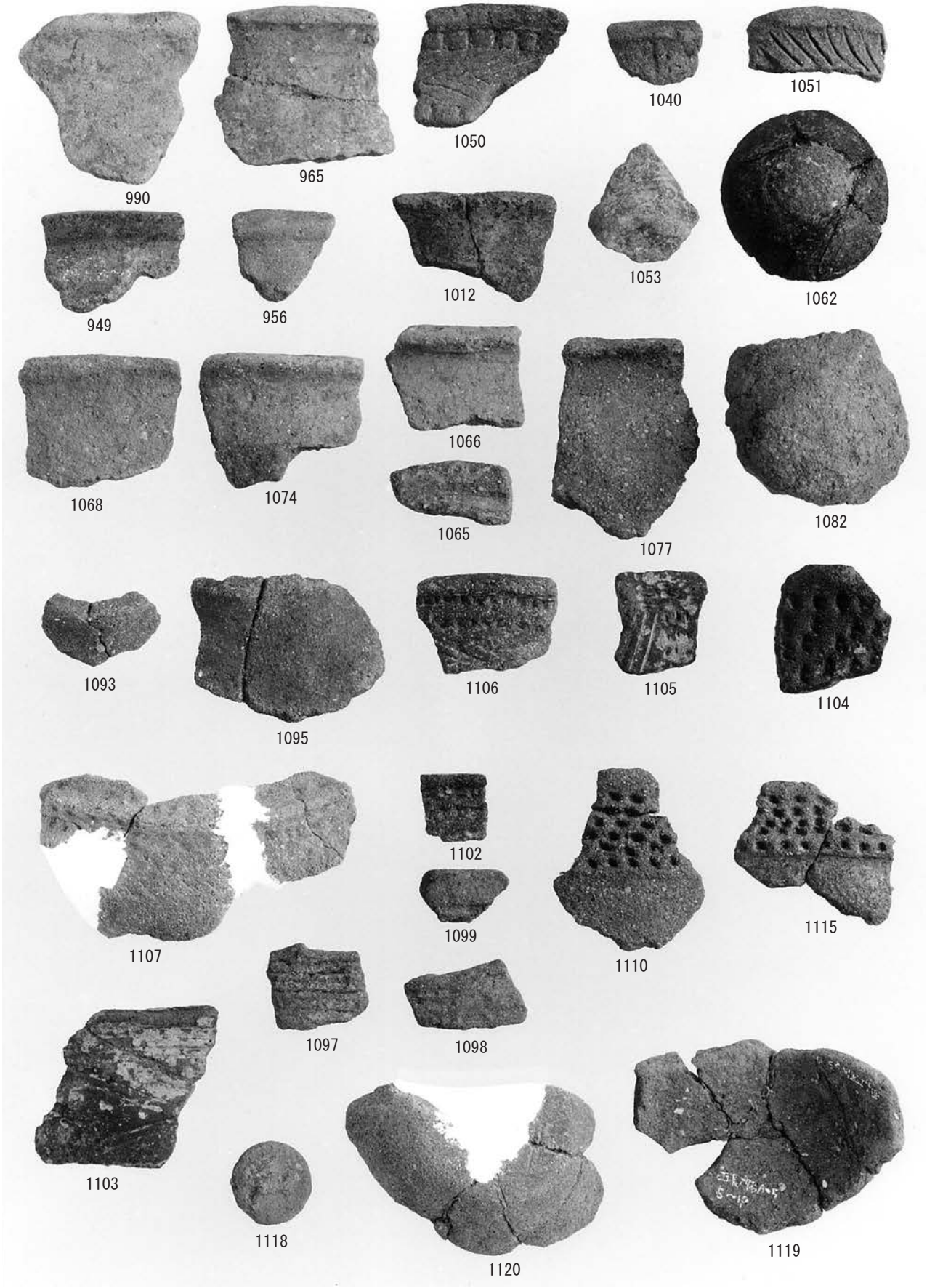
図版50　１次地区出土土器（３）８－２号（448～535）、８－３号（550～642）



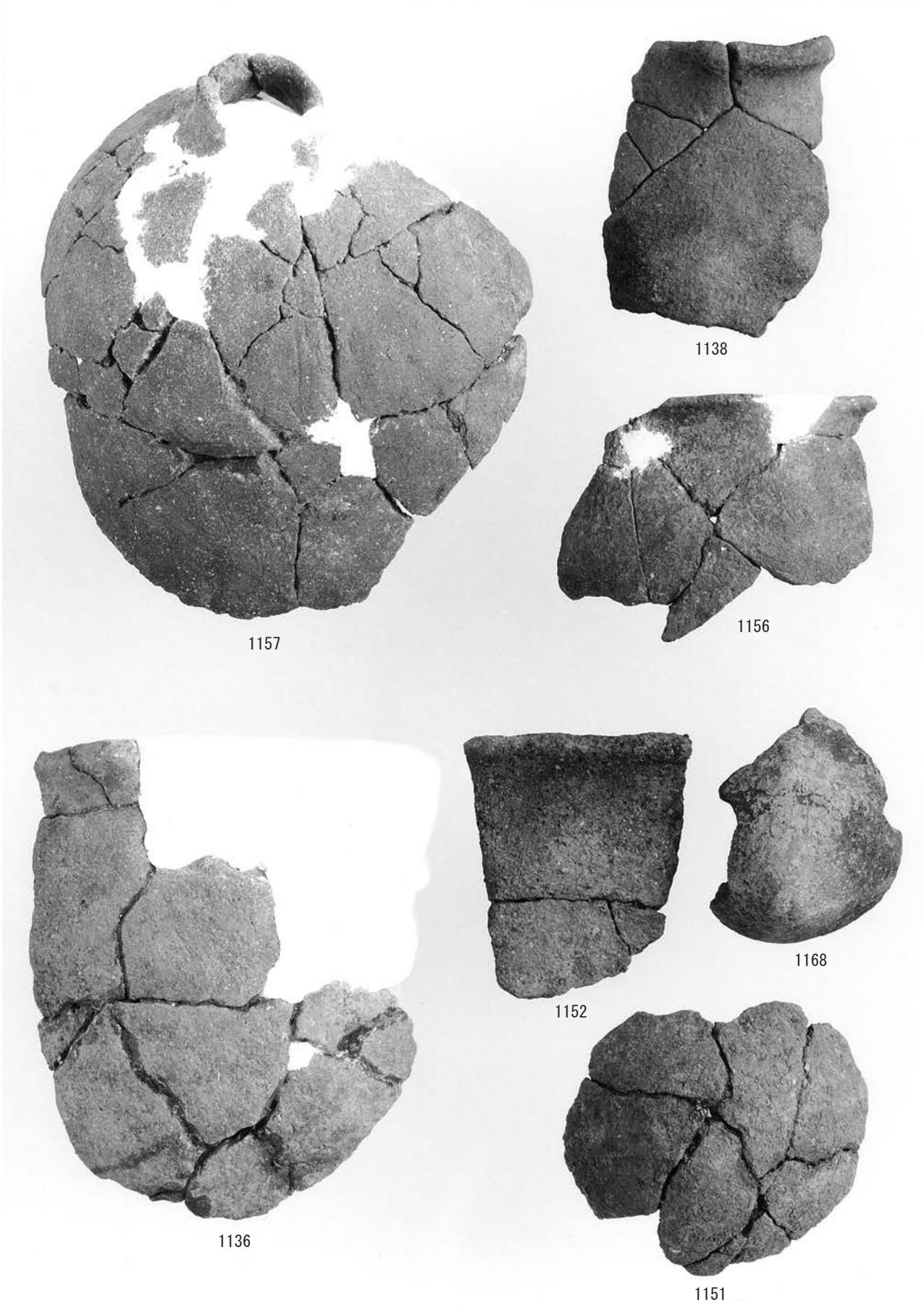
図版51　１次地区出土土器（４） ９号（648～700）、10号（702～725）、15号（885～920）
26号（1085・1086）、27号（1116）



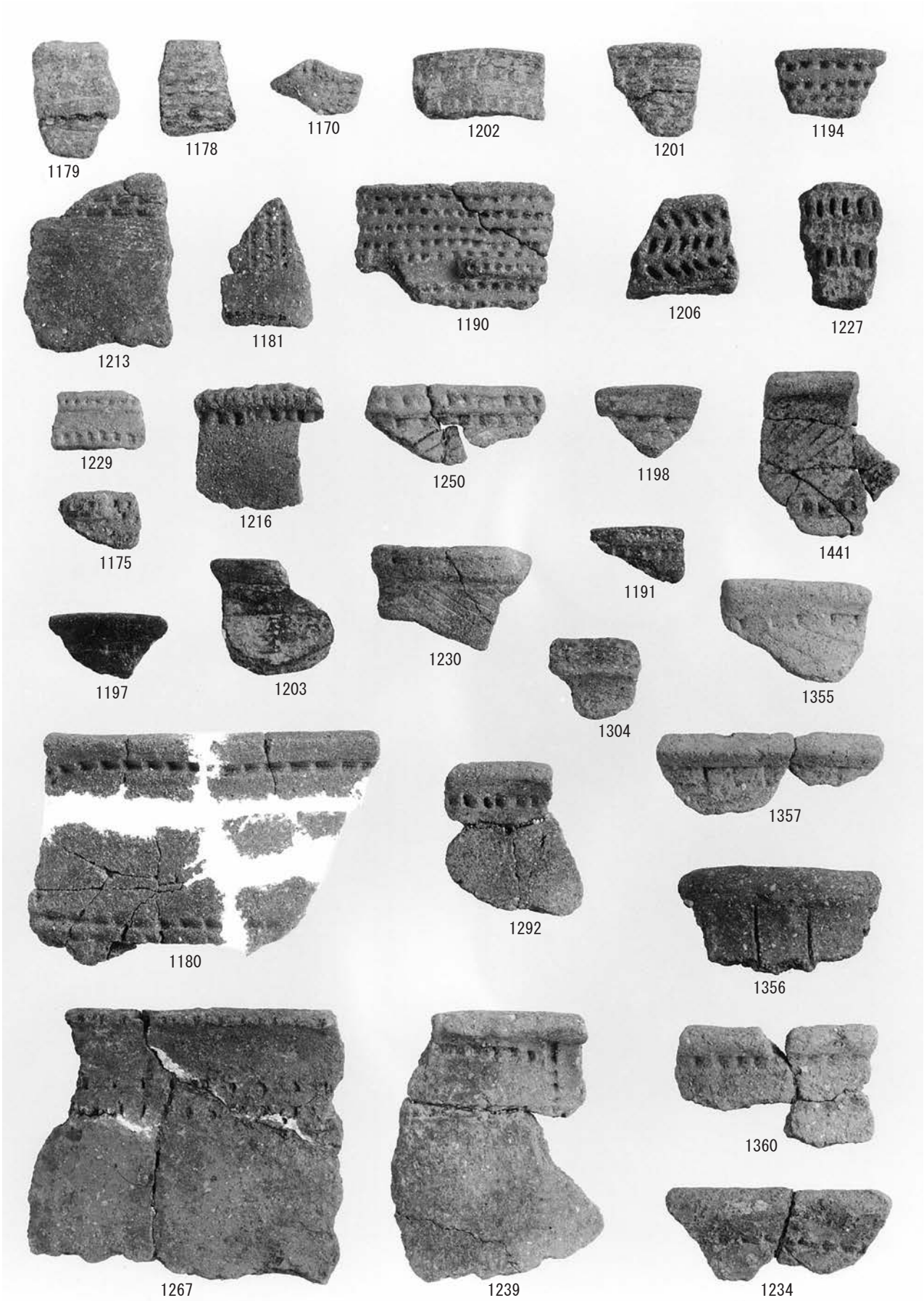
図版52　１次地区出土土器（５）14号



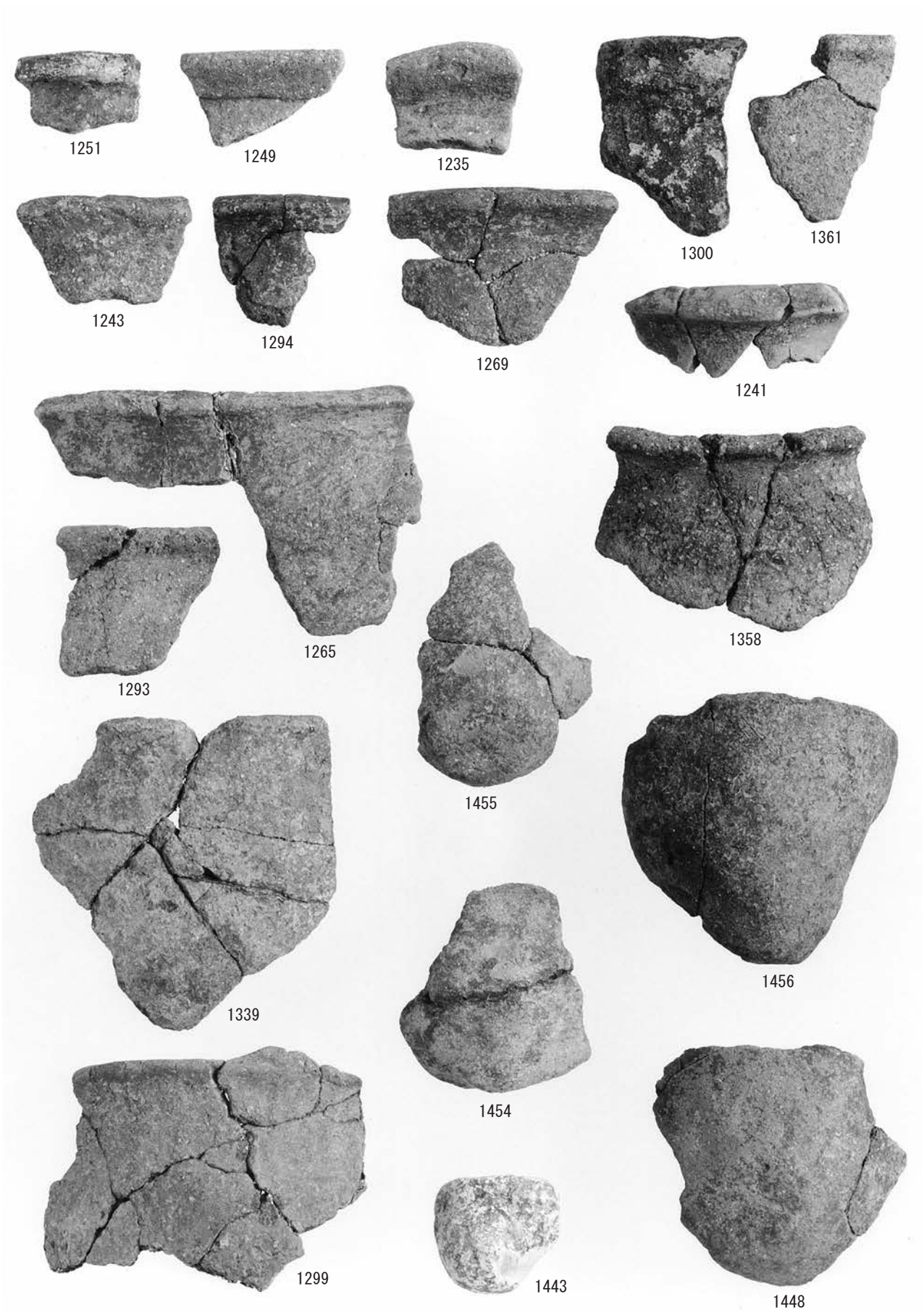
図版53　１次地区出土土器（６）18号（949～1062）、22号～24号（1065～1082）
27号（1093～1120）



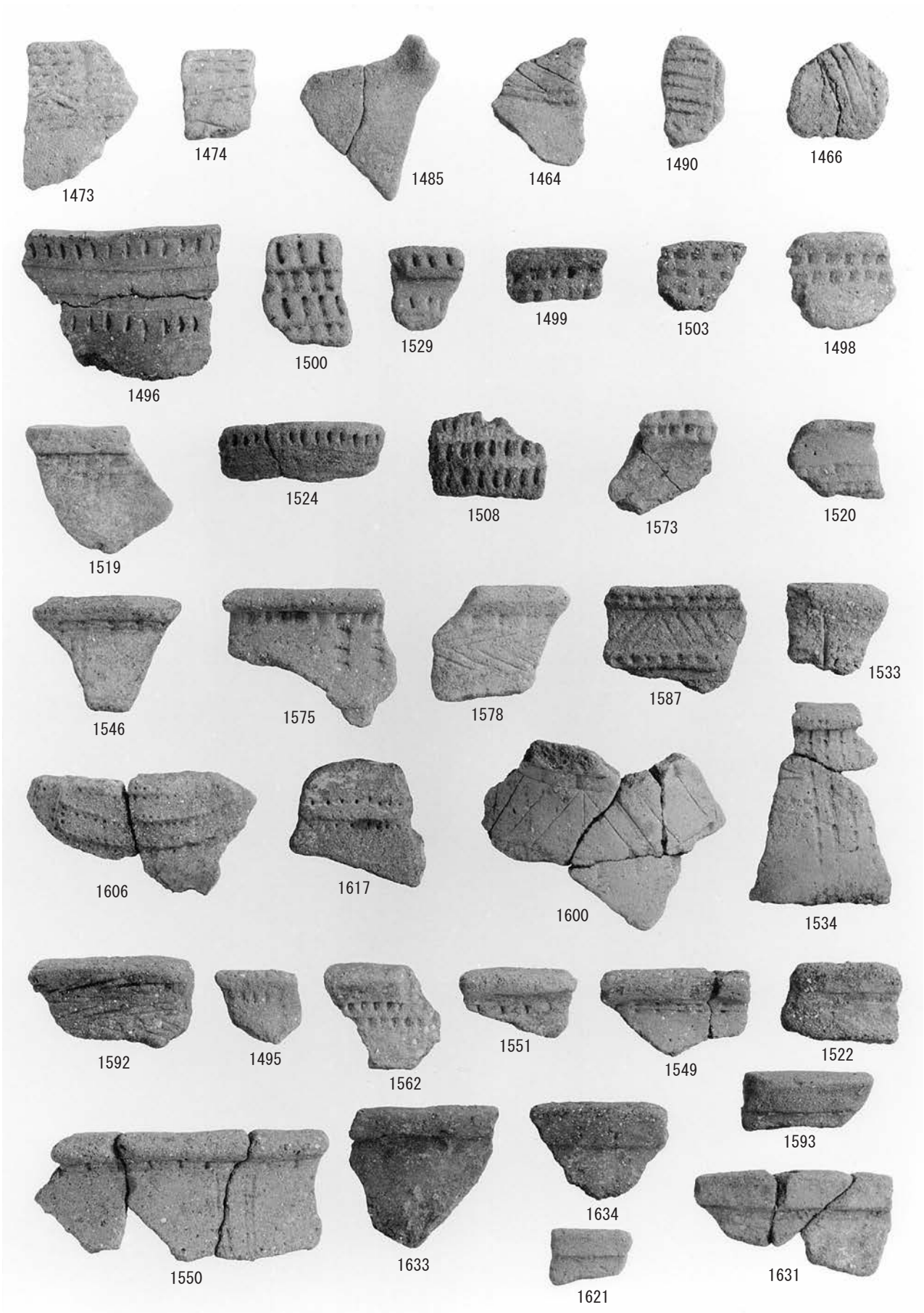
図版54　１次地区出土土器（７） Ⅱ・Ⅲ層（1136）、Ⅲ・Ⅳ層（1138～1151）、Ⅲ層（1152）
不明（1156～1168）



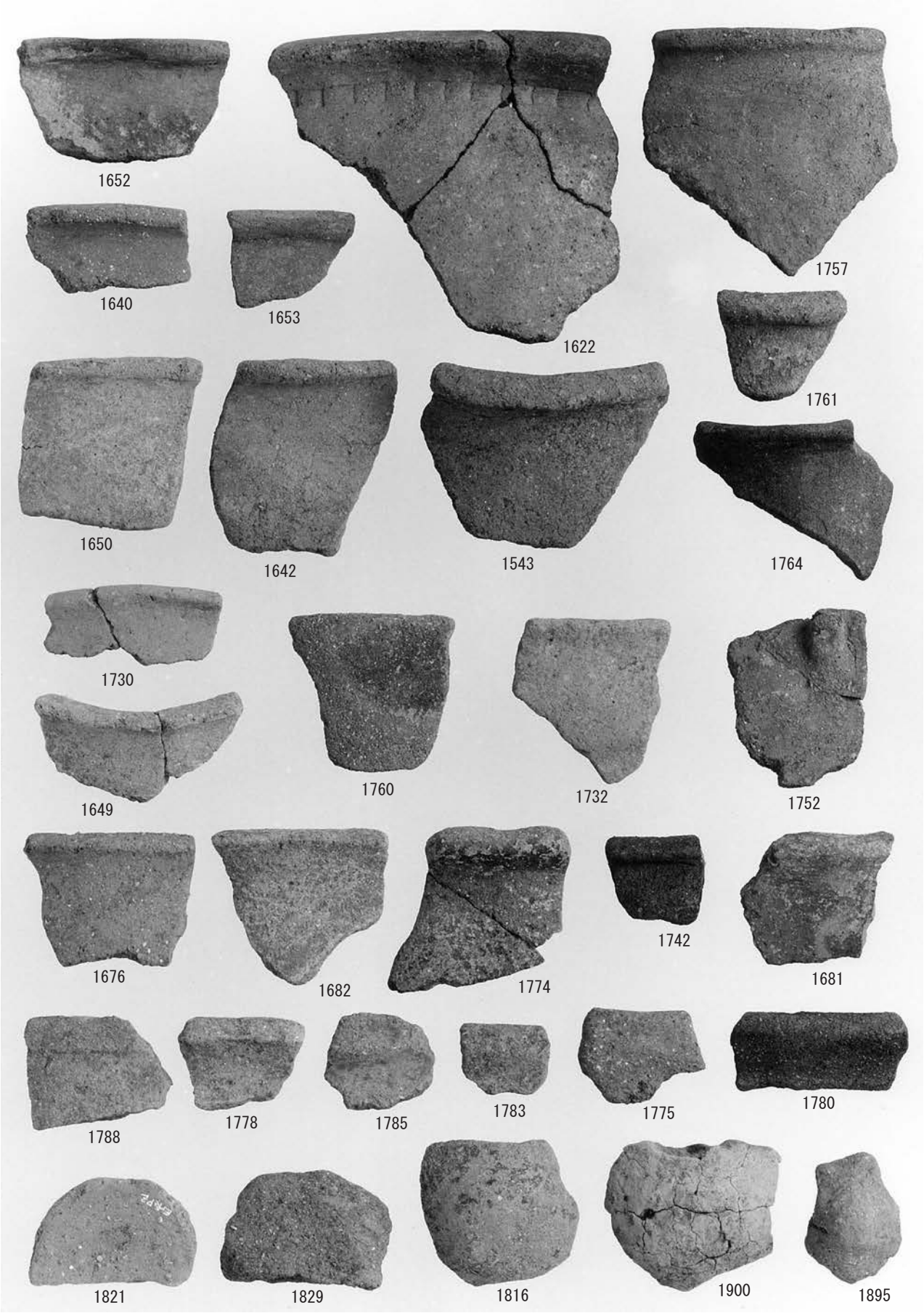
図版55　S地区出土土器（1）



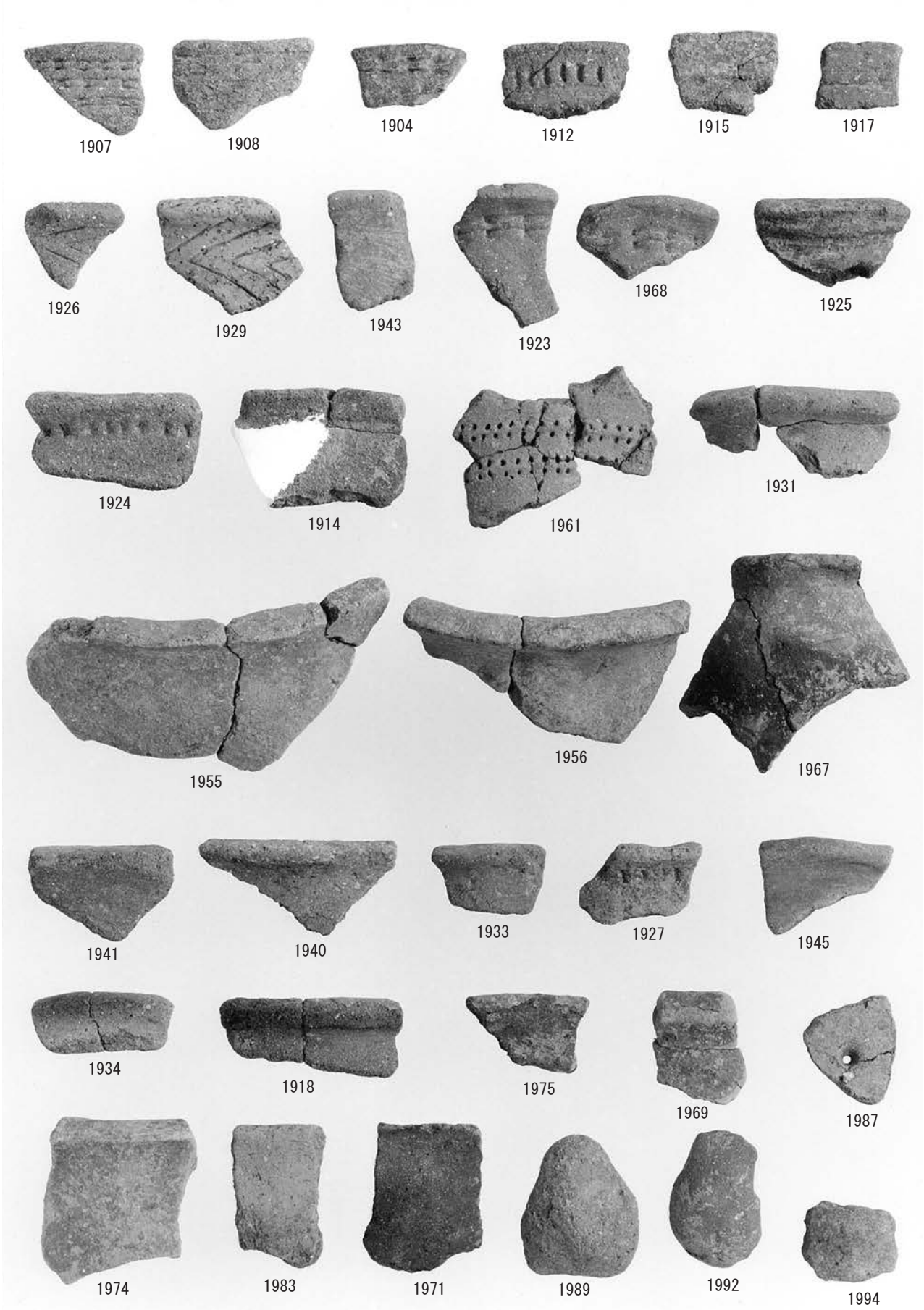
図版56　S地区出土土器（2）



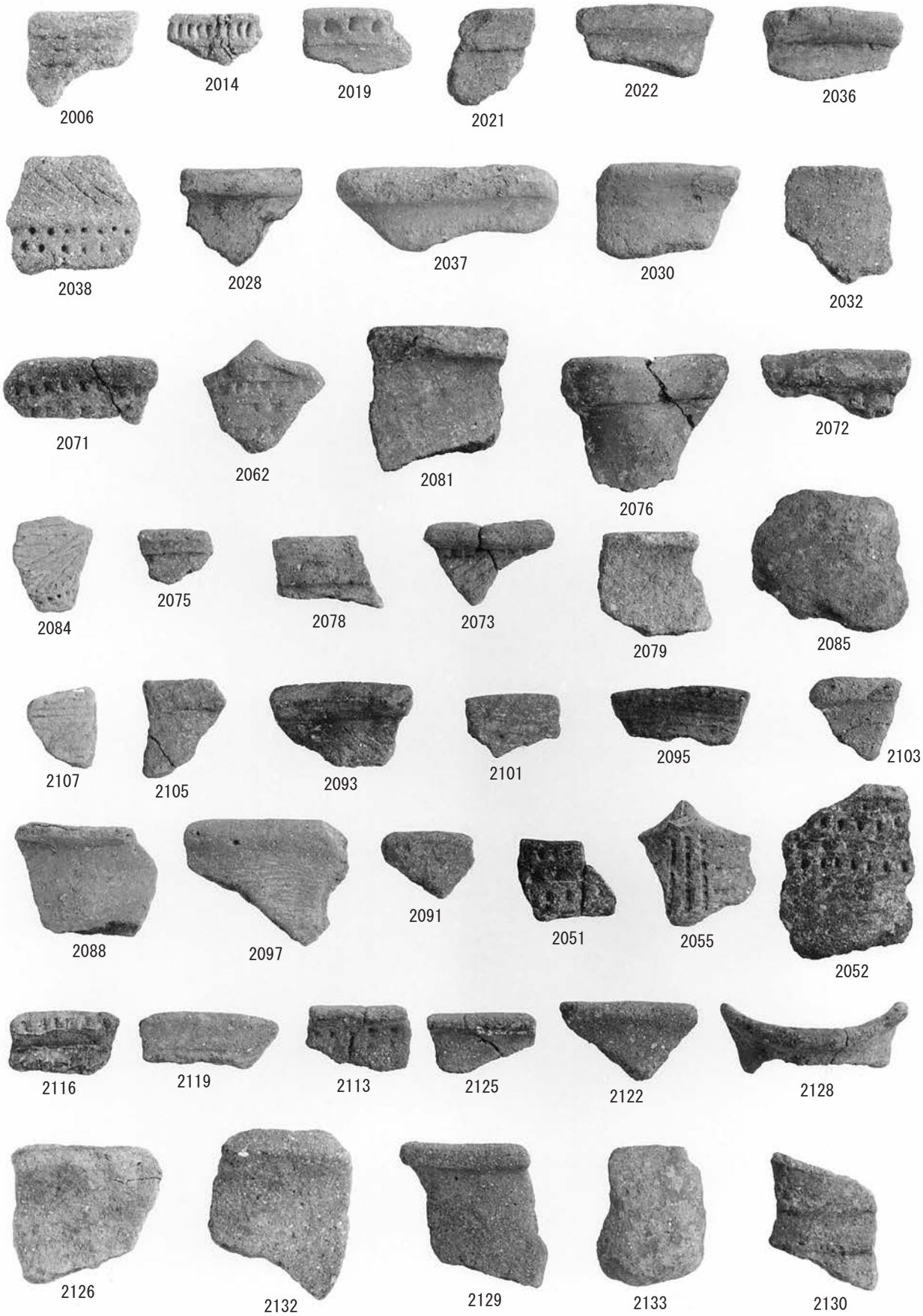
図版57　P地区出土土器（1）Ⅱ層



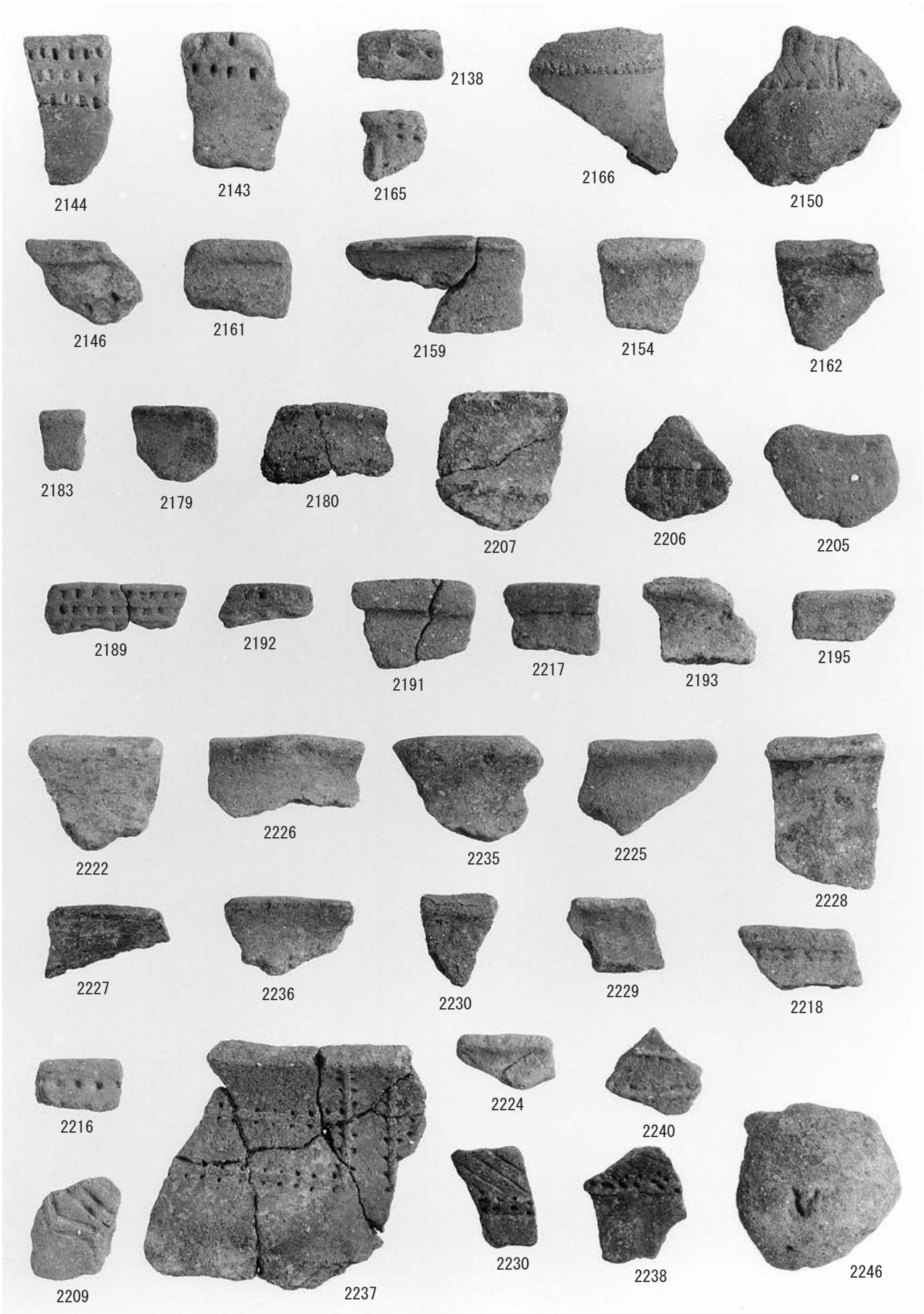
図版58　Ｐ地区出土土器（２）Ⅱ層



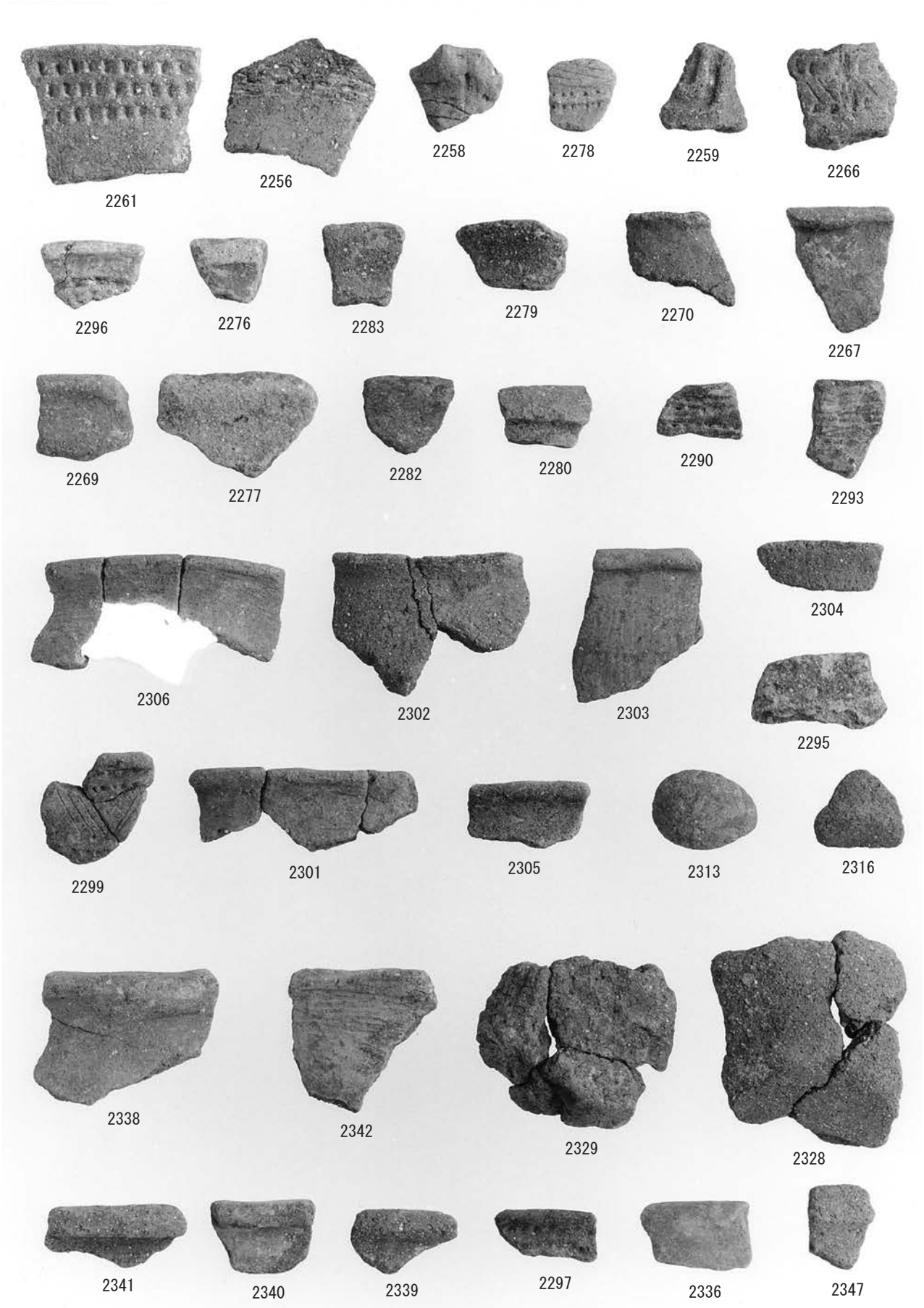
図版59　Ｐ地区出土土器（３）Ⅳ層



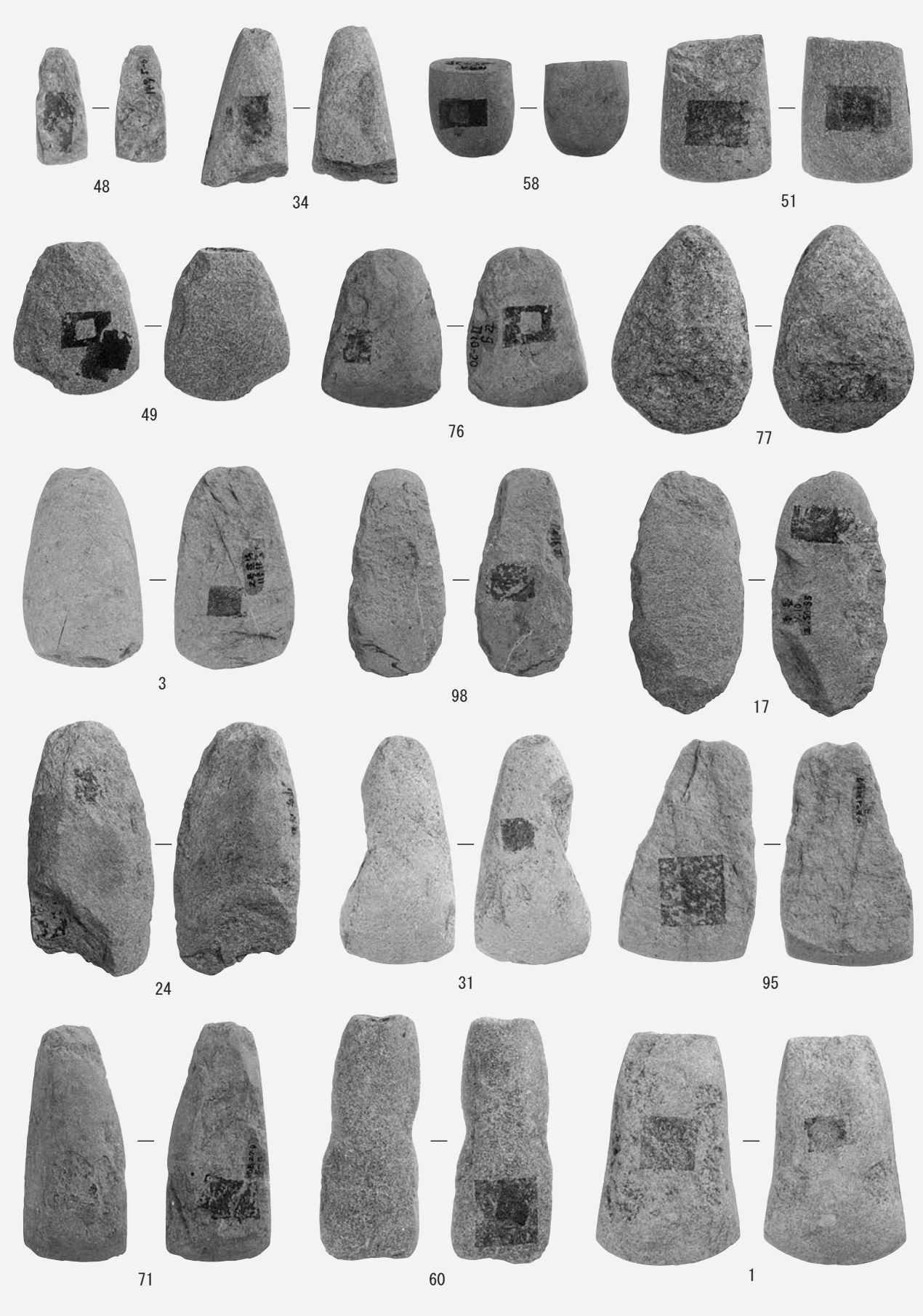
図版60　Ｐ地区出土土器（４） １号（2006～2038）、５号（2051～2055）、２号（2062～2085）
４号（2088～2107）、８号（2116～2133）



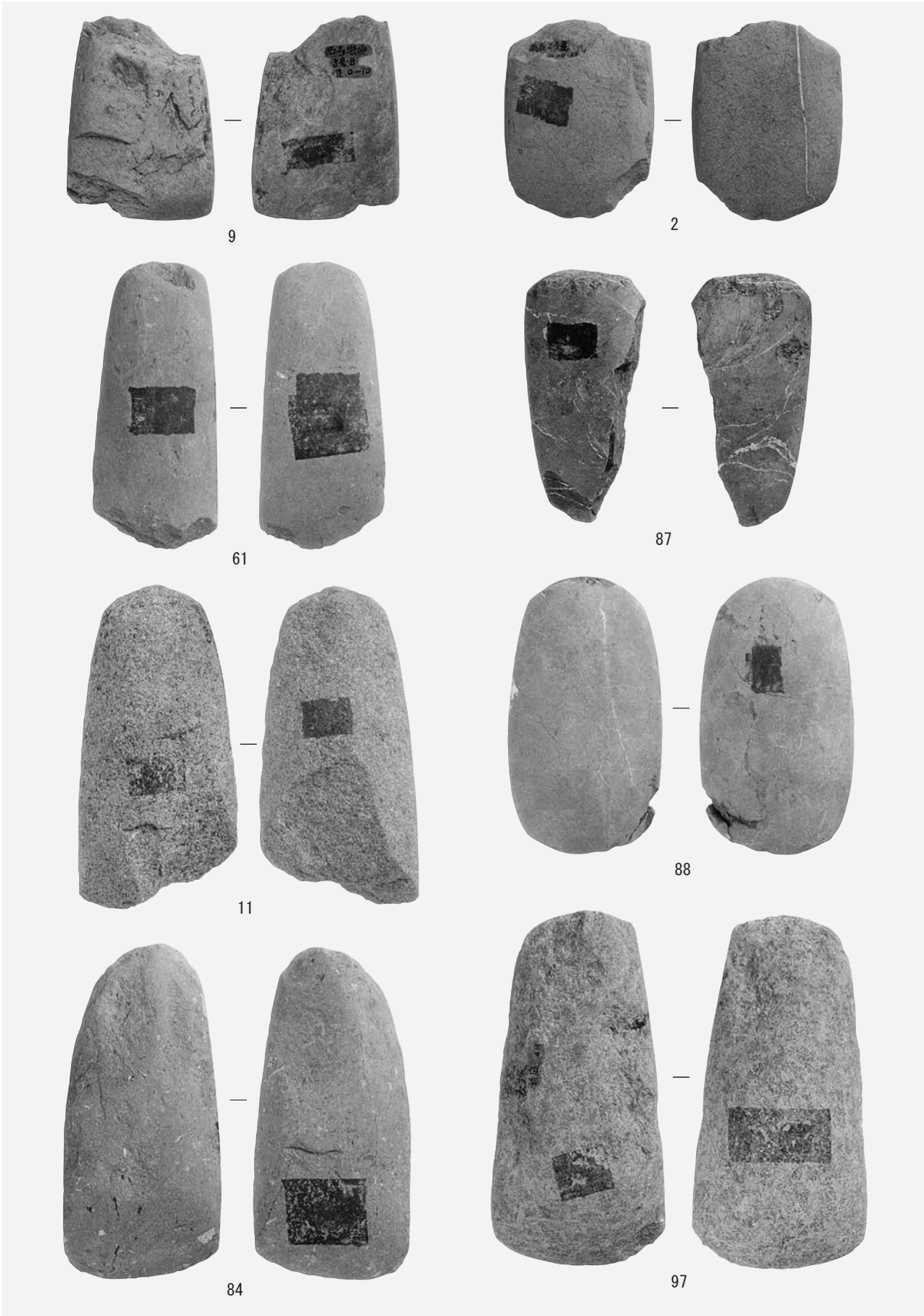
図版61　P地区出土土器（5） 9号（2138～2166）、10号（2179～2183）、12号（2189～2195）16号（2205～2207）、17号（2209～2246）



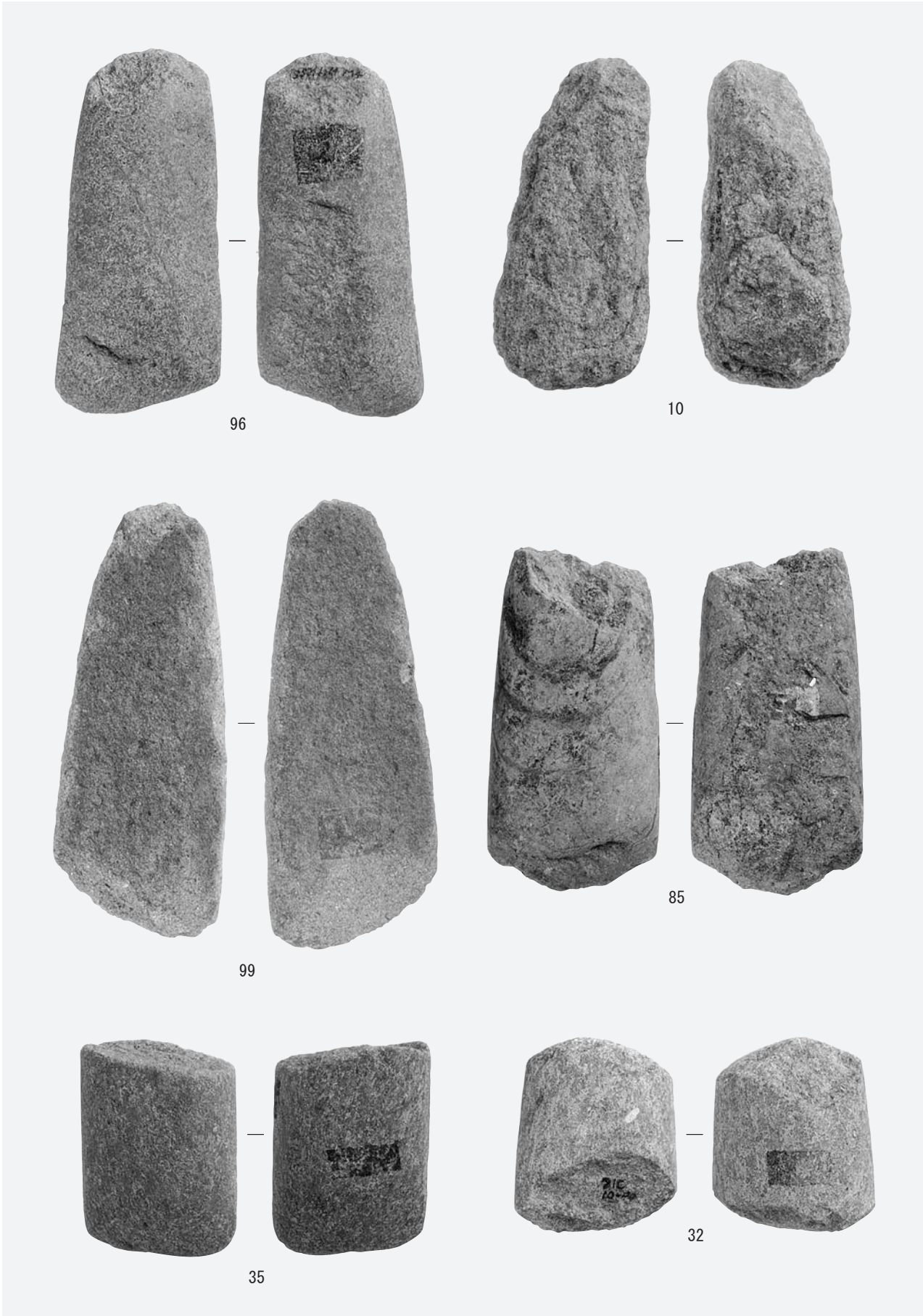
図版62　P地区出土土器（6）19号（2256～2283）、20号（2290～2316）、23号（2328・2329）28号（2336～2347）



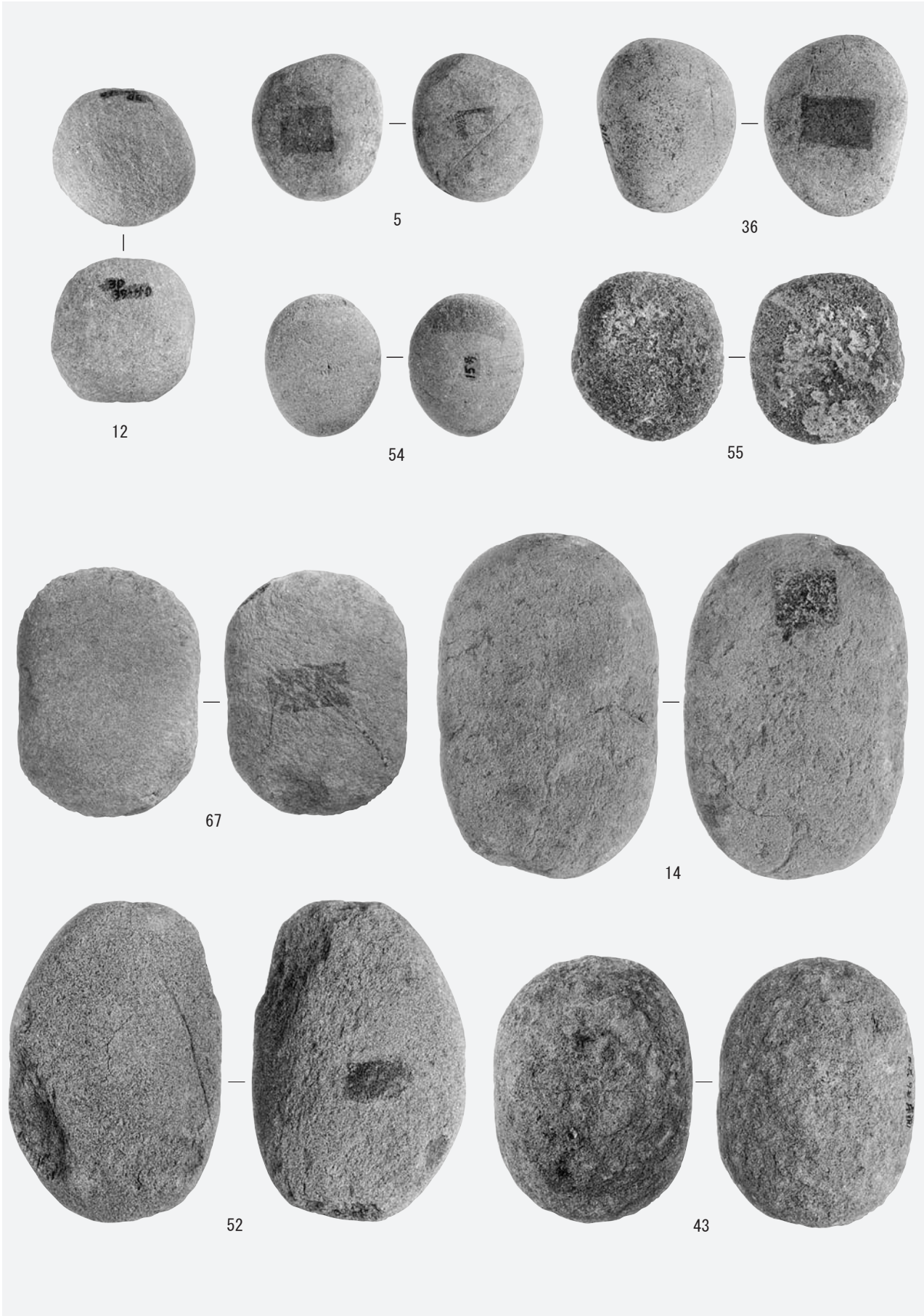
図版63　１次地区出土石器（１）



図版64　１次地区出土石器（２）



図版65　１次地区出土石器（３）

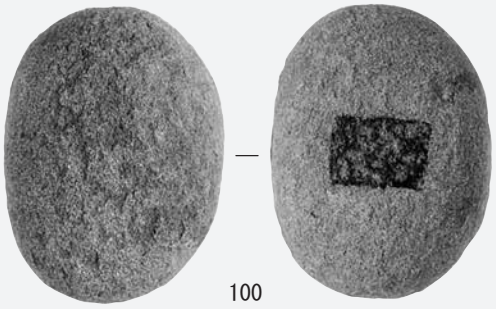


図版66　１次地区出土石器（４）

89

41

8



100

23

56

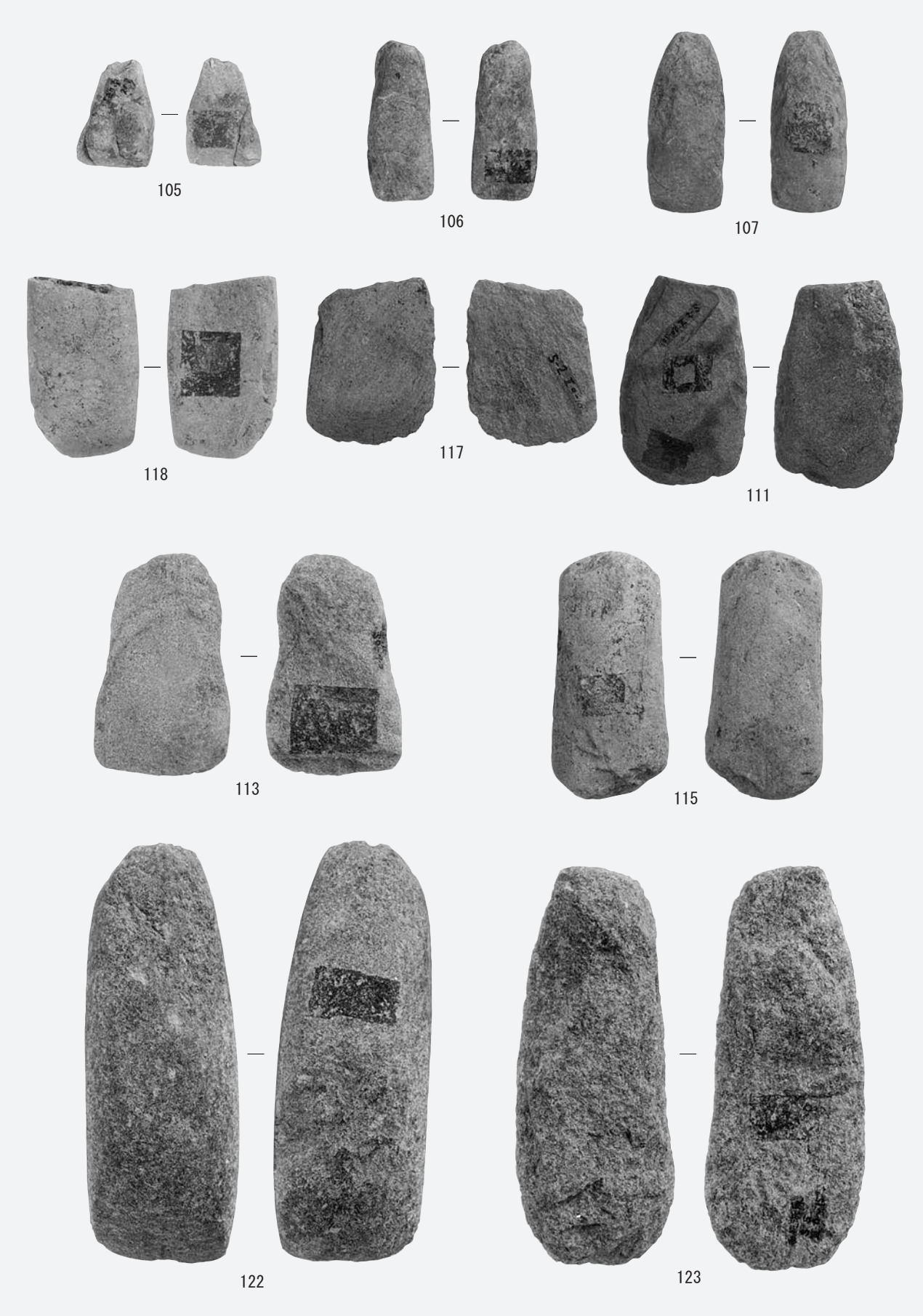
図版67　１次地区出土石器（５）

図版68　１次地区出土石器（６）

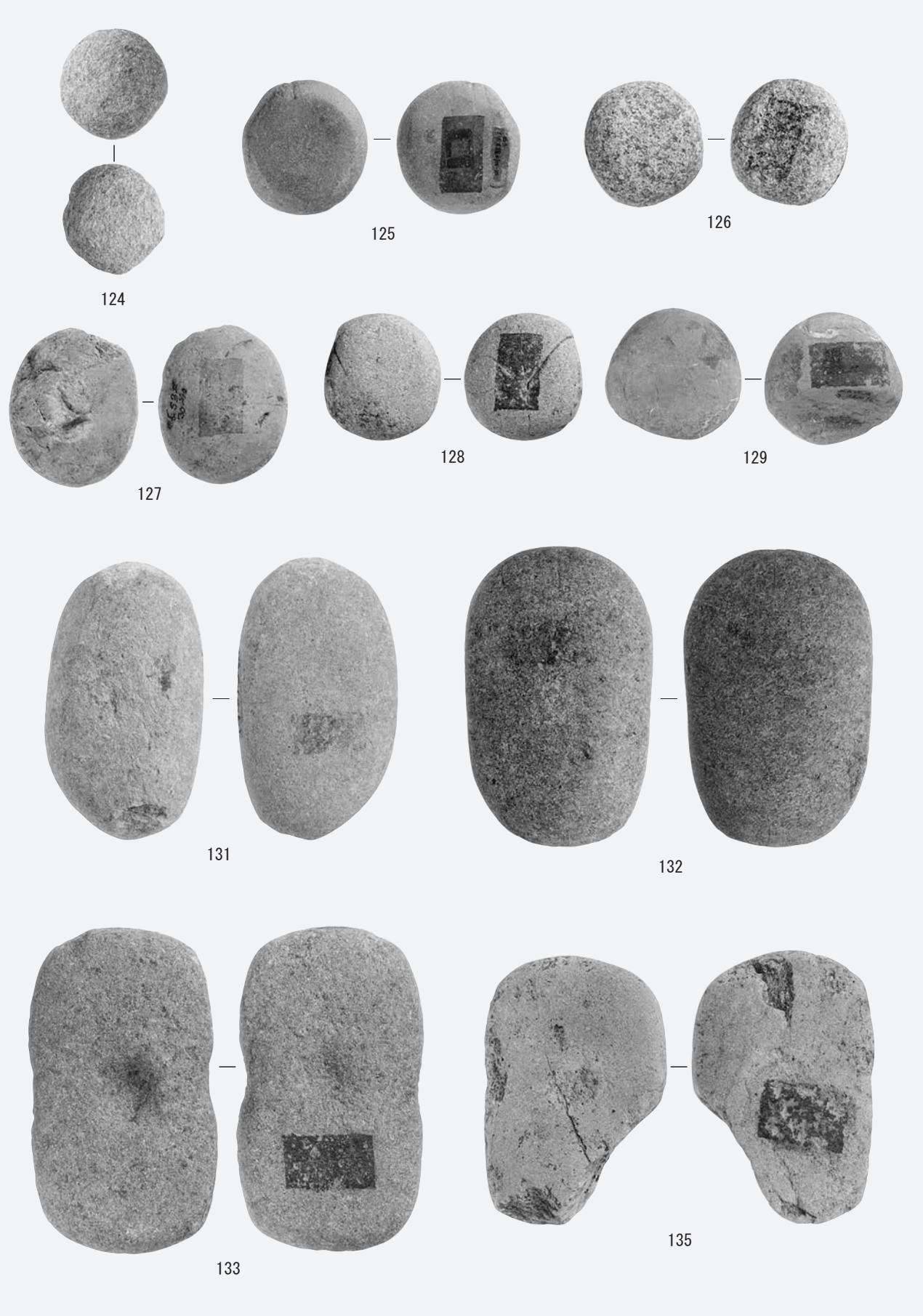
103

104

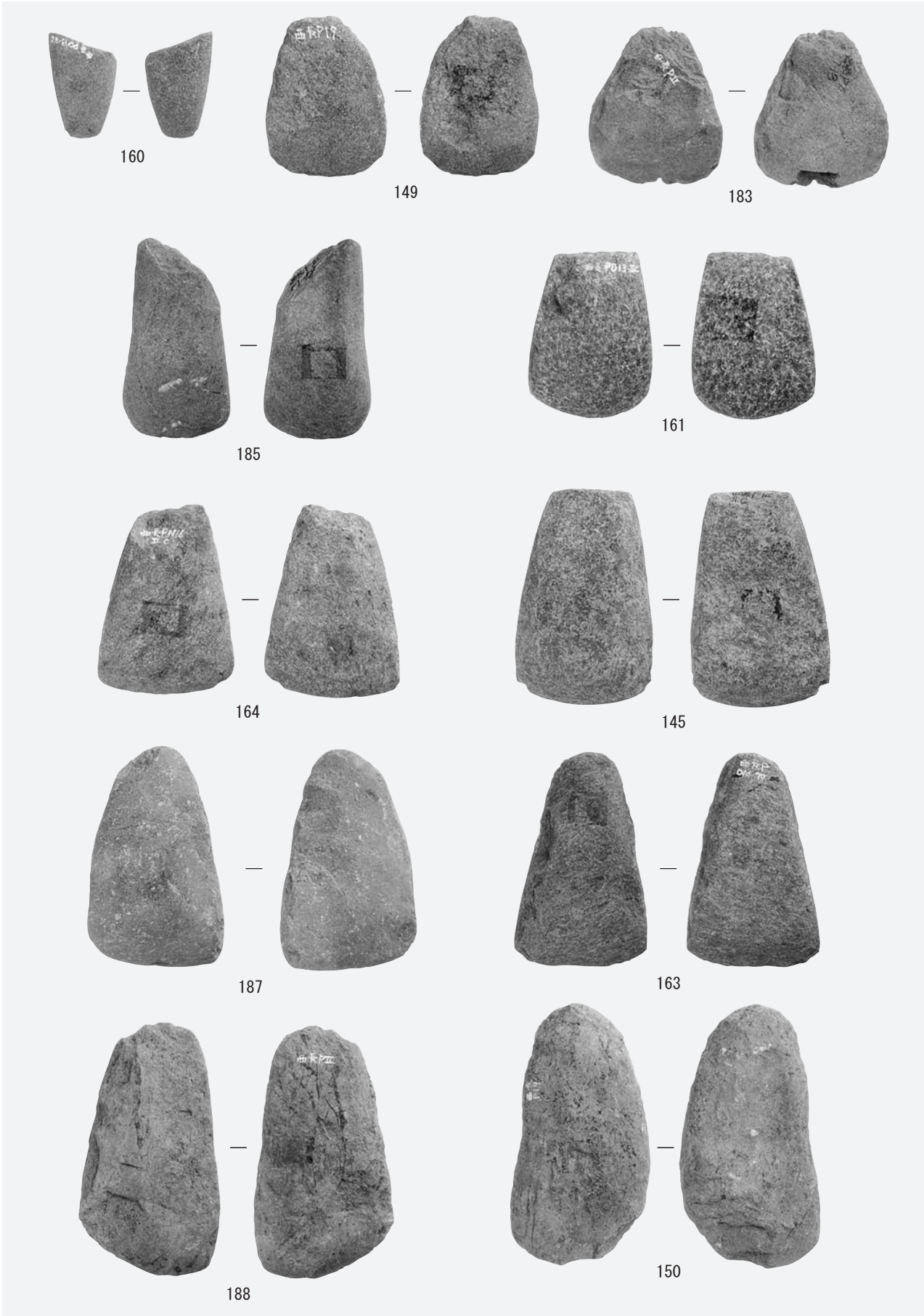
図版69　１次地区出土石器（７）



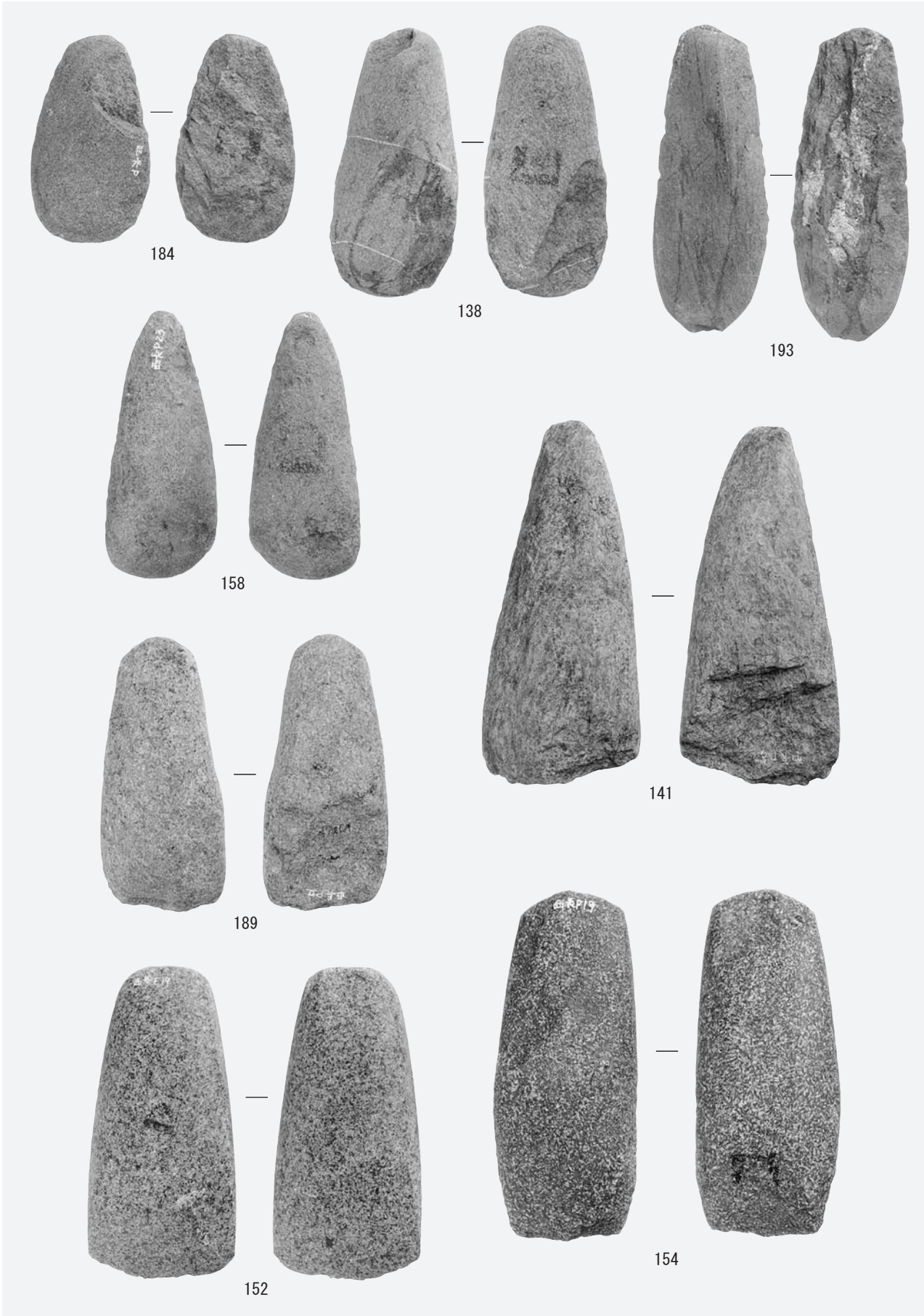
図版70　S地区出土石器（1）



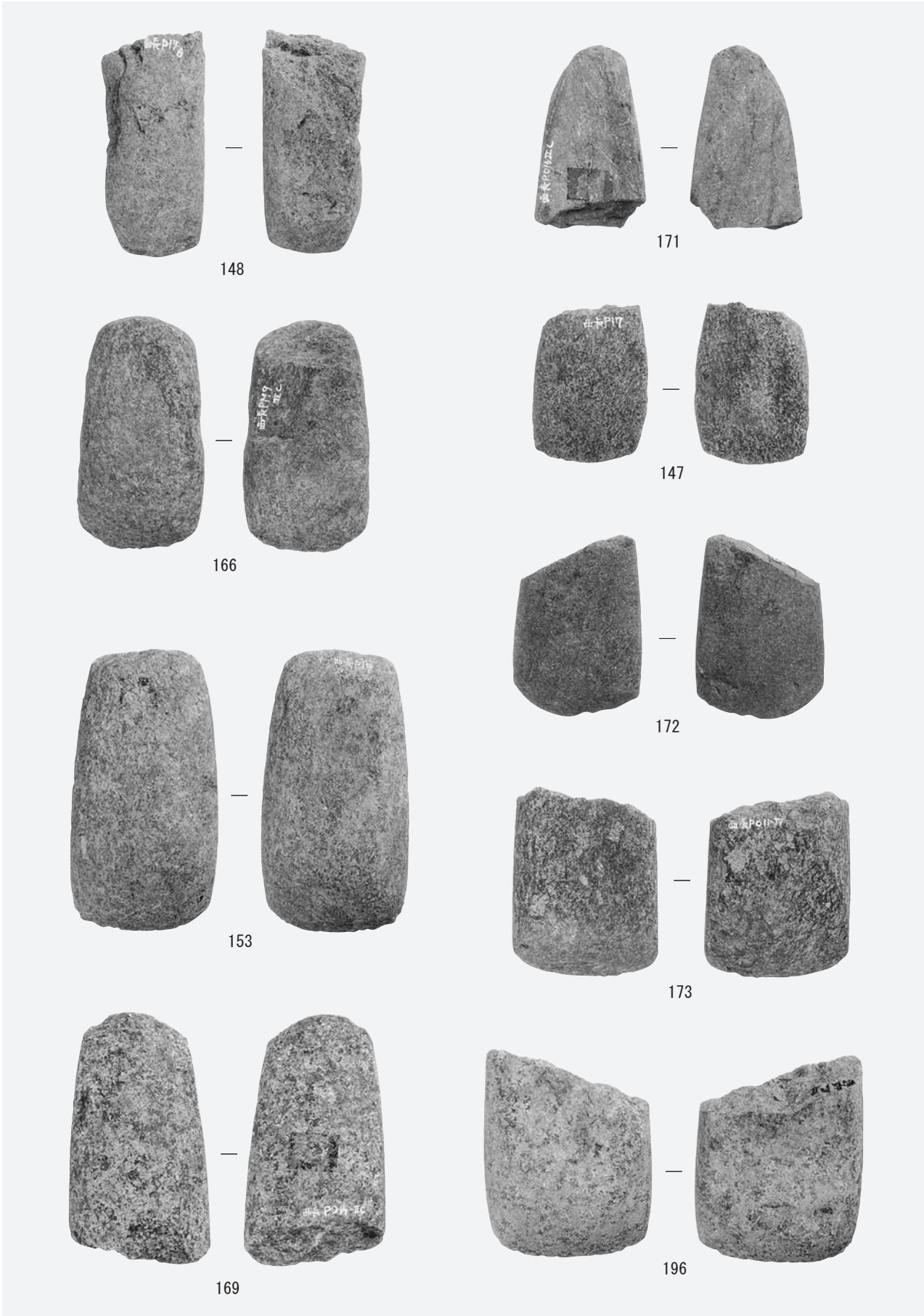
図版71　Ｓ地区出土石器（２）



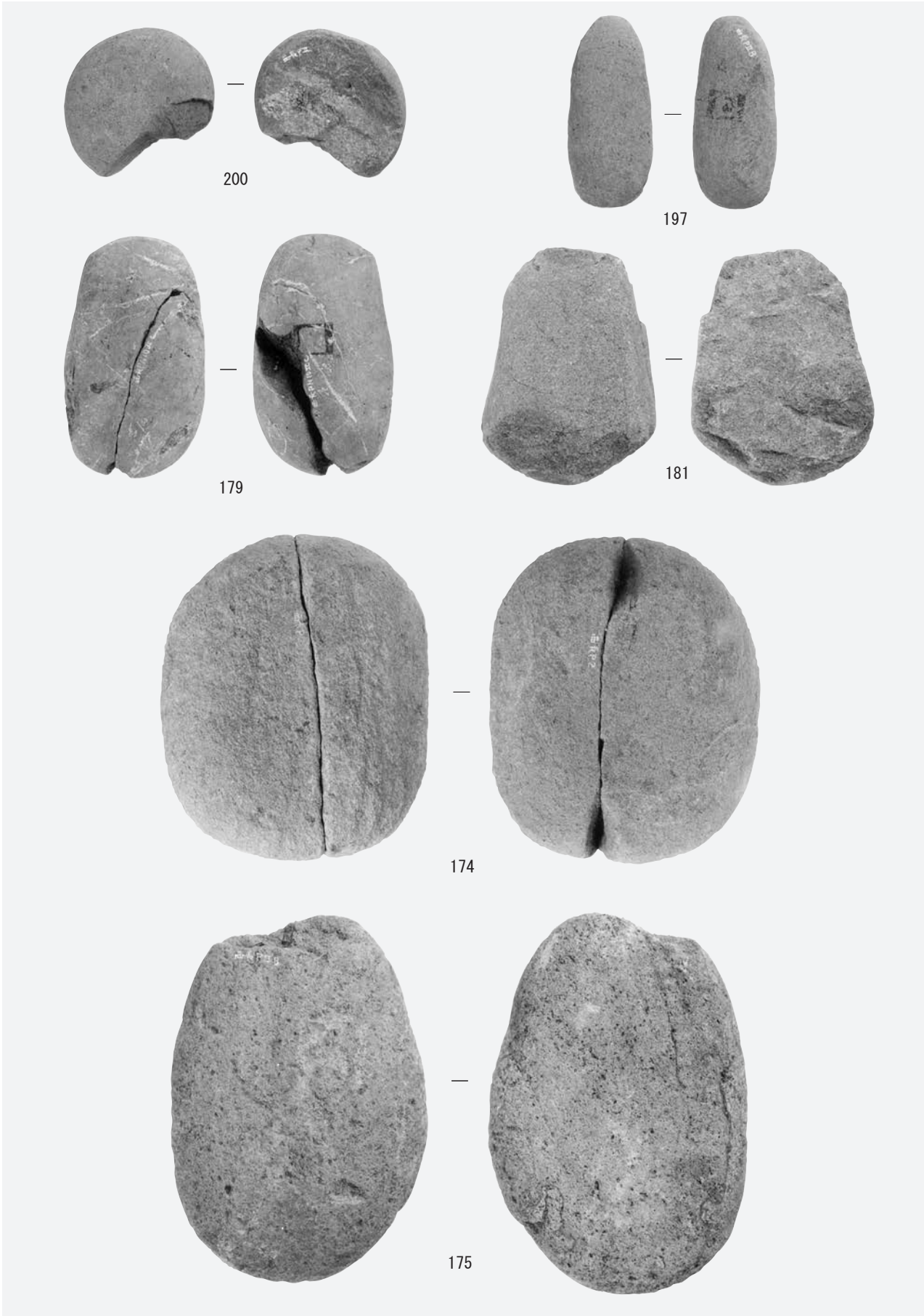
図版72　Ｐ地区出土石器（1）



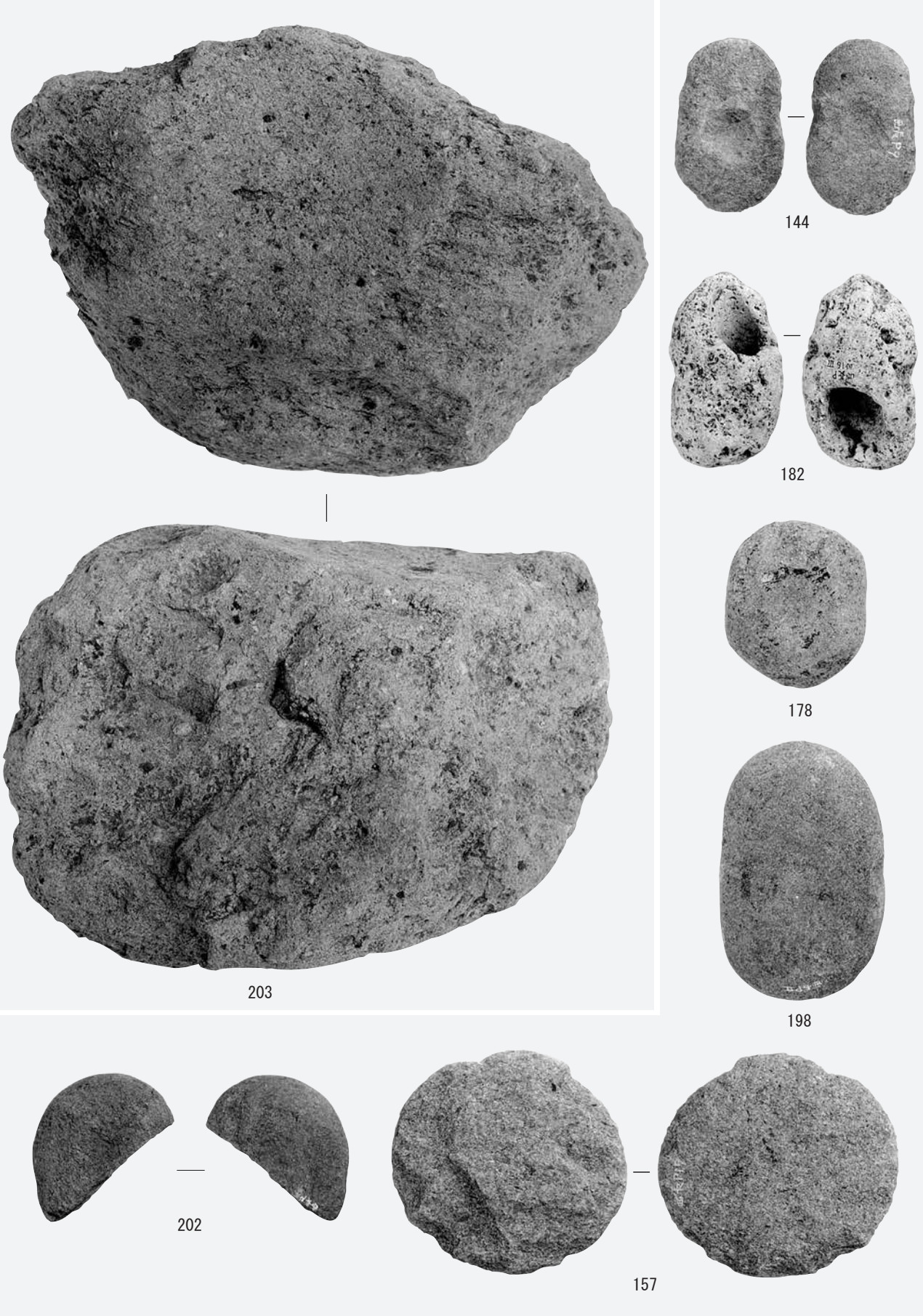
図版73　Ｐ地区出土石器（２）



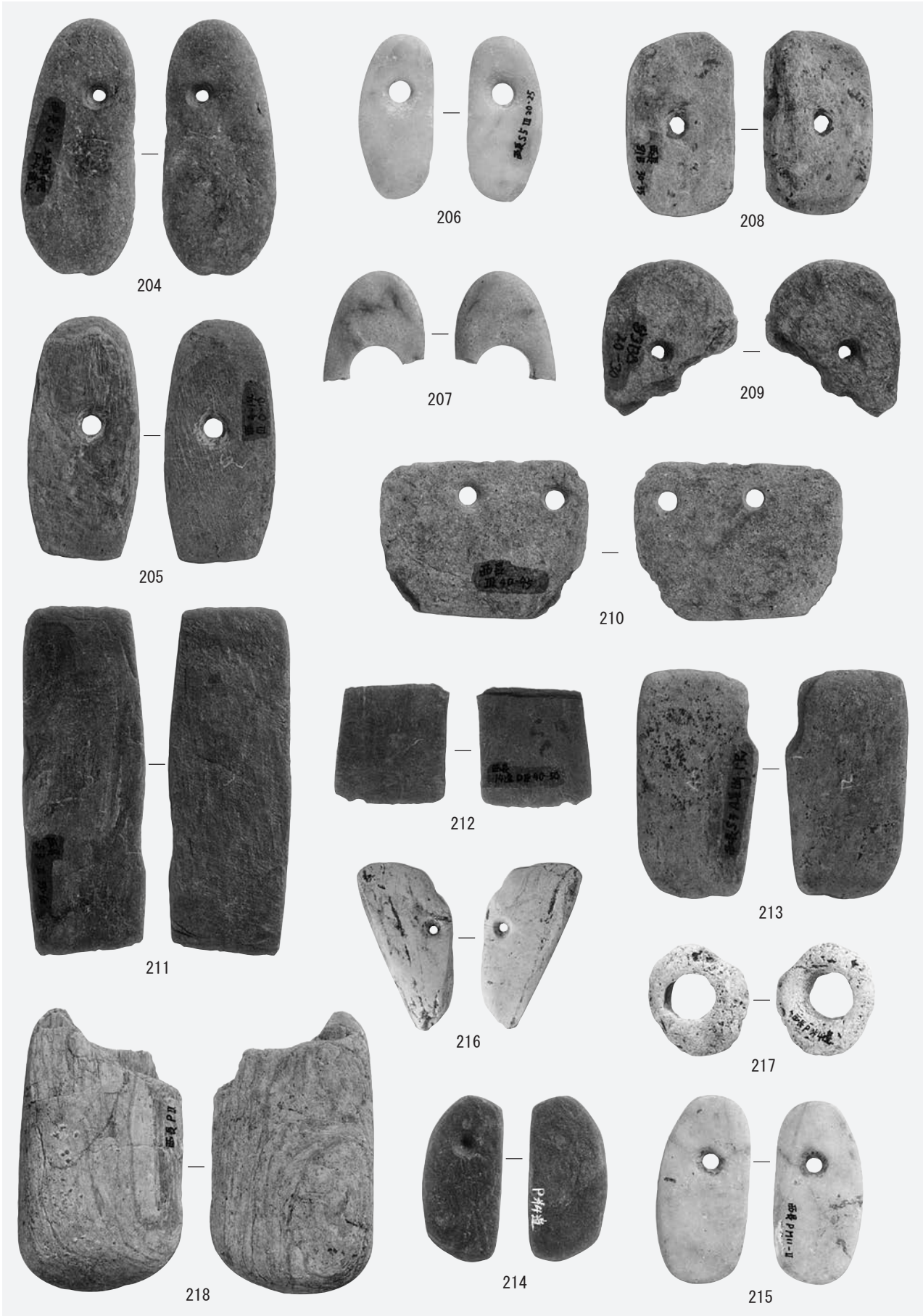
図版74　Ｐ地区出土石器（３）



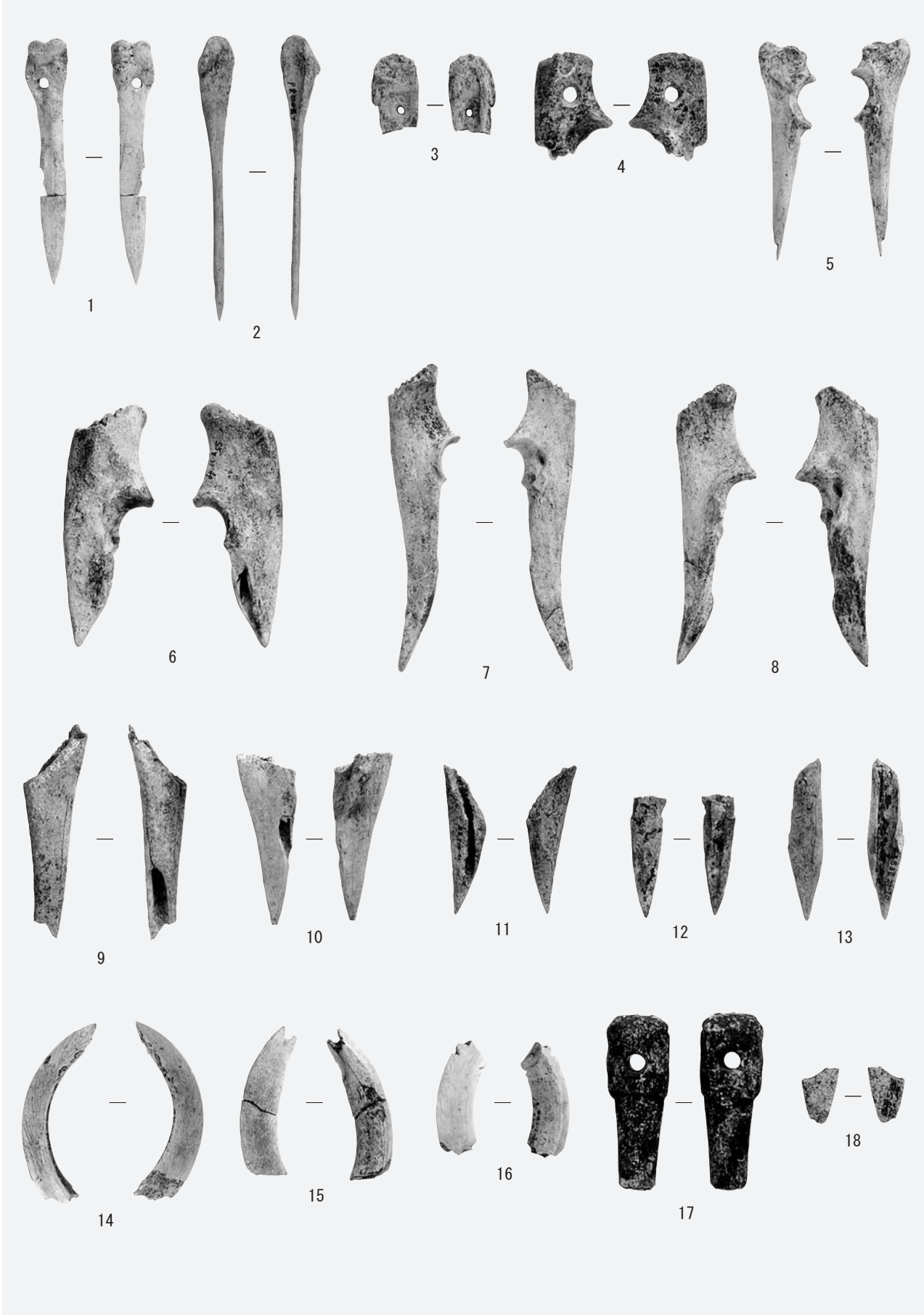
図版75　Ｐ地区出土石器（４）



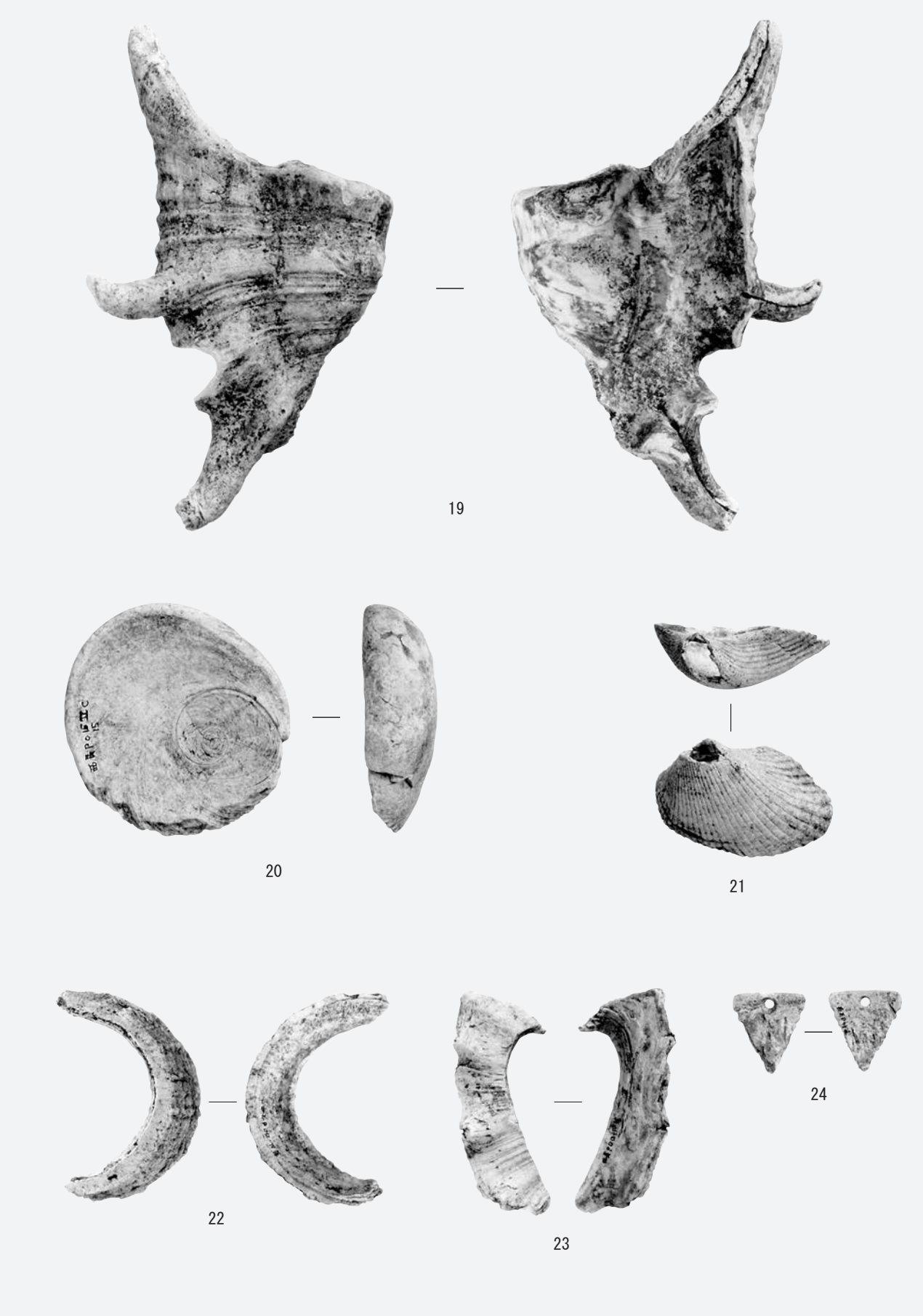
図版76　Ｐ地区出土石器（５）



図版77　石製品



図版78　骨製品



図版79　貝製品

報 告 書 抄 録

ふ り が な	にしながはまばるいせき
書 名	西長浜原遺跡
副 書 名	－範囲確認調査報告書－
巻 次	－
シ リ ー ズ 名	沖縄県立埋蔵文化財センター調査報告書
シ リ ー ズ 番 号	第39集
編 著 者 名	安里嗣淳・宮城長信・瀬戸哲也・山本正昭・豊里友哉・樋泉岳二・黒住耐二・新里貴之・久貝弥嗣・伊藤 圭
発 行 機 関	沖縄県立埋蔵文化財センター
所 在 地	〒903-0125 沖縄県中頭郡西原町字上原193番地の7
発 行 年 月 日	2006年3月24日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所 在 地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 ° ′ ″	東経 ° ′ ″	調査期間	調査面積	調査原因
西長浜原遺跡（にしながはまばるいせき）	沖縄県（おきなわけん） 今帰仁村（なきじんそん） 字与那嶺（あざよなみね） 西長浜原1255番（にしながはまばる）	473065		26° 42′ 05″	127° 57′ 02″	2004.7.5 ～ 2004.7.23	36.3 ㎡	範囲確認調査

所収遺跡名	種類	時代	遺構	遺物	特記事項
西長浜原遺跡	集落跡	沖縄貝塚時代前～中期（縄文時代後期後半～晩期前半並行）	竪穴住居跡52基、焼土、土坑、ピット	貝塚時代前～中期土器（伊波式・荻堂式・大山式・室川式・宇佐浜式などの在地土器、犬田布式・喜念Ⅰ式・宇宿上層式などの奄美系土器）、石斧、石皿、敲石、磨石、ヒスイ製大珠、大珠状石製品、食糧残滓（炭化種子・貝・魚類・イノシシ・ジュゴン・カメ等）	1977年の調査成果も掲載。沖縄における当該期の集落様相をうかがい知ることができる重要な遺跡。

沖縄県立埋蔵文化財センター調査報告書　第39集

西長浜原遺跡

－範囲確認調査報告書－

発 行 年　2006（平成18）年3月24日
発　　行　沖縄県立埋蔵文化財センター
編　　集　沖縄県立埋蔵文化財センター
〒903-0125　中頭郡西原町字上原193番地の7
TEL　098（835）8751・8752

印　　刷　株式会社アシスト
〒9001-1111　島尻郡南風原町兼城577番地
TEL　098（889）6100

©沖縄県立埋蔵文化財センター　2006　Printed in japan
許可無く本書の無断複製、転載、複写を禁ずる。